令和2年10月5日提出の資料と同じ

敦賀発電所2号炉
ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答
補足説明資料1

平成30年調査会社報告書のうち
申請書に反映した10孔のボーリング柱状図記事欄の比較

令和2年10月30日

日本原子力発電株式会社

余白

■本資料は，平成30年に受領した調査会社報告書（委託期間：平成24年～30年）に含まれていて，平成27年11月の申請書の柱状図に反映した10孔について，柱状図記事欄の記載内容について比較を行ったものである。

■当該10孔のうち，5孔は平成24年に，5孔は平成27年にボーリング掘削を実施した。
- 平成24年掘削の5孔については，平成27年の申請準備の時点では，調査会社において報告書を作成するための柱状図（報告書作成用柱状図）が作成されていた。
- 平成27年掘削の5孔については，調査会社においてコア観察カードの作成が進められていた（報告書作成用柱状図は作成されていなかった）。

■今回，調査会社に保管されていた上記の報告書作成用柱状図とコア観察カードの記事欄を，申請書用柱状図の記事欄と比較を行い，変更内容・理由を整理した。

（注）
- 平成27年掘削の5孔については，コア観察カードは文字が薄いことから，参考用に原文をワープロ変換したものを原文と合わせて掲載している。
- 比較において確認された誤記等については，以下の注釈を付して示している。

※1：誤記（今回の比較により新たに確認）
※2：誤記（第865回審査会合資料2－2－2で確認済みの誤記）
※3：申請書用柱状図で誤記が修正されているもの
※4：第865回審査会合資料2－2－2の記載内容に修正が必要なもの。本資料の末尾に修正前と修正後の資料を添付した。

目　次

掘削時期	No.	ボーリング孔名	頁
平成24年	1	H24-B8-21	補足1-1-1
	2	H24-B8-22	補足1-2-1
	3	H24-B11-1	補足1-3-1
	4	H24-B11-2	補足1-4-1
	5	H24-B14-2	補足1-5-1
平成27年	6	H27-B-1	補足1-6-1
	7	H27-B-2	補足1-7-1
	8	H27-B-3	補足1-8-1
	9	H27-B-4	補足1-9-1
	10	H27-D5-1	補足1-10-1

第865回審査会合資料2－2－2の修正箇所　　補足1-11-1

■報告書作成用柱状図およびコア観察カードで用いている記号の凡例を以下に示す。

・硬軟

A_g	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B_g	硬質。ハンマーで金属音がする。
C_g	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D_g	軟質。ハンマーで濁音がする。
E_g	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

$Ⅰ_g$	50cm以上の長柱状
$Ⅱ_g$	20cm以上50cm未満の長柱状
$Ⅲ_g$	10cm以上20cm未満の柱状
$Ⅳ_g$	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
$Ⅴ_g$	1cm以上3cm未満の岩片状
$Ⅵ_g$	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a_g	密着，新鮮
b_g	酸化鉄付着
c_g	細粒物質を挟む。
d_g	割れ目として認識できない。

・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質（白色化）がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し，変質程度（脱色）が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの（肉眼で50%以上）。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが，原岩組織を明らかに残し，原岩判定が容易なもの。又は，非変質部を残すもの及び網状変質部。
4	強変質	構成鉱物，岩片等が変質鉱物で完全置換され，原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・岩級区分

割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
		A_g	B_g	C_g	D_g	E_g
a_g	$Ⅰ_g$	B’	-	-	-	-
	$Ⅱ_g$	B’	C_H’	-	-	-
	$Ⅲ_g$	-	C_H’	-	-	-
	$Ⅳ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅴ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅵ_g$	-	-	-	-	-
b_g	$Ⅰ_g$	B’	B’	C_M’	C_L’	-
	$Ⅱ_g$	C_H’	C_H’	C_M’	C_L’	-
	$Ⅲ_g$	C_H’	C_H’	C_M’	C_L’	-
	$Ⅳ_g$	-	C_M’	C_M’	C_L’	-
	$Ⅴ_g$	-	C_L’	C_L’	C_L’	-
	$Ⅵ_g$	-	-	-	-	-
c_g	$Ⅰ_g$	-	C_H’	C_M’	C_L’	D’
	$Ⅱ_g$	-	C_M’	C_M’	C_L’	D’
	$Ⅲ_g$	-	C_M’	C_M’	C_L’	D’
	$Ⅳ_g$	-	C_M’	C_L’	C_L’	D’
	$Ⅴ_g$	-	C_L’	C_L’	C_L’	D’
	$Ⅵ_g$	-	-	-	D’	D’
d_g	$Ⅰ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅱ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅲ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅳ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅴ_g$	-	-	-	-	-
	$Ⅵ_g$	-	-	-	D’	D’

・破砕度区分

Hc-1	粘土及びシルトを主体とし，少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2	粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb	礫を多く含み，基質は粘土，シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが，礫は比較的新鮮で硬い。
Hj	粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し，全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから，やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

■柱状図の記載について

申請書柱状図については以下の方針で記載している。

（全体）

- ◆ 層相名，岩相名と分布深度を記載。
- ◆ 岩石の構成鉱物，石基，斑晶，粒径等については，一般的な岩相の特徴であることから基本的に記載しないこととし，特に目立つ区間（敦賀サイトに広く分布する岩相と異なる岩相の箇所等）について記載。
- ◆ マンガン汚染，割れ目沿いの変色等の破砕帯評価に直接関係しない補足的な情報については記載しない。
- ◆ 割れ目の発達の程度，コアの硬軟，岩盤の劣化の程度等については，RQD，最大コア長，岩級区分等に含めて表現する。
- ◆ 岩盤中の挟在物のうち，その連続性・直線性や周囲の岩盤の劣化，明瞭なせん断構造・変形構造等の破砕構造に関連するような特徴が見られないものについては，風化・変質によるものや細粒物質が割れ目へ流入したもの等であると判断し記載しない。

（破砕部）

- ◆ せん断構造・変形構造等の破砕構造が認められるものについては，破砕部として漏れなく記載。
- ◆ 破砕部については，破砕帯評価に重要と考えた以下の情報を記載。
  - ✓ 破砕部の破砕部内物質の粒度と色調を範囲で記載（例：灰白色～黄橙色の粘土状～粘土混じり礫状）。
  - ✓ 破砕部のうち，粘土・シルト幅を記載。
  - ✓ 連続性評価等で用いるBHTVで得られた走向・傾斜，薄片観察で得られた変位センスを記載。
  - ✓ 断層岩区分は申請書時点では，カタクレーサイト主体であると判断した一部の破砕部について記載。
- ◆ 平成24年掘削の5孔（ H24-B8-21,22 ，H24-B11-1,2, H24-B14-2 ）については，申請書提出前に地盤安定性解析用の物性値設定を目的とした破砕部の詳細観察を実施しており，この詳細観察で得られた性状，色調，粘土の累計幅を記載。

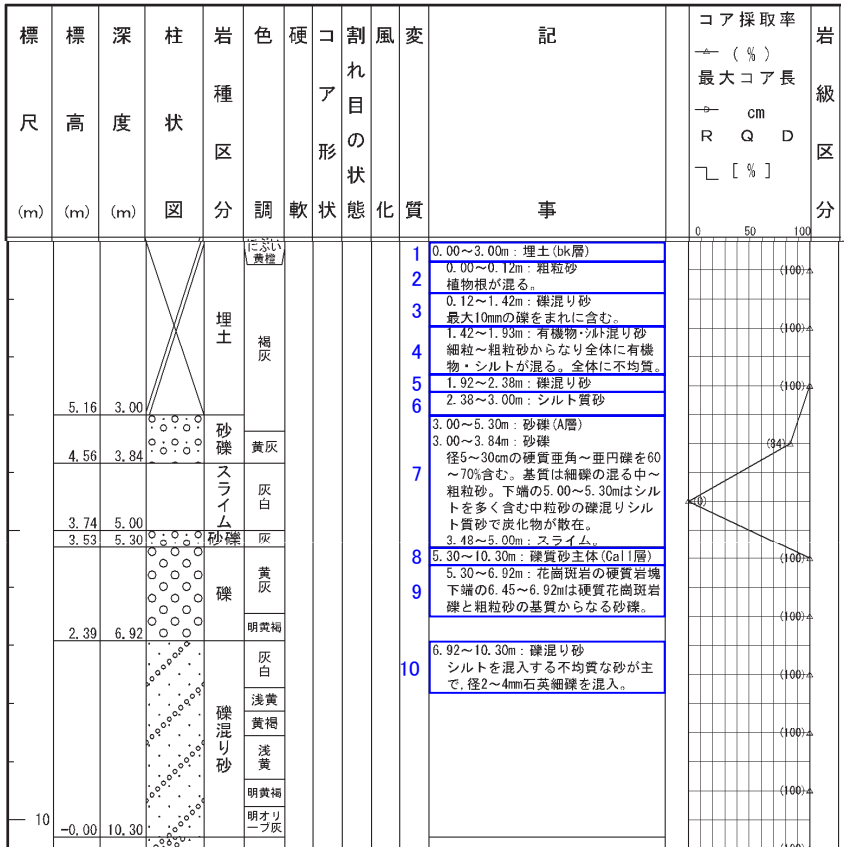
余白

H24-B8-21

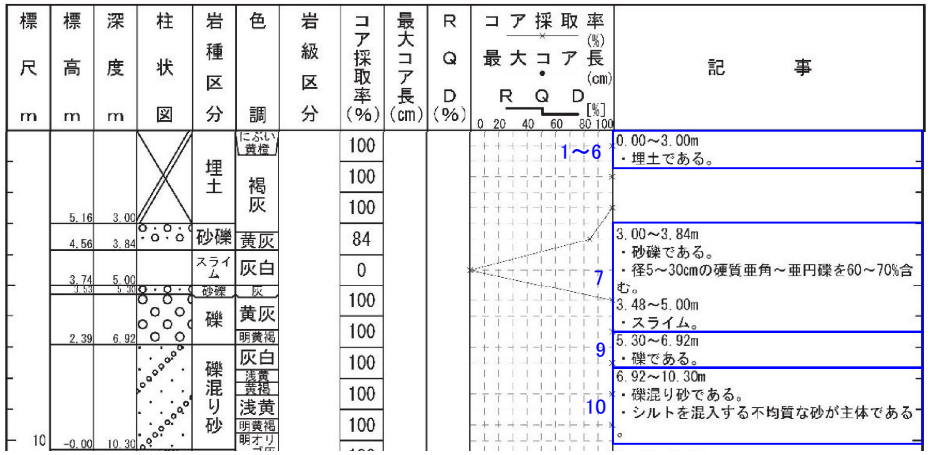
余白

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



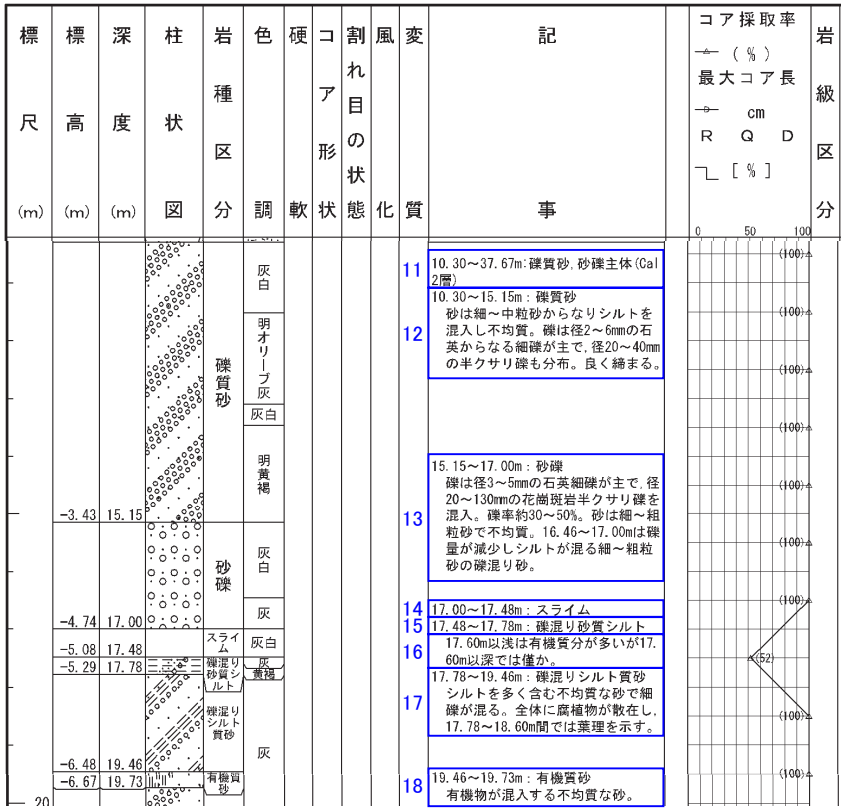
申請書用柱状図



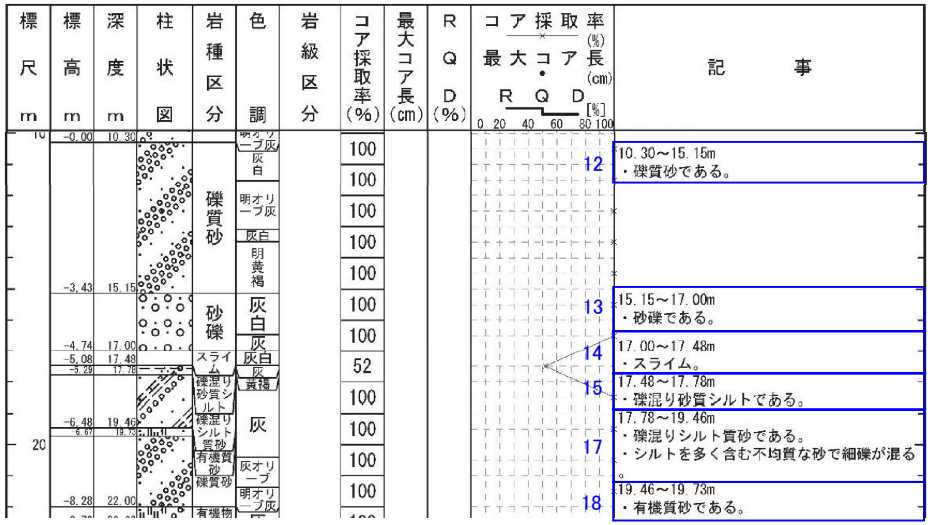
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
1～6	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，円磨度，礫率を記載。
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
9	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
10	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，シルトの混入について記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



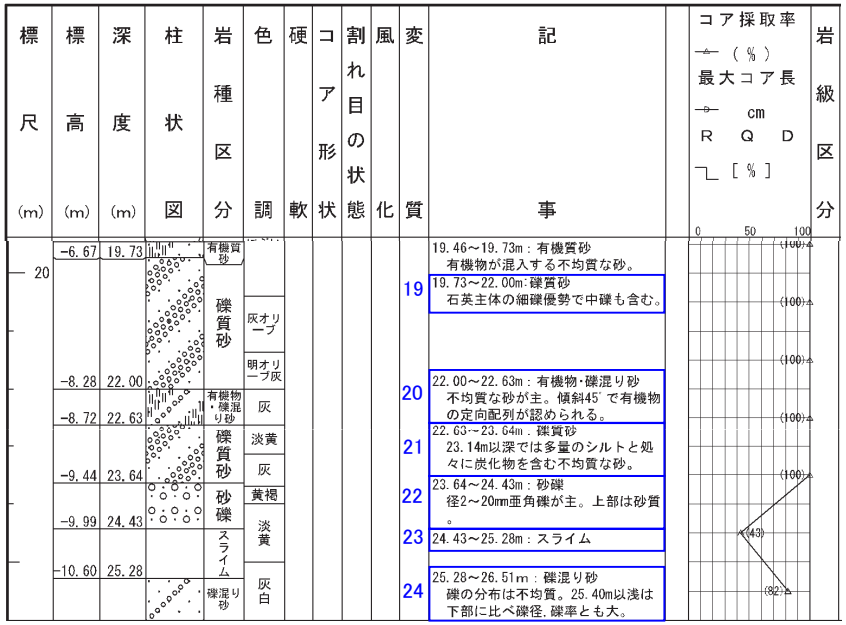
申請書用柱状図



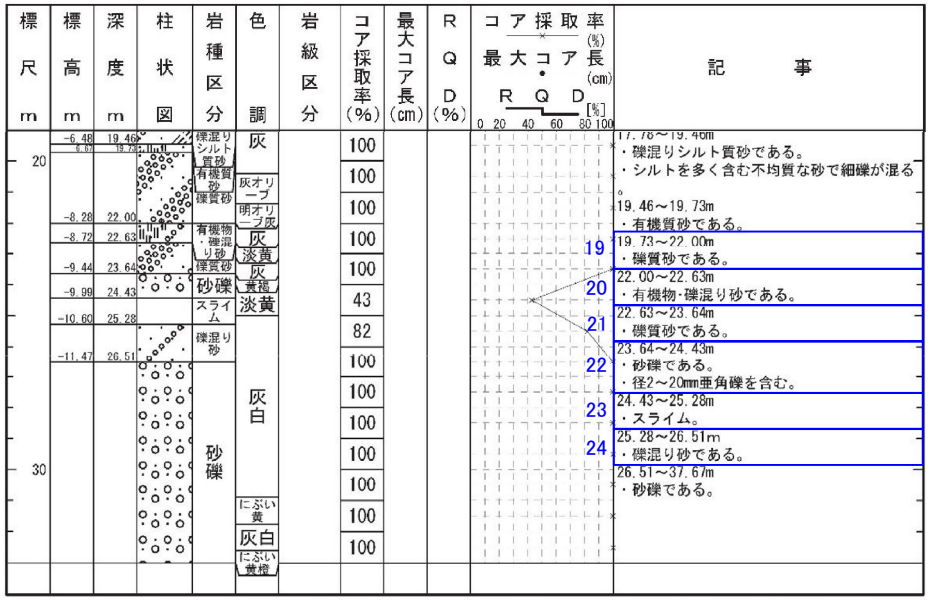
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
11	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫質砂，砂礫主体とのまとめ書きは削除。
12	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
13	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
14	・変更なし
15，16	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，シルトと礫の含有について記載。 ・葉理については，不均質に含まれる有機物が帯状を呈したものであり，明瞭ではないため削除。
18	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



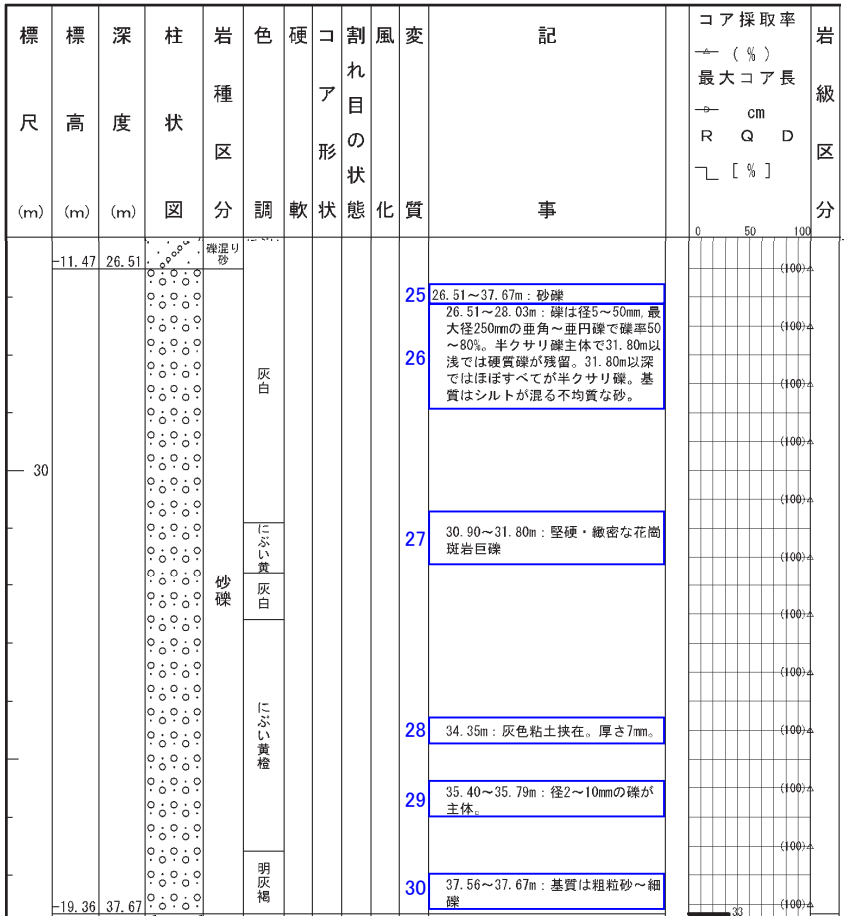
申請書用柱状図



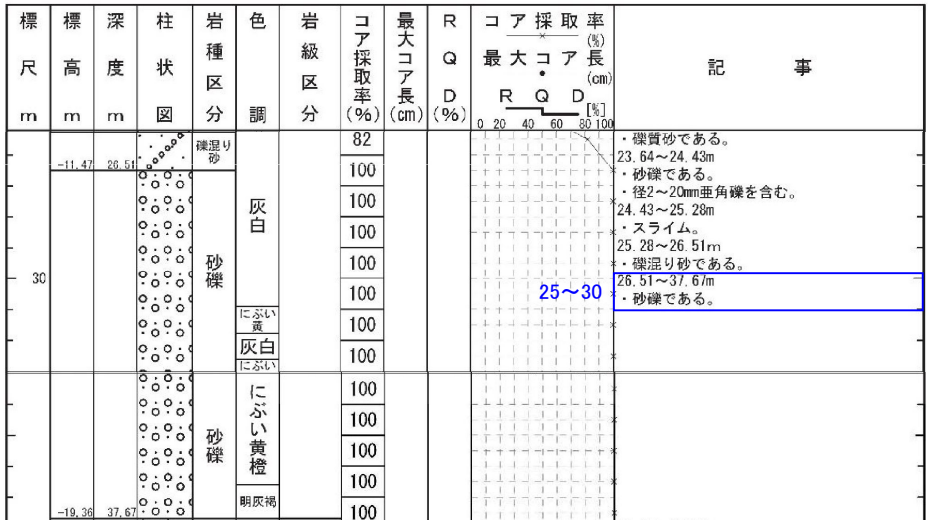
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
19	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・有機物の定向配列については，周囲の層相境界と同様の方向に配列していることから削除。
21	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，円磨度を記載。
23	・変更なし
24	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



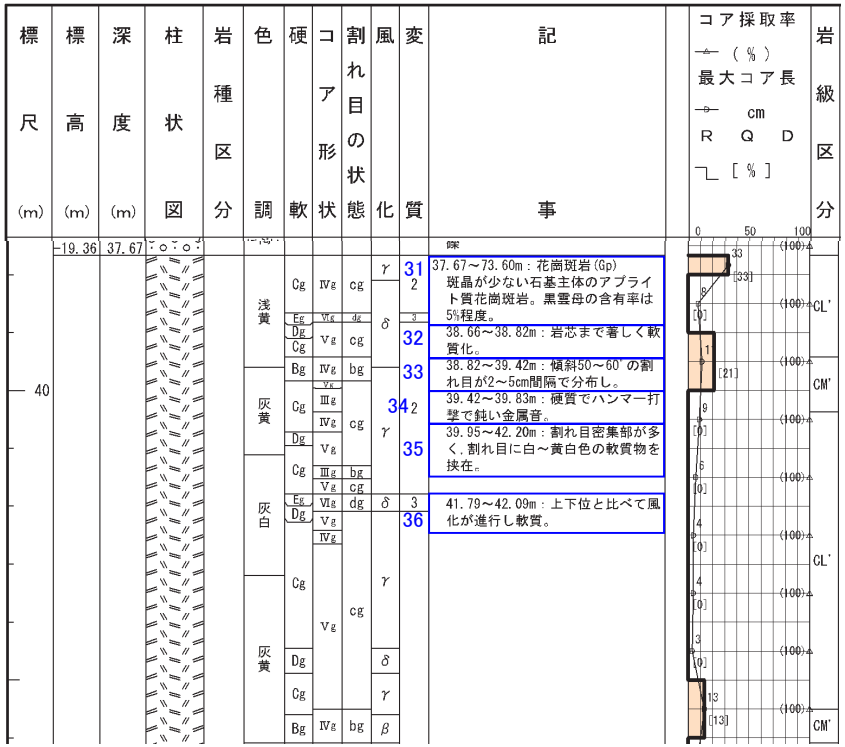
申請書用柱状図



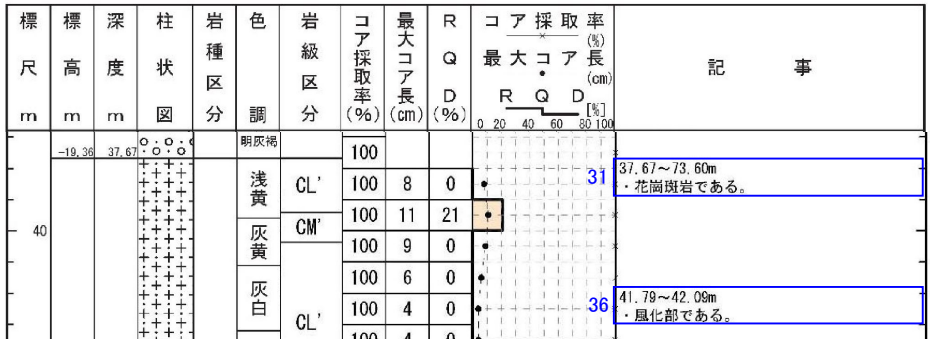
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
25～30	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



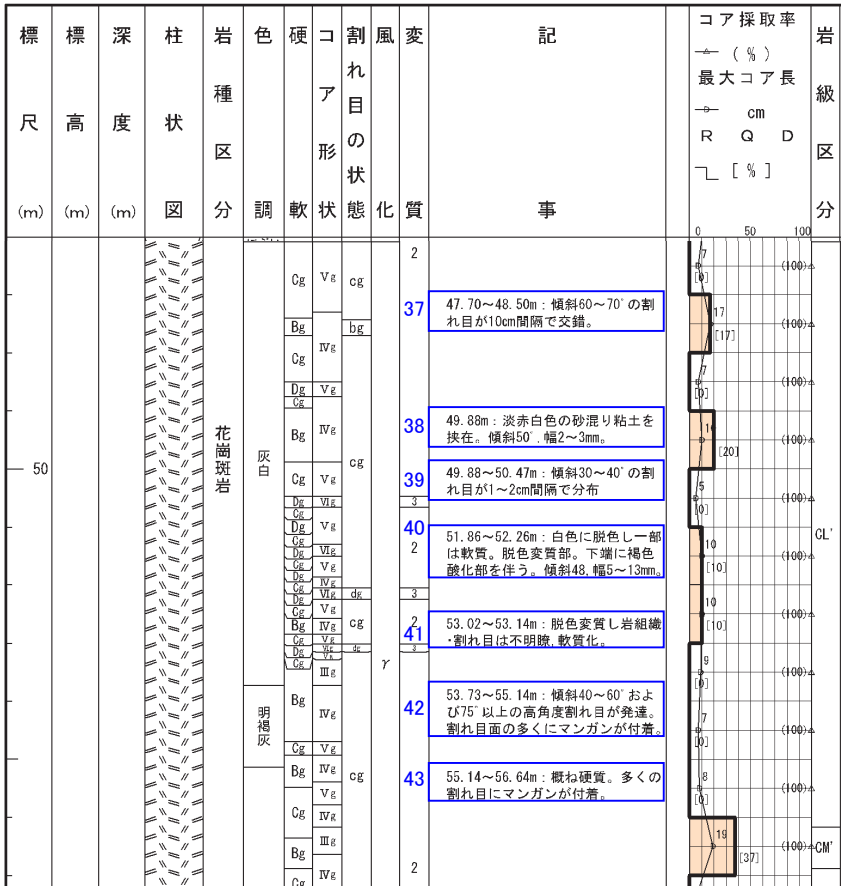
申請書用柱状図



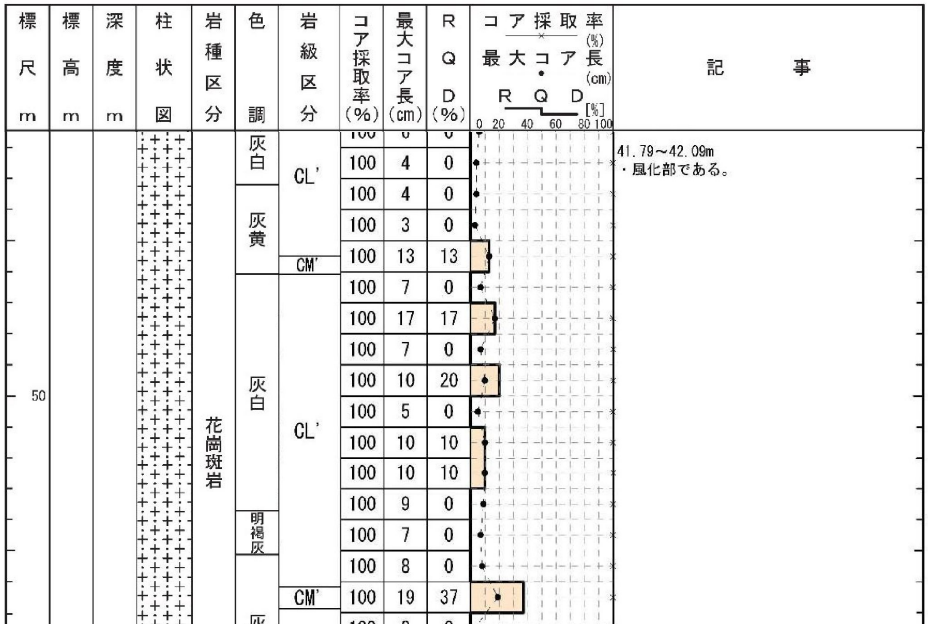
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
31	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
32	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
33	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
34	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
35	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に軟質物を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
36	・“風化”欄に基づき風化部と記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



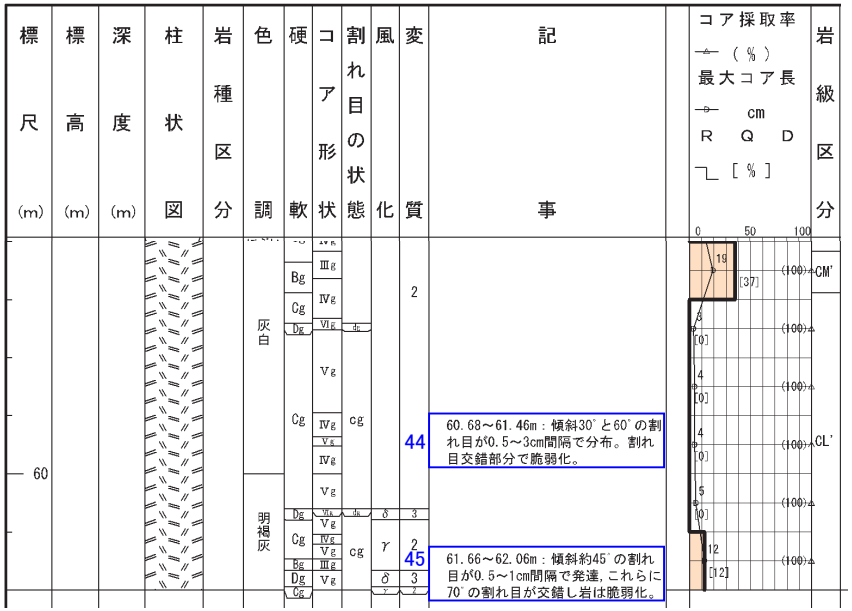
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
37	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
38	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
40，41	・軟質化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
43	・硬軟については，良好な岩盤からなる区間内における相対的なものであるため削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



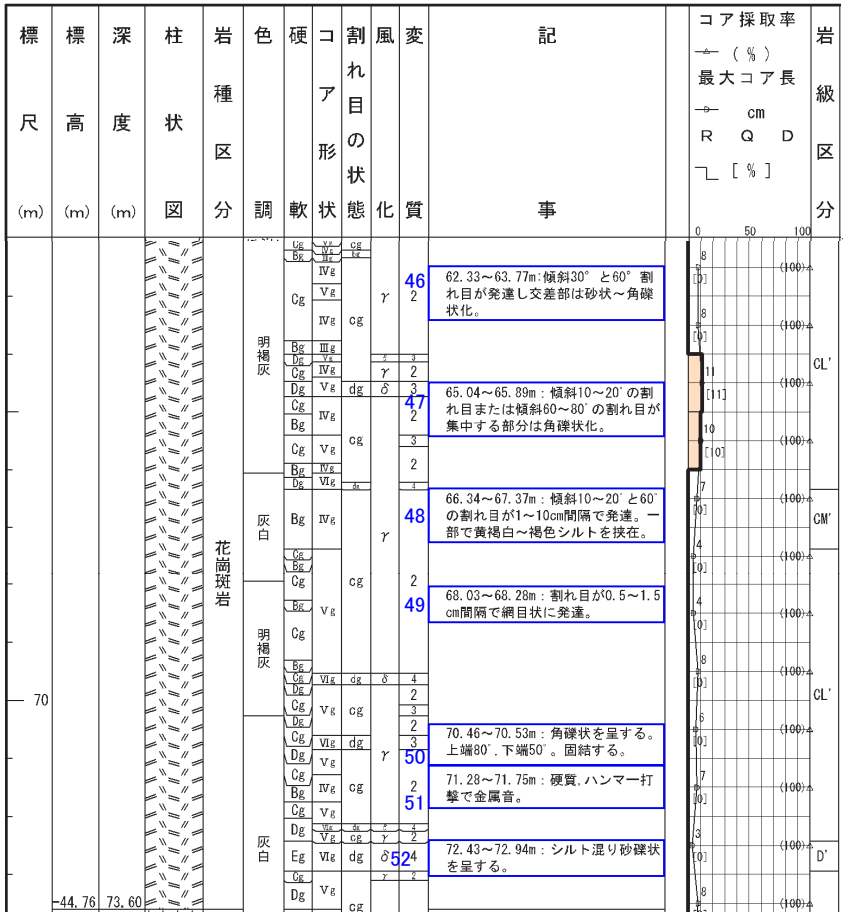
申請書用柱状図



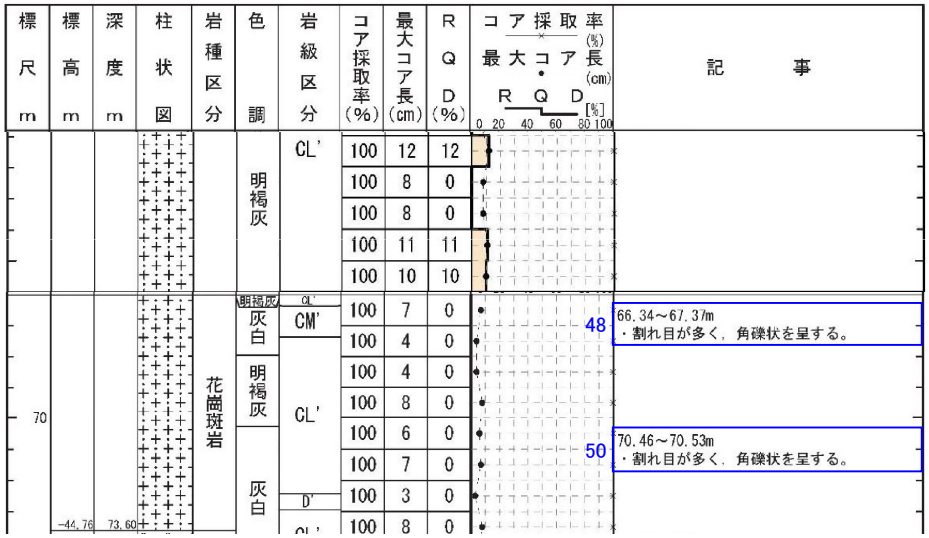
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
44，45	・割れ目の発達や脆弱性の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



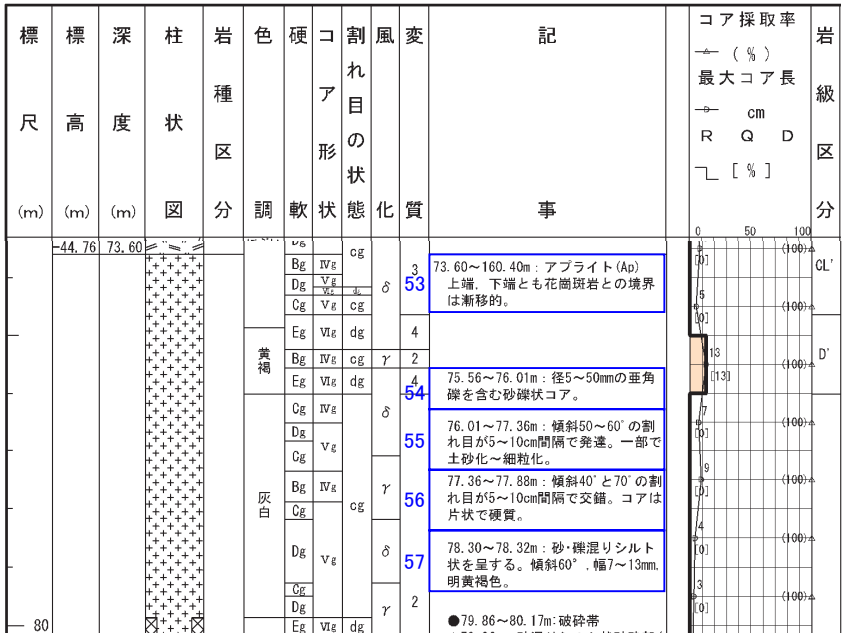
申請書用柱状図



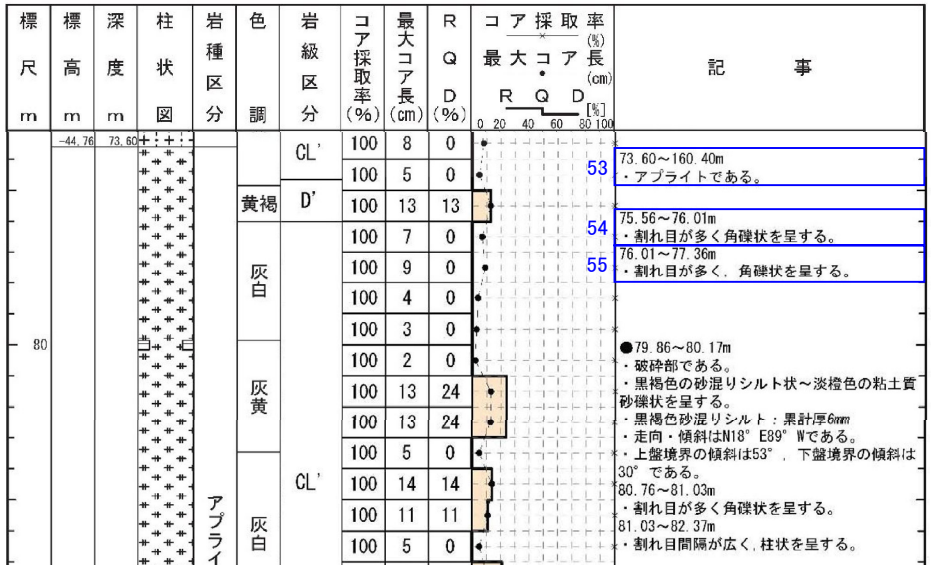
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
46，47	・割れ目の発達や脆弱性の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・割れ目にシルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
49	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
50	・境界の傾斜については，ばらつきがあるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
51	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
52	・シルト混じり砂礫状を呈するが，シルトに明瞭かつ系統的な配列が認められないため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



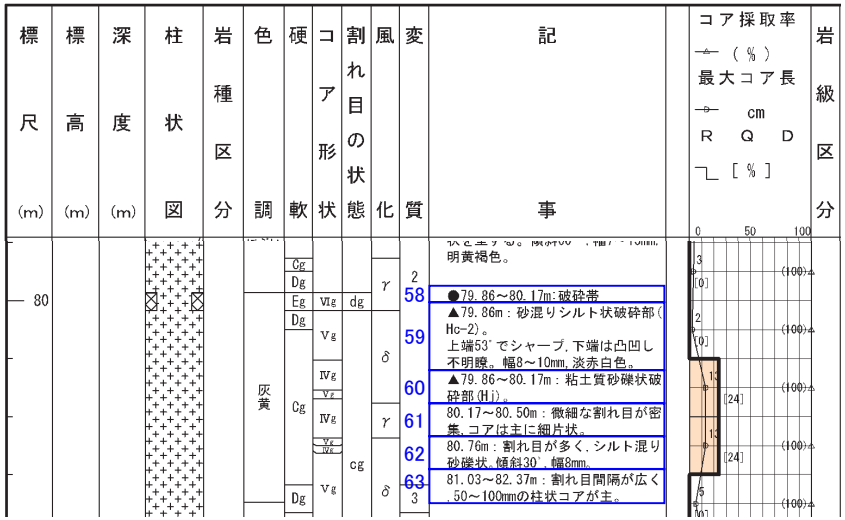
申請書用柱状図



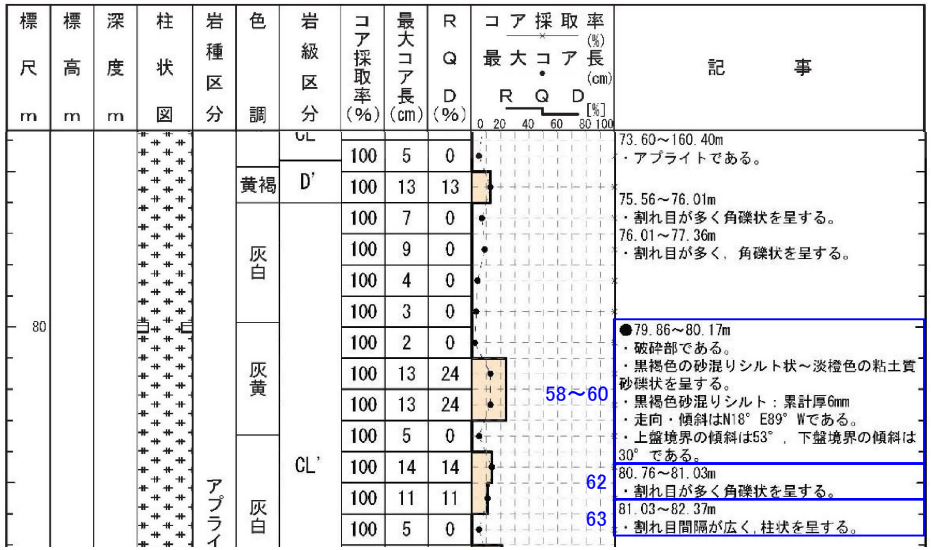
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
53	・境界の明瞭さについては，漸移的であるため削除。
54	・砂礫状については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
55	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・部分的な土砂化～細粒化については，直線性に乏しく，同系統の劣化が認められないことから削除。
56	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
57	・砂・礫混じりシルト状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



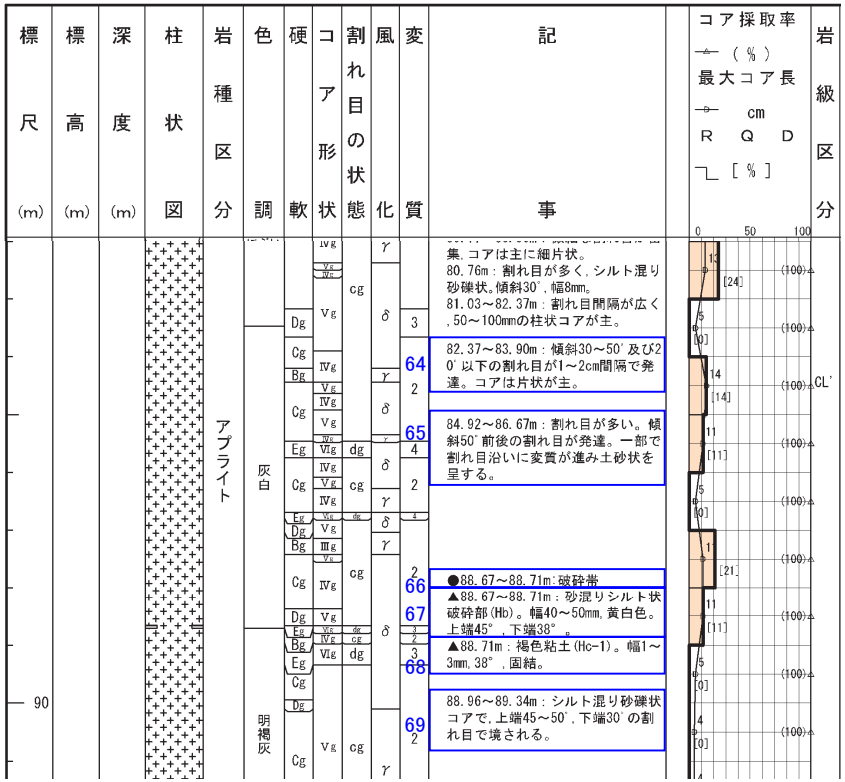
申請書用柱状図



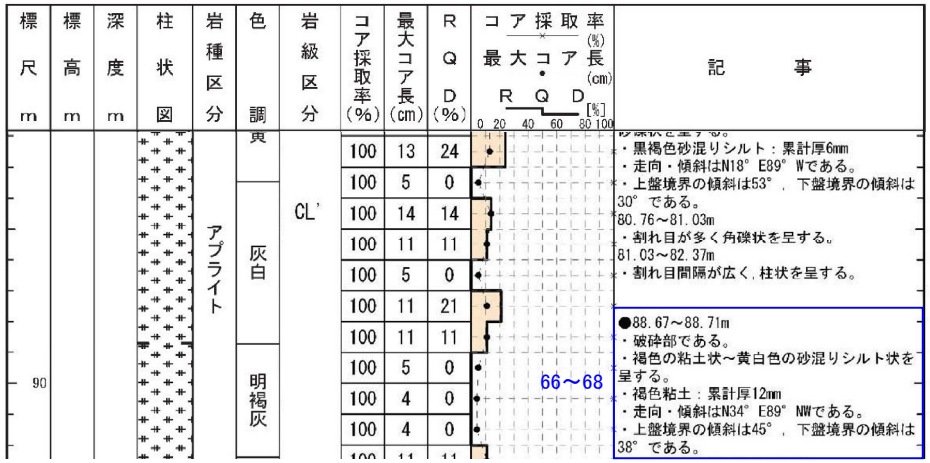
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58～60	・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・下端傾斜　記載無し→30° ※1 ・境界の直線性については，申請書では記載しないこととしているため削除。
61	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
62	・部分的にシルト混じり砂礫状を呈し，割れ目が発達する区間の下端深度を“コア形状”欄から読み取り，角礫状を呈すると記載。
63	・50～100mmとの記載については，割れ目間隔をRQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



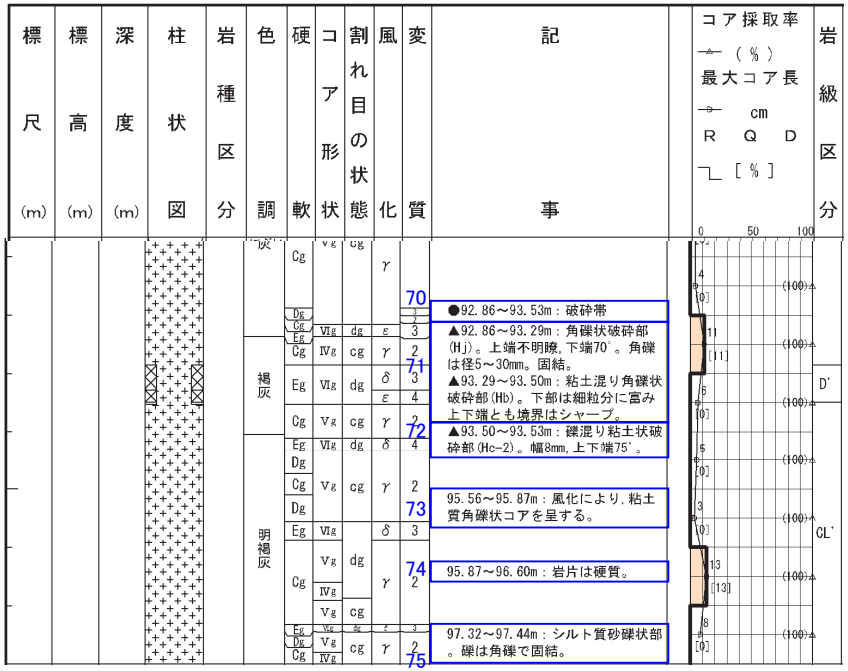
申請書用柱状図



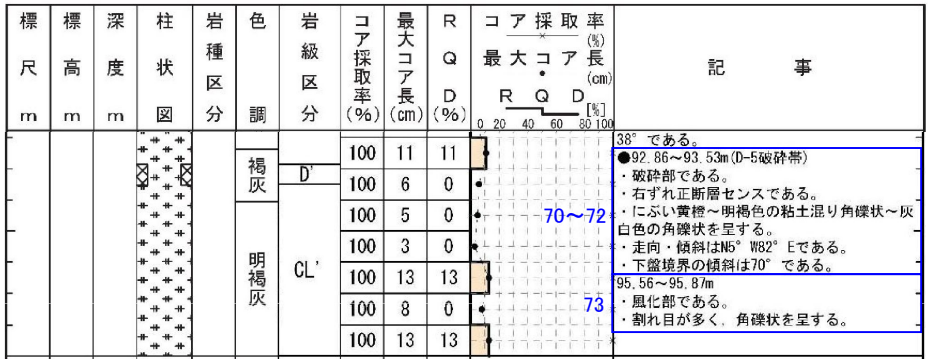
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
64	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
65	・割れ目が一部で土砂状を呈するが，いずれも掘削時の機械割れと判断し削除。
66～68	・累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・境界の傾斜について，報告書作成用柱状図に基づき記載。 ・硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
69	・砂礫状については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



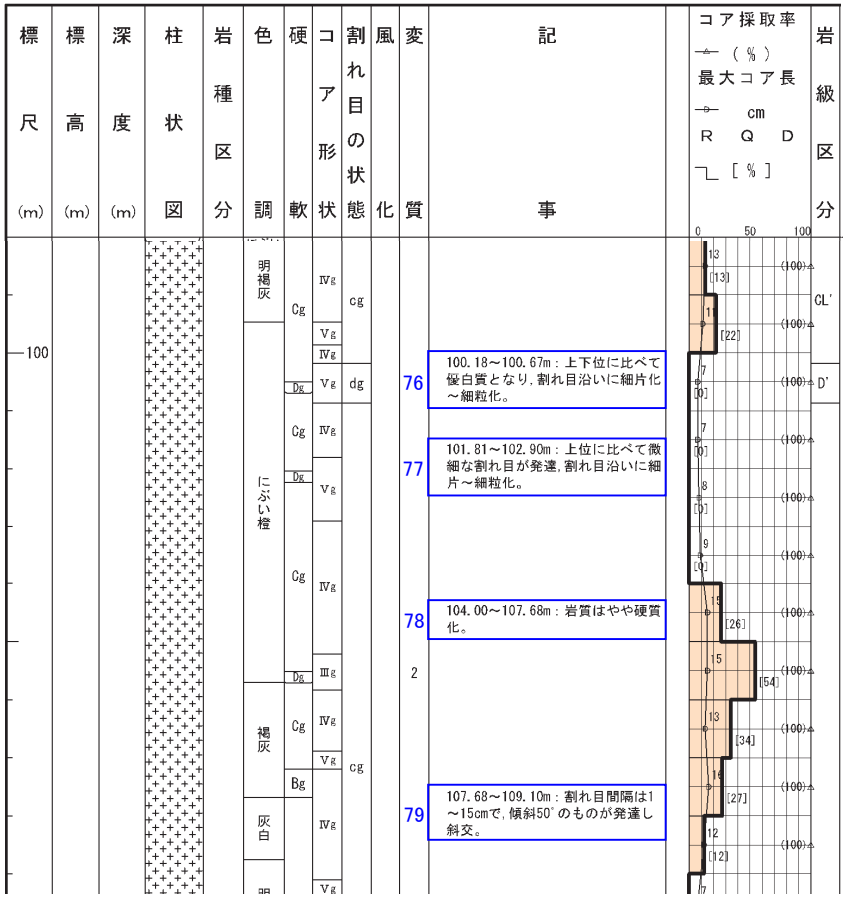
申請書用柱状図



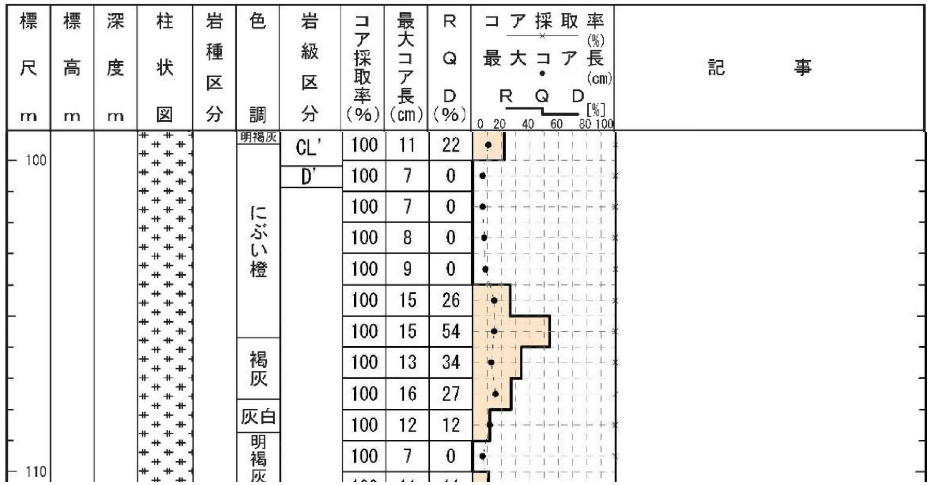
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
70～72	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき，にぶい黄橙～明褐色の粘土混じり角礫状と記載。 ・“色調”欄に基づき記載。 ・灰白色は，褐灰色の誤り。※1 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の傾斜75°→70°※1，※4 ・角礫状部の粒径は補足的なものであるため，径5～30mmについては削除。 ・下部は細粒分に富みとの記載については，上部との境界が不明瞭であるため削除。 ・境界の粗さや硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
73	・粘土質については，当該区間内に不均質に含まれるものであるため削除。
74	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
75	・砂礫状を呈するが，直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



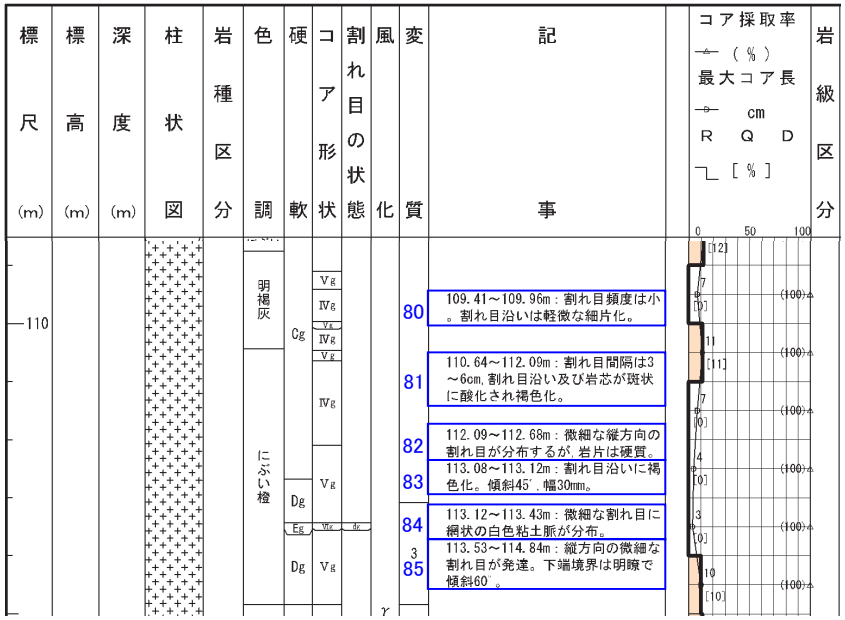
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
76，77	・細片化～細粒化しているが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
78	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
79	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



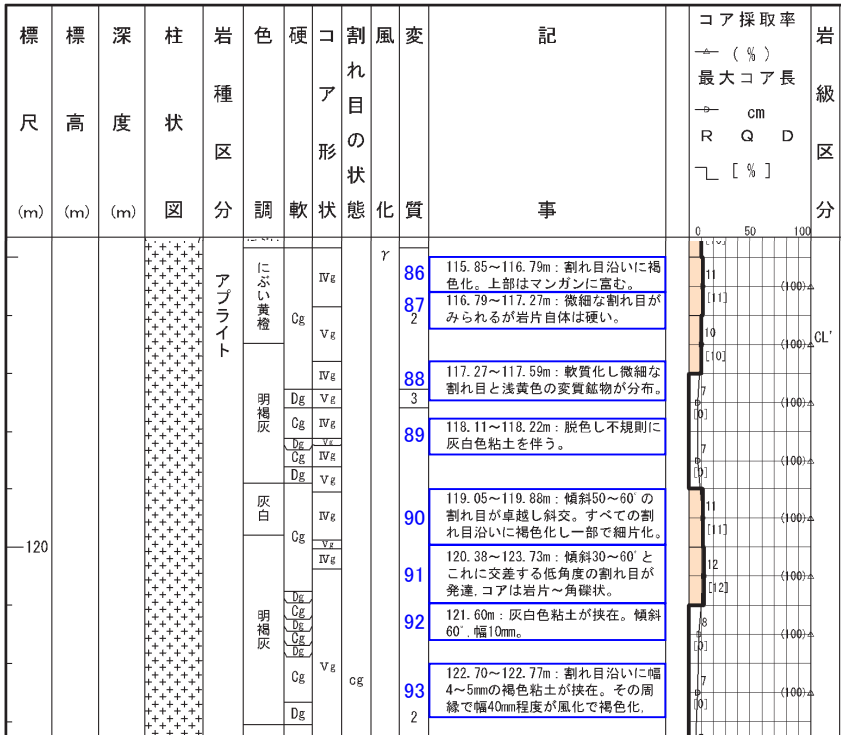
申請書用柱状図



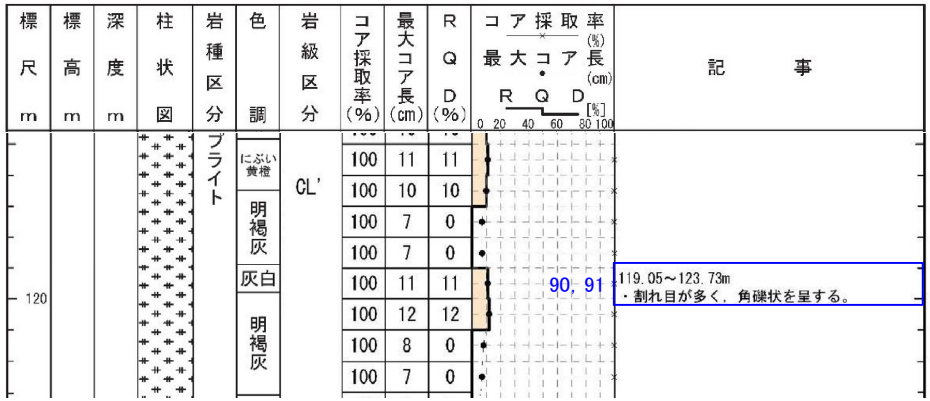
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
80	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
81	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
82	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
83	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
84	・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
85	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



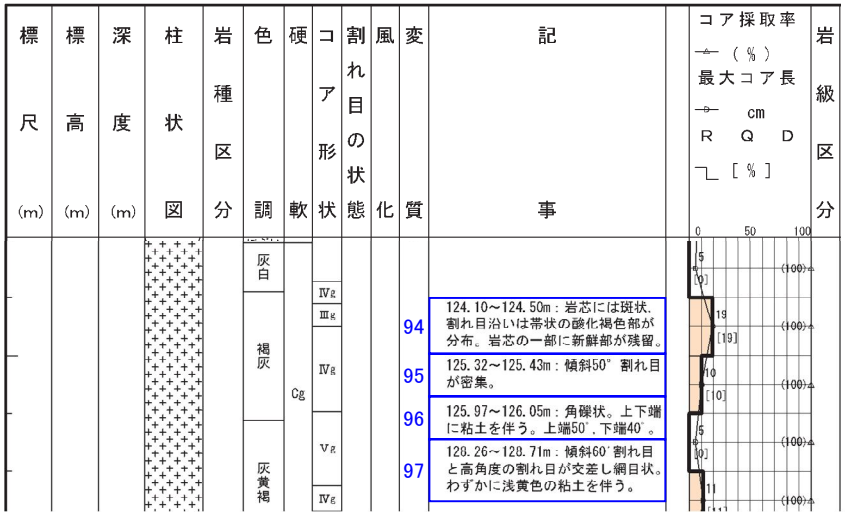
申請書用柱状図



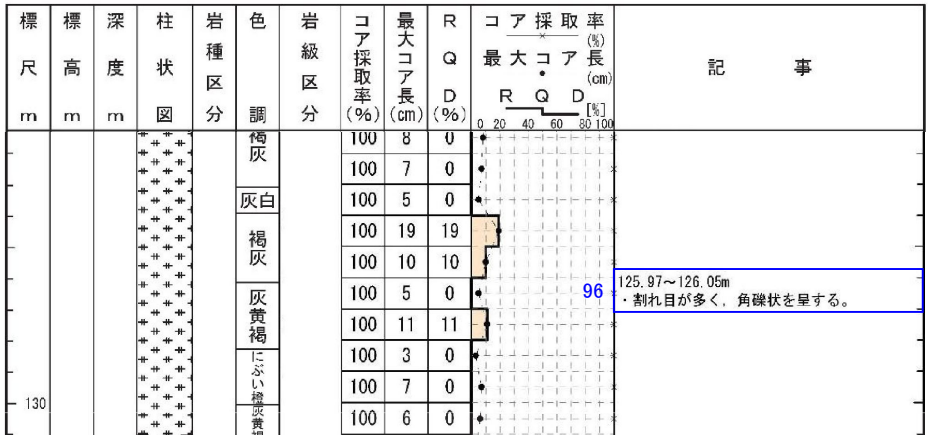
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
86	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
87	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
88	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
89	・一部で粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90，91	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化しているが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・割れ目に粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
93	・割れ目に粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



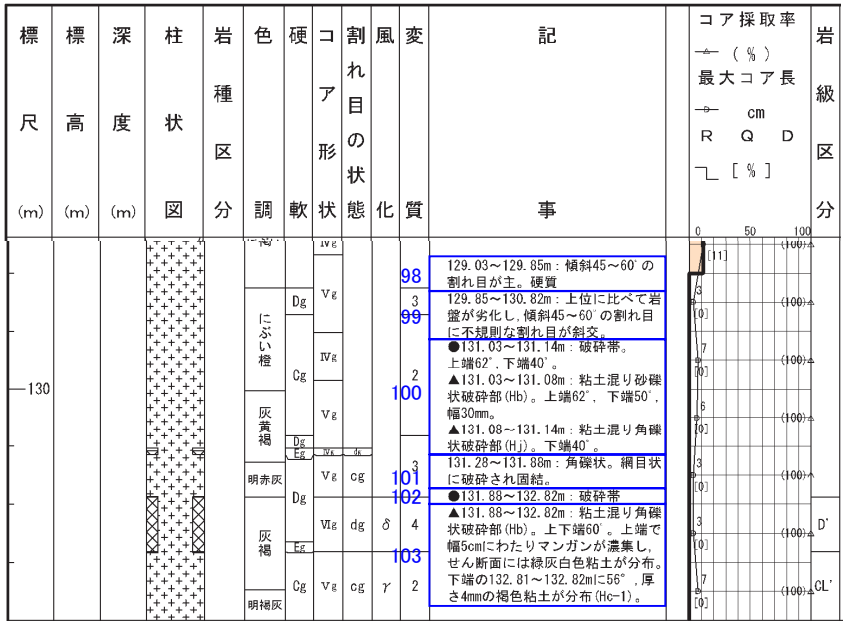
申請書用柱状図



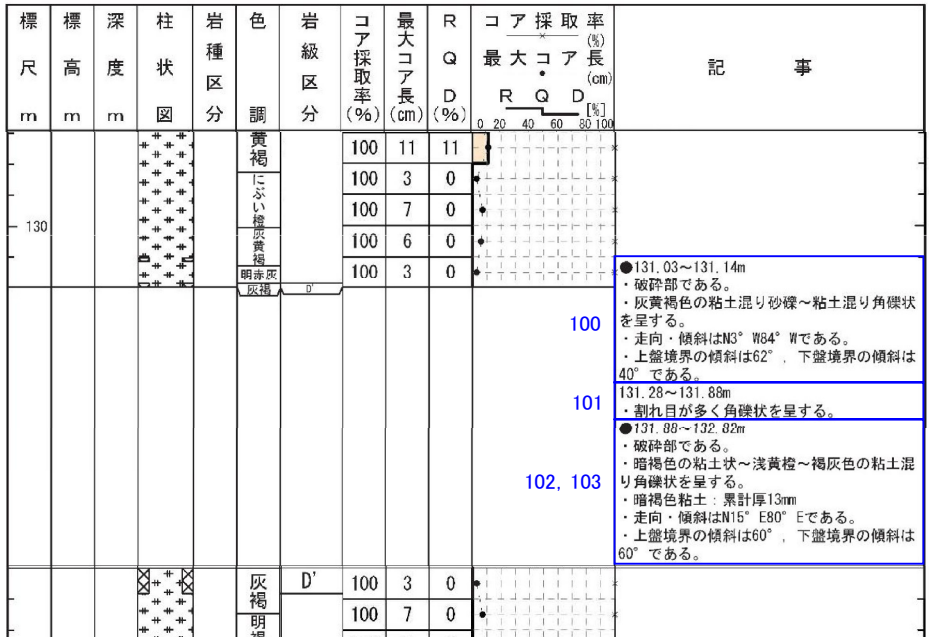
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
94	・色調については，補足的なものであるため削除。
95	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
96	・割れ目に挟在する粘土については，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
97	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



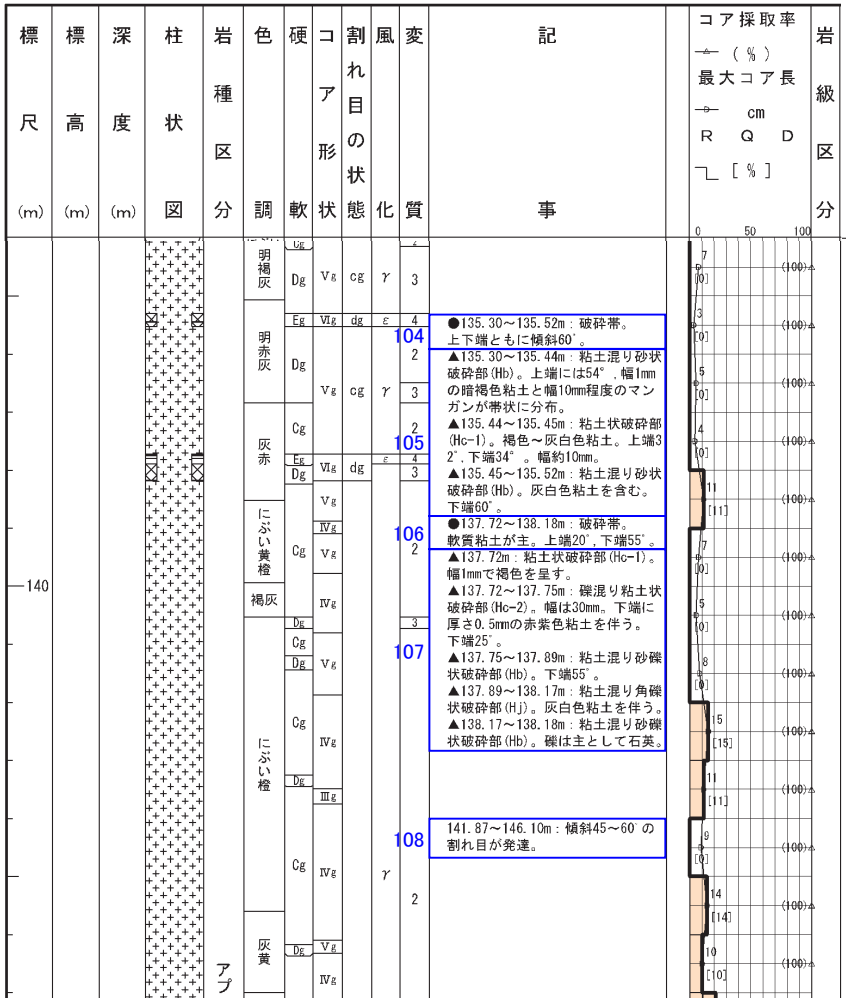
申請書用柱状図



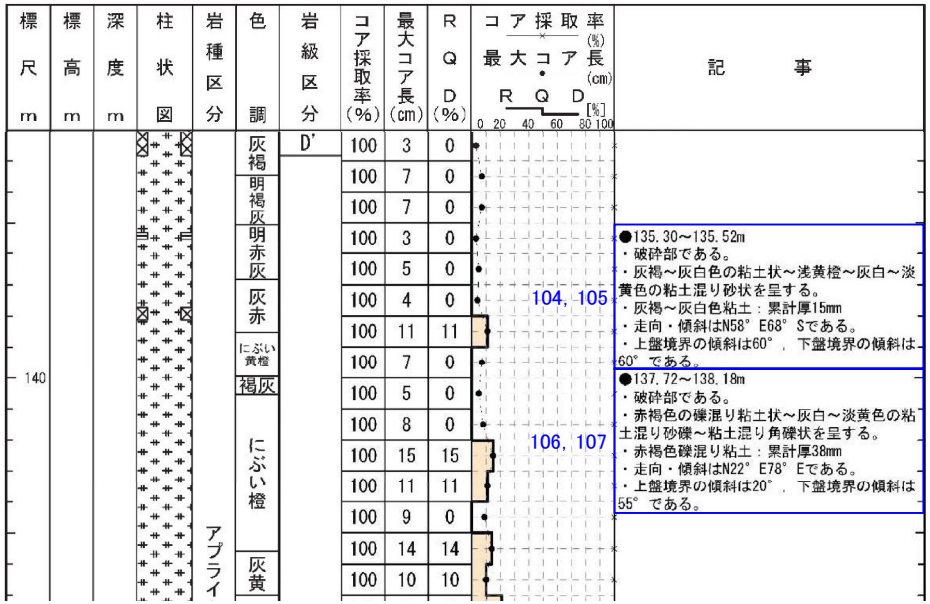
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
98	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
99	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
100	・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・礫状部の幅については，記載しないこととしているため，粘土混じり砂礫状部の幅については削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。
101	・網目状の破砕については，当該区間に系統的な網目がないことから削除。
102，103	・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガンの濃集については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



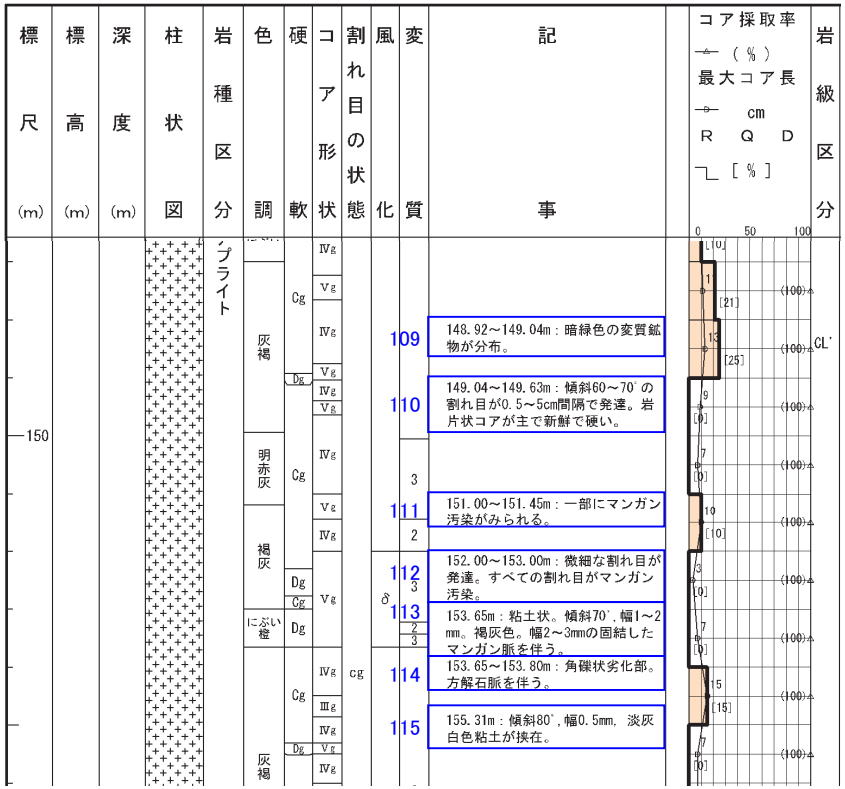
申請書用柱状図



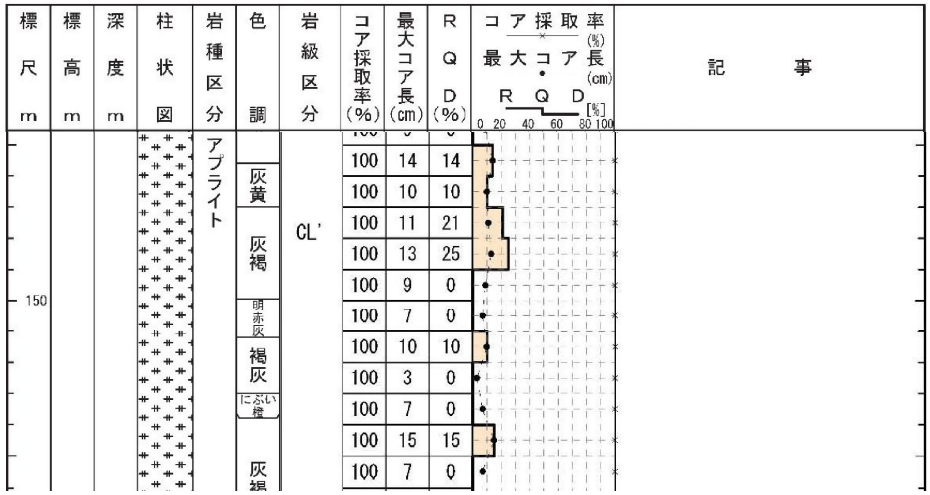
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
104，105	・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・マンガンが帯状に分布との記載については，補足的なものであるため削除。
106，107	・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・粘土混じり砂礫状部の礫種については補足的なものであるため，礫は主として石英との記載については削除。
108	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



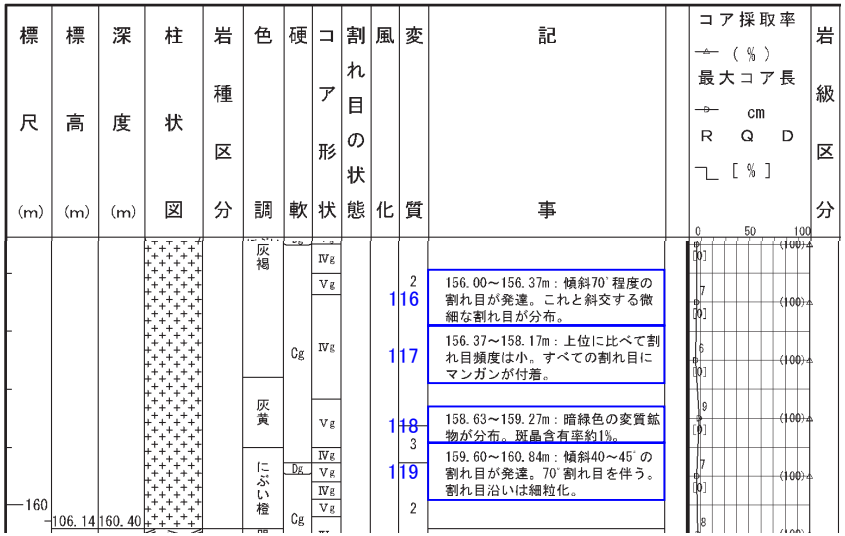
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
109	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
110	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
111	・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
112	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
113，114	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン脈や方解石脈については，補足的なものであるため削除。
115	・割れ目に粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



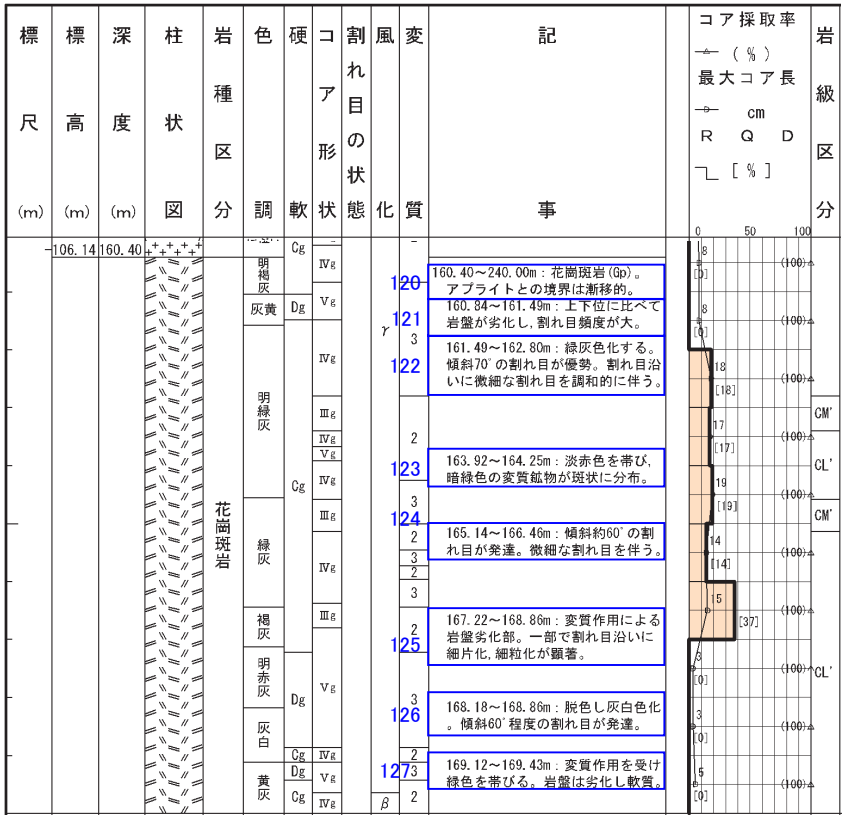
申請書用柱状図



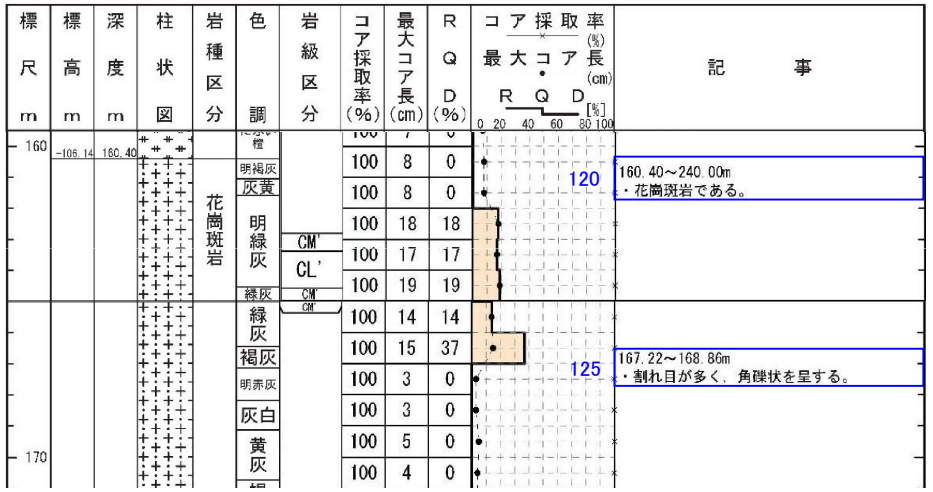
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
116	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
117	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
118	・鉱物の晶出や斑晶の量については，補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに一部細粒化しているが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



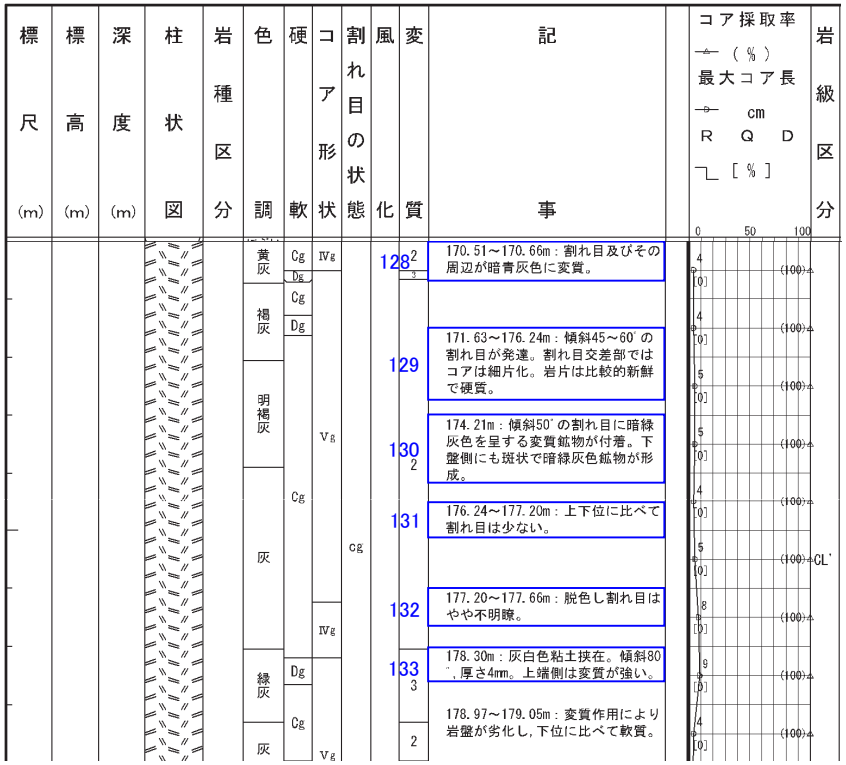
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
120	・境界の明瞭さについては，補足的なものであるため削除。
121	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
122	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
123	・色調や鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
124	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
125	・一部で細片化，細粒化しているが，連続性に乏しいことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
126	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
127	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



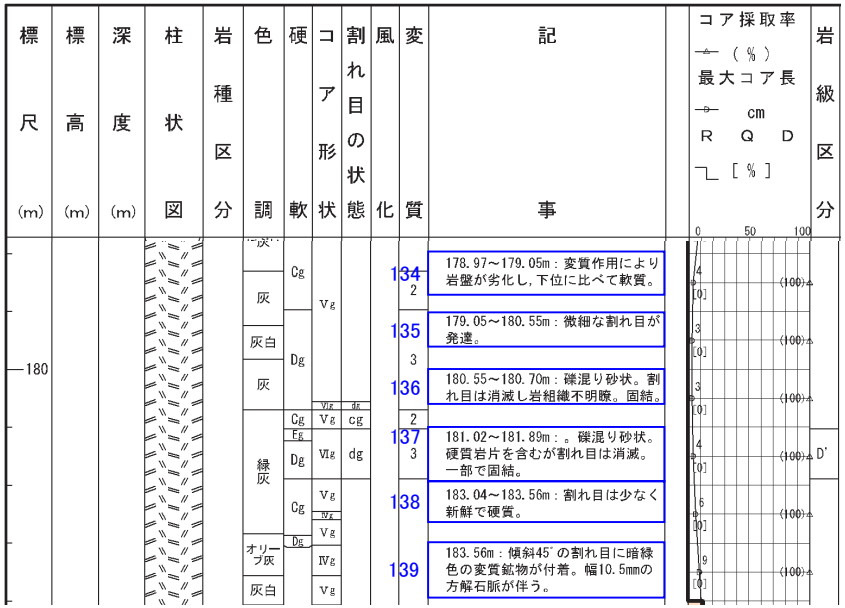
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
128	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
129	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で割れ目沿いに細片化しているが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
130	・割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
131	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
132	・割れ目の明瞭さについては，補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



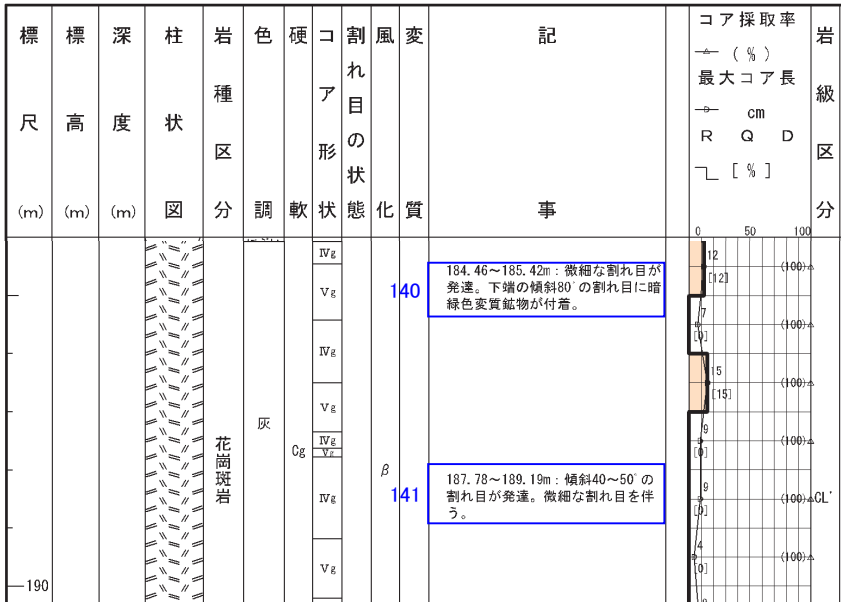
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
134	・軟質化しているが，連続性に乏しく，周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
135	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
136	・礫混じり砂状を呈するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・礫混じり砂状を呈するが，挟在物が幅狭く，直線性に乏しいことから削除。
138	・硬軟や割れ目の発達の程度については，岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
139	・割れ目沿いの鉱物の晶出や鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



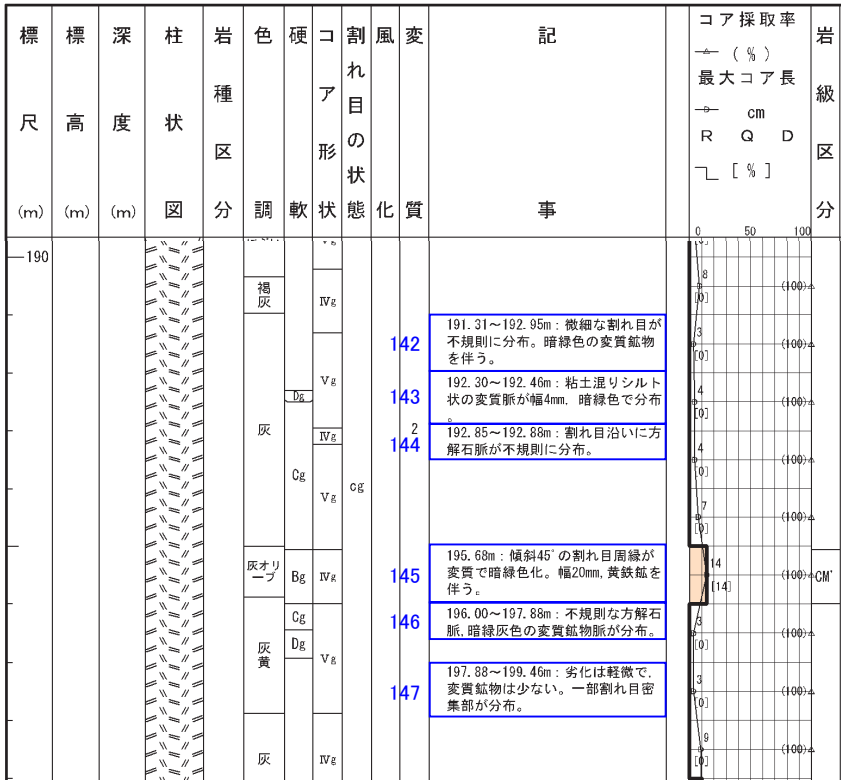
申請書用柱状図



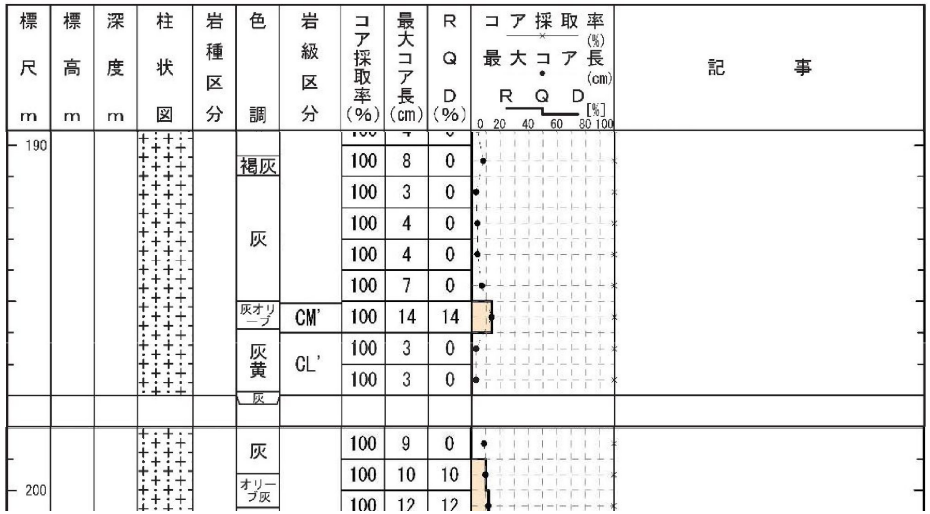
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
140	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
141	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



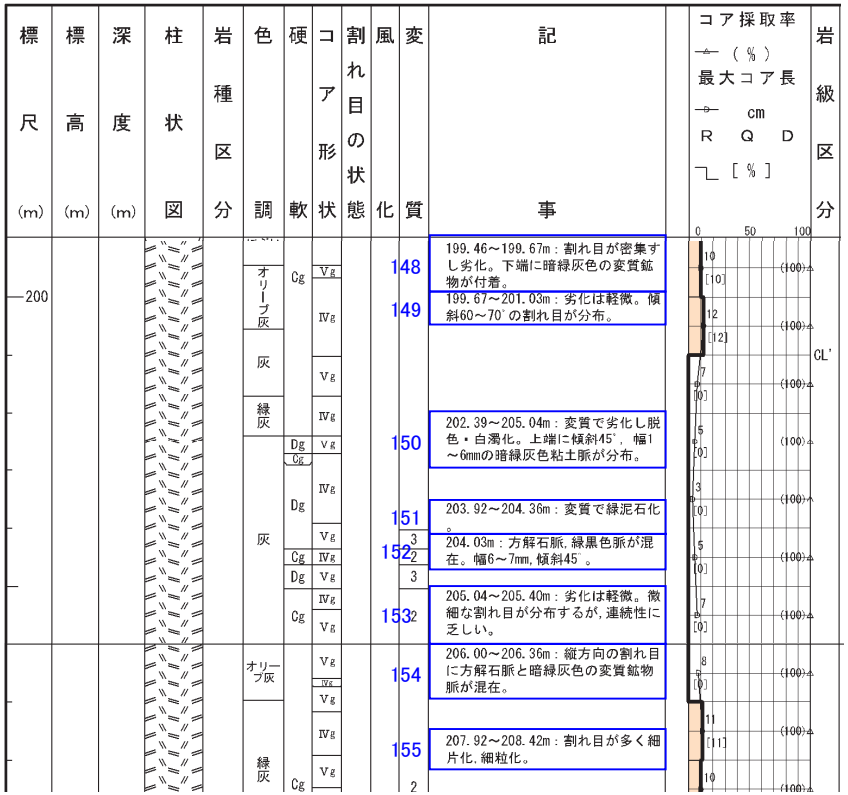
申請書用柱状図



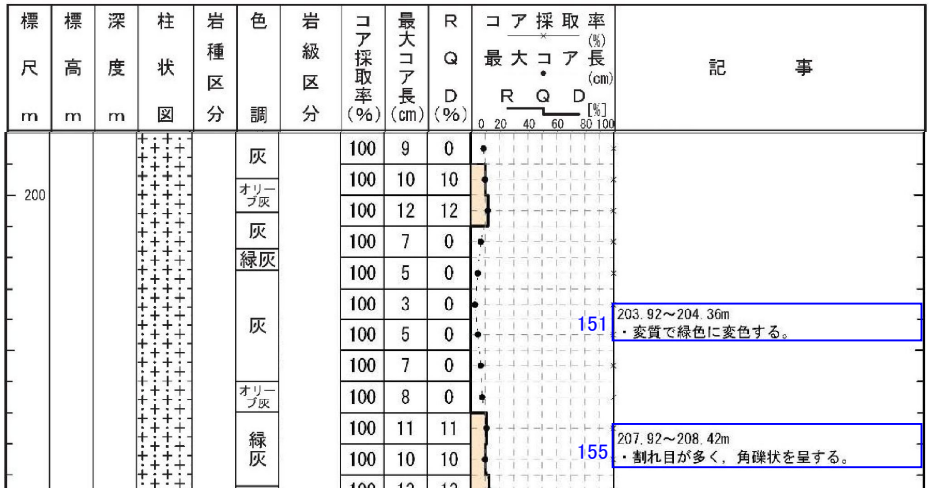
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
142	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
143	・粘土混じりシルト状の変質脈が分布するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
144	・方解石脈については，補足的なものであるため削除。
145	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
146	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
147	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



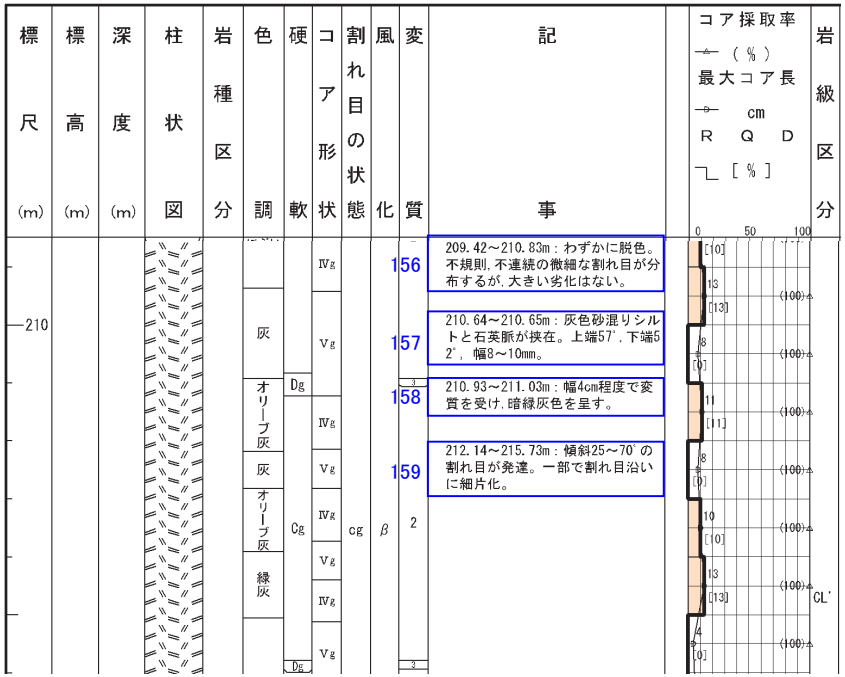
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し（緑泥石化→緑色に変色）。
152	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
155	・細片化，細粒化については，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



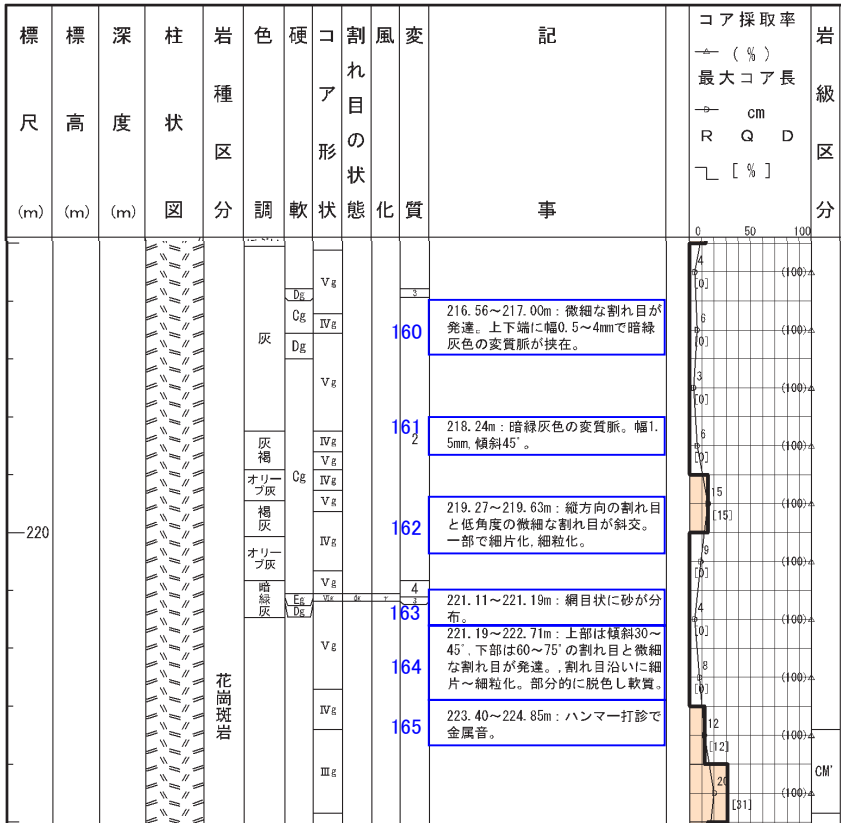
申請書用柱状図



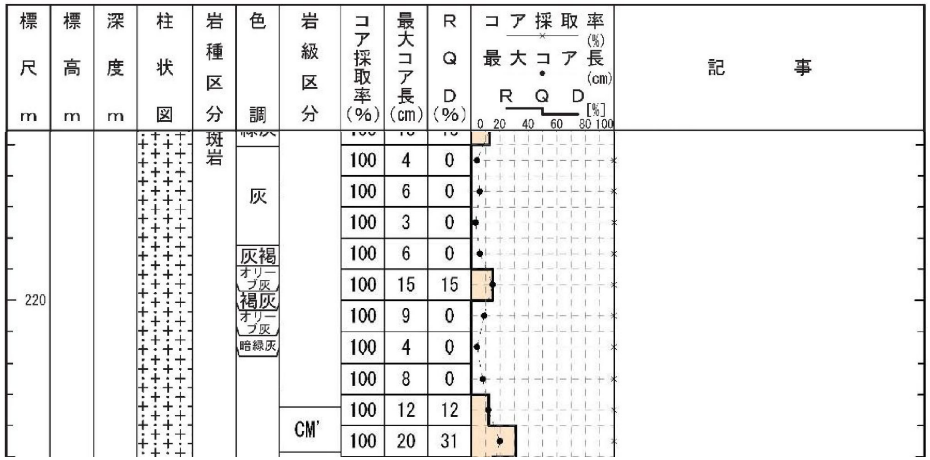
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混じりシルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
158	・色調については，補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



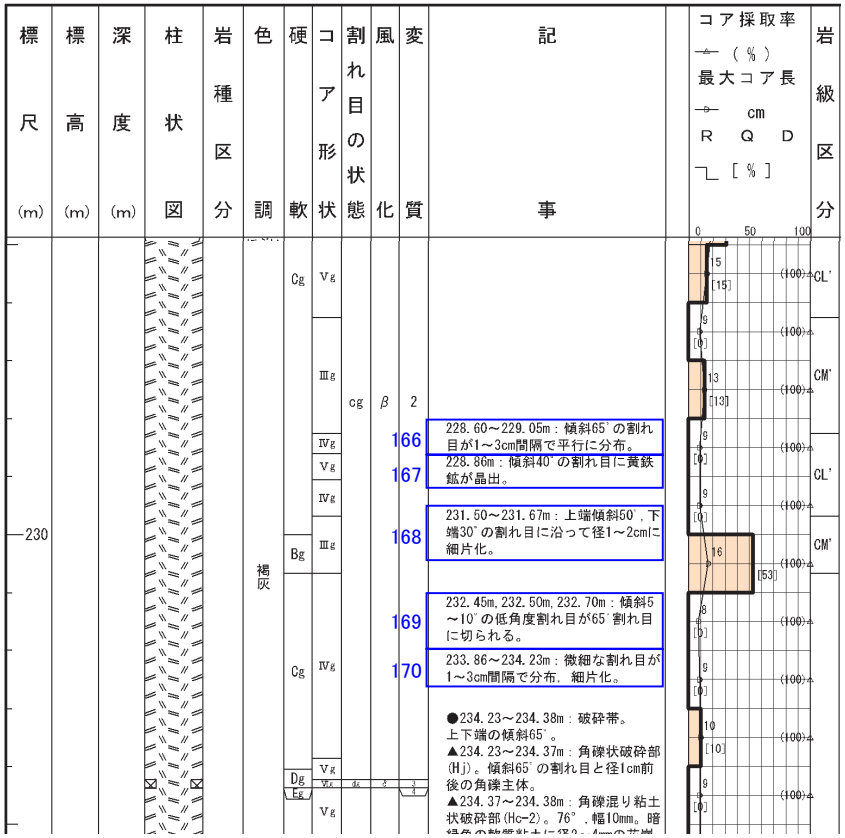
申請書用柱状図



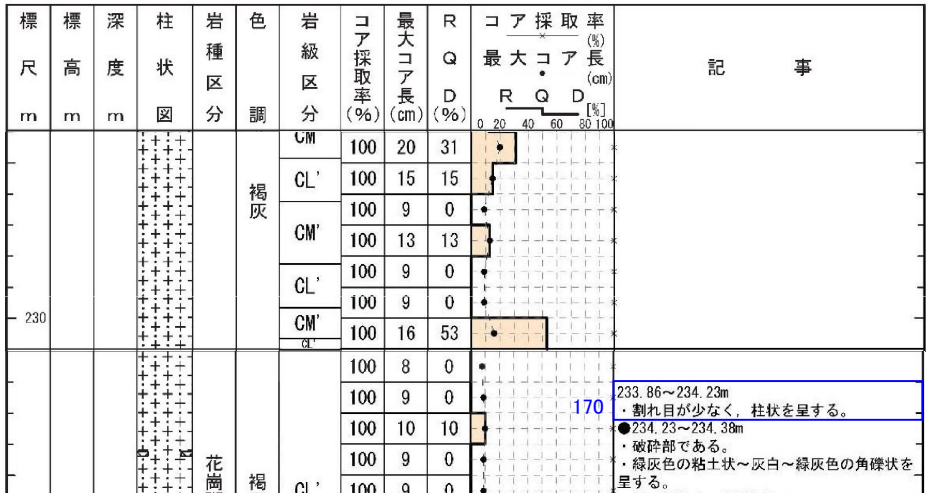
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
160	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・変質脈については，補足的なものであるため削除。
161	・変質脈については，補足的なものであるため削除。
162	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片化，細粒化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
163	・砂を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。
164	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片～細粒化を伴い軟質化しているが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
165	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



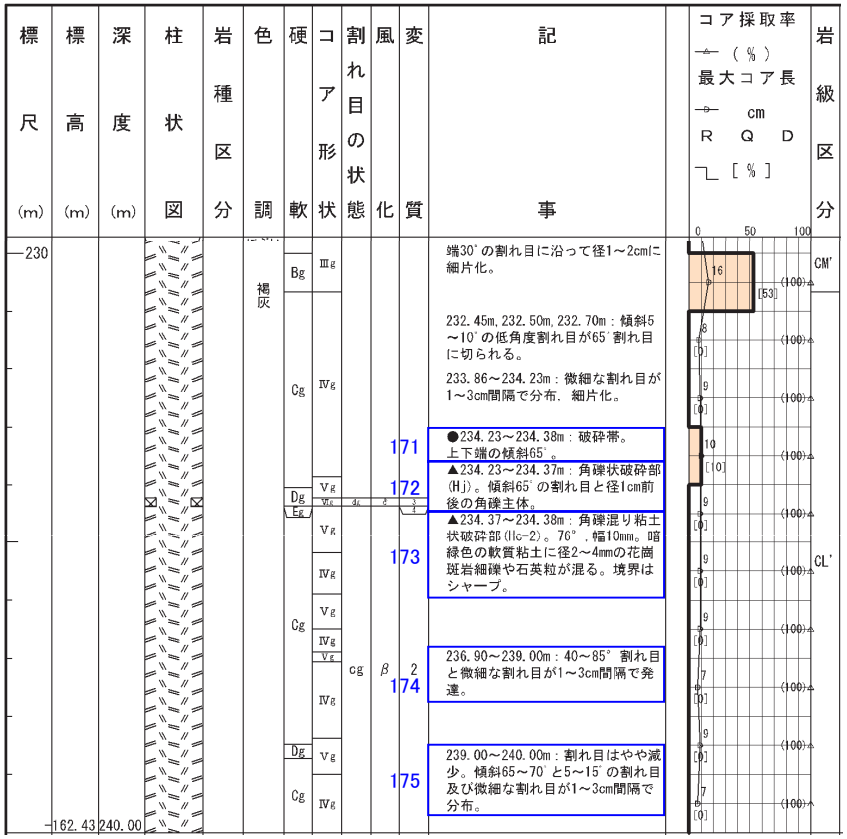
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
166	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
167	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
168	・細片化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
169	・低角度割れ目を切る65° の割れ目が見られるが，低角度割れ目の変位がないため削除。
170	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき記載。 ・「割れ目が少なく，柱状」は，「割れ目が多く，角礫状」の誤り。※1

H24-B8-21

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率（%） 最大コア長（cm） RQD [%]	記事
230						CM' CL'	100	16	53		
							100	8	0		233.86～234.23m ・割れ目が少なく，柱状を呈する。
							100	9	0		
							100	10	10		●234.23～234.38m ・破砕部である。 ・緑灰色の粘土状～灰白～緑灰色の角礫状を呈する。
							100	9	0		
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	9	0	171～173	・緑灰色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°，下盤境界の傾斜は65°である。
							100	9	0		
							100	7	0		
							100	9	0	174	236.90～239.00m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
	-162.43	240.00					100	7	0		

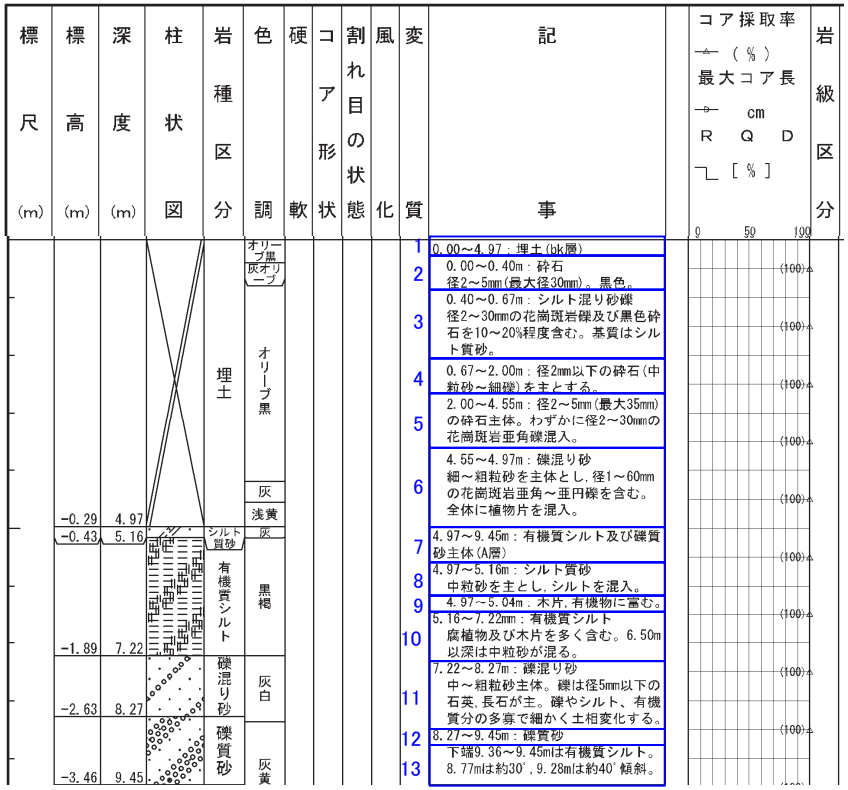
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
171～173	・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・径1cm前後の角礫主体，花崗斑岩細礫や石英粒が混じる，境界はシャープとの記載については，補足的なものであるため削除。
174	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
175	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

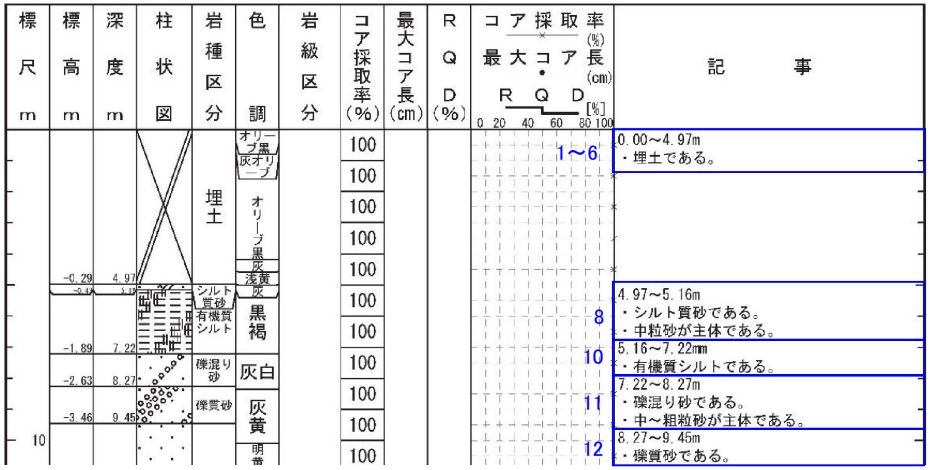
余白

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



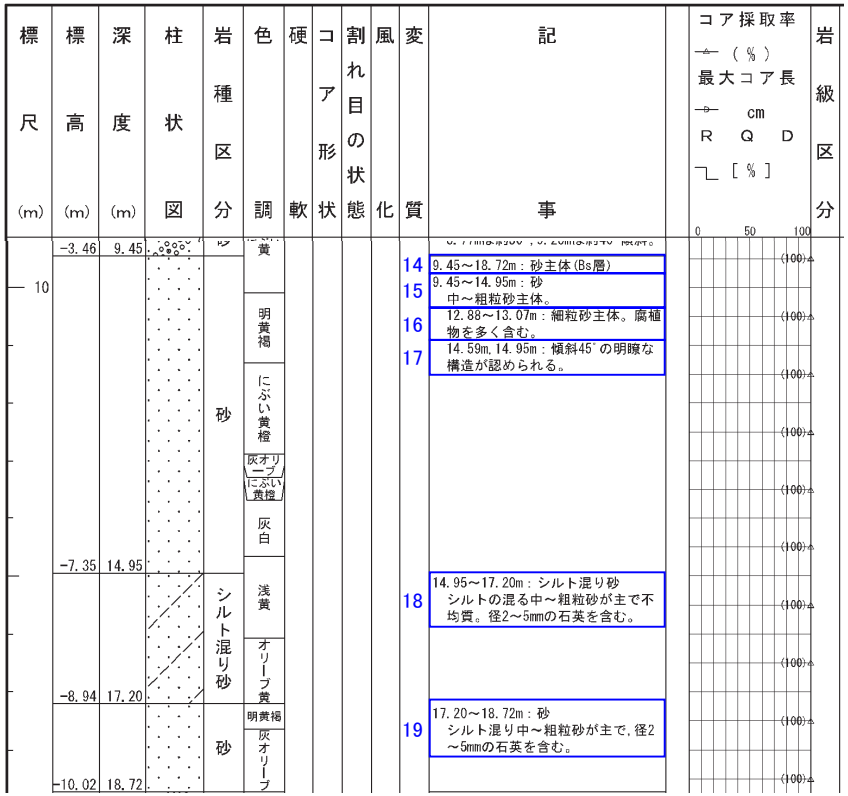
申請書用柱状図



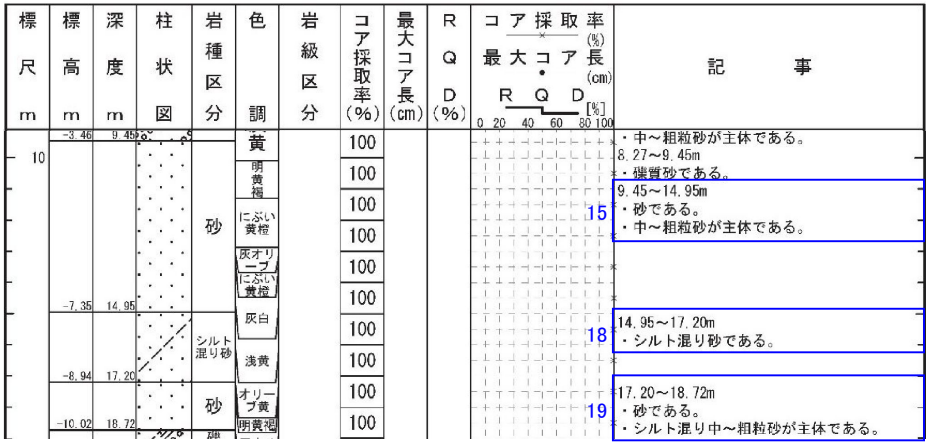
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
1～6	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・区間毎の性状を個別に記載しているため，有機質シルト及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
8，9	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，中粒砂主体であることを記載。
10	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・5.16～7.22mmは5.16～7.22mの誤り。※2
11	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，中～粗粒砂主体であることを記載。
12，13	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



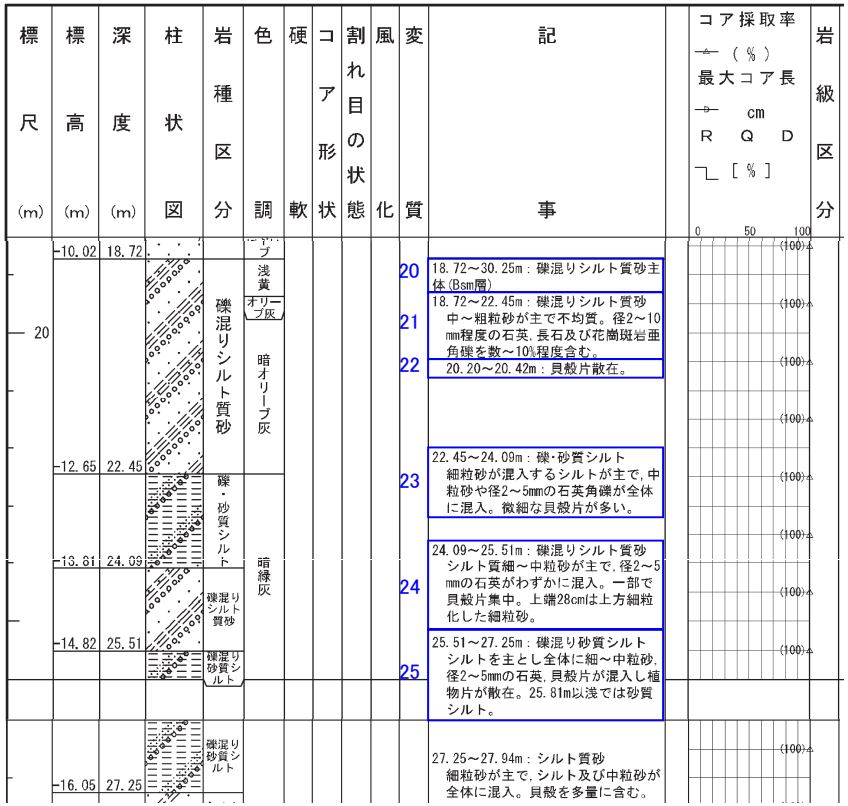
申請書用柱状図



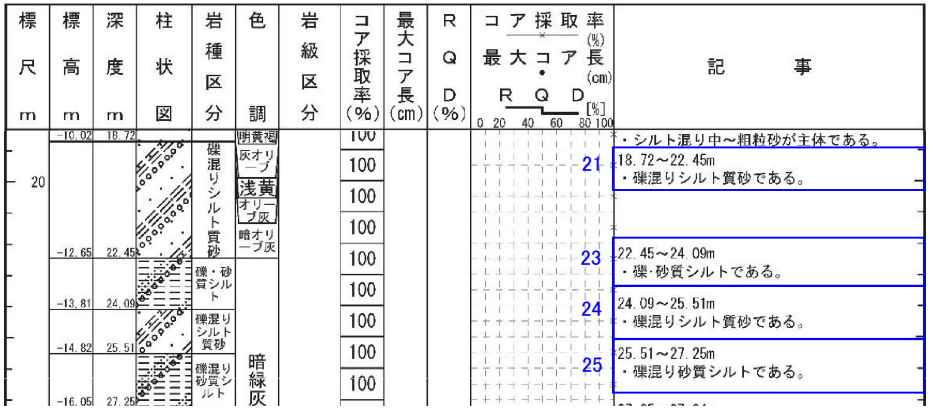
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
14	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂主体とのまとめ書きについては削除。
15～17	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，中～粗粒砂主体であることを記載。
18	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層に比べ顕著ではないが，若干のシルトを含むことから，シルト混りと記載し，補足的に砂の粒度として，中～粗粒砂も記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



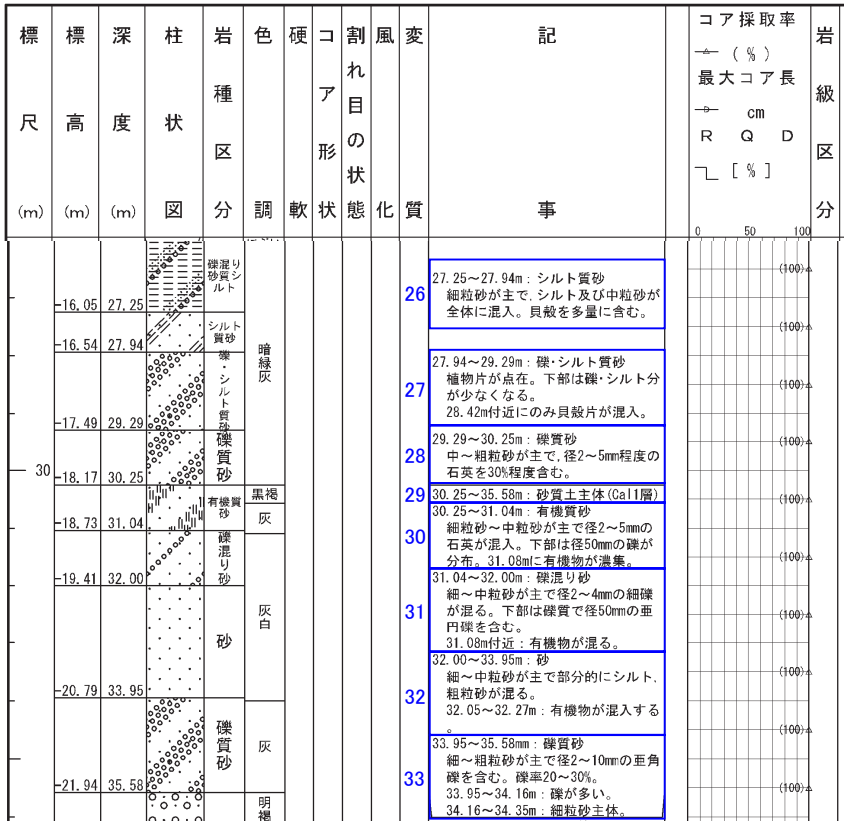
申請書用柱状図



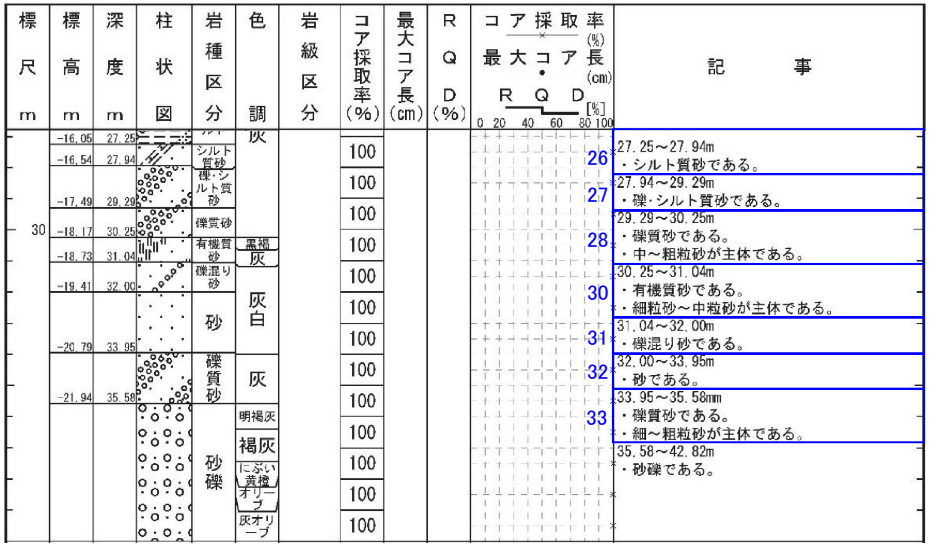
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
20	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫混りシルト質砂主体とのまとめ書きについては削除。
21，22	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
24	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
25	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



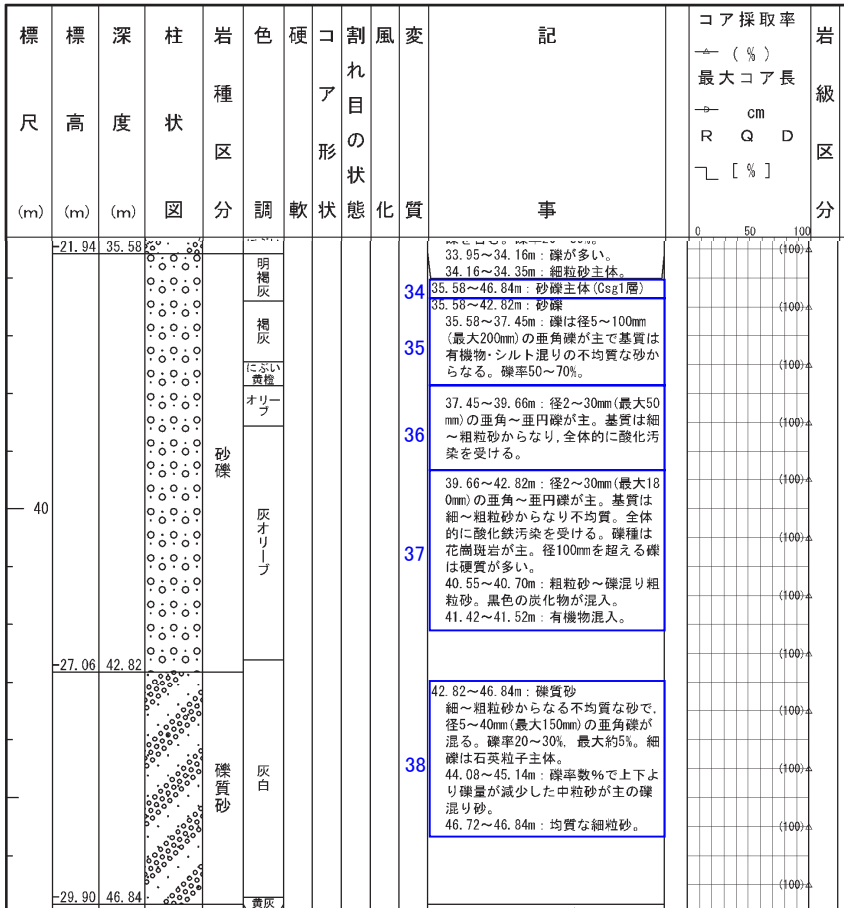
申請書用柱状図



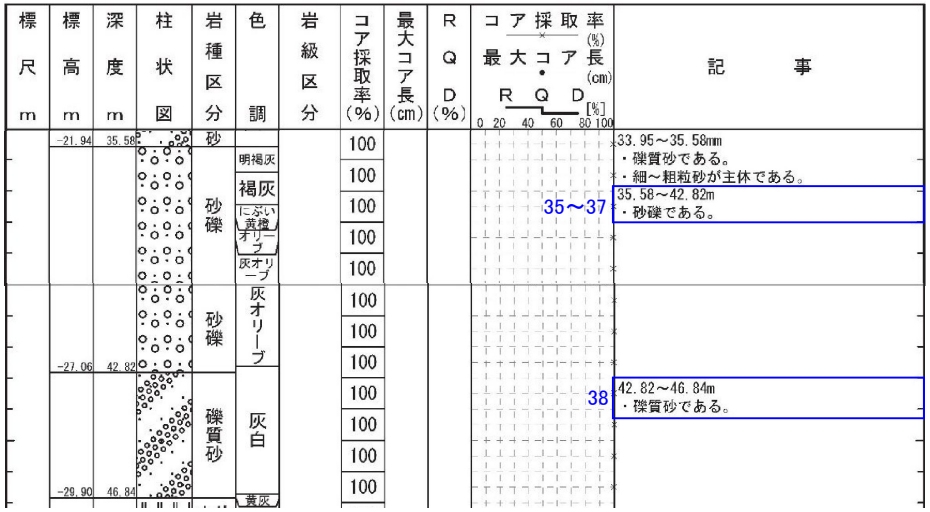
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，中～粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，細粒砂～中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，細～粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95～35.58mmは33.95～35.58mの誤り。※2

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



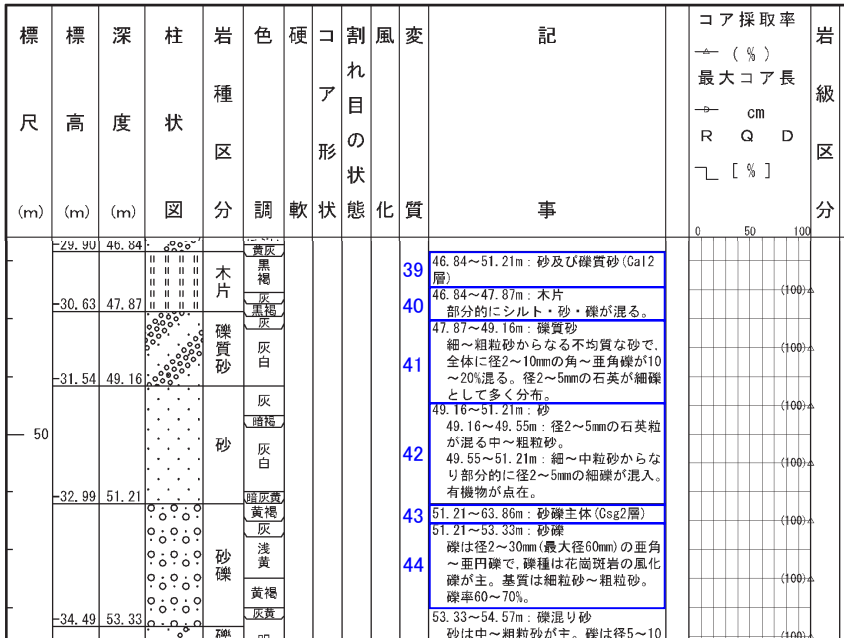
申請書用柱状図



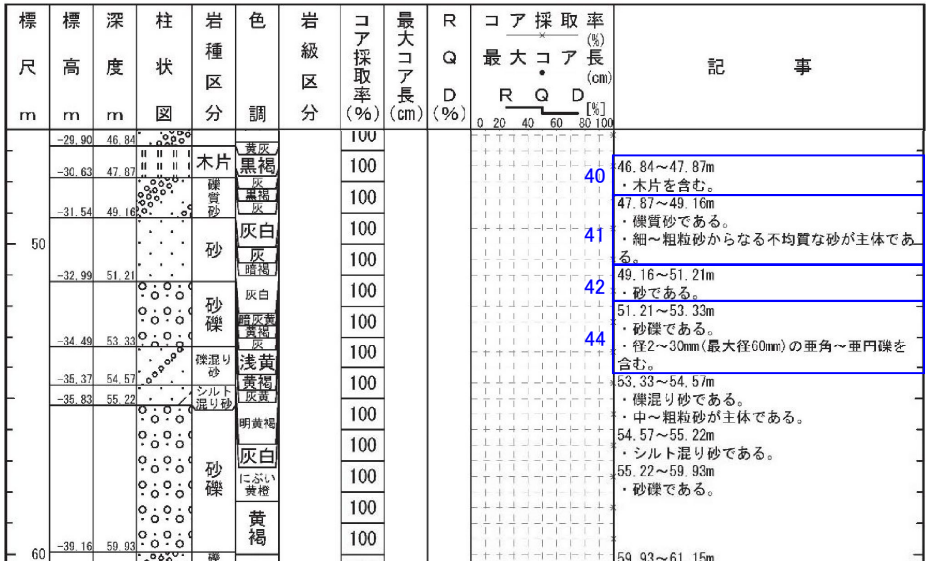
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
34	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
35～37	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
38	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



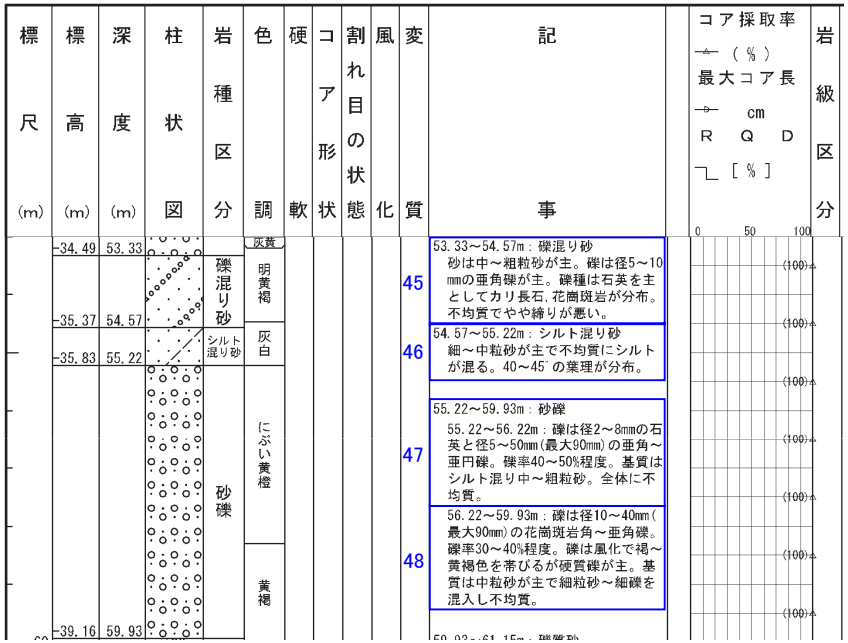
申請書用柱状図



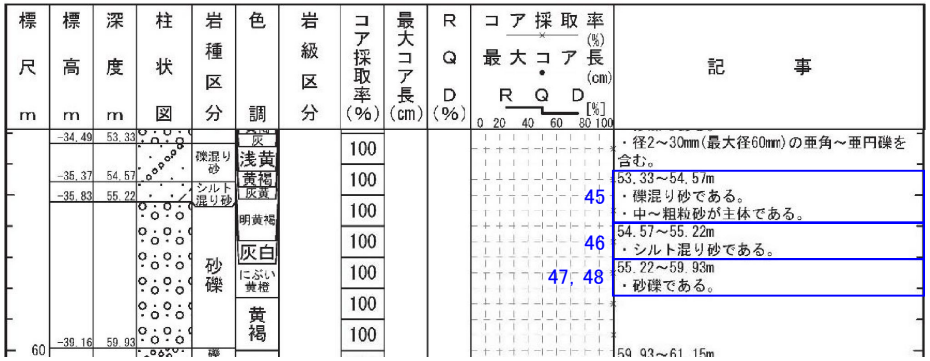
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
39	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
40	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
41	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，細～粗粒砂からなる不均質な砂主体であることを記載。
42	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
43	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
44	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，円磨度を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



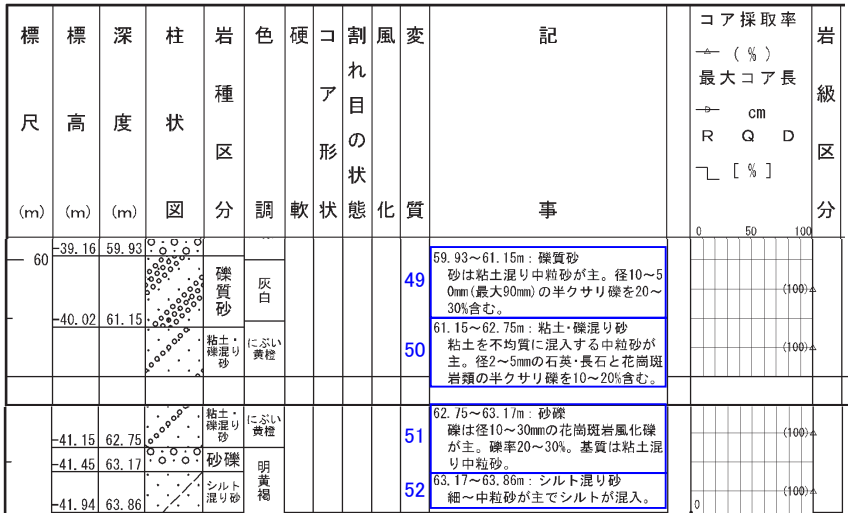
申請書用柱状図



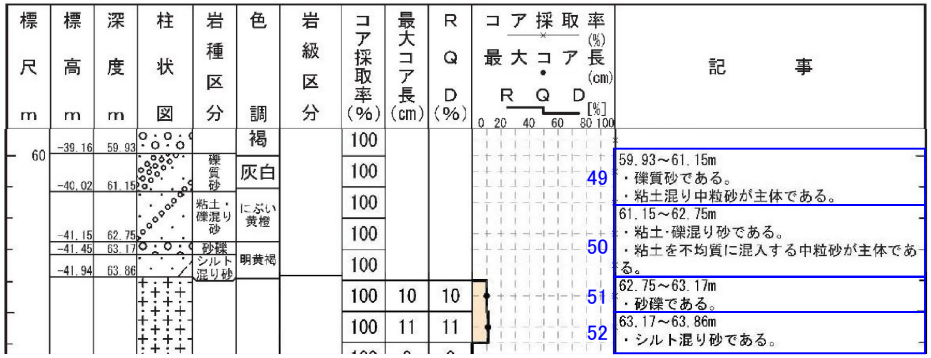
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
45	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，中～粗粒砂主体であることを記載。
46	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・葉理については，シルトの不均質な分布を反映して不明瞭であることから削除。
47，48	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



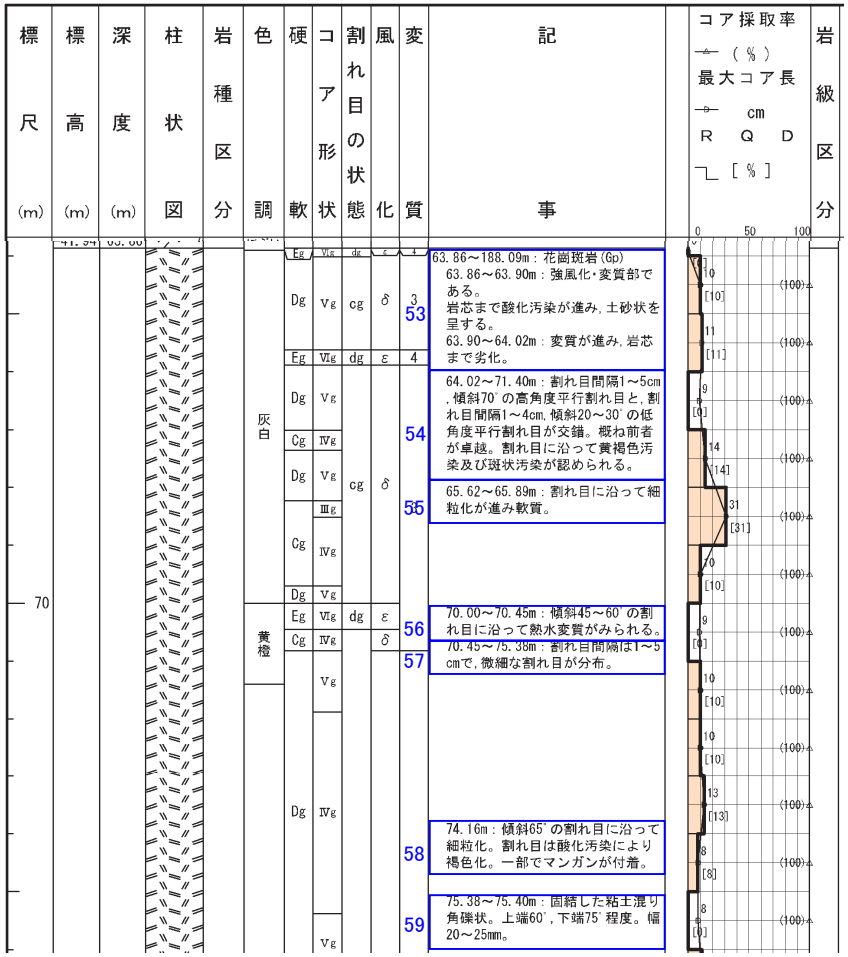
申請書用柱状図



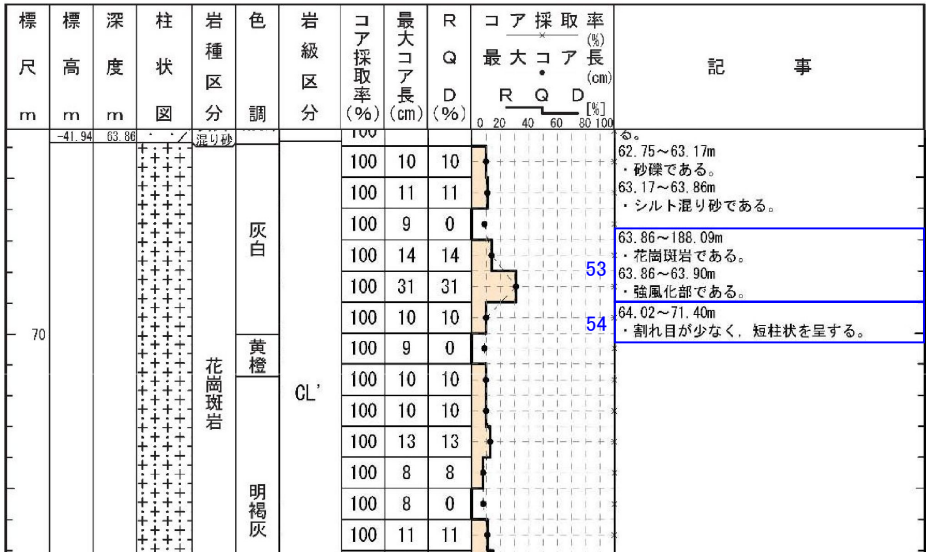
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
49	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，粘土混り中粒砂主体であることを記載。
50	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，粘土を不均質に混入する中粒砂主体であることを記載。
51	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
52	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



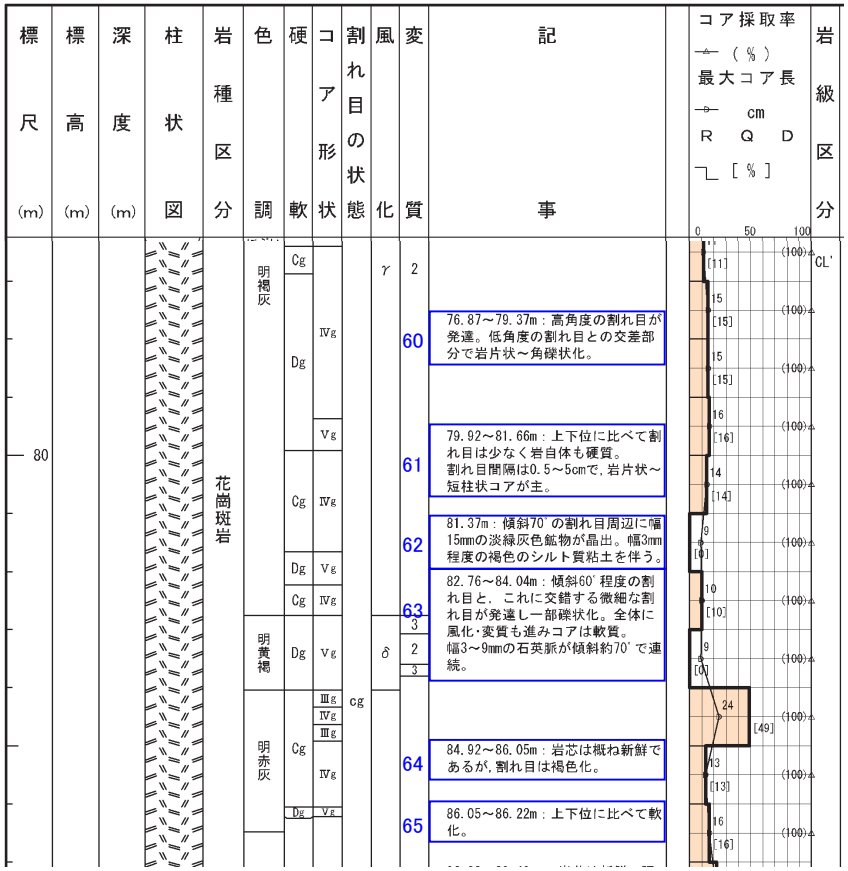
申請書用柱状図



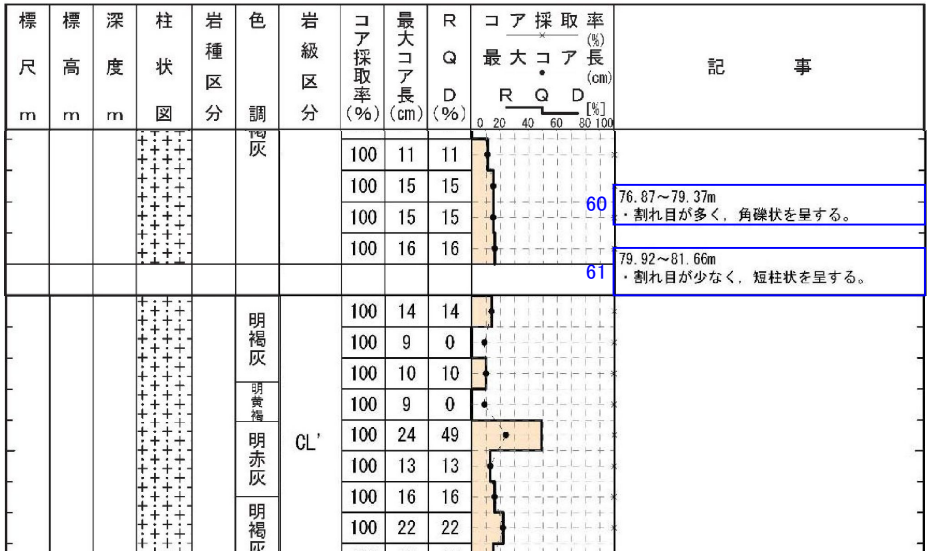
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
53	・風化を伴う岩盤の劣化については，岩級区分で示しているため，詳細については削除(酸化汚染，土砂状)。 ・63.90～64.02mの変質の程度については，周囲と明瞭な差が認められないため削除。
54	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・割れ目沿いの汚染の記載については，補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いに細粒化し軟質となるが，掘削時の機械割れと判断し削除。
56	・割れ目沿いに変質し劣化するが，前後の岩質に差はないこと，割れ目は連続性や直線性に乏しく，系統的な配列等も認められないことから削除。
57	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
58	・細粒化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
59	・粘土混じり角礫状を呈するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



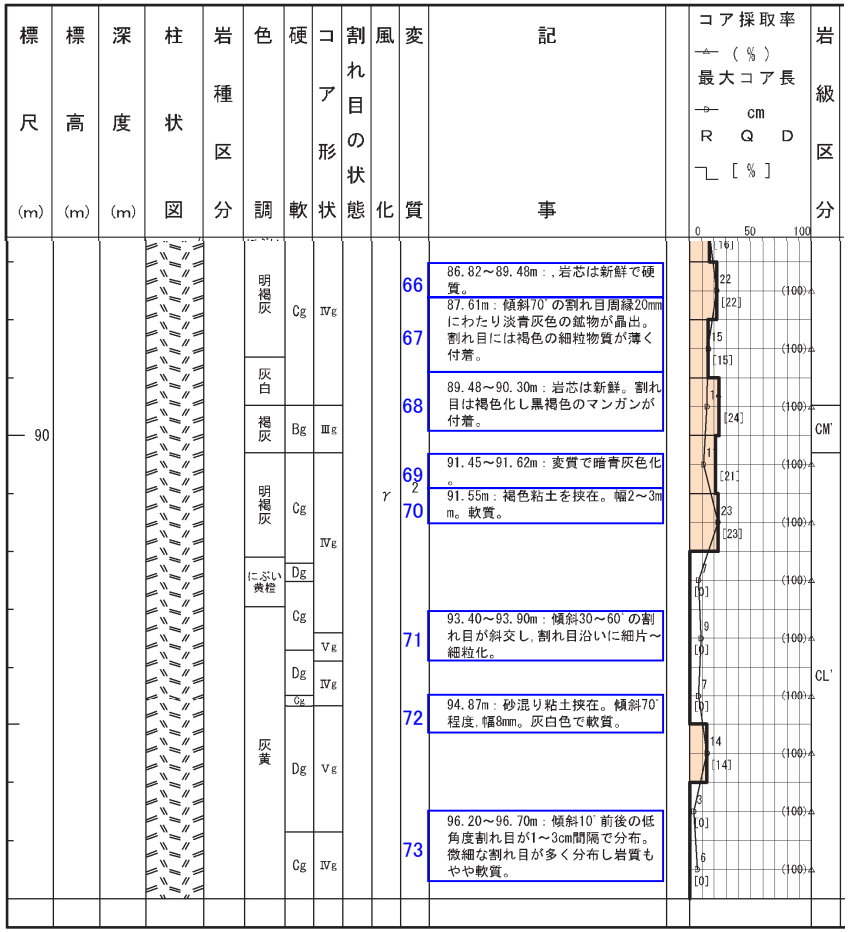
申請書用柱状図



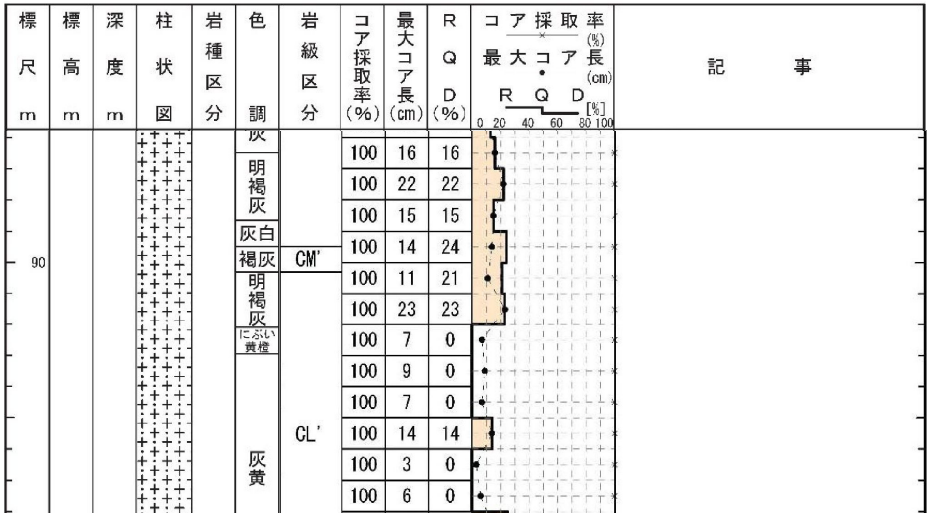
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
60	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
61	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
62	・シルト質粘土を挟在するが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに礫状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・鉱物脈については補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いの褐色化については，補足的なものであるため削除。
65	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



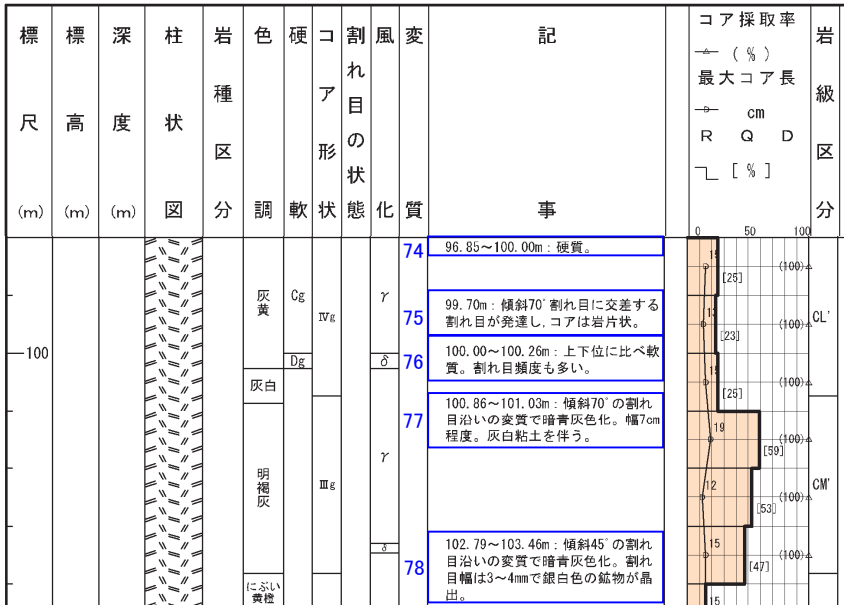
申請書用柱状図



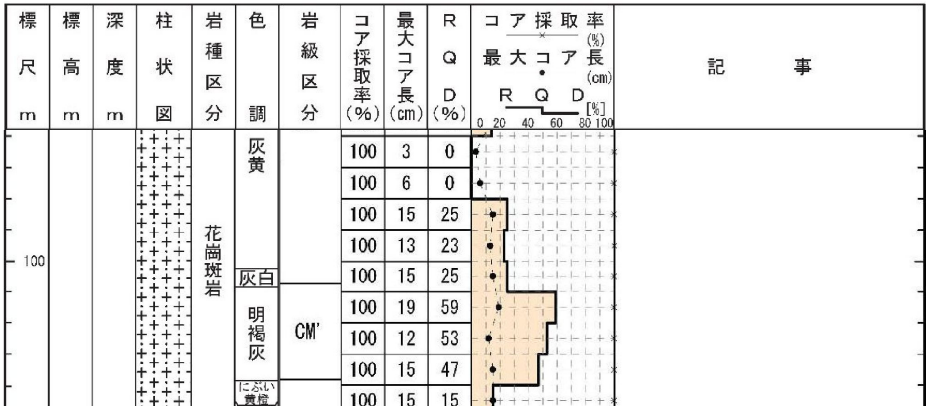
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
66	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
67	・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
68	・割れ目沿いの変色，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
69	・変色については，補足的なものであるため削除。
70	・粘土を挟在するが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
71	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
72	・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。
73	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



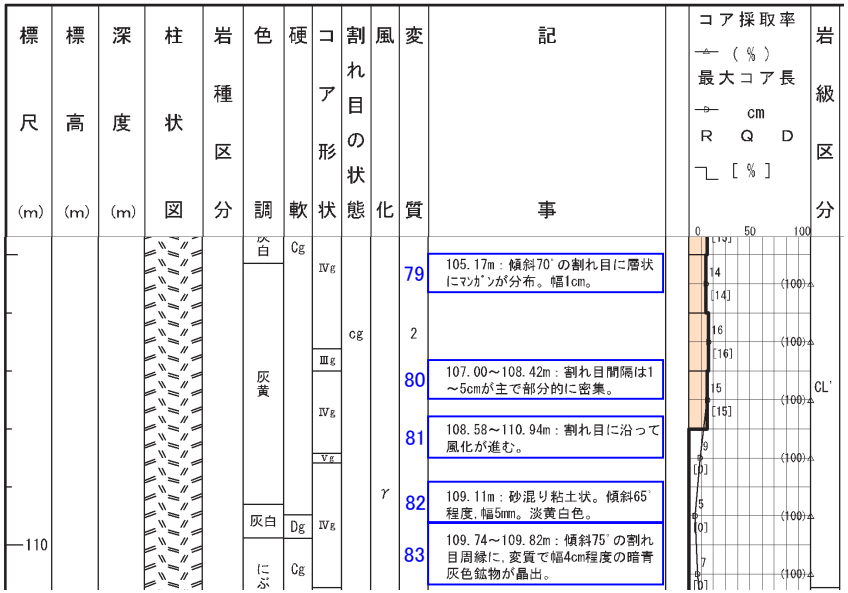
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
74	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
75	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
76	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
77	・粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。
78	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



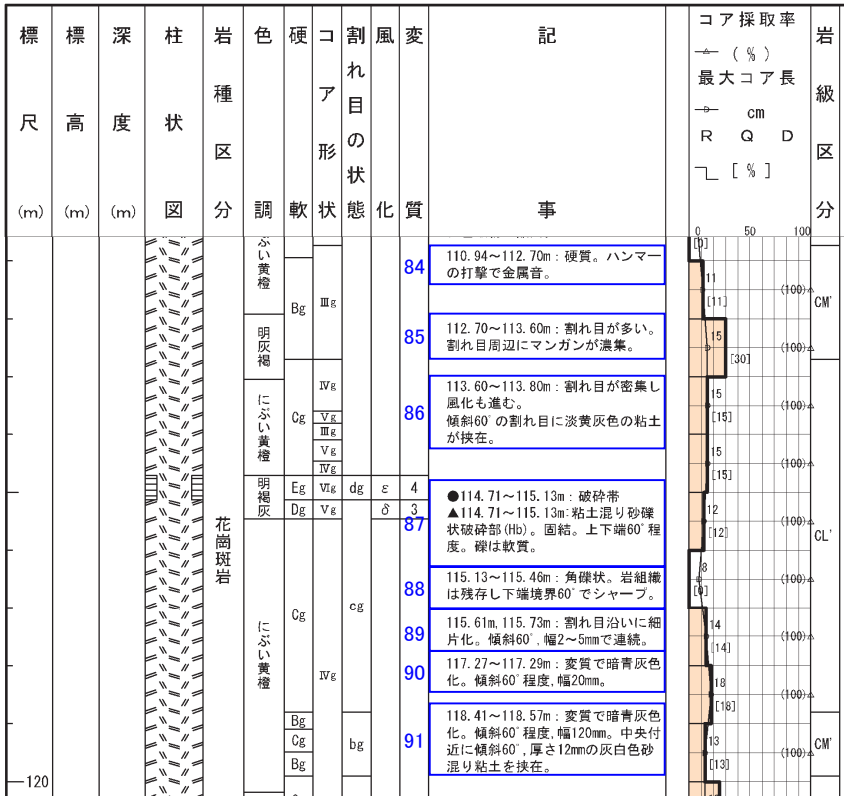
申請書用柱状図



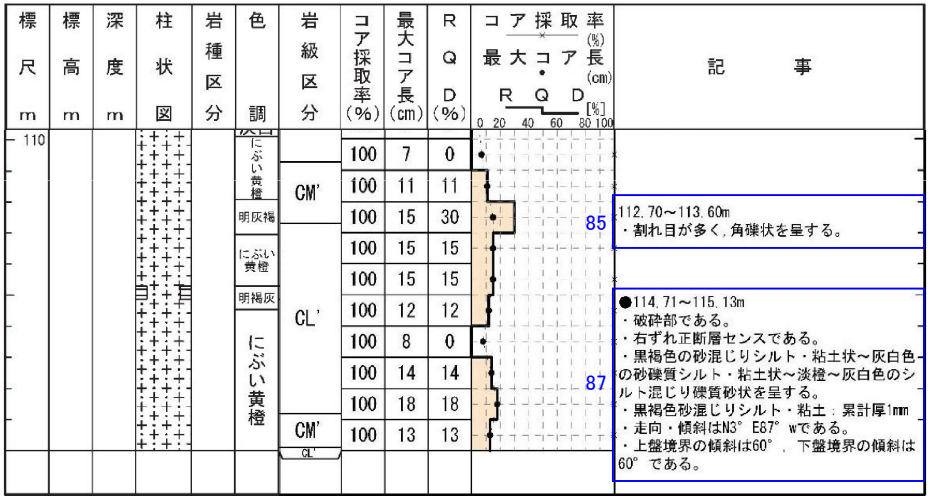
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
79	・割れ目沿いのマンガンについては，補足的なものであるため削除。
80	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
81	・風化を伴う岩盤の劣化については，岩級区分で示しているため削除。
82	・砂混じり粘土状を呈するが，粘土の直線性や連続性に乏しいことから削除。
83	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



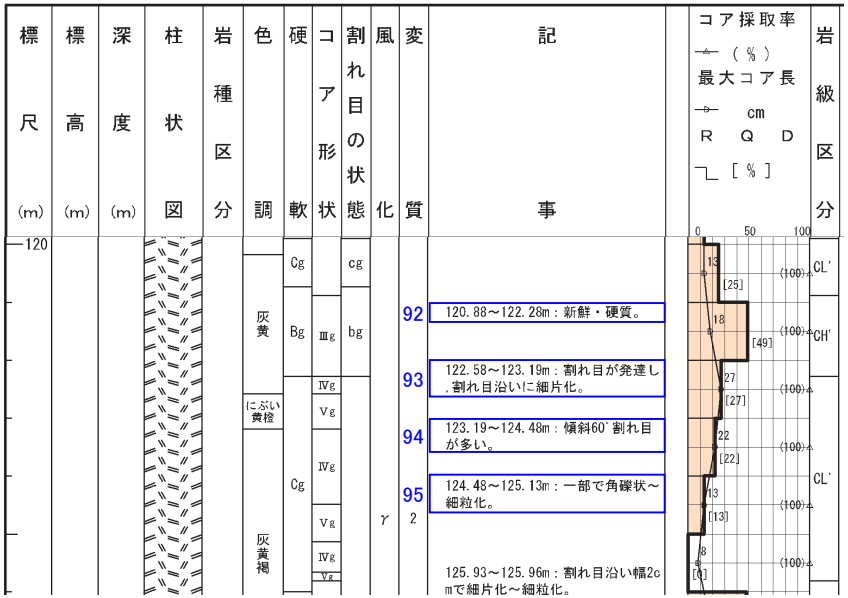
申請書用柱状図



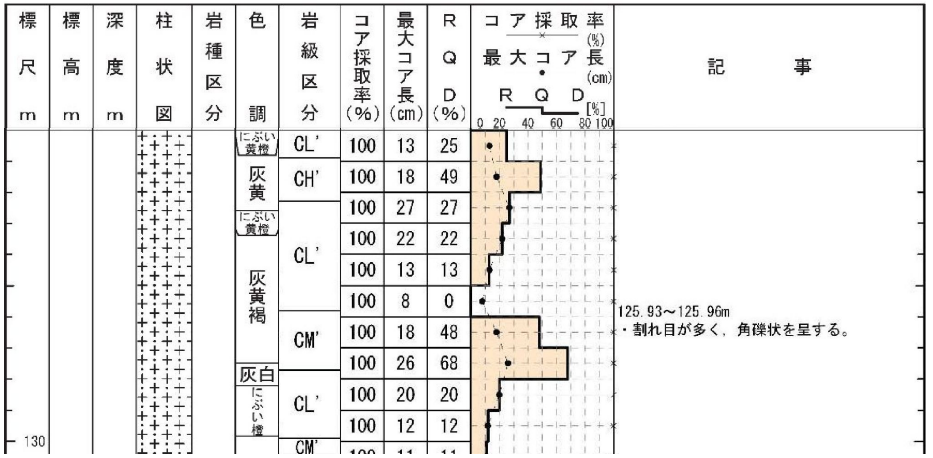
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
84	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
86	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。
87	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・砂礫状部の礫の硬軟の記載は補足的なものであるため，礫は軟質との記載については削除。
88	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
89	・割れ目沿いに細片化しているが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
91	・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



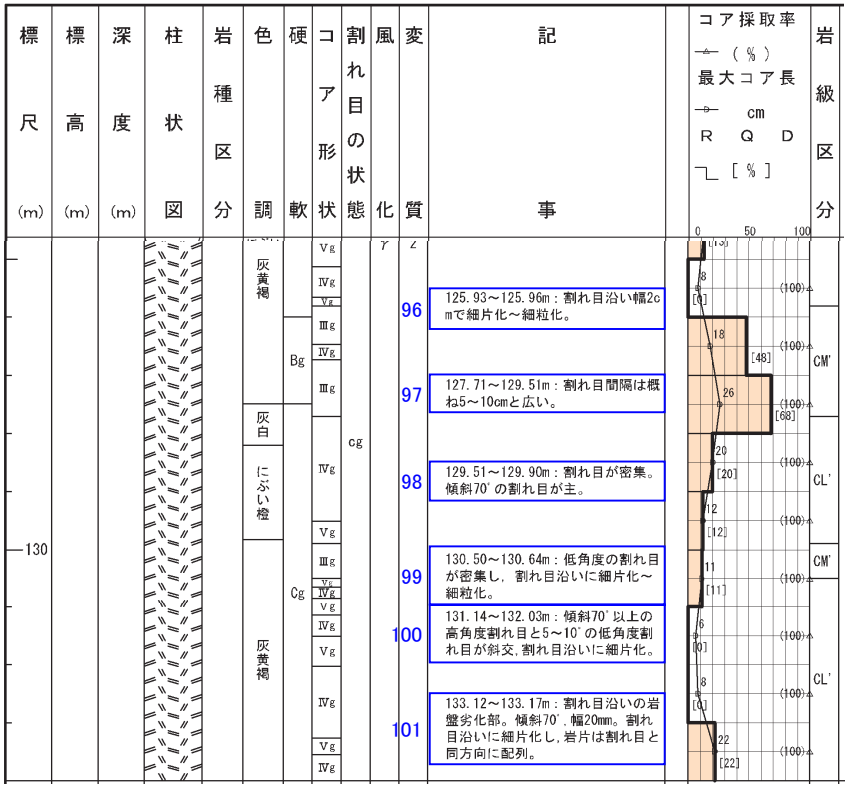
申請書用柱状図



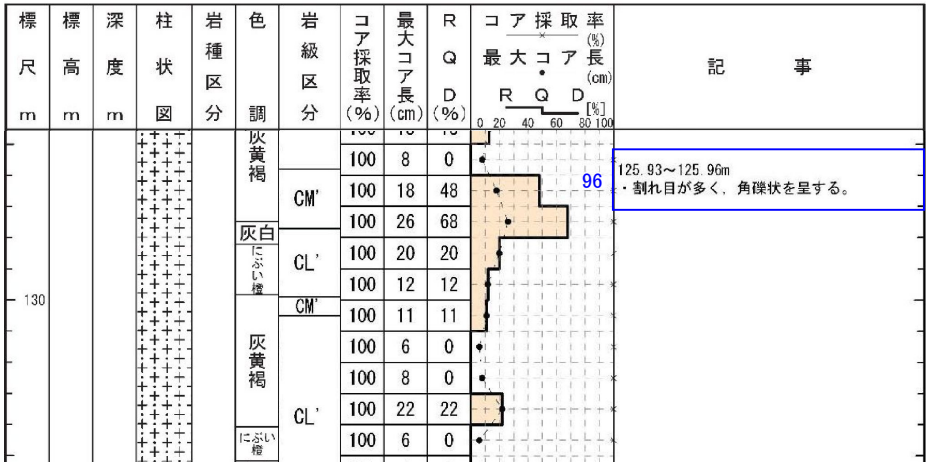
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
92	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
93	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
94	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
95	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



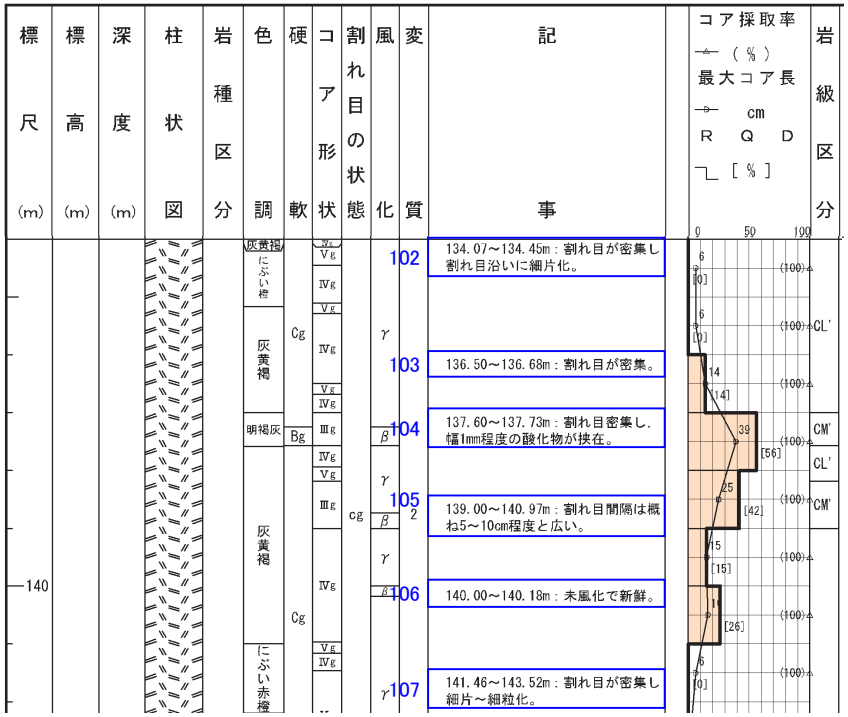
申請書用柱状図



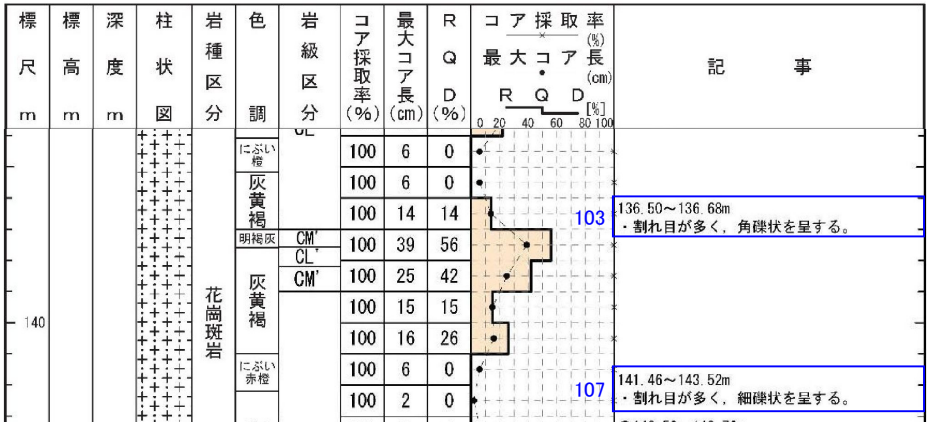
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
96	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・細粒化については，掘削時の機械割れと判断し削除。
97～101	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの細片化，細粒化については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



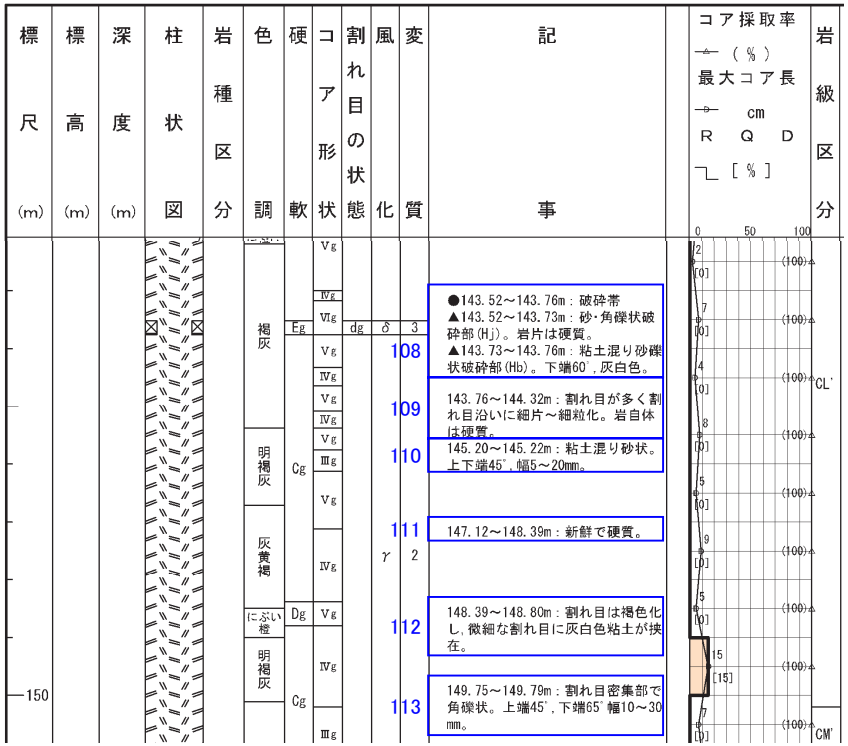
申請書用柱状図



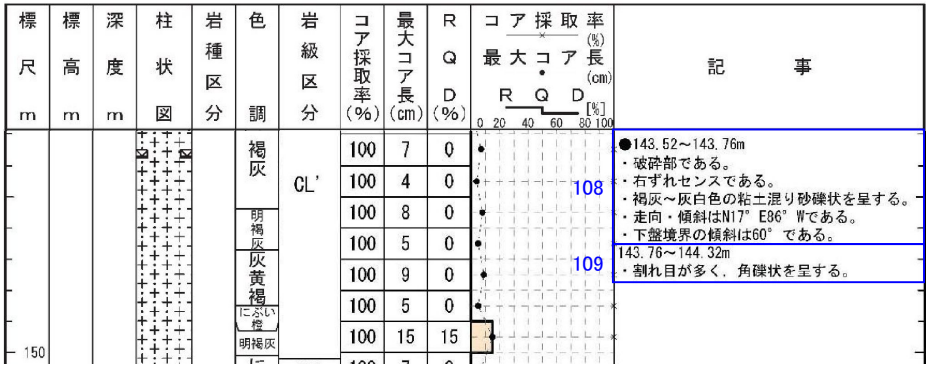
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
102	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの細片化，細粒化については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
103	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
104	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・酸化物の挟在については，補足的なものであるため削除。
105	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
106	・風化を伴う岩盤の劣化の程度については，岩級区分で示しているため削除。
107	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき細礫状と記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



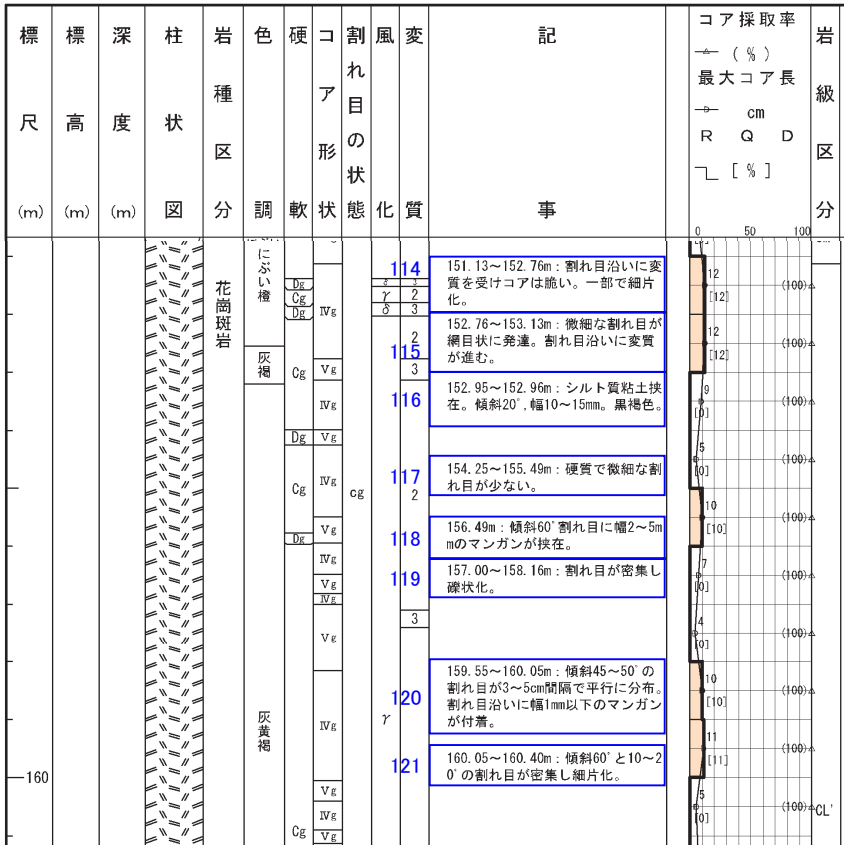
申請書用柱状図



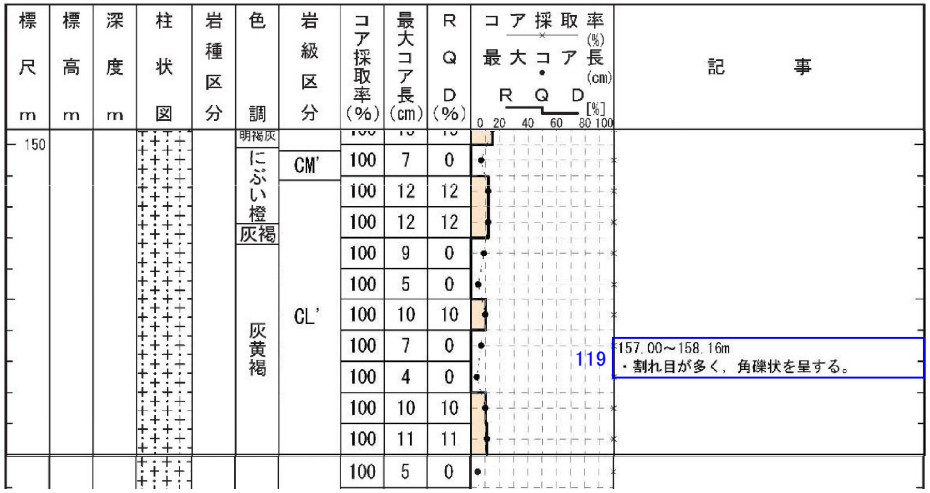
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状) ・“色調”欄に基づき褐灰と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため，岩片は硬質との記載については削除。
109	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	・粘土混じり砂状を呈するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
112	・割れ目に粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。
113	・角礫状を呈するが，連続性に乏しいことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



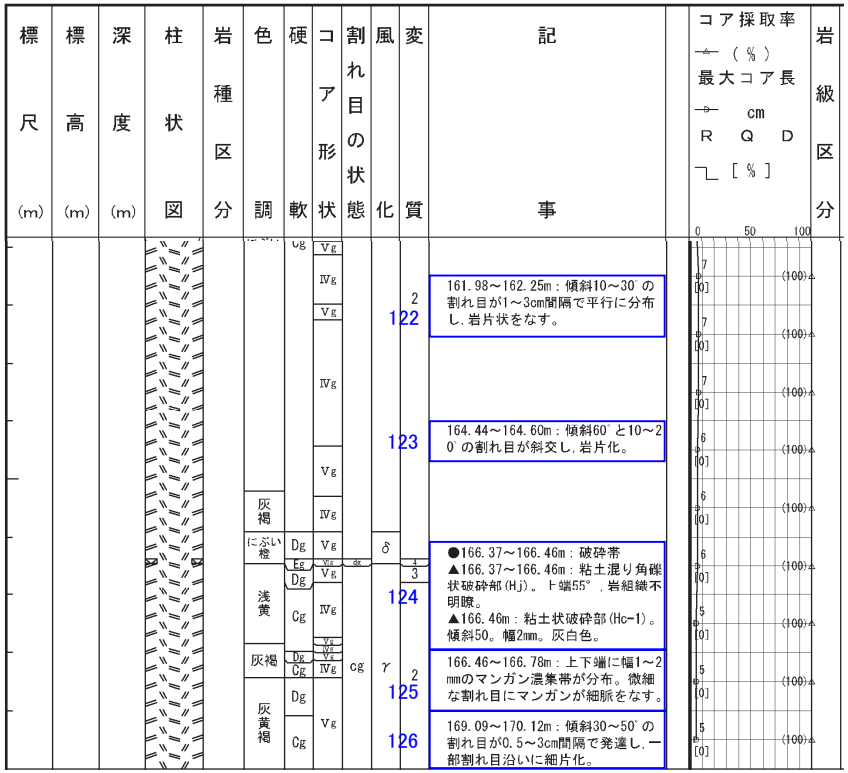
申請書用柱状図



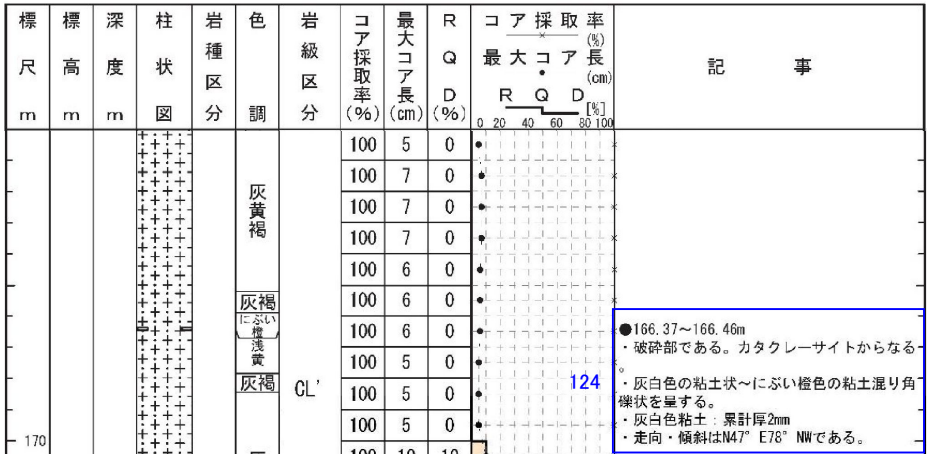
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
114	・脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
115	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については，周囲と明瞭な差が認められないため削除。
116	・シルト質粘土を挟在するが，掘削時の機械割れと判断して削除。
117	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
118	・マンガンの挟在については，補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
120，121	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガンについては，補足的なものであるため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



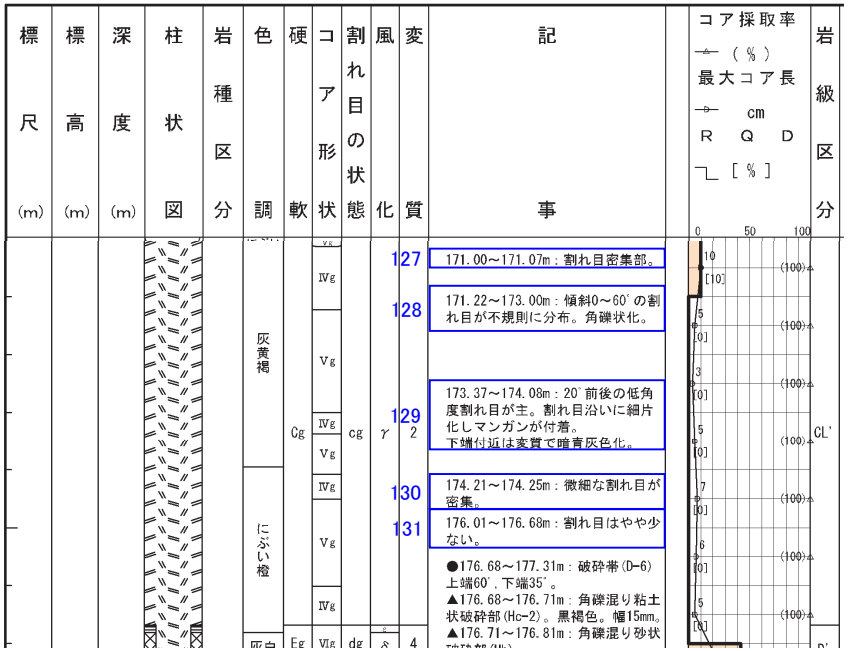
申請書用柱状図



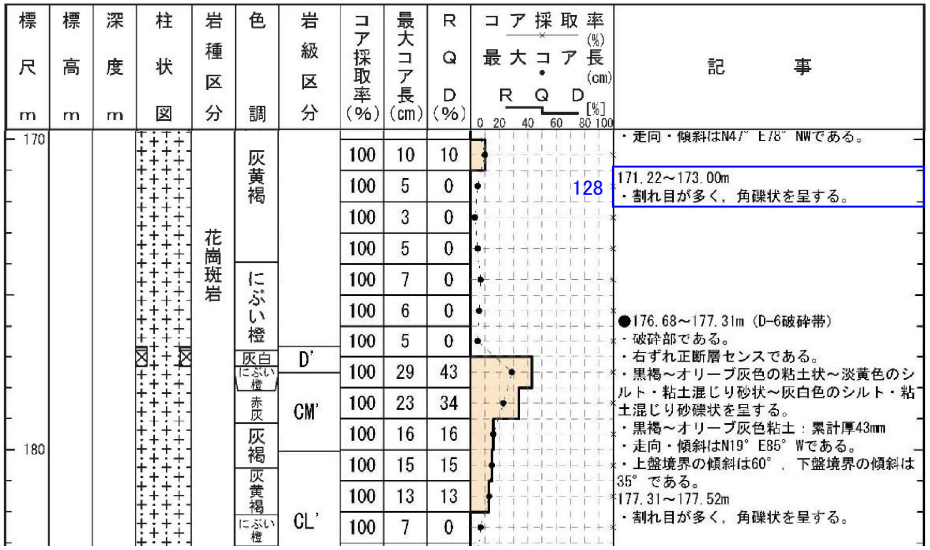
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
122，123	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
124	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき，にぶい橙色と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。
125	・マンガン濃集については，補足的なものであるため削除。
126	・割れ目沿いに細片化しているが，周囲と明瞭な差が認められないため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



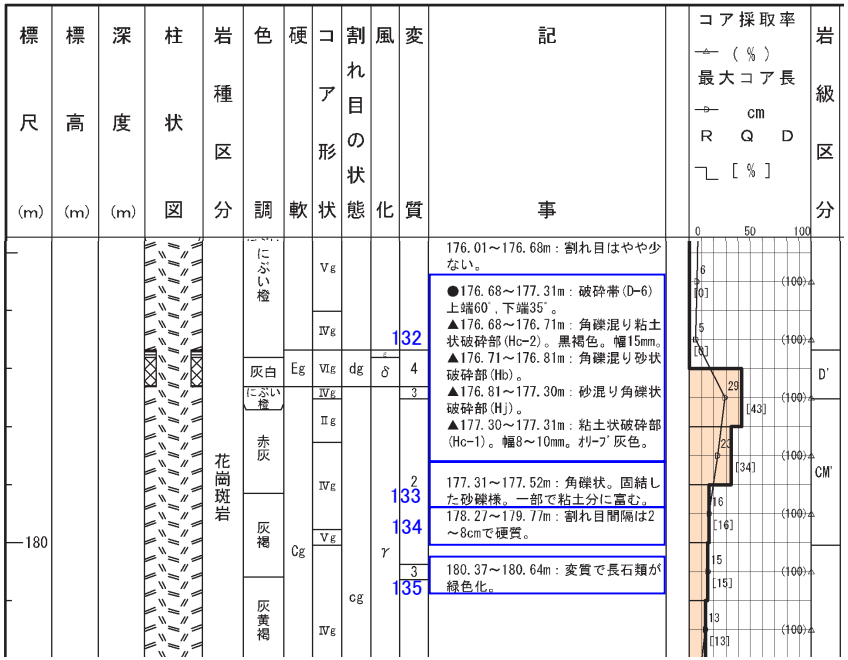
申請書用柱状図



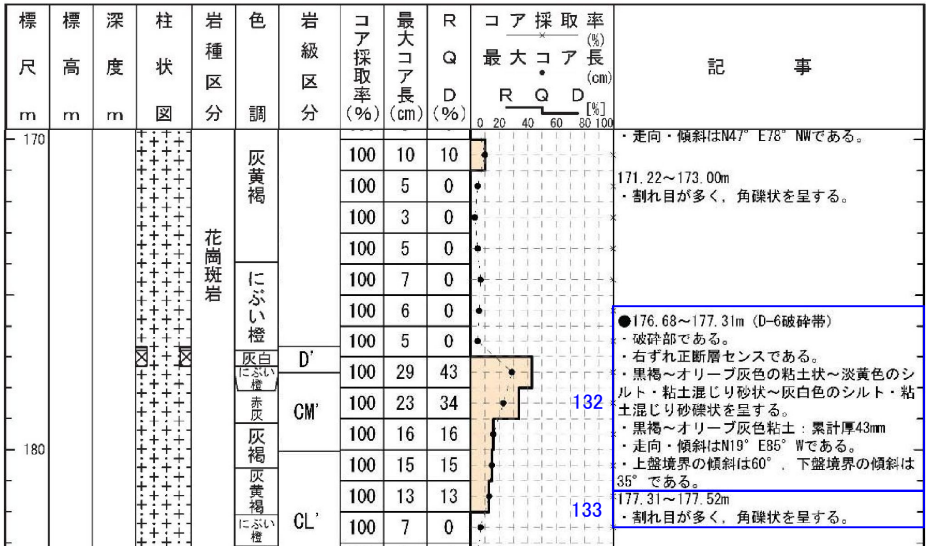
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
127	・割れ目が密集しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
128	・割れ目が密集しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
129～131	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色，マンガン付着については，補足的なものであるため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



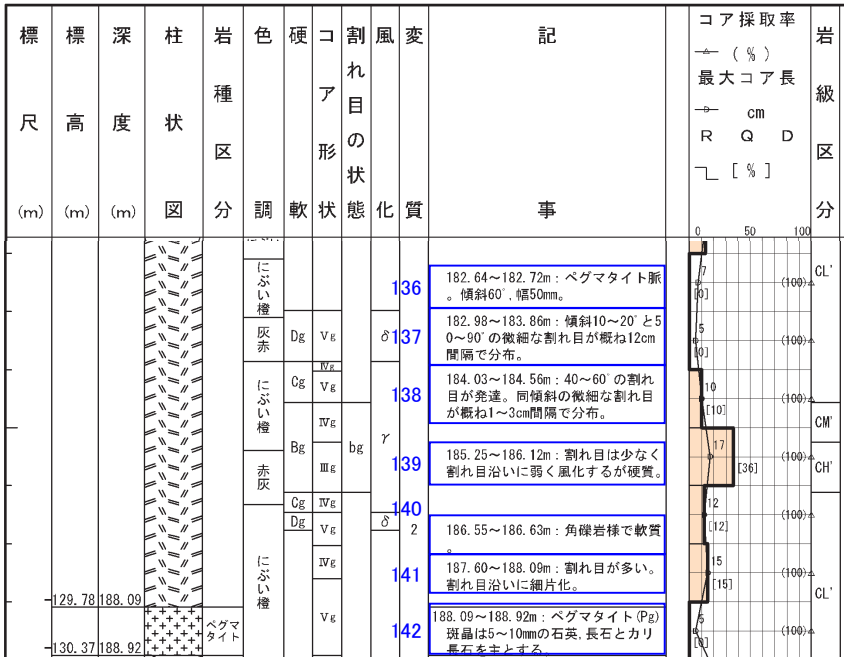
申請書用柱状図



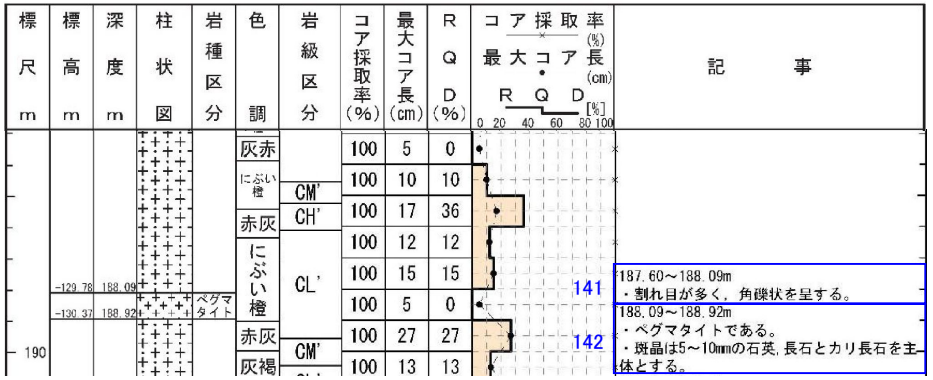
記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
132	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調，粒度，累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
133	・一部で粘土を含むが，粘土の配列が系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
134	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
135	・長石類の緑色化については，変質に関する補足的なものであるため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



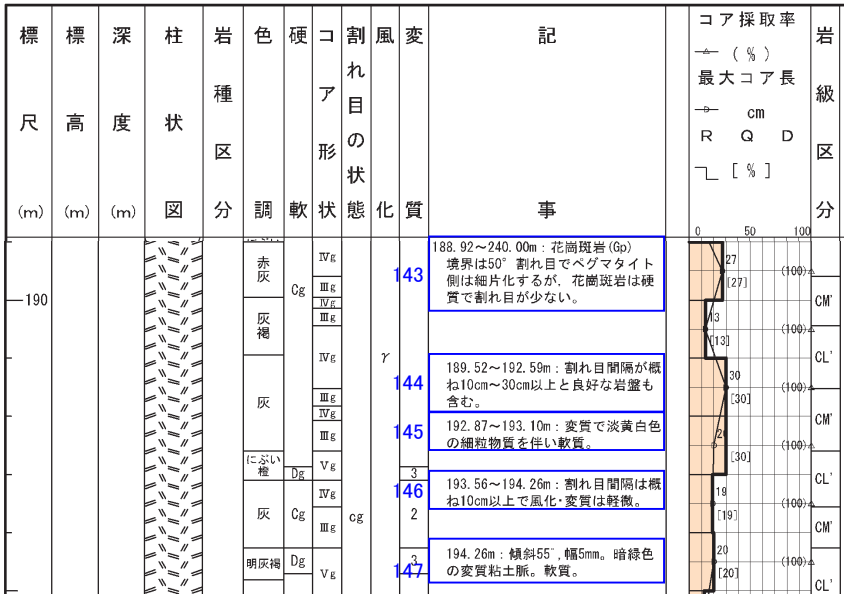
申請書用柱状図



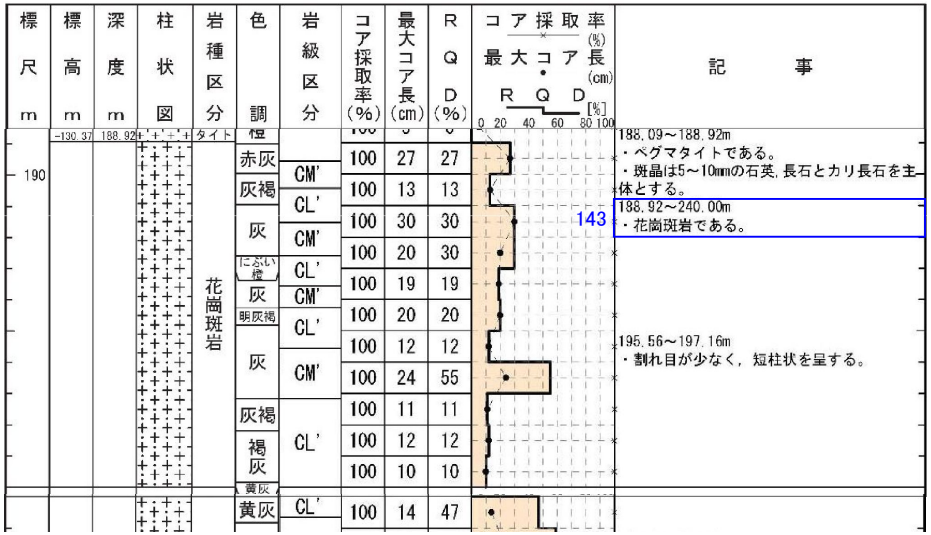
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
136	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
137	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
138	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
139	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
140	・マンガン汚染により，角礫岩様に見えるものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
141	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
142	・変更なし

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



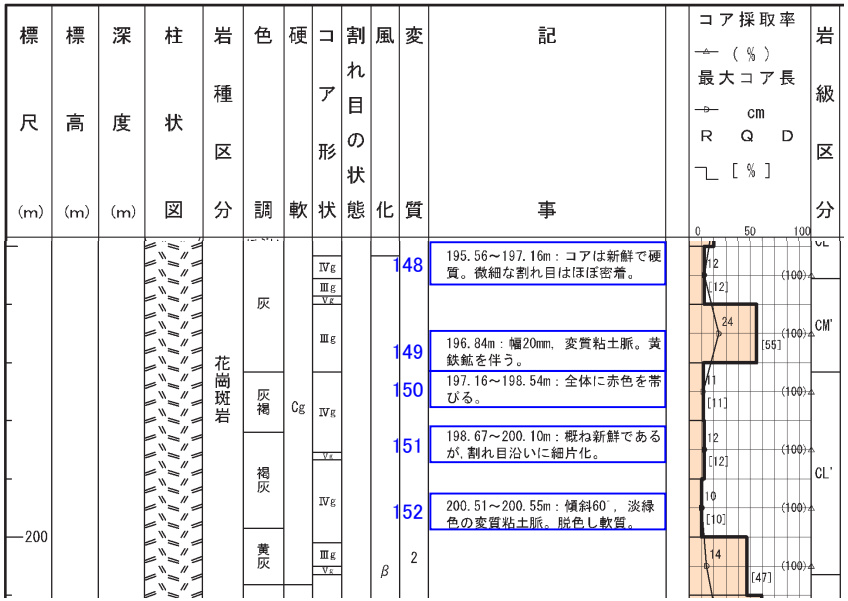
申請書用柱状図



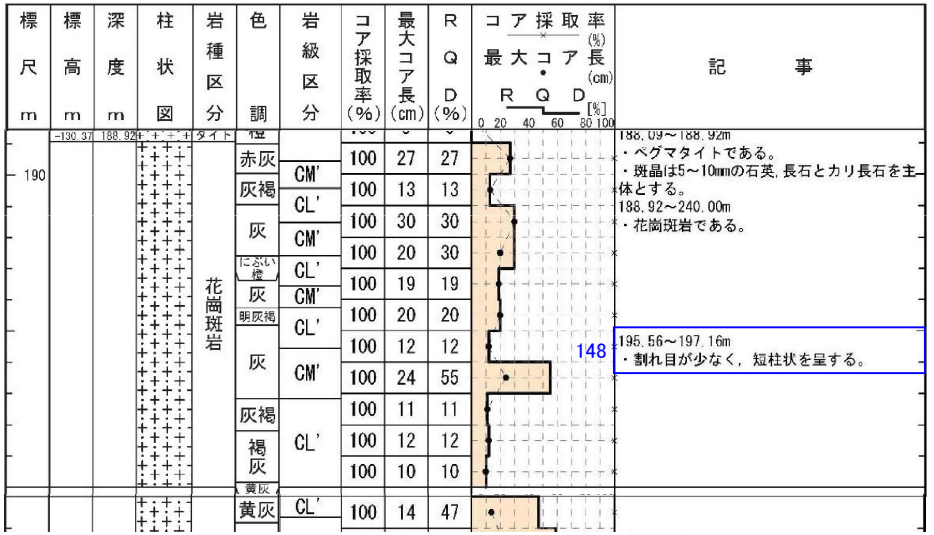
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
143	・境界の傾斜の記載については，補足的なものであるため削除。 ・岩盤状況については，特徴的な区間毎に別途記載することとしているため，境界の岩盤状況については削除。
144	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
145	・細粒物質を伴い軟質化するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
146	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
147	・粘土を挟在するが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



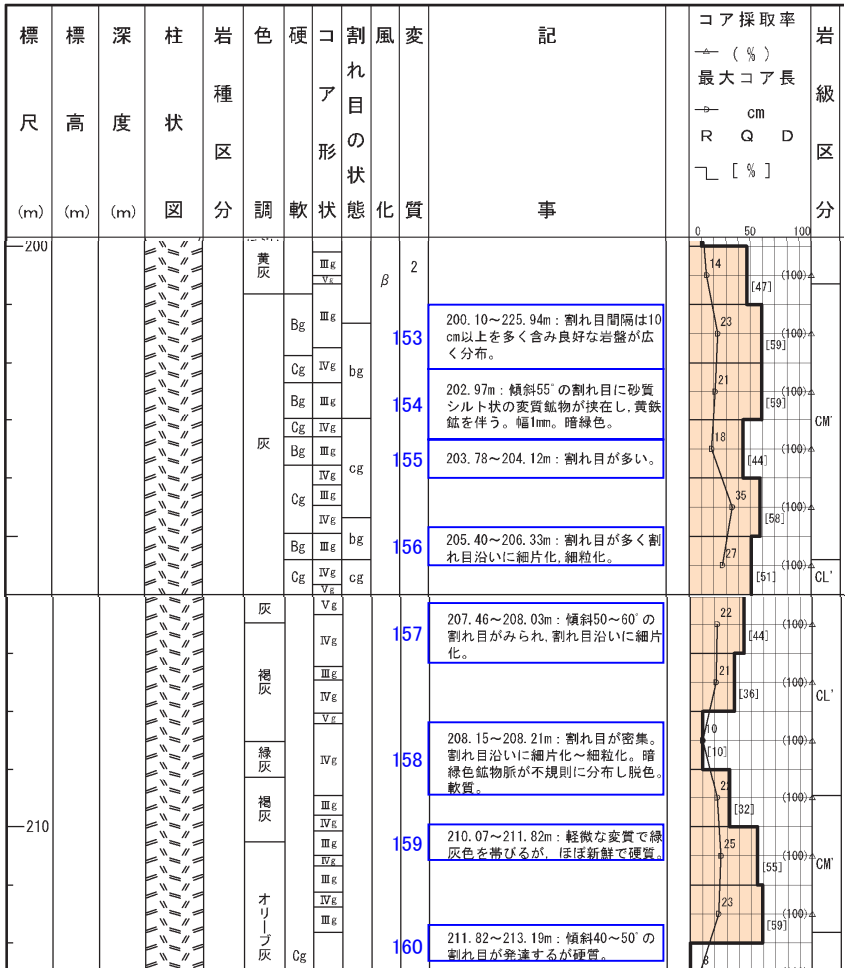
申請書用柱状図



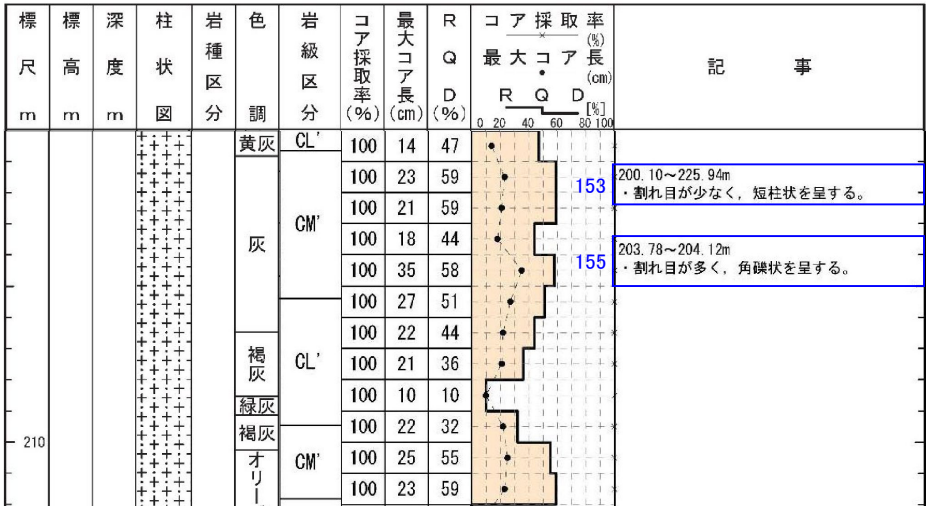
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
149	・粘土を挟在するが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出の記載については，補足的なものであるため削除。
150	・色調については，補足的なものであるため削除。
151	・割れ目沿いに細片化しているが，掘削時の機械割れと判断して削除。
152	・粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



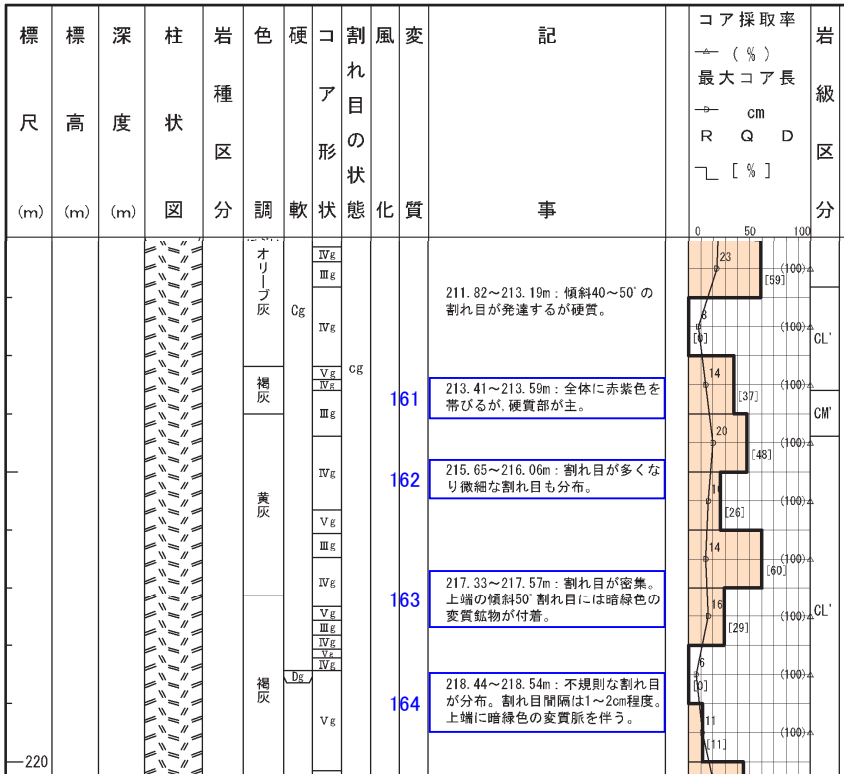
申請書用柱状図



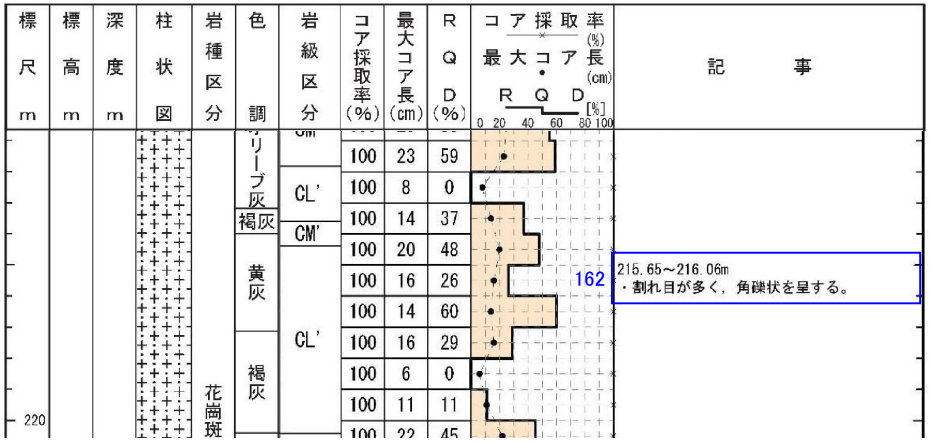
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
153	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
154	・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
155	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
156～160	・比較的硬質な区間であり，一部割れ目沿いに細片化するが，挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



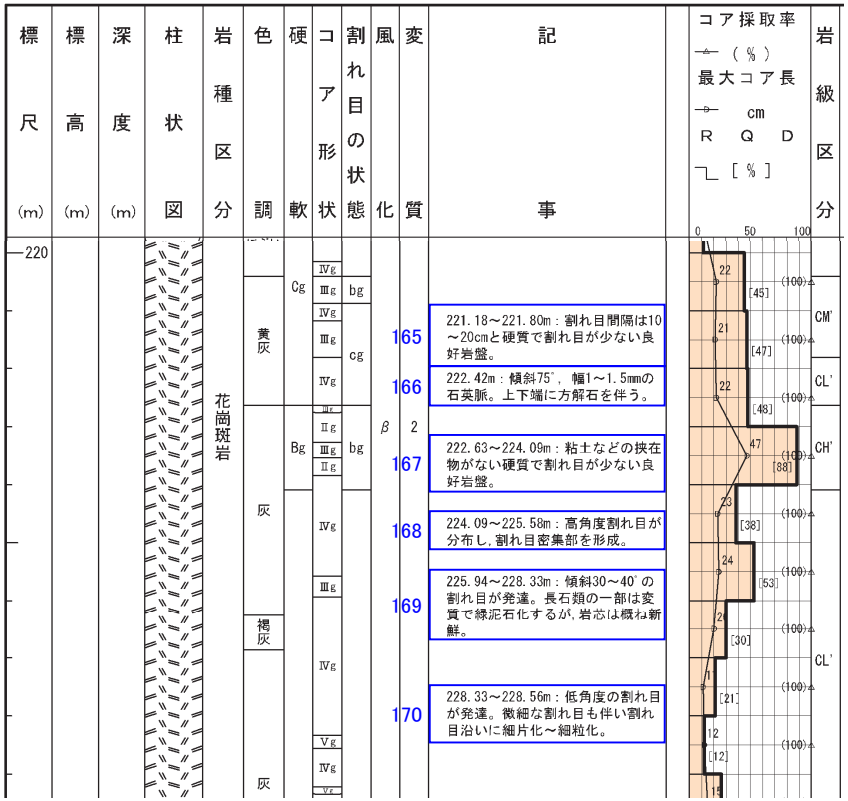
申請書用柱状図



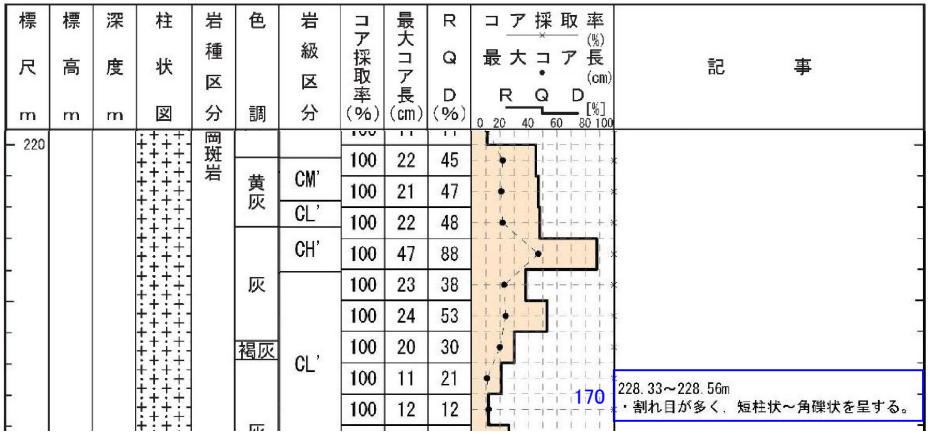
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
161	・比較的硬質な区間であり，一部割れ目沿いに細片化するが，挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
162	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
163，164	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで，変質脈の挟在が見られるが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



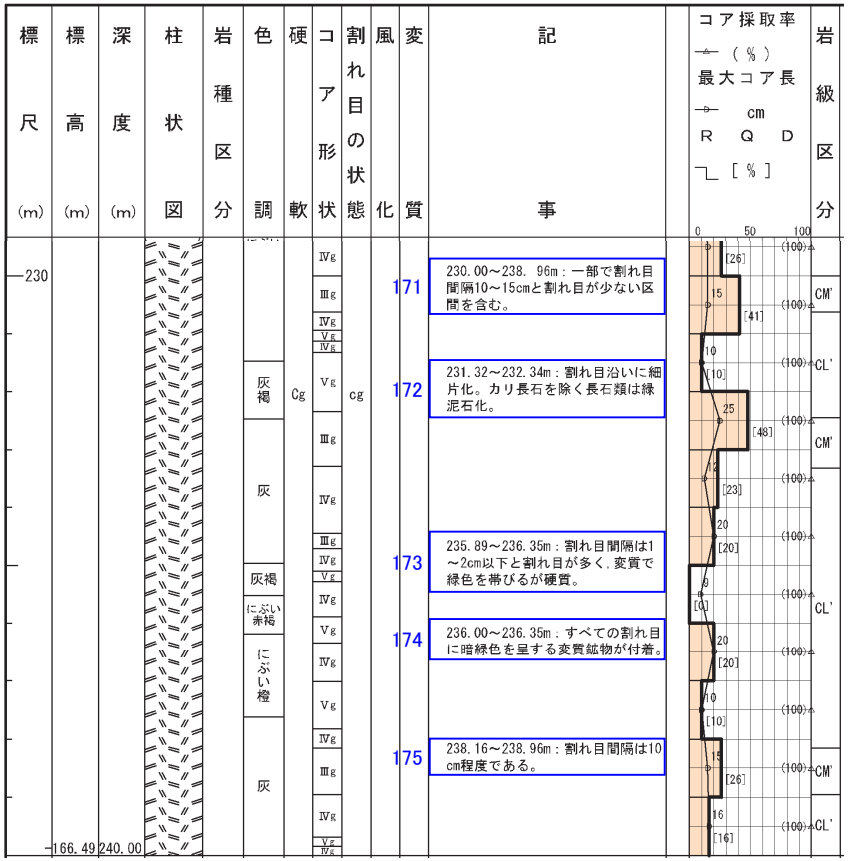
申請書用柱状図



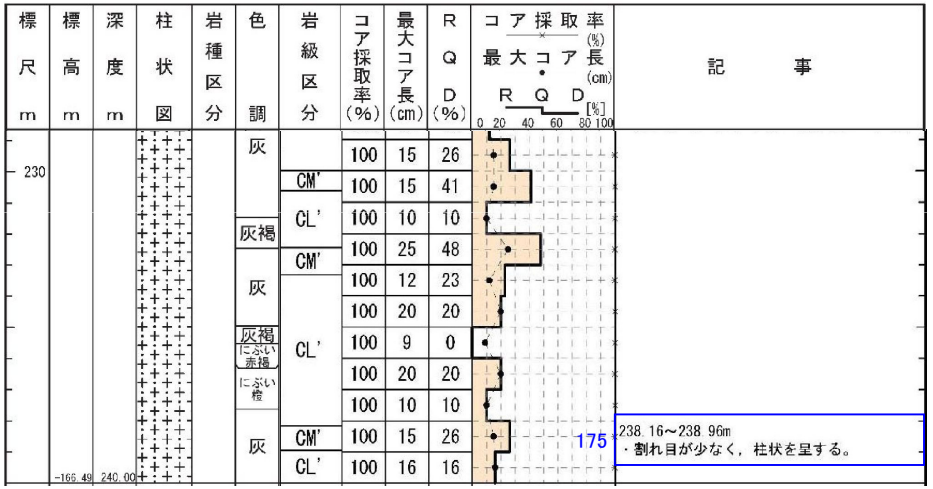
記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
165～169	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで，変質脈の挟在が見られるが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・長石の変質については，補足的なものであるため削除。
170	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき短柱状～角礫状と記載。

H24-B8-22

報告書作成用柱状図
（H26年10月）



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年10月）⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
172	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・長石の緑泥石化については，変質に関する補足的なものであるため削除。
173	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
174	・割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
175	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。

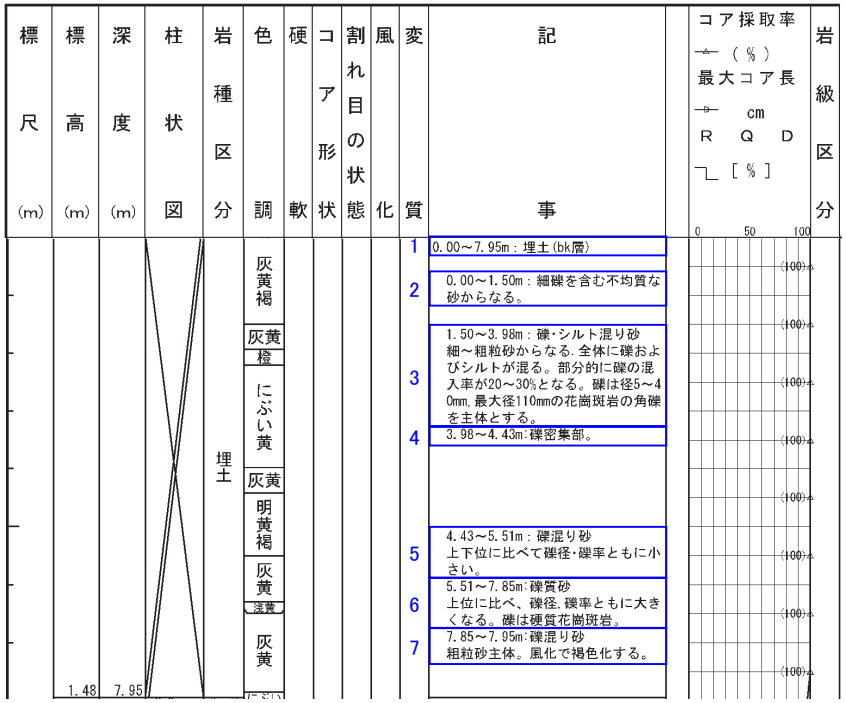
余白

H24-B11-1

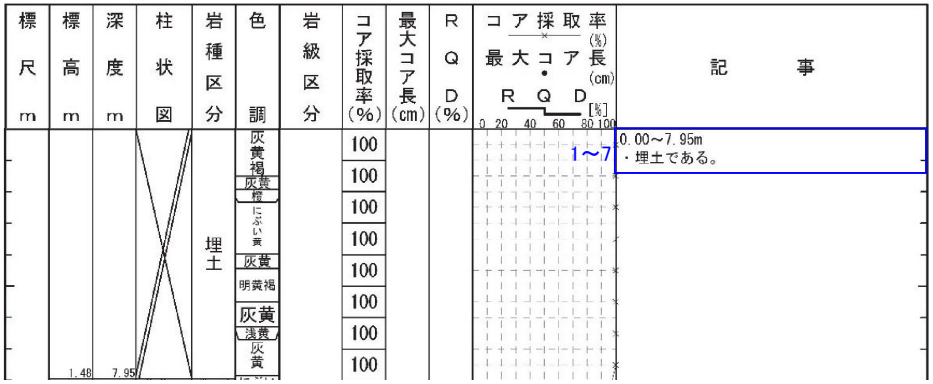
余白

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



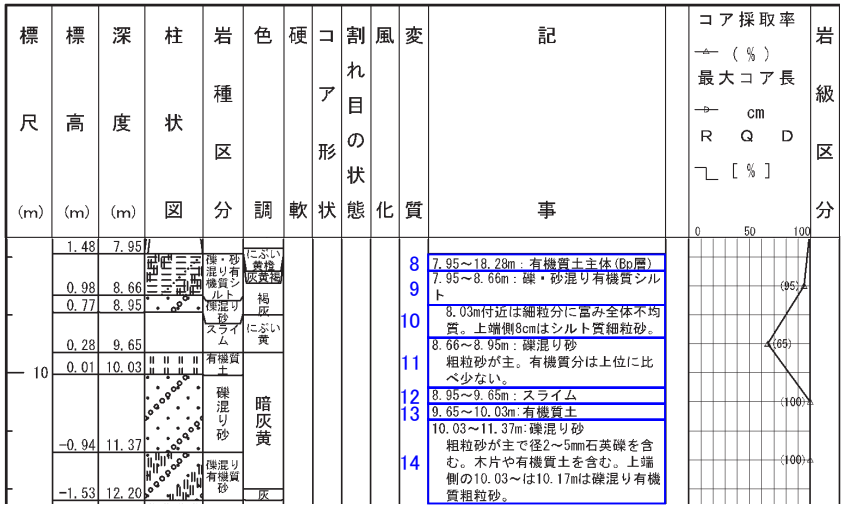
申請書用柱状図



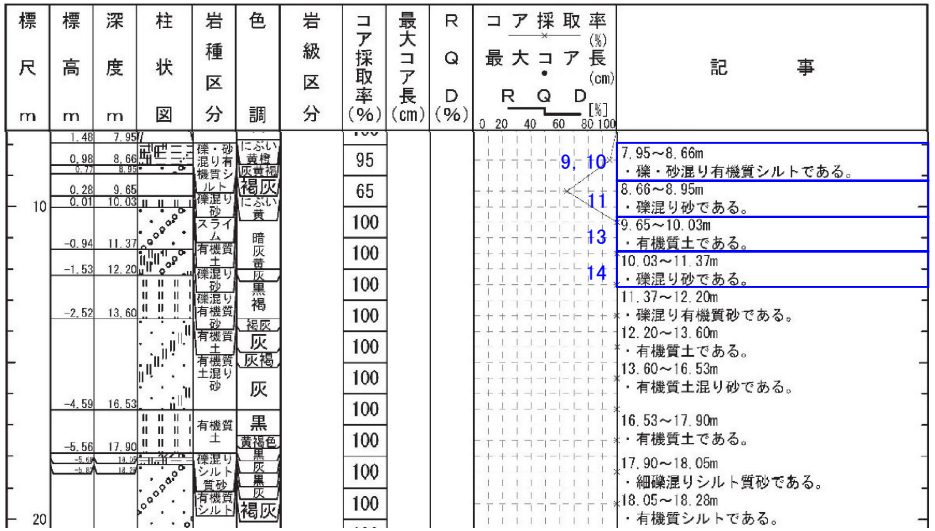
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
1～7	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



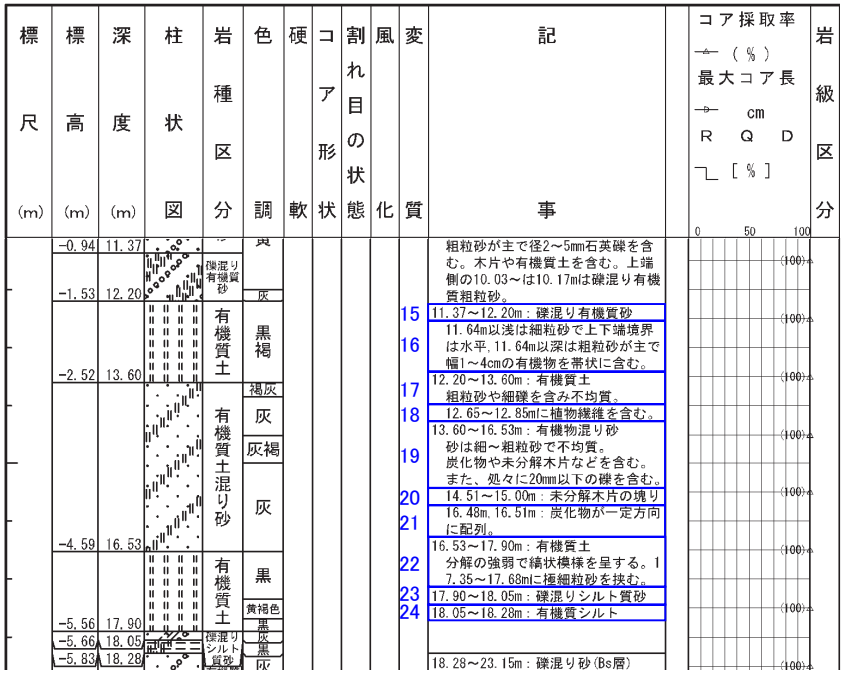
申請書用柱状図



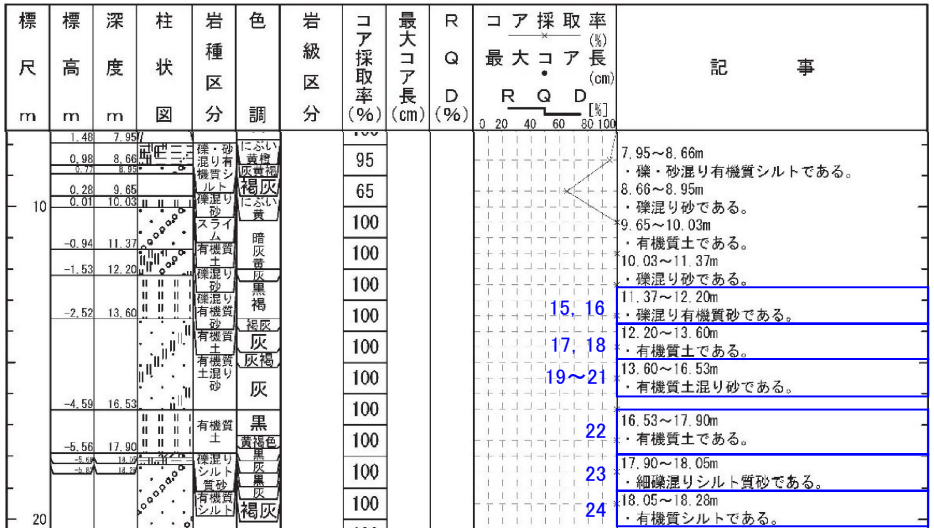
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため，有機質土主体とのまとめ書きについては削除。
9，10	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
11	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
12	・スライム区間については，“岩種区分”欄に記載しているため削除。
13	・変更なし
14	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



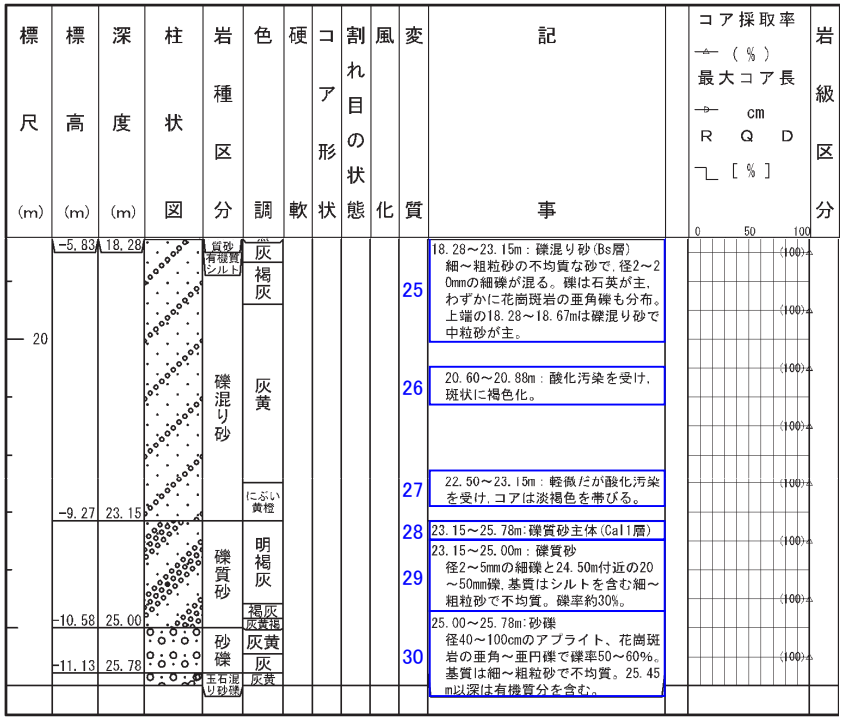
申請書用柱状図



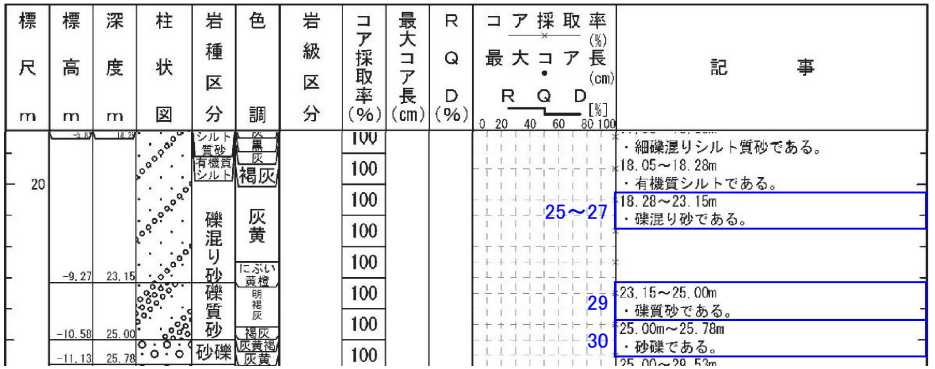
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
15，16	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17，18	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19～21	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・表現の見直し(礫混り→細礫混り)。
24	・変更なし

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



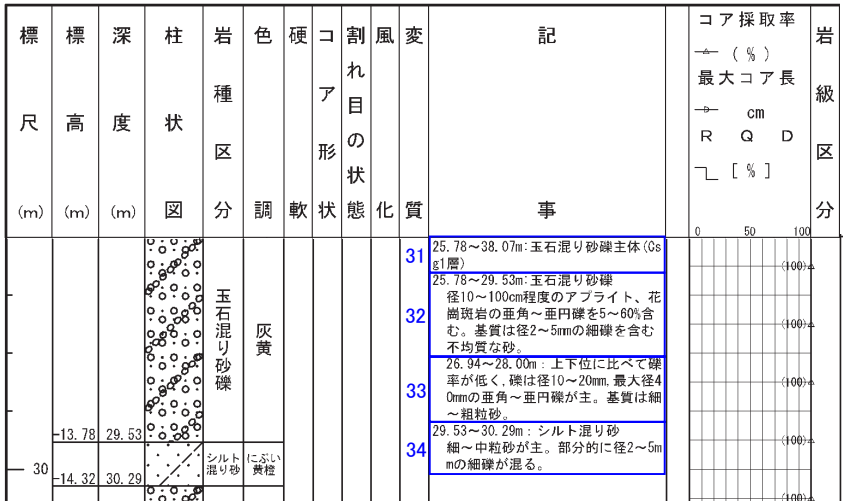
申請書用柱状図



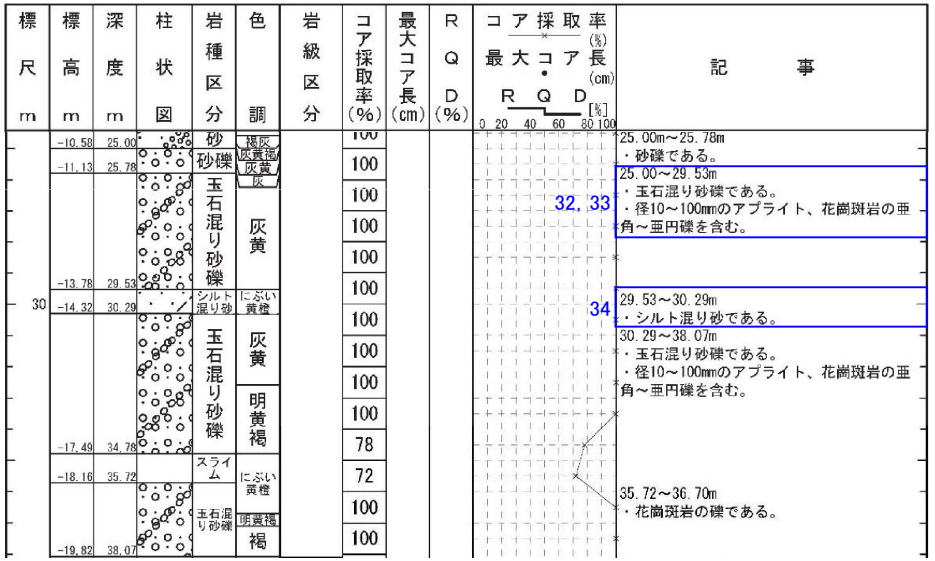
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
25～27	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
29	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
30	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



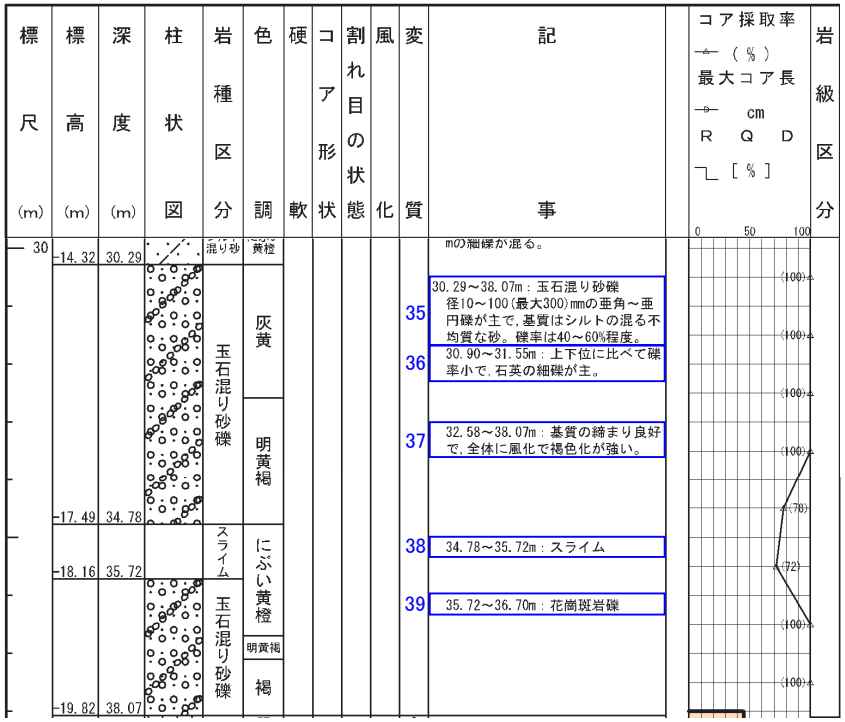
申請書用柱状図



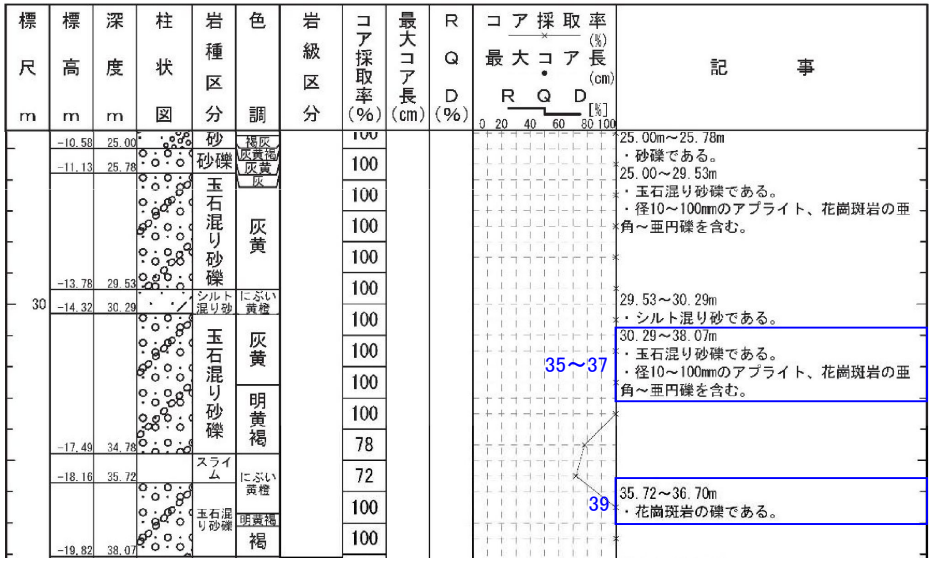
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため，玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32，33	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，礫種，円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m※1 ・径の単位cm→mm※3
34	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



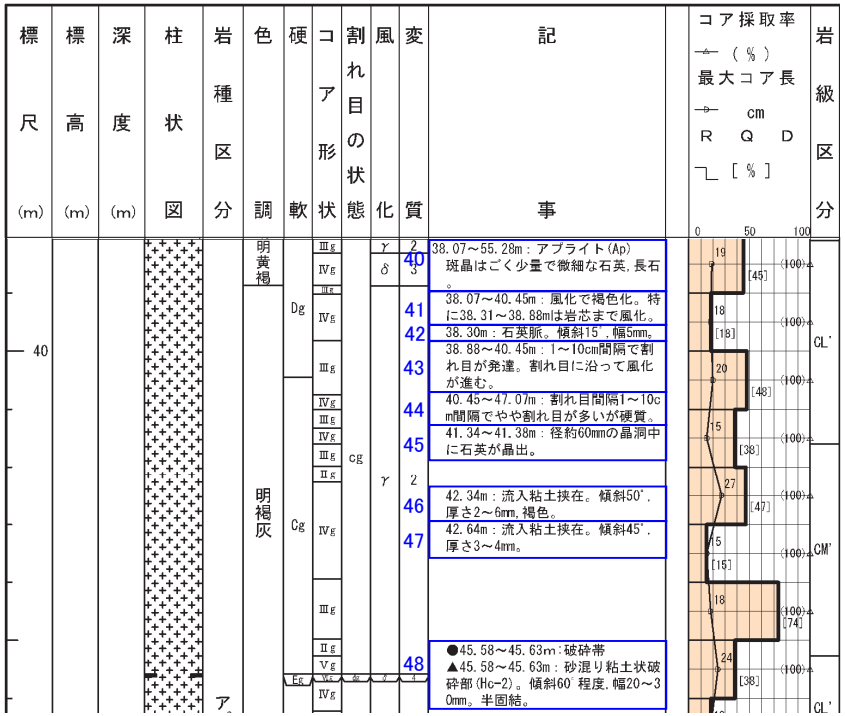
申請書用柱状図



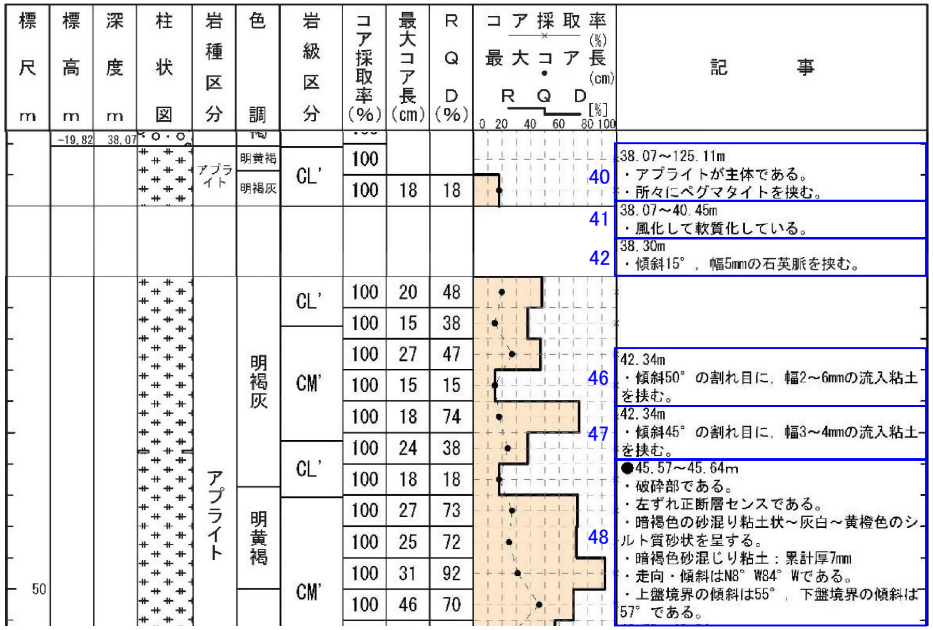
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
35～37	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，礫種，円磨度を記載。
38	・スライム区間については，“岩種区分”欄に記載しているため削除。
39	・変更なし

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



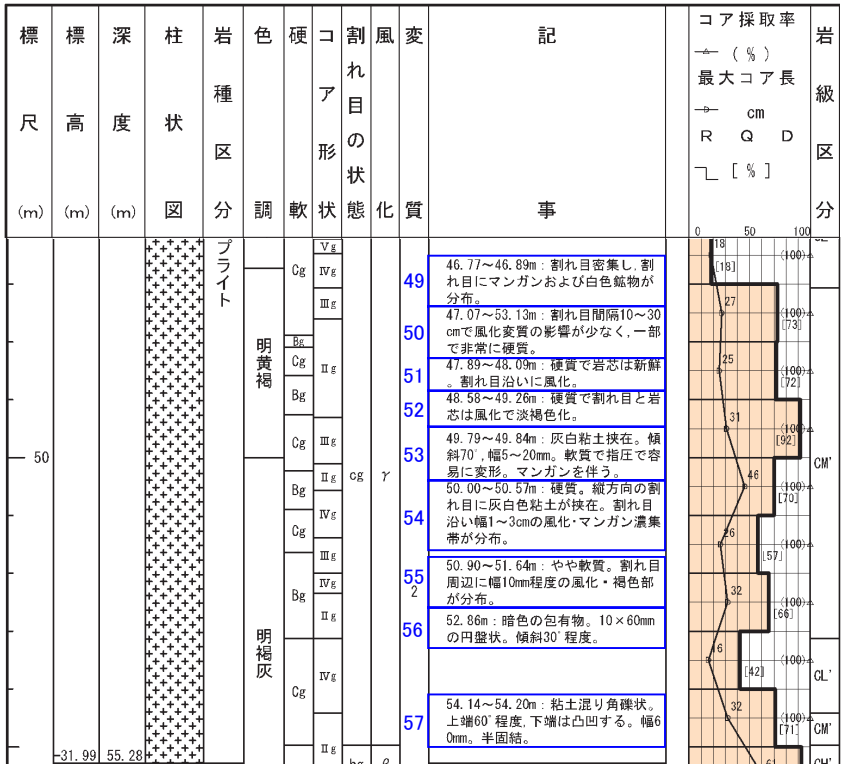
申請書用柱状図



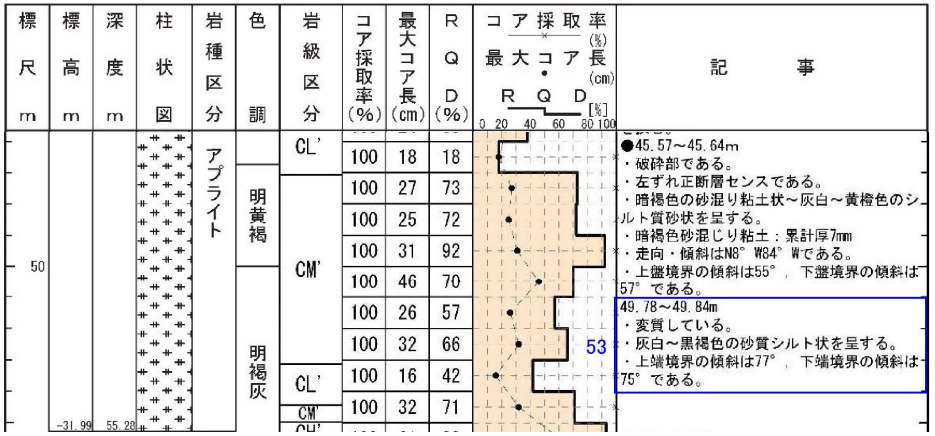
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
40	・一般的な岩相であり，斑晶の種類については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・記事No.58,60,61,63に基づき，ペグマタイトの挟在を追記。
41	・“硬軟”欄に基づき，軟質化していると記載。 ・色調については補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については，岩級区分で示しているため，岩芯まで風化との記載は削除。
42	・変更なし
43	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
44	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
45	・割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
46	・変更なし
47	・深度42.64m→42.34m※2
48	・色調，粒度，粘土の累計幅，境界の傾斜について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・深度45.58～45.63m→45.57～45.64m※2 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



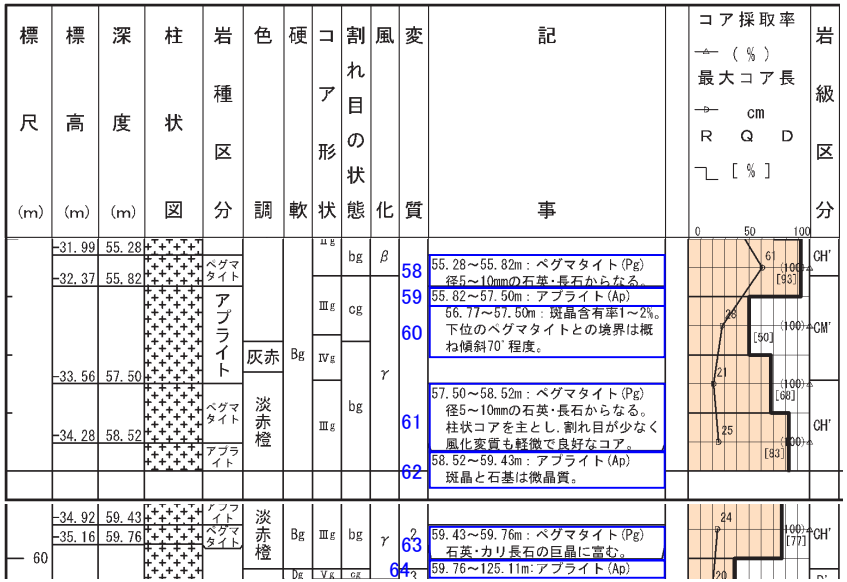
申請書用柱状図



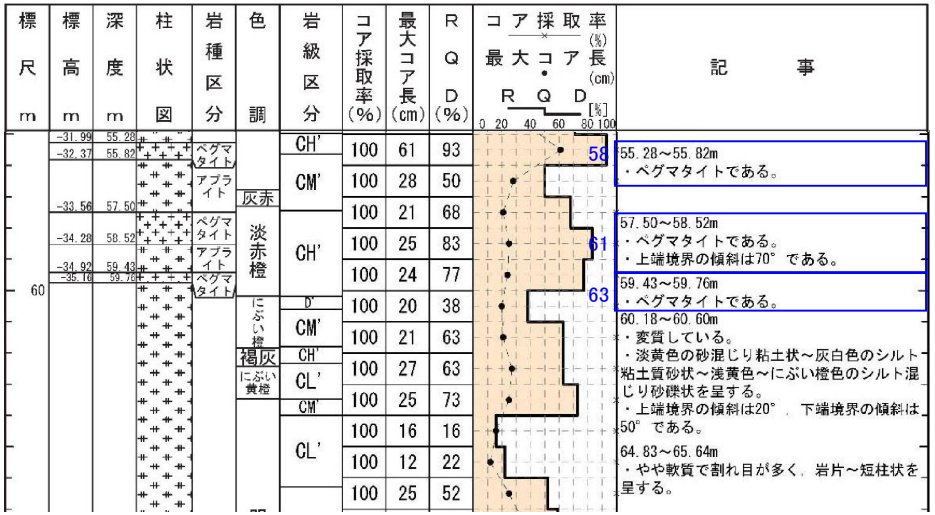
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
49	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガン，鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
50	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
51	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため削除。
52	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
53	・深度，変質，粒度，境界の傾斜については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。
54	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・粘土を挟在するが，直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いの風化，変色については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため削除。
56	・包有物については，補足的なものであるため削除。
57	・粘土混じり角礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



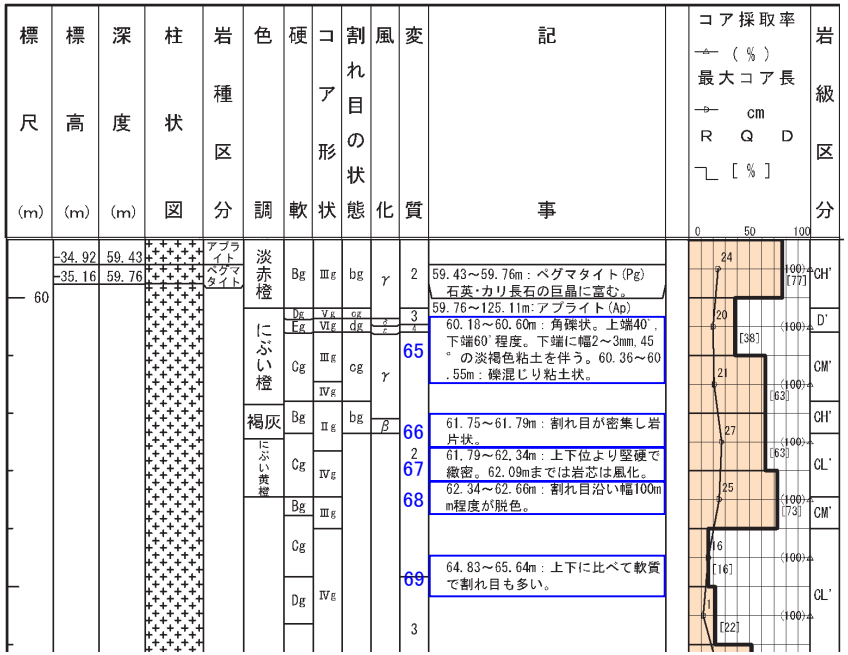
申請書用柱状図



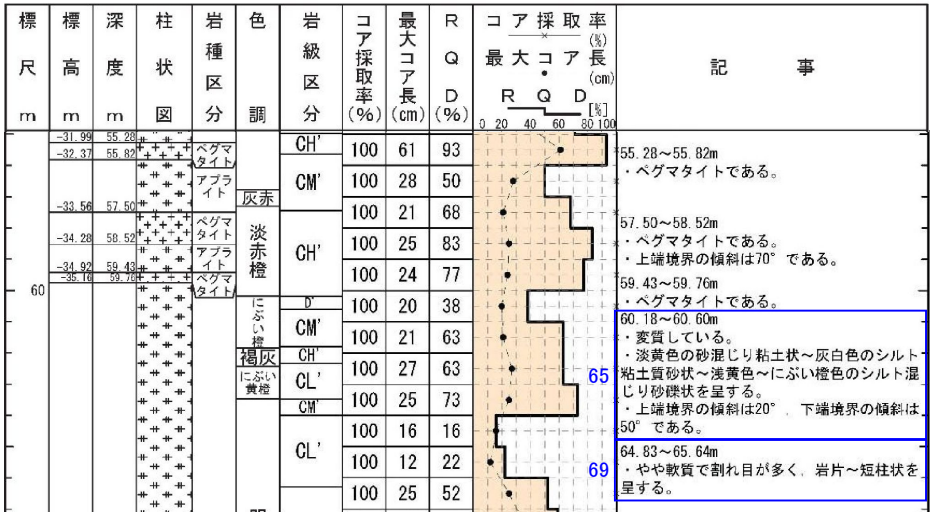
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58	・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており，斑晶の種類，粒径については削除。
59，60	・上位のペグマタイトを挟在物として記事No.40と統合しているため削除。
61	・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており，斑晶の種類，粒径については削除。 ・記事No.60に基づき境界傾斜を記載。
62	・ペグマタイトを挟在物としてNo.40と統合しているため削除。
63	・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており，斑晶の種類，粒径については削除。
64	・ペグマタイトを挟在物としてNo.40と統合しているため削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



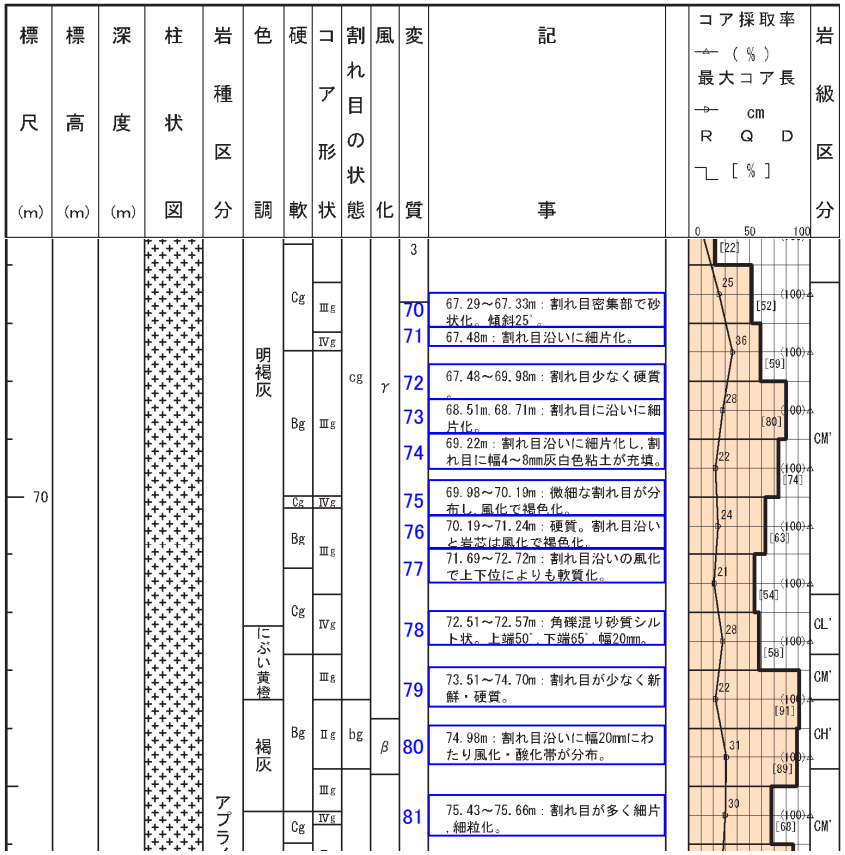
申請書用柱状図



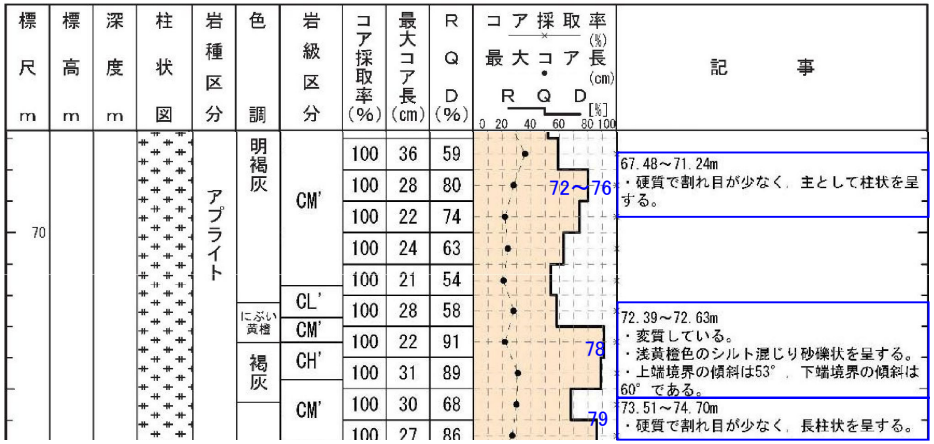
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
65	・“変質”欄に基づき，変質していると記載。 ・色調，粒度については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。 ・上端境界の傾斜40°→20° ※1 ・下端境界の傾斜45°→50° ※2
66	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
67	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
68	・割れ目沿いの脱色については，補足的なものであるため削除。
69	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と追記。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



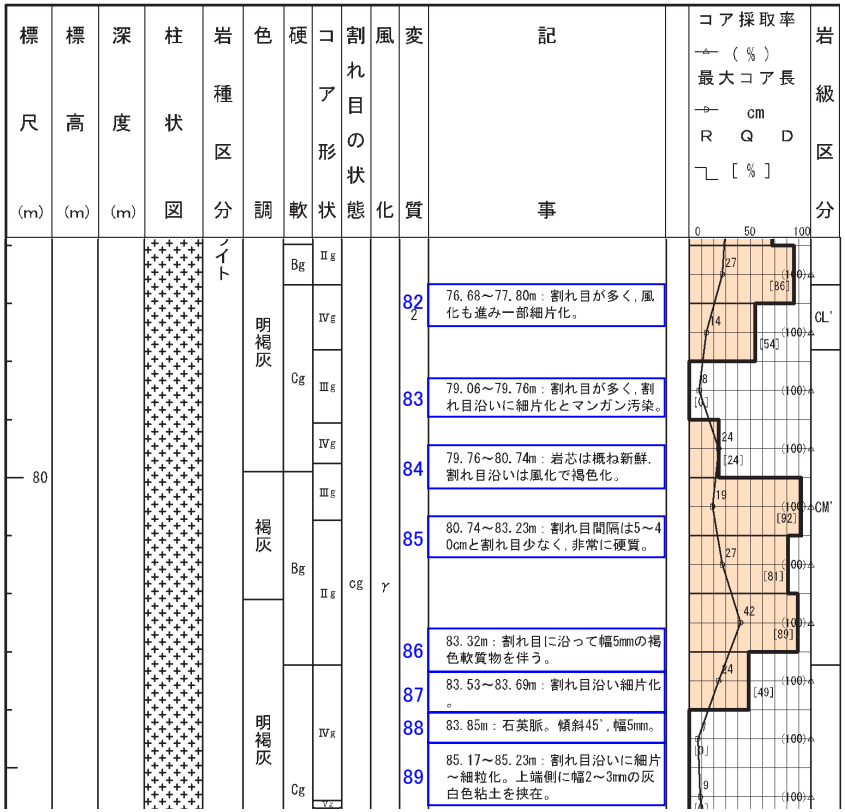
申請書用柱状図



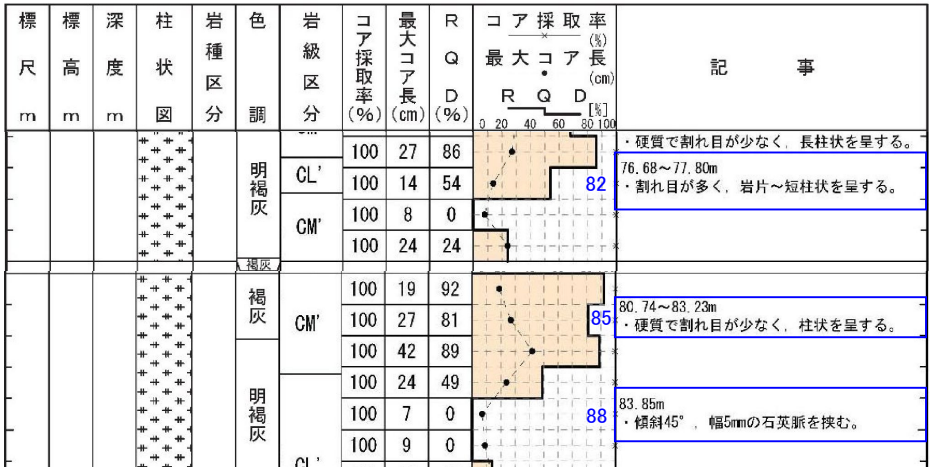
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
70	・割れ目が発達し砂状化するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。
71	・割れ目沿いで細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
72～76	・“硬軟”欄に基づき硬質と記載。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため削除。
77	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため削除。
78	・変質，色調，粒度，境界の傾斜については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。 ・深度72.51～72.57m→72.39～72.63m※1, ※4
79	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
80	・割れ目沿いの風化，酸化については，補足的なものであるため削除。
81	・割れ目沿いで細粒，細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



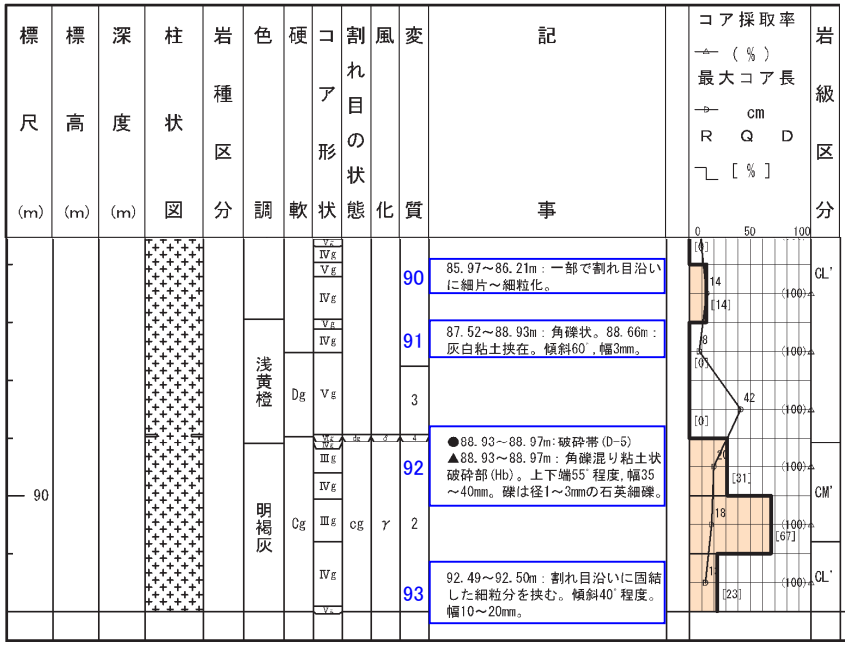
申請書用柱状図



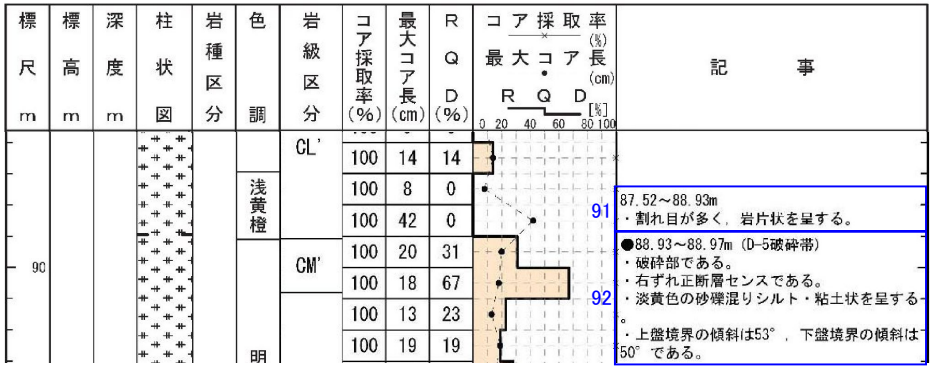
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
82	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
83	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
84	・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
85	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
86	・割れ目沿いに軟質物を伴うが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
87	・割れ目沿いで細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
88	・変更なし
89	・割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが，粘土は直線性や連続性に乏しいことから削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



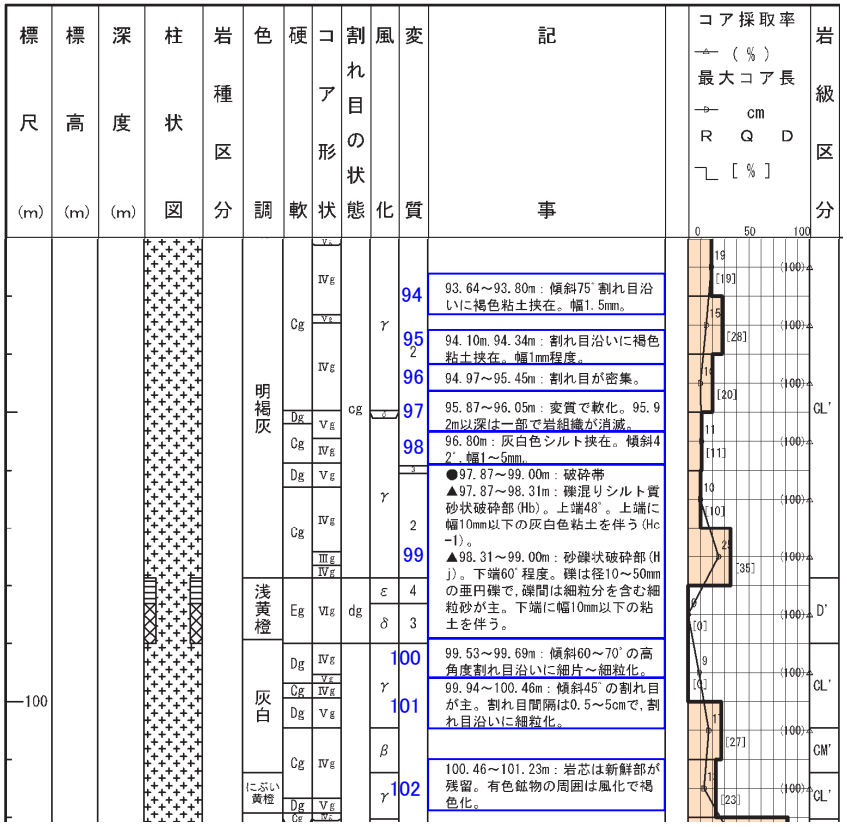
申請書用柱状図



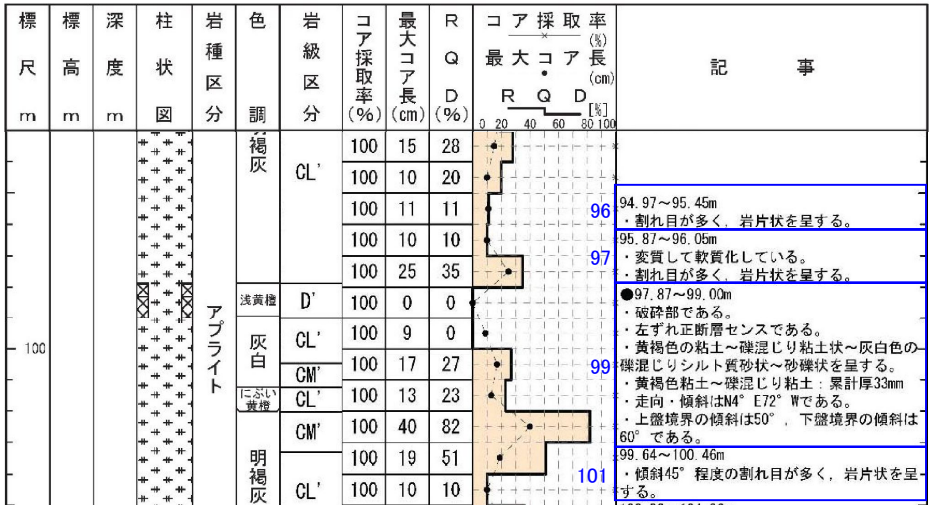
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
90	・割れ目沿いで細片～細粒化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
91	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調，粒度，境界の傾斜については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。
93	・割れ目沿いで細粒分を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



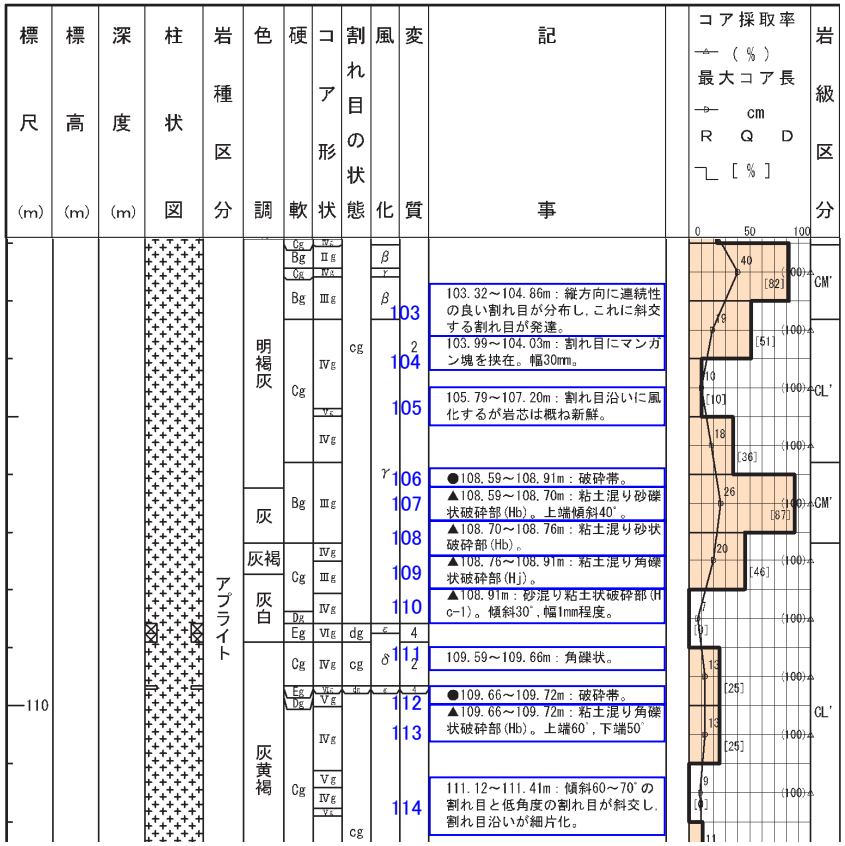
申請書用柱状図



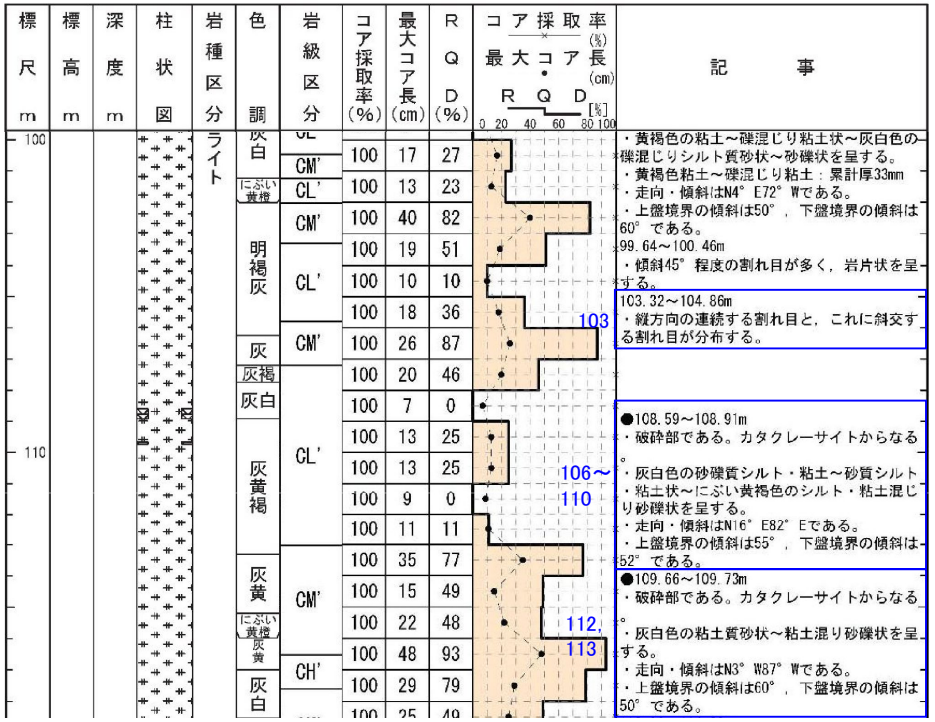
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
94	・一部に粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
95	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
96	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。
97	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・原岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
98	・シルトを挟在するが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
99	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調，粒度，粘土の累計幅，境界の傾斜については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
100	・割れ目沿いで細粒～細片化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
101	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・割れ目沿いの細粒化の記載については，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・上端深度99.94m→99.64m※2
102	・風化については，岩級区分に含めて表示しているため削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



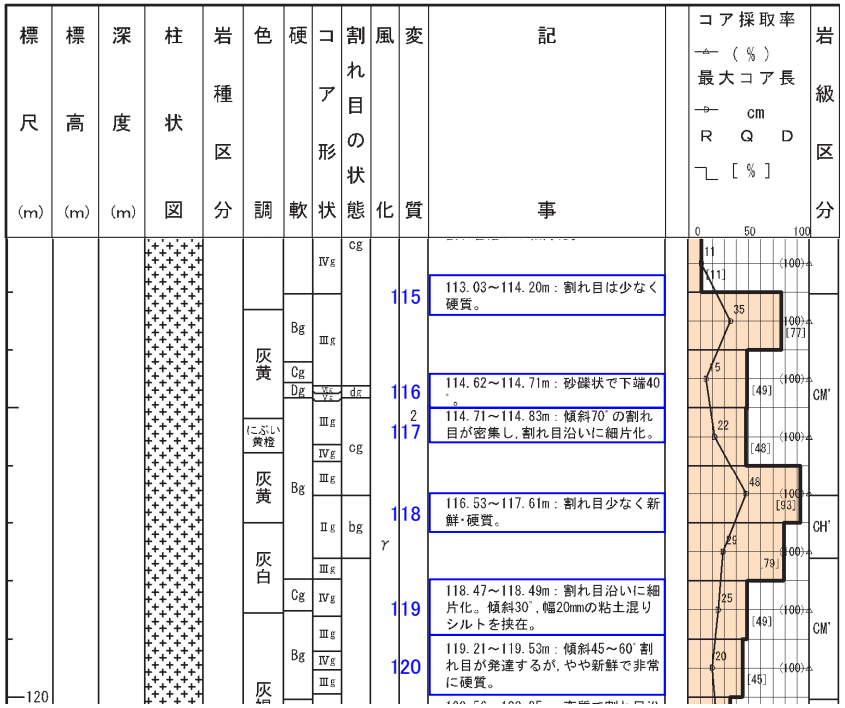
申請書用柱状図



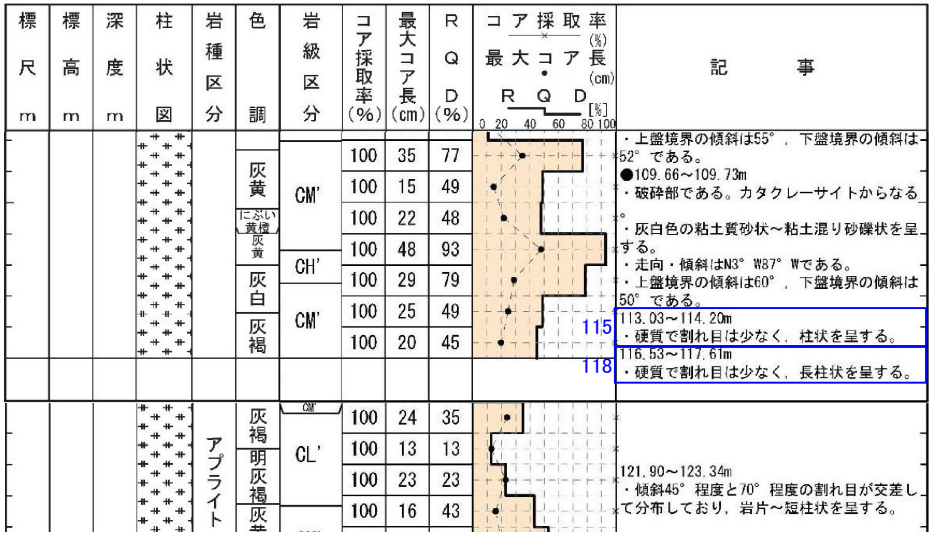
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
103	・変更なし
104	・割れ目沿いのマンガン塊の挟在については，補足的なものであるため削除。
105	・風化については，岩級区分に含めて表示しているため削除。
106～110	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・色調，粒度，境界の傾斜については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
111	・角礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
112，113	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・色調，粒度，境界の傾斜，深度については，申請書前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
114	・割れ目沿いで細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



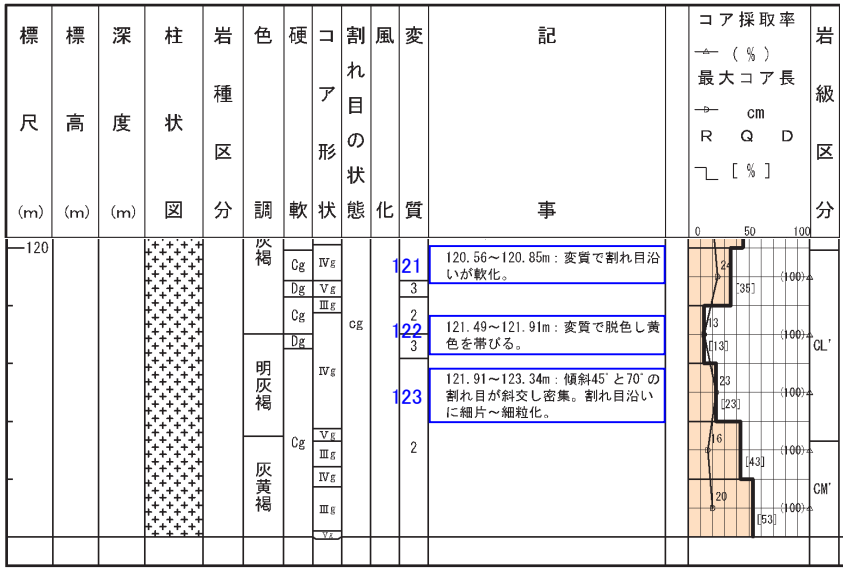
申請書用柱状図



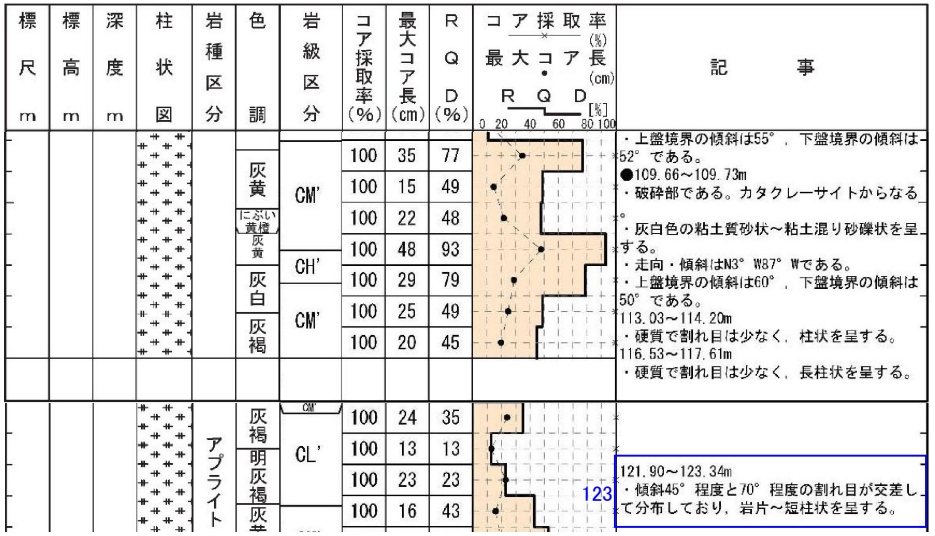
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
115	・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
116，117	・割れ目が密集し，一部で砂礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められず，砂礫状部の礫に定向配列も認められないことから削除。
118	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
119	・割れ目沿いで細片化し粘土混りシルトを挟在するが，開口部にスライムが充てんしたものと判断し削除。
120	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



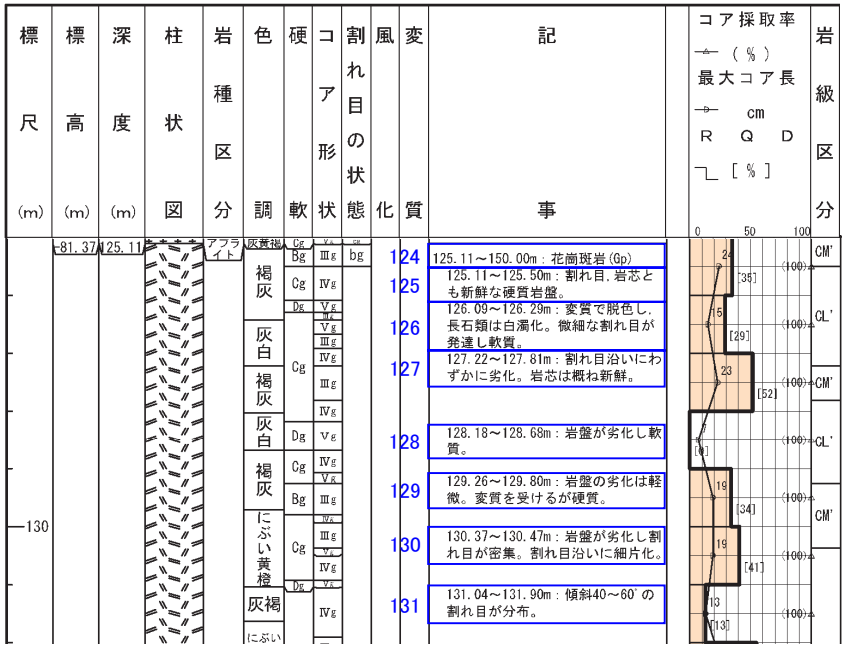
申請書用柱状図



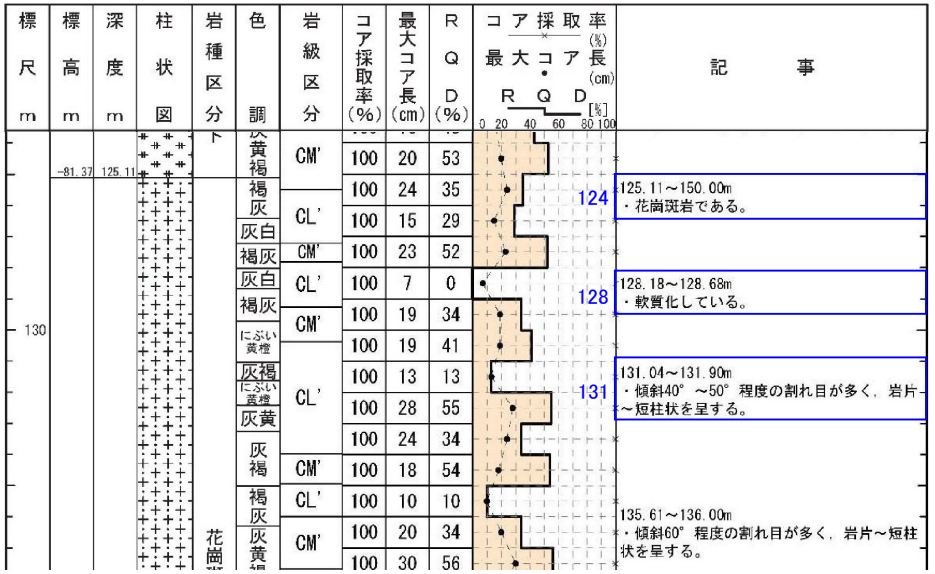
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
121	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
122	・色調については，補足的なものであるため削除。
123	・割れ目沿いに細片～細粒化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・上端深度121.91m→121.90m※1

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



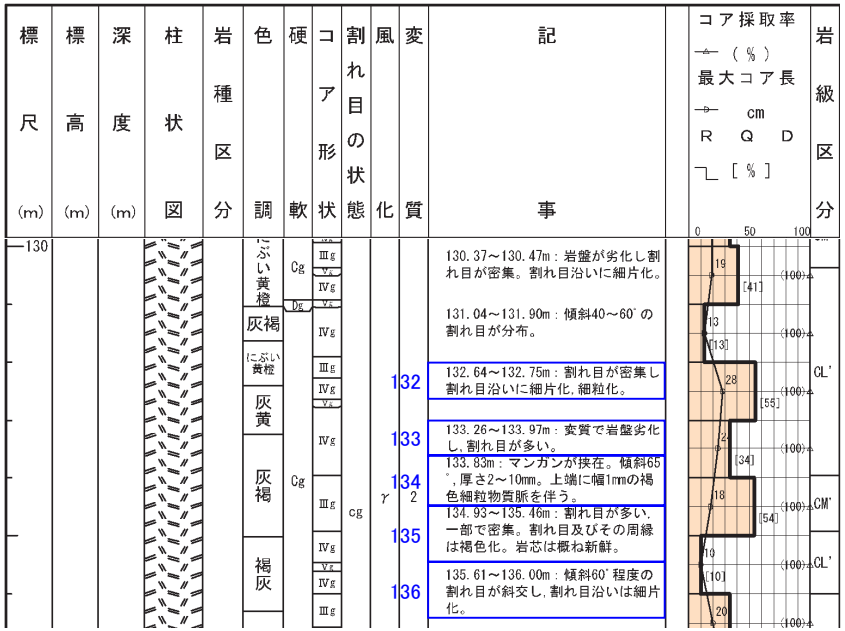
申請書用柱状図



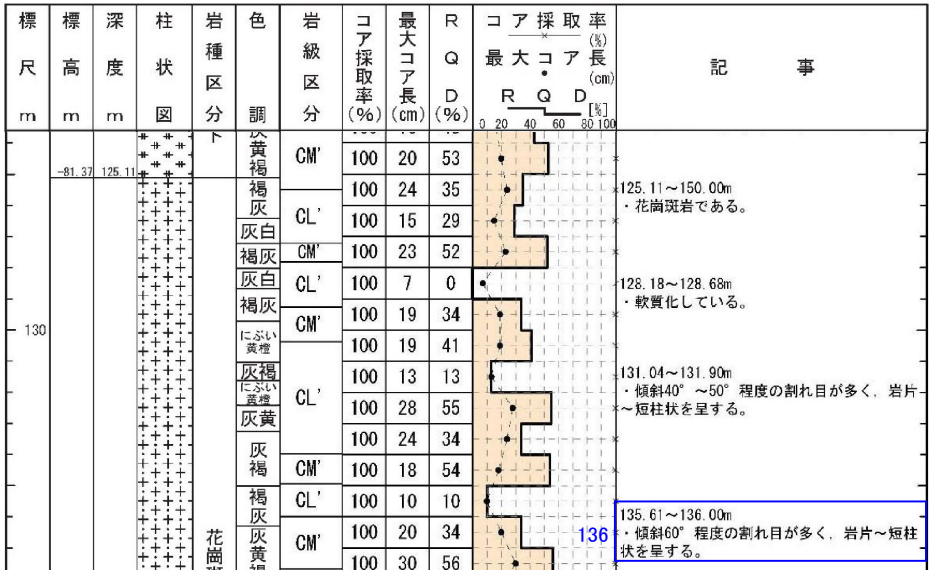
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
124	・変更なし
125	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
126	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・脱色，長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的な特徴の記載であるため削除。
127	・割れ目沿いに劣化するが，当該区間の周囲と明確な差異がないことから削除。
128	・軟質化を伴う岩盤の劣化については，岩級区分で示しているため削除。
129	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
130	・割れ目沿いで細片化するが掘削時の機械割れと判断し削除。
131	・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・傾斜60°→50° ※2

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



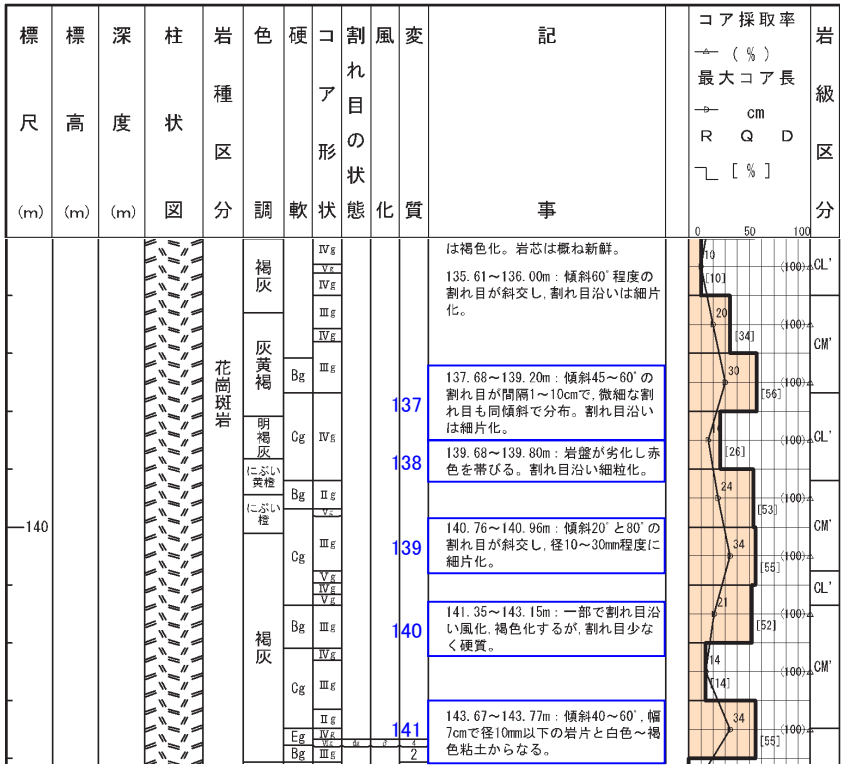
申請書用柱状図



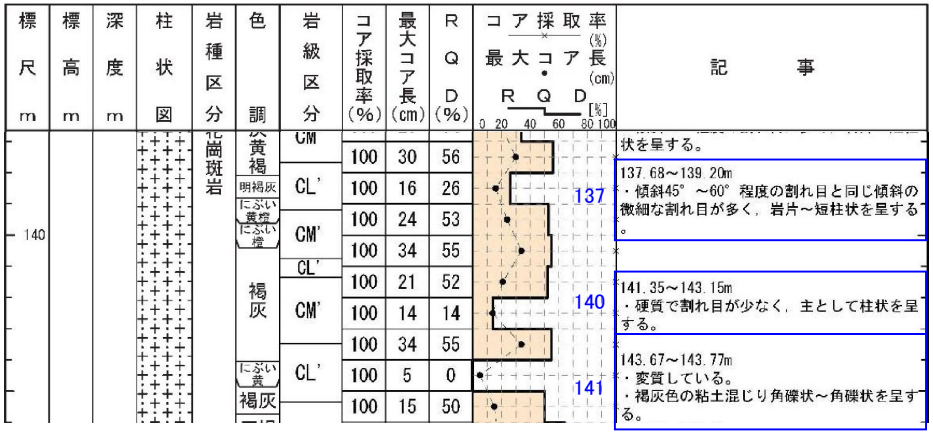
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
132	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細粒～細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
133	・割れ目の発達を伴う岩盤の劣化については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
134	・マンガンの挟在については，補足的なものであるため削除。 ・一部に細粒物質脈が挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
135	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
136	・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・割れ目沿いの細片化の記載については，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



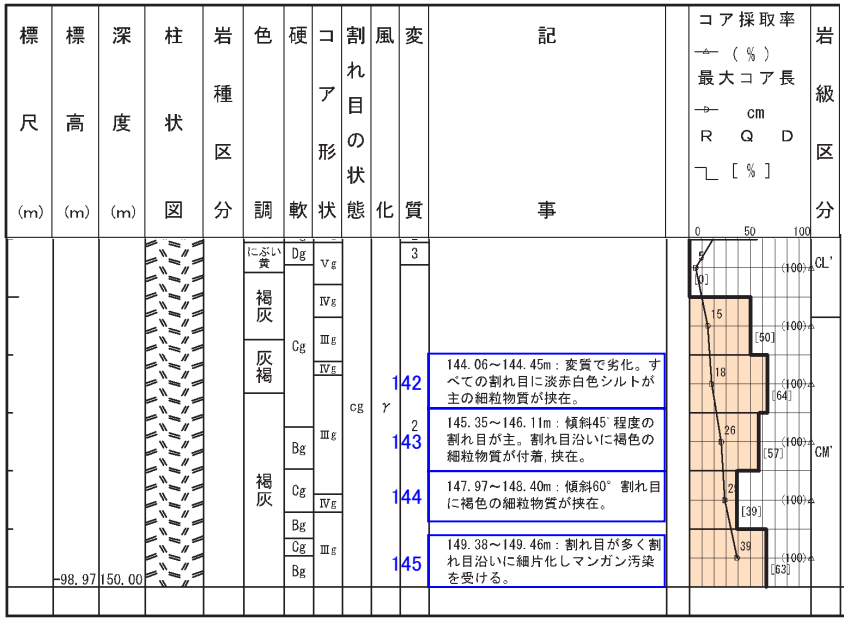
申請書用柱状図



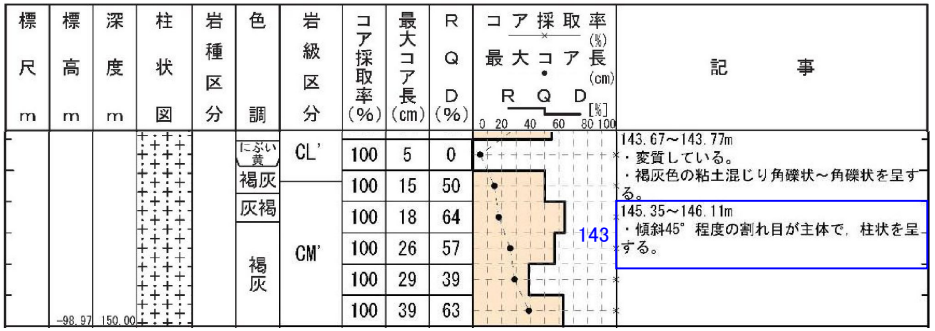
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
137	・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・割れ目沿いの細片化の記載については，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
138	・割れ目沿いで細粒化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
139	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
140	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・割れ目沿いの風化，変色については，補足的なものであるため削除。
141	・“変質”欄に基づき，変質していると記載。 ・“色調”欄に基づき，褐灰色と記載。 ・表現の見直し（径10mm以下の岩片と白色～褐色粘土からなる→粘土混じり角礫状～角礫状）。 ・見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・礫状を呈する区間の幅を記載しないこととしているため，幅7cmとの記載については削除。 ・粘土を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから，粘土混じり角礫状に含めて示すこととして削除。

H24-B11-1

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
142	・劣化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部に細粒物質を挟在するが，系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
143	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・細粒物質を挟在するが，幅狭く，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
144	・割れ目沿いに褐色の細粒物質を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
145	・割れ目の発達の程度は，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については，補足的なものであるため削除。

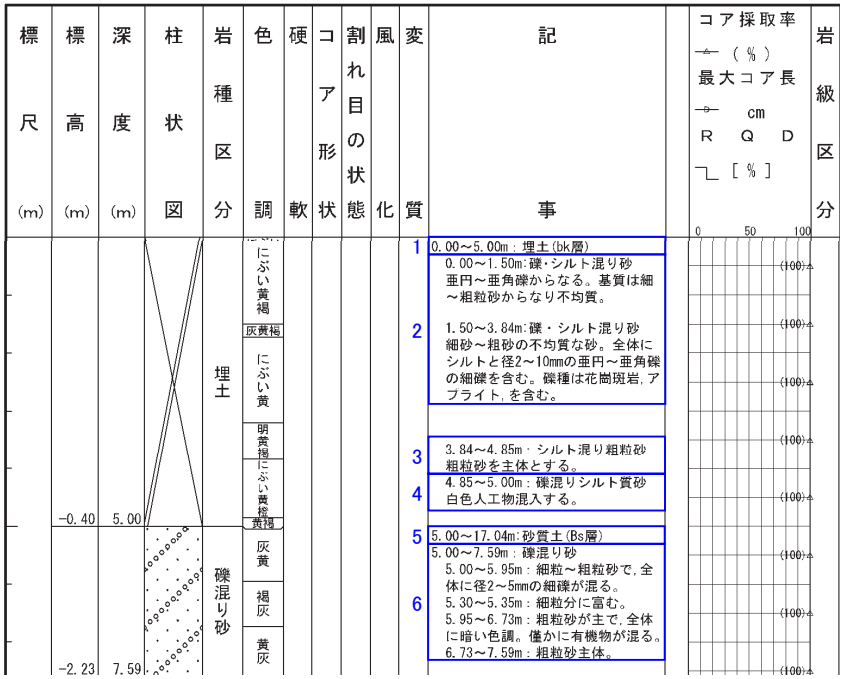
余白

H24-B11-2

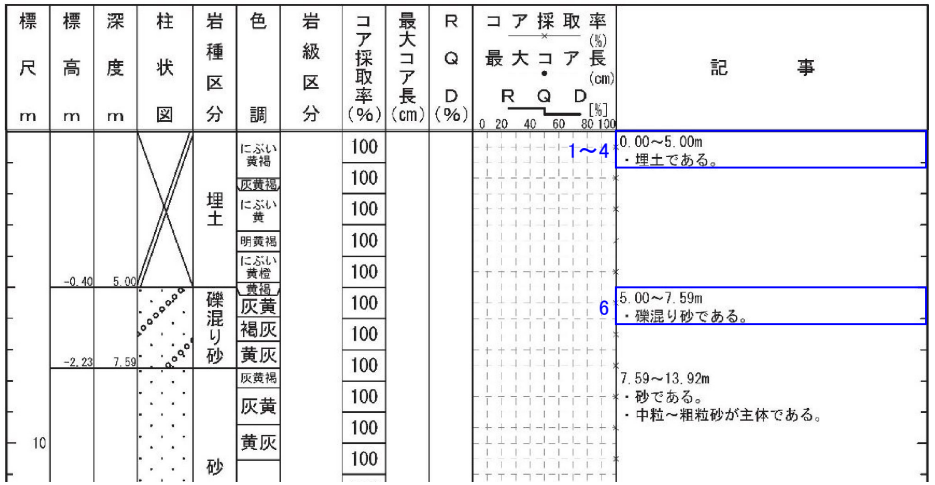
余白

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



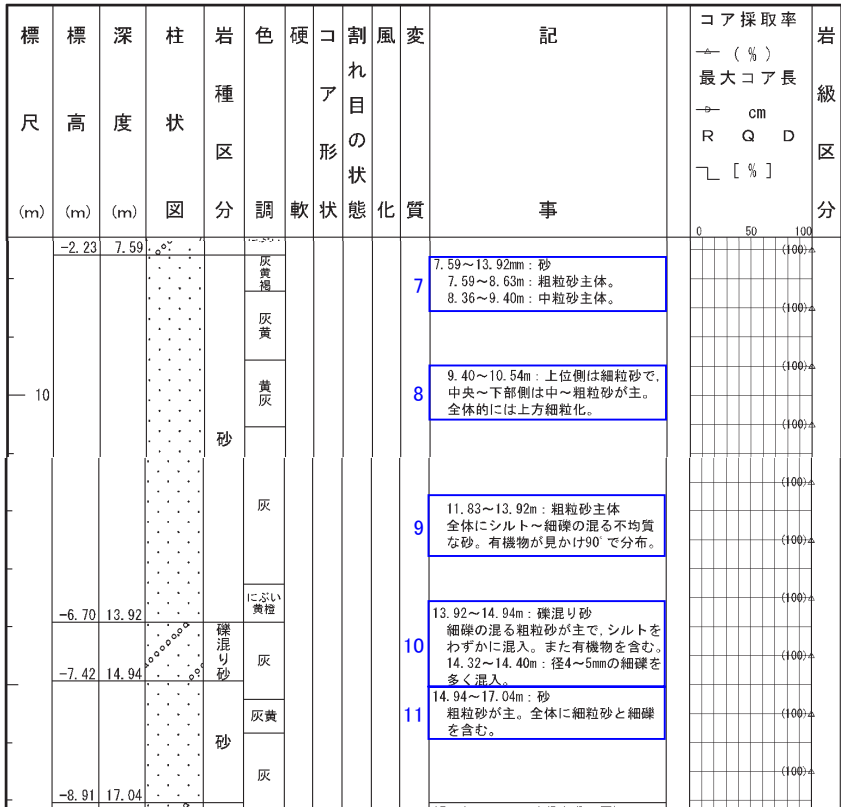
申請書用柱状図



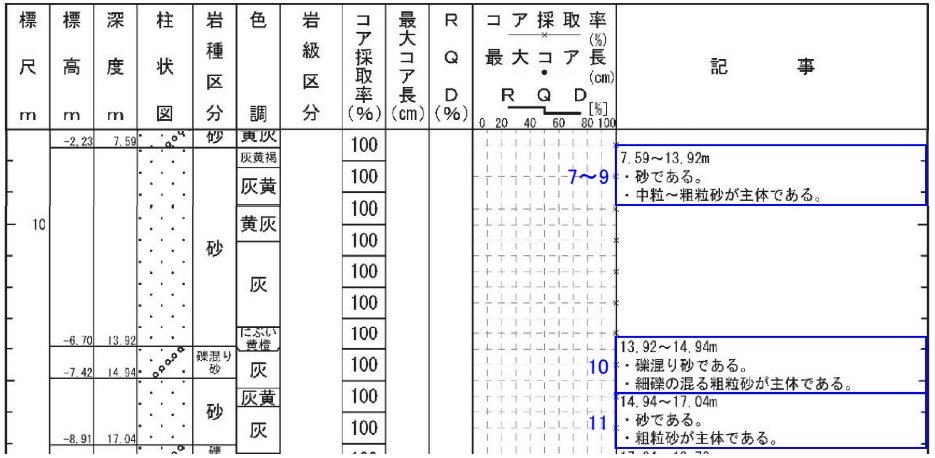
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
1～4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
5	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂質土とのまとめ書きについては削除。
6	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



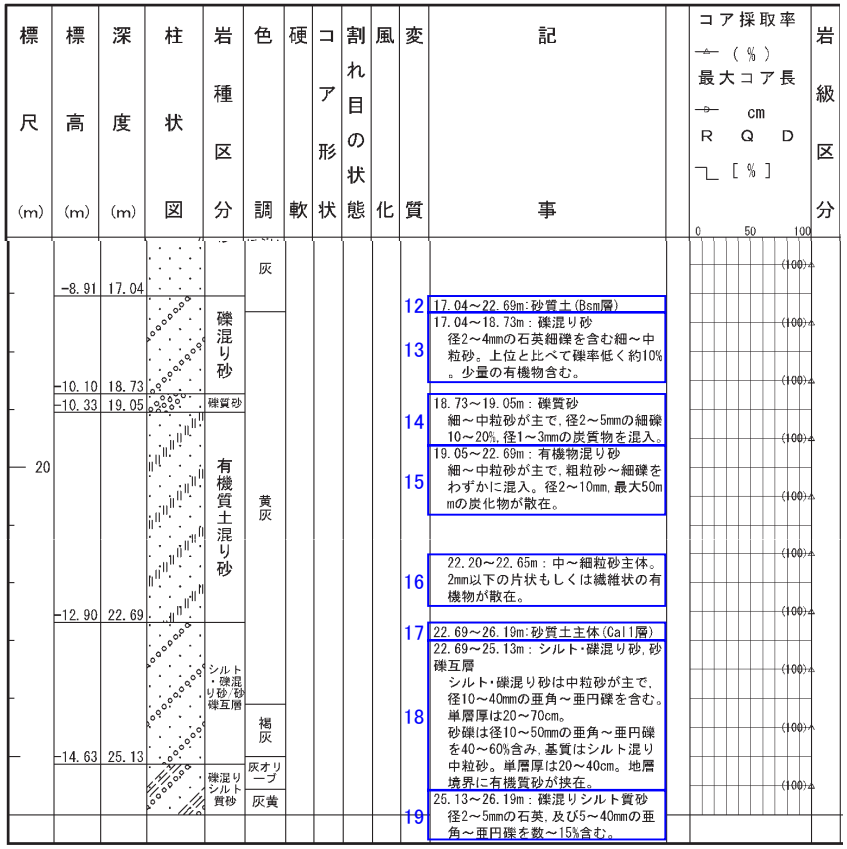
申請書用柱状図



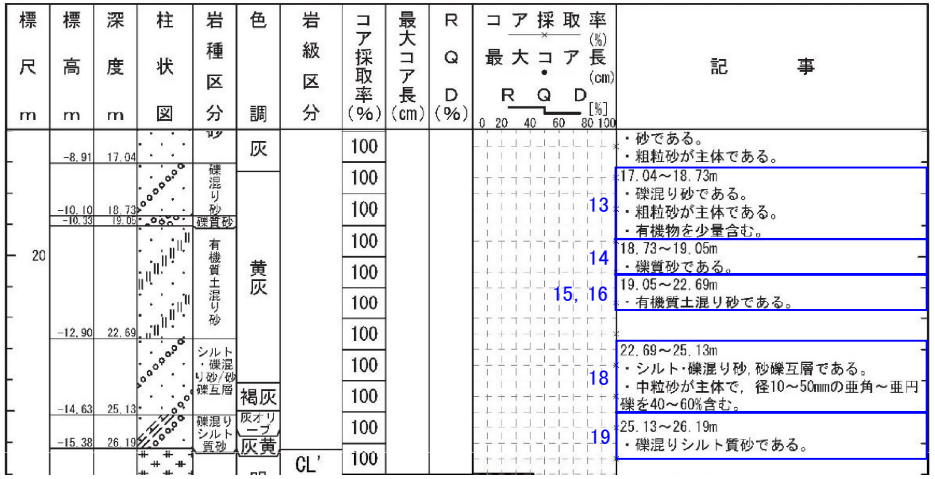
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
7～9	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，中粒～粗粒砂主体であることを記載。
10	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，細礫の混る粗粒砂が主体であることを記載。
11	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，粗粒砂が主体であることを記載。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



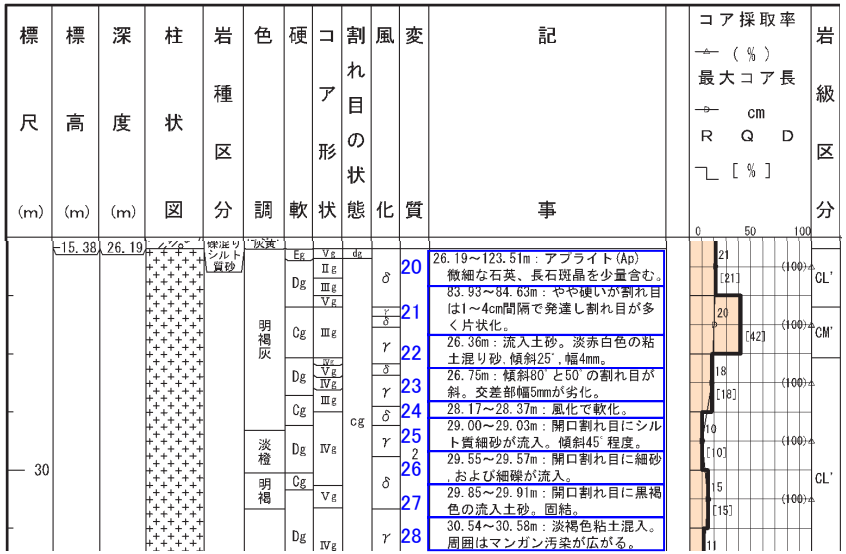
申請書用柱状図



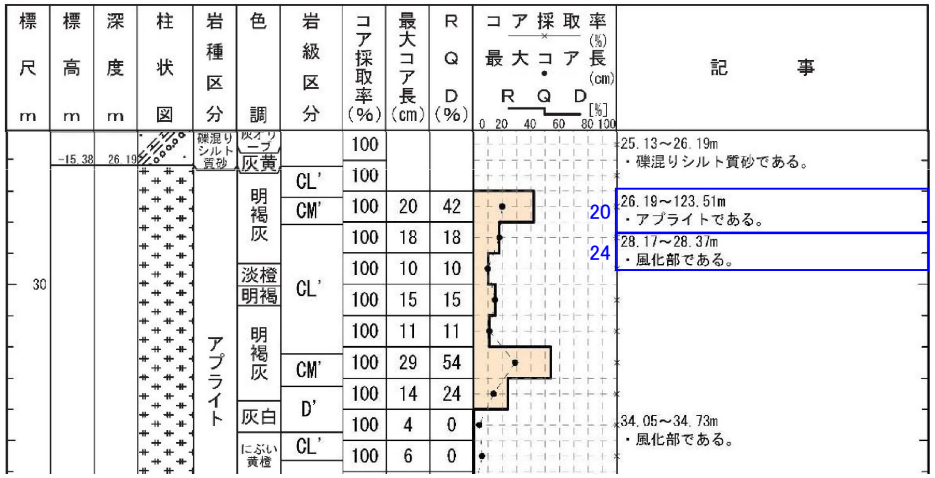
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
12	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂質土とのまとめ書きについては削除。
13	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，下位層と区別できる特徴として，粗粒砂主体であること及び，有機物を少量含むことを記載。 ・粒度については，粗粒砂が主体であると見直し。
14	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
15，16	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・区間毎の性状を個別に記載しているため，砂質土主体とのまとめ書きについては削除。
18	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，中粒砂が主体であることを記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，円磨度，礫率を記載。
19	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



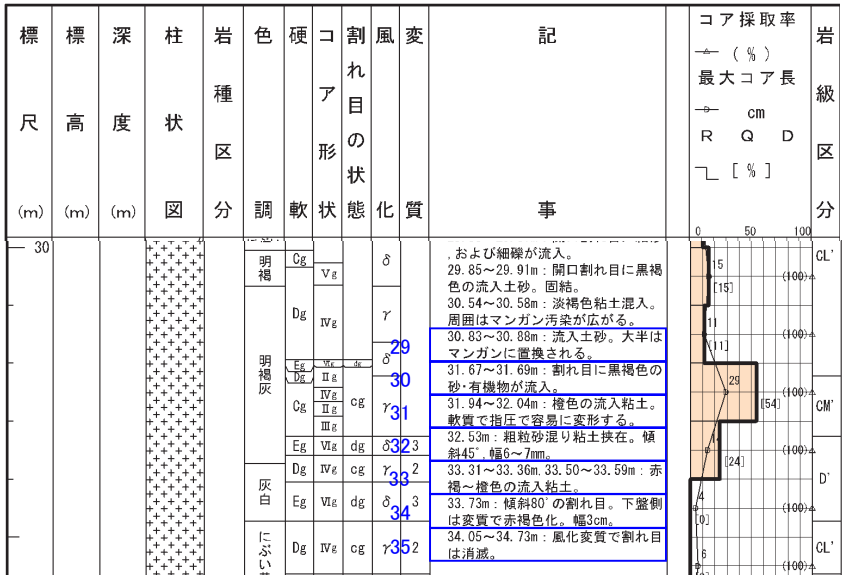
申請書用柱状図



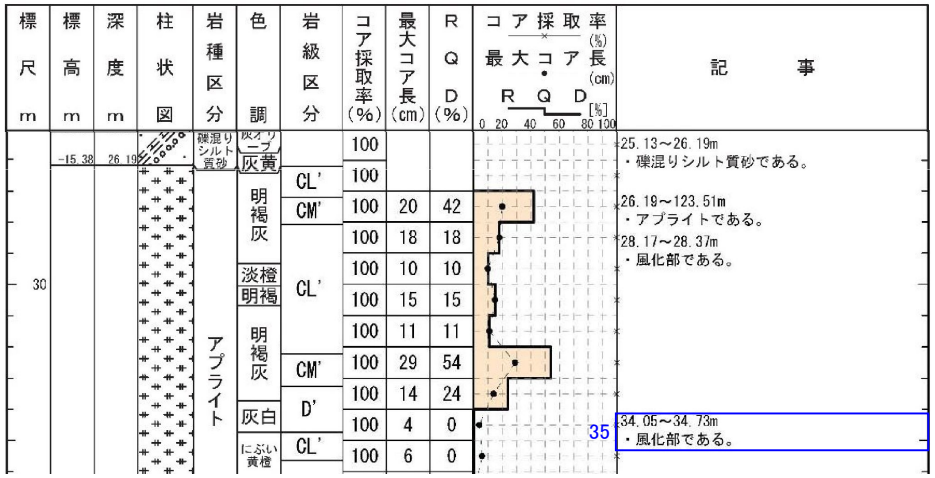
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
20	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
21	・報告書作成用柱状図において83.93-84.63mの記事を誤って20m区間に記載したもの。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
22	・流入土砂については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
23	・劣化の程度については，岩級区分に含めて示しているため削除。
24	・軟化の程度については，岩級区分に含めて示しているため削除。
25	・シルト質細砂の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
26	・細砂及び細礫の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	・土砂の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
28	・粘土の混入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



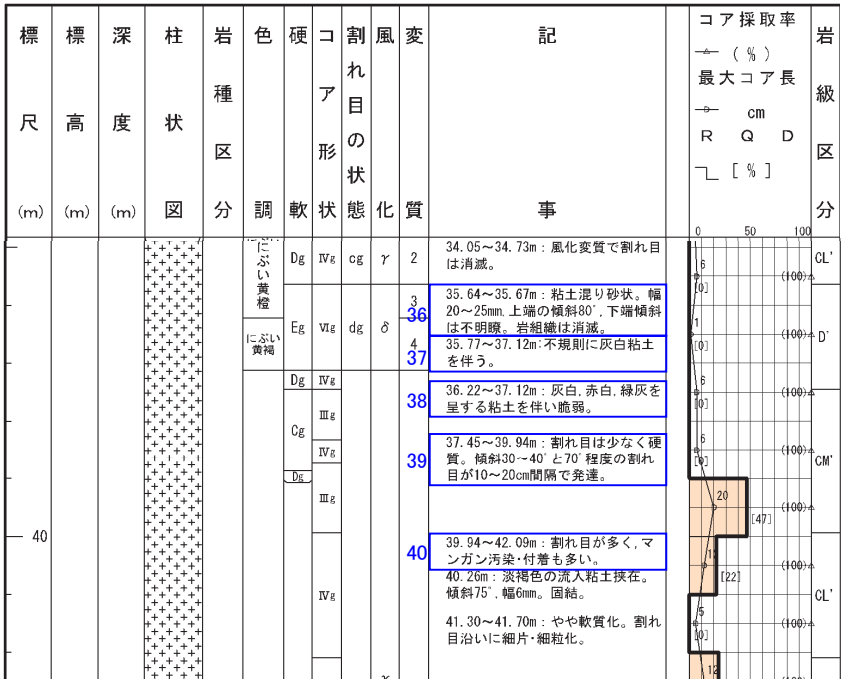
申請書用柱状図



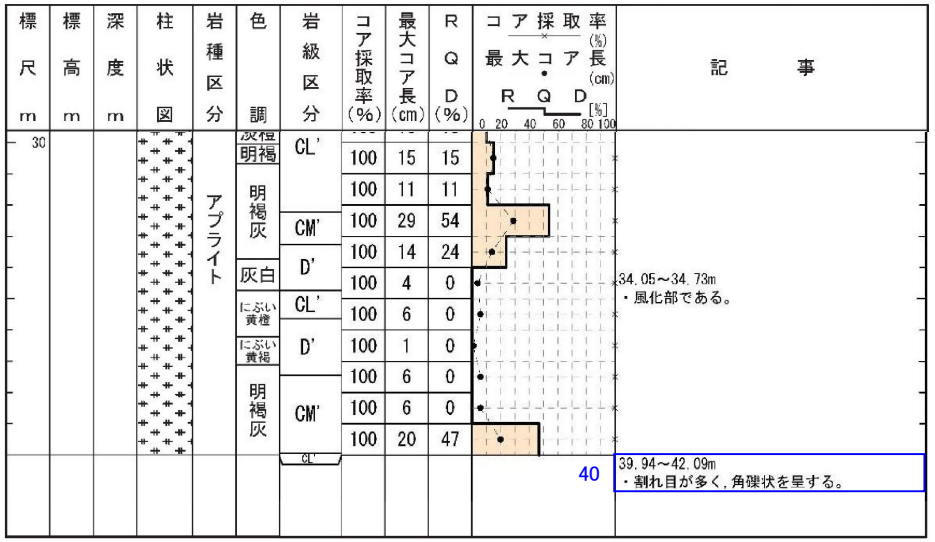
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
29	・土砂の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
30	・砂・有機物の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
31	・粘土の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
32	・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
33	・粘土の流入については，細粒分が割れ目を充填したものであり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
34	・傾斜や割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
35	・“風化”欄に基づき風化部と記載。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



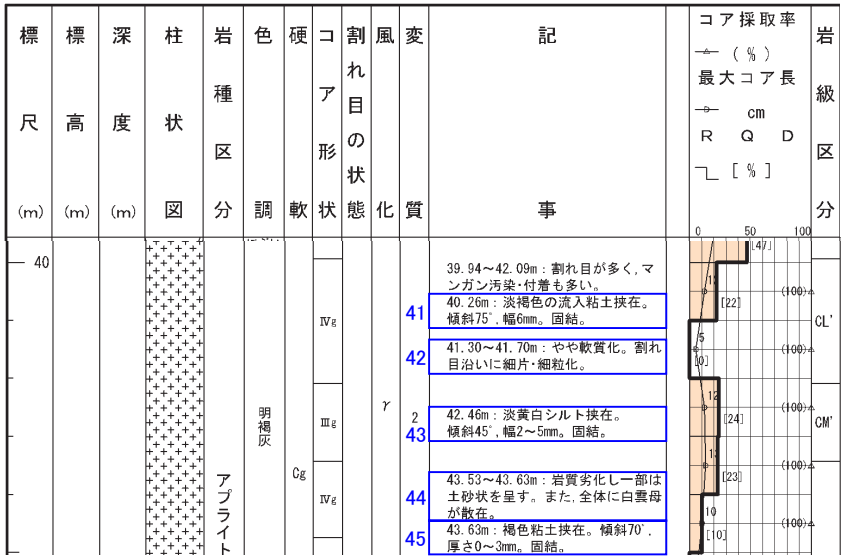
申請書用柱状図



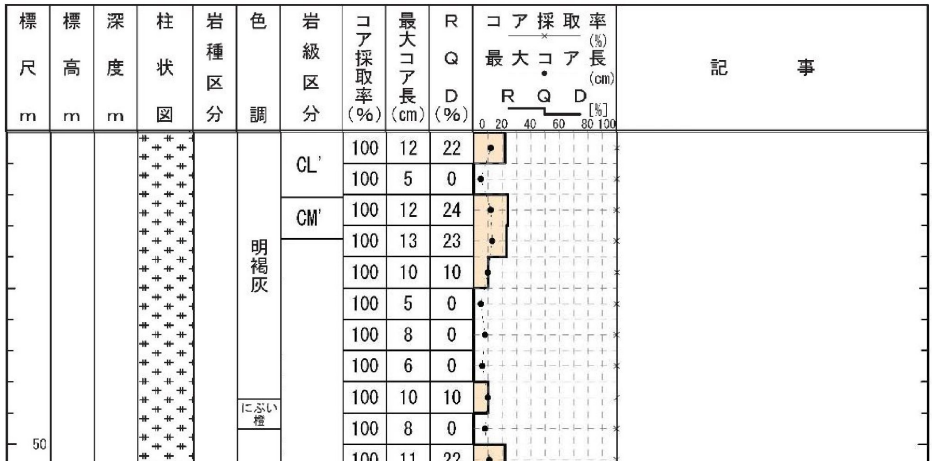
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
36	・粘土混じり砂状の下面は直線性がなく，礫の周囲に不規則に充填しており，礫にも定向配列が認められないことから削除。
37，38	・一部で粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
39	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
40	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき角礫状と追記。 ・割れ目沿いのマンガンについては，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



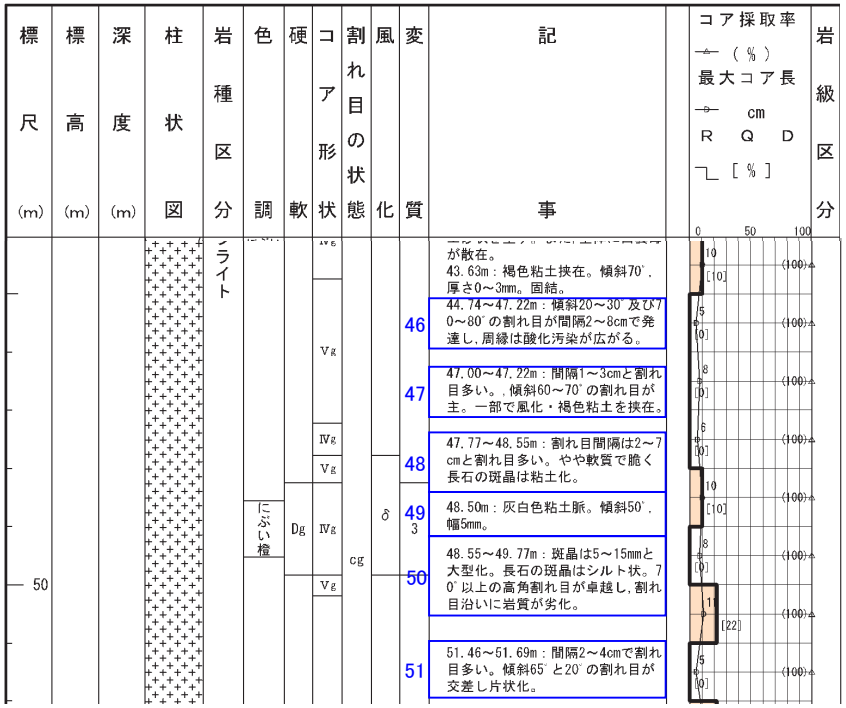
申請書用柱状図



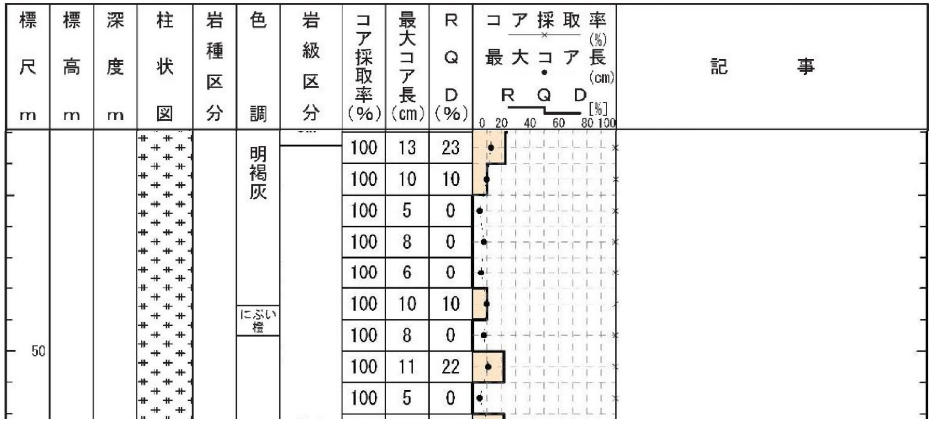
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
41	・流入粘土の挟在については，細粒分が割れ目を充填したものであり，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目沿いに細片化しているが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
43	・シルトを挟在するが，直線性や連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
44，45	・一部で土砂状を呈し粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



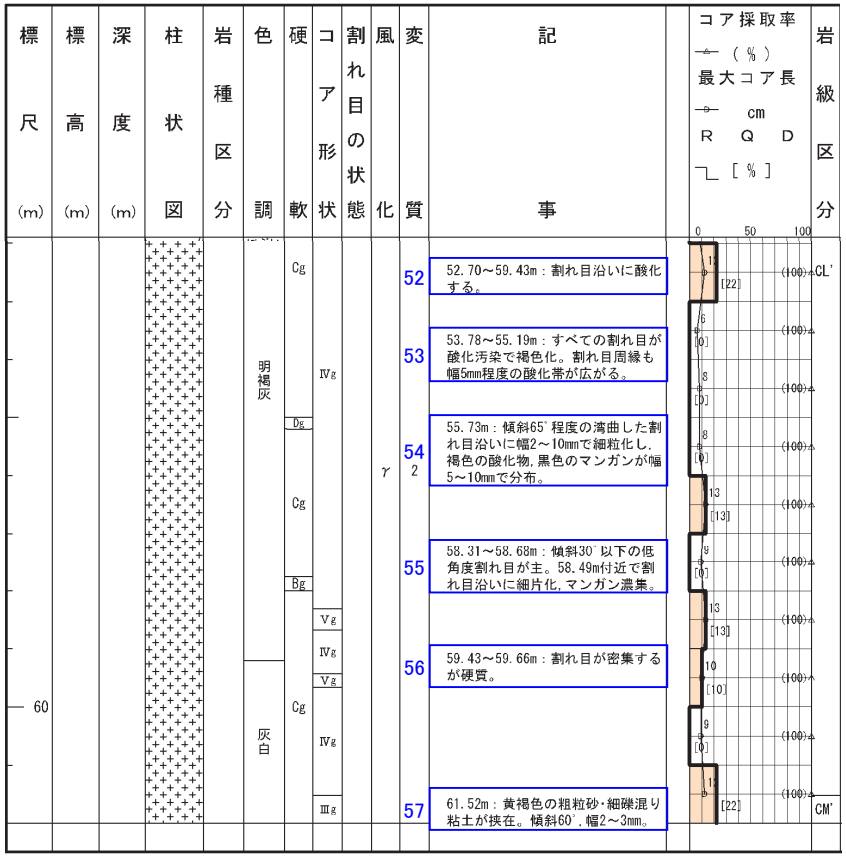
申請書用柱状図



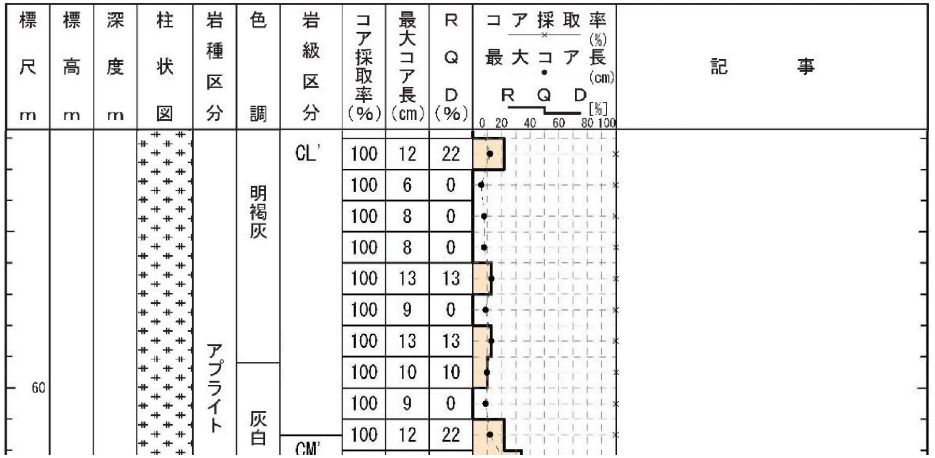
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
46	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・酸化汚染については，補足的なものであるため削除。
47	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため削除。
48	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・長石の粘土化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
49	・粘土脈を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
50	・一般的な岩相であり，斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・劣化及び割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
51	・割れ目沿いに片状化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



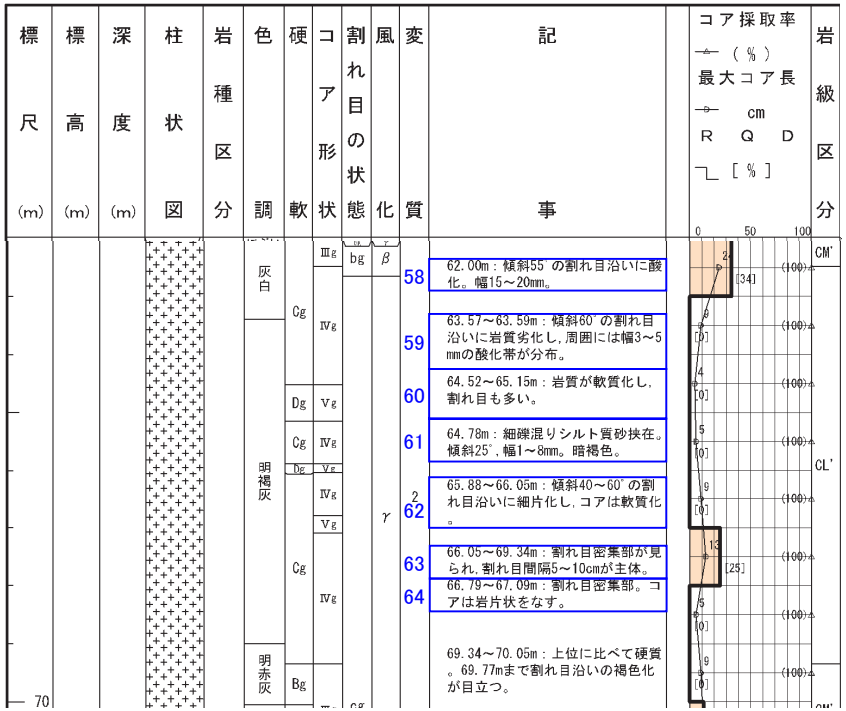
申請書用柱状図



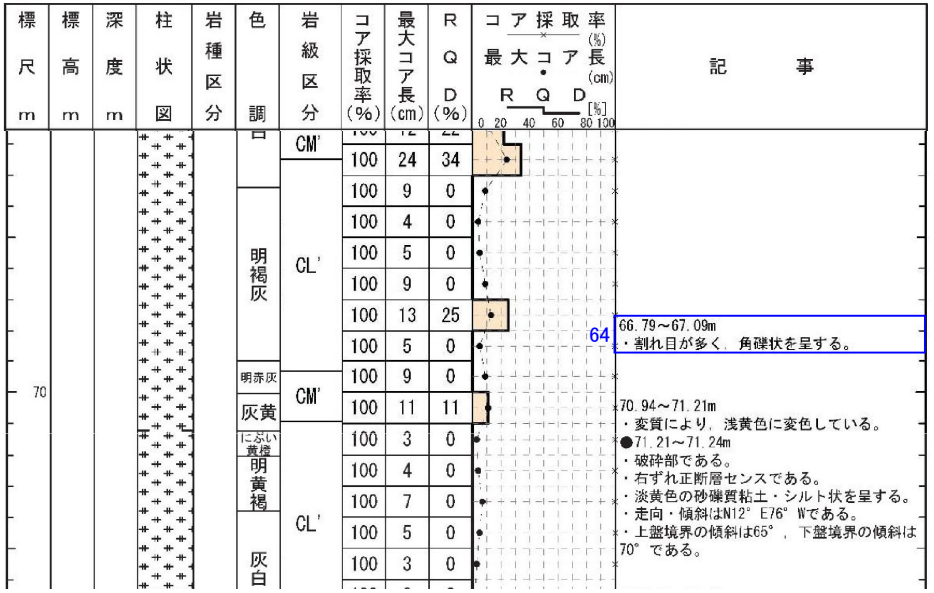
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
52	・割れ目沿いの酸化については，補足的なものであるため削除。
53	・割れ目沿いの酸化については，補足的なものであるため削除。
54	・割れ目沿いに細粒化するが，直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの酸化物，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いに細片化するが，直線性に乏しく，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目沿いのマンガン濃集については，補足的なものであるため削除。
56	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
57	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



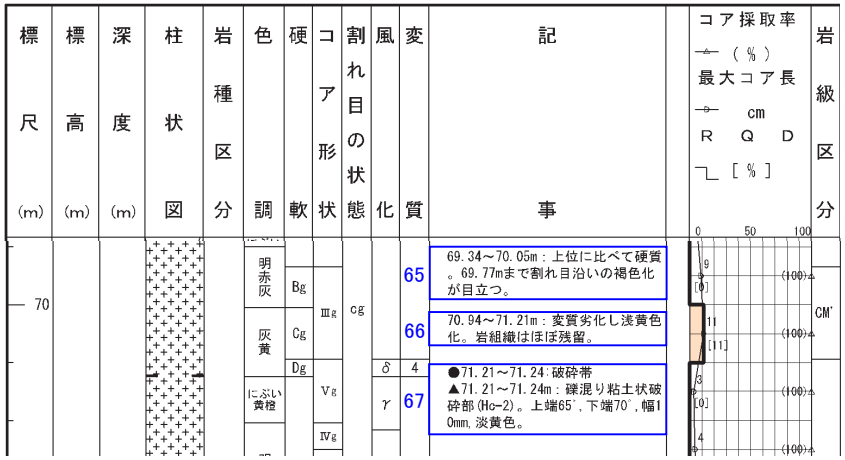
申請書用柱状図



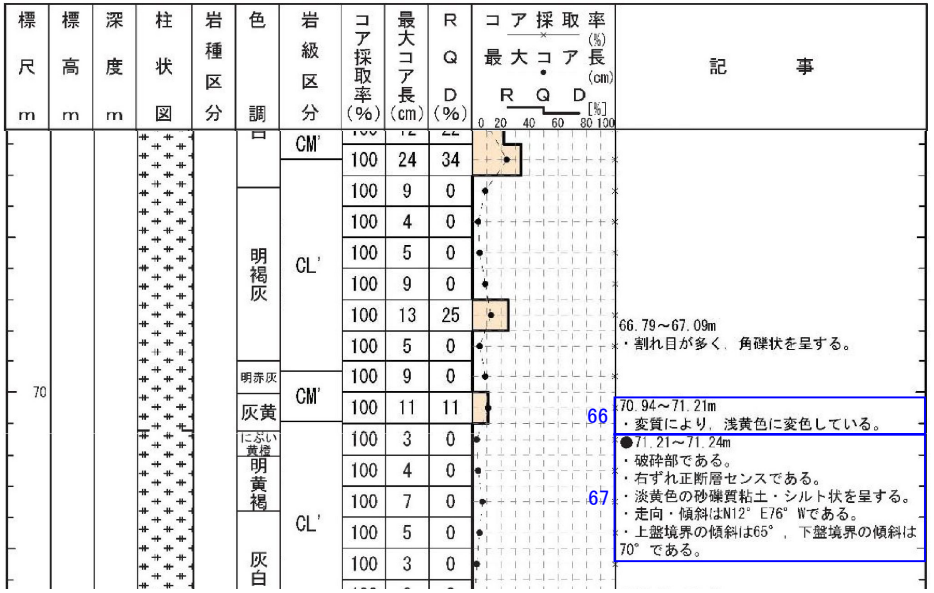
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
58	・割れ目沿いの酸化については，補足的なものであるため削除。
59	・割れ目沿いに劣化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの酸化については，補足的なものであるため削除。
60	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
61	・細礫混りシルト質砂を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
63	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
64	・“コア形状”欄に基づき角礫状と追記。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



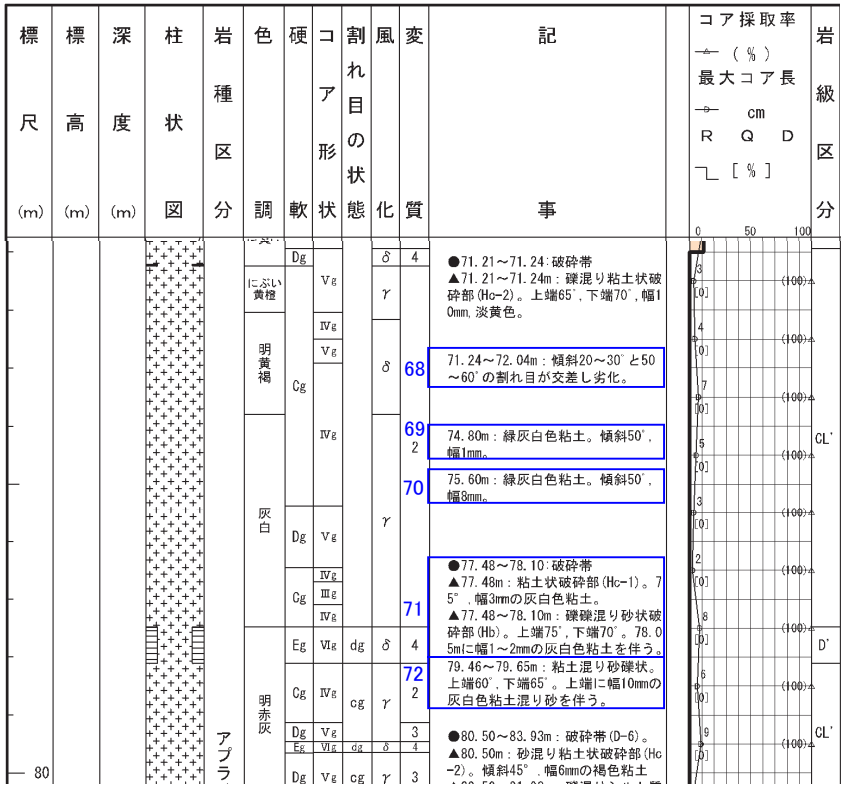
申請書用柱状図



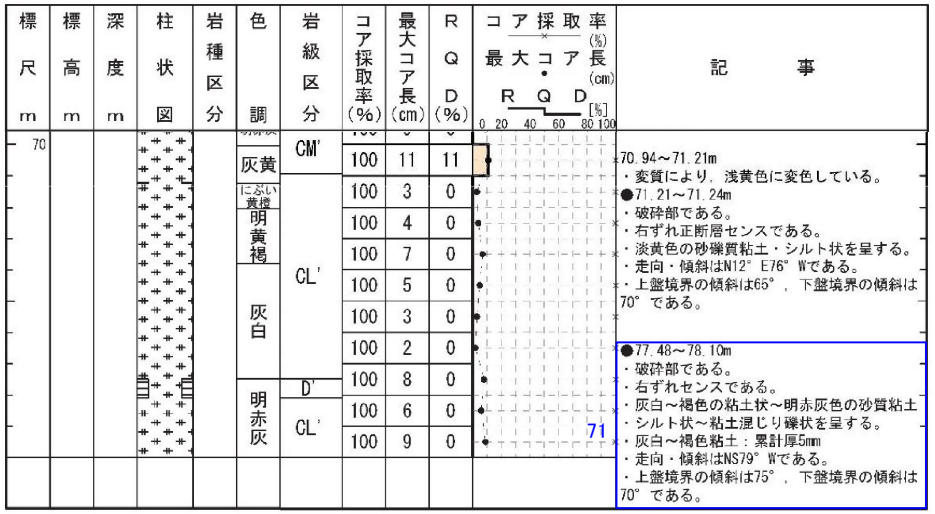
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
65	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
66	・変質を伴う岩盤の劣化については，岩級区分で示しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
67	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調，粒度について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



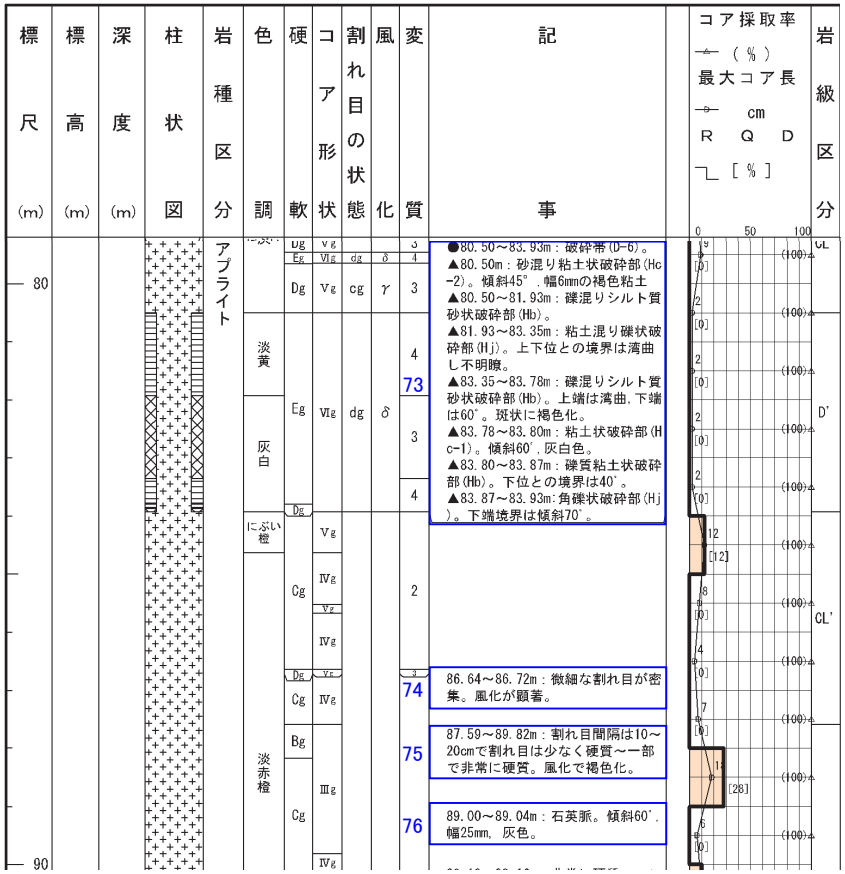
申請書用柱状図



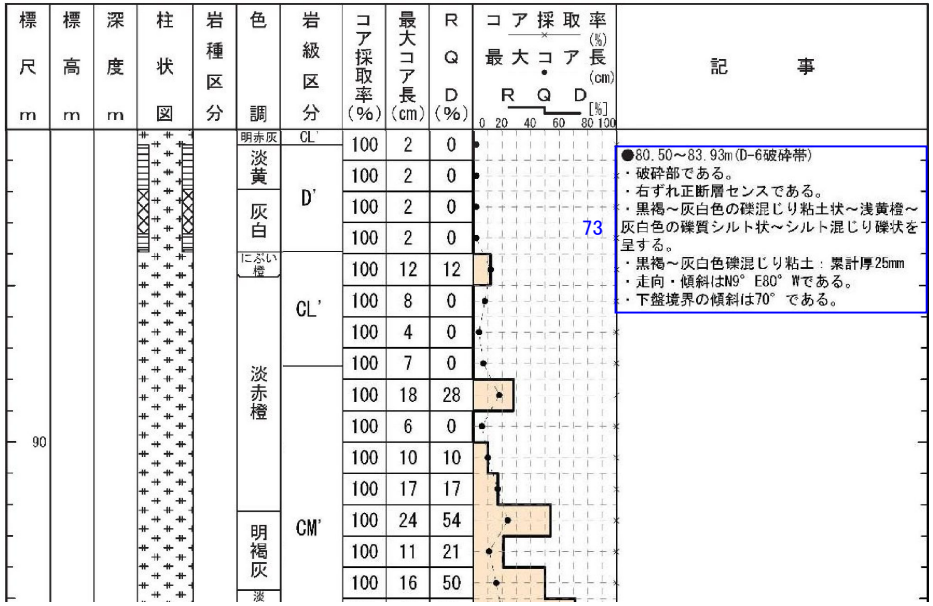
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
68	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
69	・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。
70	・粘土を挟在するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。
71	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の色調，累計幅については，報告書作成用柱状図の幅の最大値の合計を記載。 ・78.05mの粘土の色調を褐色に見直し。 ・“色調”欄に基づき，明赤灰色と記載。 ・申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき，砂質粘土・シルト状～粘土混じり礫状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
72	・粘土混り砂礫状を呈し，粘土混り砂を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



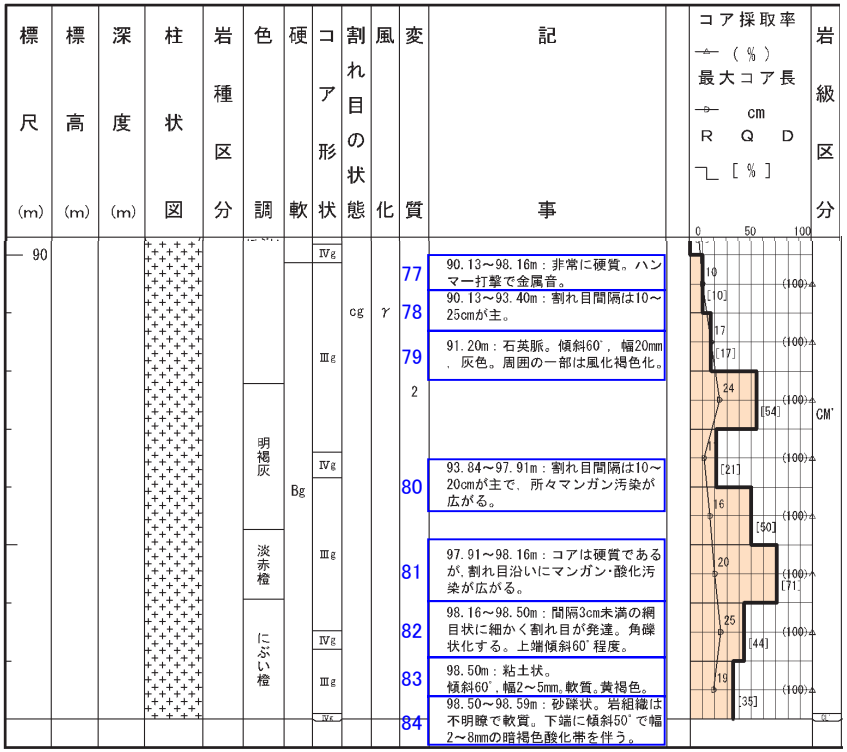
申請書用柱状図



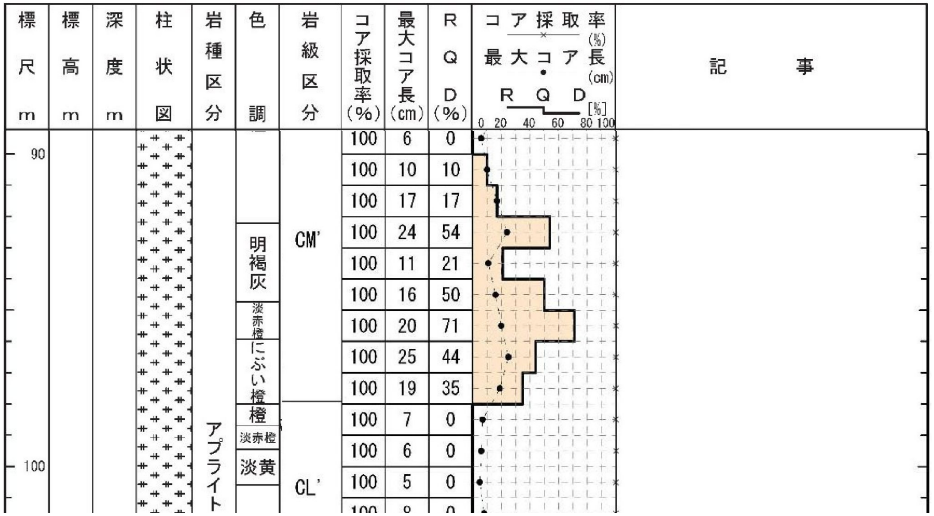
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
73	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粒度，色調，粘土の累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
74	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
75	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
76	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



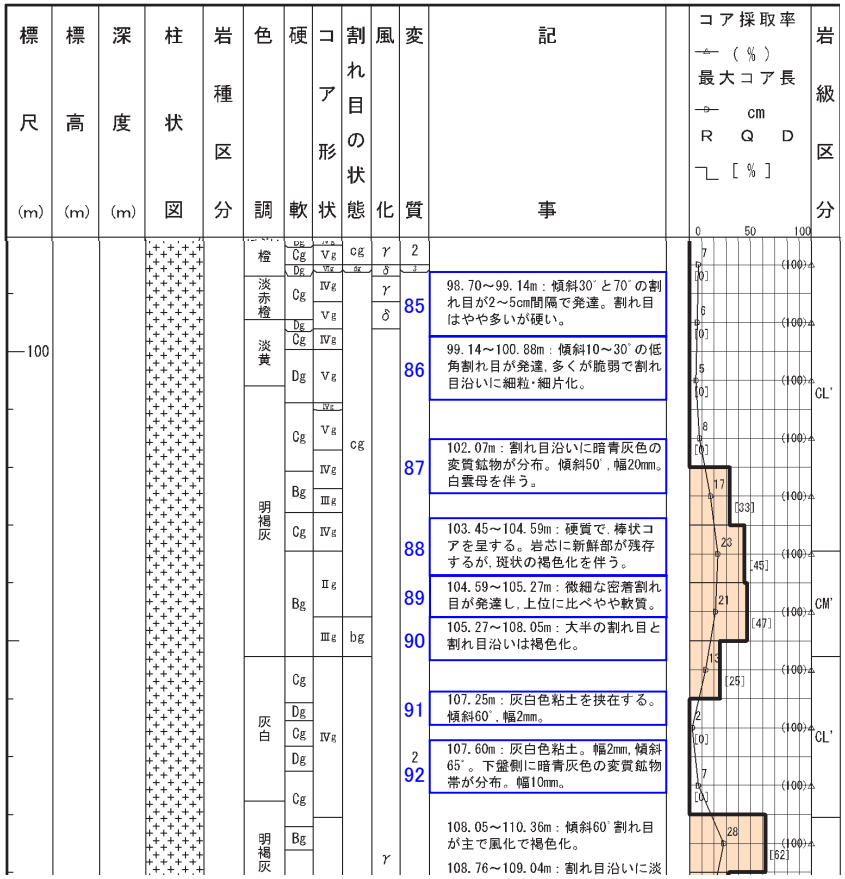
申請書用柱状図



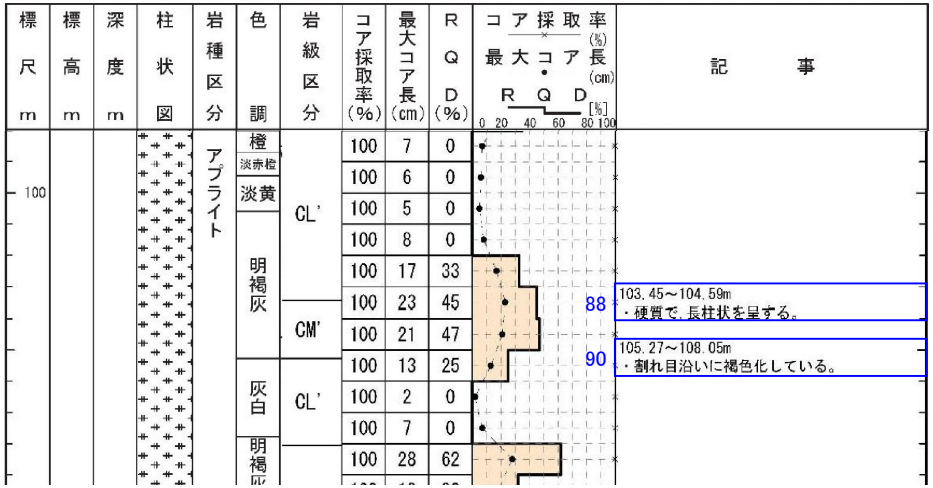
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
77	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
78	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
79	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については，周囲と明瞭な差が認められないため削除。
80	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
81	・割れ目沿いのマンガン・酸化汚染については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
82	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
83，84	・砂礫状を呈し，一部で粘土を挟在するが，砂礫状部の原岩組織が残留し，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



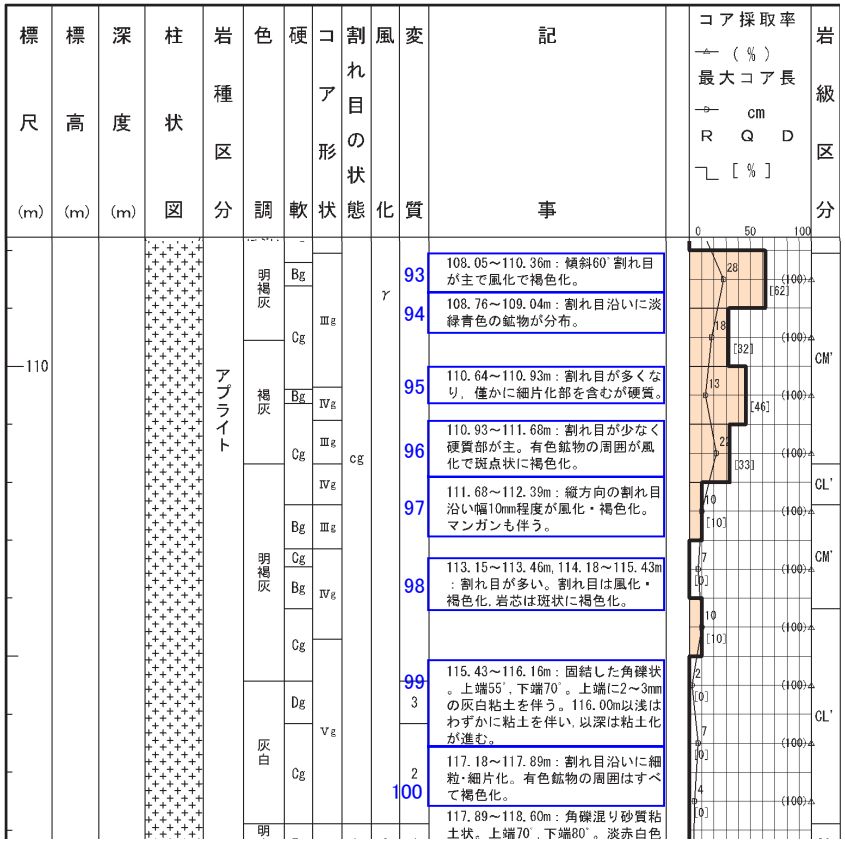
申請書用柱状図



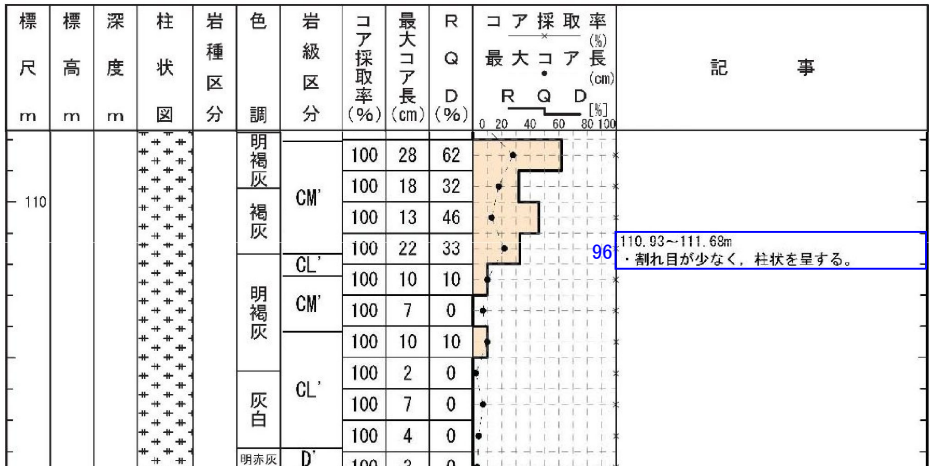
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
85	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
86	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細粒・細片化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
87	・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。 ・変色については，補足的なものであるため削除。
89	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
90	・変更なし
91	・粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変質鉱物については，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



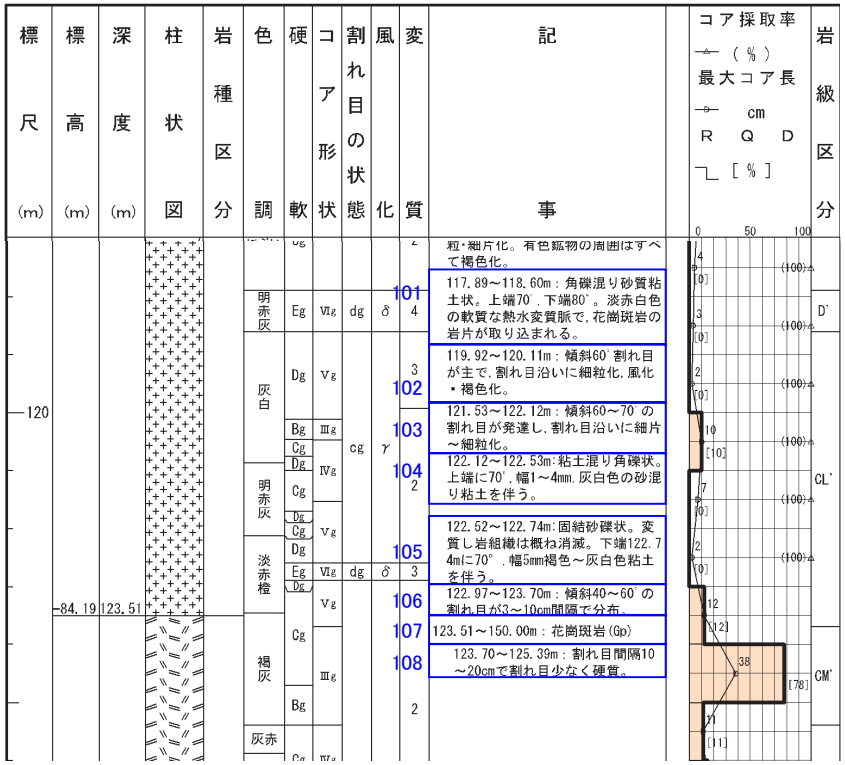
申請書用柱状図



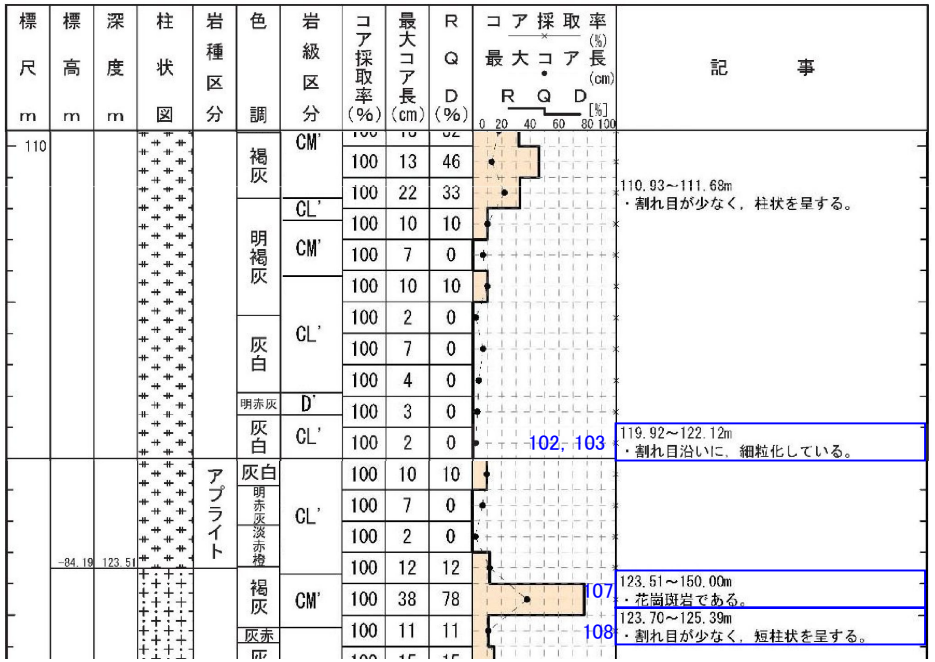
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
93	・割れ目の傾斜，割れ目沿いの褐色化については，補足的なものであるため削除。
94	・割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
95	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
96	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
97	・割れ目沿いの風化・褐色化，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
98	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化・褐色化については，補足的なものであるため削除。
99	・上端に粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。 ・角礫状の区間は，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・116m以深の粘土は，連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。
100	・割れ目沿いの細粒・細片化については，掘削時の機械割れと判断し削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



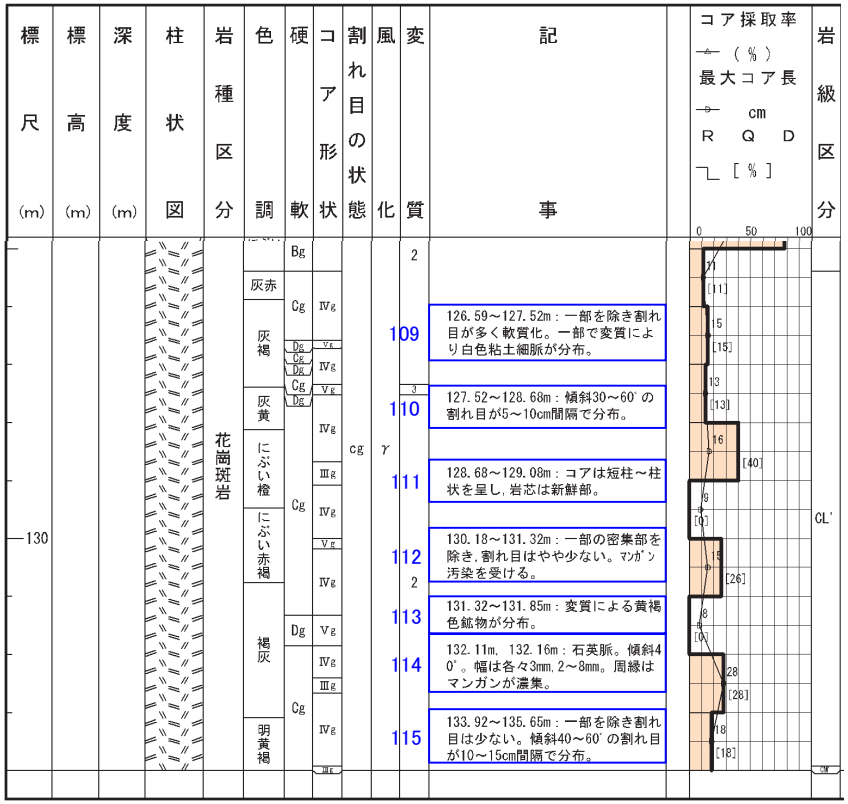
申請書用柱状図



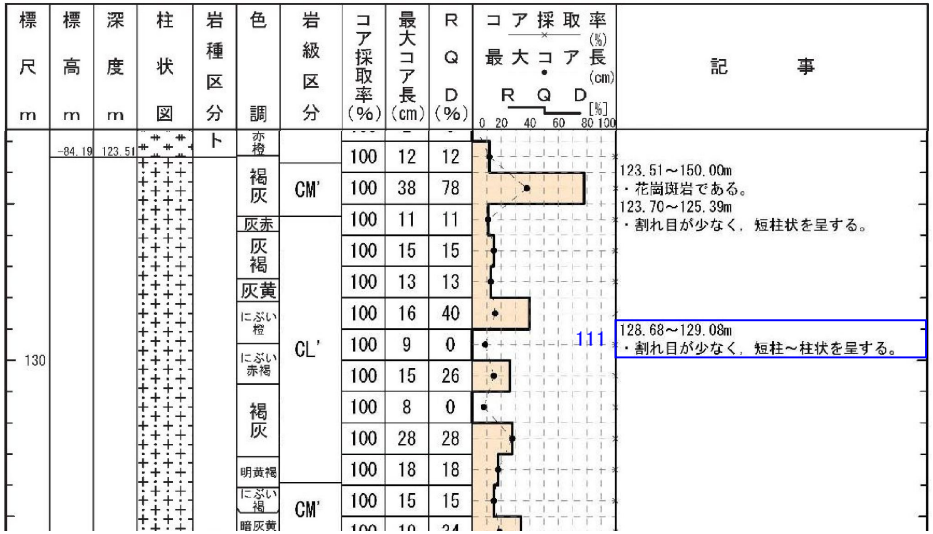
記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
101	・網目状に粘土脈が分布しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
102，103	・割れ目沿いの風化，褐色化については，補足的なものであるため削除。
104，105	・粘土混じり角礫状及び固結砂礫状を呈し，一部で粘土を挟在するが，粘土が系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
106	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
107	・変更なし
108	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき短柱状と追記。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



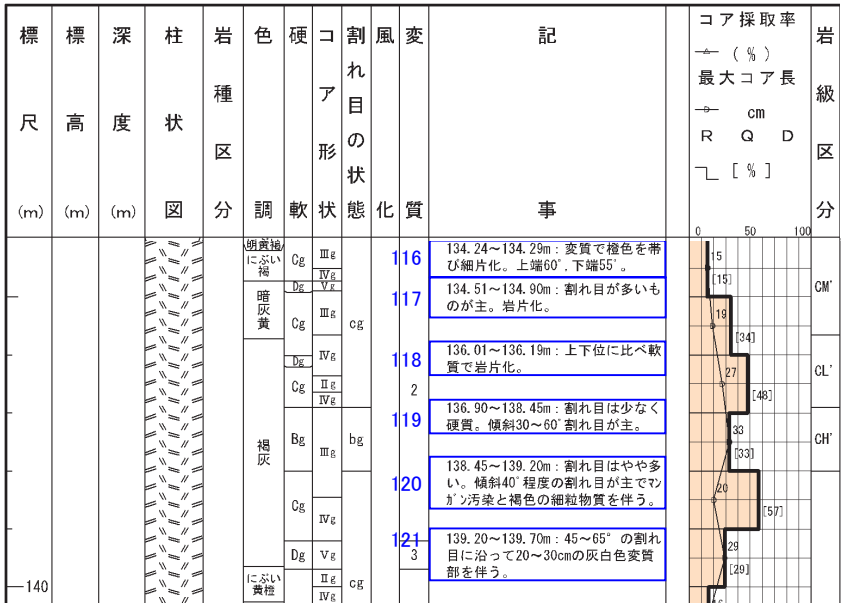
申請書用柱状図



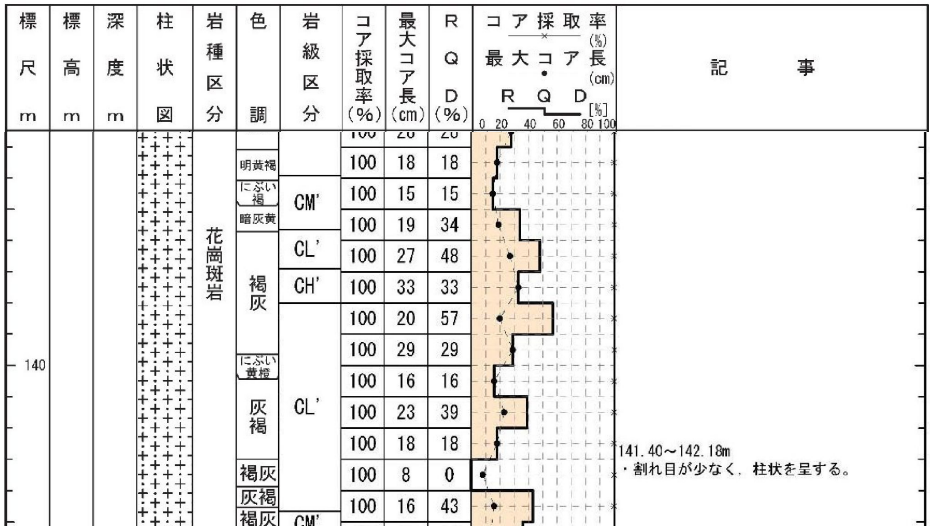
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
109	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土細脈を伴うが，系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
111	・風化については，岩級区分に含めて示しているため削除。
112	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。
113	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
114	・石英脈，マンガン濃集については，補足的なものであるため削除。
115	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



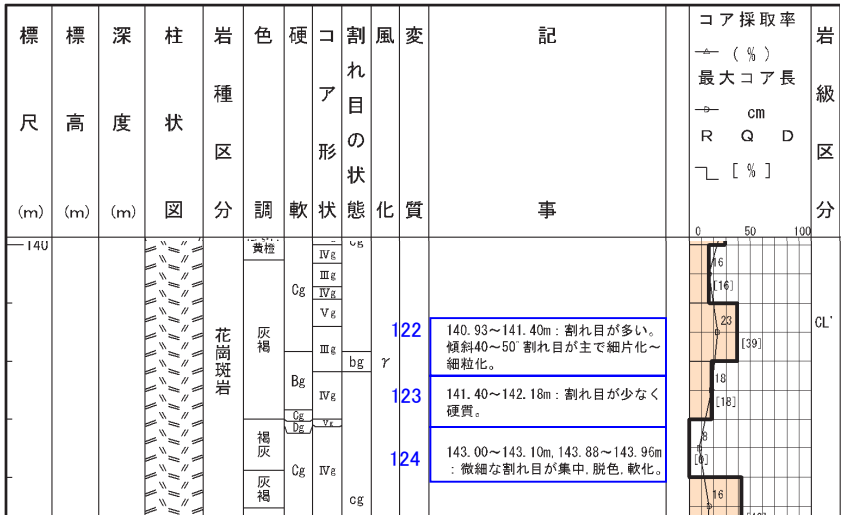
申請書用柱状図



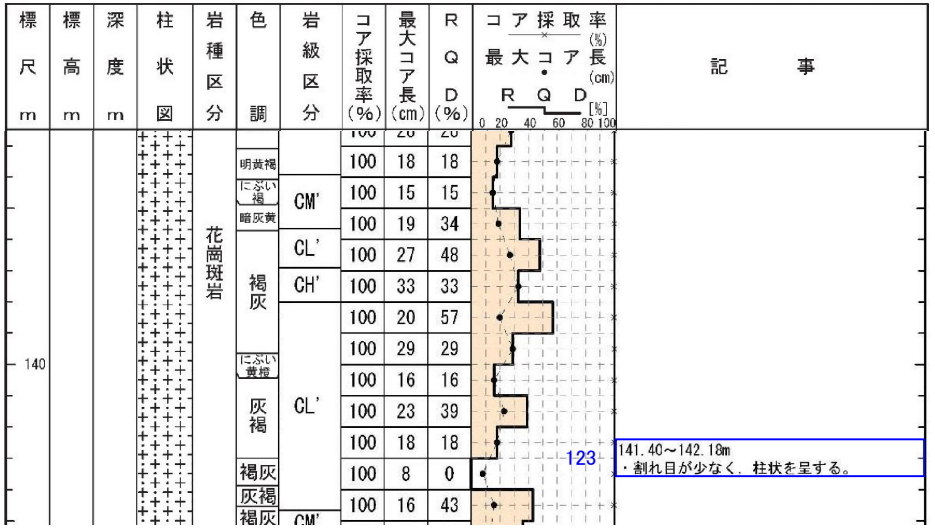
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
116	・細片化しているが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
117	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
118	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
119	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
120	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目に細粒物質を挟在するが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
121	・割れ目沿いに変質し劣化するが，粘土等の系統的な配列が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



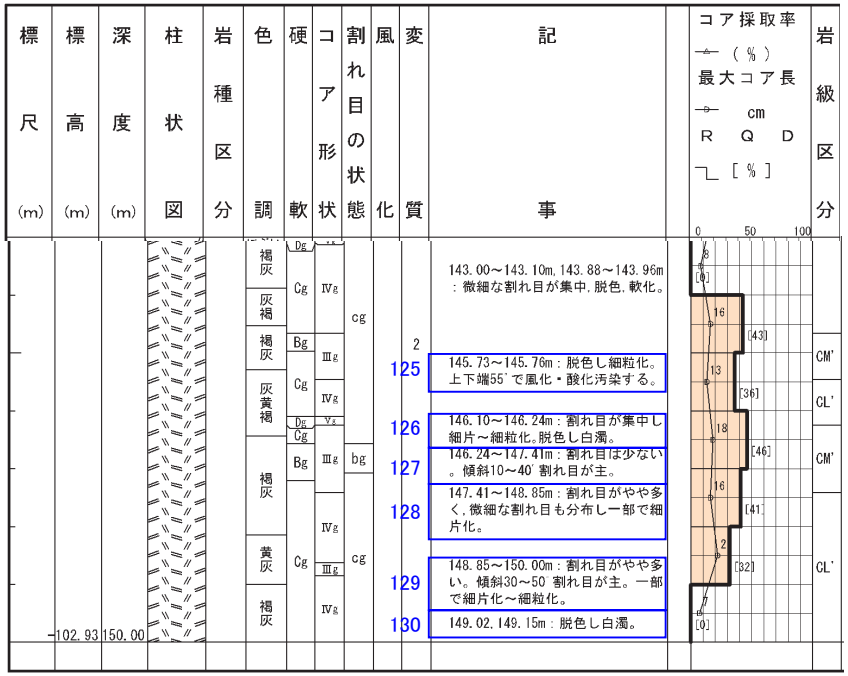
申請書用柱状図



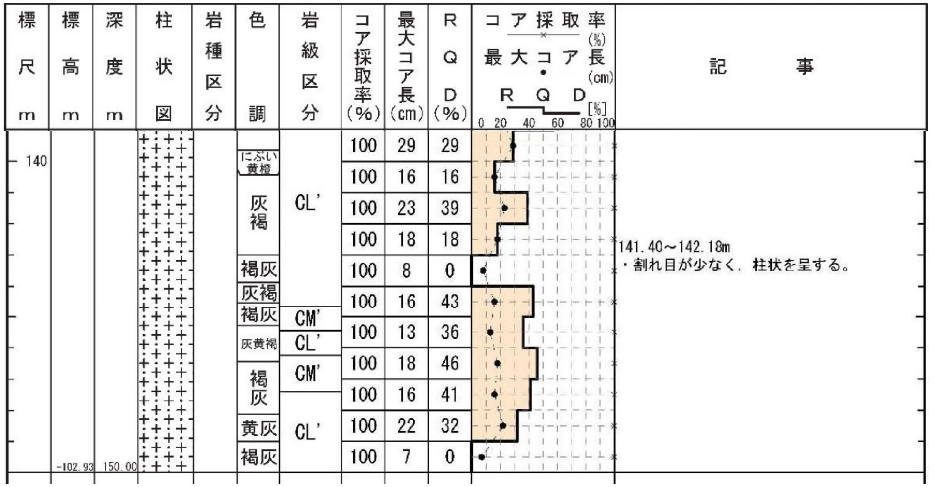
記事	報告書作成用柱状図（H26年12月）⇒申請書用柱状図
122	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの細片～細粒化については，掘削時の機械割れと判断し削除。
123	・割れ目の発達の程度については，“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
124	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・脱色については，補足的なものであるため削除。

H24-B11-2

報告書作成用柱状図
（H26年12月）



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
125	・細粒化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
126	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・白濁については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
127	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
128	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片化しているが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
129	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片～細粒化しているが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
130	・白濁については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

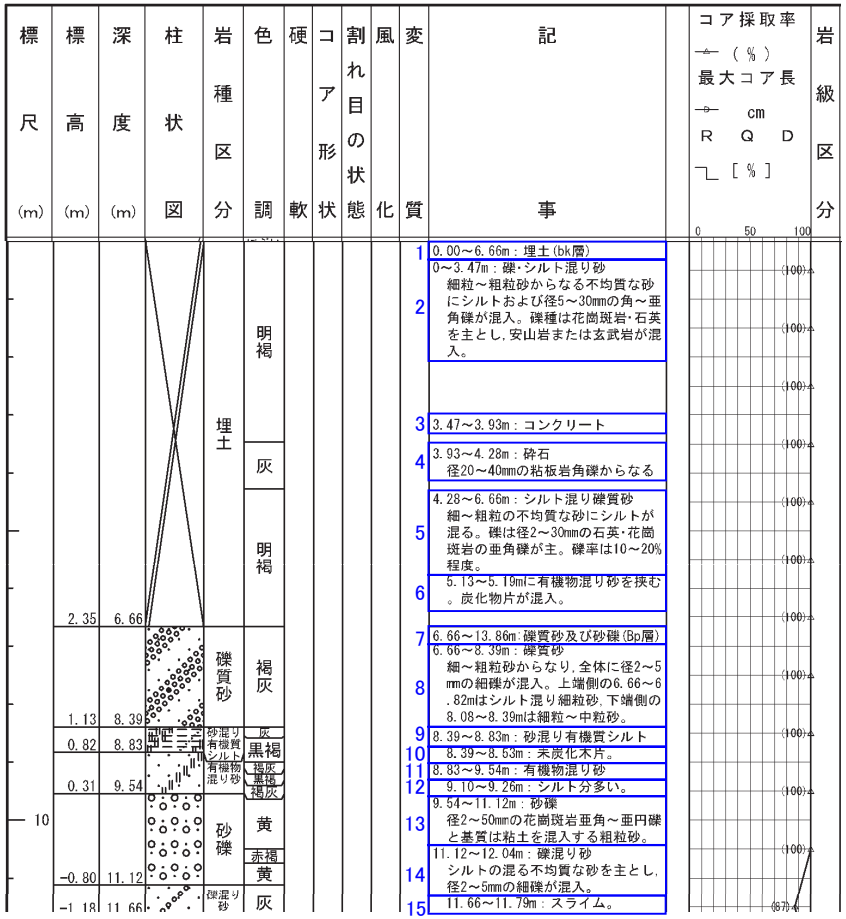
余白

H24-B14-2

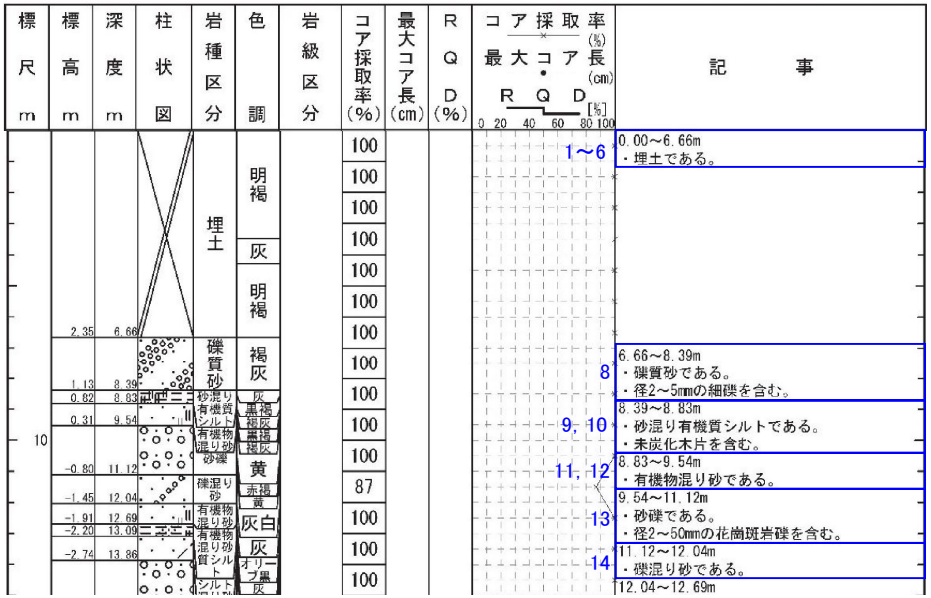
余白

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



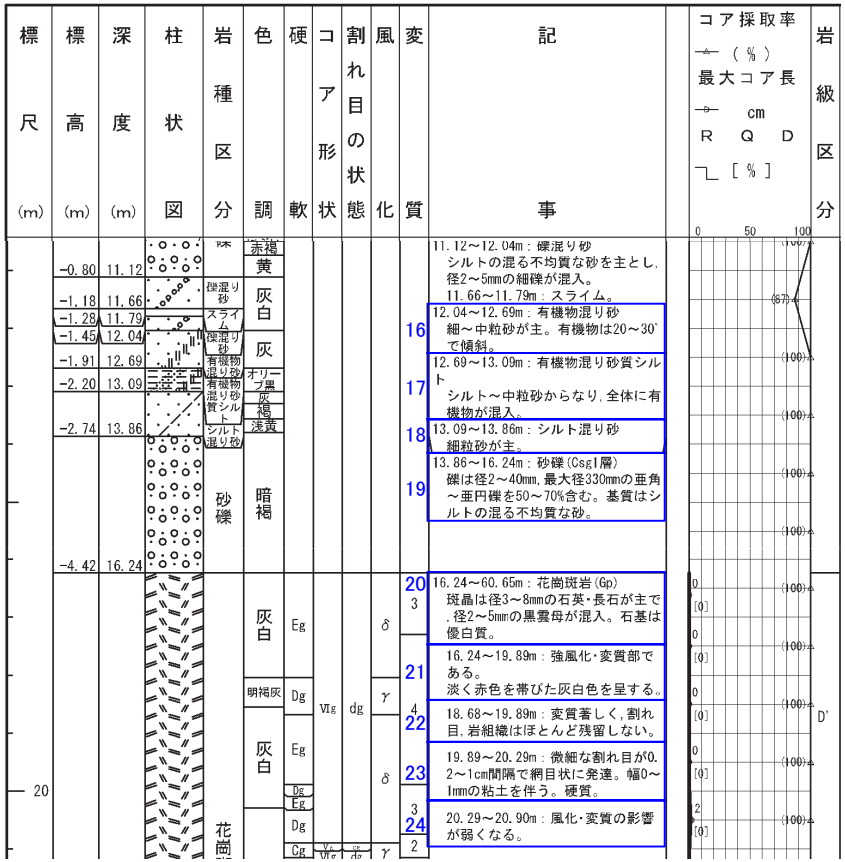
申請書用柱状図



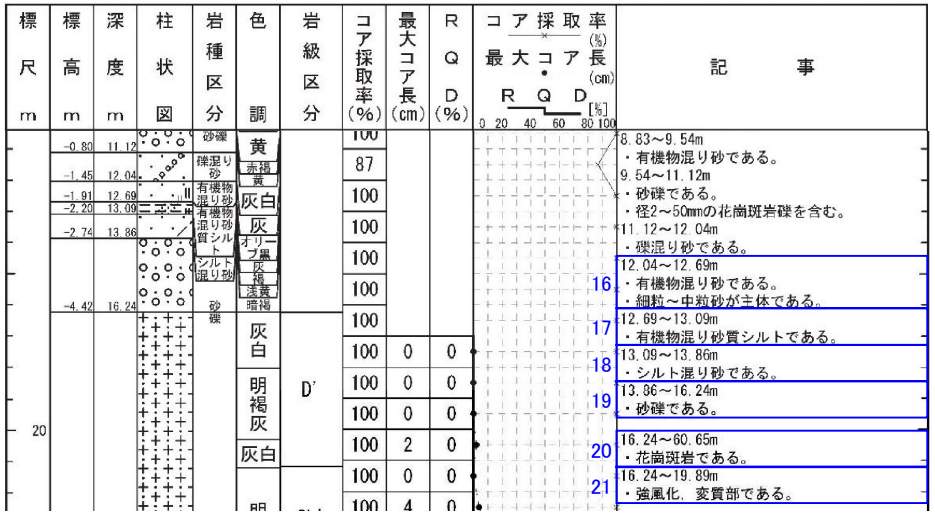
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
1～6	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・区間毎の性状を個別に記載しているため，礫質砂及び砂礫とのまとめ書きについては削除。
8	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ礫の含有量が多く，目立つことから，礫の特徴として，粒度，礫径を記載。
9，10	・変更なし
11，12	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
13	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，礫径，礫種を記載。
14	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
15	・スライム区間については，幅が狭いことから，上位，下位の礫混じり砂状部に含めて削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



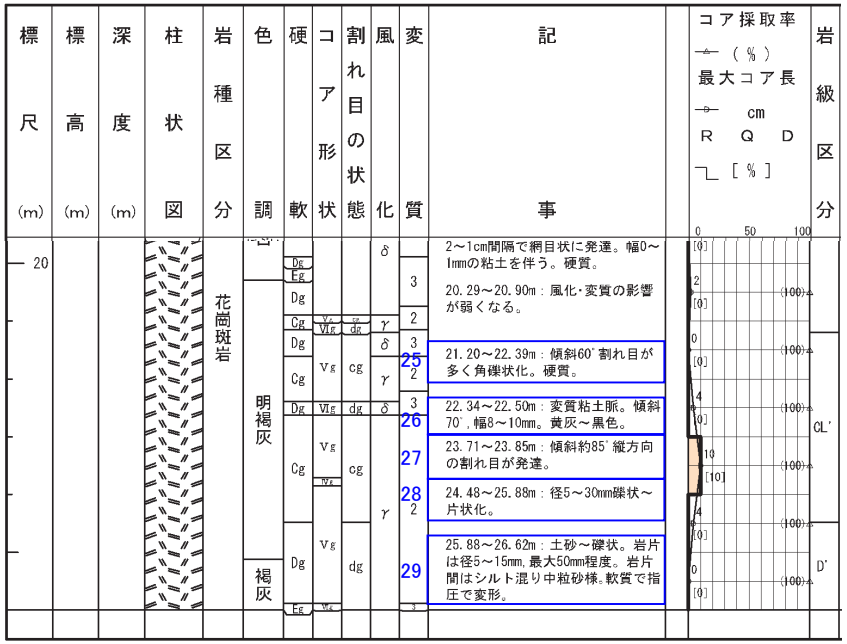
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
16	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では，粒度の違いが見かけ上顕著ではないため，上位層と区別できる特徴として，細粒～中粒砂が主体であることを記載。
17	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
18	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間ではないため削除。
21	・色調については，補足的なものであるため削除。
22	・変質の程度については，当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
23	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
24	・変質の程度については，当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



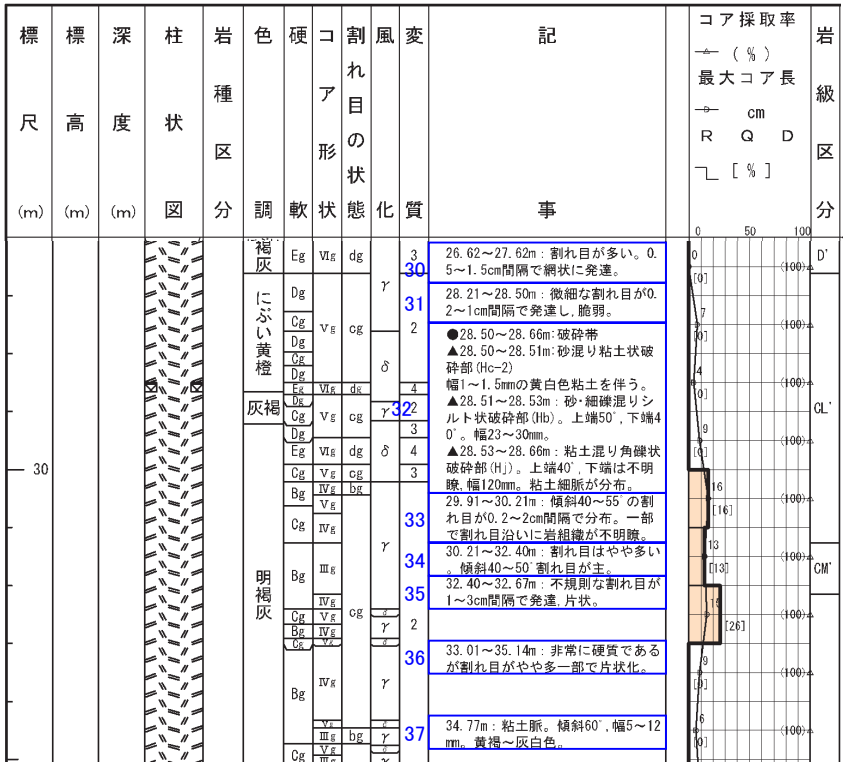
申請書用柱状図



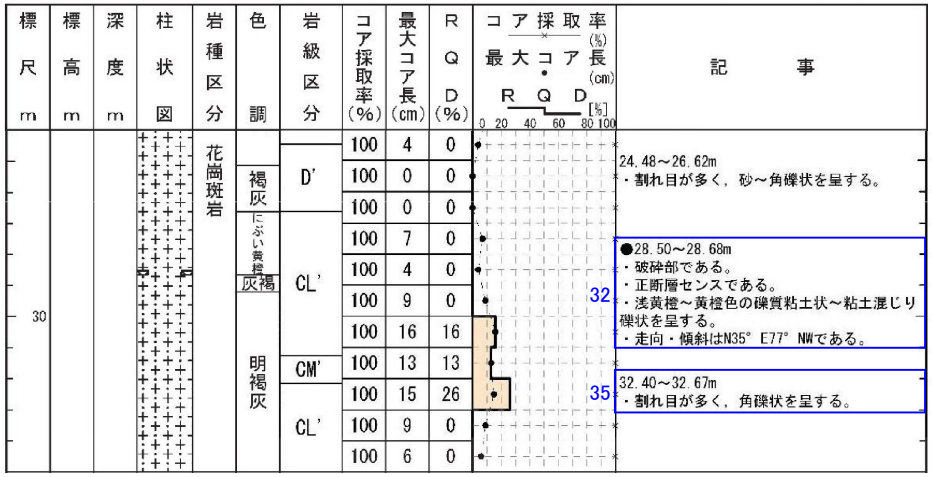
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
25	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
26	・変質粘土脈を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。
27	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
28，29	・“コア形状”欄に基づき砂状～角礫状と記載。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



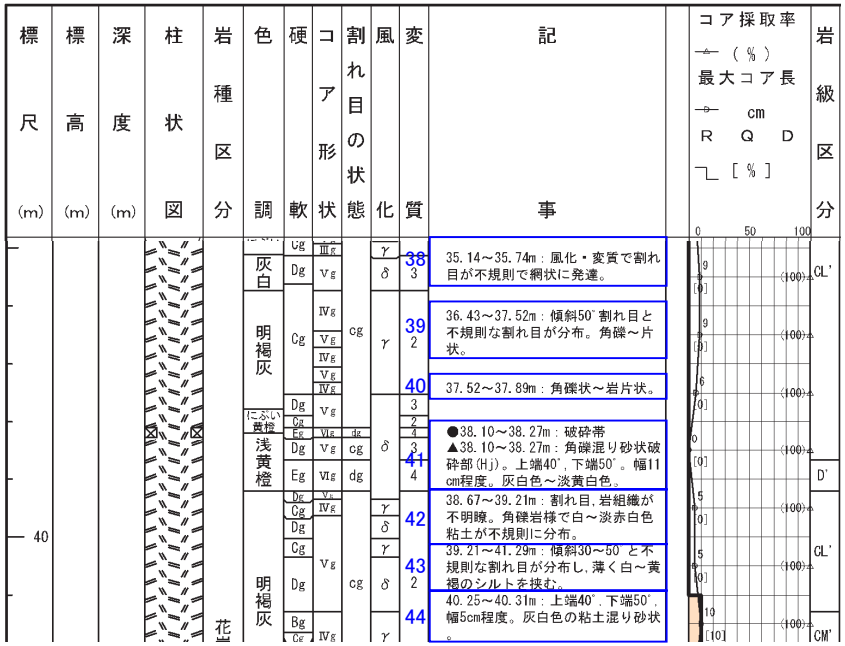
申請書用柱状図



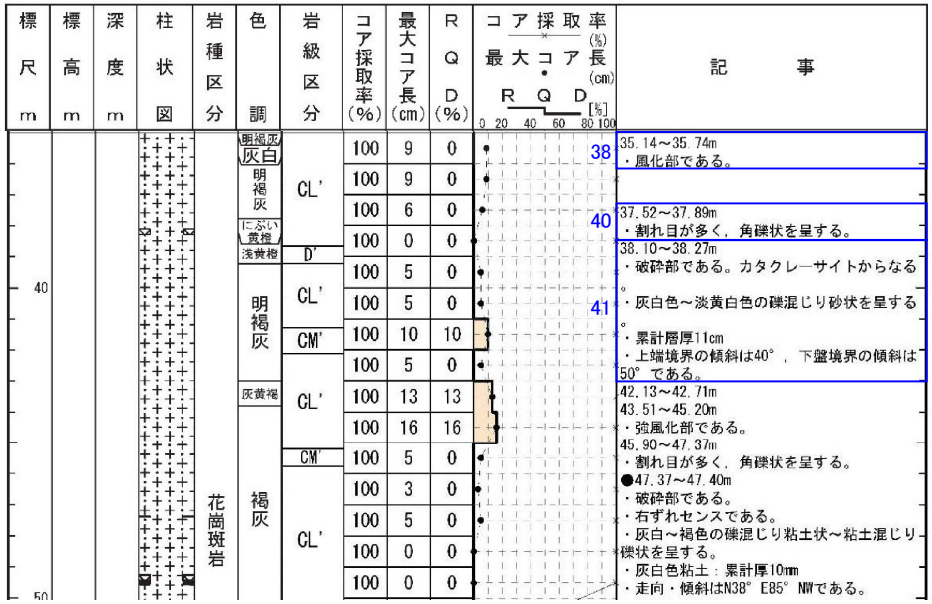
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
30，31	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
32	・色調，粒度について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・下端深度28.66m→28.68m※2. ※4 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。
33	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
34	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
35	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
36	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
37	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に同方向の劣化が認められないことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



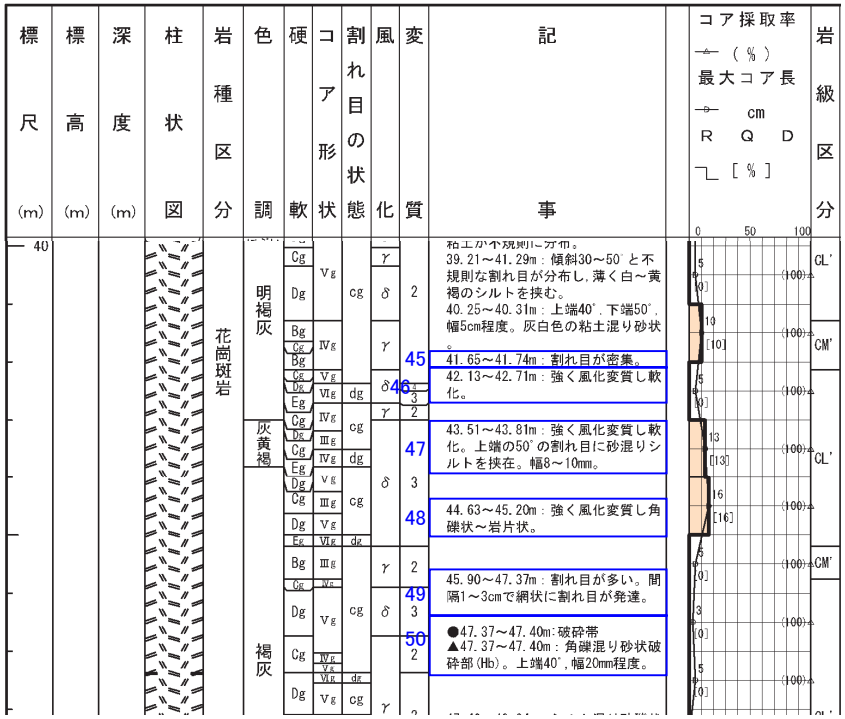
申請書用柱状図



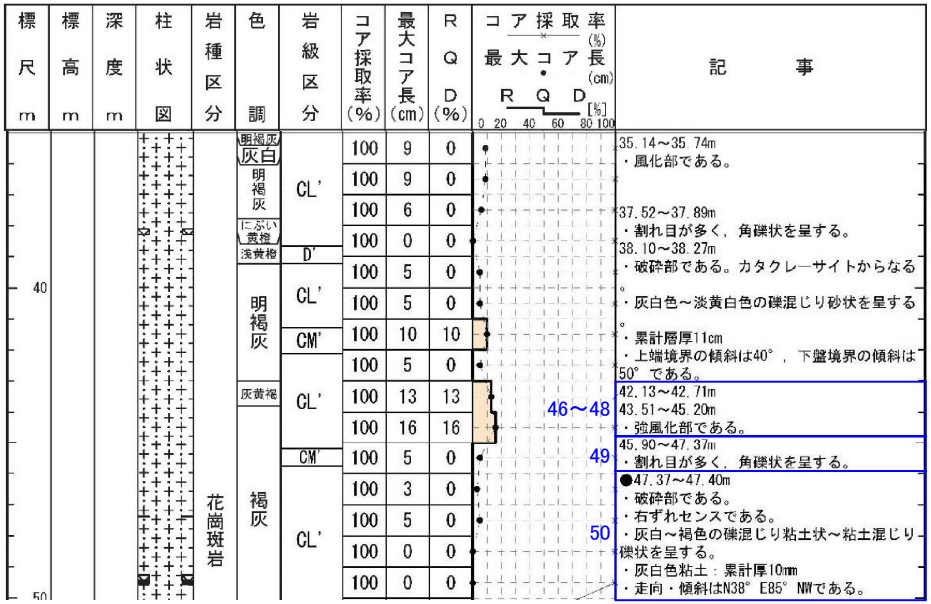
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
38	・風化と熱水変質の両方を受けた区間について，風化による褐色化が顕著であることを踏まえ，風化部として記載。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
39	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
40	・“コア形状”の欄に基づき角礫状と記載。
41	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。
42，43	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土やシルトを挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
44	・粘土混じり砂状を呈するが，連続性に乏しいことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



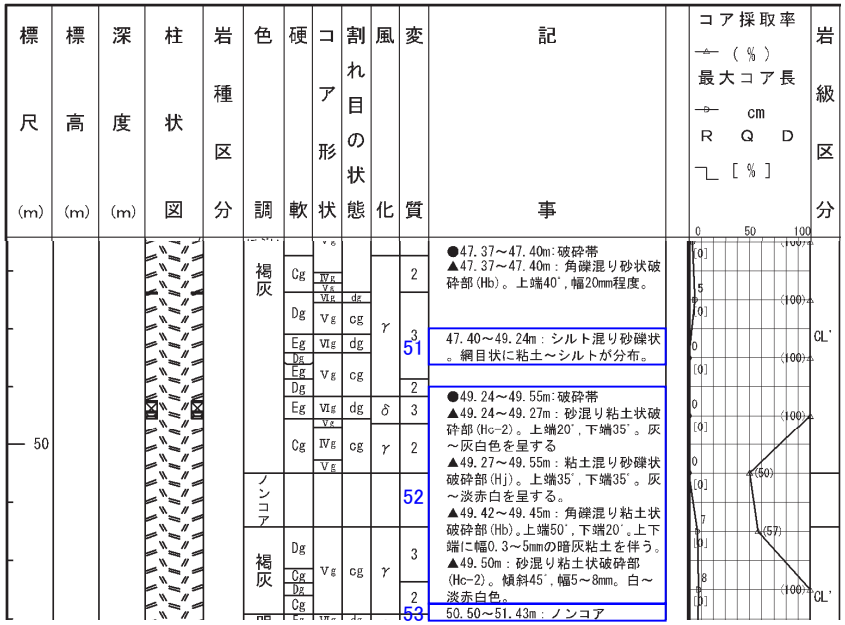
申請書用柱状図



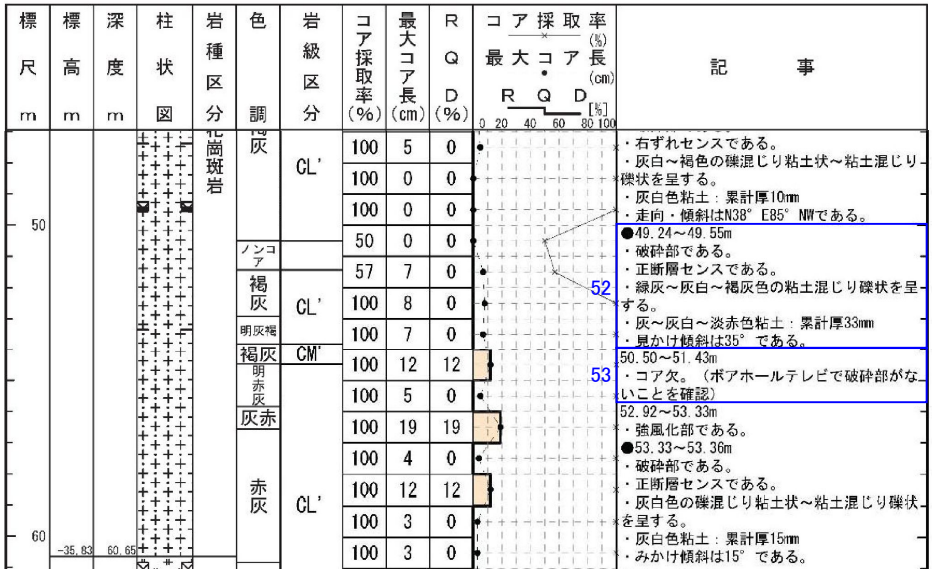
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
45	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
46～48	・“風化”欄に基づき強風化部と記載。 ・一部に砂混じりシルトを挟在するが，周辺の岩盤に同方向の劣化が認められないことから削除。
49	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
50	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粒度，色調，粘土の累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



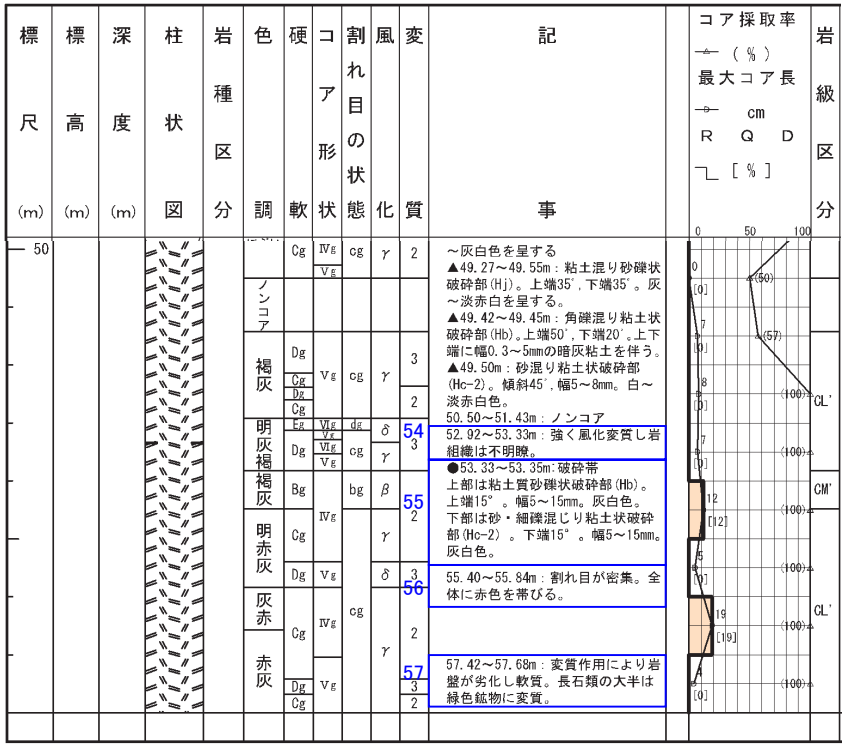
申請書用柱状図



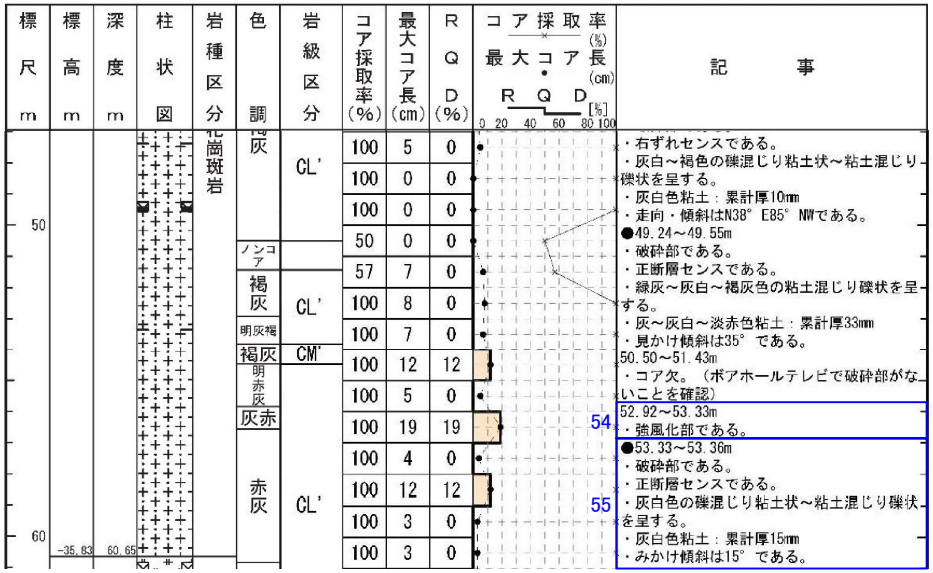
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
51	・シルト混じり砂礫状を呈し，一部で粘土やシルトを含むが，網目状に分布し系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
52	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粒度，色調，粘土の累計幅，見かけ傾斜について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。
53	・ボアホールテレビの解析結果を踏まえ，破砕部がないことを確認と記載。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



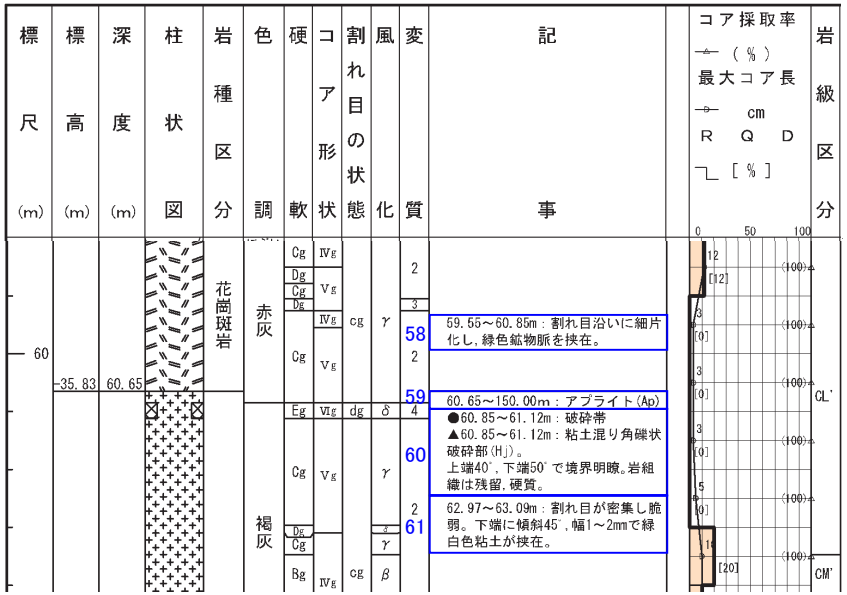
申請書用柱状図



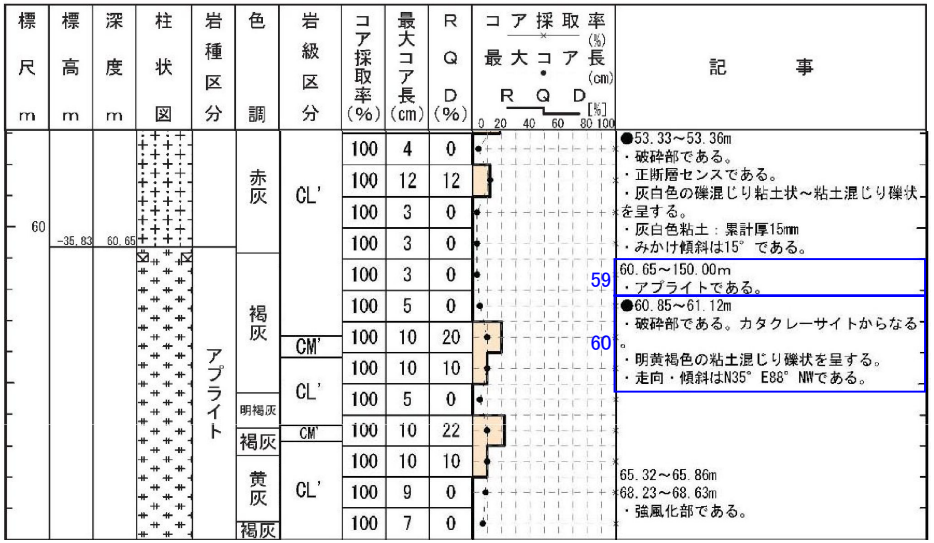
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
54	・“風化”欄に基づき強風化部と記載。
55	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・破砕部の深度，粒度，色調，粘土の累計幅，見かけ傾斜について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・礫状部の幅については，申請書では記載しないこととしているため，幅5～15mmとの記載については削除。
56	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
57	・軟質化については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・変質鉱物については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



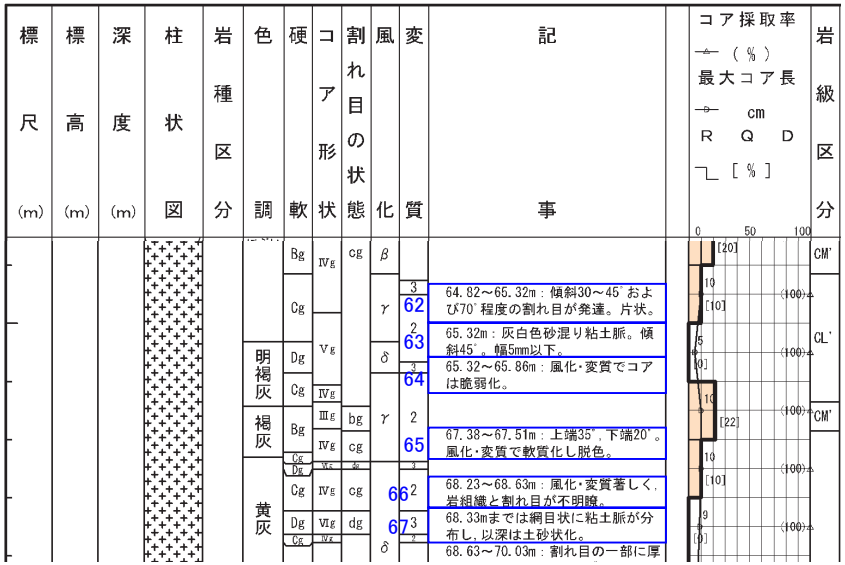
申請書用柱状図



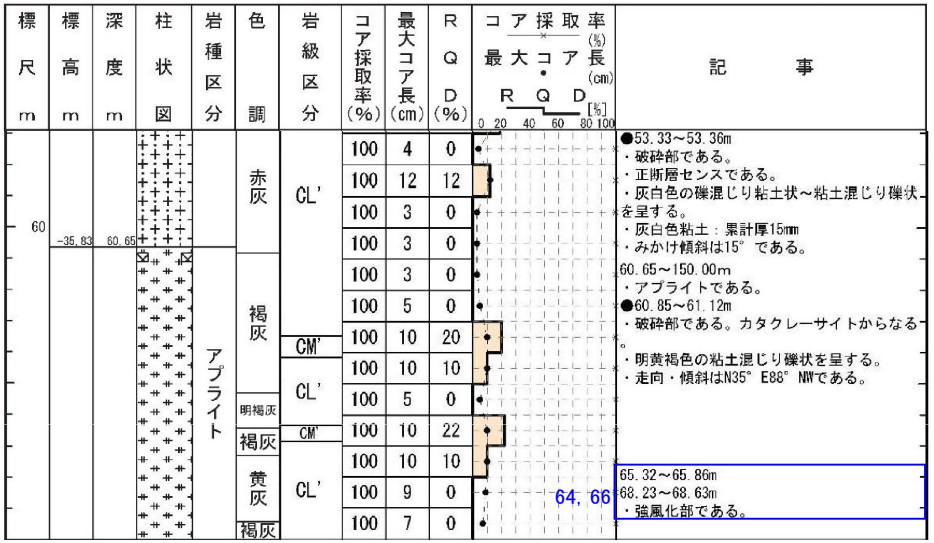
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
59	・変更なし
60	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・粒度，色調については，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。
61	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，粘土の連続性に乏しいことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



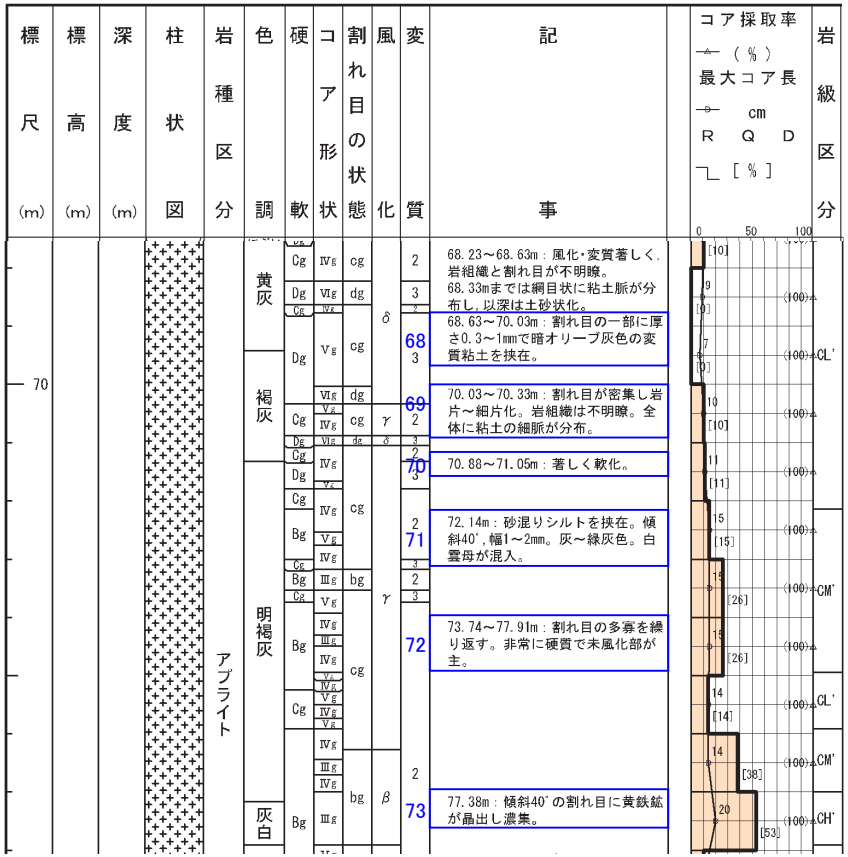
申請書用柱状図



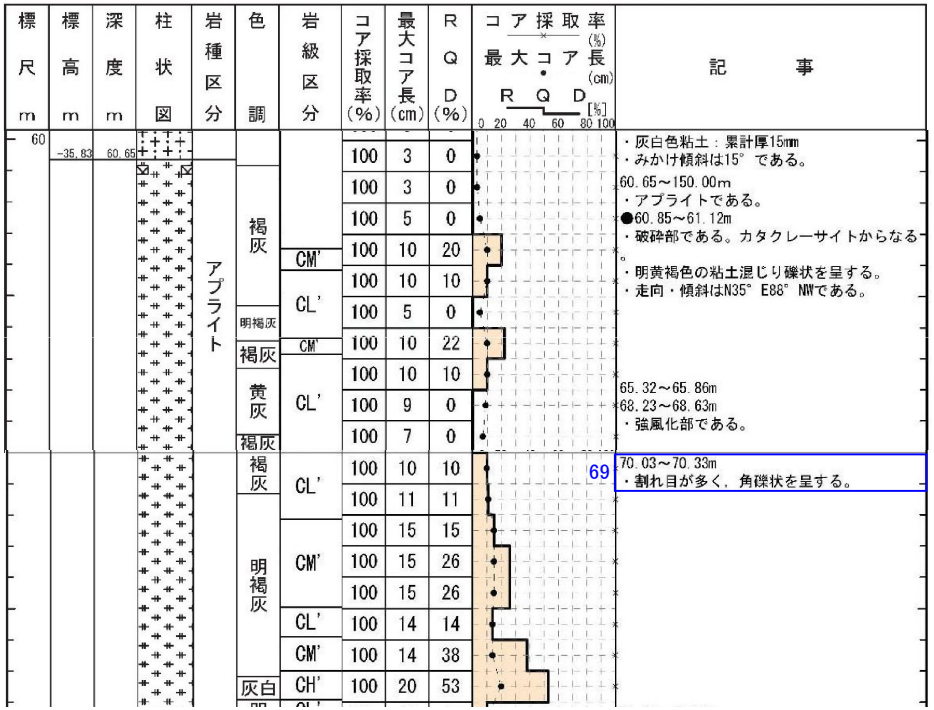
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
62	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
63	・粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。
64	・“風化”欄に基づき強風化部と記載。 ・風化と熱水変質の両方を受けた区間について，風化による褐色化が顕著であることを踏まえ，強風化部として記載。
65	・風化，変質に伴う軟質化については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・脱色については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
66，67	・風化と熱水変質の両方を受けた区間について，風化による褐色化が顕著であることを踏まえ，強風化部として記載。 ・網目状に粘土脈が分布しているが，系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・土砂状の区間については，周囲との境界が一部不明瞭であり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



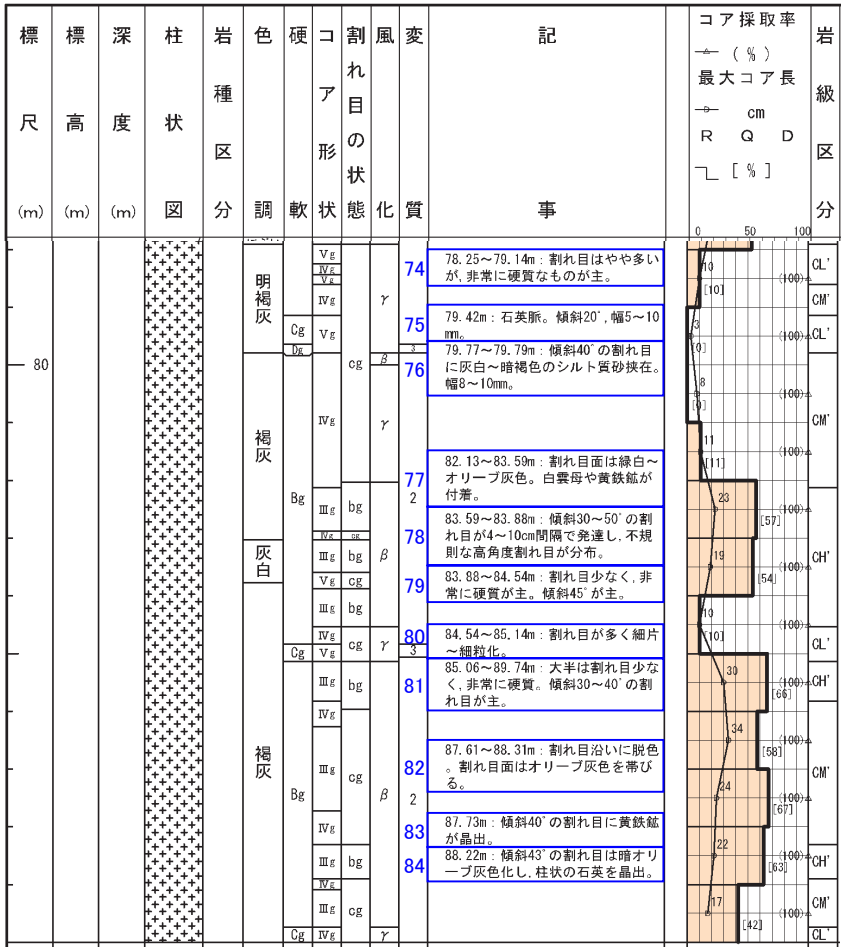
申請書用柱状図



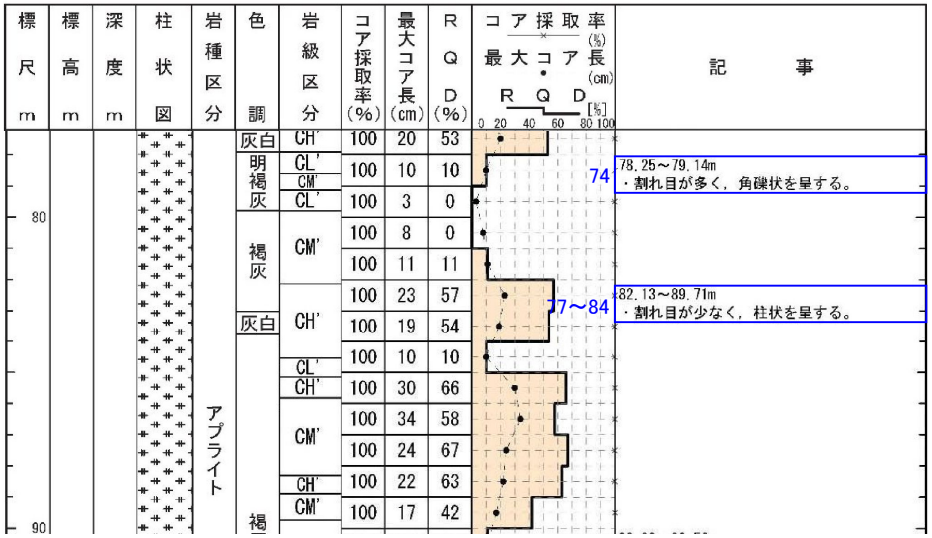
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
68	・一部に粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
69	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・原岩組織の残留の程度については，劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部に粘土を含むが，系統的でなく，直線性や連続性に乏しいことから削除。
70	・軟化については，岩級区分に含めて示しているため削除。
71	・砂混じりシルトを挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
72	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
73	・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



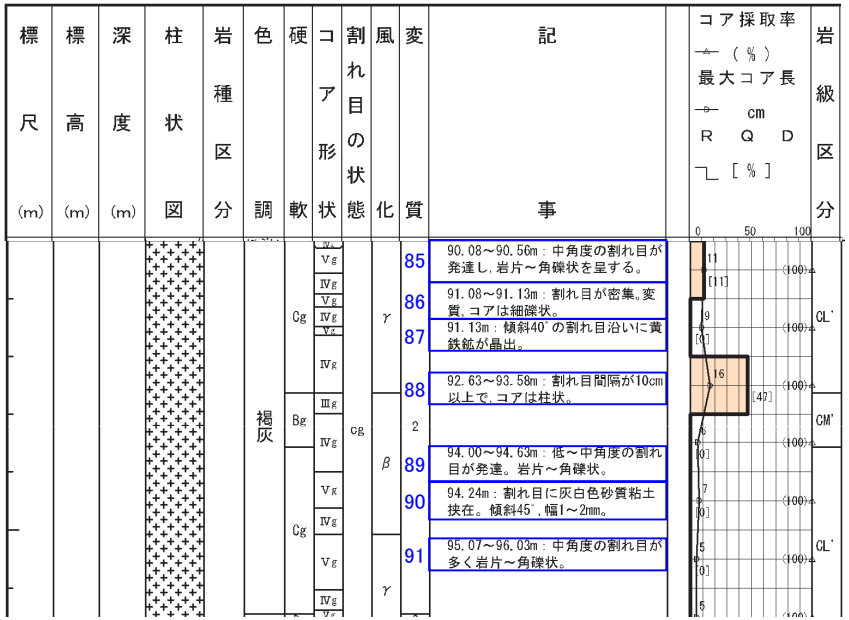
申請書用柱状図



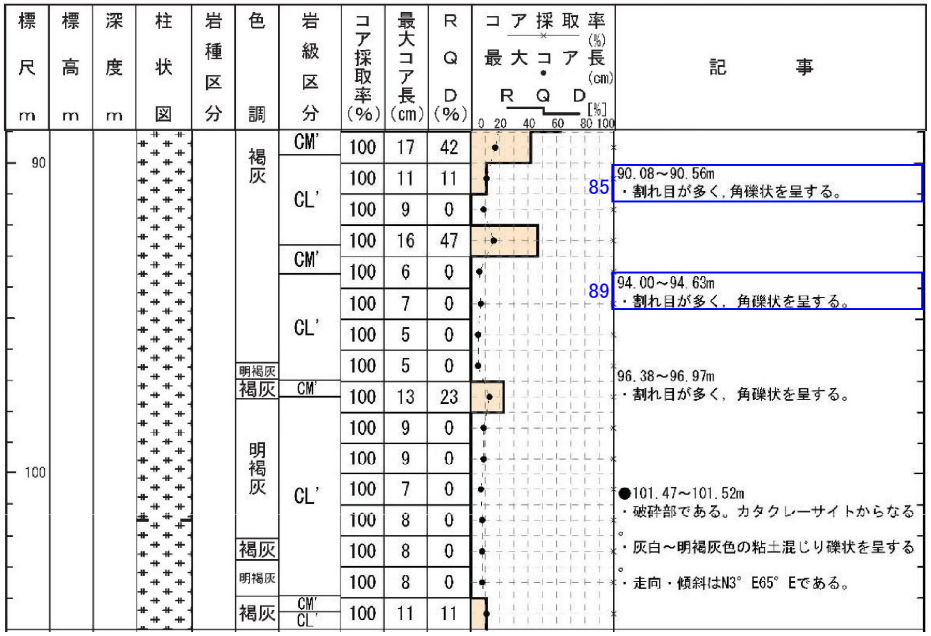
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
74	・“コア形状”の欄に基づき角礫状と記載。 ・硬軟については岩級区分に含めて示しているため削除。
75	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
76	・シルト質砂を挟在するが，周辺の岩盤に劣化が認められないことから削除。
77～84	・下端深度89.74m→89.71m※1 ・硬軟や割れ目が4～10cm間隔で発達との記載については，割れ目の発達の程度を，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の変色，鉱物晶出，傾斜については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



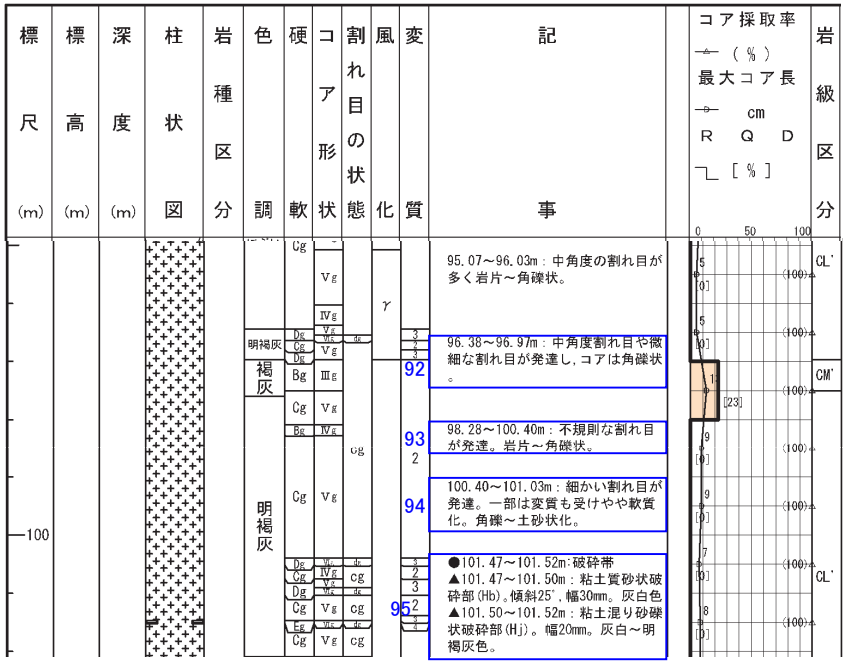
申請書用柱状図



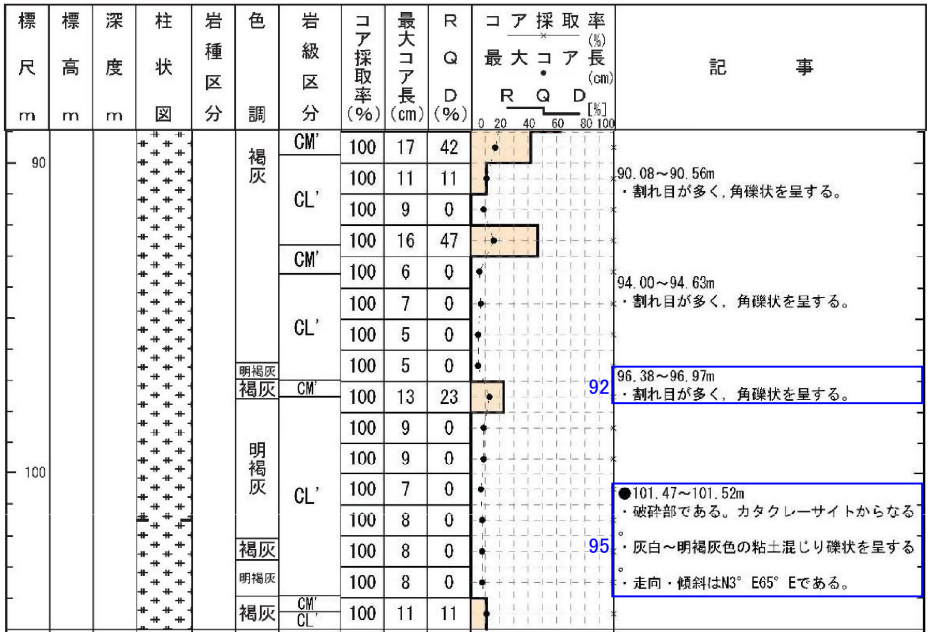
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
86，87	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
89	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
90	・砂質粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
91	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



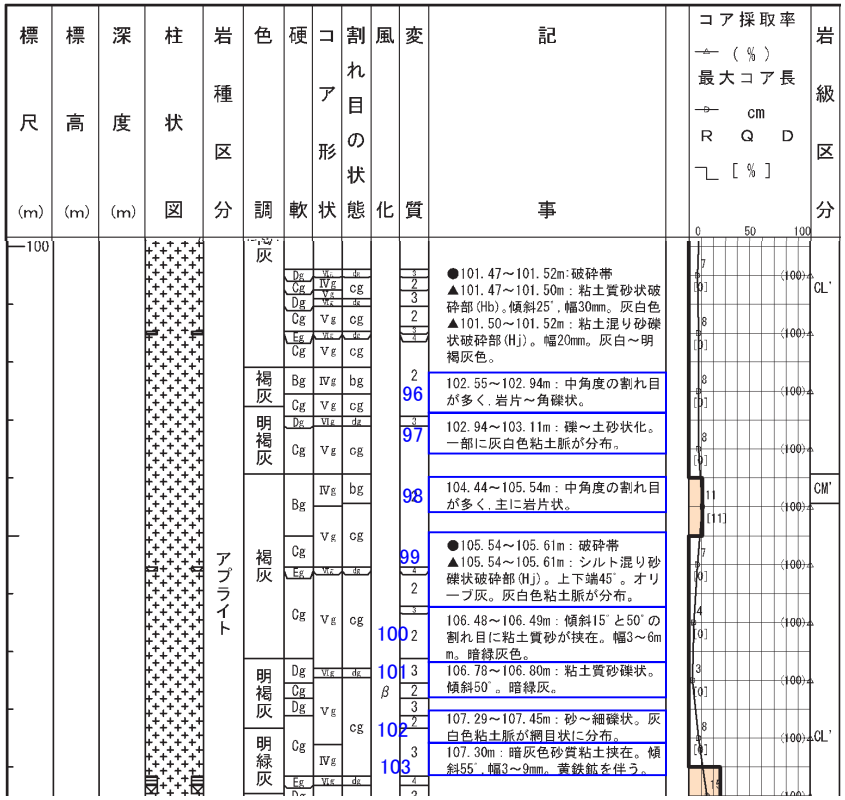
申請書用柱状図



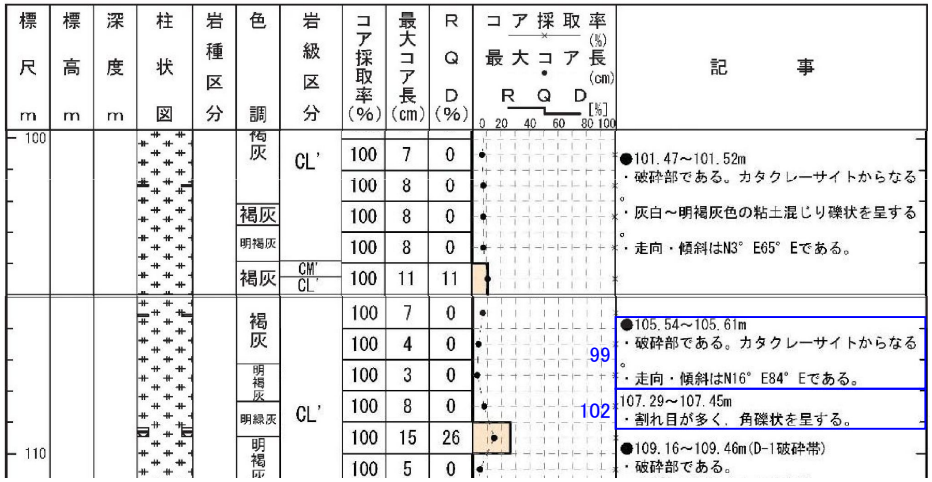
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
92	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
93	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
94	・割れ目の発達，変質の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
95	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・粒度として「粘土質砂状」の記載漏れ。※1 ・粒度，色調については，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



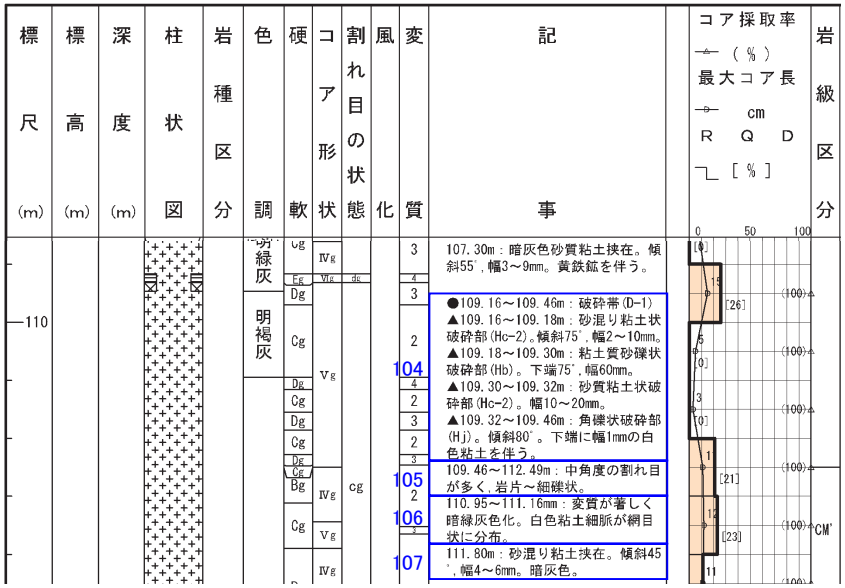
申請書用柱状図



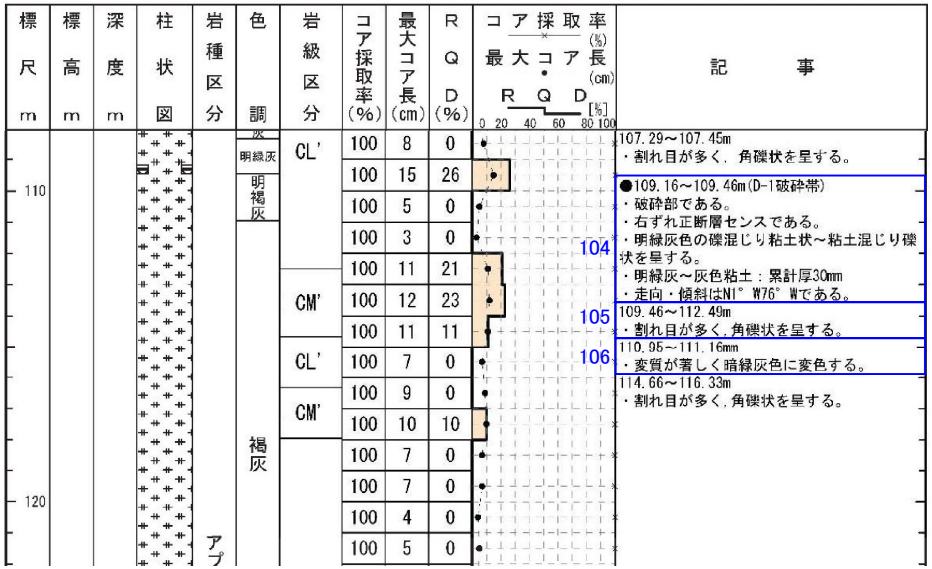
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
96	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
97	・礫～土砂状を呈し一部に粘土を含むが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
98	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
99	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・オリーブ灰色のシルト混り砂礫状を呈するの記載漏れ。※1 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。
100	・粘土質砂を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
101	・粘土質砂礫状を呈するが，連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
102	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
103	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



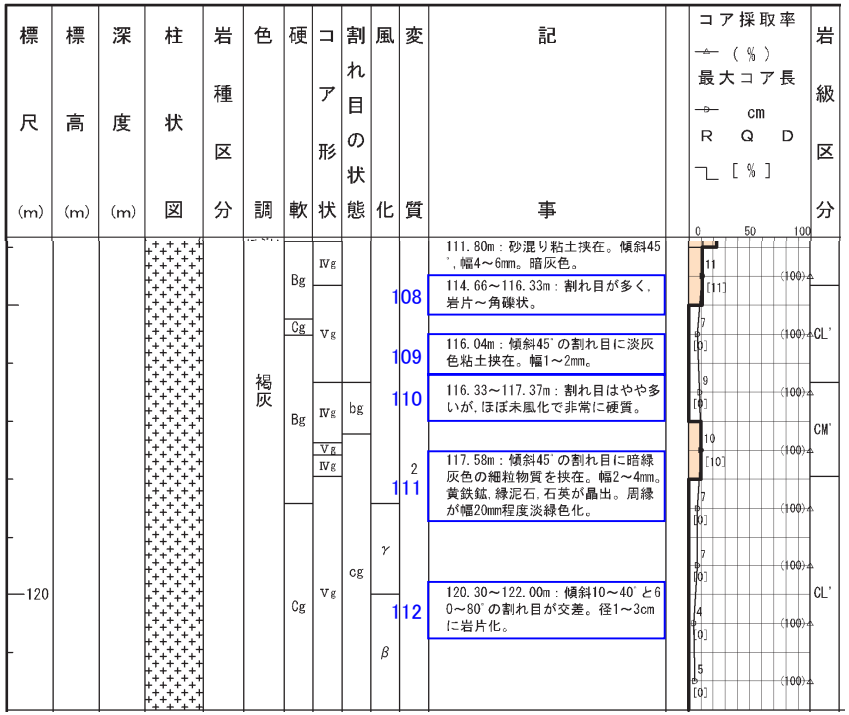
申請書用柱状図



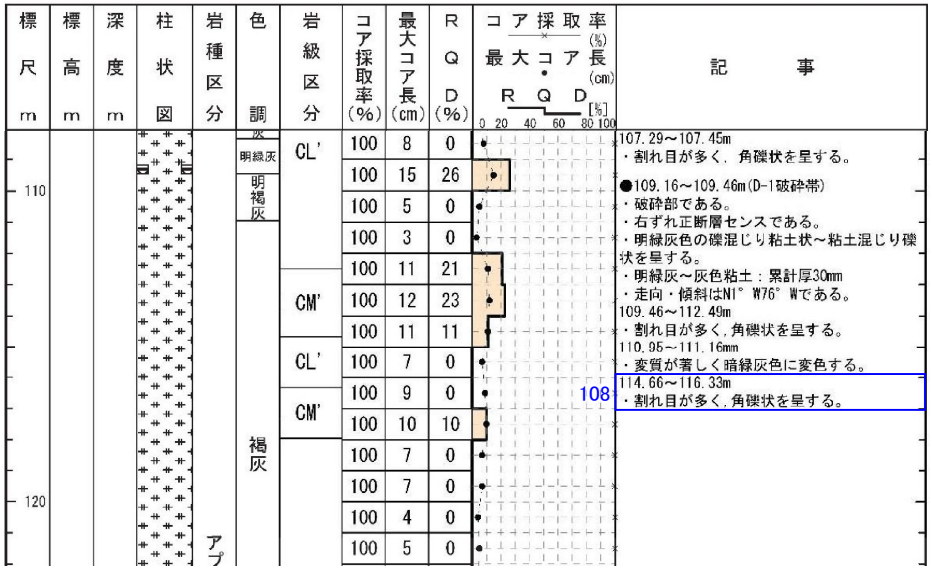
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
104	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・破砕部の深度，粒度，色調，粘土の累計幅について，申請前までに別途行っていた，地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。
105	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
106	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部に粘土を含むが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・110.95～111.16mmは110.95～111.16mの誤り。※2
107	・砂混じり粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



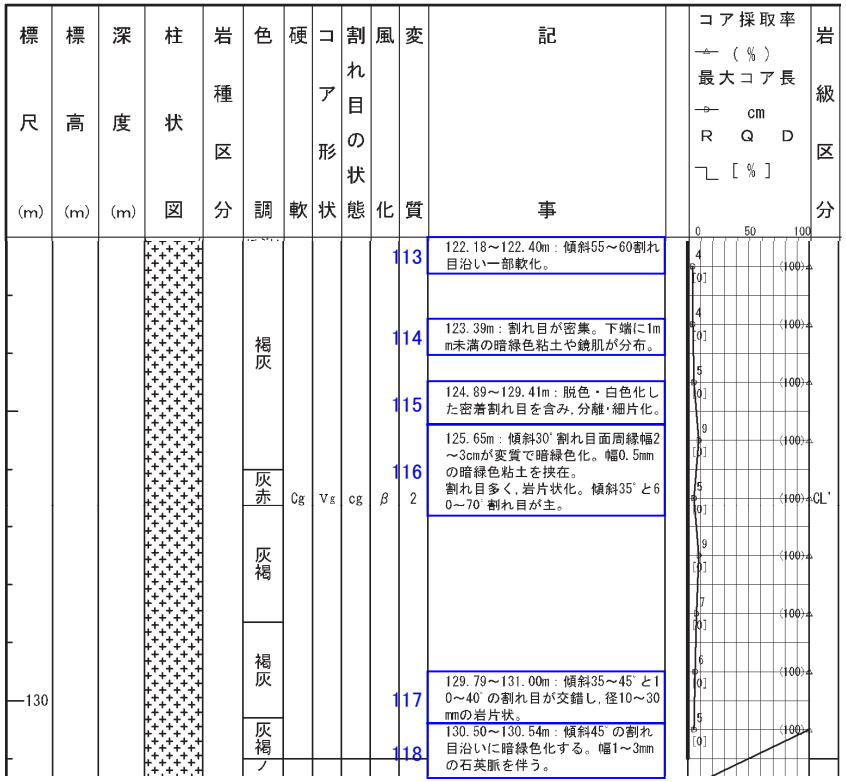
申請書用柱状図



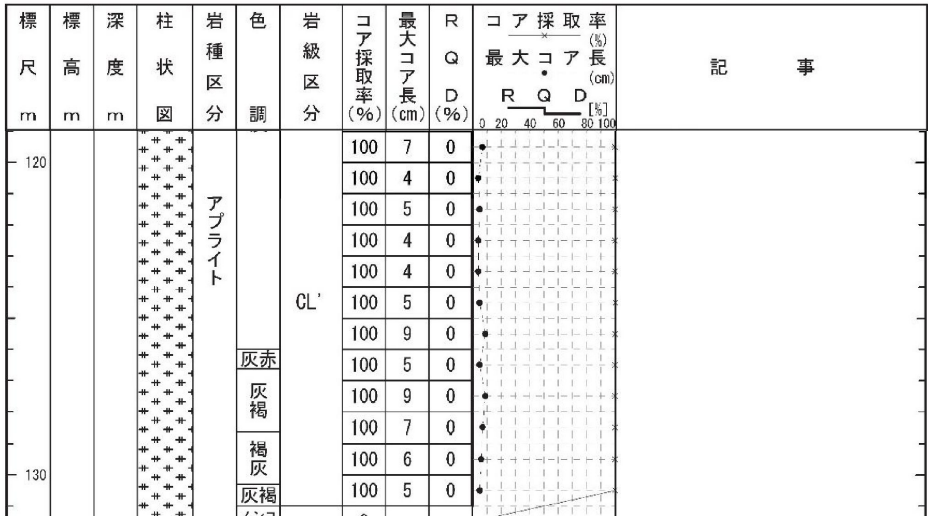
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
108	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
109	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
110	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
111	・細粒物質を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの鉱物晶出，変色については，補足的なものであるため削除。
112	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



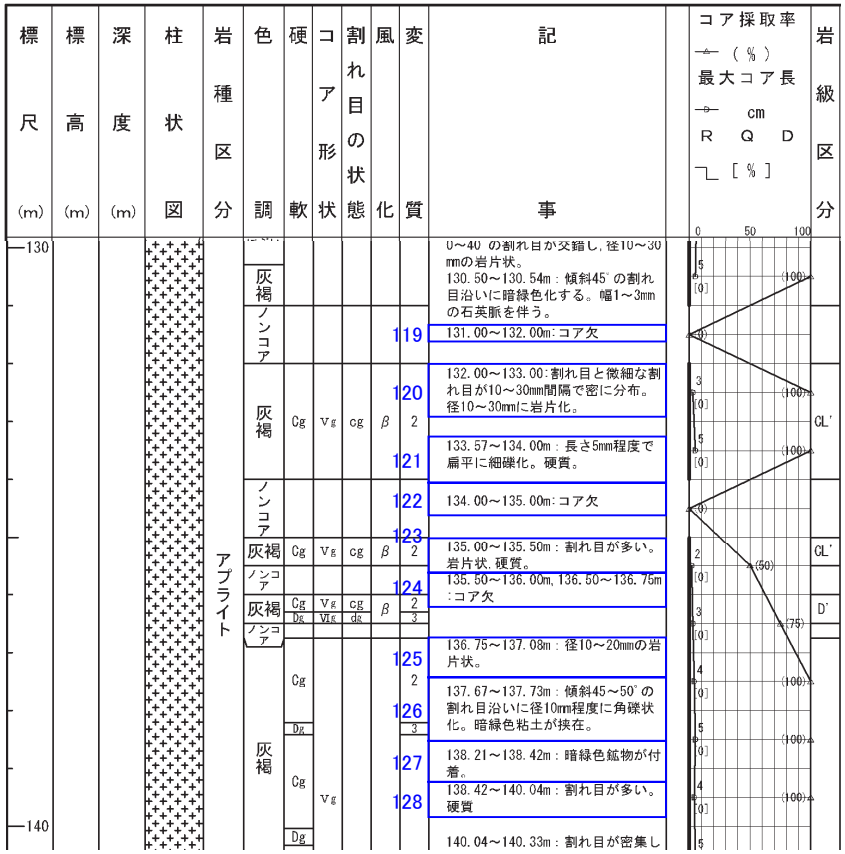
申請書用柱状図



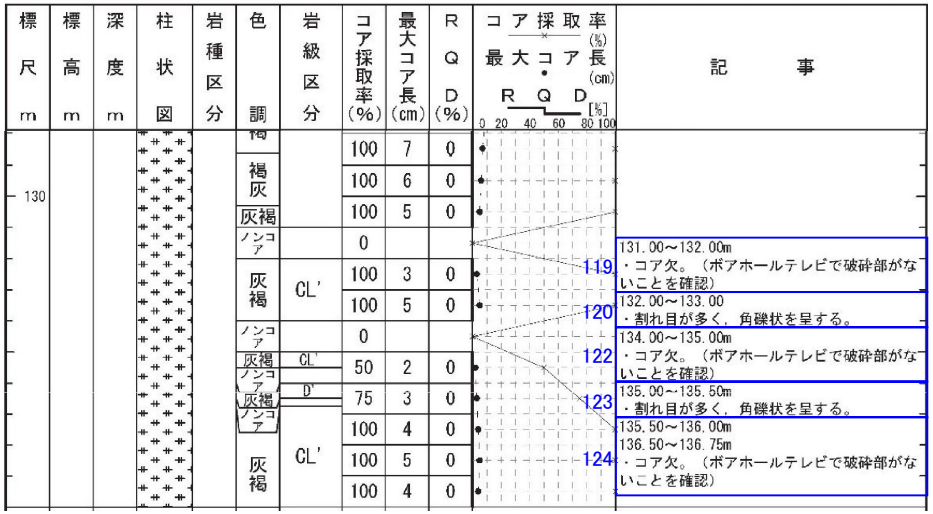
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
113	・割れ目沿いに軟質化しているが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
114	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土や鏡肌を伴うが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・変色については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
116	・割れ目の発達，変質の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目が発達し粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
117	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
118	・割れ目沿いの変色や鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



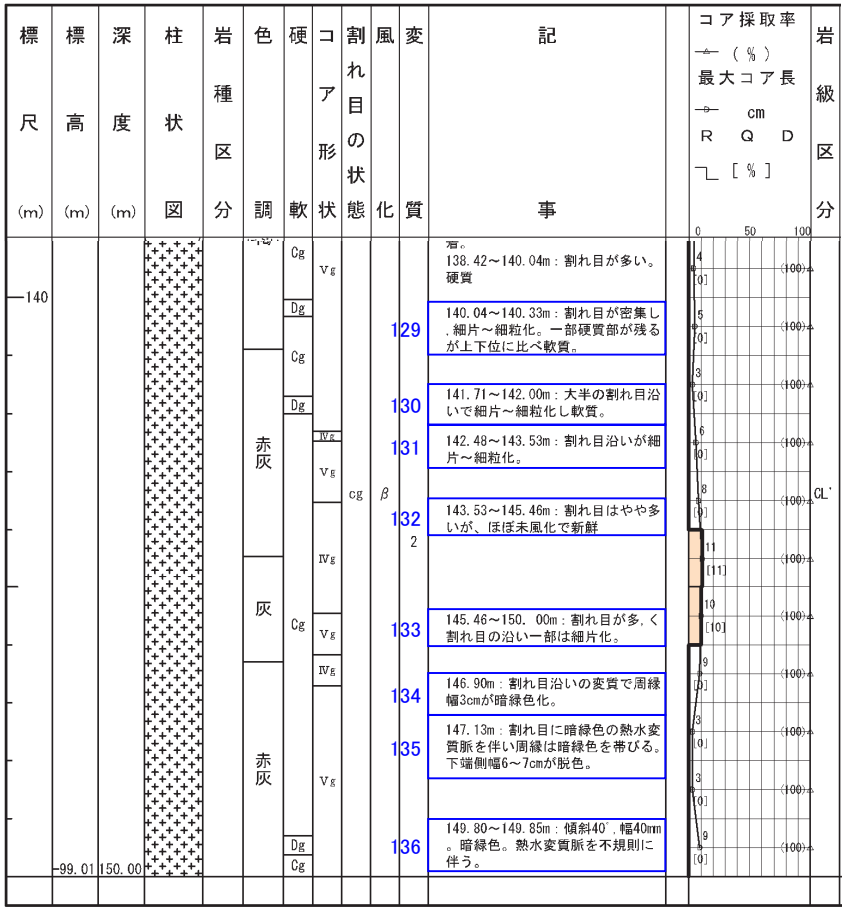
申請書用柱状図



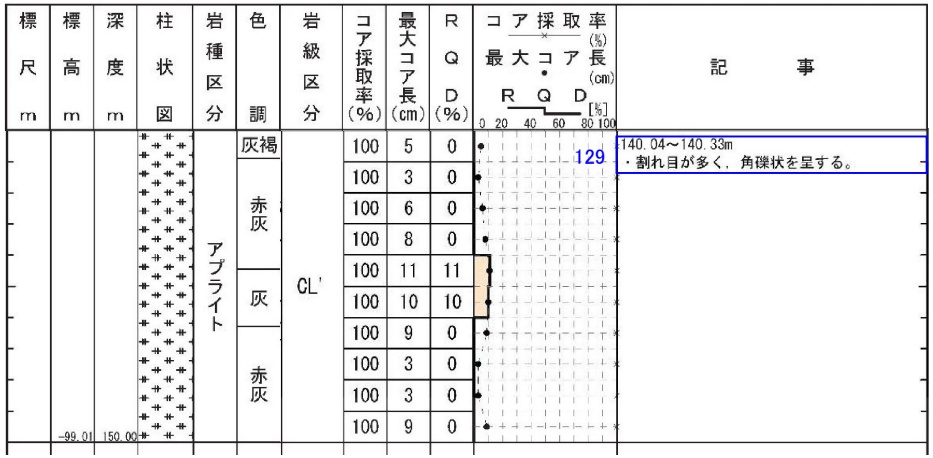
記事	報告書作成用柱状図（H26年9月）⇒申請書用柱状図
119	・ボアホールテレビの解析結果を踏まえ，破砕部がないことを確認と記載。
120	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・132.00～133.00は132.00～133.00mの誤り。※2
121	・細礫化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
122	・ボアホールテレビの解析結果を踏まえ，破砕部がないことを確認と記載。
123	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
124	・ボアホールテレビの解析結果を踏まえ，破砕部がないことを確認と記載。
125	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
126	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに角礫状化し粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
127	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
128	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H24-B14-2

報告書作成用柱状図
（H26年9月）



申請書用柱状図



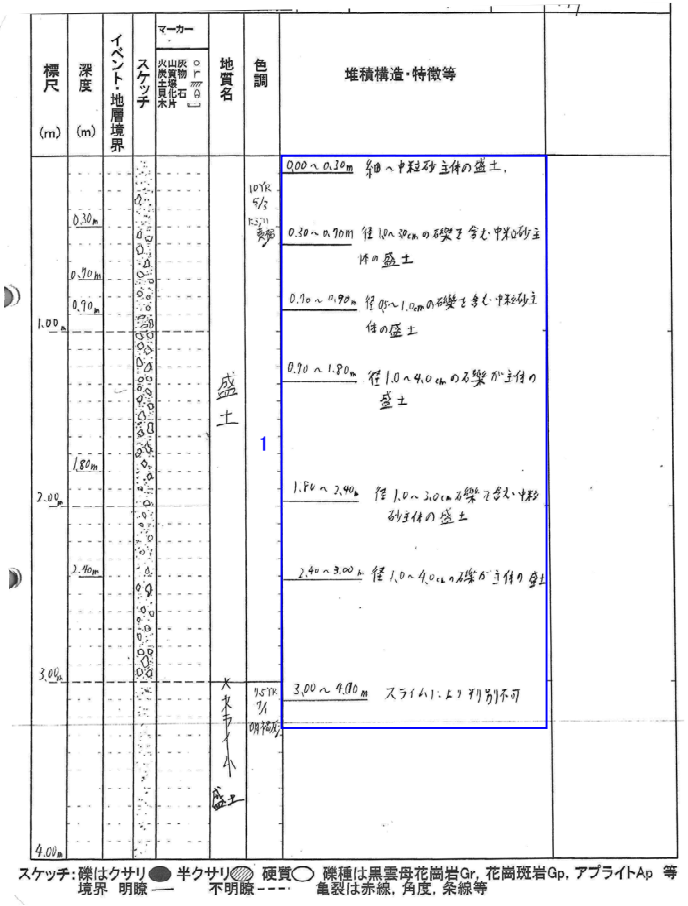
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
129	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
130	・割れ目沿いで細片～細粒化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
131	・割れ目沿いで細片～細粒化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
132	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
133	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
134	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
135	・熱水変質脈を伴うが，変色部やその周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
136	・熱水変質脈を伴うが，変色部の周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-1

余白

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）

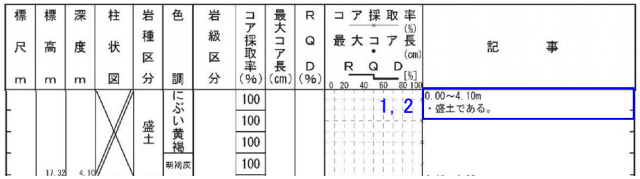


コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
0.00～0.30m 細～中粒砂主体の盛土 0.30～0.70m 径1.0～3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土 0.70～0.90m 径0.5～1.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土 0.90～1.80m 径1.0～4.0cmの礫が主体の盛土 1.80～2.40m 径1.0～3.0cm礫を含む中粒砂主体の盛土 2.40～3.00m 径1.0～4.0cmの礫が主体の盛土 3.00～4.00m スライムにより判別不可

1

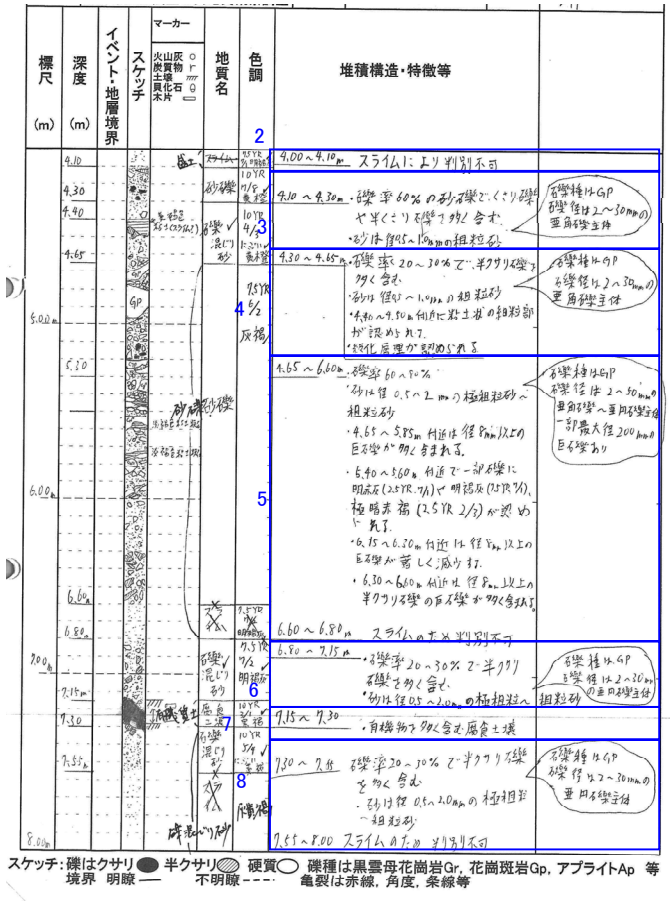
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1，2	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-1

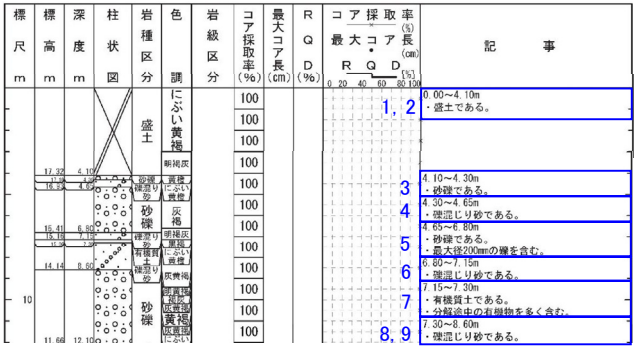
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
2	4.00～4.10m　スライムにより判別不可
3	4.10～4.30m ・礫率60%の砂礫でくさり礫や半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 礫種はGP 礫径は2～30mmの亜角礫主体
4	4.30～4.65m ・礫率20～30%で半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 ・4.40～4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる ・級化層理が認められる 礫種はGP 礫径は2～30mmの亜角礫主体
5	4.65～6.60m ・礫率60～80% ・砂は径0.5～2mmの極粗粒砂～粗粒砂 ・4.65～5.85m付近は径8mm以上の巨礫が多く含まれる ・5.40～5.60m付近で一部礫に明赤灰(2.5YR7/1)や明褐灰(7.5YR7/1)、極暗赤褐(2.5YR2/3)が認められる ・6.15～6.30m付近は径8mm以上の巨礫が著しく減少する ・6.30～6.60m付近は径8mm以上の半クサリ礫の巨礫が多く含まれる 礫種はGP 礫径は2～50mmの亜角礫から亜円礫主体一部最大径200mmの巨礫あり 6.60～6.80m　スライムのため判別不可
6	6.80～7.15m ・礫率20～30%で半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 礫種はGP 礫径は2～30mmの亜円礫主体
7	7.15～7.30 ・有機物を多く含む腐植土壌
8	7.30～7.55 ・礫率20～30%で半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 礫種はGP 礫径は2～30mmの亜円礫主体 7.55～8.00　スライムのため判別不可

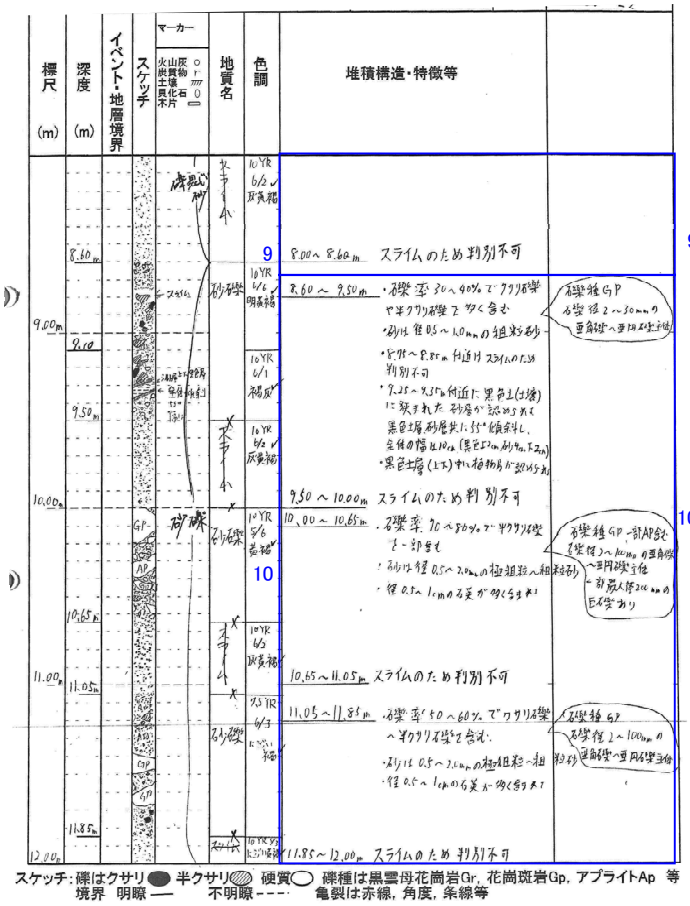
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1，2	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
3	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
4	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
5	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，最大礫径を記載。
6	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲との違いが見かけ上顕著ではないため，周囲と区別できる特徴として，分解途中の有機物を多く含むことを記載。 ・表現の見直し（有機物を多く含む腐植土壌→分解途中の有機物を多く含む）
8，9	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）

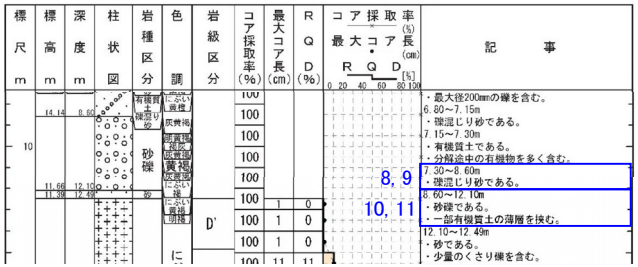


スケッチ：礫はクサリ● 半クサリ◍ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr，花崗斑岩Gp，アプライトAp 等
境界 明瞭 ― 不明瞭 - - - 亀裂は赤線，角度，条線等

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
	9
8.00～8.60m　スライムのため判別不可	
8.60～9.50m ・礫率30～40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 ・8.75～8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25～9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に55° 傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2～30mmの亜角礫～亜円礫主体	
9.50～10.00m　スライムのため判別不可	
10.00～10.65m ・礫率70～80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2～100mmの亜角礫～亜円礫主体一部最大径200mmの巨礫あり	10
10.65～11.05m　スライムのため判別不可	
11.05～11.85m ・礫率50～60%でクサリ礫～半クサリ礫を含む ・砂は0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2～100mmの亜角礫～亜円礫主体	
11.85～12.00mスライムのため判別不可	

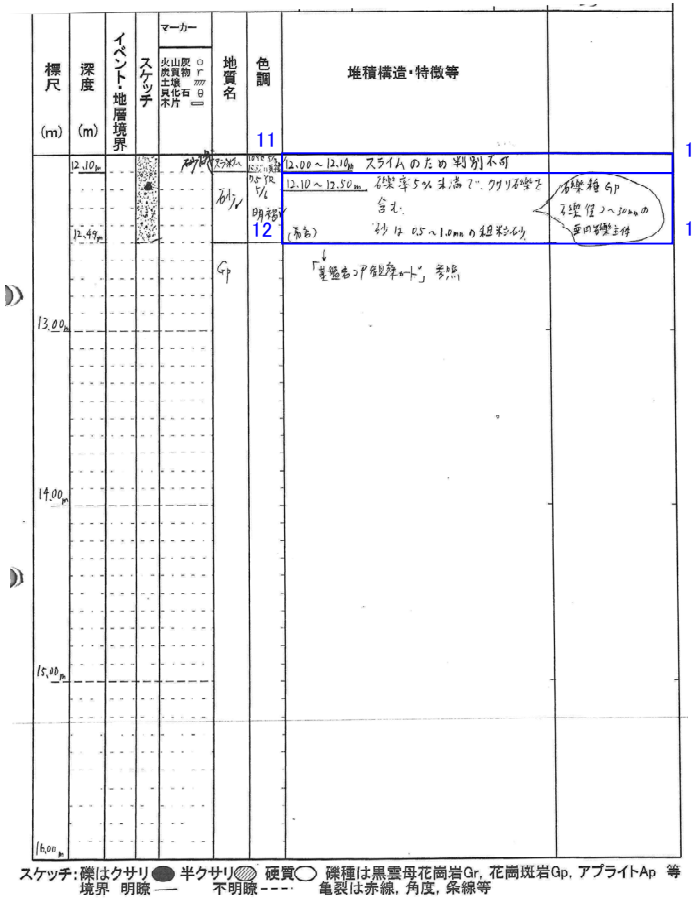
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
9	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
10，11	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・区間内で特異な色調を示し，目立つことから，有機質土の薄層について記載。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



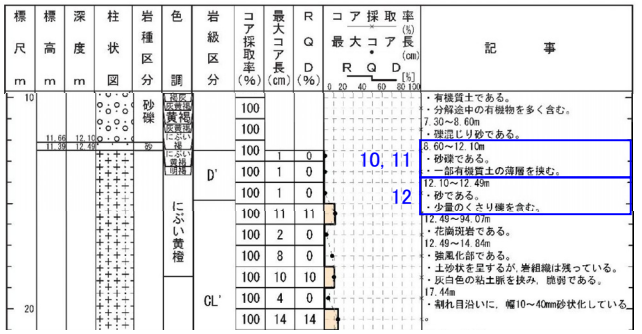
コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

11
12.00～12.10m スライムのため判別不可
12.10～12.50m
礫率5%未満でクサリ礫を含む
砂は0.5～1.0mmの粗粒砂
礫種GP
礫径2～30mmの亜円礫主体
(着岩)

12

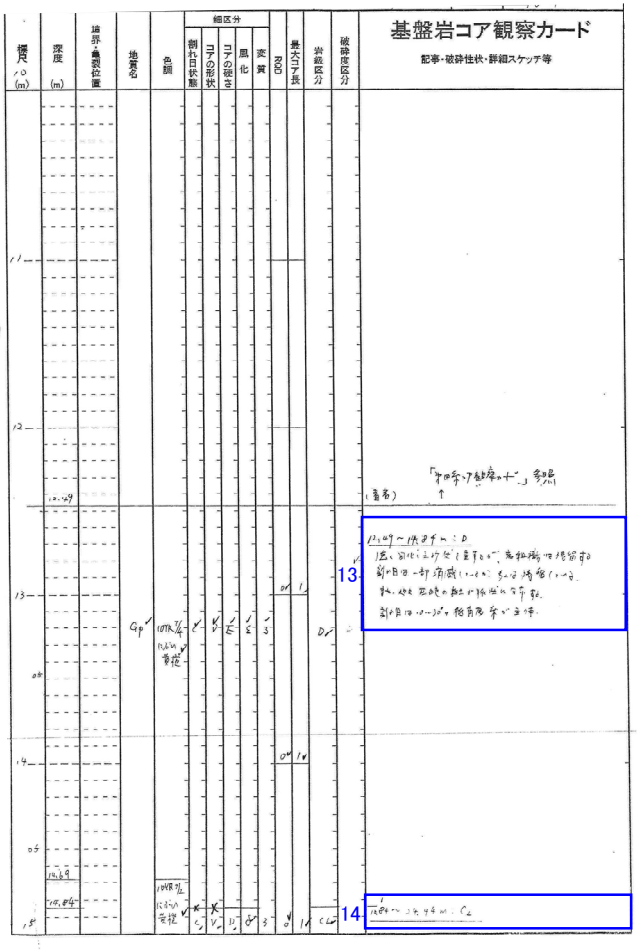
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
10, 11	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
12	・堆積物の記載は，盛土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・下端深度12.50m→12.49m※3 ・少量含まれる礫が比較的大きく，目立つため，くさり礫について記載。

H27-B-1

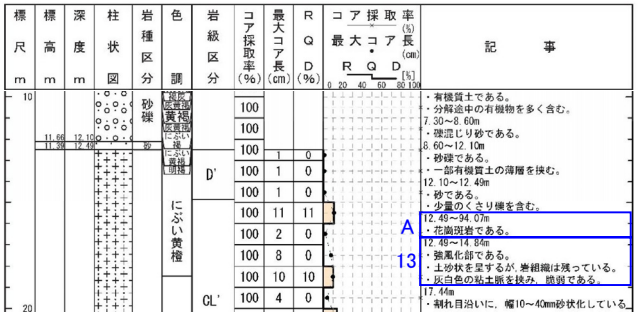
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
（着岩）	
12.49～14.84m：D 強く風化し土砂状を呈するが，岩組織は残留する 割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している また処々灰白色の粘土が脈状に分布する 割れ目は10～30° の低角度系が主体	13
14.84～24.44m：CL	14

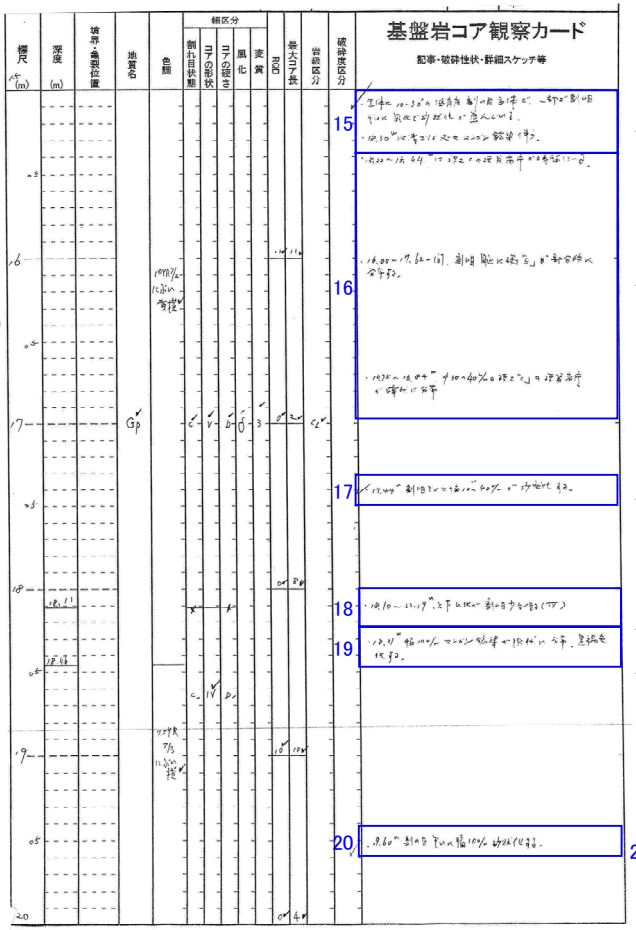
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその区間を記載。
13	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
14	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
15	・全体に10～30°の低角度割れ目主体で，一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以浅では処々マンガン鉱染伴う。 15.22～15.44mは硬さCの硬質岩片が残留している
16	16.00～17.62m間　割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する 16.75～16.84m　φ30～40 m/mの硬さ「C」の硬質岩片が礫状に分布
17	17.44m　割れ目ぞいに幅10～40m/mが砂状化する
18	18.10～22.19m　上下に比べ割れ目少なくなる(Ⅳ)
19	18.31m　幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する
20	19.60m　割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する

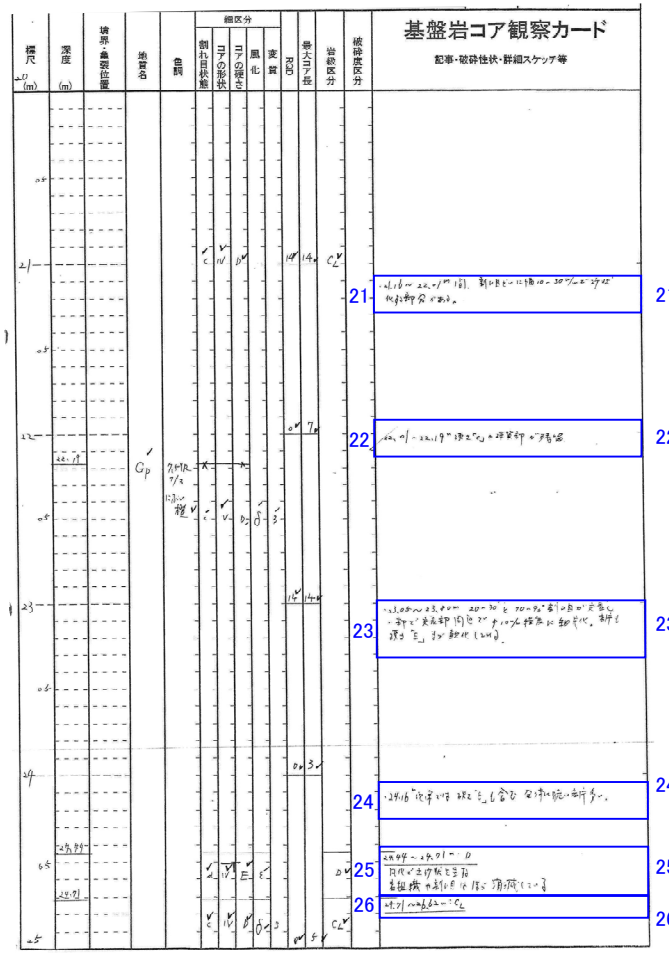
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
15	・全体に砂状化が進んでいるとの記載があるが，顕著な劣化部については，個別に別途記載することとしているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
16	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
17	・変更なし
18	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。
19	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
20	・割れ目沿いに砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-1

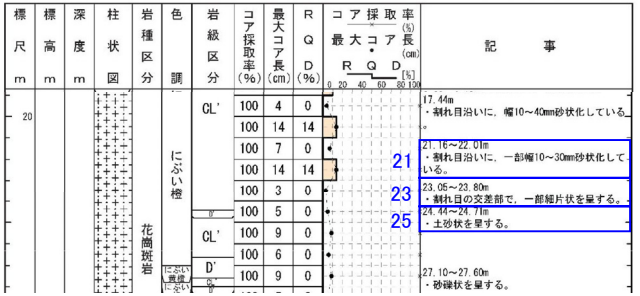
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
21	21.16～22.01m間　割れ目ぞいに幅10-30m/mで砂状化する部分がある
22	22.01～22.19m　硬さ「C」の硬質部が残留
23	23.05～23.80m　20-30°と70-90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している
24	24.16m以深では硬さ「E」も含む全体に脆い岩片多い
25	24.44～24.71m　D 風化で土砂状を呈する 岩組織や割れ目はほぼ消滅している
26	24.71～26.62m：CL

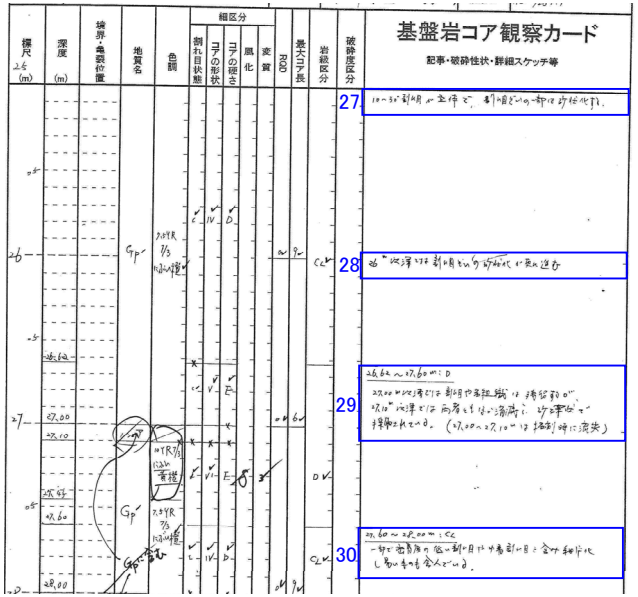
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
21	・変更なし
22	・局所的に挟まれる硬質な岩片の記載については，補足的なものであるため削除。
23	・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
24	・硬軟や脆弱さについては，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
25	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
26	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。

H27-B-1

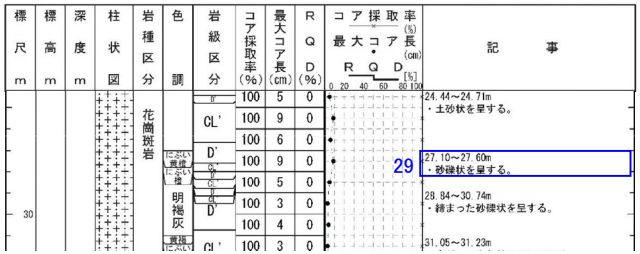
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
27	10～30° 割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する
28	26m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む
29	26.62～27.60m：D 27.00m以浅では割れ目や岩組織は残留するが27.10m以深では両者とも ほぼ消滅し砂礫状で採取されている。(27.00～27.10mは掘削時に流失)
30	27.60～28.00m：CL 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を含み細片化し易いものも含んで いる

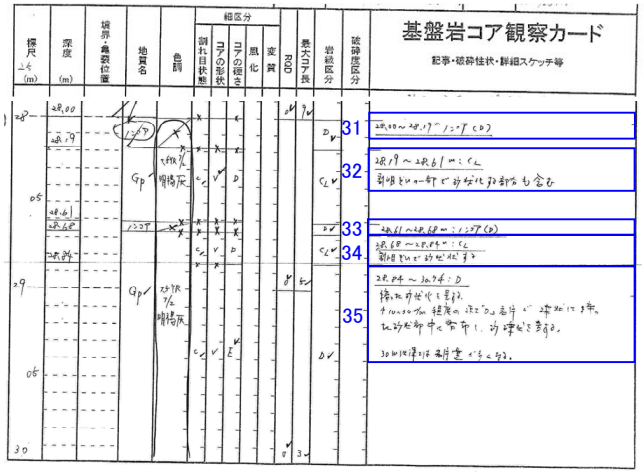
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
27	・一部割れ目沿いで砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
28	・一部割れ目沿いに砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
29	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・27.00～27.10mのコア流失区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。 ・割れ目や原岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
30	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

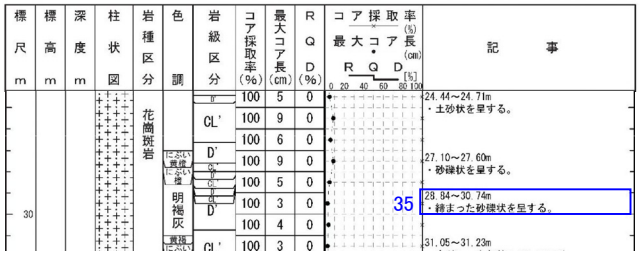
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
31	28.00～28.19m　ノンコア(D)
32	28.19～28.61m：CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む
33	28.61～28.68m　ノンコア(D)
34	28.68～28.84m：CL 割れ目ぞいで砂状化する
35	28.84～30.74：D 締った砂状化を呈する φ10～30m/m程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる

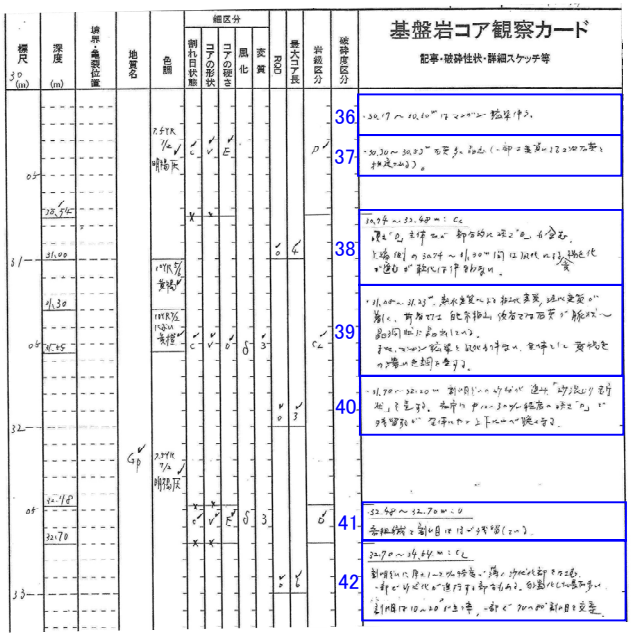
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
31	・コア欠区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。
32	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部の割れ目沿いに砂状化するが，いずれの砂状化部も連続性に乏しいことから削除。
33	・コア欠区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。
34	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
35	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・岩片量の傾向については，当該区間の周囲と明確な差異がないため削除。

H27-B-1

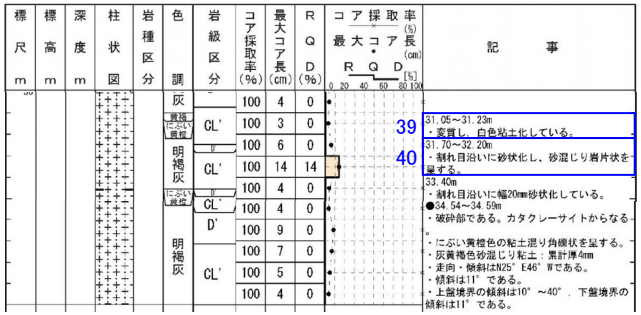
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
36	30.17～30.50mはマンガン鉱染伴う。
37	30.30～30.53m　石英多く晶出（一部は変質による2次石英と推定される）
38	30.74～32.48m：CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74～31.30m間は風化による黄褐色化が進むが軟化は伴なわない
39	31.05～31.23m　熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状～晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と風化も伴ない全体として黄褐色の濃い色調を呈する
40	31.70～32.20m　割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10～30m/m程度の硬さ「D」で残留するが全体にやゝ上下に比べ脆くなる
41	32.48～32.70m：D 岩組織と割れ目はほゞ残留している。
42	32.70～34.54m：CL 割れ目ぞいに厚さ1～2 m/m程度で薄く砂状化部をはさむ。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10～20° が主体、一部で70～80° 割れ目と交差

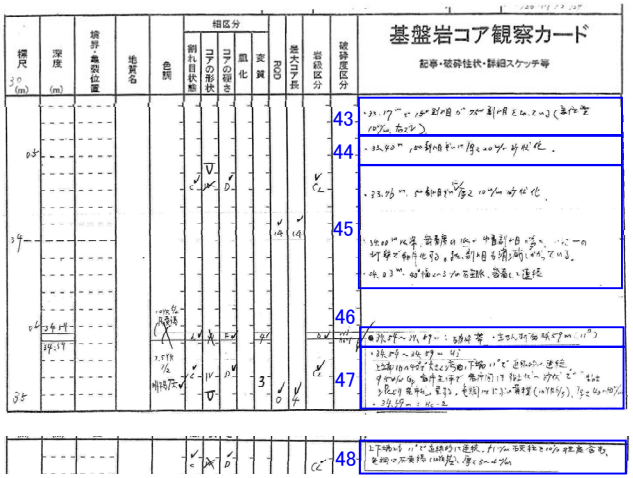
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
36	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
37	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
38	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
39	・鉱物の晶出やマンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
40	・砂混じり岩片状部の岩片の粒径，硬軟については，補足的なものであるため削除。
41	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
42	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部で砂状化が見られるが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

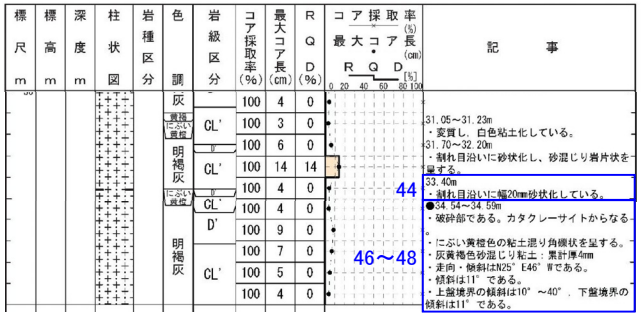
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
43	33.17m で15° 割れ目が75° 割れ目を切っている(変位量10 m/m、右ズレ)
44	33.40m　15° 割れ目ぞいに厚さ20 m/m砂状化
45	33.76m　5° 割れ目ぞいに厚さ10 m/m砂状化 34.00m以深、密着度の低いゆ着割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている 34.03m　40° 幅2～3 m/m石英脈、密着して連続
46	●34.54～34.59m　破砕帯・主せん断面34.59m（11° ）
47	34.54～34.59mHj 上端10～40° で大きく湾曲、下端11° で直線的に連続 φ5m/mGp岩片主体で岩片間は粘土状～砂状で「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR6/3)厚さ40-50m/m 34.59m：Hc-2
48	上下端とも11° で直線的に連続。φ1m/m石英粒を10%程度含む，色調は灰黄褐(10YR5/2)厚さ3～4m/m

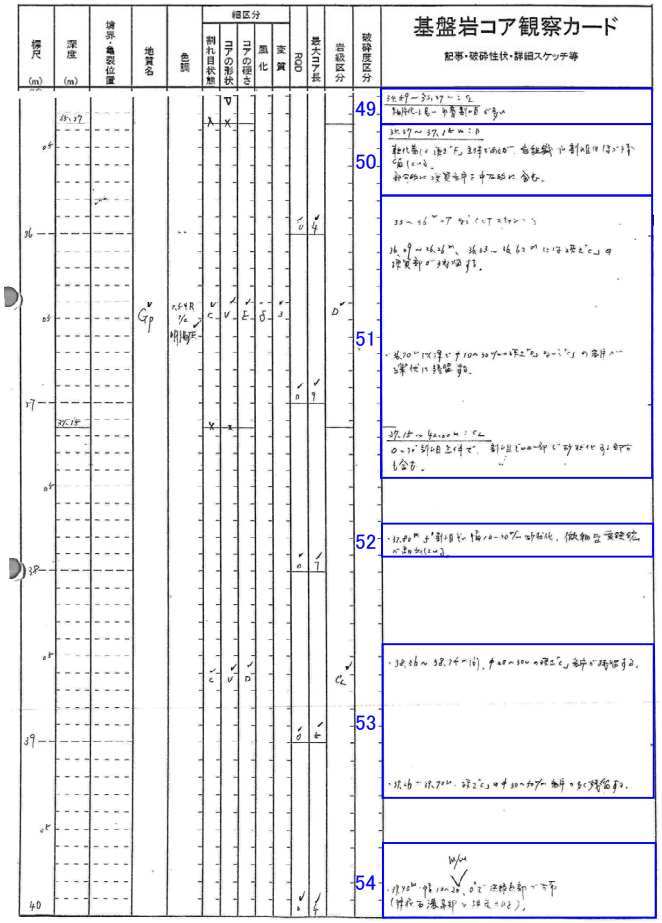
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
43	・15° 割れ目が75° 割れ目を切っているとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
44	・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
45	・割れ目沿いの砂状化については，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の密着度，鉱物脈については補足的なものであるため削除。 ・割れ目も消滅しかかっているとの記載については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・石英脈については，補足的なものであるため削除。
46～48	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混り角礫状） ・Φ1mm石英粒を10%程度含むとの記載に基づき，砂混り粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

49 34.59～35.37m：CL
細片化し易いゆ着割れ目が多い

50 35.37～37.15m：D
軟化著しく硬さ「E」主体であるが岩組織や割れ目はほゞ残留している。部分的に硬質岩片を中石的に含む

33-36mコアなし（CTスキャン？）

36.09～36.26m、36.53～36.62mには硬さ「C」の硬質部が残留する。

51 36.70m以深でφ10～30m/mの硬さ「D」ないし「C」の岩片が礫状に残留する。

37.15～42.00m：CL
0～30° 割れ目主体で、割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。

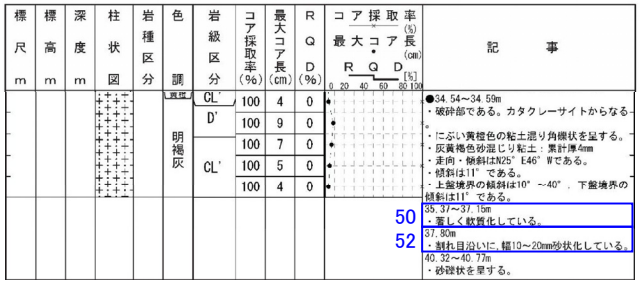
52 37.80m　5° 割れ目ぞい幅10～20m/m砂状化、微細な黄鉄鉱が晶出している。

38.56～38.74m間、φ20～30mの硬さ「C」岩片が残留する。

53 39.26～39.70m　硬さ「C」のφ30～50m/m岩片が多く残留する。

54 39.90m　幅10～20m/m、0° で淡緑色部が分布（緑泥石濃集部と推定される）。

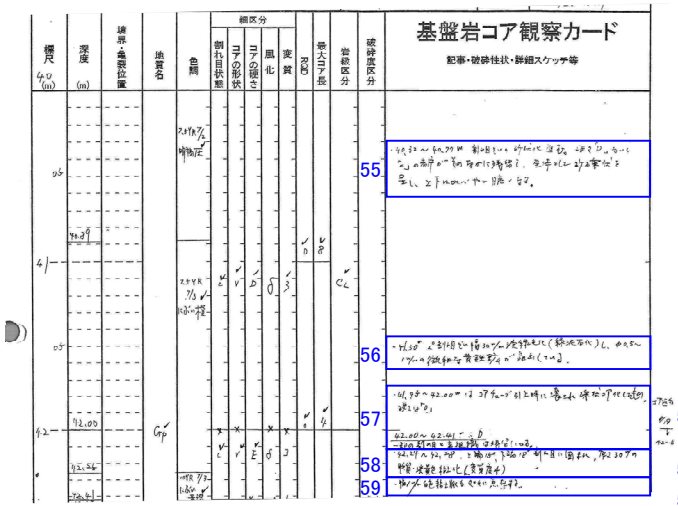
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
49	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
50	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度，中石的に含むとの記載については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
51	・33-36mコアなし（CTスキャンへ）との記載については，破砕部を含むコア箱を観察カード作成に先立ち，分析工程へ回したことをメモした補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，いずれの砂状化部も連続性や直線性に乏しいことから削除。
52	・割れ目の傾斜，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
53	・岩片が残留するとの記載については，軟質な区間中にみられる局所的な硬質部の存在を記述したものであり，補足的なものであるため削除。
54	・色調，鉱物の濃集については，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

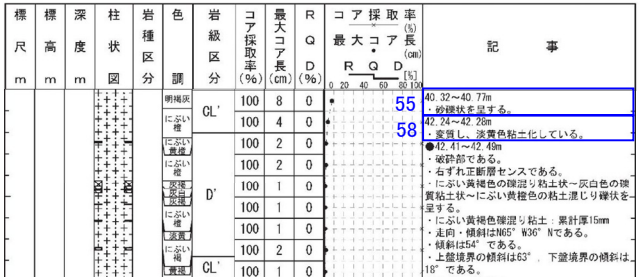
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
55	40.32～40.77m　割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂礫状を呈し、上下に比べやゝ脆くなる。
56	41.50m　2°　割れ目ぞい幅30m/m淡緑色化（緑泥石化）し、φ0.5～1m/mの微細な黄鉄鉱が晶出している。
57	41.95～42.00mはコアチューブ引上時に壊され礫状コア化したもの、硬さは「D」 42.00～42.41m：D 一部の割れ目と岩組織は残留している。
58	・42.24～42.28m、上端15°、下端18°　割れ目に囲まれ、厚さ30m/m軟質・淡黄色粘土化（変質度4）
59	・幅1m/m白色粘土脈も処々に点在する。

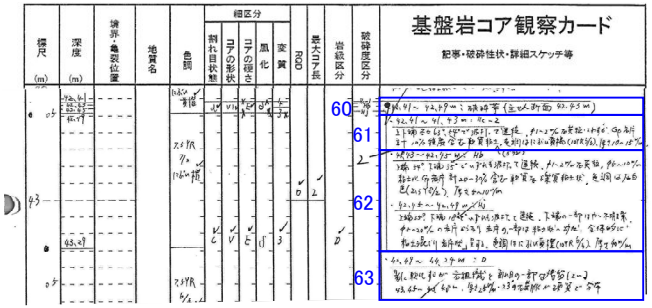
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
55	・割れ目沿いに砂状化するが，いずれの砂状化部も連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・砂礫状部を構成する岩片の硬軟については，補足的なものであるため削除。
56	・割れ目の傾斜，割れ目沿いの変色，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
57	・礫状コア化については，掘削時の機械割れによるものと判断し削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
58	・変質している区間の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・幅の記載については，区間長を記載しているため削除。
59	・一部で粘土脈を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-1

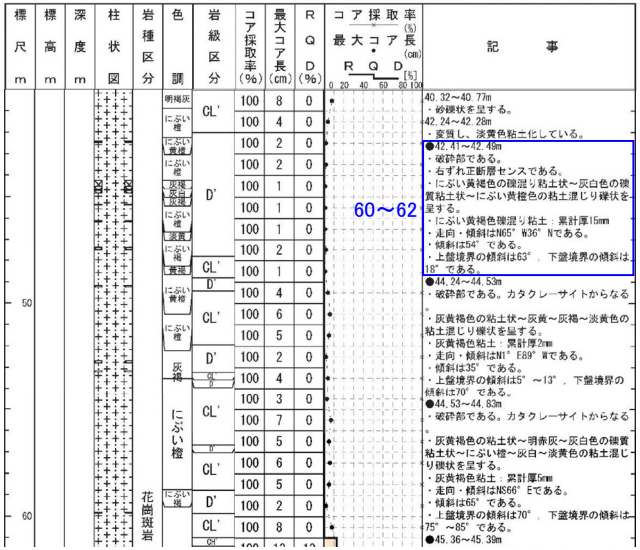
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
60	●42.41～42.49m：破砕帯（主せん断面42.43m）
61	42.41～41.43m：Hc-2 上下端各々63°、54°で波打って連続、φ1～2m/m石英粒はわずか、Gp岩片計10%程度含む軟質粘土（ガウジ）、色調はにぶい黄褐（10YR5/3）、厚さ10～15m/m
62	41.43～42.45m：Hb 上端54°、下端35°でいずれも波打って連続、φ1～2m/m石英粒、φ5～10m/m粘土化Gp岩片計20～30%含む軟質な礫質粘土状、色調は灰白色（2.5Y8/2）、厚さ5～10m/m 42.45～42.49m：Hj 上端35°、下端18°でいずれも波打って連続、下端の一部はやゝ不明瞭。φ5～20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状～砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙（10YR6/3）、厚さ40m/m
63	42.49～44.24m：D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。 43.45～43.48m　厚さ25m/m・23°の石英脈が硬質で分布

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
60～62	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Gp岩片計10%程度含むとの記載に基づき，礫混り粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
63	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・石英脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

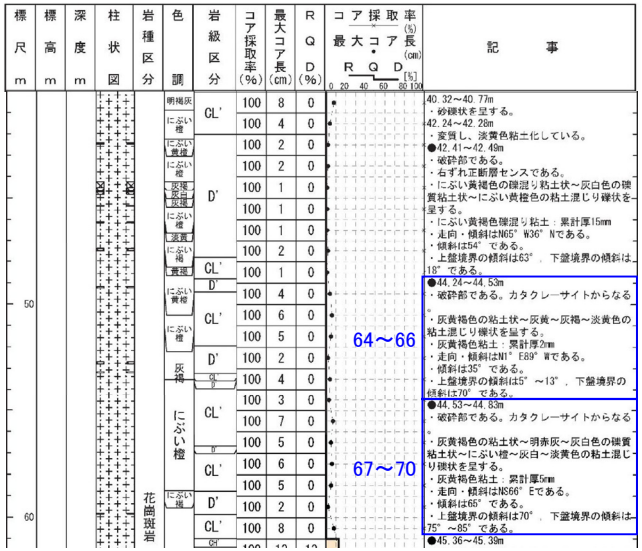
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
64	●44.24～44.53m：破砕帯（主せん断面44.31m）
65	44.24～44.31m：Hb 上端、幅1m/m灰赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で少し湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、φ5～10m/m（最大25m/m）Gp岩片を30%程度含む半固結状の「礫質粘土」、色調は灰黄（2.5Y7/2）、厚さ45～65m/m。
66	44.31m：Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続、φ1m/mの石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質な粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐色（10YR4/2）、厚さ1～2m/m 44.31～44.53m：Hj 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状～網状粘土脈からなる　粘土混じり岩片状からなる。色調は灰褐（7.5Y6/2）～淡黄（2.5Y8/3）、厚さ140～200m/m
67	●44.53～44.83m：破砕帯（主せん断面44.66m）
68	44.53～44.66m：Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5～10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土（脈状主体）からなり粘土混じり岩片状を呈する。 色調はにぶい橙（7.5YR7/4）～灰白色（2.5Y8/2）、厚さ55m/m。 44.66～44.68m：Hc-1 55°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量
69	（5%以下）含む軟質粘土（ガウジ）、上下端側に主せん断面と同方向に幅1～2m/m、長さ5～10m/mの脈状のマンガン鉱染部を伴う。 色調は灰黄褐色（10YR4/2）、厚さ4～5m/m 44.68～44.70m：Hb 上端65°で一部波打って、下端50～70°で湾曲して連続。φ2m/m石英粒φ3～5m/m粘土化岩片を計20～30%含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰（2.5Y7/2）～灰白色（5YR8/1）、厚さ10～20m/m
70	44.70～44.83m：Hj 上端50～70°、下端75～85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色（10YR4/2）軟質粘土脈。φ5～10m/m粘土化岩片と岩片間の脈状～網状白色～浅黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐（7.5YR6/2）～淡黄色（2.5Y8/3）、厚さ20～50m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。

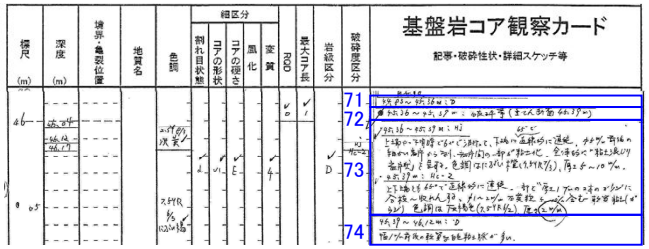
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
64～66	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
67～70	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

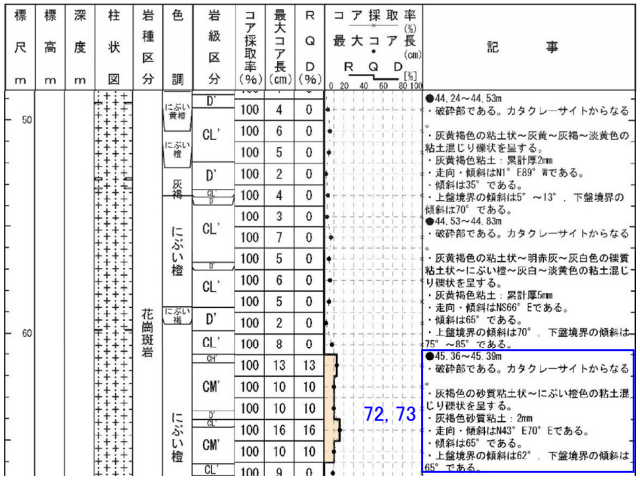
71 44.83～45.36m：D

72 ●45.36～45.39m：破砕帯（主せん断面45.39m）

73 45.36～45.39m：Hj
上端やゝ不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m/m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙（7.5YR7/3）、厚さ5～10m/m。
45.39m：Hc-2
上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝～収れんする。φ1～2m/m石英粒5～10%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰褐色（7.5YR6/2）、厚さ2m/m

74 45.39～46.12m：D
幅1m/m前後の軟質な白色粘土脈が多い。

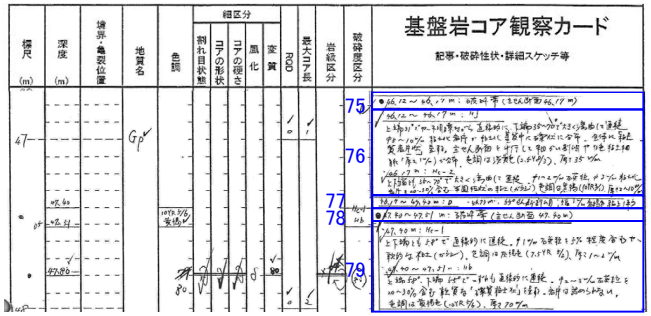
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
71	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。
72，73	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ1～2mmの石英粒5～10%含むとの記載があるが，より径の小さい砂粒子も含むため，砂質粘土状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
74	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・粘土脈については，いずれも直線性や連続性に乏しいことから削除。

H27-B-1

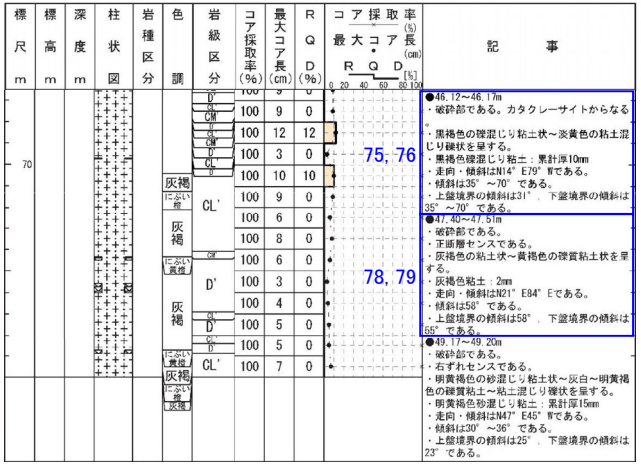
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
75	●46.12～46.17m：破砕帯（主せん断面46.17m）
76	46.12～46.17m：Hj 上端31°でやゝ不明瞭ながら直線的に、下端35～70°で大きく湾曲して連続。φ5～10m/m粘土化岩片が粘土化基質中に礫状に分布。全体に「粘土質岩片状」呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈「厚さ1m/m」が分布。色調は淡黄色（2.5Y8/3）、厚さ35m/m 46.17m：Hc-2 上下端とも35～70°で大きく湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の粘土（ガウジ）、色調は黒褐（10YR3/1）、厚さ2～10m/m
77	46.17～47.40m：D 46.73m、55°せん断割れ目：幅1m/m赤褐色粘土伴う。
78	●47.40～47.51m：破砕帯（主せん断面47.40m）
79	47.40m：Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。φ1m/m石英粒を5%程度含むやゝ軟弱な粘土（ガウジ）。色調は灰褐色（7.5YR5/2）、厚さ1～2m/m 47.40～47.51m：Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2～3m/m石英粒を20～30%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。岩片は認められない。 色調は黄褐色（10YR5/6）、厚さ70m/m

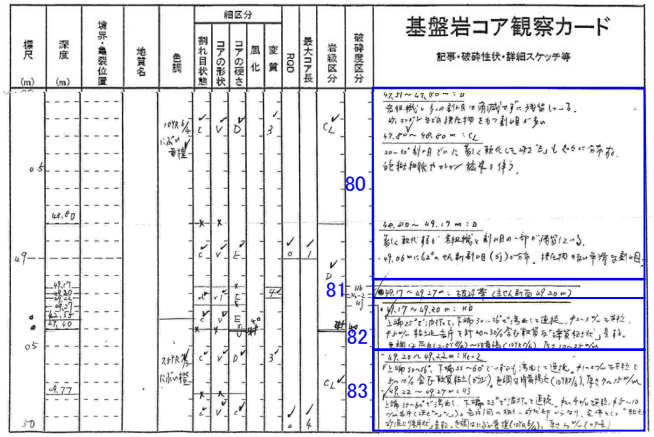
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
75，76	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土質岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ1～2mmの石英粒，Φ3mm粘土化岩片を20～30%含むとの記載があるが，粘土化岩片と基質の粘土との境界が不明瞭であることから，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
77	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・粘土を挟在するが，直線性に乏しいことから削除。 ・せん断割れ目については，粘土の連続性に乏しく，変位基準も不明瞭で，周囲の割れ目と差異が認められないことから削除。
78，79	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

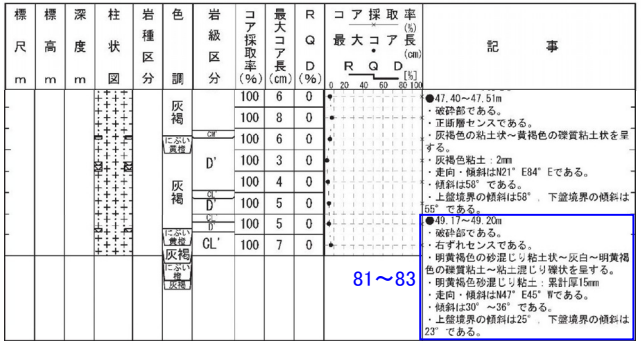
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
80	47.51～47.80m：D 岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。 砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。 47.80～48.80m：CL 20～30° 割れ目ぞいに著しく軟化した硬さ「E」も処々に分布する。 白色粘土細脈やマンガン鉱染を伴う。 48.80～49.17m：D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 ・49.06mに62° のせん断割れ目（sj）が分布。挟在物のない平滑な割れ目。
81	●49.17～49.27m：破砕帯（主せん断面49.20m）
82	49.17～49.20m：Hb 上端25° で波打って、下端30～36° で湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片を計20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。 色調は灰白（2.5Y8/2）～明黄褐（10YR7/6）、厚さ10～25m/m。
83	49.20～49.22m：Hc-2 上端30～36° 、下端35～60° でいずれも湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒を5～10%含む軟質粘土（ガウジ）、色調は明黄褐色（10YR7/6）、厚さ7～15m/m 49.22～49.27m：Hj 上端35～60° で湾曲し、下端23° で波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5～10m/m岩片（硬さ「D」「C」）と岩片間の粘土～砂状部からなり、全体として「粘土-砂混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙（10YR6/4）、厚さ50m/m（コア長）

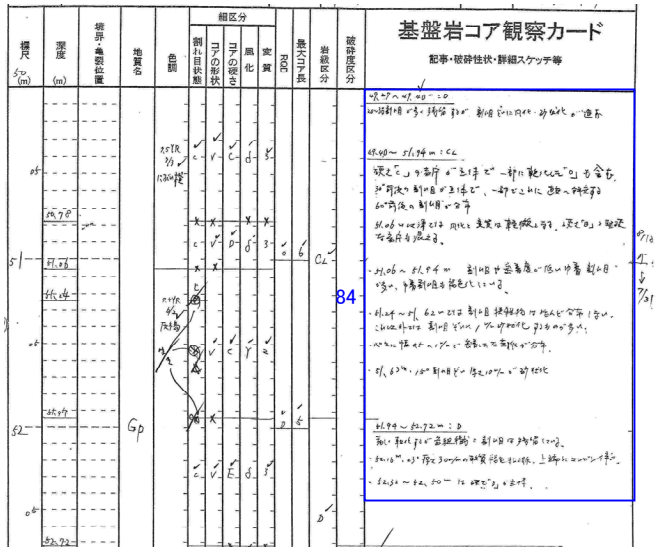
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
80	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部で砂や粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜，マンガン，割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・せん断割れ目との記載があるが，割れ目が不明瞭で，周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから削除。
81～83	・深度49.17～49.27m→49.17～49.20m（ただし，申請後の再観察で49.17～49.22mが正。※2深度の見直しに伴い，下端境界の傾斜も修正。※4） ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土・砂混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ1～2mm石英粒を5～10%含むとの記載に基づき，砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，破砕部の硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

84

記事内容

49.27～49.40m：D
20～30° 割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化・砂状化が進む

49.40～51.94m：CL
硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む、30° 前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交～斜交する60° 前後の割れ目が分布
51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混える。

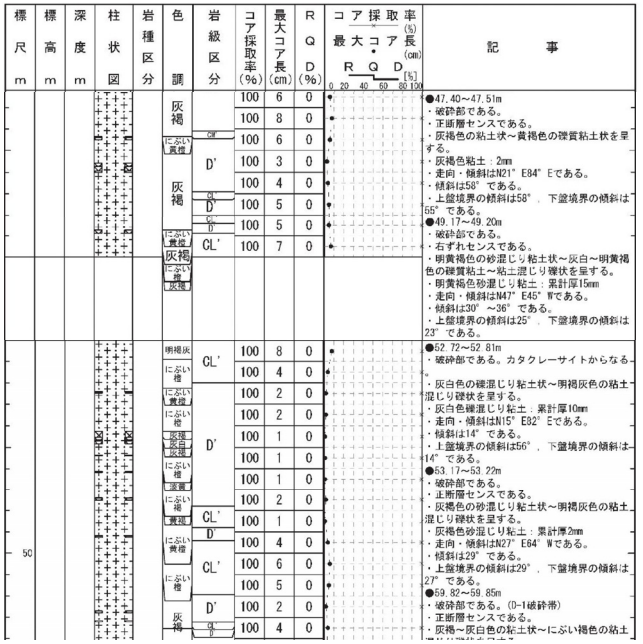
51.06～51.94m 割れ目や密着度が低いゆ着割れ目が多い、ゆ着割れ目も褐色化している。

51.24～51.62mでは割れ目挟雑物は殆んど分布しない。
これ以外では割れ目ぞいに1m/m砂状化するものが多い。
処々に幅0.5～1m/mで密着した石英脈が分布。

51.63m、15° 割れ目ぞい厚さ10m/mが砂状化

51.94～52.72m：D
著しく軟化するが岩組織と割れ目は残留している。
52.16m、23° 厚さ30m/mの軟質褐色粘土脈、上端にマンガン伴う。
52.32～52.50mは硬さ「D」が主体。

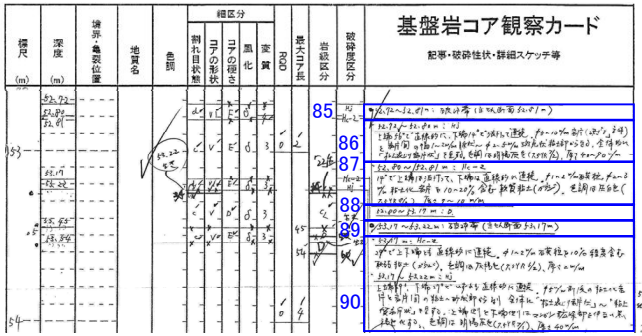
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
84	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留状況については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。 ・硬軟，風化や変質を伴う岩盤の劣化については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状況，色調，割れ目の挟在物の有無，鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。

H27-B-1

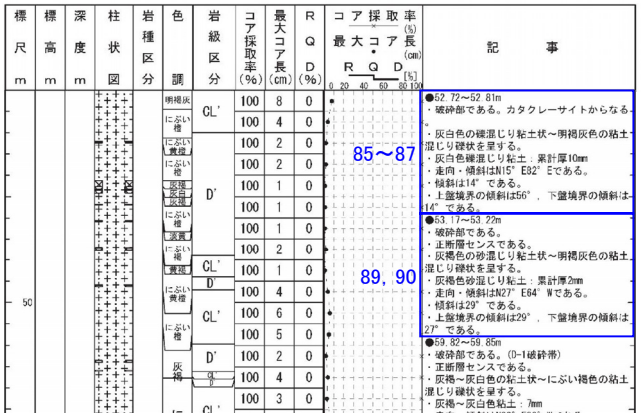
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
85	●52.72～52.81m：破砕帯（主せん断面52.81m）
86	52.72～52.80m：Hj 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。φ5～10m/m岩片（硬さ「D」主体）と岩片間の幅1～2m/m脈状～φ2～5m/m斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐灰色（7.5YR7/2）、厚さ40～90m/m
87	52.80～52.81m：Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～2m/m石英粒、φ2～3m/m粘土化岩片を10～20%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰白色（7.5YR8/2）、厚さ7～10m/m
88	52.80～53.17m：D
89	●53.17～53.22m：破砕帯（主せん断面53.17m）
90	53.17m：Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1～2m/m石英粒を10%程度含む軟弱粘土（ガウジ）。色調は灰褐色（7.5YR6/2）、厚さ2m/m 53.17～53.22m:Hj 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」～「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐灰色（7.5YR7/1）、厚さ40m/m。

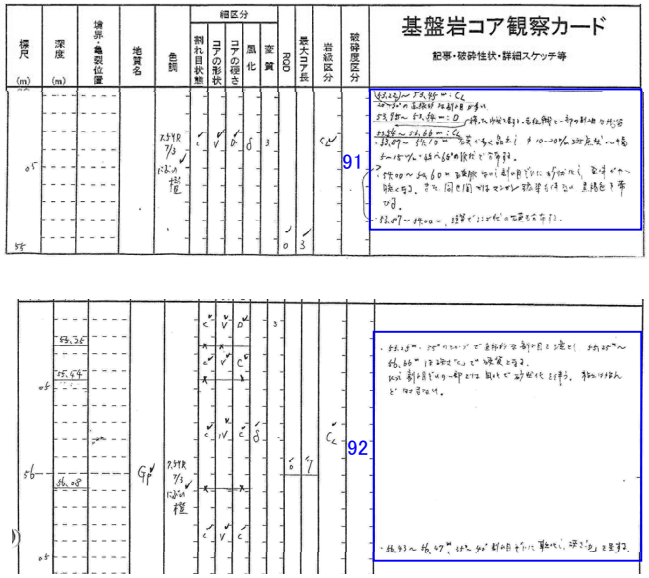
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
85～87	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ1～2mmの石英粒，Φ2～3mm粘土化岩片を10～20%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
88	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。
89，90	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状～粘土質礫状→粘土混じり礫状） ・Φ1～2mm石英粒を10%程度含むとの記載に基づき，砂混じり粘土状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

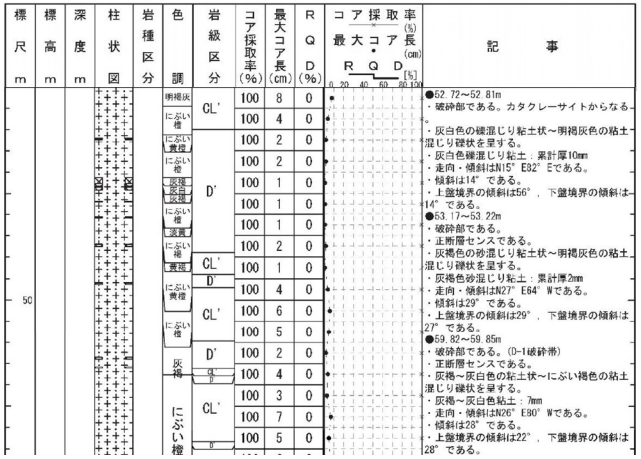
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
91	53.22～53.45m：CL 20～30° の直線的な割れ目が多い。 53.45～53.54m：D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54～56.66m：CL 53.87～54.10m　石英が多く晶出しφ10～20m/m斑点状～幅5～15m/m・45～65° の脈状で分布する。 54.00～54.60m　石英脈ないし割れ目ぞいに砂状化し、全体がやゝ脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。 53.87～54.00m　珪質でレンズ状の石英も分布する。
92	55.25m　55° のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m～56.66mは硬さ「C」で硬質となる。 たゞし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどはさまない。 56.43～56.47m　35° ～40° 割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。

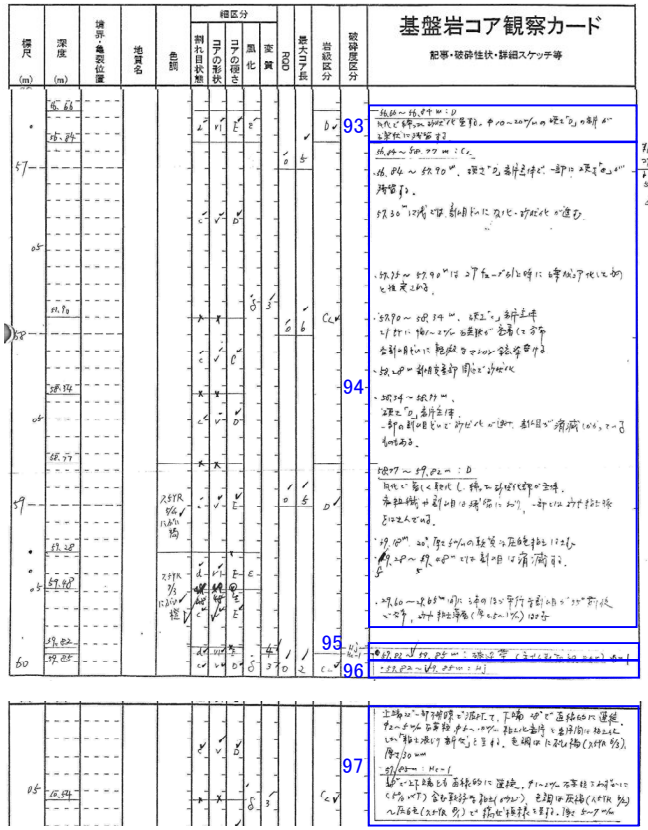
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
91, 92	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・一部で締まった砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状を呈するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-1

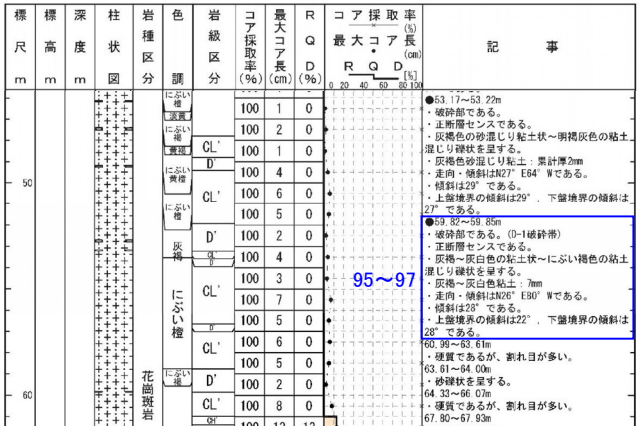
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
56.66～56.84m：D 風化で締った砂状化呈する。φ10～20m/mの硬さ「D」の岩片が礫状に残留する。	93
56.84～58.77m：CL 56.84～57.90m　硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。 57.75～57.90mはコアチューブ引上時に礫状コア化したものと推定される。 57.90～58.34m　硬さ「C」岩片主体 2ケ所に幅1～2m/m石英脈が密着して分布 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染受ける 58.28m　割れ目交差部周辺で砂状化 58.34～58.77m　硬さ「D」岩片主体 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77～59.82m：D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。 岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や粘土脈をはさんでいる。 59.18m　20°、厚さ5m/mの軟質な灰白色粘土はさむ 59.28～59.48mでは割れ目は消滅する。 29.60～29.65m間に3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布、砂や粘土薄層（厚0.5～1m/m）はさむ	94
●59.82～59.85m：破砕帯（主せん断面59.85m）D-1	95
59.82～59.85m：Hj	96
上端22°　一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。 φ2～5m/m石英粒、φ5～10m/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい褐（7.5YR6/3）、厚さ30mm 59.85m：Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1～2m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟弱な粘土（ガウジ）、色調は灰褐（7.5YR6/2）～灰白色（7.5YR8/1）で縞状模様を呈する。厚さ5～7m/m	97

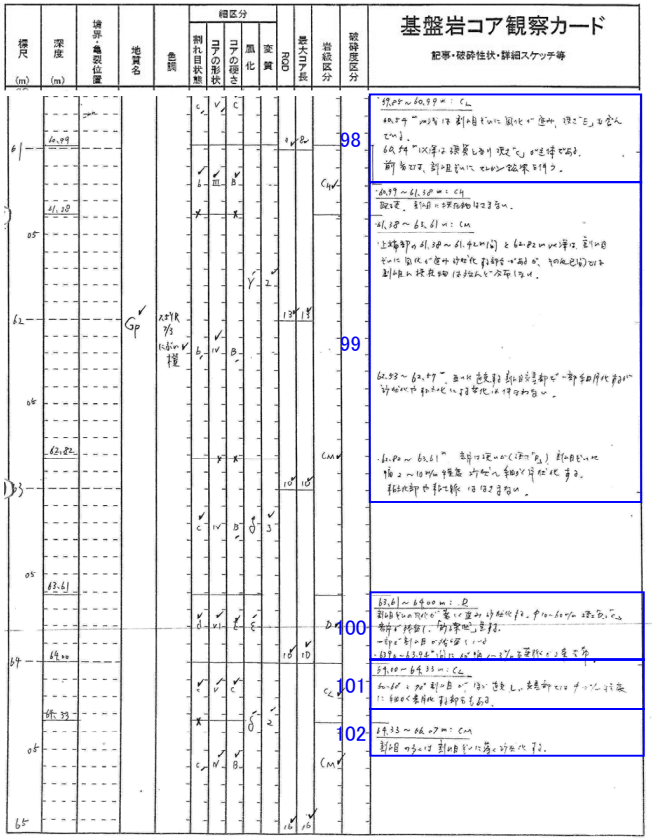
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
93	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂状及び礫状を呈するが，直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
94	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部で砂や粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・一部で礫状を呈するが，掘削時の機械割れによるものと判断し削除。 ・石英脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
95～97	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

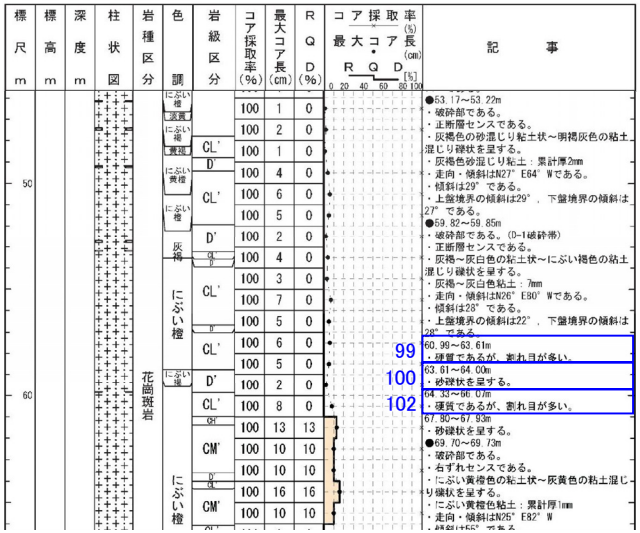
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
98	59.85～60.99m：CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。
	60.99～61.38m：CH 堅硬。割れ目に挟在物はさまない。 61.38～63.61m：CM 上端部の61.38～61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
99	62.53～62.57m　互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが砂状化や粘土化による劣化は伴なわない。 62.82～63.61m　岩片は硬いが（硬さ「B」）、割れ目ぞいに幅2～10m/m程度砂状～細かく片状化する。 粘土化部や粘土脈ははさまない。
100	63.61～64.00m：D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10～60m/m硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。 一部で割れ目が残留している。 63.90～63.94m間に60°幅1～3m/m石英脈が2条分布。
101	64.00～64.33m：CL 50～60°と70°割れ目がほゞ直交し、交差部ではφ10m/m程度に細かく岩片化する部分もある。
102	64.33～66.07m：CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。

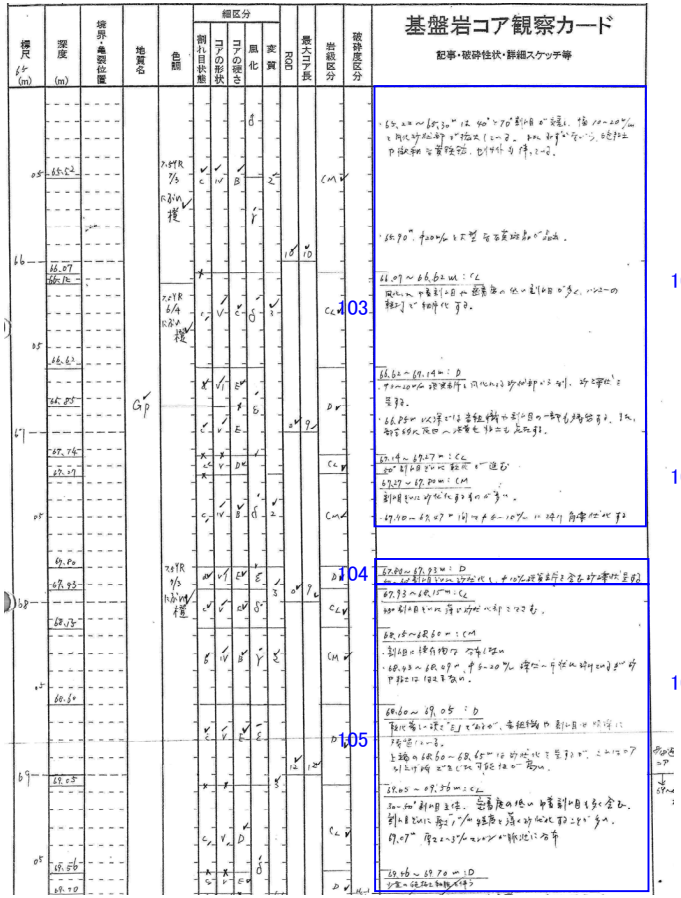
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
98	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
99	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄と“コアの形状”欄に基づき，硬質であるが，割れ目が多いと記載。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化や細片化がみられるが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・62.53～62.57mで細片化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂礫状部を構成する岩片の硬軟，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
101	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに岩片化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
102	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化が見られるが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コアの硬さ”欄と“コアの形状”欄に基づき，硬質であるが，割れ目が多いと記載。

H27-B-1

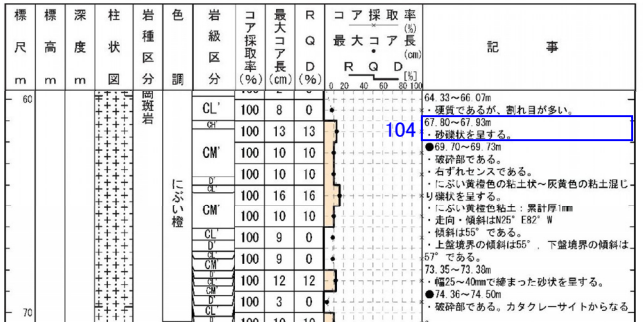
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	65.22～65.30mは40°と70°割れ目が交差し、幅10～20m/mと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。 65.90m φ20m/mと大型な石英斑晶が晶出。 66.07～66.62m：CL 風化したゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多くハンマーの軽打で細片化する。
103	66.62～67.14m：D φ5～20m/m硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。 66.85m以深では岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白～淡黄色粘土も点在する。 67.14～67.27m：CL 50°割れ目ぞいに軟化が進む 67.27～67.80m：CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。 67.40～67.47m間はφ5～10m/mに砕け角礫状化する。
104	67.80～67.93m：D 50～60°割れ目ぞいに砂状化し、φ10m/m硬質岩片を含む砂礫状呈する。
	67.93～68.15m：CL 45°割れ目ぞいに薄い砂状化部をはさむ。 68.15～68.60m：CM 割れ目に挟在物は分布しない 68.43～68.49m、φ5～20m/m礫状～片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。
105	68.60～69.05：D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60～68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。 69.05～69.56m：CL 30～50°割れ目主体。密着度の低いゆ着割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 69.07m厚さ2～3m/mマンガンが脈状に分布 69.56～69.70m：D 少量の白色粘土細脈を伴う。

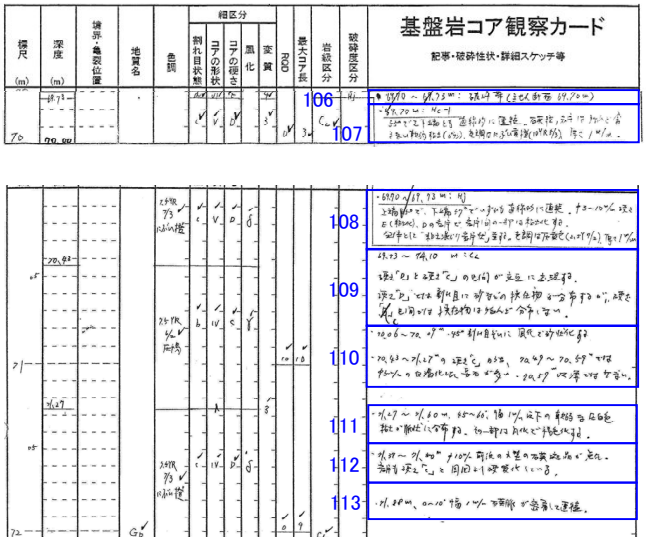
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
103	・一部割れ目沿いに砂や粘土を挟在するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出，割れ目の密着状況については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため，大型な石英斑晶が晶出との記載を削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・66.62～67.14mで砂礫状，67.40～67.47mで角礫状を呈するが，いずれも掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
104	・岩級については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，岩片の粒径については，補足的なものであるため削除。
105	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の挟在物の有無，割れ目の密着状況，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・68.43～68.49mで礫状～片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・68.60～68.65mで砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・一部で粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。

H27-B-1

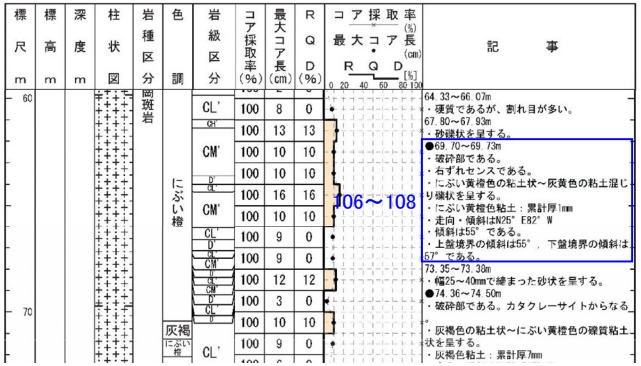
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
106	●69.70～69.73m：破砕帯（主せん断面69.70m）
107	69.70m：Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土（ガウジ）、色調はにぶい黄橙（10YR5/3）、厚さ1m/m。
108	69.70～69.73m：Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3～10m/m硬さE（粘土化）、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。 全体として「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰黄色（2.7Y7/2）、厚さ1m/m
109	69.73～74.10m：CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。 硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。
110	70.06～70.09m　45°割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43～71.27mの硬さ「C」のうち、70.49～70.59mではφ5m/mの白濁化した長石が多い。70.59m以浅では少ない。
111	71.27～71.60m　45～60°幅1m/m以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。
112	71.37～71.50m　φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
113	71.88m　0～10°幅1m/m石英脈が密着して連続。

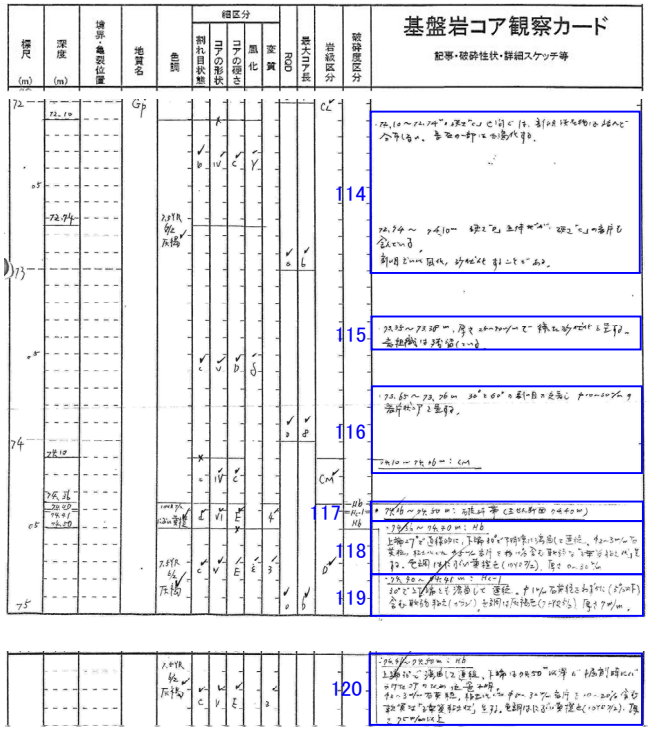
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
106～108	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
109	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
110	・割れ目沿いに砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
111	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
112	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・局所的に挟まれる硬質な岩片の記載については，補足的なものであるため削除。
113	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

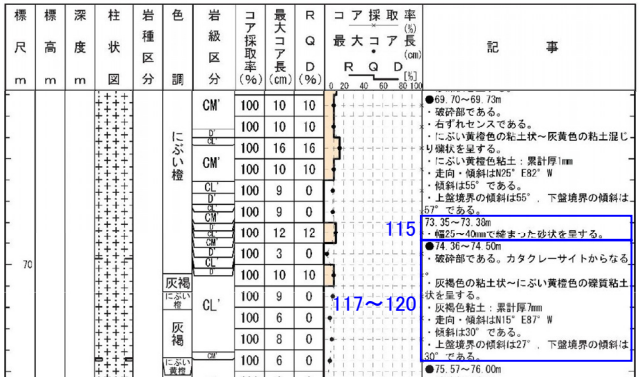
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
114	72.10～72.74mの硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。長石の一部は白濁化する。 72.74～74.10m　硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。 割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。
115	73.35～73.38m　厚さ25～40m/mで締った砂状化を呈する。 岩組織は残留している。
116	73.65～73.76m　30°と60°の割れ目が交差しφ10～50m/mの岩片状コアを呈する。 74.10～74.36m：CM
117	●74.36～74.50m：破砕帯（主せん断面74.40m）
118	74.36～74.40m：Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「礫質粘土状」呈する。色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ0～30m/m
119	74.40～74.41m：Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）。色調は灰褐色（75YR5/2）厚さ7m/m
120	74.41～74.50m：Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5～30m/m岩片を10～20%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ75m/m以上

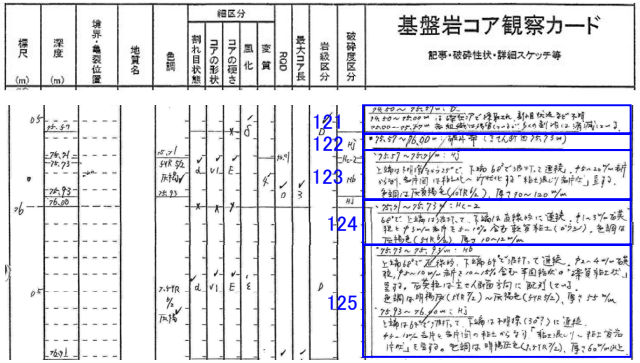
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
114	・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状を呈するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
116	・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・岩片状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
117～120	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の傾斜　記載無し→30°　※2 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
121	74.50～75.57m：D 74.50～75.00mは礫状コアで採取され、割れ目状況など不明 75.00～75.57m岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。
122	●75.57～76.00m：破砕帯（主せん断面75.73m）
123	75.57～75.71m：Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5～20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化～砂状化する「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は灰黄褐色（10YR6/2）、厚さ90～120m/m
124	75.71～75.73m：Hc-2 68°で上端は波打って，下端は直線的に連続，φ1～3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5～10%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰褐色（5YR6/2），厚さ10～12m/m
125	75.73～75.93m：Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5～10m/m岩片を10～15%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。 色調は明褐灰（5YR7/2）～灰褐色（5YR5/2）、厚さ55m/m 75.93～76.00m：Hj 上端は64°で波打って，下端は不明瞭（30°？）に連続。 φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり～粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐灰色（7.5YR7/2），厚さ60m/m以上。

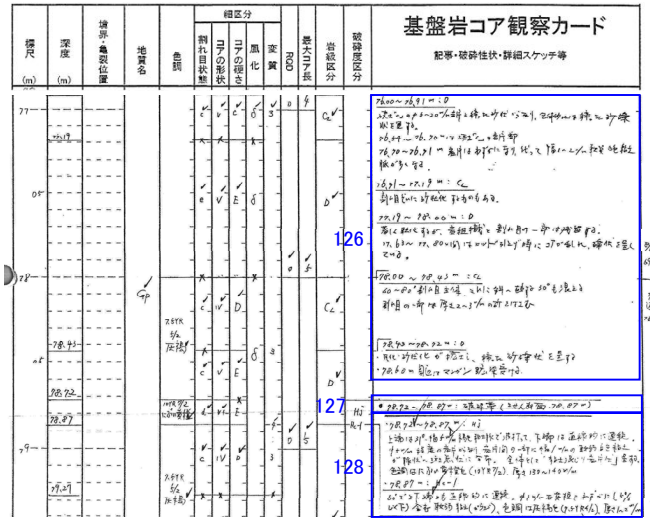
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
121	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・一部で礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
122～125	・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ1～3mm石英粒とΦ3mm岩片を5～10%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書で記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
76.00～76.91m：D 硬さ「C」のφ5～20m/m岩片と締った砂状からなり、全体的には締った砂礫状を呈する。 76.54～76.70mは硬さ「C」の岩片部 76.70～76.91m　岩片はわずかになり、代って幅1～2m/m軟質白色粘土脈が多くなる。 76.91～77.19m：CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。 77.19～78.00m：D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.63～77.80m間はロッド引上げ時にコアが乱れ、礫状を呈している。 78.00～78.43m：CL 60～80°割れ目主体、これに斜～直交する30°も混える 割れ目の一部は厚さ2～3m/mの砂をはさむ 78.43～78.72m：D 風化・砂状化が拡大し、締った砂礫状を呈する。 78.60m周辺はマンガン鉱染受ける。
●78.72～78.87m：破砕帯（主せん断面78.87m）
78.72～78.87m：Hj 上端は31°、幅5m/m褐色粘土脈で波打って、下端は直線的に連続。φ5m/m程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1m/mの軟弱白色粘土が脈状～斑点状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）。厚さ130～140m/m
78.87m：Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）、色調は灰褐色（7.5YR4/2）、厚さ1～2m/m

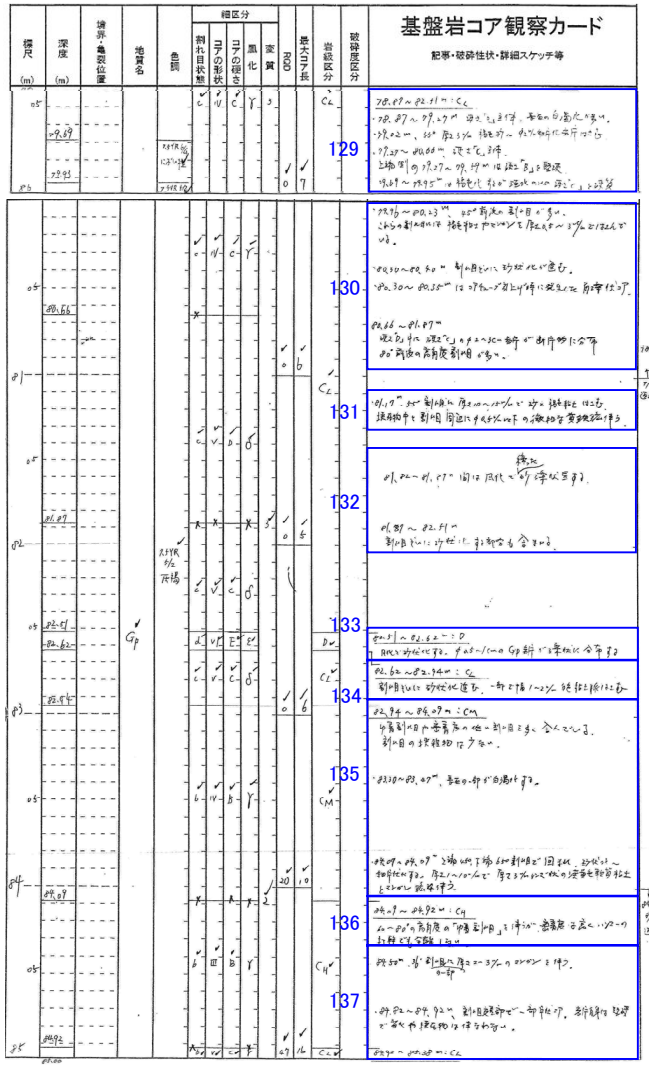
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
126	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・76.00～76.91mで締まった砂礫状を呈し，一部で粘土を挟在するが，粘土の配列や劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・76.70～76.91mに粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・77.63～77.80mで礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・78.43～78.72mで締まった砂礫状を呈するが，劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
127，128	・薄片観察の結果で得られた，最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書で記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
129	78.87～82.51m：CL 78.87～79.27m　硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m　55°　厚さ3m/m褐色砂～φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27～80.66m　硬さ「C」主体 上端側の79.27～79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69～79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質
130	79.96～80.23m　45°　前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを厚さ0.5～3 m/m　ではさんでいる。 80.30～80.40m　割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30～80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66～81.87m　硬さ「D」中に硬さ「c」のφ2～3cm岩片が断片的に分布 80°　前後の高角度割れ目が多い。
131	81.17m　55°　割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m /m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
132	81.82～81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。 81.87～82.51m　割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
133	82.51～82.62m：D 風化で砂状化する。φ0.5～1cmのGp岩片が礫状に分布する
134	82.62～82.94：CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1～2m/m白色粘土脈はさむ
135	82.94～84.09：CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30～83.47m　長石の一部が白濁化する。 84.07～84.09m　上端45°，下端65°割れ目で囲まれ，砂状化～細片状化する。 厚さ 1～10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。
136	84.09～84.92m：CH 60～80°の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが，密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。
137	84.50m　36°割れ目の一部に厚さ2～3m/mのマンガンを伴う。 84.82～84.92m　割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴なわない。 84.92～85.38m：CL

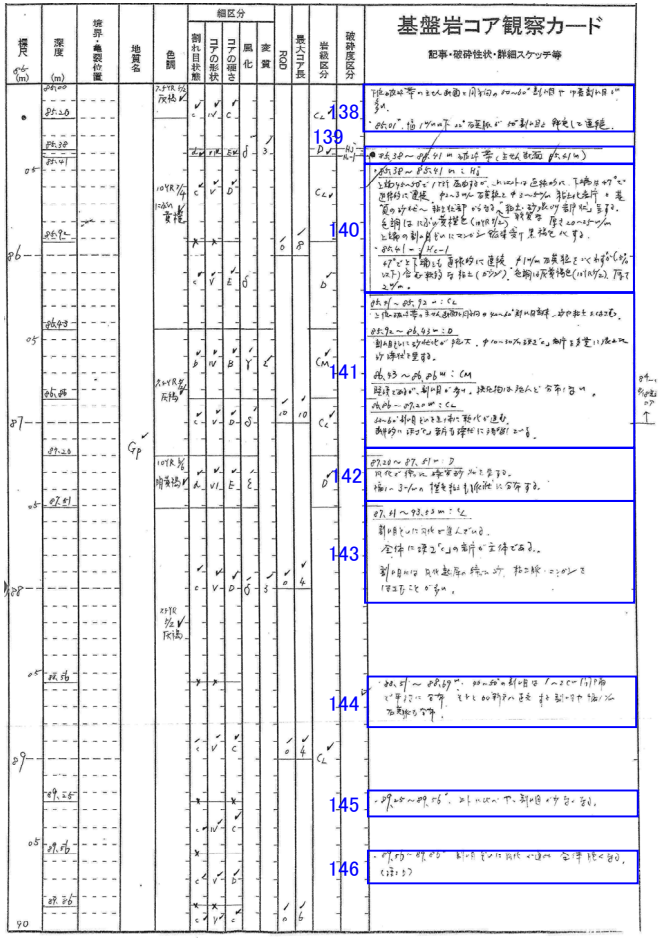
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
129, 130	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変色，割れ目の傾斜，マンガン，割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。 ・80.30～80.40mで割れ目沿いに砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
131～137	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
138	下位破砕帯の主せん断面と同方向の50～60° 割れ目やゆ着割れ目が多い。 85.01m 幅1m/m以下 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。
139	●85.38～85.41m破砕帯（主せん断面85.41m）
140	85.38～85.41m：Hj 上端45～50° で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47° で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒とφ3～5m/m粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ20～25m/m上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m：Hc-1 47° で上下端とも直線的に連続，φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟弱な粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐色（10YR5/2）厚さ2m/m
141	85.41～85.92m：CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40～60° 割れ目主体、砂や粘土をはさむ。 85.92～86.43m：D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10～30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。 86.43～86.86m：CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。 86.86～87.20m：CL 50～60° 割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。
142	87.20～87.51m：D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1～3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。
143	87.51～93.53m：CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。
144	88.51～88.69m 40～50° の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交～直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。
145	89.25～89.56m 上下に比べやゝ割れ目が少なくなる。
146	89.56～89.86m 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。（硬さD）

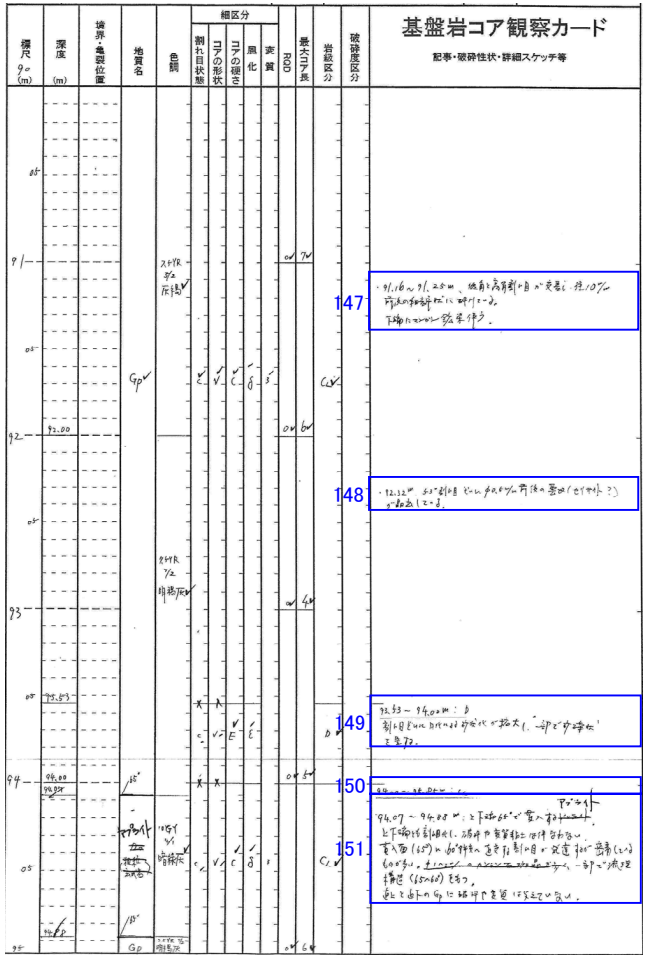
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率（%） 最大コア長（cm） RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
138～146	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
147	91.16～91.25m　低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。
148	92.32m　53°　割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母（セリサイト？）が晶出している。
149	93.53～94.00m：D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
150	94.00～95.85m：CL
151	94.07～94.88m　上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴なわない。 貫入面（65°）に60°斜交～直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。~~φ1～2m/mのカンラン石斑晶が多く、~~一部で流理構造（65～60°）をもつ。 直上と直下のGpに破砕や変質は与えていない。

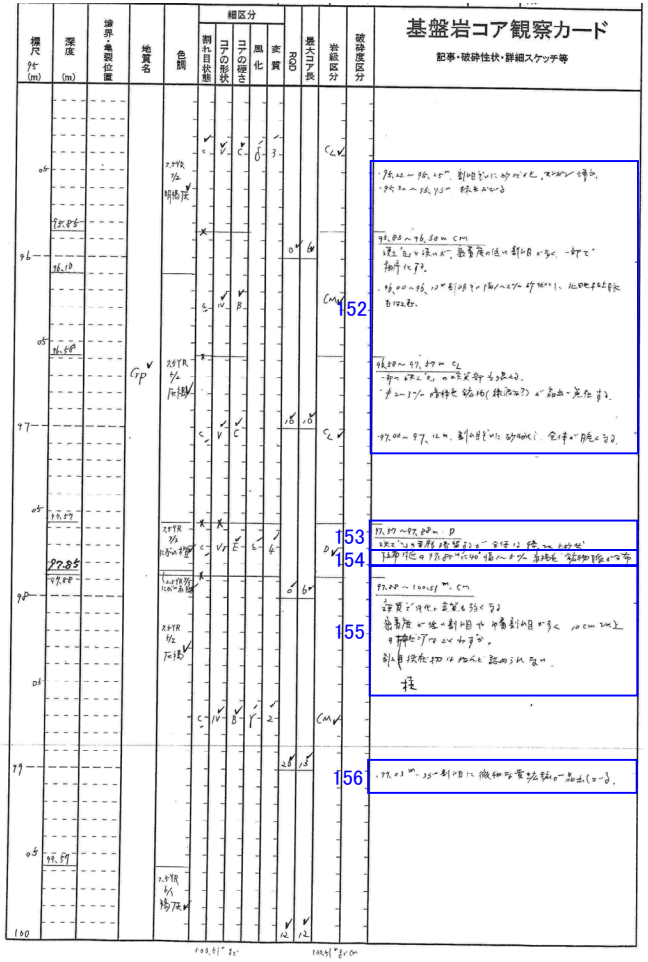
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率（%） 最大コア長（cm） RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
147～151	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
152	95.22～95.25m　割れ目ぞいに砂状化、マンガン伴う。 95.30～95.45m　緑色おびる 95.85～96.58m：CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 96.00～96.10m　割れ目ぞいに幅1～2m/m砂状化し、灰白色粘土脈もはさむ。 96.58～97.57m　CL 一部に硬さ「B」の硬質部も混える。 φ2～3m/m暗緑色鉱物（緑泥石？）が晶出・点在する。 97.00～97.12m　割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。
153	97.57～97.88m：D 硬さ「 C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状
154	下端付近の97.85mに40°　幅1～5m/m赤褐色鉱物脈が分布
155	97.88～100.51m：CM 硬質で風化と変質も弱くなる 密着度が低い割れ目やゆ着割れ目が多く　10cm以上の柱状コアはごくわずか。 割れ目挟在物は殆んど認められない。
156	99.03m　35°　割れ目に微細な黄鉱鉱が晶出している。

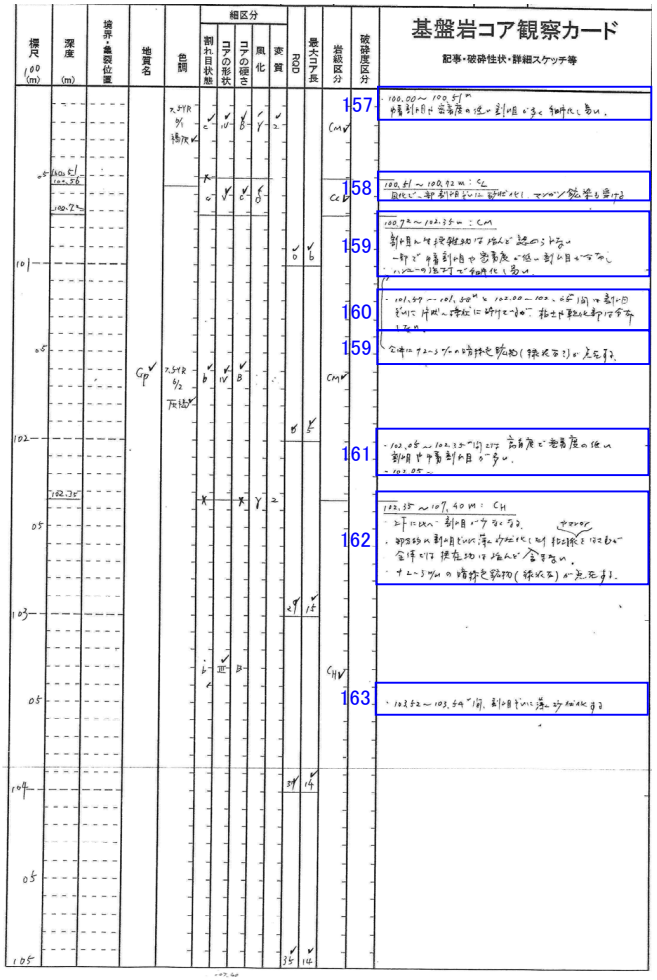
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア・RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
152～156	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
157	100.00～100.51m　ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。
158	100.51～100.72m：CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。
159	100.72～102.35m：CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。 一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。
160	101.57～101.58mと102.00～102.05m間は割れ目ぞいに片状～礫状に砕けているが，粘土や軟化部は分布しない。
159	全体にφ2～3m/mの暗緑色鉱物（緑泥石？）が点在する。
161	102.05～102.35m間では高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。 102.05～
162	102.35～107.40m：CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2～5m/mの暗緑色鉱物（緑泥石）が点在する。
163	103.52～103.54m間、割れ目ぞいに薄く砂状化する。

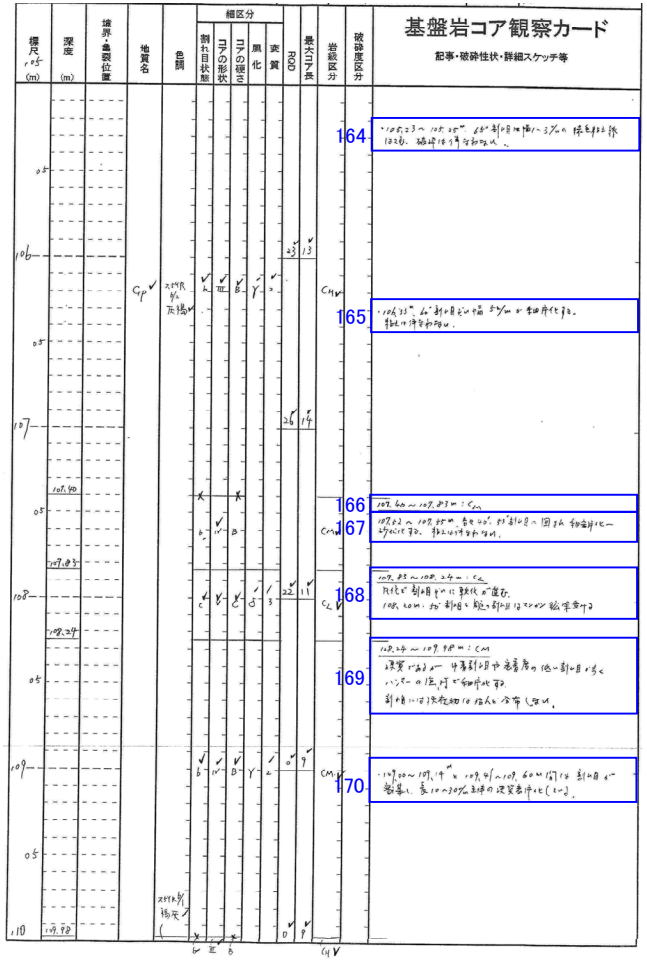
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
157～163	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
164	105.23～105.25m　65°割れ目は幅1～3m/mの緑色粘土脈はさむ。破砕は伴なわない。
165	106.33m　60°割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。 粘土は伴なわない。
166	107.40～107.83m：CM
167	107.52～107.55m　各々40°、53°割れ目に囲まれ細岩片化～砂状化する。 粘土は伴なわない。
168	107.83～108.24m：CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m　50°割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染受ける。
169	108.24～109.98m：CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
170	109.00～109.14mと109.41～109.60m間は割れ目が密集し、長10～30m/m主体の硬質岩片化している。

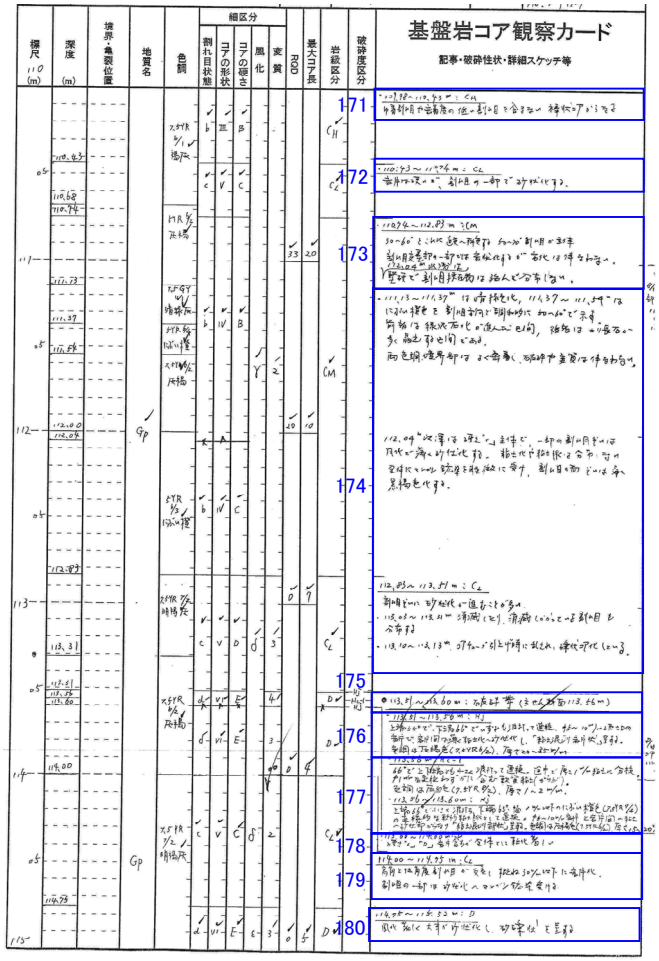
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD(%)	記事
										0 20 40 60 80 120	

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
164～170	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
171	109.98～110.43m：CH ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。
172	110.43～110.74m：CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。
173	110.74～112.83m：CM 30～60°とこれに直交～斜交する50～70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴なわない。 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。
174	111.13～111.37mは暗緑色化、111.37～11.54mはにぶい橙色　を割れ目方向と調和的に50～60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。 両色調境界部はよく密着し、破砕や変質は伴なわない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。 粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。 112.83～113.51m：CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い 113.03～113.31m　消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。 113.10～113.13m　コアチューブ引上げ時に乱され、礫状コア化している。
175	●113.51～113.60m：破砕帯（主せん断面113.56m）
176	113.51～113.56m：Hj 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5～10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化～砂状化し、「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は灰褐色（7.5YR6/2）、厚さ20～35m/m
177	113.56m：Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分岐。 φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土（ガウジ）。 色調は灰白色（7.5YR8/2）、厚さ1～2m/m。 113.56～113.60m：Hj 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1m/m以下のにぶい橙色（7.5YR7/4）の直線的な軟弱粘土脈として連続。φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰褐色（7.5YR6/2）厚さ15～20m/m。
178	113.60～114.00m：D 硬さ「C」「D」岩片含むが全体として軟化著しい。
179	114.00～114.75m：CL 高角と低角度割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化～マンガン鉱染受ける
180	114.75～115.52m：D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。

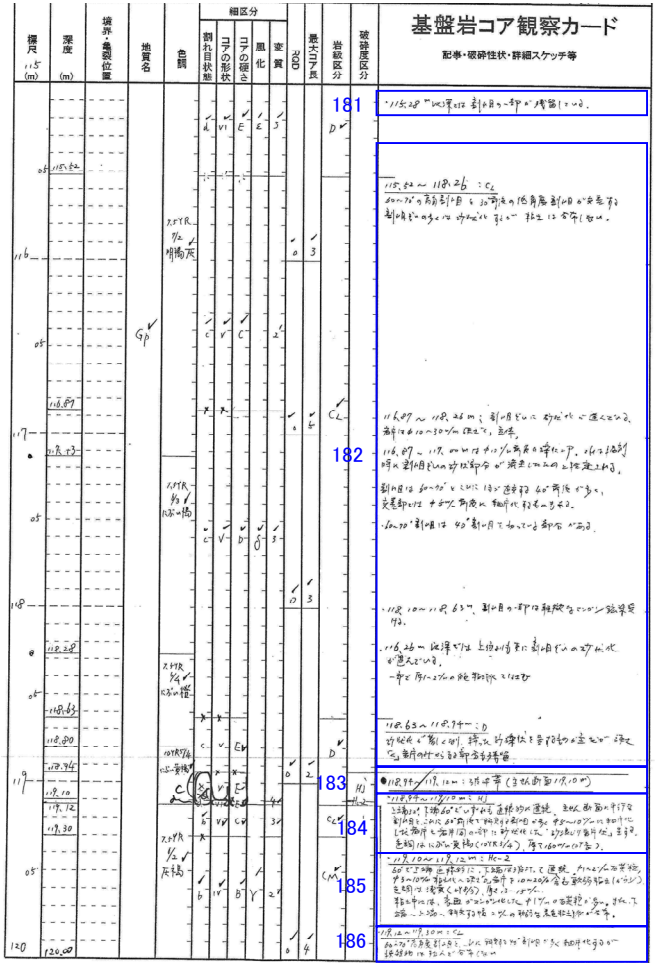
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率（%） コア長（cm） 最大コア長（cm） RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
171～180	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
181	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。
	115.52～118.26：CL 60～70° の高角割れ目と30° 前後の低角度割れ目が交差する 割れ目ぞいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。
182	116.87～118.26m 割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。 岩片はφ10～30m/m硬さ「C」主体。 116.87～117.00mはφ10m/m前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。 割れ目は60～70° とこれにほぼ直交する40° 前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。 60～70° 割れ目は40° 割れ目を切っている部分がある。 118.10～118.63m 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染受ける。 116.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 一部で厚1～2m/mの白色粘土脈をはさむ 118.63～118.94m：D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留
183	●118.94～119.12m：破砕帯（主せん断面119.10m）
184	118.94～119.10m：Hj 上端32° 、下端60° でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行な割れ目とこれに60° 前後で斜交する割れ目が多くφ5～10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄褐（10YR5/4）、厚さ160m/m（コア長）。
185	119.10～119.12m：Hc-2 60° で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を10～20%含む軟弱粘土（ガウジ） 色調は浅黄（5Y8/3）、厚さ13～15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端～上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。
186	119.12～119.30m：CL 60～70° 高角度割れ目とこれに斜交する40° 割れ目が多く細片化するが挟雑物は殆んど分布しない

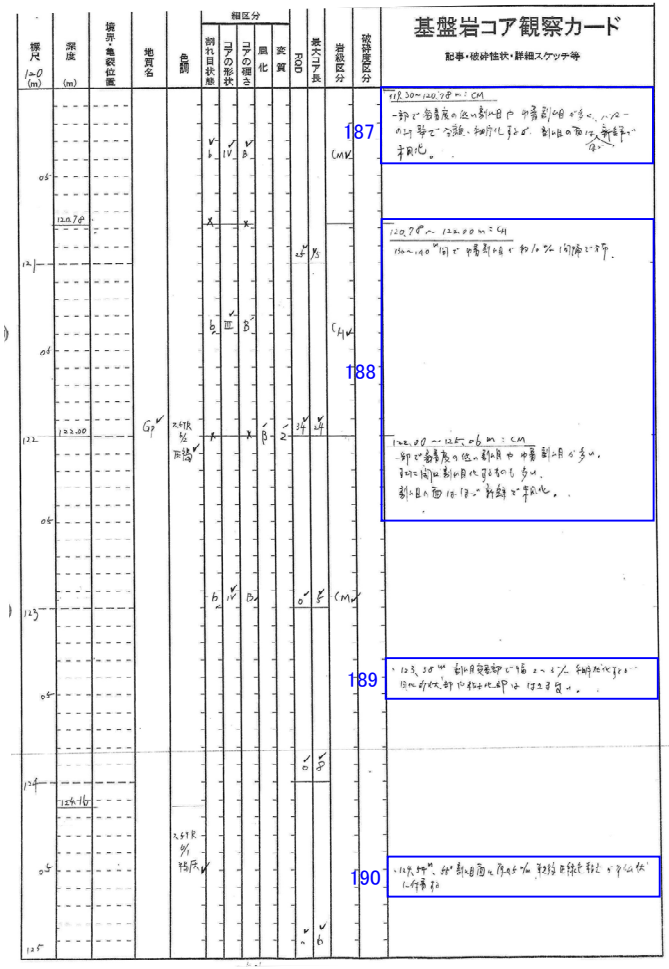
申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率（%）×最大コア長（cm）RQD [%] 0 20 40 60 80 120	記事

記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
181～186	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

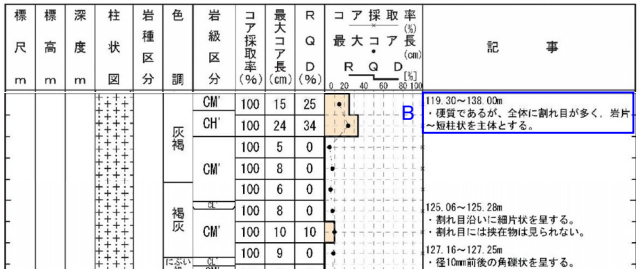
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
187	119.30～120.78m：CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
188	120.78～122.00m：CH 130～140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。 122.00～125.06m：CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。 すでに開口割れ目化するものも多い。 割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
189	123.38m　割れ目交差部で幅2～3m/m細片状化するが、風化砂状部や粘土化部ははさまない。
190	124.54m　55°　割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。

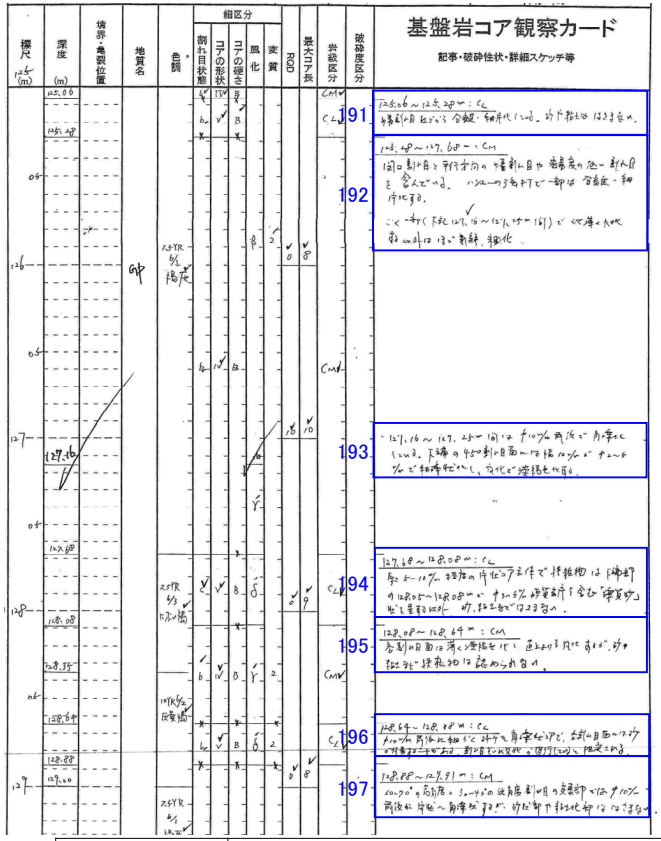
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
187	・記載漏れのため比較対象無し。※2
188	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況・風化状況については，補足的なものであるため削除。
189	・細片化が見られるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
190	・粘土の挟在が見られるが，幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質である，岩片～短柱状を主体とすると記載。

H27-B-1

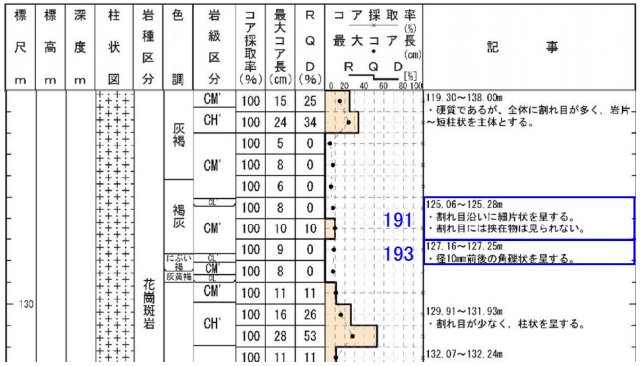
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
191	125.06～125.28m：CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。
192	125.28～127.68m：CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。 ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。 ごく一部（下記127.16～127.25m間）でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。
193	127.16～127.25m間はφ10m/m前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2～5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
194	127.68～128.08m：CL 厚さ5～10m/m程度の片状コア主体で挟雑物は下端部の128.05～128.08mがφ3～5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。
195	128.08～128.64m：CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
196	128.64～128.88m：CL φ10m/m前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
197	128.88～129.91m：CM 60～70°の高角度と30～40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状～角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。

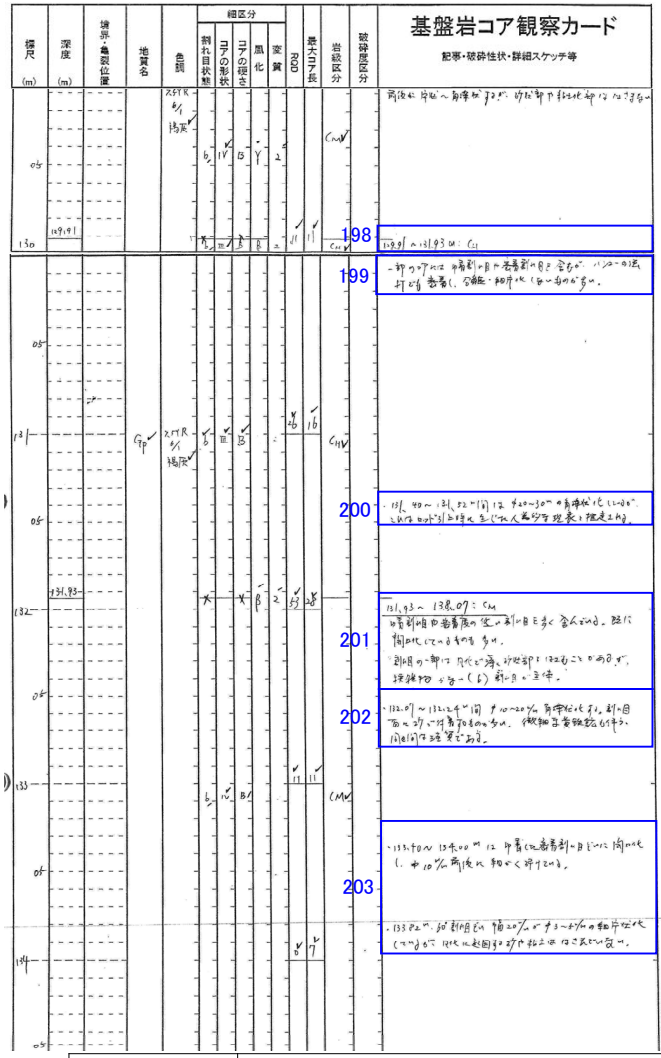
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
191	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着の程度については，補足的なものであるため削除。
192	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の開口状況・密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については，岩級区分に含めて示しているため削除。
193	・割れ目の傾斜，変色については，補足的なものであるため削除。 ・細礫状部の幅については，ばらつきがあるため削除。
194	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・片状コア主体で，一部で礫質砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
195	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
196	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため削除。 ・角礫状を呈し，一部で砂が付着するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
197	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで細片化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-1

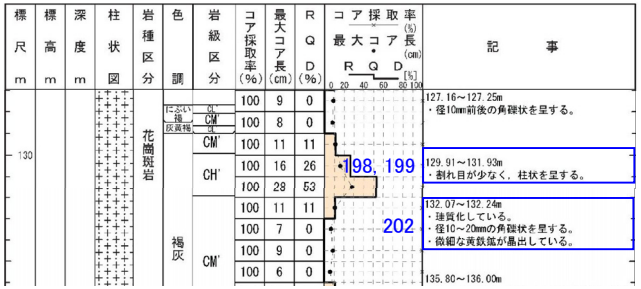
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
198	129.91～131.93m：CH
199	一部のコアにはゆ着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。
200	131.40～131.52m間はφ20～30mの角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。
201	131.93～138.07：CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。 割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物がない(b)割れ目が主体。
202	132.07～132.24m間φ10～20m/m角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。 同区間は珪質である。
203	133.40～134.00mはゆ着した密着割れ目ぞいに開口化し、φ10m/m前後に細かく砕けている。 133.82m　60°割れ目ぞい幅20m/mがφ3～5m/mの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土ははさんでいない。

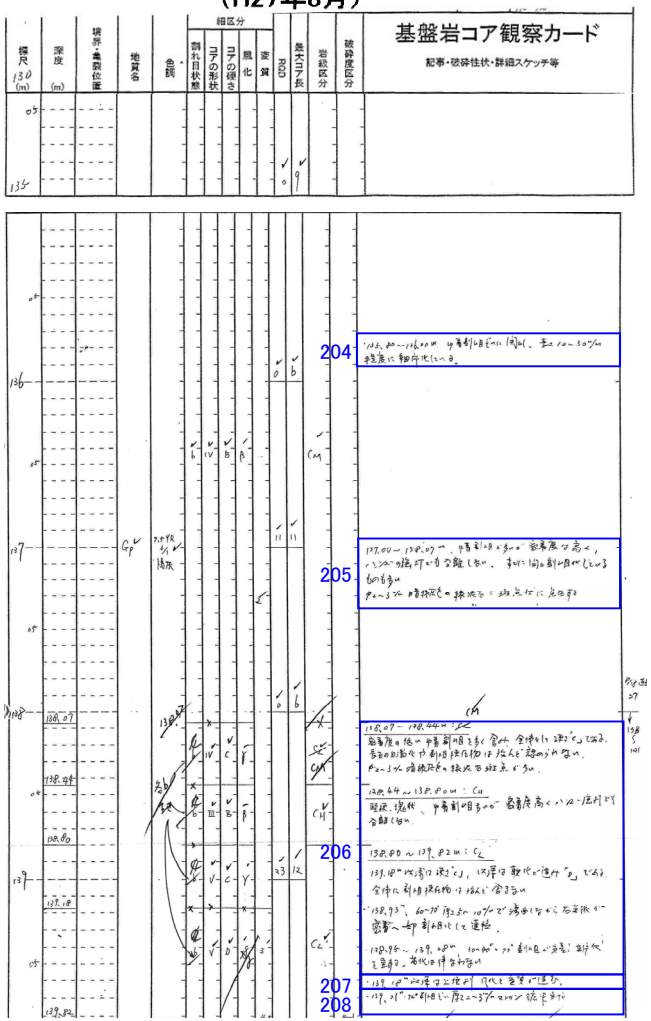
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
198, 199	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの形状”欄に基づき，割れ目が少なく，柱状を呈すると記載。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
200	・角礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
201	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが幅狭く，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
202	・割れ目に砂が付着するが，当該区間の周囲の割れ目との差異が認められないことから削除。
203	・割れ目の密着状態・開口状況・傾斜，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで細片化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-1

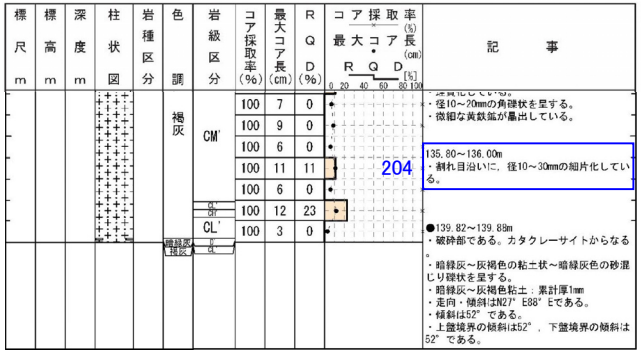
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
204	135.80～136.00m　ゆ着割れ目ぞいに開口し、長さ10～30m/m程度に細片化している。
205	137.00～138.07m　ゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。
206	138.07～138.44m：CM 密着度の低いゆ着割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物は殆んど認められない。 φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。 138.44～138.80m：CH 堅硬，塊状。ゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマー強打でも分離しない。 138.80～139.82m：CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。 全体に割れ目挟在物は殆んど含まない。 138.93m　60～70°厚さ5～10m/mで湾曲しながら石英脈が密着～一部割れ目化して連続。 138.95～139.08m　30～40°と70°割れ目が交差：岩片状を呈する。劣化は伴なわない
207	139.18m以深は上位より風化と変質が進む。
208	139.31m　72°割れ目ぞい厚さ2～3m/mマンガン鉱染受ける

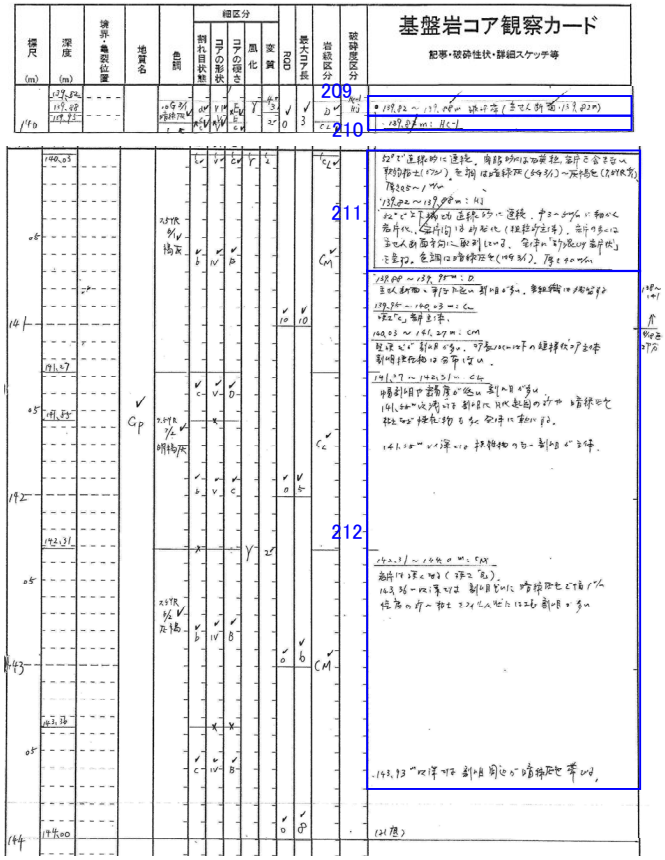
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
204	・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。
205	・ゆ着割れ目については，周囲の割れ目と差異が認められないため削除。 ・割れ目の開口状況，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
206	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の密着状態，挟在物の有無，鉱物の晶出，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・一部で岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
207	・風化と変質の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
208	・割れ目の傾斜，割れ目沿いのマンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-1

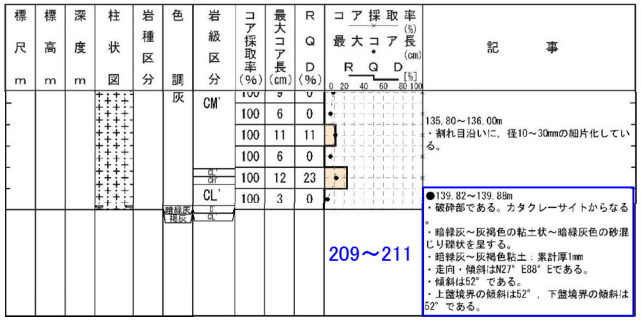
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
209	●139.82～139.88m破砕帯（主せん断面139.82m）
210	139.82m：Hc-1
211	52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土（ガウジ）。色調は暗緑灰（5G3/1）～灰褐色（7.5YR4/1）、厚さ0.5～1m/m 139.82～139.88m：Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3～5m/mに細かく岩片化。岩片間は砂状化（粗粒砂主体）。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色（10G3/1）。厚さ40m/m 139.88～139.95m：D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。 139.95～140.03m：CL 硬さ「C」岩片主体。 140.03～141.27m：CM 堅硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体 割れ目挟在物は分布しない。 141.27～142.31m：CL ゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多い 141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。
212	141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。 142.31～144.0m：CM 岩片は硬くなる（硬さ「B」）。 143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂～粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い 143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。
	（孔底）

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
209～211	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（砂混じり岩片状→砂混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
212	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の挟在物の有無，割れ目の密着状態，色調については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。

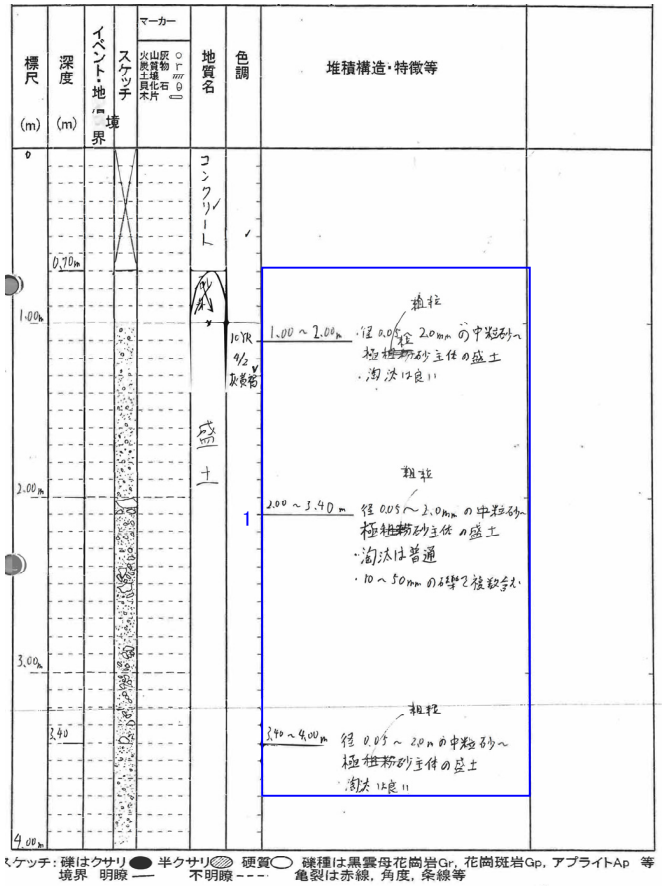
余白

H27-B-2

余白

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



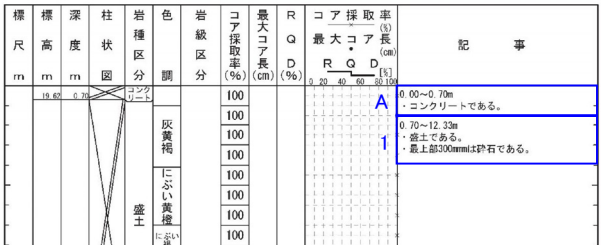
コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
1.00～2.00m 径0.05～2.0mmの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い
2.00～3.40m 径0.05～2.0mmの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10～50mmの礫を複数含む
3.40～4.00m 径0.05～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い

1

1

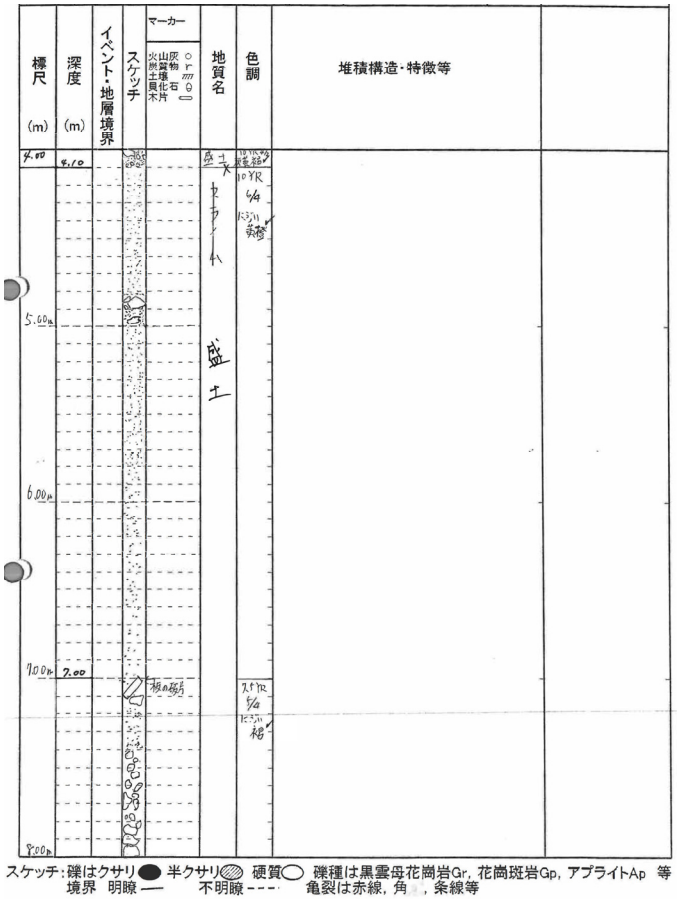
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
1	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・“地質名”欄の砂利との記載に基づき砕石，“標尺”欄及び“深度”欄に基づき，最上部300mmmと記載。なお，最上部300mmmは300mmの誤り。※2

H27-B-2

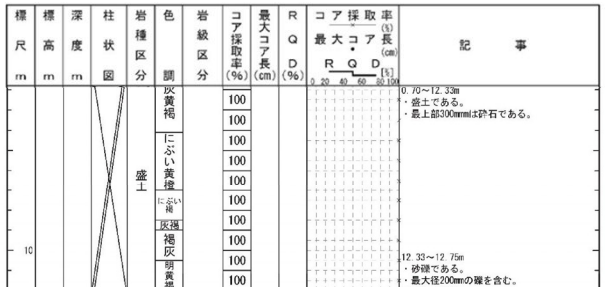
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

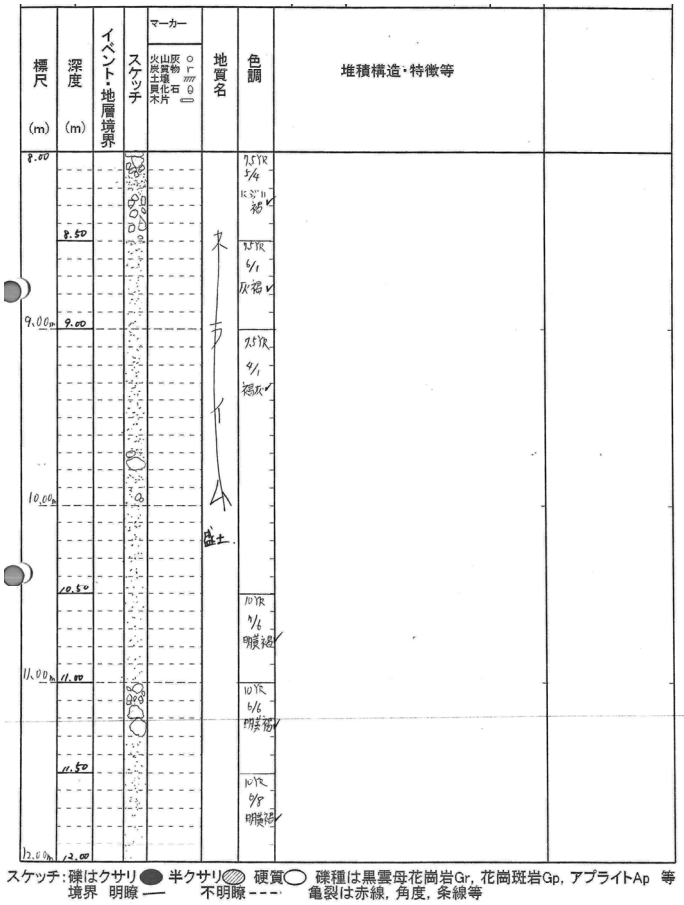
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
―	―

H27-B-2

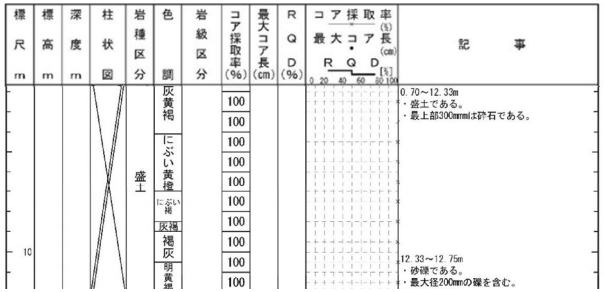
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

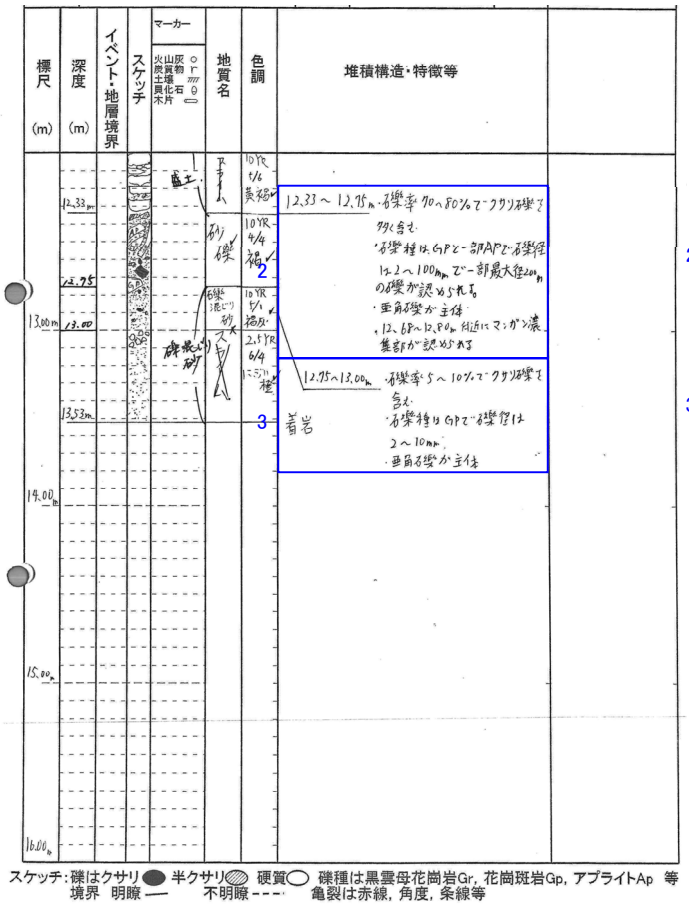
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
－	－

H27-B-2

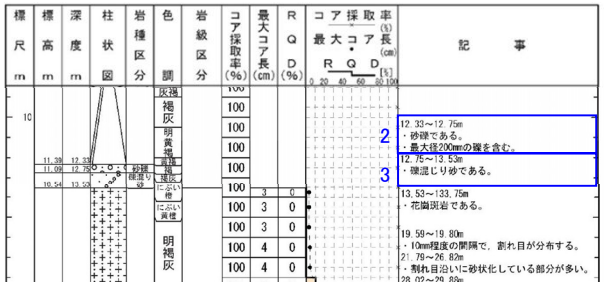
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
2	12.33～12.75m　礫率70～80%でクサリ礫を多く含む 礫種はGPと一部APで、礫径は2～100㎜で、一部最大径200mの礫が認められる。 亜角礫が主体 12.68～12.80m付近にマンガン濃集部が認められる
3	12.75～13.00m　礫率5～10%でクサリ礫を含む 礫種はGPで礫径は2～10㎜ 亜角礫が主体 着岩

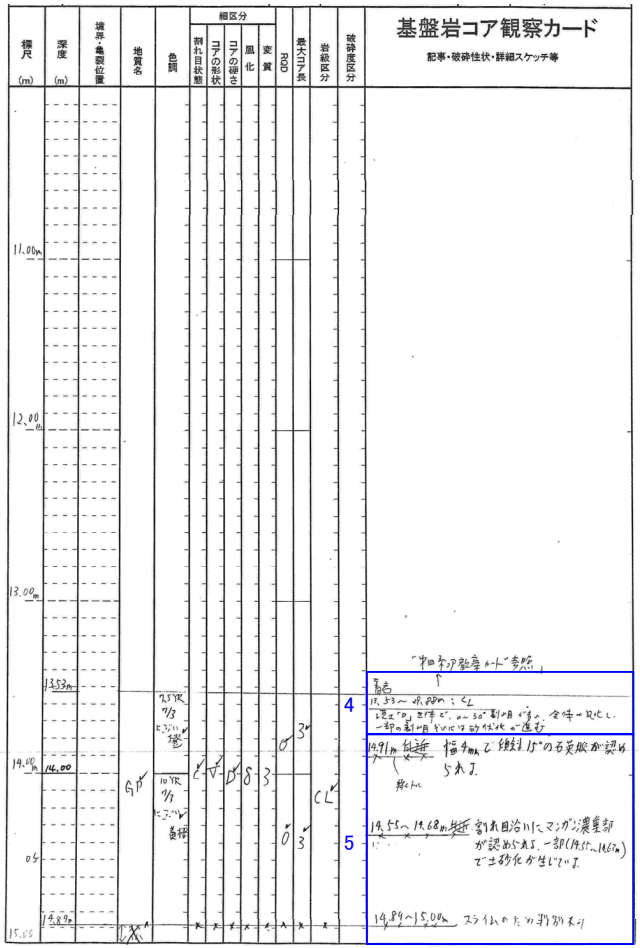
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
2	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく，目立つことから，礫の特徴として，最大径を記載。
3	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-2

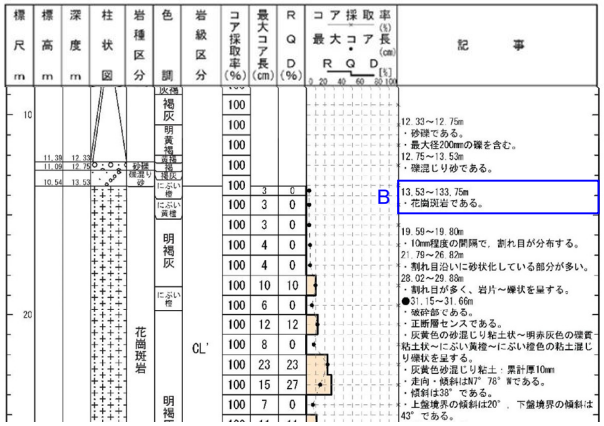
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
4	13.53～29.88m：CL　硬さ「D」主体で、0～30°割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目ぞいには砂状化が進む。
	14.91m　幅4㎜で傾斜15°の石英脈が認められる。
5	14.55～14.68m　割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部（14.55m～14.63m）で土砂化が生じている。
	14.89～15.00m　スライムのため判別不可

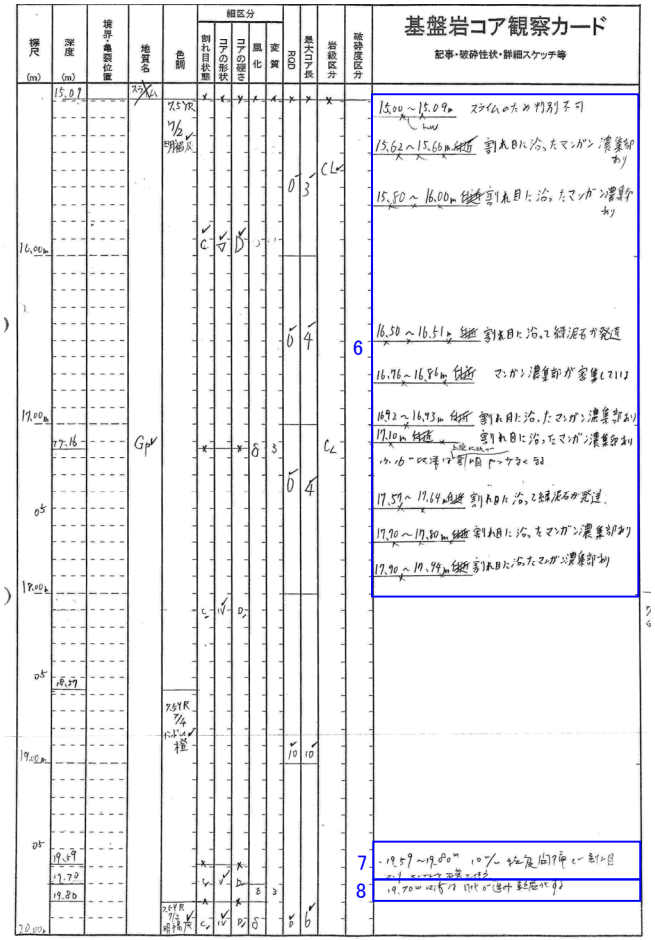
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
B	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。
4	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・砂状化については，顕著な部分を個別に記載しているため削除。
5	・鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・14.55～14.63mで土砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・スライム区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

15.00～15.09m　スライムのため判別不可
15.62～15.66m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

15.80～16.00m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

16.50～16.51m　割れ目に沿って緑泥石が発達

16.76～16.86m　マンガン濃集部が密集している

16.92～16.93m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

17.10m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる

17.57～17.64m　割れ目に沿って緑泥石が発達

17.70～17.80m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

17.90～17.94m　割れ目に沿ったマンガン濃集部あり

7　19.59～19.80m　10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
8　19.70m以浅は風化が進み軟質化する

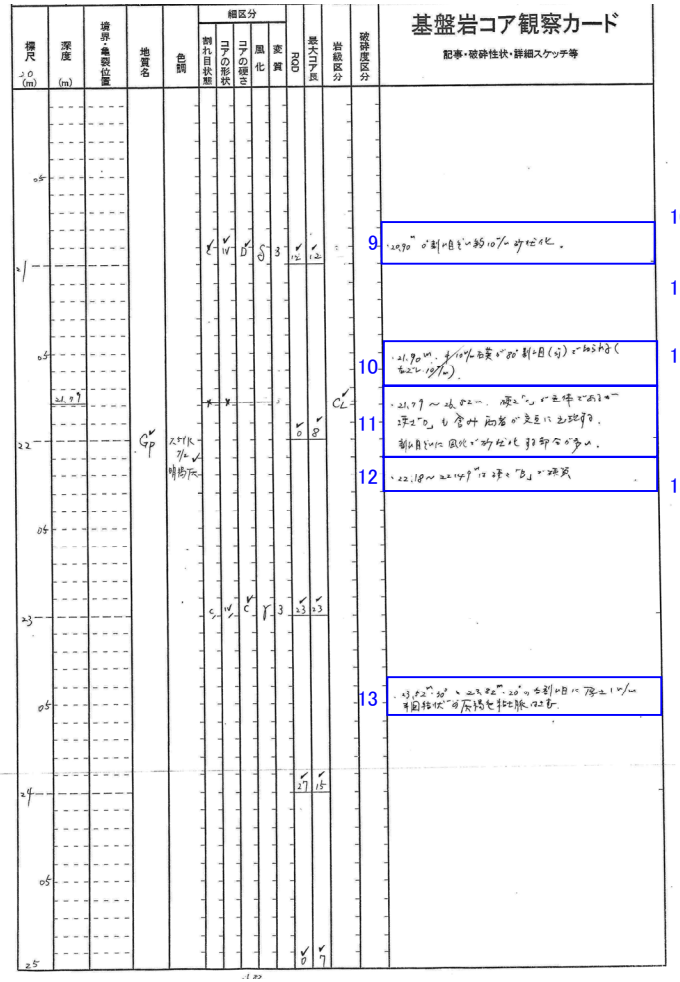
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
6	・マンガン，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・スライム区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
7	・マンガン，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
8	・風化を伴う硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
9	20.90m　0°割れ目ぞい約10m/m砂状化
10	21.90m　φ10m/m石英が80°割れ目(sj)で切られる(右ズレ10m/m)
11	21.79～26.82m　硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。
12	22.18～22.49mは硬さ「B」で硬質
13	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に厚さ1m/m半固結状の灰褐色粘土脈はさむ

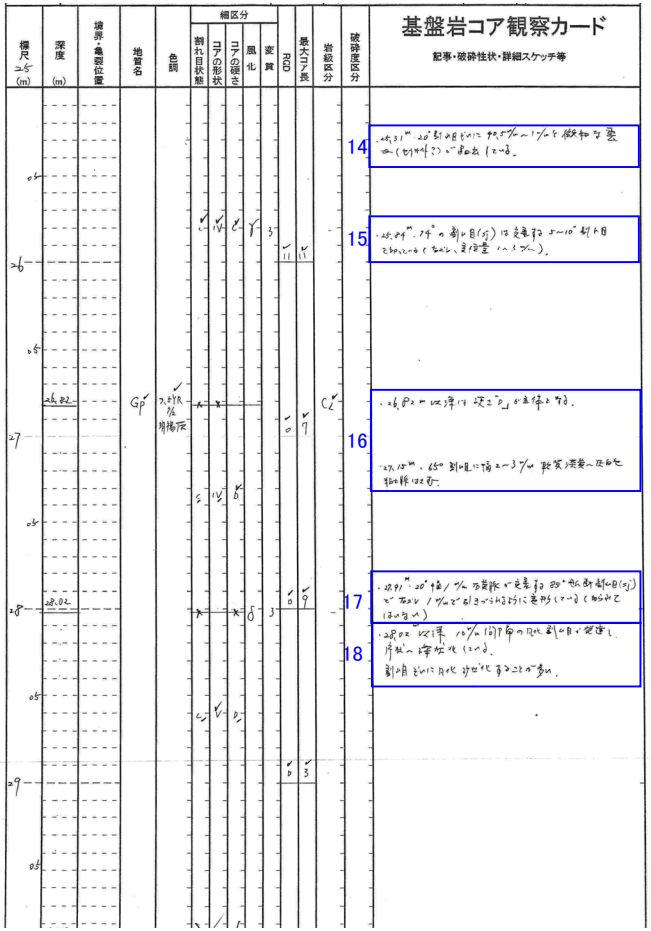
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
9	・割れ目沿いに砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
10	・石英を切る箇所が不明であり，割れ目は直線性や連続性に乏しいことから削除。
11	・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
12	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
13	・一部に粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
14	25.31m　20°　割れ目ぞいにφ0.5m/m～1m/mと微細な雲母（セリサイト？）が晶出している。
15	25.84m　74°　の割れ目（sj）は交差する5～10°　割れ目を切っている（右ズレ、変位量1～3m/m）。
16	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。 27.15m　65°　割れ目に幅2～3m/m軟質淡黄～灰白色粘土脈はさむ。
17	27.91m　20°　幅1m/m石英脈が交差する85°　せん断割れ目（sj）で右ズレ1m/mで引きづられるように変形している（切られてはいない）
18	28.02m以深、10m/m間隔の風化割れ目が発達し、片状～礫状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。

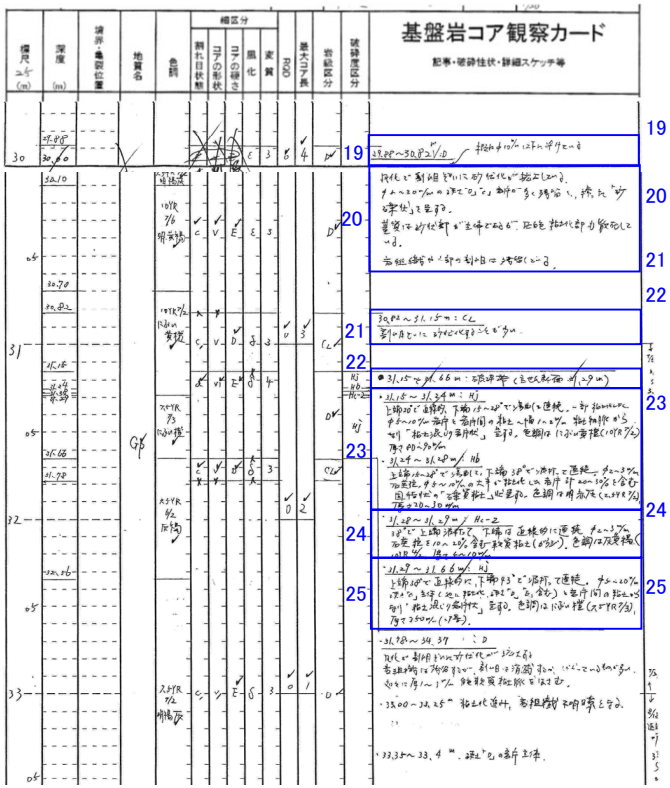
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
14	・割れ目に晶出した鉱物については，補足的なものであるため削除。
15	・低角度割れ目に変位がないため削除。
16	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部で粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
17	・石英脈の変形が不明瞭であり，割れ目は連続性に乏しいことから削除。
18	・“コアの形状”欄に基づき，29.88mと記載。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-2

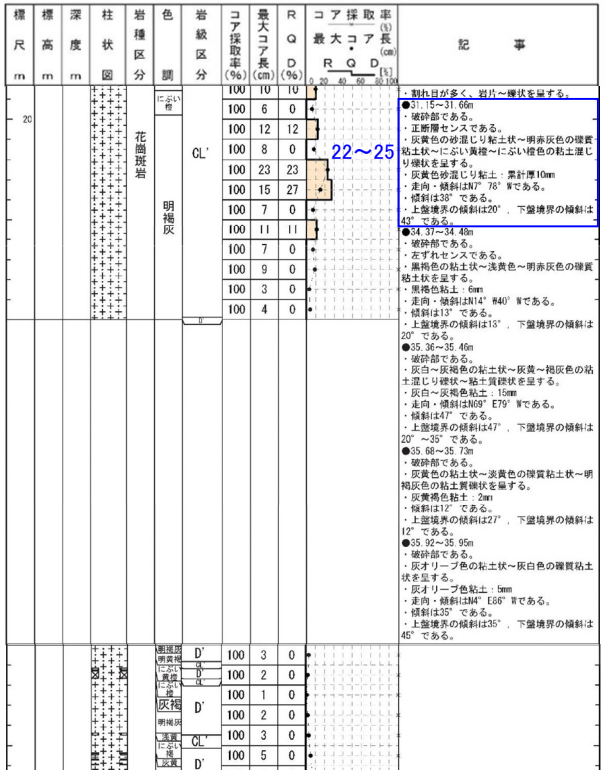
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
19	29.88～30.82m：D 概ね φ10m/m以下に砕けている
20	風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。 φ5～30m/mの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂礫状」を呈する。 基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。 岩組織や上部の割れ目は残留している。
21	30.82～31.15m：CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。
22	●31.15～31.66m：破砕帯（主せん断面31.29m）
23	31.15～31.24m：Hj 上端20°で直線的、下端15～28°で湾曲して連続。一部粘土化したφ5～10m/m岩片と岩片間の粘土～幅1～2m/m粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙（10YR 7/2）、厚さ80～90m/m 31.24～31.28m：Hb 上端15～28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。φ2～3m/m石英粒、φ5～10m/mの大半が粘土化した岩片計20～30%を含む固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は明赤灰（2.54R 7/2）、厚さ20～30m/m
24	31.28～31.29m：Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。φ2～3m/m石英粒を10～20%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐（10YR 4/2、厚さ5～10m/m
25	31.29～31.66m：Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。φ5～20m/m硬さ「C」主体（他に粘土化、硬さ「D」「E」含む）と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙（7.5YR 7/3）、厚さ350m/m（コア長）。

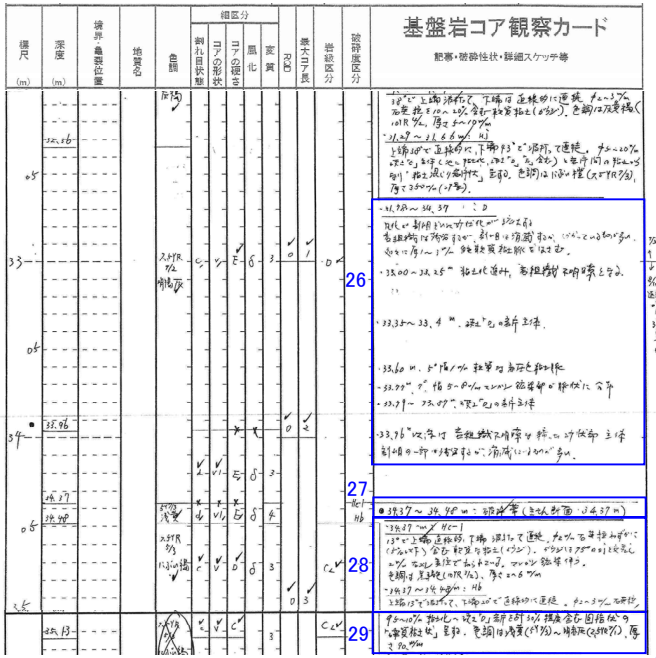
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
19，20	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・締まった砂礫状を呈し，一部で粘土を含むが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
21	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
22～25	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ2～3mm石英粒を10～20%含むとの記載に基づき，砂混じり粘土状と記載。 ・灰黄褐色→灰黄色※1 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-2

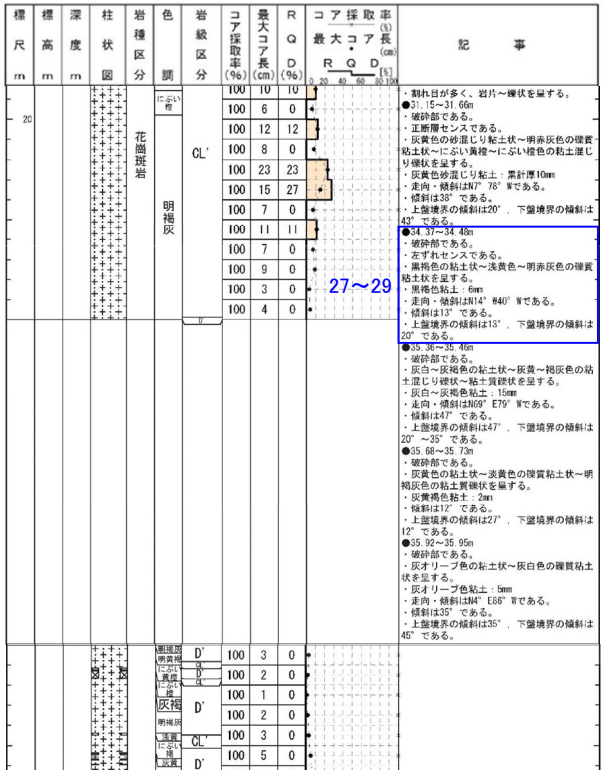
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
31.78～34.37：D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。 処々に厚1～3m/m白色軟質粘土脈をはさむ。 33.00～33.25m　粘土化進み、岩組織不明瞭となる。 33.35～33.4m　硬さ「D」の岩片主体。 33.60m　5°幅1m/m軟質な赤灰色粘土脈 33.77m　7°幅5～8m/mマンガン鉱染部が脈状に分布 33.79～33.87m　硬さ「D」の岩片主体 33.96m　以深は岩組織不明瞭な締った砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。
●34.37～34.48m：破砕帯（主せん断面　34.37m）
34.37m：Hc-1 13°で上端直線的、下端波打って連続。φ2m/m石英粒わずかに（5%以下）含む軟質な粘土（ガウジ）。ガウジは75°のsjと交差し、2m/m右ズレ変位で切られている。マンガン鉱染伴う。 色調は黒褐色（10YR　3/2）、厚さ2～6m/m 34.37～34.48m：Hb 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒、φ5～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「礫質粘土状」呈する。色調は浅黄（5Y　7/3）～明赤灰（2.5YR　7/1）、厚さ90m/m

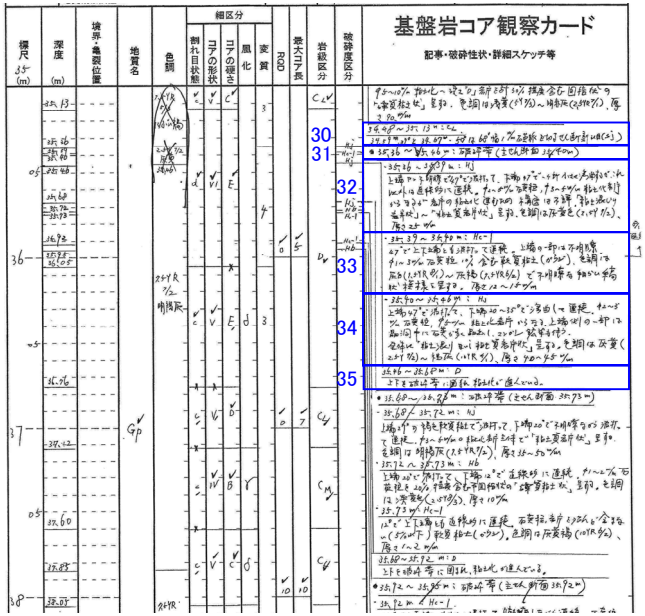
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
26	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化・粘土の挟在がみられるが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の残留の程度や岩組織の明瞭さについては，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
27～29	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
30	34.48～35.13m：CL 34.59m・29° と34.67m・50° は68° 幅1m/m石英脈を切るせん断割れ目（sj）
31	●35.36～35.46m：破砕帯（主せん断面35.40m）
32	35.36～35.39m：Hj 上端やゝ不明瞭で47° で波打って、下端47° で一ヶ所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2～5m/m石英粒、φ3～5m/m粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不評。「粘土混じり岩片状」～「粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄色（2.5Y 7/2）、厚さ25m/m
33	35.39～35.40m：Hc-1 47° で上下端とも波打って連続。上端の一部は不明瞭。φ1～3m/m石英粒10%含む軟質粘土（ガウジ）、色調は灰白（1.5YR 8/1）～灰褐（7.5YR 6/2）で不明瞭な細かい縞状模様を呈する。厚さ12～15m/m
34	35.40～35.46m：Hj 上端47° で波打って、下端20～35° で湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。 全体に「粘土混りないし粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄（2.5Y 7/2）～褐灰（10YR 4/1）、厚さ40～45m/m
35	35.46～35.68m：D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。

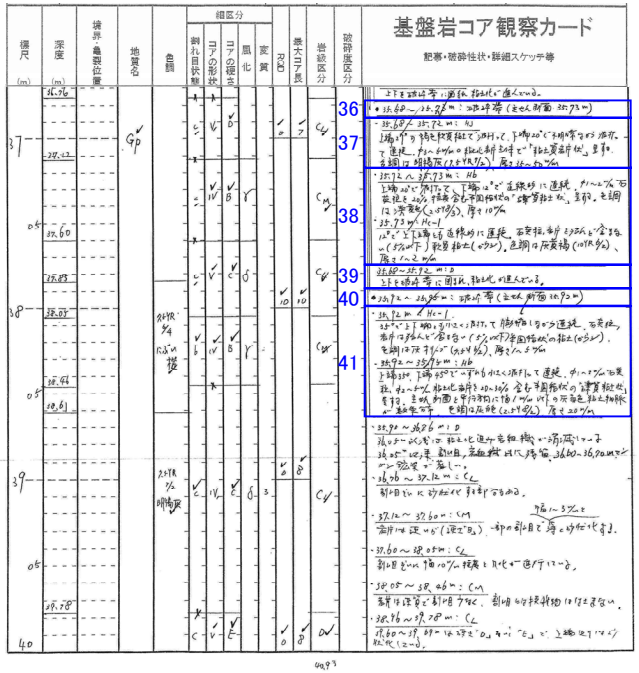
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
30	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・せん断性割れ目が分布するが，割れ目沿いの岩盤の劣化が認められないことから削除。
31～34	・表現の見直し（粘土混じり岩片状～粘土質岩片状→粘土混じり礫状～粘土質礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
35	・岩級及びその深度区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・粘土化が進行しているが，劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

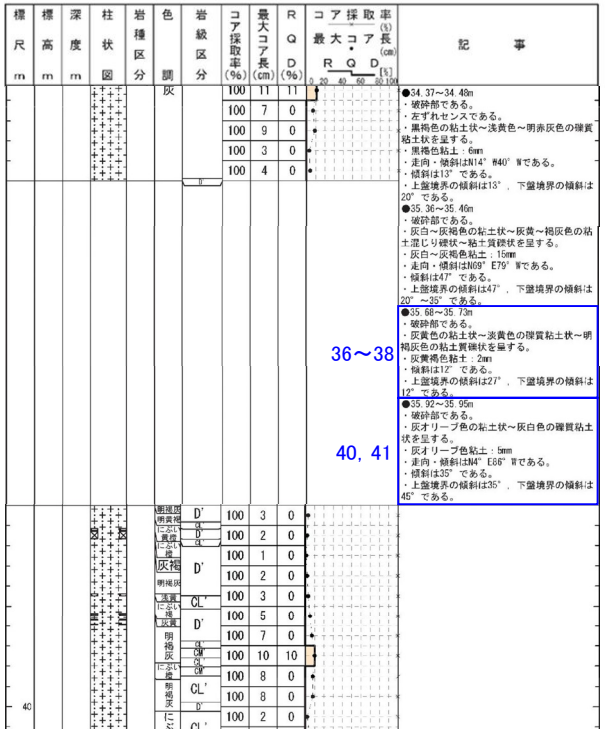
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
36	●35.68～35.73m：破砕帯（主せん断面35.73m）
	35.68～35.72m：Hj 上端27° の褐色軟質粘土で波打って、下端20° で不明瞭ながら波打って連続。φ3～φ5m/m。粘土化岩片主体で「粘土質岩片状」呈する。 色調は明褐灰（7.5YR 7/2）、厚さ35～50m/m
37	
38	35.72～35.73m：Hb 上端20° で波打って、下端12° で直線的に連続。φ1～2m/m石英粒を20%程度含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。色調は淡黄色（2.5Y 8/3）、厚さ10m/m 35.73m：Hc-1 12° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない（5%以下）軟質粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐（10YR 6/2）、厚さ1～2m/m
39	35.68～35.92m：D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。
40	●35.92～35.95m：破砕帯（主せん断面35.92m）
41	35.92m：Hc-1 35° で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒、岩片は殆んど含まない（5%以下）半固結状の粘土（ガウジ）。色調は灰オリーブ（4.5Y 6/2）、厚さ1～5m/m 35.92～35.95m：Hb 上端35° 、下端45° でいずれも小さく波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ2～5m/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。主せん断面と平行方向に幅1m/m以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。色調は灰白色（2.5Y 8/2）、厚さ20m/m

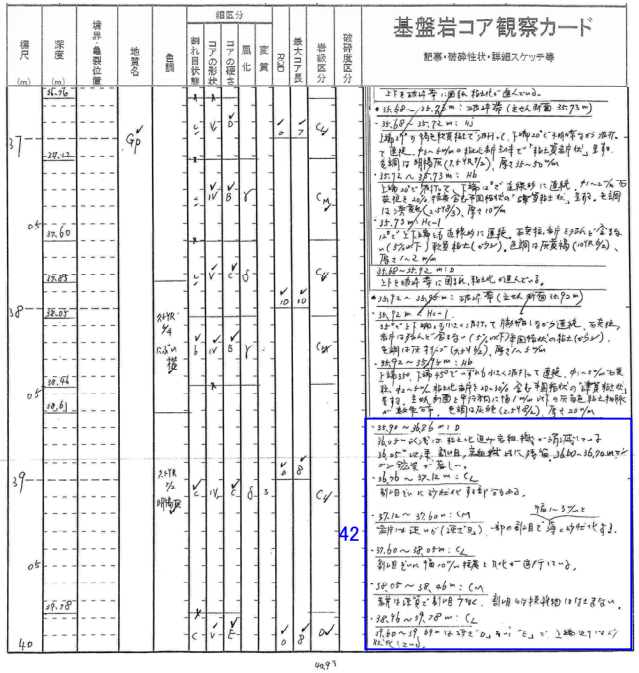
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
36～38	・表現の見直し（粘土質岩片状→粘土質礫状） ・灰黄褐色→灰黄色※1 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
39	・岩級及びその深度区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・粘土化が進行しているが，劣化に系統性が認められないことから削除。
40，41	・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土細脈が分布するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
35.95～36.76m：D 36.05m以浅は粘土化進み岩組織が消滅している。 36.05m以深、割れ目、岩組織ともに残留。36.60～36.70mマンガン鉱染が著しい。 36.76～37.12m：CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。 37.12～37.60m：CM 岩片は硬いが（硬さ「B」）、一部の割れ目で幅1～3m/mと薄く砂状化する。 37.60～38.05m：CL 割れ目ぞいに幅10m/m程度と風化が進行している。 38.05～38.46m：CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟雑物ははさまない。 38.46～39.78m：CL 39.60～39.69mは硬さ「D」ないし「E」で、上端側辺りは砂状化している。

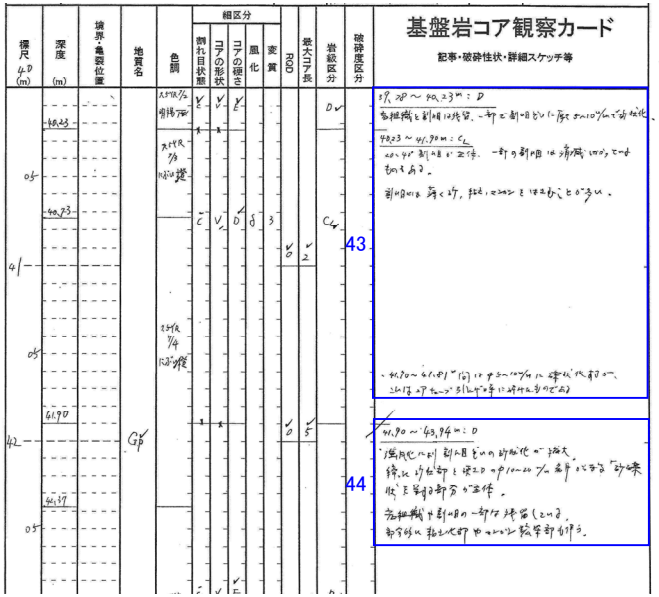
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
42	・岩級区分及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガン，割れ目の挟在物の有無については補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・37.60～38.05mの風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
43	39.78～40.23m：D 岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5～10m/mで砂状化。 40.23～41.90m：CL 20～40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。 41.70～41.81m間はφ5～10m/mに礫状化するが、これはコアチューブ引き上げ時に砕けたものである
44	41.90～43.94m：D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。 締った砂状部と硬さDのφ10～20m/mが岩片からなる「砂礫状を呈する部分が主体。 岩組織や割れ目の一部は残留している。 部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。

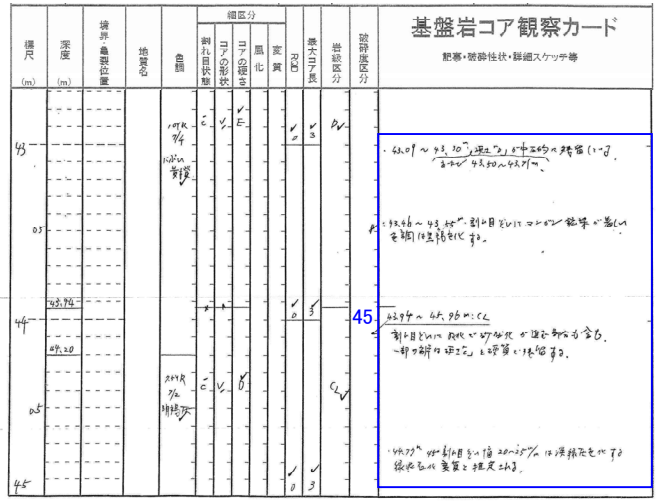
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
43	・岩級区分及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガン，割れ目の挟在物の有無については補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化・礫状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・コアチューブ引上げ時に砕けたものとの記載については，機械割れを示したものであり，ロッド昇降深度をコア写真で示していることから削除。
44	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部に粘土を含むが，直線性や連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

43.09～43.30mおよび43.50～43.71m　硬さ「D」が中石的に残留している。

43.46～43.55m　割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい
色調は黒褐色化する。

43.94～45.96m：CL
割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。
一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。

44.77m　45°割れ目ぞい幅20～25m/mは淡緑灰色化する。
緑泥石化変質と推定される。

45

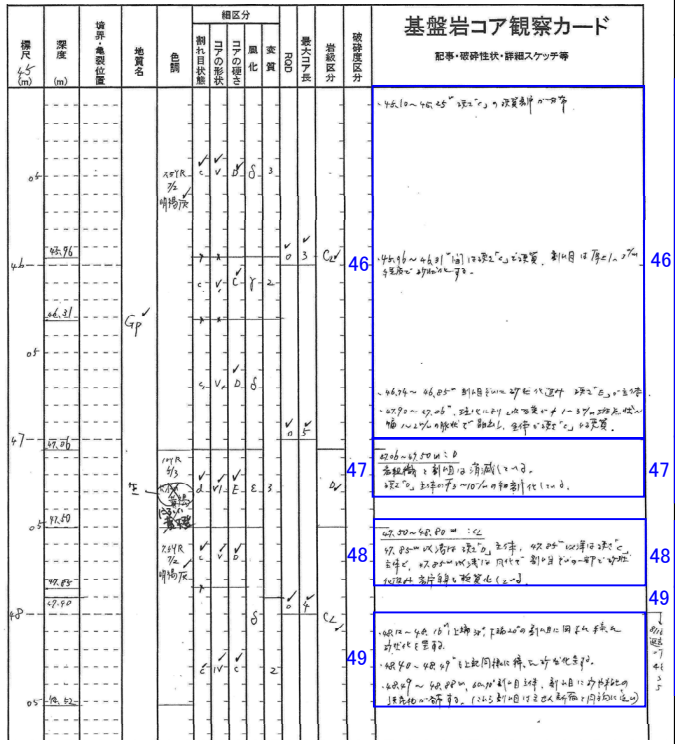
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
45	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンや割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

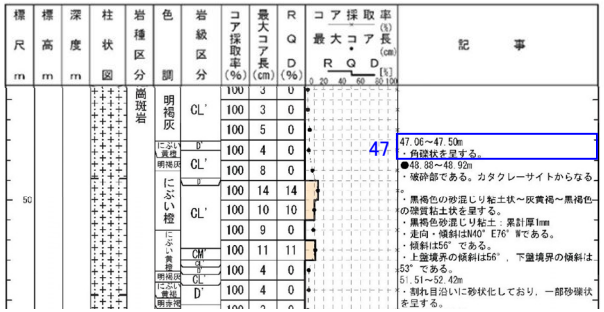
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
45.10～45.25m　硬さ「C」の硬質岩片が分布	
45.96～46.31m間は硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1～3m/m程度で砂状化する。	46
46.74～46.85m　割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。 47.90～47.06m　珪化により二次石英がφ1～3m/m斑点状～幅1～2m/mの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	
47.06～47.50m：D 岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ「D」主体のφ3～10m/mの細岩片化している。	47
47.50～48.80m：CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	48
48.12～48.16m　上端38°、下端20°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。 48.40～48.49mも上記同様に締った砂状化呈する。 48.49～48.88m　60～70°割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。（これら割れ目は主せん断面と同方向に近い）	49

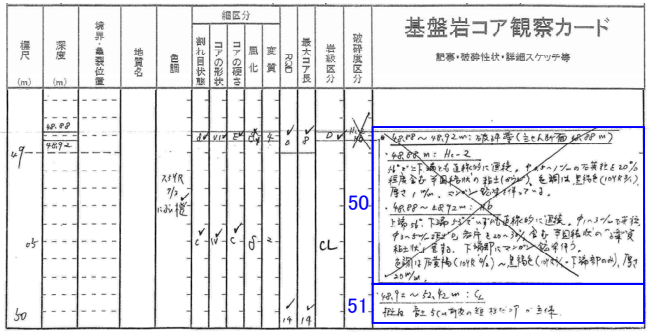
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
46	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
47	・“コアの形状”欄に基づき，角礫状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織と割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分で示しているため削除。
48	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・47.50～47.85mの割れ目沿いで一部砂状化するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
49	・48.12～48.16mで締まった砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・48.40～48.49mで締まった砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・48.49～48.88mで砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

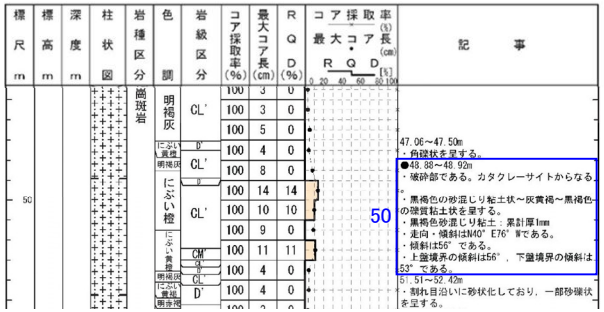
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
50	●48.88～48.92m：破砕帯（主せん断面48.88m） 48.88m：Hc-2 56° で上下端とも直線的に連続。φ0.5～1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土（ガウジ）。色調は、黒褐色（10YR 3/1）、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。 48.88～48.92m：Hb 上端56° 、下端53° でいずれも直線的に連続。φ1～3m/m石英粒、φ3～5m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下端部にマンガン鉱染伴う。 色調は灰黄褐（10YR 4/2）～黒褐色（10YR 3/1・下端部のみ）、厚さ20m/m
51	48.92～52.42m：CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体

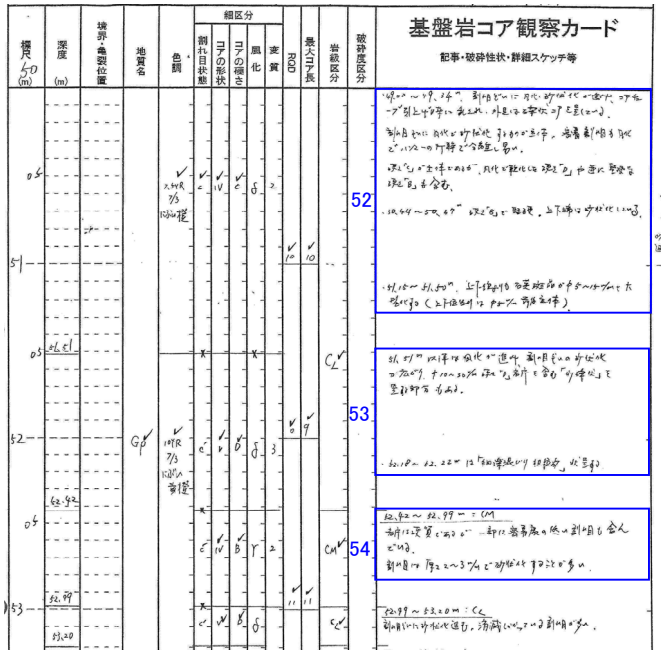
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
50	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・粒度について，Φ0.5～1mmの石英粒を20%程度含むとの記載に基づき，砂混じり粘土と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・48.88～48.92mは，48.08～48.12mの誤り。※2
51	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

H27-B-2

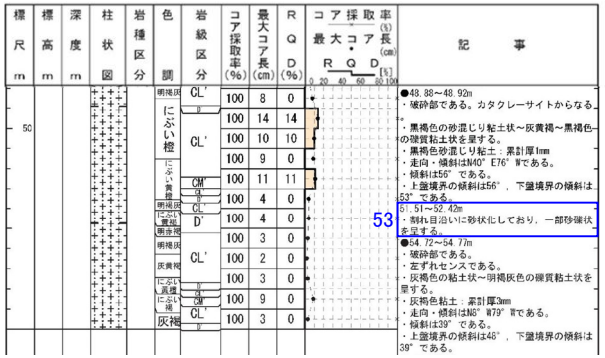
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
49.00～49.34m　割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。 割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。 硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。 50.44～50.67m　硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。 51.15～50.50m　上下位よりも石英斑晶がφ5～15m/mと大型化する（上下位側はφ5m/m前後主体）。	52
51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10～30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。 52.18～52.22mは「細礫混じり粗粒砂」状呈する	53
52.42～52.99m：CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。 割れ目は厚さ2～3m/mで砂状化することが多い。	54

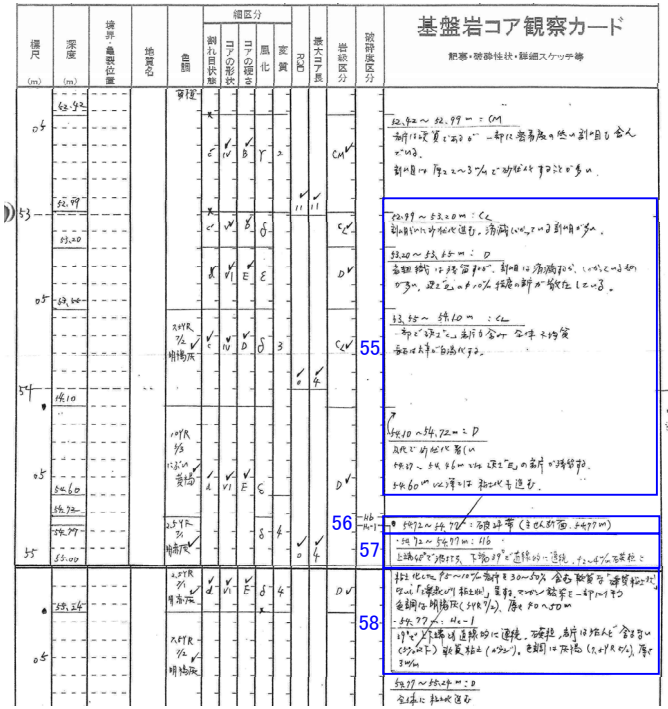
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
52	・49.00～49.34mの一部割れ目沿いで砂状化し，礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・50.44～50.67mの一部で砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
53	・“岩級区分”欄に基づき，52.42mと記載。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
54	・岩級とその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・コアの硬軟については，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂状を呈するが，連続性や直線性に乏しく，周囲に比べて著しく砂状化していないことから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

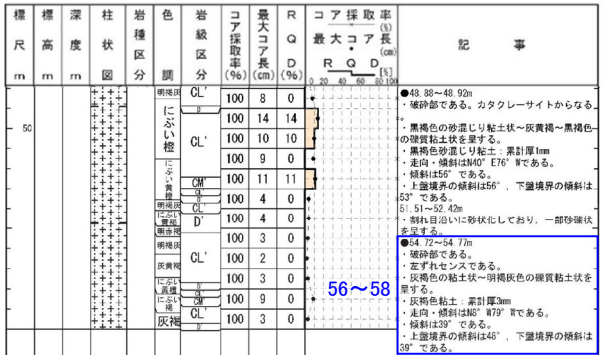
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
52.99～53.20m：CL 割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。 53.20～53.55m：D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10m/m程度の岩片が散在している。 53.55～54.10m：CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質 長石は大半が白濁化する。 54.10～54.72m：D 風化で砂状化著しい 54.37～54.46mでは硬さ「E」の岩片が残留する。 54.60m以深では粘土化も進む。
●54.72～54.77m：破砕帯（主せん断面、54.77m）
54.72～54.77m：Hb 上端48°で 波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2～4m/m石英粒と
粘土化したφ5～10m/m岩片を30～50%含む軟質な「礫質粘土状」ないし「礫混じり粘土状」呈する。マンガン鉱染を一部に伴う 色調は明褐灰（5YR 7/2）、厚さ40～50m 54.77m：Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない（5%以下） 軟質粘土（ガウジ）。色調は灰褐（7.5YR 5/2）、厚さ3m/m

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
55	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・52.99～53.20mで割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・54.10～54.72mでは砂状化しているが，掘削時の機械割れによるものと判断し削除。 ・54.60m以深では，粘土化が進んでいるが，劣化に系統性が認められないことから削除。
56～58	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-2

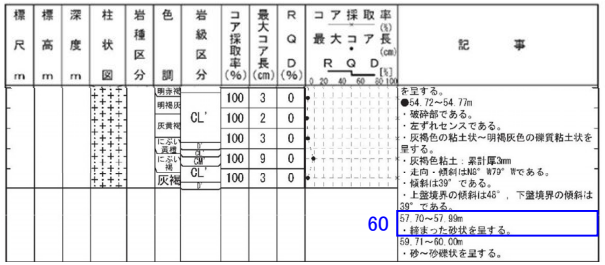
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
54.77～55.24m：D 全体に粘土化進む 55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む 55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24～57.70m：CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。 56.83～57.00mでは割れ目ぞいの風化が進み砂状化、残留する硬さDのφ5～10m/m岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。 57.00～57.45mは密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細岩化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。 57.45～57.70m　割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。
59
57.70～57.99m：D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。
60
57.99～58.28m：CL 岩片は硬いが20～30°　割れ目が10～30m/m間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。
61

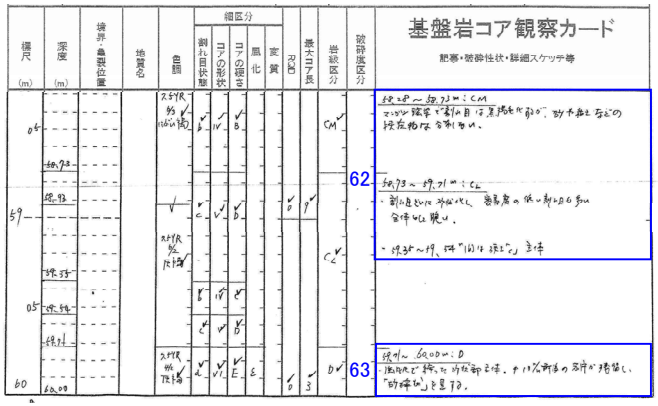
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
59	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・54.77～55.24mで粘土化が進行しているが，劣化に系統性が認められないことから削除。 ・マンガン，割れ目沿いの変色，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・55.24～57.70mの一部割れ目沿いで締まった砂状を呈するが，連続性に乏しいことから削除。 ・56.83～57.00mで砂礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・57.00～57.45mで細片化しているが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
60	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目及び岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
61	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

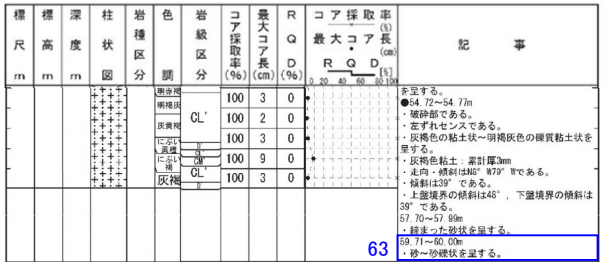
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
62	58.28～58.73m：CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。 58.73～59.71m：CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い 全体として脆い 59.35～59.54m間は硬さ「C」主体
63	59.71～60.00m：D 強風化で締った砂状部主体。φ10m/m前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。

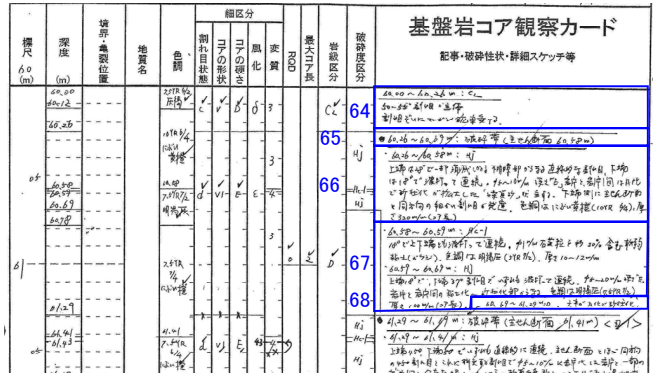
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
62	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・マンガン，変色，挟在物の有無，割れ目の密着状況については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化しているが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
63	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・風化の程度については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・砂礫状部を構成する岩片の粒径については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

64
60.00～60.26m：CL
50～55° 割れ目が主体
割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。

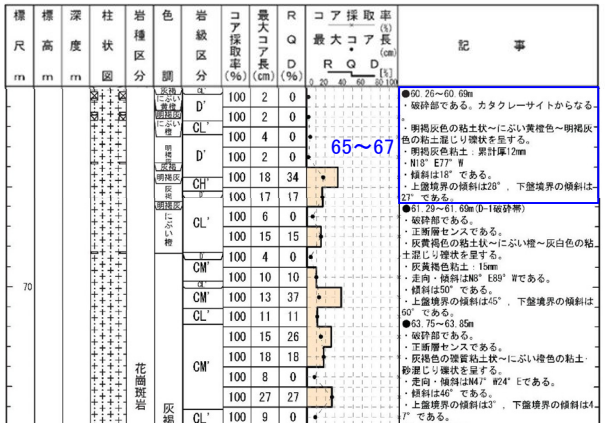
65
●60.26～60.69m：破砕帯（主せん断面60.58m）

66
60.26～60.58m：Hj
上端は28° で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18° で波打って連続。φ5～10m/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙（10YR 6/4）、厚さ320m/m（コア長）。

67
60.58～60.59m：Hc-1
18° で上下端とも波打って連続。φ1m/m石英粒を約20%含む軟弱粘土（ガウジ）。色調は明褐灰（5YR 7/2）、厚さ10～12m/m
60.59～60.69m：Hj
上端18° で、下端37° 割れ目でいずれも波打って連続。φ5～20m/m硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。色調は明褐灰（7.5YR 7/2）、厚さ100m/m（コア長）。

68
60.69～61.29m：D
大半が風化で砂状化

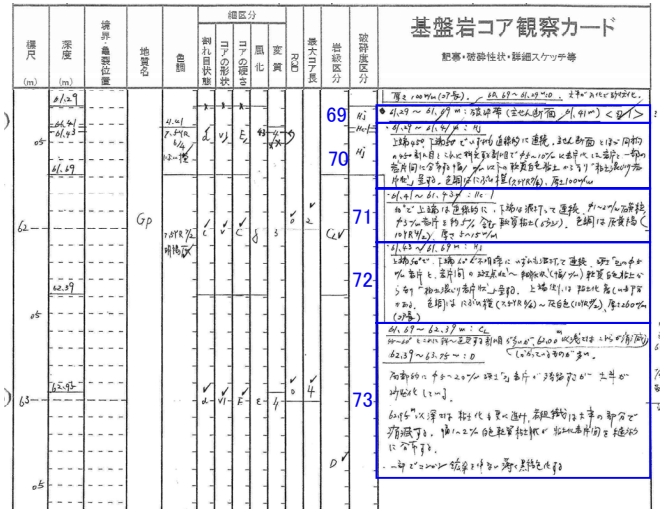
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
64	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
65～67	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（岩片と岩片間の粘土化→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・下盤境界の傾斜37° →27° ※1，※4 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
68	・岩級及びその深度区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・砂状化しているが，劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

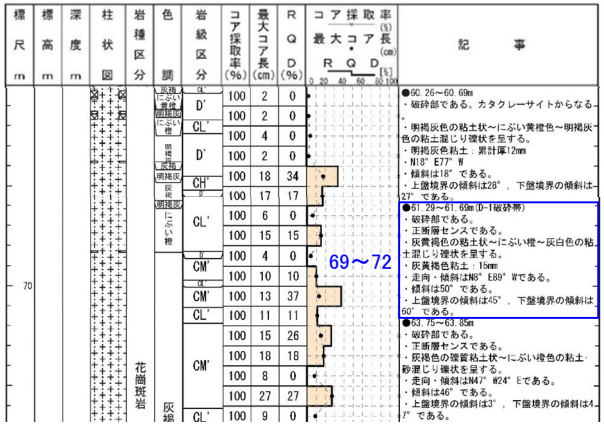
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
69	●61.29～61.69m：破砕帯（主せん断面61.41m）＜D-1＞
70	61.29～61.41m：Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目でφ5～10m/mに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1m/m以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙（7.5YR 7/4）、厚さ100m/m
71	61.41～61.43m：Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m岩片を約5%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐（10YR 4/2）、厚さ5～15m/m
72	61.43～61.69m：Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5m/m岩片と、岩片間の斑点状～細脈状（幅1m/m）軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙（7.5YR 6/4）～灰白色（10YR 8/2）、厚さ260m/m（コア長）
73	61.69～62.39m：CL 45～60°とこれに斜～直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。 62.39～63.75m：D 局部的にφ5～20m/m硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。62.95m以深では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2m/m白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴ない薄く黒褐色化する

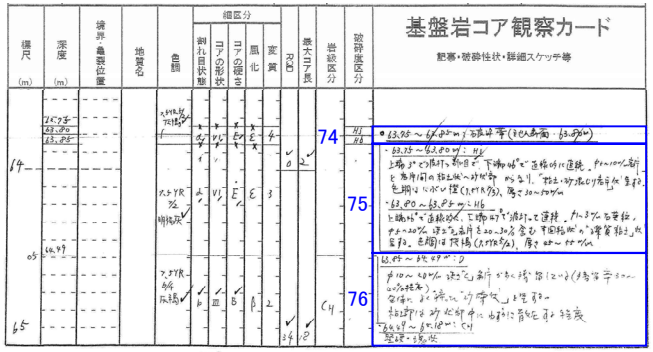
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
69～72	・薄片観察の結果で得られた，最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土細脈については，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
73	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜，マンガン，変色については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・62.39～63.75mで砂状化し，一部で粘土を挟在するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

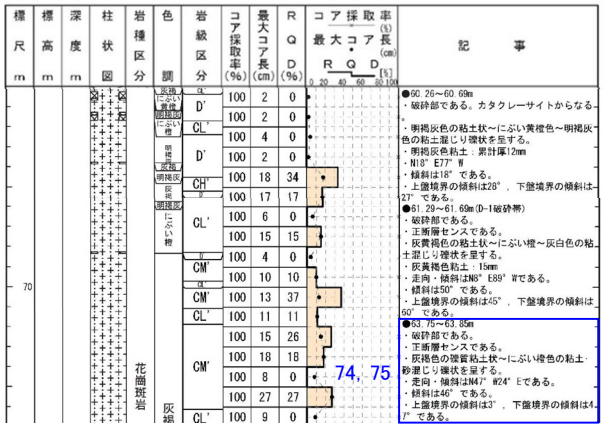
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
74	●63.75～63.85m：破砕帯（主せん断面63.80m）
75	63.75～63.80m：Hj 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で直線的に連続。φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい橙（7.5YR 7/3）、厚さ30～50m/m 63.80～63.85m：Hb 上端46°で直線的に、下端47°で波打って連続。φ1～3m/m石英粒、φ5～20m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は灰褐（7.5YR 5/2）、厚さ45～55m/m
76	63.85～64.49m：D φ10～20m/m硬さ「C」岩片が多く残留している（残留率30～40%程度）。 全体によく締った「砂礫状」を呈する。 粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度 64.49～65.18m：CH 堅硬・塊状

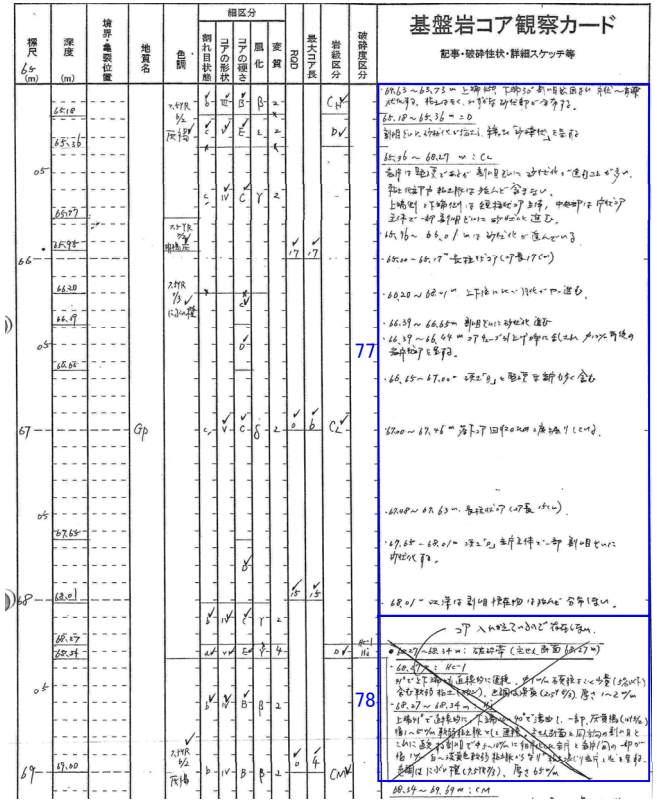
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
74，75	・薄片観察の結果で得られた，最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
76	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・岩片の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・63.85～64.49mで締まった砂礫状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

64.63～63.73m　上端45°、下端30°割れ目に囲まれ片状～角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。
65.18～65.36m：D
割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する
65.36～68.27m：CL
岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。
粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。
上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。
65.96～66.01mは砂状化が進んでいる
65.00～65.17m　長柱状コア（コア長17cm）
66.20～68.01m　上下位に比べ風化がやや進む。
66.39～66.65m　割れ目ぞいに砂状化進む
66.39～66.44m　コアチューブ引上げ時に乱されφ10%前後の岩片状コアを呈する。
66.65～67.00m　硬さ「B」と堅硬な岩片も多く含む
67.00～67.46m　落下コア回収のため2度掘りしている。

67.48～67.63m　長柱状コア（コア長15cm）

67.65～68.01m　硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。

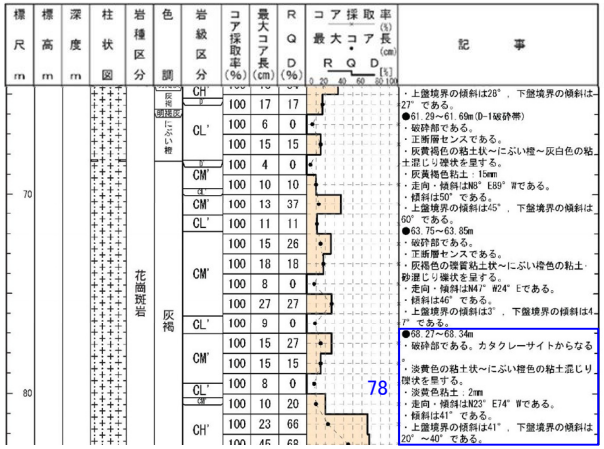
68.01m以深は割れ目挟在物は殆んど分布しない。

77

●68.27～68.34m：破砕帯（主せん断面68.27m）
68.27m：Hc-1
41°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をごく少量（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）。色調は淡黄（2.5Y　8/3）、厚さ1～2m/m
68.27～68.34m：Hj
上端41°で直線的に、下端20～40°で湾曲し、一部、灰黄褐（10Y　5/2）幅1～5m/m軟弱粘土脈として連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目でφ5～10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部が幅1m/m白～淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。
色調はにぶい橙（7.5YR7/3）、厚さ65m/m

78

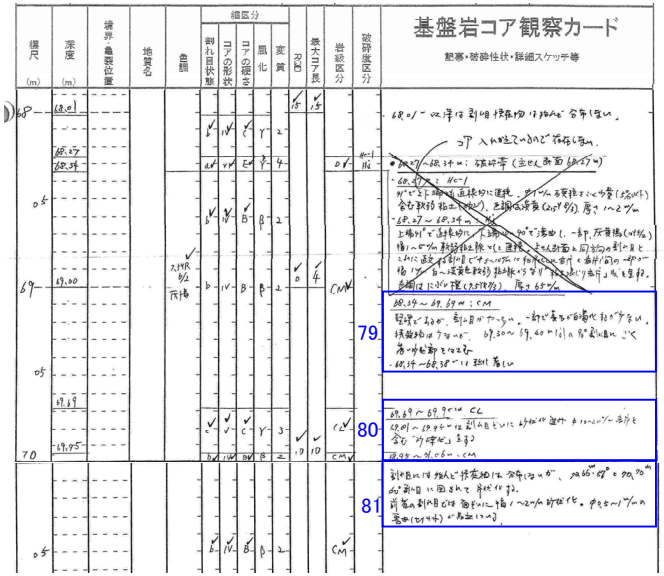
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
77	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・64.63～64.73mで片状～角礫状，65.36～68.27mの割れ目沿いで砂状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・65.18～65.36mで締まった砂礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
78	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・68.27～68.34mは，68.02～68.06mの誤り。※2

H27-B-2

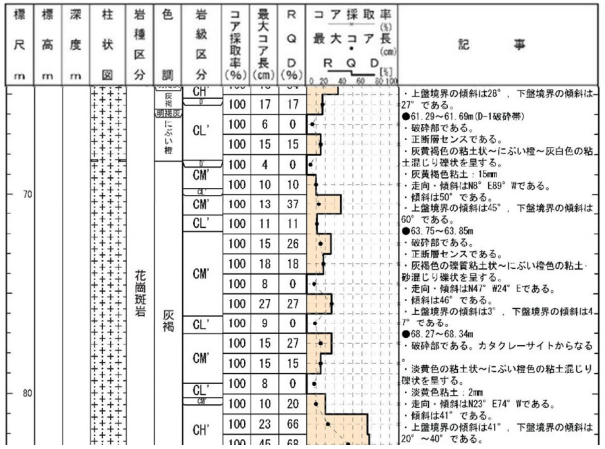
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
79	68.34～69.69m：CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟雑物は少ないが、69.30～69.40m間の90° 割れ目にごく薄い砂状部をはさむ 68.34～68.38mは軟化著しい
80	69.69～69.95m：CL 69.81～69.95mは割れ目ぞいに砂状化進み φ10～20m/m岩片を含む「砂礫状」呈する 69.95～71.06m：CM
81	割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57° と70.70m・60° 割れ目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面ぞいに幅1～2m/m砂状化。φ0.5～1m/mの雲母（セリサイト）が晶出している。

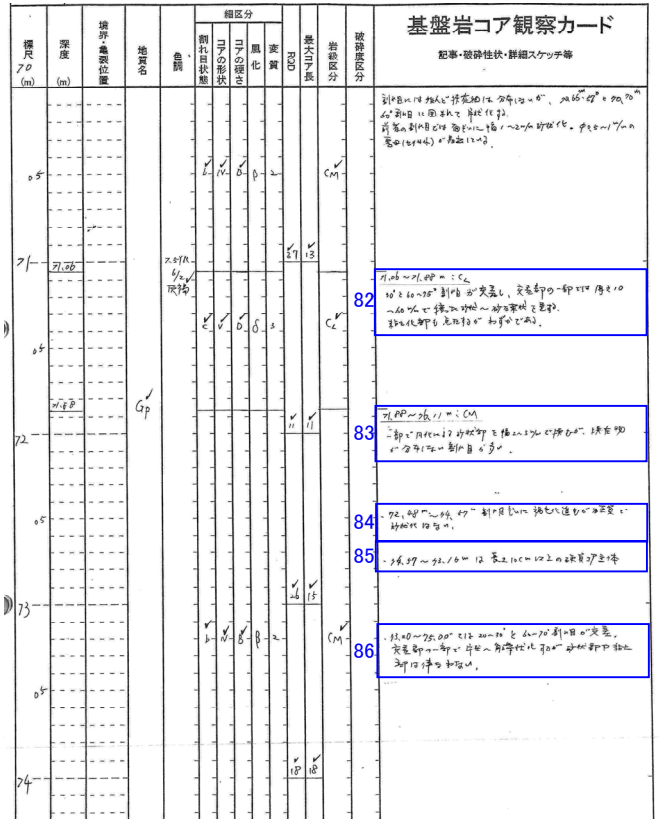
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
79	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・区間上端が軟質化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
80，81	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部で砂礫状・片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の挟在物の有無，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

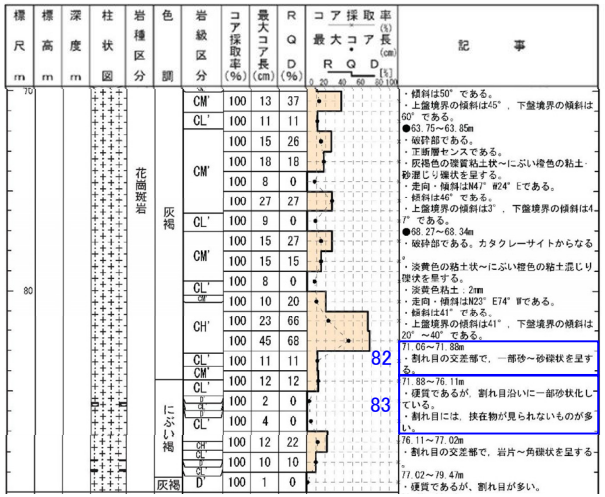
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
82	71.06～71.88m：CL 30°と60～75°割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10～60m/mで締った砂状～砂礫状を呈する。 粘土化部も点在するがわずかである。
83	71.88～76.11m：CM 一部で風化による砂状部を幅2～3m/mで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。
84	72.48m～74.57m　割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。
85	74.57～73.16mは長さ10cm以上の硬質コア主体
86	73.20～75.00mでは20～30°と60～70°割れ目が交差。 交差部の一部で片状～角礫状化するが砂状部や粘土部は伴なわない。

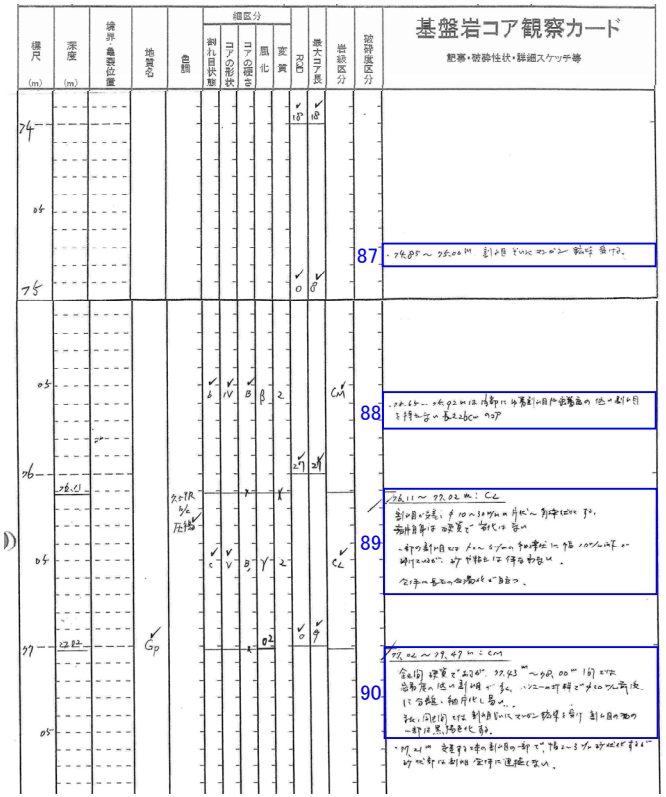
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
82	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・粘土化部については，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
83	・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
84	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
85	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示していることから削除。
86	・割れ目の傾斜，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。

H27-B-2

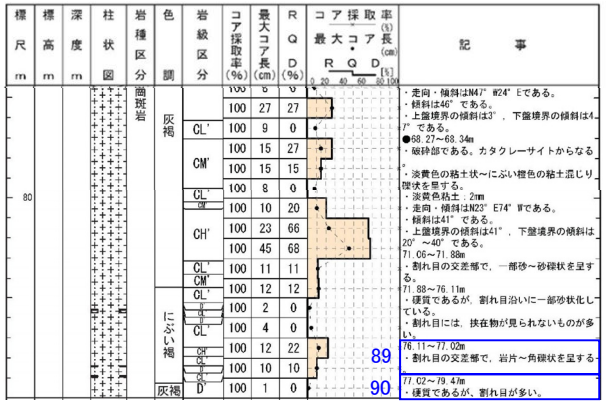
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
87	74.85～75.00m　割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。
88	75.65～75.92mは内部にゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア
89	76.11～77.02m：CL 割れ目が交差しφ10～30m/mの片状～角礫状化する。 岩片自身は硬質で劣化はない 一部の割れ目ではφ2～5m/mの細礫状に幅10m/m以下で砕けているが、砂や粘土は伴なわない。 全体に長石の白濁化が目立つ。
90	77.02～79.47m：CM 全区間硬質であるが、77.43m～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30m/m前後に分離・細片化し易い。 また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。

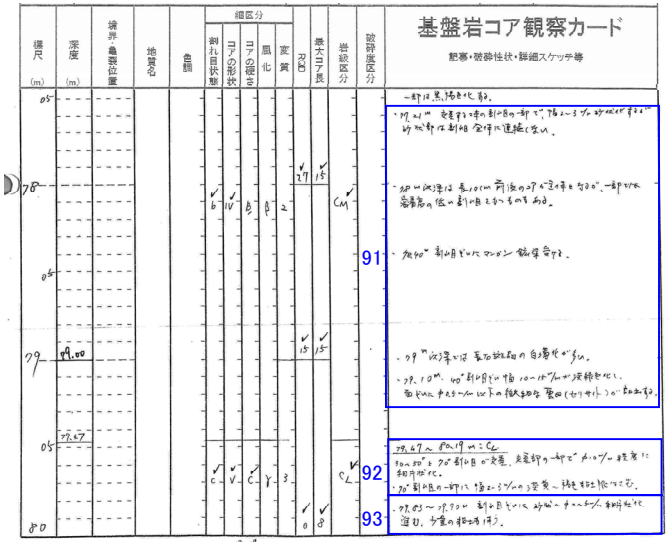
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
87，88	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
89	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで細礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
90	・“コアの形状”欄に基づき，割れ目が多いと記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態，マンガン，変色については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

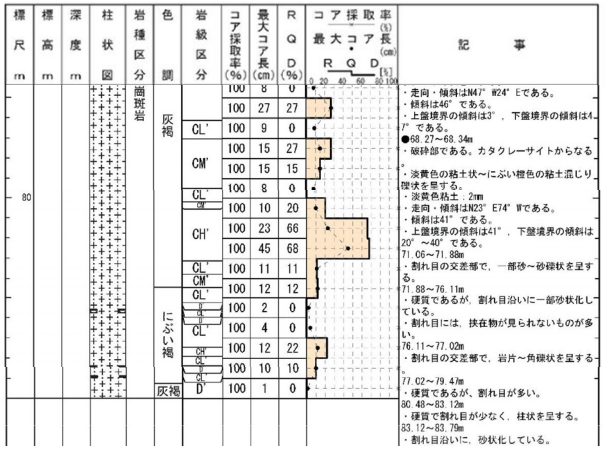
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
77.21m　交差する2本の割れ目の一部で、幅2～3m/m砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。 78m以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。 78.40m　割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。	91
79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。 79.10m　40°割れ目ぞい幅10～15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5m/m以下の微細な雲母（セリサイト）が晶出する。	
79.47～80.19m：CL 30～50°と70°割れ目が交差、交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。 70°割れ目の一部に幅2～3m/mの淡黄～褐色粘土脈はさむ。	92
79.83～79.90m　割れ目ぞいに砂状～φ2～5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。	93

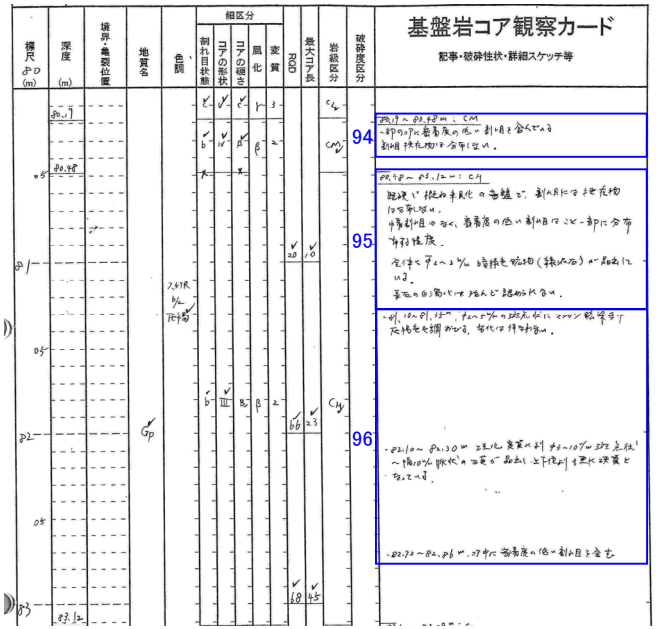
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
91	・77.21mで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態，マンガン，割れ目の変色，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
92	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで細片状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・一部に粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
93	・一部割れ目沿いで砂状化し，粘土を伴うが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

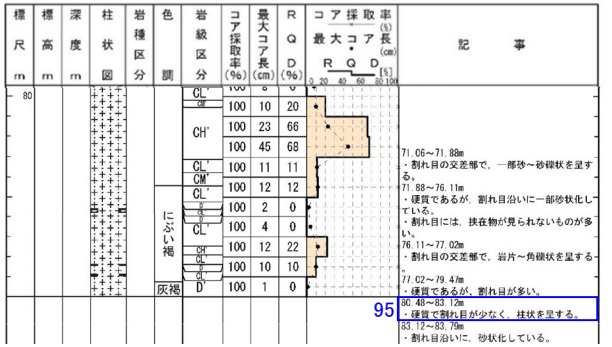
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
94	80.19～80.48m：CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
95	80.48～83.12m：CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2～3m/m暗緑色鉱物（緑泥石）が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
96	81.10～81.35m　φ2～5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。 82.10～82.30m　珪化変質によりφ5～10m/m斑点状～幅10m/m脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。 82.72～82.86m　コア中に密着度の低い割れ目を含む

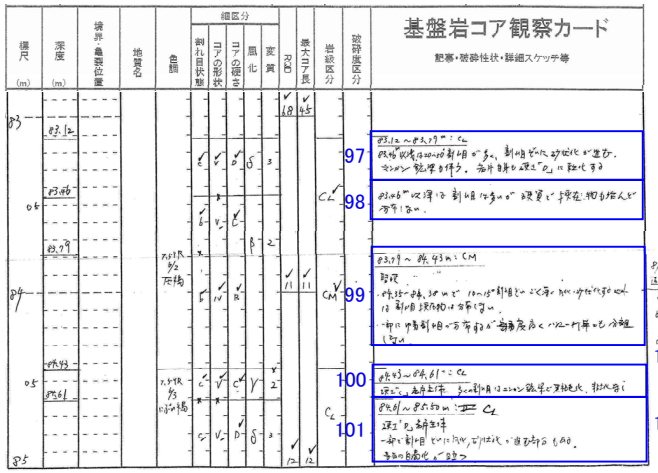
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
94	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
95	・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき，硬質，柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無，割れ目の密着状態，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	・マンガン，色調，鉱物の晶出，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

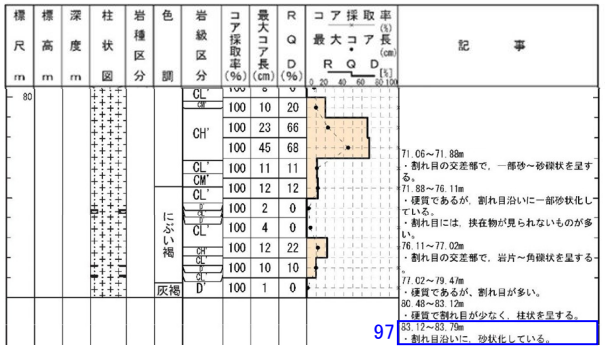
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
97	83.12～83.79m：CL 83.46m以浅は20～50° 割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟化する
98	83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。
99	83.79～84.43m：CM 堅硬。 84.35～84.38mで10～15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化、砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。
100	84.43～84.61m：CL 硬さ「C」岩片主体、多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし
101	84.61～85.50m：CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。

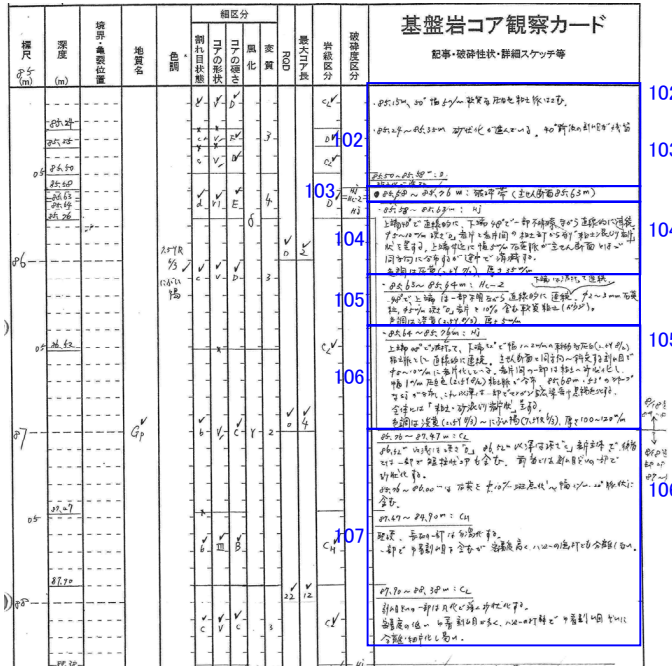
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
97	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
98	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
99	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・84.35～84.38mで割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
100	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
101	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

85.15m　50°　幅5m/m軟質な灰白色粘土脈はさむ。
85.24～85.35m　砂状化が進んでいる。40°　前後の割れ目が残留
85.50～85.58m：D
粘土化が進む。

●85.58～85.76m：破砕帯（主せん断面85.63m）

85.58～85.63m：Hj
上端40°　で直線的に、下端48°　で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ5～10m/、硬さ「D」岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。
上端付近に幅5m/m石英脈が主せん断面とほゞ同方向に分布するが途中で消滅する。
色調は灰黄（2.5Y　7/2）、厚さ35m/m

85.63～85.64m：Hc-2
48°　で、上端は一部不明ながら直線的に連続。下端は波打って連続。φ2～3mm石英粒、φ5m/m、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土（ガウジ）。
色調は淡黄（2.5Y　8/3）、厚さ5m/m

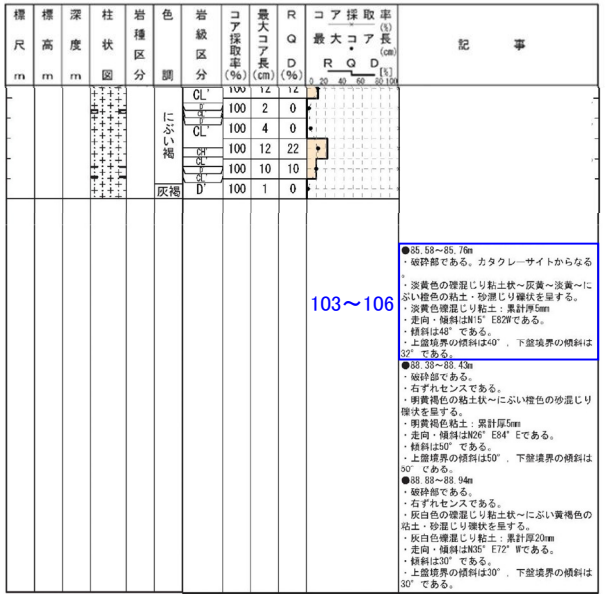
85.64～85.76m：Hj
上端48°　で波打って、下端32°　で幅1～2m/mの軟弱な灰白（2.5Y　8/2）粘土脈として直線的に連続。主せん断面と同方向～斜交する割れ目でφ5～10m/mに岩片化している。岩片間の一部は粘土～砂状化し、幅1m/m灰白色（2.5Y　8/2）粘土脈が分布。85.68m・53°　のシャープなsjが分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。
全体には「粘土・砂混じり岩片状」呈する。
色調は淡黄（2.5Y　8/3）～にぶい褐（7.5YR　6/3）、厚さ100～120m/m

85.76～87.47m：CL
86.52m以浅は硬さ「D」86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。
85.76～86.00mは石英をφ10 m/m斑点状～幅2m/m、20°脈状に含む。

87.47～84.90m：CH
堅硬、長石の一部は白濁化する。
一部でゆ着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。

87.90～88.38m：CL
割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。
密着度の低いゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃でゆ着割れ目ぞいに分離・細片化し易い。

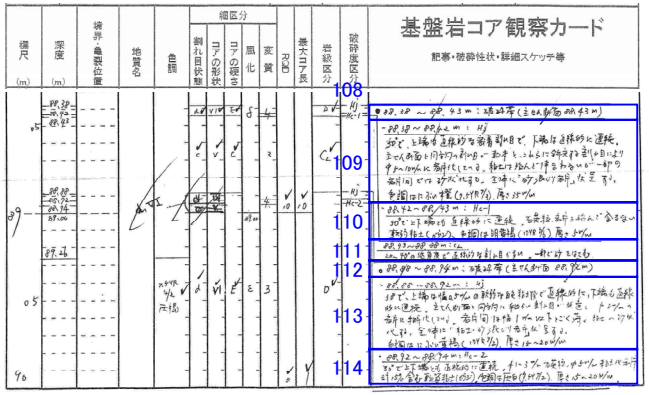
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
102	・一部で粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・一部で砂状化しているが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・85.50～85.58mで粘土化が進行しているが，原岩組織が比較的残留しており，劣化の系統性も不明瞭であることから削除。
103～106	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状） ・Φ2～3mmの石英粒，Φ5mm硬さD岩片を10%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
107	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，いずれも周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-2

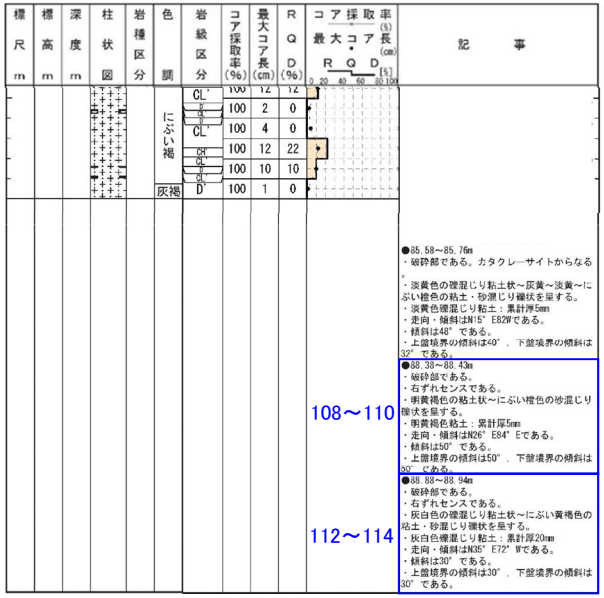
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
108	●88.38～88.43m：破砕帯（主せん断面88.43m）
109	88.38～88.42m：Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目によりφ5～10 m/mに岩片化している。粘土は殆んど伴なわないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい橙（7.5YR7/3）厚さ35 m/m
110	88.42～88.43m：Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土（ガウジ）、色調は明黄褐（10 YR6/6）、厚さ5 m/m
111	88.43～88.88m：CL 20～40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂をはさむ。
112	●88.88～88.94m：破砕帯（主せん断面88.92m）
113	88.88～88.92m：Hj 30°で、上端は幅0.5m/mの軟弱な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達しφ5m/mの岩片に細片化している。岩片間は幅1m/m以下とごく薄く粘土～砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐（10YR7/2）、厚さ15～20m/m
114	88.92～88.94m：Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続、φ1～3 m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片計15%含む軟質粘土（ガウジ）、色調は灰白（7.5Y7/2）、厚さ15～20 m/m

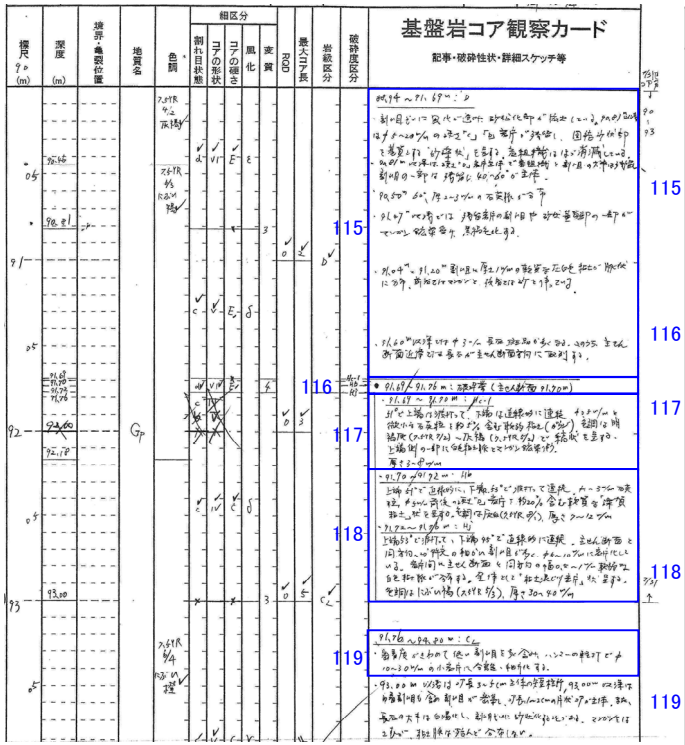
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
108～110	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（砂混じり岩片状→砂混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
111	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部で砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
112～114	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状） ・Φ1～3mm石英粒，Φ5mm粘土化岩片計15%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-2

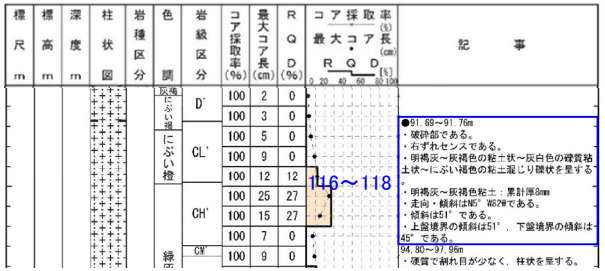
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
88.94～91.69m：D 割れ目ぞいに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5～20 m/mの硬さ「C」「D」岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40～60°が主体。 90.50m　60°、厚2～3 m/mの石英脈が分布 90.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。 91.04mと91.20m　割れ目に厚さ1 m/mの軟質な灰白色粘土が脈状に分布、前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。 91.60m以深ではφ3m/m長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。
●91.69～91.76m：破砕帯（主せん断面91.70m）
91.69～91.70m：Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5 m/mと微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土（ガウジ）、色調は明褐灰（7.5YR7/2）～灰褐（7.5YR5/2）で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。 厚さ3～8 m/m
91.70～91.72m：Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続、φ1～3 m/m石英粒、φ5m/m前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「礫質粘土」状を呈する。色調は灰白（7.5YR8/1）、厚さ7～12 m/m 91.72～91.76m：Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主せん断面と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5～10m/mに岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5～1m/m軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐（7.5YR　5/3）、厚さ30～40m/m
91.76～94.80m：CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10～30m/mの小岩片に分離・細片化する。

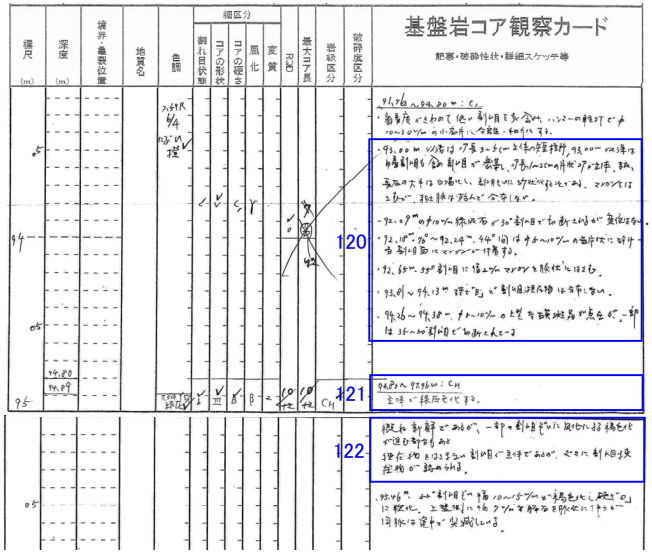
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
115	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・88.94～90.81mでは砂礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜，鉱物脈，マンガン，割れ目の変色については，補足的なものであるため削除。 ・90.81～91.69mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
116～118	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
119	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

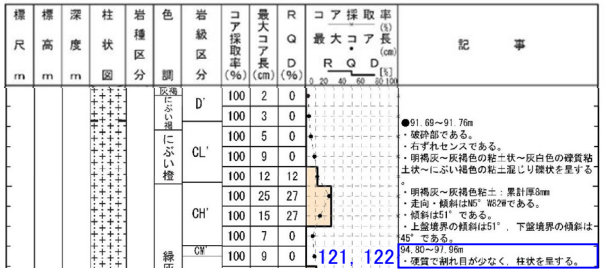
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
93.00m以浅はコア長3～5cm主体の短柱コア、93.00m以深はゆ着割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目ぞいに砂状化することがある。マンガンをはさむが、粘土脈は殆んど分布しない。 92.09mのφ10m/m緑泥石が30° 割れ目で切断されるが変位はない。 92.18m・70° ～92.24m・44° 間はφ5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。 92.65m 55° 割れ目に幅2m/mマンガンを脈状にはさむ。 93.81～94.13m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。 94.26～94.38m φ5～10m/mの大型な石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。	120
94.80～97.96m：CH 全体が緑灰色化する。	121
概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある挟在物をはさまない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。	122

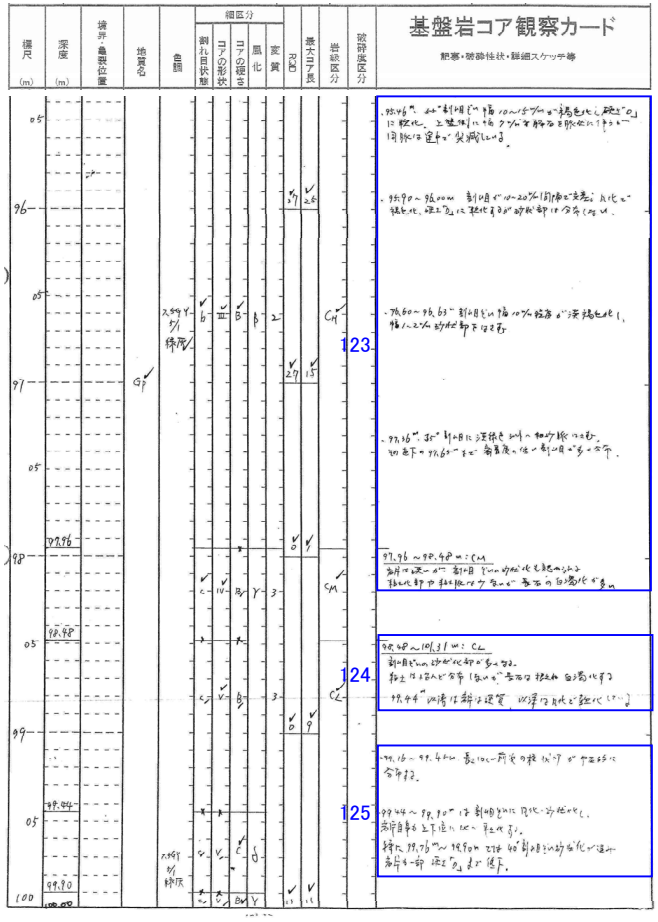
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
120	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，マンガン，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・91.76～93.00mの一部割れ目沿いで砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・緑泥石が切断される，石英斑晶が切断されるとの記載については，変位が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・92.18～92.24mで岩片状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
121，122	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・色調，割れ目沿いの変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
123	95.46m　55°　割れ目ぞい幅10～15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。 95.90～96.00m　割れ目が10～20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。 96.60～96.63m　割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1～2m/m砂状部をはさむ 97.36m　35°　割れ目に淡緑色シルト～細砂脈はさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。 97.96～98.48m：CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
124	98.48～101.31m：CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟化している
125	99.16～99.45m　長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44～99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m～99.90mでは40°　割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

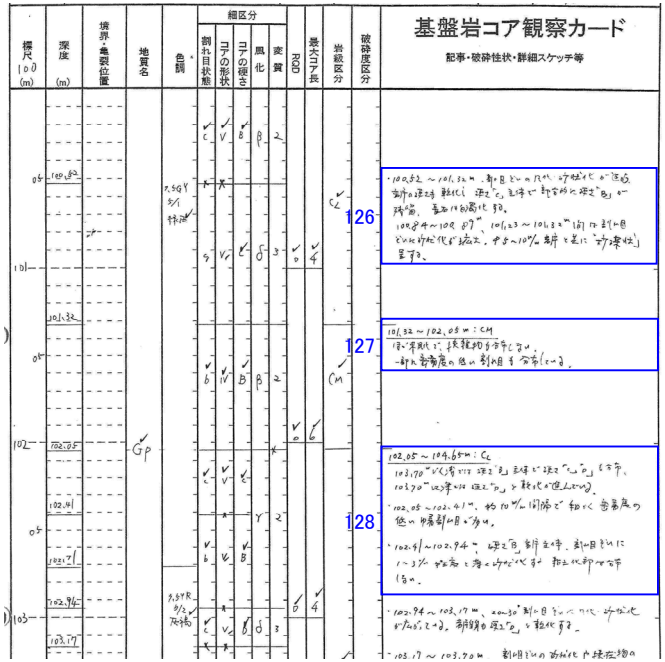
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
123	・割れ目の傾斜・変色，鉱物脈，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化，シルトや砂の挟在がみられるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
124	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
125	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
100.52～101.32m　割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84～100.89m、101.23～101.32m間は割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5～10m/m岩片と共に「砂礫状」呈する。	126
101.32～102.05m：CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	127
102.05～104.65m：CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布、103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。 102.05～102.41m　約10m/m間隔で細かく密着度の低いゆ着割れ目が多い。 102.41～102.94m　硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1～3m/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	128

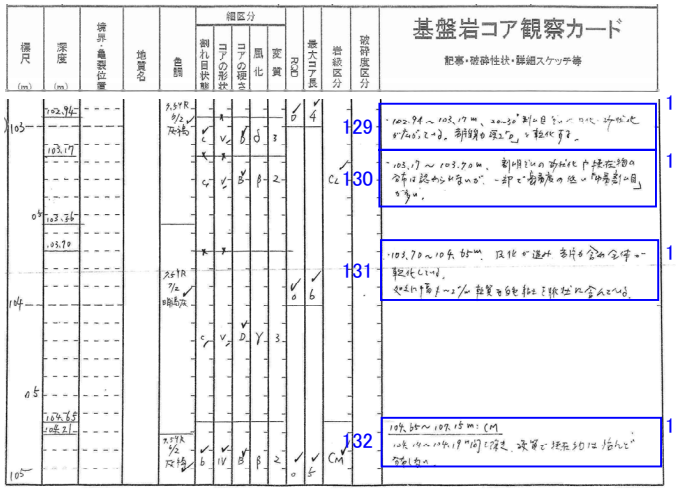
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
126	・一部割れ目沿いに砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・100.84～100.89m，101.23～101.32mで砂礫状を呈するが，いずれも連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
127	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・挟在物の有無，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
128	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

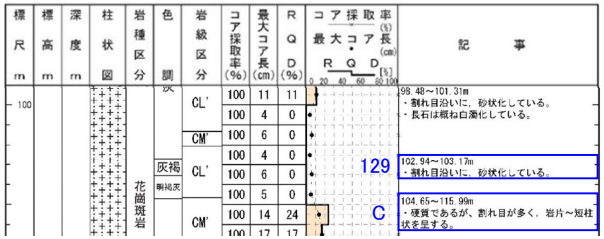
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
129	102.94～103.17m　20～30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。
130	103.17～103.70m　割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「ゆ着割れ目」が多い。
131	103.70～104.65m　風化が進み岩片も含め全体が軟化している。 処々に幅1～2m/m軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。
132	104.65～107.15m：CM 104.14～104.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。

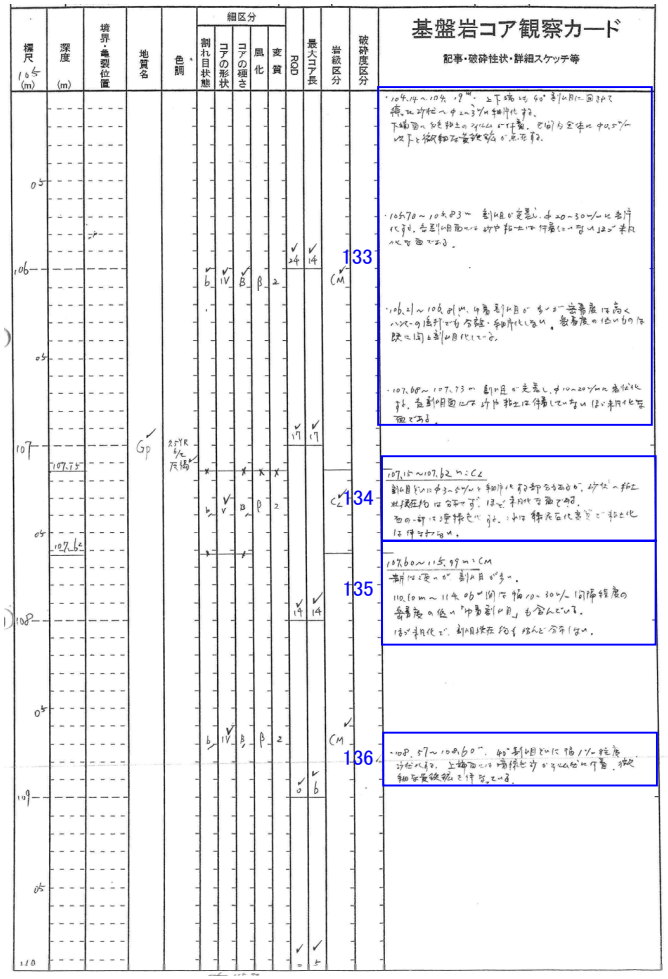
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
129	・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
130	・割れ目の挟在物の有無，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
131	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
C	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，岩片～短柱状と記載。
132	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

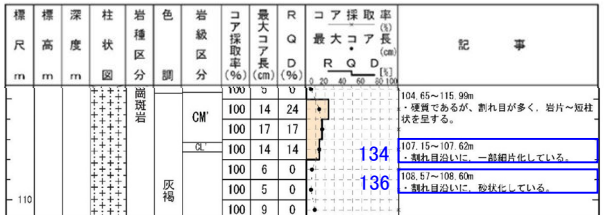
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
133	104.14～104.19m　上下端とも40°　割れ目に囲まれて締った砂状～φ2～3m/m細片化する。 下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m/m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。 105.70～105.83m　割れ目が交差し、φ20～30m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。 106.21～106.81m　ゆ着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。 107.68～107.73m　割れ目が交差し、φ10～20m/mに岩状化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。
134	107.15～107.62m：CL 割れ目ぞいにφ3～5m/mと細片化する部分もあるが、砂状～粘土状挟在物は分布せず、ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴なわない。
135	107.60～115.99m：CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m～114.06m間は幅10～30m/m間隔程度の密着度の低い「ゆ着割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。
136	108.57～108.60m　40°　割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴なっている。

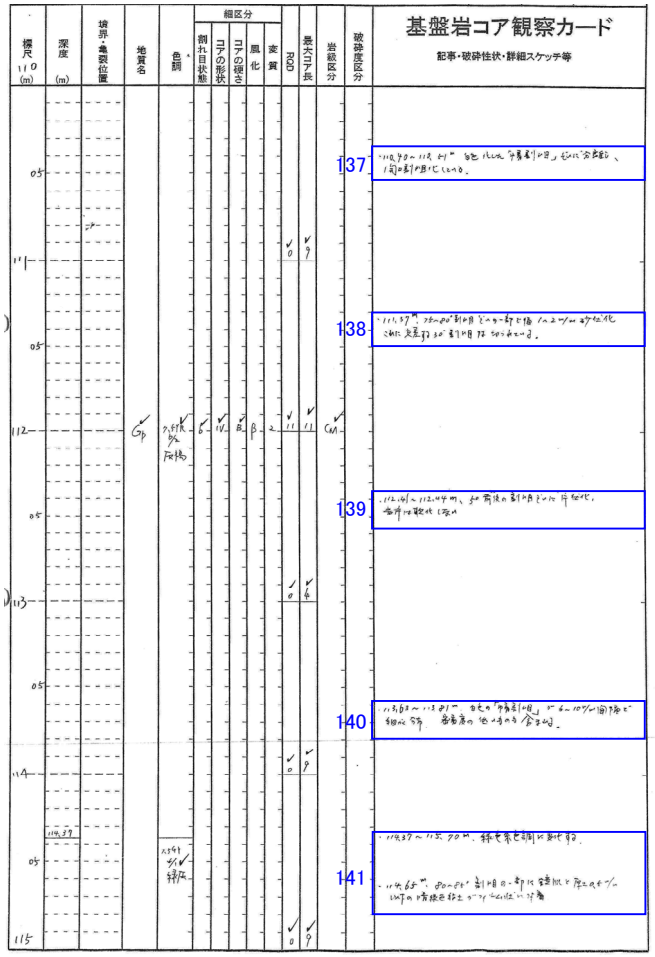
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
133	・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・104.14～104.19mで締まった砂状を呈し，粘土を挟在するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・105.70～105.83m，107.68～107.73mで岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
134	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
135	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
136	・割れ目の傾斜，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
137	110.40～110.51m　白色化した「ゆ着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。
138	111.37m　75～80°割れ目ぞいの一部で幅1～2m/m砂状化 これに交差する30°割れ目は切られている。
139	112.41～112.44m　5°前後の割れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない
140	113.63～113.81m　白色の「ゆ着割れ目」が5～10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。
141	114.37～115.70m　緑色系色調に変化する。 114.65m　80～85°割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5m/m以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着

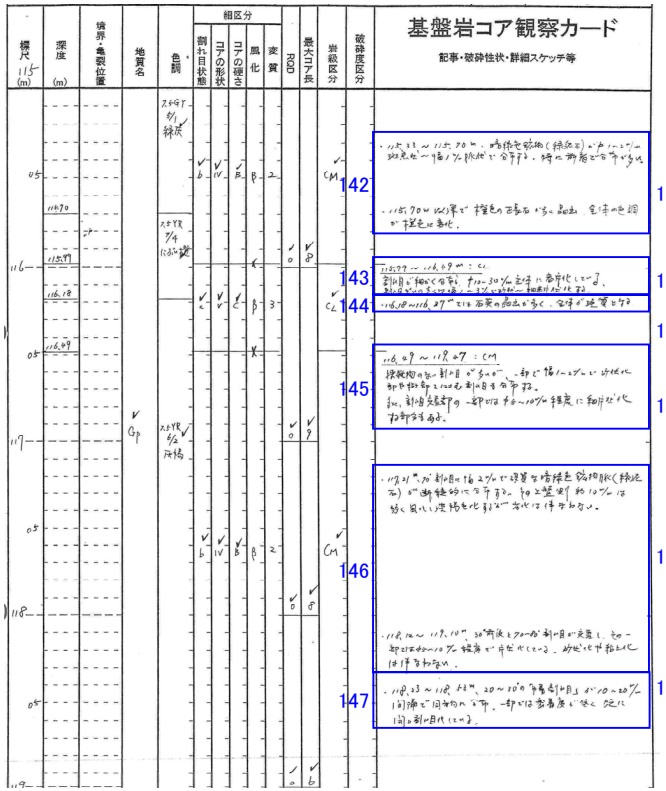
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
137	・割れ目沿いに開口しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。
138	・割れ目沿いに砂状化し，割れ目は切られているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
139	・割れ目沿いに細片化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
140	・変更なし
141	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・114.65mで鏡肌を伴い，粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

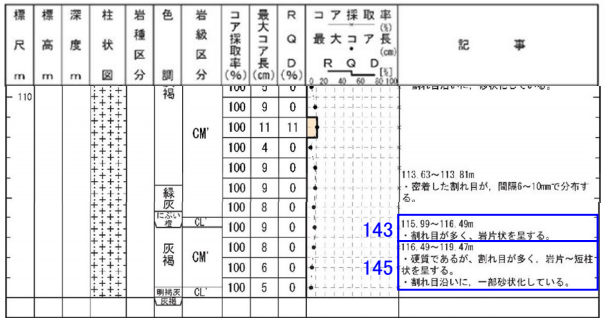
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
142	115.33～115.70m　暗緑色鉱物（緑泥石）がφ1～2m/m斑点状～幅1m/m脈状で分布する。特に前者で分布が多い。 115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。
143	115.99～116.49m：CL 割れ目が細かく分布し、φ10～30m/m主体に岩片化している。 割れ目ぞいの多くは幅1～3m/mで砂状～細密片状化する。
144	116.18～116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。
145	116.49～119.47：CM 挟雑物のない割れ目が多いが、一部で幅1～2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。 また、割れ目交差部の一部ではφ5～10m/m程度に細片状化する部分もある。
146	117.21m　70°割れ目に幅2m/mで硬質な暗緑色鉱物脈（緑泥石）が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴なわない。 118.12～119.10m　30°前後と70～80°割れ目が交差し、その一部ではφ5～10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴なわない。
147	118.23～118.53m　20～30°の「ゆ着割れ目」が10～20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口割れ目化している。

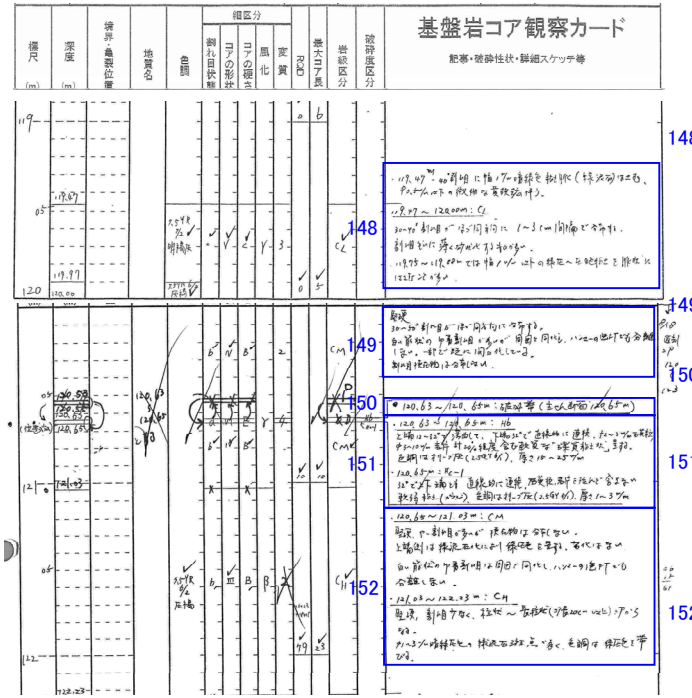
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
142	・色調，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
143	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達の程度については，”コアの形状”欄に基づき，岩片状と記載。 ・割れ目沿いで砂状から細片状を呈するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。
144	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
145	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，岩片～短柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂状化の幅については，ばらつきがあるため削除。
146	・鉱物脈，変色については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで片状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。
147	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

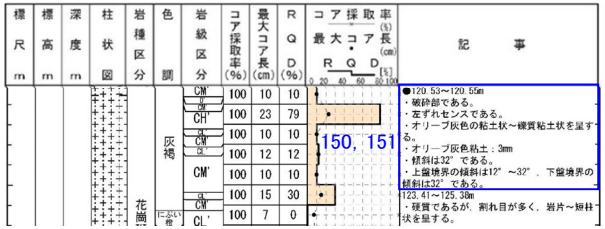
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
119.47m　40°　割れ目に幅1m/m暗緑色粘土脈（緑泥石）はさむ、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱伴う。 119.47～120.00m：CL 30～40°　割れ目がほぼ同方向に1～3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。 119.75～119.88mでは幅1m/m以下の緑灰～灰白色粘土を脈状にはさむことが多い。
堅硬 30～50°　割れ目がほぼ同方向に分布する。 白い筋状のゆ着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。 割れ目挟在物は分布しない。 ●120.63～120.65m：破砕帯（主せん断面120.65m）
120.63～120.65m：Hb 上端は12～32°　で湾曲して、下端32°　で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒、φ3～10m/m岩片計20%程度含む軟質な「礫質粘土状」呈する。 色調はオリーブ灰（2.5GY　6/1）、厚さ15～25m/m 120.65m：HC-1 32°　で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土（ガウジ）、色調はオリーブ灰（2.5GY　5/1）、厚さ1～3m/m
120.65～121.03m：CM 堅硬。やゝ割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない 白い筋状のゆ着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。
121.03～122.23m：CH 堅硬、割れ目少なく、柱状～長柱状（コア長20cm以上）コアからなる。 φ1～3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。

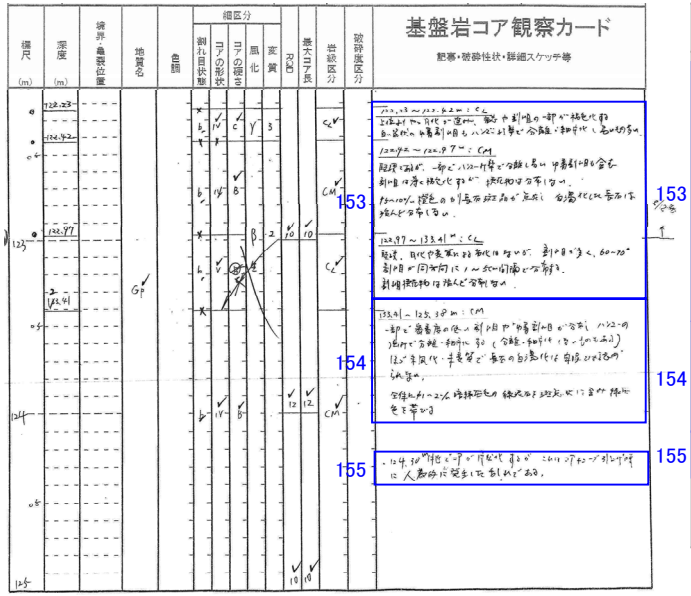
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
148，149	・119.47mに粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出，割れ目の傾斜・密着状態，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・119.75～119.88mに粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。
150，151	・深度120.63～120.65m→120.53～120.55m※2 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
152	・岩級およびその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無，色調，割れ目の密着状態，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

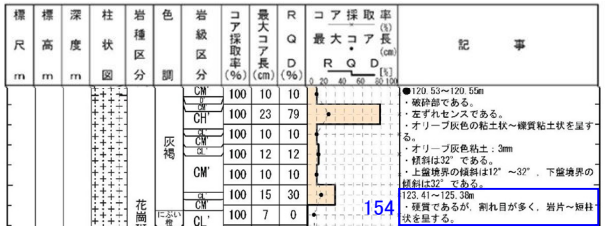
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
122.23～122.42m：CL 上位よりやゝ風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する 白い筋状のゆ着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いもの多い。
122.42～122.97m：CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む 割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。 φ5～10m/m橙色のカリ長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。
122.97～133.41m：CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60～70° 割れ目が同方向に1～5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
133.41～125.38m：CM 一部で密着度の低い割れ目や「ゆ着割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する（分離・細片化しないものもある） ほゞ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1～2m/m暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる
124.30m付近でコアが片状化するが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した乱れである。

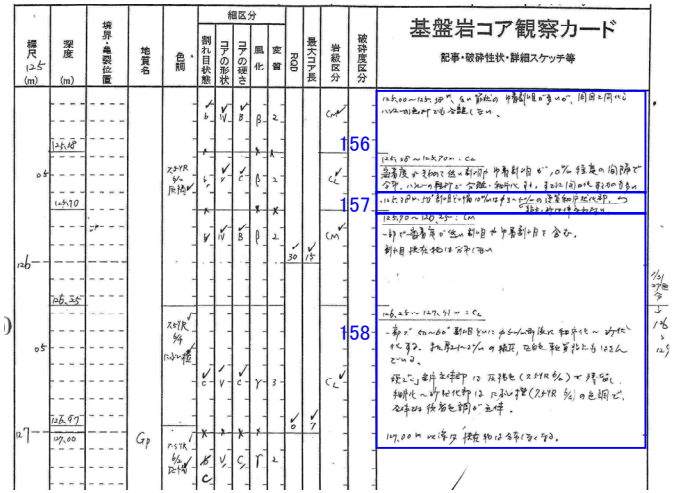
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
153	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・変色，割れ目の密着状態，挟在物の有無，割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
154	・上端深度133.41m→123.41m※3 ・“コアの硬さ”欄，“コアの形状”欄に基づき，硬質，岩片～短柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質による補足的なものであるため削除。
155	・124.30m付近で片状化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-2

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
125.00～125.38m　白い筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 125.38～125.70m：CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10m/m程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。	156
125.38m 50°　割れ目ぞい幅10m/mはφ3～5m/mの硬質細片状化部、粘土、砂は伴なわない。	157
125.70～126.25：CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆ着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない 126.25～127.41m：CL 一部で50～60°　割れ目ぞいにφ5m/m前後に細片化～砂状化する。また厚さ1～2m/mの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ「C」岩片主体部は灰褐色（7.5YR　6/2）で残留し、細片化～砂状化部はにぶい橙（7.5YR　6/4）の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	158

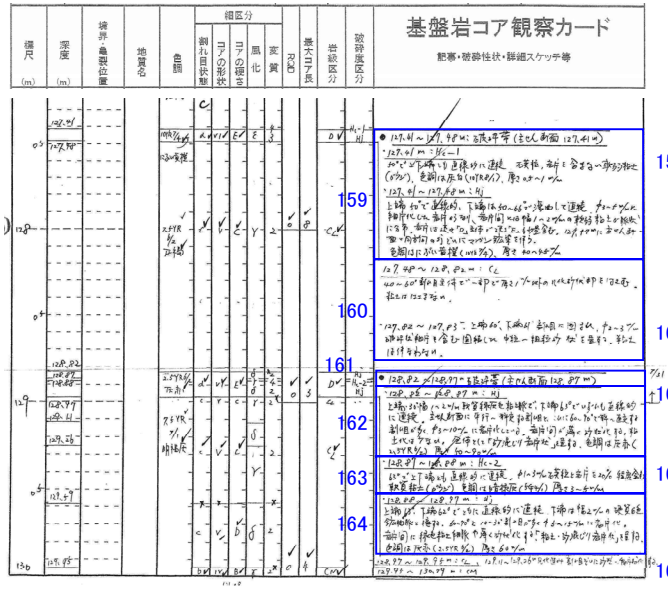
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
157	・割れ目の傾斜，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・細片化の幅については，一部で不連続で，ばらつきがあるため削除。
158	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・挟在物の有無，色調については，補足的なものであるため削除。 ・126.25～127.41mの一部割れ目沿いで細片～砂状化し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

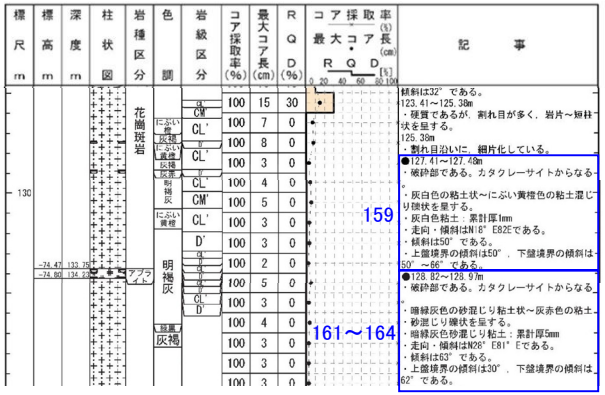
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
●127.41～127.48m破砕帯（主せん断面127.41m） 127.41m：Hc-1 50° で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟弱粘土（ガウジ）。色調は灰白（10YR 8/1）、厚さ0.5～1m/m 127.41～127.48m：Hj 上端50° で直線的、下端は50～66° で湾曲して連続、φ3～5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1～2m/mの軟弱粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のsjぞいにマンガン鉱染を伴う。 色調はにぶい黄橙（10YR 7/4）、厚さ40～45m/m	159
127.48～128.82m：CL 40～60° 割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化砂状部をはさむ。粘土ははさまない。 127.82～127.83m 上端60° 、下端61° 割れ目に囲まれ、φ2～3m/m破砕状細片を含む固結した中粒～粗粒砂状を呈する。粘土は伴なわない。	160
●128.82～128.97m破砕帯（主せん断面128.87m）	161
128.82～128.87m：Hj 上端・30° 幅1～2m/m軟質緑灰色粘土脈で、下端63° でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行～斜交する割れ目と、これに60～90° で斜～直交する割れ目が多く、φ3～10m/mに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤（2.5YR 6/2）、厚さ50～90m/m	162
128.87～128.88m：Hc-2 63° で上下端とも直線的に連続。φ1～3m/m石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土（ガウジ）。色調は暗緑灰（5G 4/1）、厚さ3～5m/m	163
128.88～128.97m：Hj 上端63° 、下端62° でともに直線的に連続。下端は幅2m/mの硬質白色鉱物脈と接する。60～70° と10～30° 割れ目が多くφ5～15m/mに岩片化。 岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調は灰赤（2.5YR 6/2）、厚さ60m/m	164

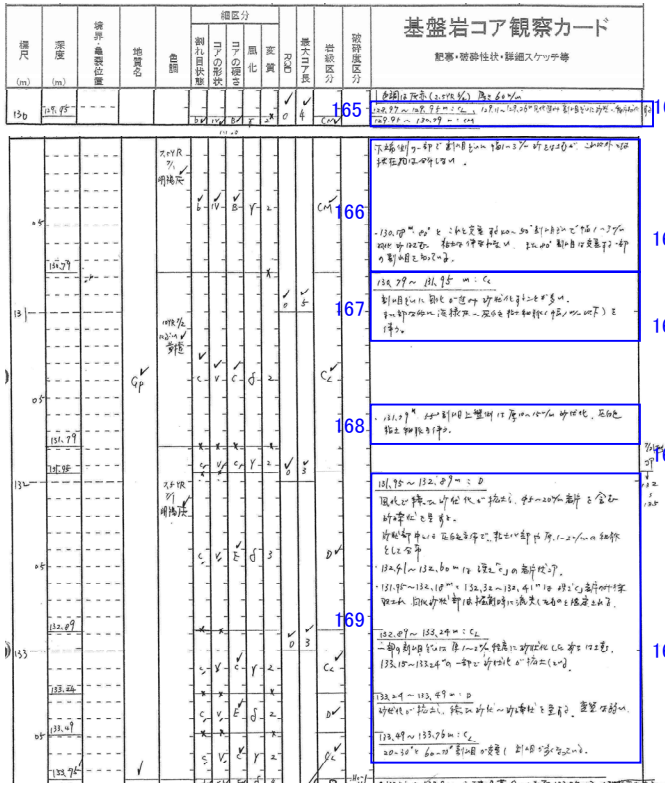
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
159	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（岩片間には幅1～2mmの軟弱粘土が脈状に分布→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
160	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・127.82～127.83mで中粒～粗粒砂状を呈するが，比較的硬質で，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
161～164	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状） ・Φ1～3mm石英粒と岩片を20%程度含むとの記載に基づき砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土脈については，いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
128.97～129.95m：CL 129.11～129.26m風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。 129.95～130.79m：CM	165
下端側の一部で割れ目ぞいに幅1～3m/m砂をはさむが、これ以外では挟在物は分布しない。 130.58m　80°　とこれと交差する40～50°　割れ目ぞいで幅1～3m/m風化砂はさむ。粘土は伴なわない。また80°　割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。	166
130.79～131.95m：CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。 また部分的に淡緑灰～灰白色粘土細脈（幅1m/m以下）を伴う。	167
131.79m　55°　割れ目上盤側は厚10～15m/m砂状化、灰白色粘土細脈も伴う	168
131.95～132.89m：D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5～20m/m岩片を含む砂礫状を呈する。 砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1～2m/mの細脈として分布 132.41～132.60mは硬さ「C」の岩片状コア。 131.95～132.18mと132.32～132.41mは硬さ「C」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。 132.89～133.24m：CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1～2m/m程度に砂状化した砂をはさむ。 133.15～133.24mの一部で砂状化が拡大している。 133.24～133.49m：D 砂状化が拡大し、締った砂状～砂礫状を呈する。変質は弱い。 133.49～133.76m：CL 20～30°　と60～70°　割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	169

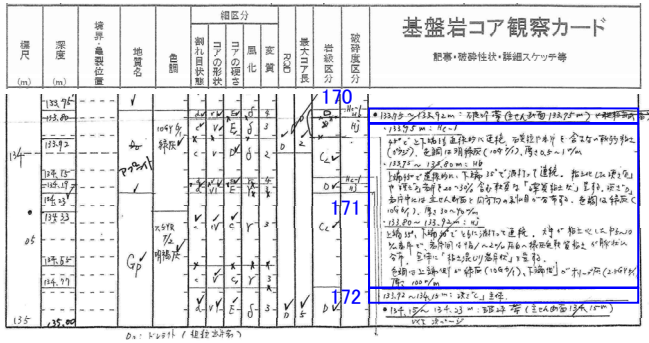
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
165，166	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・130.58mで割れ目を切っているとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
167，168	・砂状化が特に目立つ区間として，130.79～131.79mと記載。 ・一部割れ目沿いに粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜，色調については，補足的なものであるため削除。
169	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・131.95～132.89m，133.24～133.49mで砂礫状を呈し，一部で粘土を挟在するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・132.89～133.24mの一部割れ目沿いで砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
D	・“地質名”欄に基づき，アプライトとその深度区間を記載。

H27-B-2

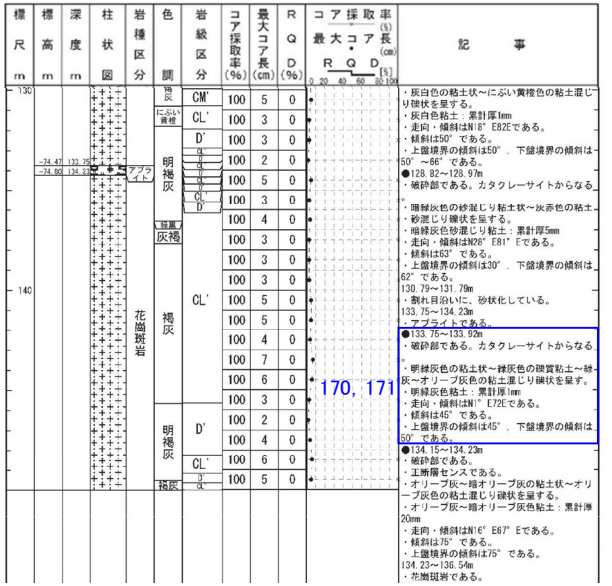
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
170	●133.75～133.92m：破砕帯（主せん断面133.75m）
	133.75m：Hc-1 45° で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土（ガウジ）。色調は明緑灰（10G 7/1）、厚さ0.5～1m/m
	133.75～133.80m：Hb 上端45° で直線的に、下端35° で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰（10G 6/1）、厚さ30～40m/m
171	133.80～133.92m：Hj 上端35° 、下端50° でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5～10m/m岩片で、岩片間は幅1～2m/m灰白～緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は上端側が緑灰（10G 6/1）、下端側がオリーブ灰（2.5GY 5/1）、厚さ100m/m
172	133.92～134.15m 硬さ「C」主体

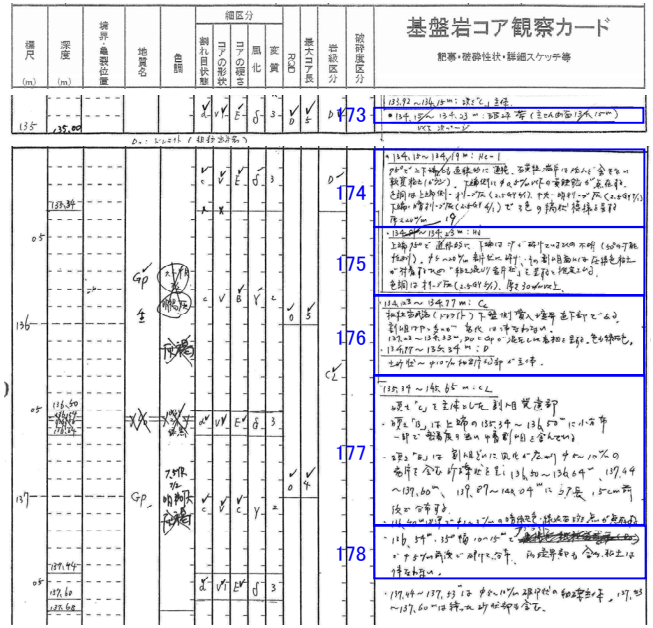
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
170，171	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土脈については，いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
172	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

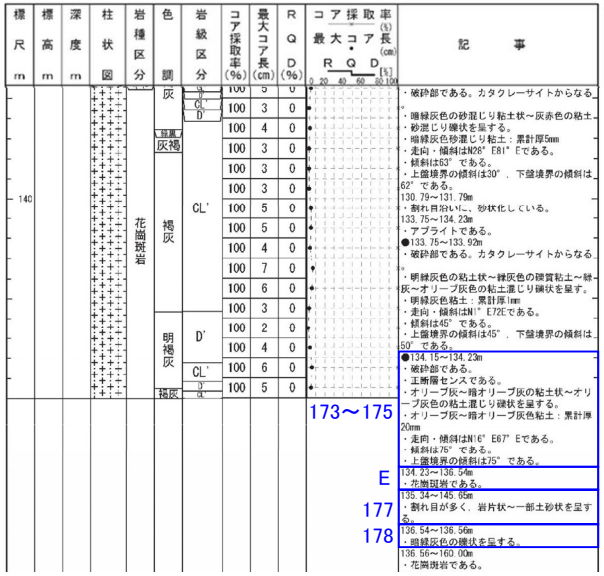
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
173	●134.15～134.23m：破砕帯（主せん断面134.15m）
174	134.15～134.19m：Hc-1 75° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土（ガウジ）。下端側にφ0.5m/m以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリーブ灰（2.5GY 5/1）、中央・明オリーブ灰（2.5GY 7/1）、下端・暗オリーブ灰（2.5GY 4/1）で3色の縞状模様を呈する 厚さ20m/m
175	134.19～134.23：Hj 上端75° で直線的に、下端はコアが砕けているため不明（50° の可能性あり）。 φ5～20m/m岩片状に砕け、その割れ目面には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリーブ灰（2.5GY 5/1）、厚さ30m/m以上。
176	134.23～134.77m：CL 細粒玄武岩（ドレライト）下盤側貫入境界直下部である。 割れ目はやゝ多いが劣化は伴なわない。 134.23～134.33m DoとGpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。 134.77～135.34m：D 土砂状～φ10m/m細岩片状部が主体
177	135.34～145.65m：CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部 硬さ「B」は上端の135.34～136.50mに小分布 一部で密着度の低いゆ着割れ目を含んでいる 硬さ「B」は割れ目ぞいに風化が広がりφ5～10m/mの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50～136.64m、137.44～137.60m、139.87～140.04mにコア長15cm前後で分布する。 136.40m以深でφ2～3m/mの暗緑灰色、緑泥石斑点が点在する。
178	136.54m 35° 幅10～15mでアプライトがφ5m/m前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴なわない。

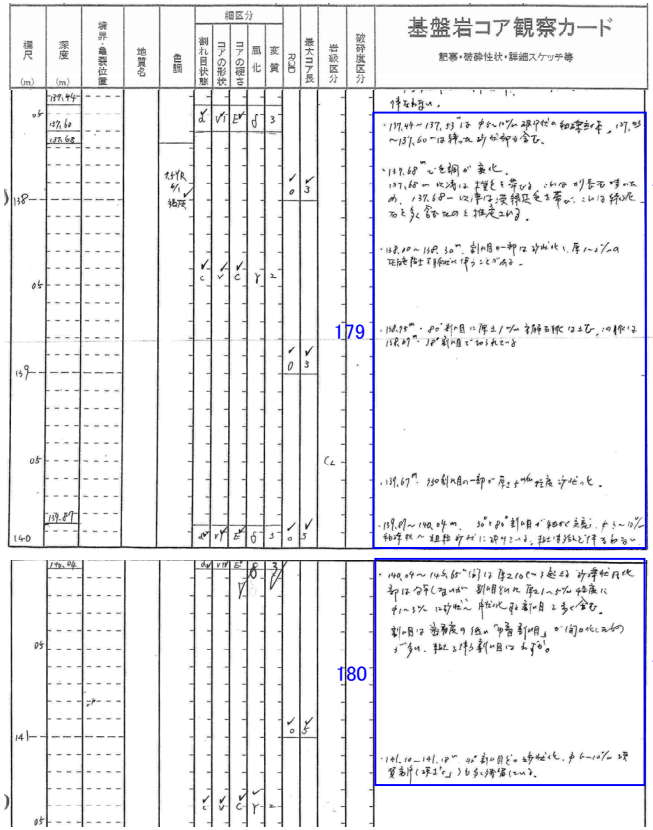
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
173～175	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・ボアホールテレビによる最新活動面の走向傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
E	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。
176	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・上部の貫入岩については，“岩種区分”欄に示しているため削除。（ドレライトはアプライトの誤り） ・134.77～135.34mでは，土砂状～細岩片状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
177	・“コアの形状”欄に基づき，岩片状～一部土砂状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・一部で砂礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
178	・“色調”欄に基づき記載。 ・暗緑灰色は，緑黒色の誤り。※1

H27-B-2

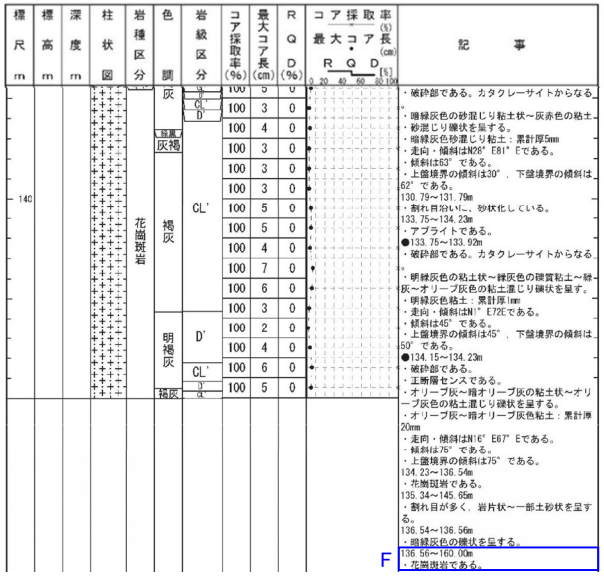
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
137.44～137.53mはφ5～10m/m破砕状の細礫主体。137.53～137.60mは締った砂状部も含む。 137.68mで色調が変化。 137.68m以浅は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。137.68m以深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。 138.00～138.30m　割れ目の一部は砂状化し、厚1～2m/mの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。 138.75m　80°割れ目に厚さ1m/m方解石脈はさむ。この脈は138.67m・38°割れ目で切られている。 139.67m　75°割れ目の一部が厚さ5m/m程度砂状化。 139.87～140.04m 30°と80°割れ目が細かく交差し、φ5～10m/m細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	179
140.04～145.65m間は厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目ぞいに厚さ1～5m/m程度にφ1～3m/mに砂状～片状化する割れ目を多く含む。 割れ目は密着度の低い「ゆ着割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。 141.10～141.18m　40°割れ目ぞい砂状化、φ5～10m/m硬質岩片（硬さ「C」）も多く残留している。	180

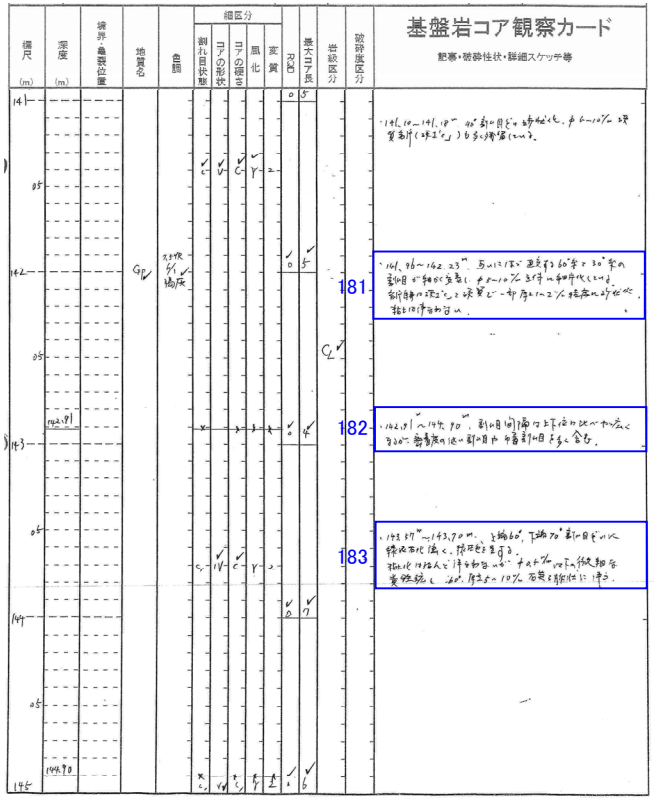
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
179，180	・一部割れ目沿いで砂状～礫状を呈し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調，鉱物脈，割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・138.75mで”割れ目に切られている”との記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
F	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
141.96～142.23m　互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5～10m/m主体に細片化している。 岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1～2m/m程度に砂状化。 粘土は伴なわない。	181
142.91m～144.90m　割れ目間隔は上下位に比べやゝ広くなるが、密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。	182
143.57m～143.70m　上端60°、下端70°割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。 粘土化は殆んど伴なわないが、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5～10m/m石英を脈状に伴う。	183

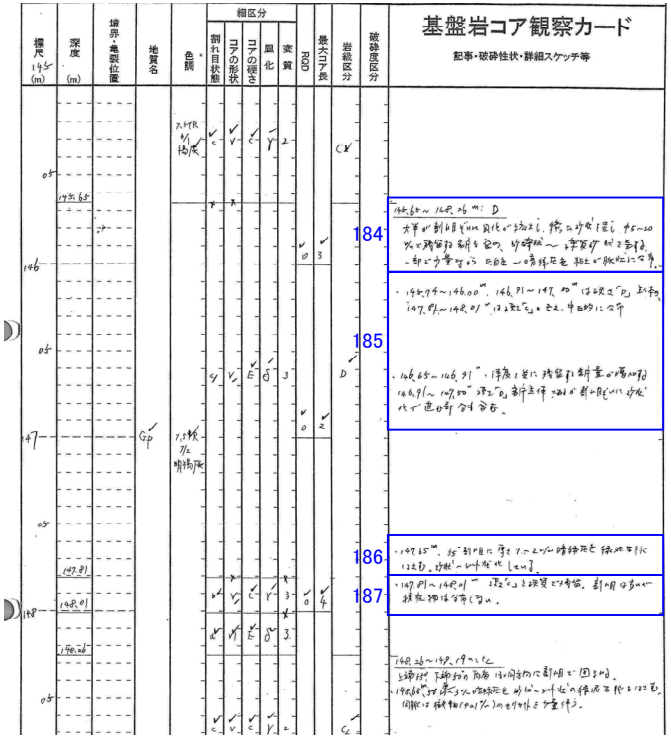
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
181	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，直線性や連続性に乏しいことことから削除。
182	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
183	・色調，鉱物の晶出，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

184
145.65～148.26m：D
大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5～20m/mで残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する、
一部で少量ながら灰白色～暗緑灰色粘土が脈状に分布。

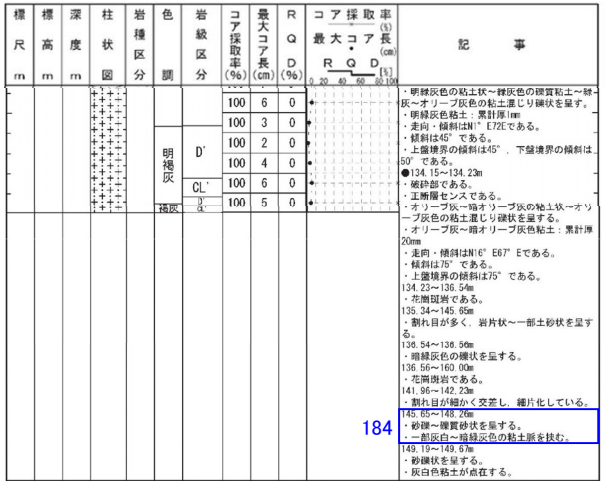
185
145.74～146.00m、146.91～147.50mは硬さ「D」主体の、147.81～148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布

185
146.65～146.91m　深度と共に残留する岩片量が増加する
146.91～147.50m　硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。

186
147.65m　55°　割れ目に厚さ1～2m/m暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状～シルト状化している。

187
147.81～148.01m　硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。

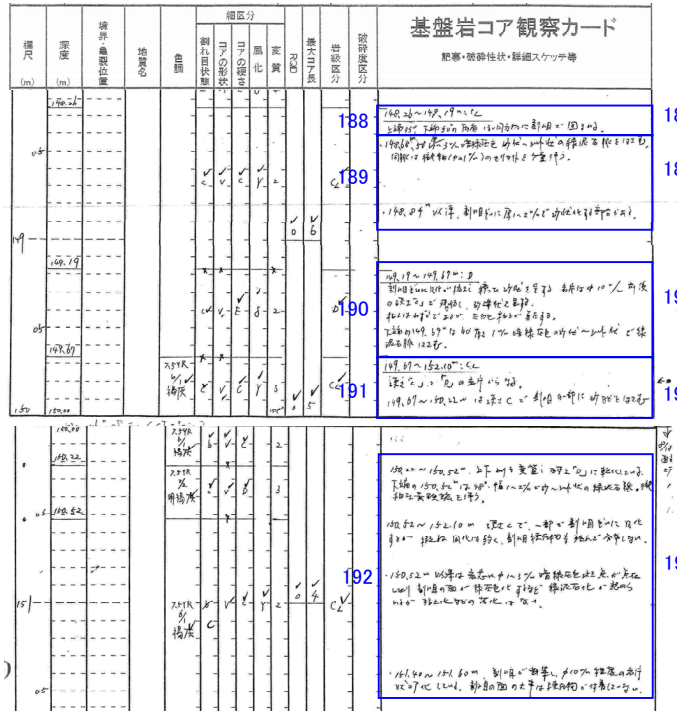
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
184	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・砂礫状部中の岩片の粒径については，補足的なものであるため削除。
185	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・岩片の量については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
186	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
187	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

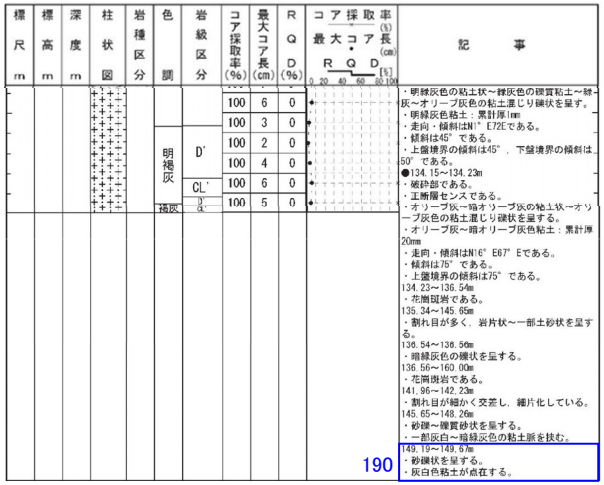
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
188	148.26～149.19m：CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。
189	148.68m　50°、厚1～3m/m暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈をはさむ。 同脈は微細（φ0.1m/m）のセリサイトを少量伴う。 148.84m以深、割れ目ぞいに厚1～2m/mで砂状化する部分がある。
190	149.19～149.67m：D 割れ目ぞいに風化が拡大し締った砂状を呈する。岩片はφ10m/m前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。 下端の149.69mは40°、厚さ1m/m暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。
191	149.67～152.10m：CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。 149.67～150.22mは硬さCで割れ目の一部に砂などをはさむ
192	150.22～150.52m　上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。 下端の150.52mは48°、幅1～2m/mで砂～シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。 150.52～152.10m　硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 150.52m以深は岩芯にφ1～3m/m暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。 151.40～151.60m　割れ目が密集し、φ10m/m程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。

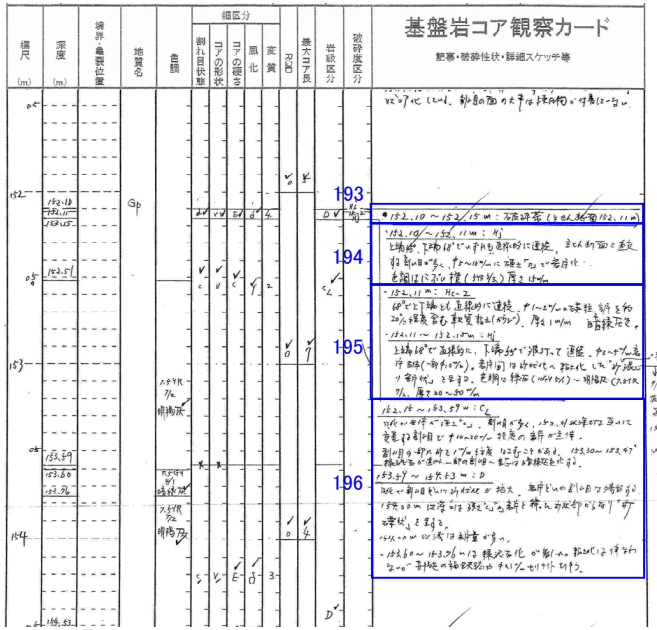
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
188	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・148.84～149.19mの割れ目沿いで砂状化するが，連続性に乏しいことから削除。
190	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
191，192	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・149.67～150.22mの一部割れ目沿いに砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈，鉱物の晶出，挟在物の有無，色調については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

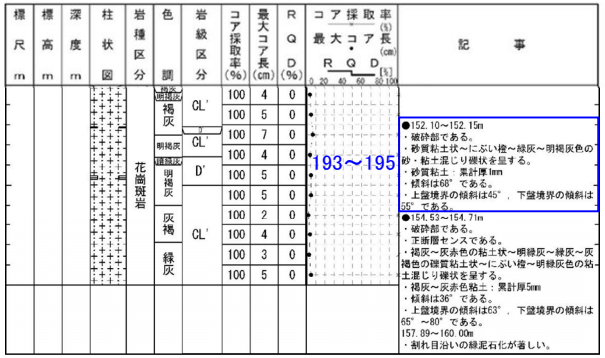
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
193	●152.10～152.15m：破砕帯（主せん断面152.11m）
	152.10～152.11m：Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5～10m/mに硬さ「D」で岩片化。 色調はにぶい橙（5YR 6/3）、厚さ15m/m
194	152.11m：Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1～2m/mの石英粒、岩片を約20%程度含む軟質粘土（ガウジ）。厚さ1m/m。暗緑灰色。
195	152.11～152.15m：Hj 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3～5m/m岩片主体（一部φ10m/m）。岩片間は砂状化～粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は緑灰（10GY 5/1）～明褐灰（7.5YR 7/2、厚さ20～50m/m
	152.15～153.59m：CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51以深では互いに交差する割れ目でφ10～20m/m程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を1m/m程度はさむことがある。153.30～153.47m緑泥石が進み、一部の割れ目～岩芯は暗緑灰色化する。
196	153.59～154.53m：D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大。岩片ぞいの割れ目は残留する。154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と締った砂状部からなり「砂礫状」を呈する。 154.00m以浅は岩片量が多い。 153.60～153.76mは緑泥石化が著しい。粘土化は伴なわないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1m/mセリサイトを伴う。

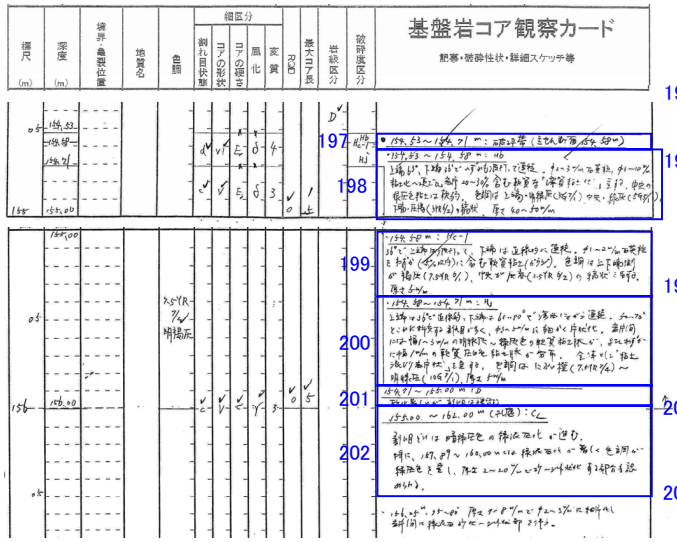
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
193～195	・表現の見直し（砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状） ・Φ1～2mmの石英粒，岩片を約20%程度含むとの記載に基づき砂質粘土状と記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
196	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・152.15～153.59mの一部割れ目沿いで砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度や岩片の量については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・154.00～154.53mで砂礫状を呈するが，劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

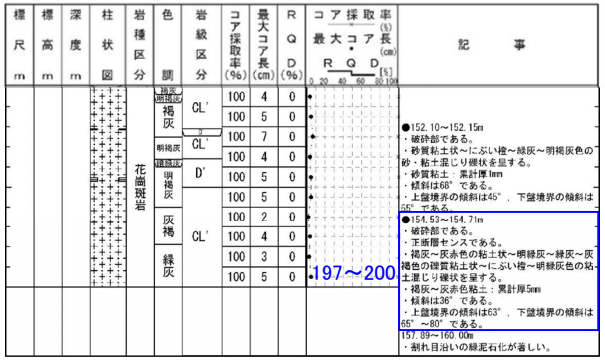
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
●154.53～154.71m：破砕帯（主せん断面154.58m）	197
154.53～154.58m：Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2～3m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰（5G 7/1）、中央・緑灰（5G 5/1）、下端・灰褐（5YR 6/2）の縞状、厚さ40～50m/m	198
154.58m：Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～2m/m石英粒をわずか（5%以内）に含む軟質粘土（ガウジ）。色調は上下端側が褐灰（7.5YR 6/1）、中央が灰赤（2.5YR 6/2）の縞状を呈する。 厚さ5m/m。	199
154.58～154.71m：Hj 上端は36°で直線的、下端は65～70°で湾曲しながら連続。50～70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3～5m/mに細かく片状化。岩片間には幅1～3m/mの明緑灰～緑灰色の軟質粘土脈が、またわずかに幅1m/mの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙（7.5YR 7/4）～明緑灰（10G 7/1）、厚さ5m/m	200
154.71～155.00m：D 軟化著しいが、割れ目は残留する	201
155.00～162.00m（孔底）：CL 割れ目ぞいは暗緑灰色の緑泥石化が進む。 特に、157.89～160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2～20m/mで砂～シルト状化する部分も認められる。	202

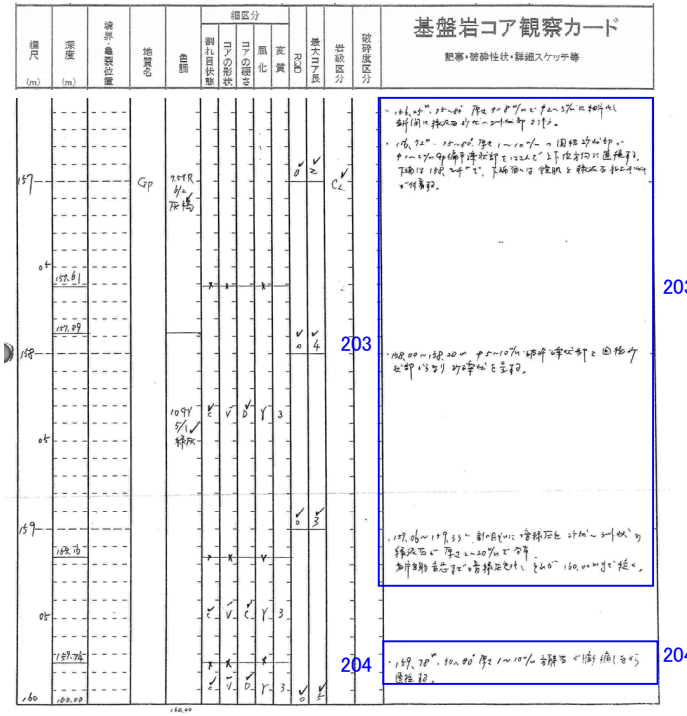
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
197～200	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の傾斜65°～70°→65°～80° ※1, ※4 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
201	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
202	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部で砂～シルトを挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

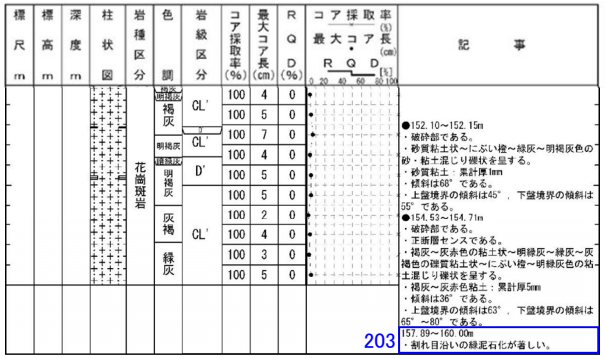
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
156.25m　75～80°　厚さ7～8m/mでφ2～3m/mに細片化し、岩片間に緑泥石化～シルト状部を伴う。 156.72m　75～80°、厚さ1～10m/mの固結砂状部がφ1～2m/mGp偏平礫状部をはさんで上下位方向に連続する。 下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。 158.00～158.20m　φ5～10m/m破砕礫状部と固結砂状部からなり砂礫状を呈する。 159.06～159.33m　割れ目ぞいに暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石が厚さ2～20m/mで分布。 岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	203
159.78m　70～80°　厚さ1～10m/m方解石が膨縮しながら連続する。	204

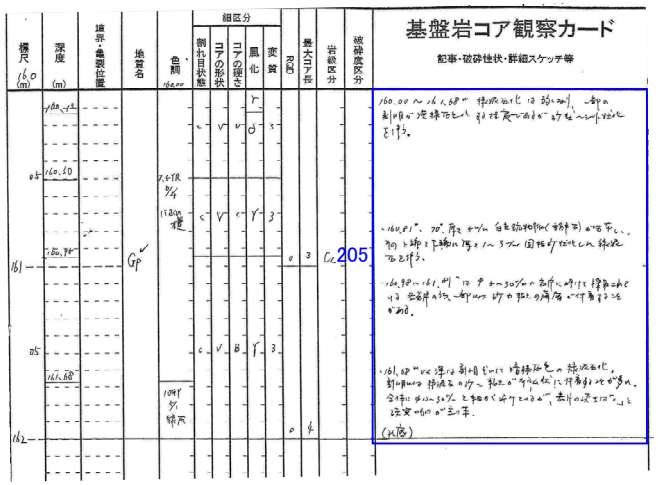
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
203	・156.25mに砂～シルトを挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・156.72mで固結砂状を呈するが，直線性に乏しいことから削除。 ・158.00～158.20mで砂礫状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・159.06～159.33mで砂～シルト状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
204	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード（H27年8月）



205

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

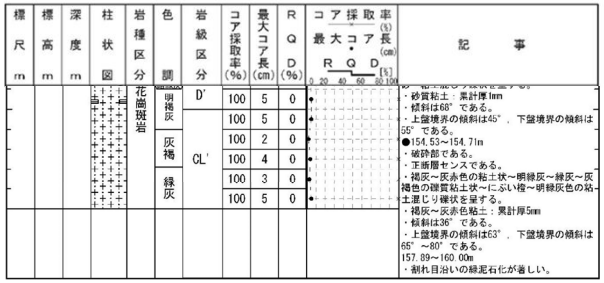
160.00～161.68m　緑泥石化は弱くなり、一部の割れ目が浅緑灰色化する程度であるが砂状～シルト状化を伴う。

160.81m　70°　厚さ5m/m白色鉱物脈（方解石）が分布し、その上端と下端に厚さ1～3m/m固結砂状化した緑泥石を伴う。

160.98～161.81mはφ5～30m/mの岩片に砕けて採取されている。各岩片のうち、一部には砂や粘土の薄層が付着することがある。

161.68m以深は割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化。
割れ目には緑泥石の砂～粘土がフィルム状に付着することが多い。
全体にφ10～30m/mと細かく砕けているが、岩片の硬さは「C」と硬質のものが主体。
（孔底）

申請書用柱状図



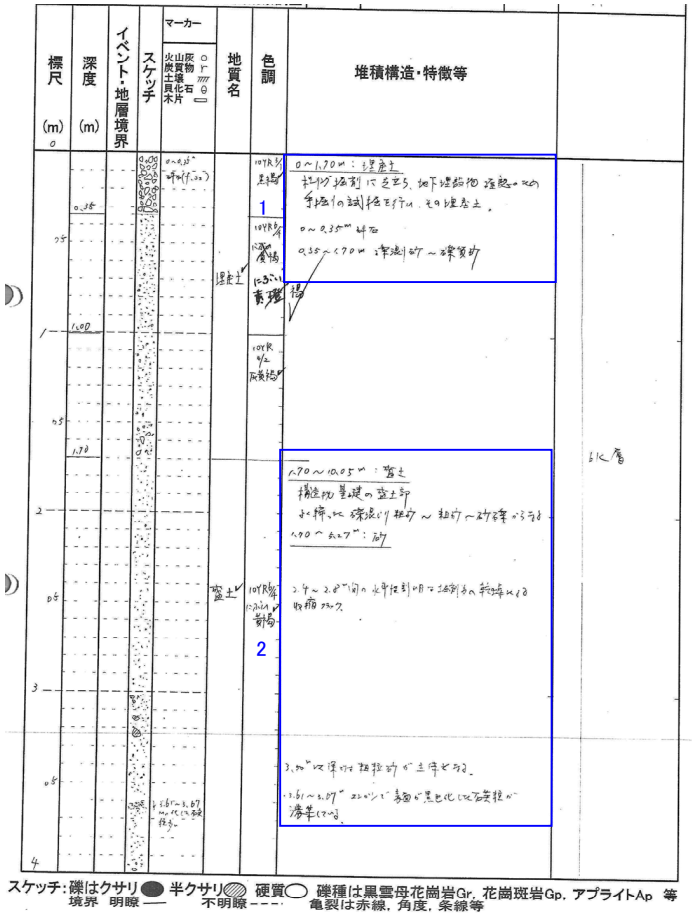
記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
205	・余掘り深度分のため削除。

H27-B-3

余白

H27-B-3

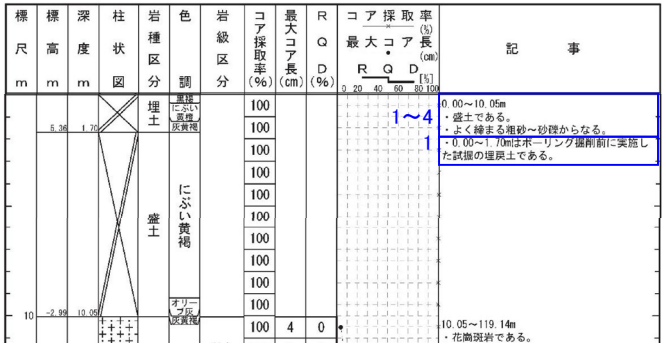
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
0～1.70m：埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い，その埋戻土。 0～0.35m 砕石 0.35～1.70m 礫混り砂～礫質砂	1
1.70～10.05m：盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混じり粗砂～粗砂～砂礫からなる 1.70～5.27m：砂 2.4～2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.50m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61～3.67mマンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。	2

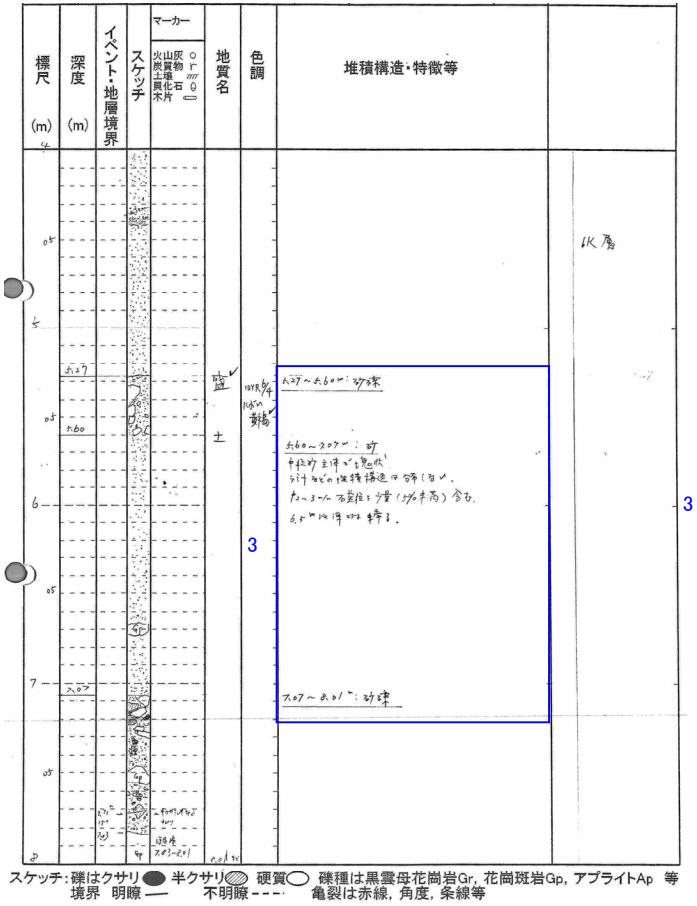
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1～4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は，一連が人工層からなるが，土質構成として，良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。

H27-B-3

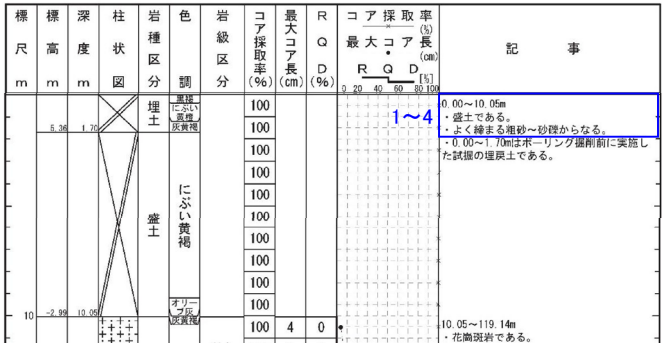
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
5.27～5.60m：砂礫 5.60～7.07m：砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2～3m/m石英粒を少量（5%未満）含む。 6.5m以深では締る。 7.07～8.01m：砂礫

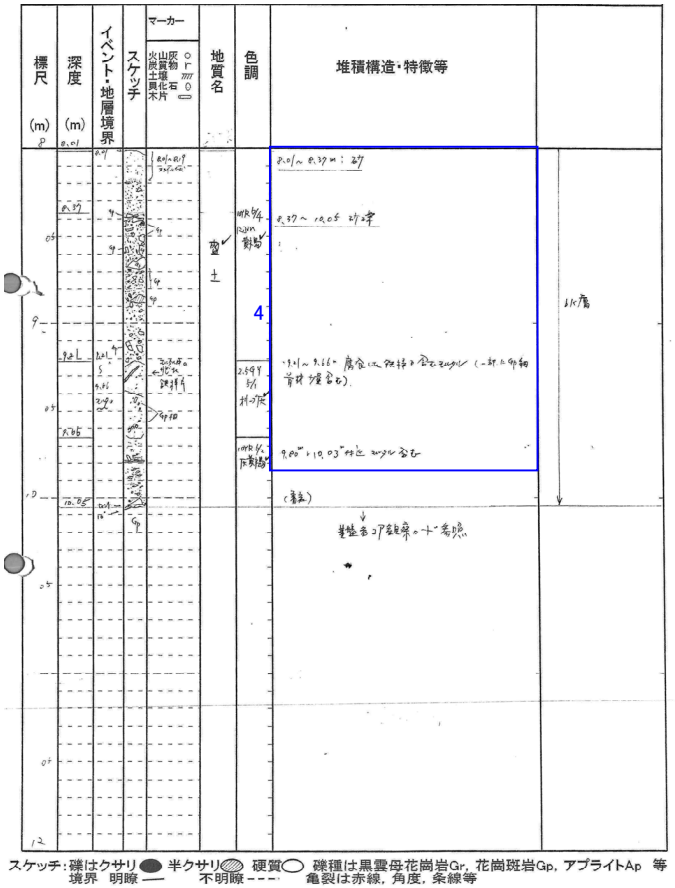
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1～4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は，一連が人工層からなるが，土質構成として，良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）

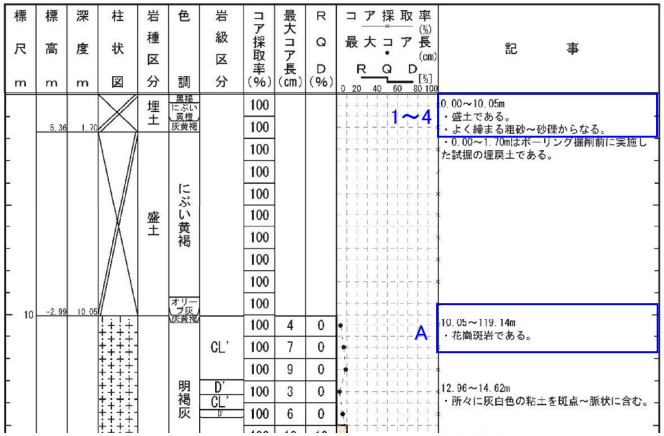


コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
8.01～8.37m：砂 8.37～10.05 砂礫 9.21～9.66m 腐食した鉄棒を含むモルタル（一部にGp細骨材少量含む） 9.80mと10.03m付近モルタル含む （着岩）

4

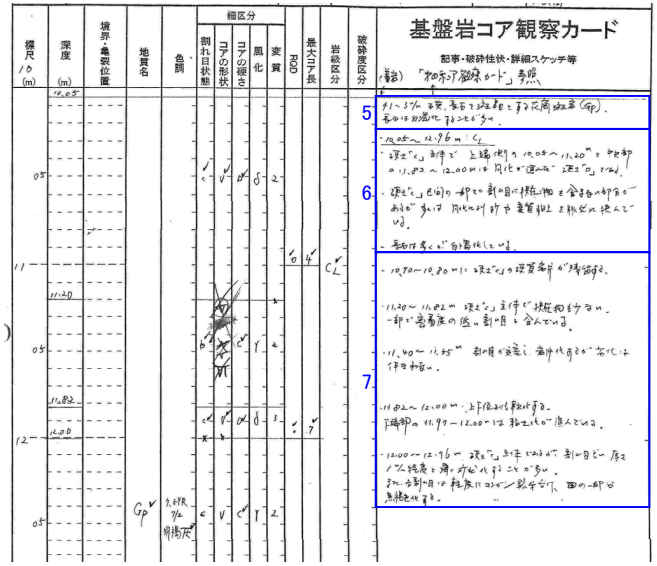
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1～4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は，一連が人工層からなるが，土質構成として，良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。
A	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。

H27-B-3

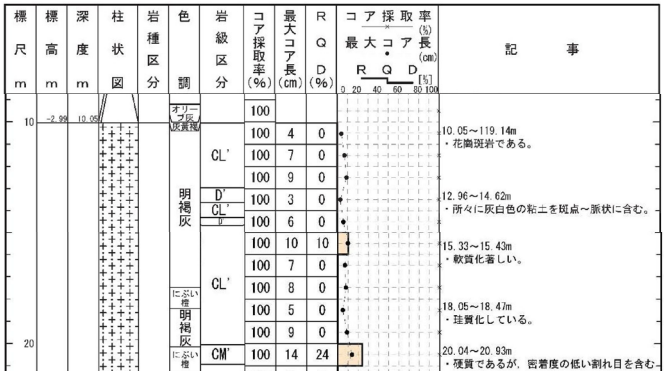
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
5	φ1～3m/m石英，長石を斑晶とする花崗斑岩（Gp）。 長石は白濁化することが多い。
6	10.05～12.96m：CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05～11.20mと中央部の11.82～12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。
7	10.70～10.80mに硬さ「C」の硬質岩片が残留する。 11.20～11.82m　硬さ「C」主体で挟在物も少ない。 一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。 11.40～11.55m　割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴なわない。 11.82～12.00m　上下位よりも軟化する。 下端部の11.97～12.00mは粘土化が進んでいる。 12.00～12.96m　硬さ「C」主体であるが，割れ目ぞい厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 また，各割れ目は軽度にマンガン鉱染受け，面の一部は黒褐色化する。

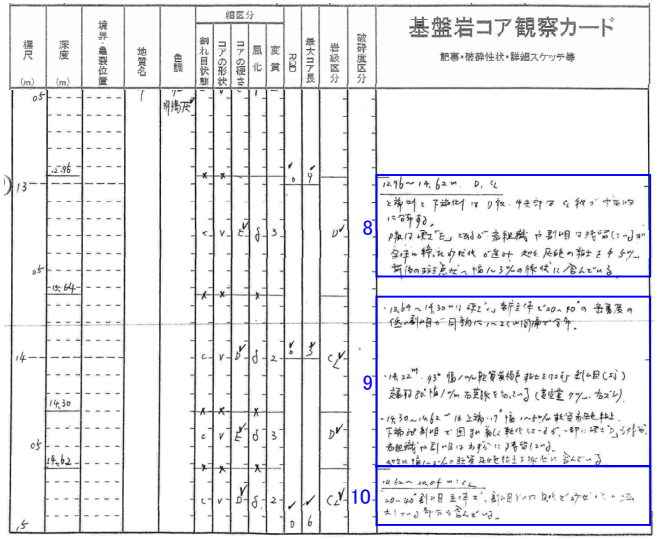
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
5	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
6	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の挟在物については，補足的なものであるため削除。 ・一部に砂や粘土を挟在するが，系統的でなく連続性に乏しいことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
7	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無，割れ目の密着状態，マンガン，割れ目の色調については，補足的なものであるため削除。 ・11.97～12.00mで粘土化が進んでいるが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・12.00～12.96mで割れ目沿いに砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

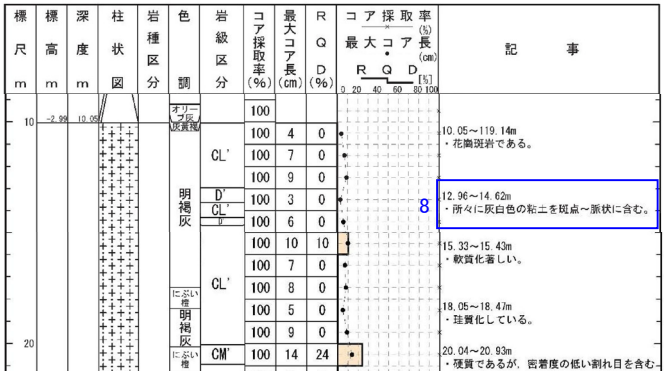
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
8	12.96～14.62m：D，CL 上端側と下端側はD級，中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み，処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状～幅1～3m/mの脈状に含んでいる。
9	13.64～14.30mは硬さ「C」岩片主体で20～40°の密着度の低い割れ目が同方向に1～2cm間隔で分布。 14.22m　43°幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目（sj） 交差する80°幅1m/m石英脈を切っている（変位量7m/m，右ズレ） 14.30～14.62mは上端17°幅1～5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが，一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1～2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
10	14.62～20.04m：CL 20-40°割れ目主体で，割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

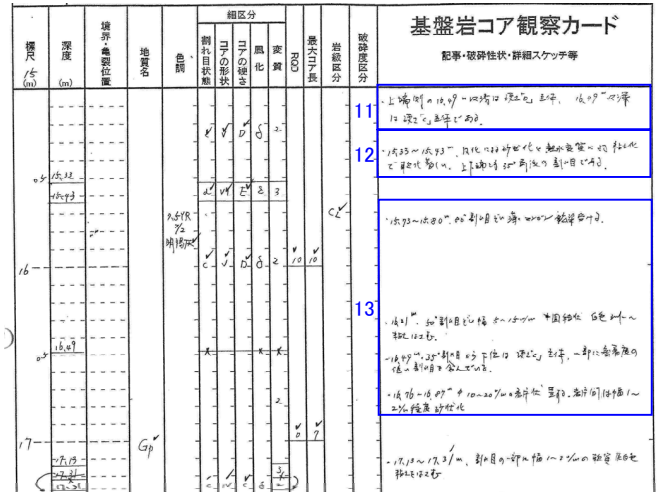
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
8	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが，砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し，石英脈を切っているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30～14.62mに粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが，直線性や連続性に乏しいことから削除。

H27-B-3

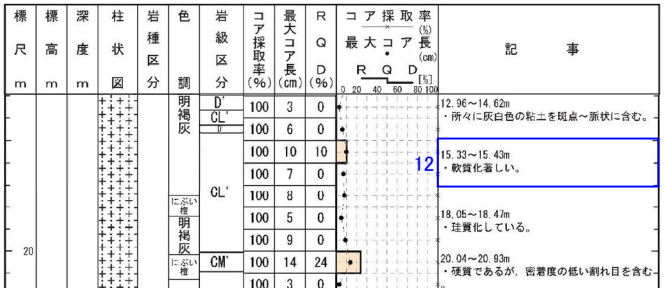
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
11	上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体，16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12	15.33～15.43m　風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13	15.73～15.80m　80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染受ける。 16.31m　50°割れ目ぞい幅5～15m/m半固結状　白色シルト～粘土はさむ。 16.49m　35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76～16.87m　φ10～20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1～2m/m程度砂状化。

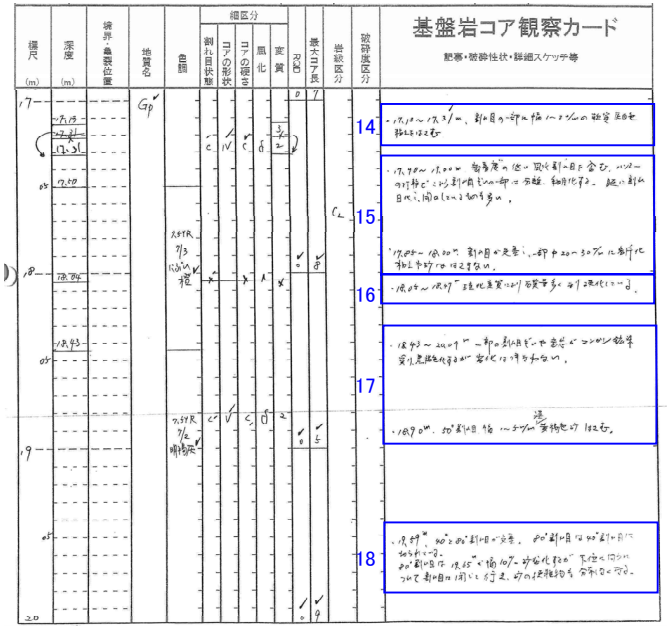
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが，いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜，マンガン，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト～粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76～16.87mで岩片状を呈し，一部で砂状を呈するが，砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-3

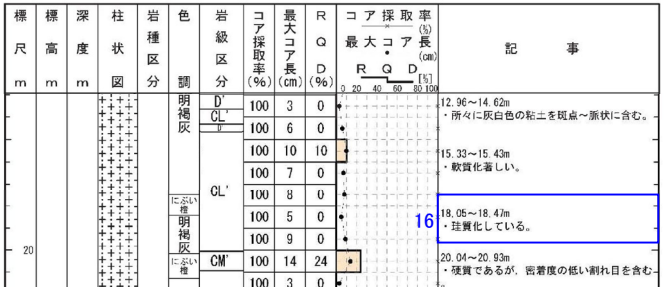
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
14	17.13～17.31m　割れ目の一部に幅1～2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。
15	17.40～19.00m　密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離，細片化する。既に割れ目化し，開口しているものも多い。 17.85～18.00m　割れ目が交差，一部φ20～30m/mに岩片化　粘土や砂ははさまない。
16	18.05～18.47m　珪化変質により石英量多くなり硬化している。
17	18.43～20.04m　一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け，黒褐色化するが劣化は伴なわない。 18.90m　50°割れ目幅1～5m/m淡黄褐色砂はさむ。
18	19.59m　40°と80°割れ目が交差。80°割れ目は40°割れ目に切られている。 80°割れ目は19.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じて行き，砂の挟雑物も分布しなくなる。

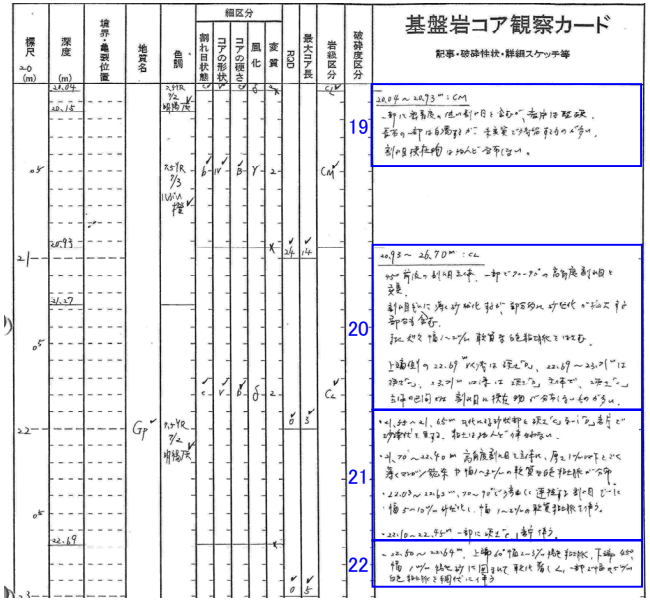
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
14	・一部割れ目に粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
15	・割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
16	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
17	・マンガン，割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・18.90mに砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
18	・割れ目沿いに砂状化し，割れ目は切られているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・19.65mで割れ目沿いに砂状化しているが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

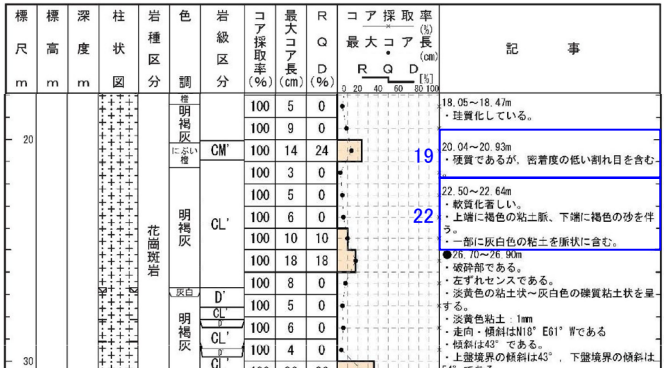
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
19	20.04～20.93m：CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが，岩片は堅硬。 長石の一部は白濁するが，未変質で残留するものが多い。 割れ目挟在物は殆ど分布しない。
20	20.93～26.70m：CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70～90° の高角度割れ目と交差。 割れ目ぞいに薄く砂状化するが，部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また処々幅1～2m/m軟質な白色粘土脈をはさむ。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」，22.69～23.71mは硬さ「C」，23.71m以深は硬さ「D」が主体で，硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。
21	21.55～21.65m 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂礫状を呈する。粘土は殆んど伴なわない。 21.70～22.40m 高角度割れ目を主体に，厚さ1m/m以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1～3m/mの軟質な白色粘土脈が分布。 22.03～22.63m 70～90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5～10m/m砂状化し，幅1～2m/mの軟質粘土脈を伴う。 22.10～22.45m 一部に硬さ「C」岩片伴う。
22	22.50～22.64m 上端60° 幅2～3m/m褐色粘土脈，下端45° 幅1m/m褐色砂に囲まれて軟化著しく，一部で幅0.5m/m白色粘土脈を網状に伴う。

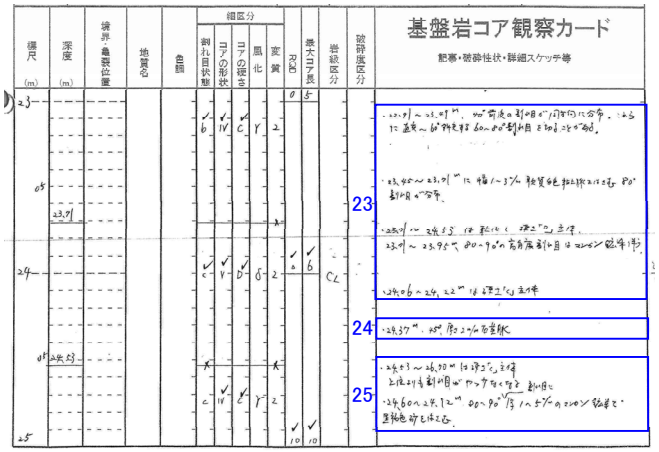
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
19	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
20	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し，粘土脈を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
21	・21.55～21.65mで砂礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・一部で粘土脈を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
22	・粘土脈や砂の傾斜や幅については，補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し（網状→脈状）

H27-B-3

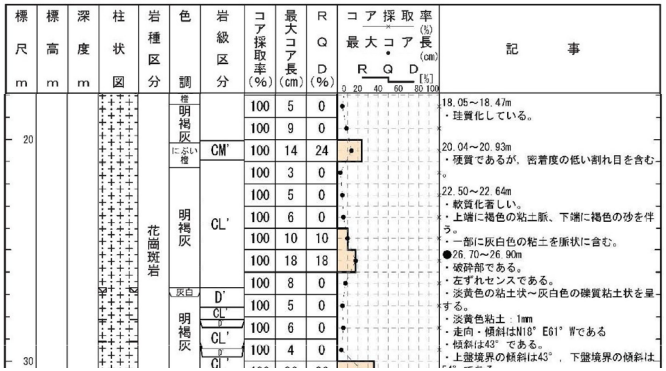
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

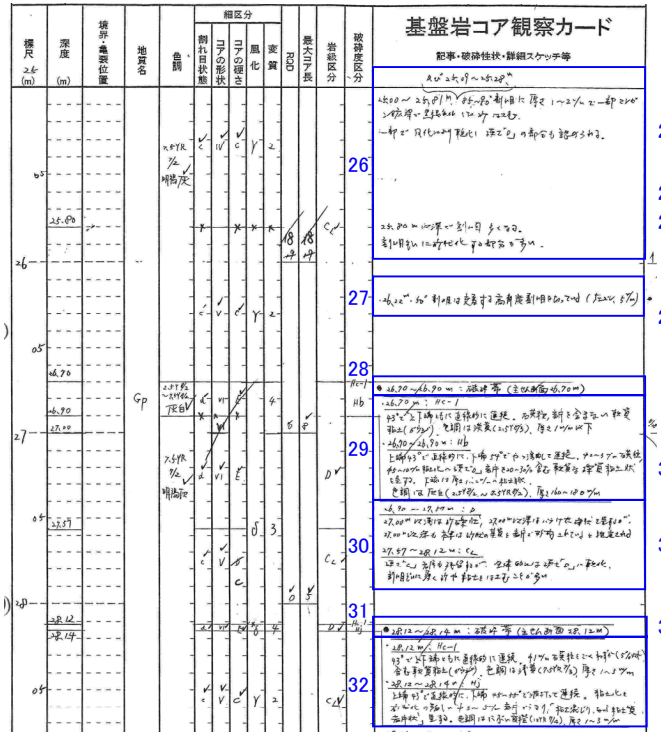
	記事内容
23	22.91～23.49m　40°前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交～60°斜交する60～80°割れ目を切ることがある。 23.45～23.71mに幅1～3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°割れ目が分布。 23.71～24.53は軟化し硬さ「D」主体。 23.71～23.95m　80～90°の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06～24.22mは硬さ「C」主体。
24	24.37m　45°厚さ2m/m石英脈
25	24.53～26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60～24.92m　80～90°割れ目に厚1～5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
23	・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・割れ目を切るとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・23.45～23.71mに粘土脈を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
24	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
25	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

26
25.00～25.81m及び25.09～25.28m　85～90°　割れ目に厚さ1～2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。
一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。
25.80m以深で割れ目多くなる。
割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。

27
26.22m　50°　割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。（左ズレ，5m/m）

28
●26.70～26.90m：破砕帯（主せん断面26.70m）

29
26.70m：Hc-1
43°　で上下端ともに直線的に連続。石英粒，岩片を含まない軟質粘土（ガウジ）。色調は淡黄（2.5Y8/3），厚さ1m/m以下。
26.70～26.90m：Hb
上端43°　で直線的に下端54°　でやや湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒，φ5～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を20～30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。
下端は厚さ1～2m/mの粘土脈。
色調は灰白（2.5Y8/2～7.5YR8/2），厚さ16.0～18.0m/m

30
26.90～27.57m：D
27.00m以浅は砂礫状，27.00m以深はバラけた礫状を呈するが，27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。
27.57～28.12m：CL
硬さ「C」岩片も残留するが，全体的には硬さ「D」に軟化。
割れ目ぞいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。

31
●28.12～28.14m：破砕帯（主せん断面28.12m）

32
28.12m：HC-1
43°　で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質粘土（ガウジ）。色調は浅黄（7.5YR7/3），厚さ1～3m/m。
28.12～28.14m：Hj
上端43°　で直線的に，下端45～55°　で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3～5m/m岩片からなり，「粘土混じり，ないし粘土質岩片状」呈する。
色調はにぶい黄橙（10YR7/4），厚さ1～3m/m。

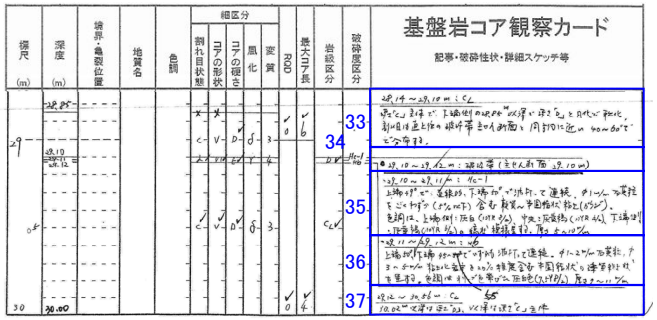
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
26	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	・割れ目については，系統的な変位が認められないため削除。
28，29	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
30	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・26.90～27.00mで砂礫状を呈するが，劣化に系統性が認められないことから削除。 ・27.00～27.57mで岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・27.57～28.12mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
31，32	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり，ないし粘土質岩片状→粘土混じり礫状～粘土質礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）

コア観察カードの仮ワープロ変換



記事内容

33 28.14～29.10m：CL
硬さ「C」主体で，下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化，
割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40～60° で分布する。

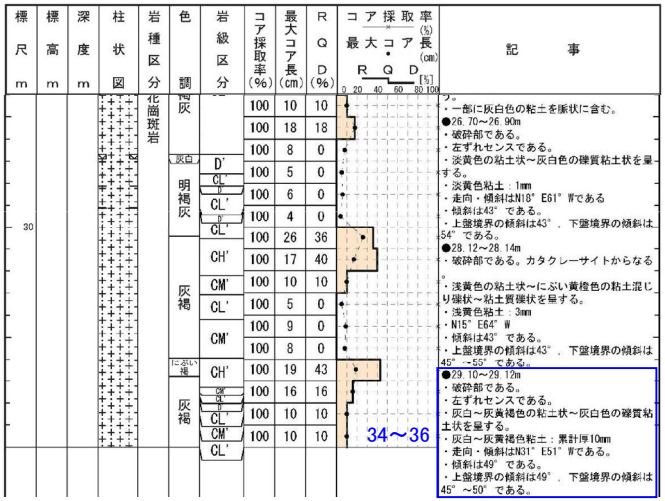
34 ●29.10～29.12m：破砕帯（主せん断面29.10m）

35 29.10～29.11m：Hc-1
上端49° で直線的，下端50° で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質～半固結状粘土（ガウジ）。
色調は，上端側：灰白（10YR8/2），中央：灰黄褐（10YR4/2），下端側：灰黄褐（10YR6/2）の縞状模様呈する。厚さ5～10m/m。

36 29.11～29.12m：Hb
上端50° ，下端45～~~50°~~55° でいずれも波打って連続。φ1～2m/m石英粒，φ3～5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色（7.5Y8/2），厚さ7～11m/m。

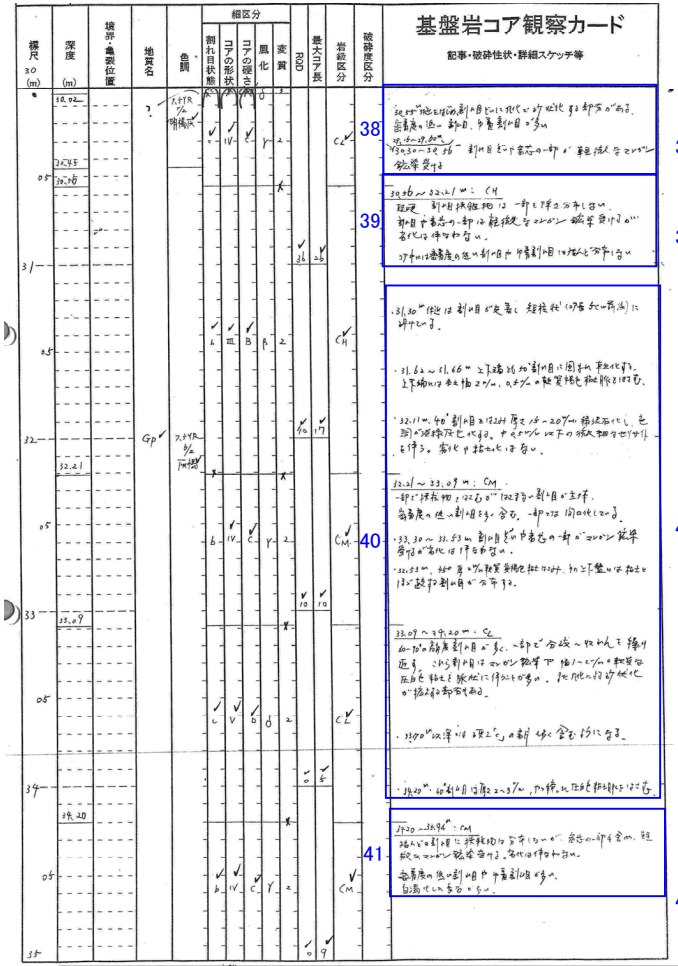
37 29.12～30.56：CL
30.02m以深は硬さ「D」，以深は硬さ「C」主体。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
33	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
34～36	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の見かけの傾斜について，55° との追記があるが，50° で問題ないと判断し反映せず。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については，色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
37	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

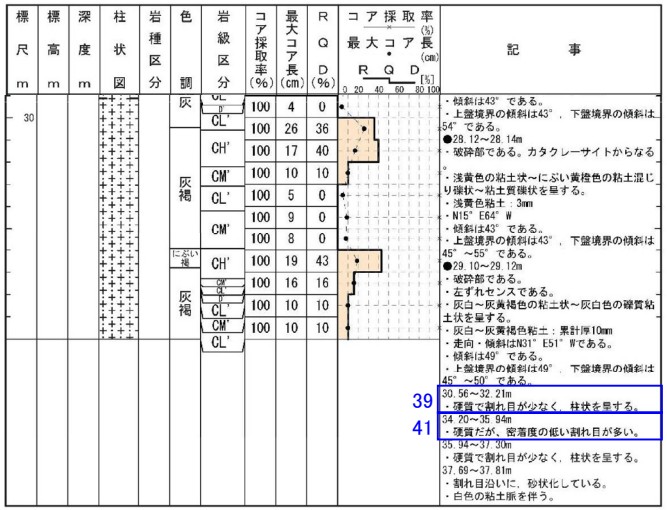
H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
38	30.55m付近をはじめ，割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目，ゆ着割れ目が多い。 29.15～29.60m，30.30～30.56m　割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。
39	30.56～32.21m：CH 堅硬，割れ目挟雑物は一部を除き分布しない。 割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴なわない。 コア中には密着度の低い割れ目やゆ着割れ目は殆んど分布しない。
40	31.30m付近は割れ目が交差し，短柱状（コア長5cm前後）に砕けている。 31.62～31.66m　上下端とも50°割れ目に囲まれ軟化する。 上下端には各々幅2m/m，0.5m/mの軟質褐色粘土脈をはさむ。 32.11m　40°割れ目をはさみ厚さ15～20m/m緑泥石化し，色調が淡緑灰色化する。 φ0.5m/m以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。 32.21～33.09m：CM 一部で挟在物をはさむがはさまない割れ目が主体。 密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。 33.30～33.53m　割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染受けるが劣化は伴なわない。 32.53m　45°厚2m/m軟質黄褐色粘土はさみ，その上下盤には粘土とほゞ直交する割れ目が分布する。 33.09～34.20m：CL 60-90°の高角度割れ目が多く，一部で分岐～収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1～2m/mの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。 34.20m　40°割れ目は厚さ2～3m/m，やゝ締った灰白色粘土脈をはさむ。
41	34.20～35.94m：CM 殆んどの割れ目に挟雑物は分布しないが，岩芯の一部も含め，軽微なマンガン鉱染受ける。劣化は伴なわない。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。 白濁化した長石が多い。

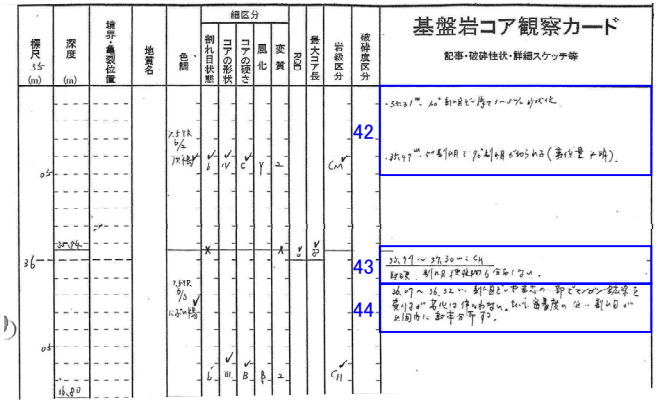
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
38	・一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
39	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無，マンガン，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
40	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調，鉱物の晶出，挟在物の有無，割れ目の密着状態・開口状況，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
41	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・割れ目の挟在物の有無，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

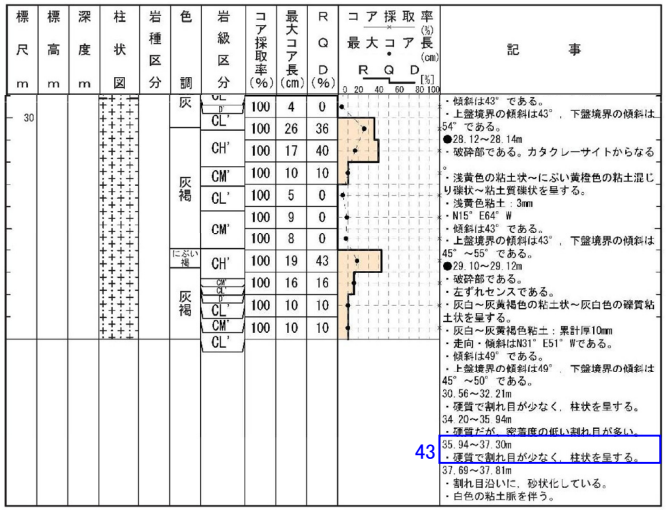
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
42	35.31m　60°　割れ目ぞい厚さ3～5m/m砂状化。 35.47m　5°　割れ目で90°　割れ目が切られる（変位量不明）。
43	35.94～37.30m：CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。
44	36.07～36.32m　割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴なわない。ただし，密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。

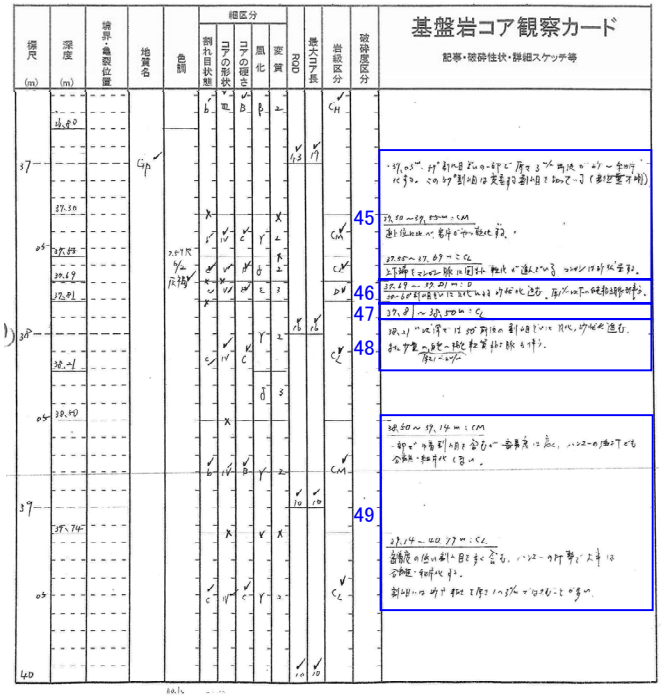
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
42	・一部割れ目沿いに砂状化し，割れ目が切られるとあるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
43	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
44	・マンガン，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

45 37.03m　57°割れ目ぞいの一部で厚さ3m/m前後が砂～細片化する。この57°の割れ目は交差する割れ目を切っている（変位量不明）。
37.30～37.55m：CM
直上位に比べ岩片がやゝ軟化する。
37.55～37.69m：CL
上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。

46 37.69～37.81m：D
50～60°割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。

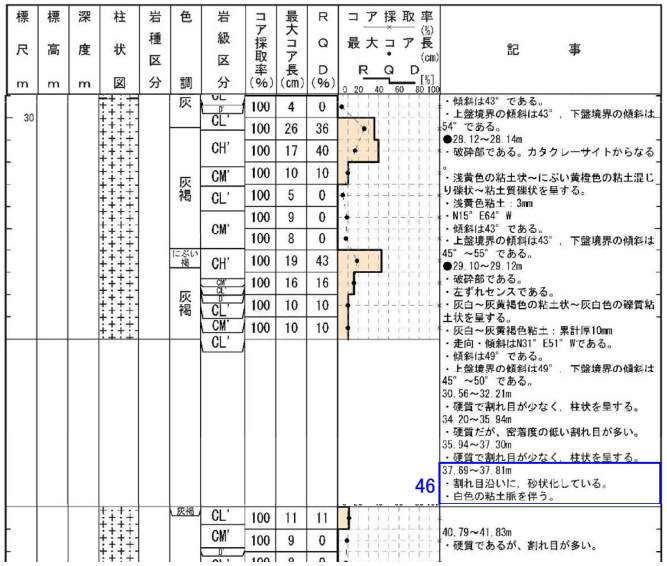
47 37.81～38.50m：CL

48 38.21m以深では50°前後の割れ目ぞいに風化，砂状化進む。また少量の厚さ1～2m/m白色～褐色軟質粘土脈も伴う。

38.50～39.14m：CM
一部でゆ着割れ目を含むが密着度は高く，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。

49 39.14～40.79m：CL
密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。
割れ目には砂や粘土を厚さ1～3m/mではさむことが多い。

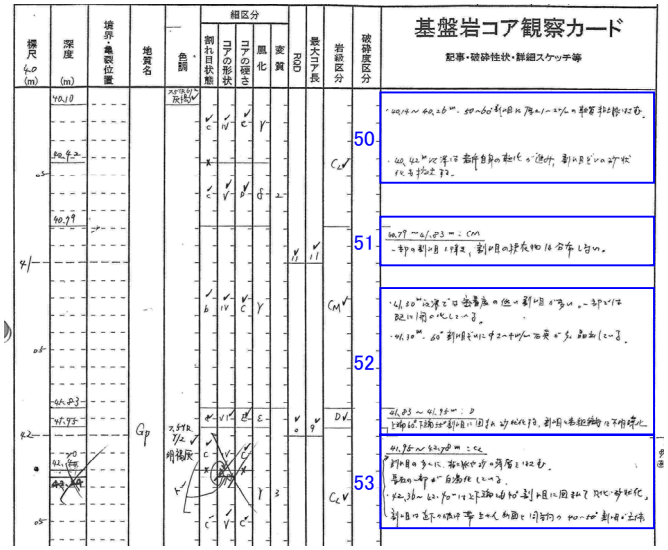
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
45	・37.03mで割れ目を切っているとあるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
46	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・粘土脈の幅については，直線性に乏しく，ばらつきがあるため削除。
47	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
48	・一部割れ目沿いに砂状化し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。
49	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・39.14～40.79mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-3

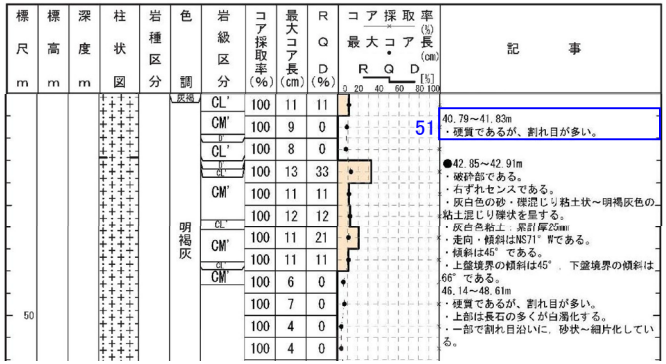
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
50	40.14～40.26m　50～60° 割れ目に厚さ1～2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み，割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
51	40.79～41.83m：CM 一部の割れ目を除き，割れ目の挟在物は分布しない。
52	41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部では既に開口化している。 41.30m　60° 割れ目ぞいにφ2～4m/m石英が多く晶出している。
53	41.83～41.95m：D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95～42.78m：CL 割れ目は直下の破砕帯主せん断面と同方向の40～50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36～42.40mは上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

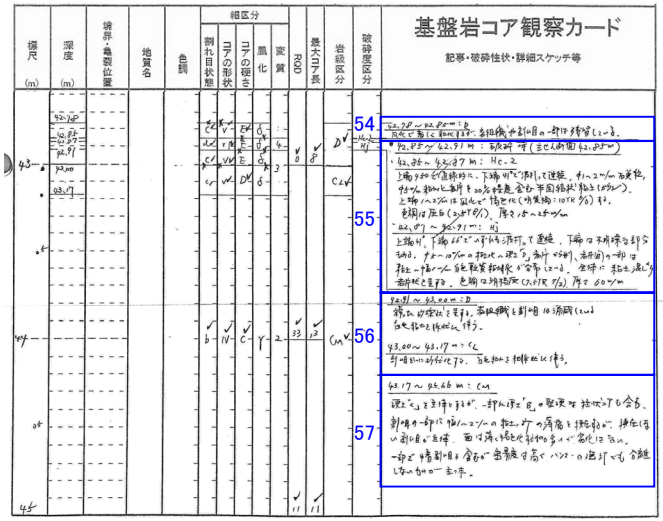
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
50	・砂や粘土を挟在するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
51	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質であるが，割れ目が多いと記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
52	・割れ目の密着状態・開口状況，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・41.83～41.95mで割れ目沿いに砂状化するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
53	・岩級およびその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・42.36～42.40mで割れ目沿いに砂状化するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-3

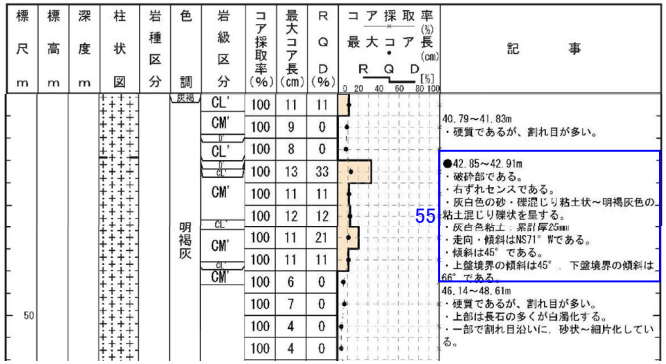
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
54	42.78～42.85m：D 風化で著しく軟化するが，岩組織や割れ目の一部は残留している。
55	●42.85～42.91m：破砕帯（主せん断面42.85m） 42.85～42.87m：Hc-2 上端45°で直線的に，下端41°で波打って連続。φ1～2m/m石英粒，φ5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状粘土（ガウジ）。 上端1～2m/mは風化で褐色化（明黄褐：10YR6/6）する。 色調は灰白（2.5Y8/1），厚さ15～25m/m。 42.87～42.91m：Hj 上端41°，下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 φ5～10m/mの粘土化～硬さ「D」岩片からなり，岩片間の一部は粘土～幅1m/m白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰（7.5YR7/2），厚さ60m/m
56	42.91～43.00m：D 締った砂礫状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。 白色粘土を脈状に伴う。 43.00～43.17m：CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。
57	43.17～45.66m：CM 硬さ「C」を主体とするが，一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。 割れ目の一部に幅1～2m/mの粘土，砂の薄層を挟在するが，挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部でゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。

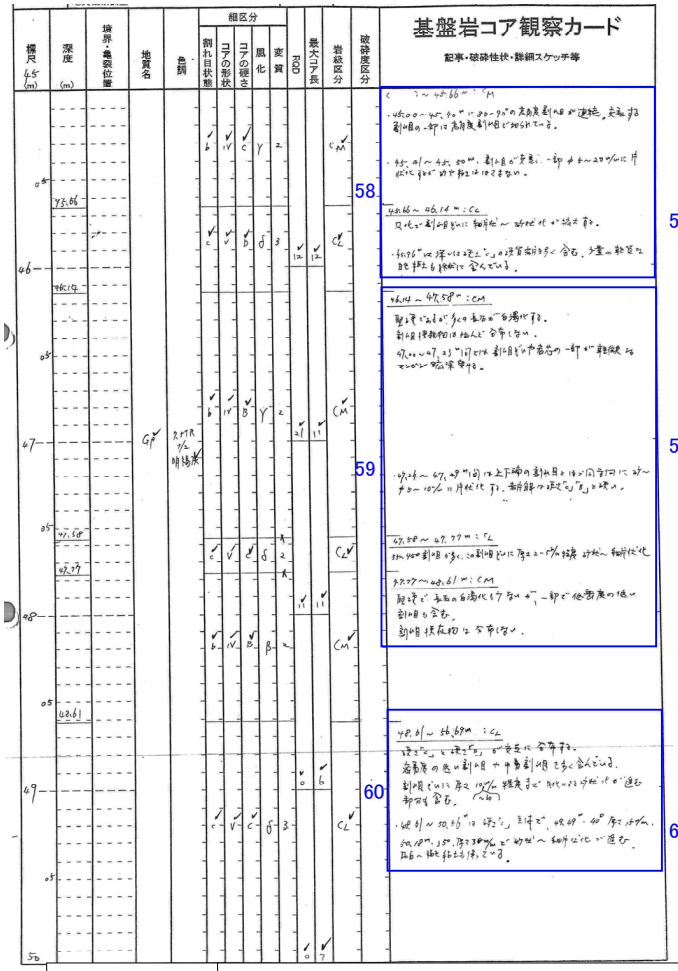
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
54	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
55	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粒度について，Φ1～2mm石英粒，Φ5mm粘土化岩片を20%程度含むとの記載に基づき，砂・礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
56	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・42.91～43.00mで締まった砂礫状を呈するが，原岩組織が比較的残留しており，劣化の系統性も不明瞭であることから削除。 ・岩組織と割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・43.00～43.17mで割れ目沿いに砂状化し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
57	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の挟在物の有無，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
58	（ ）～45.66m：CM 45.00～45.40m に80～90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41～45.50m 割れ目が交差し，一部φ5～20m/mに片状化するが砂や粘土ははさまない。 45.66～46.14m：CL 風化で割れ目ぞいに細片化～砂状化が拡大する。 45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。
59	46.14～47.58m：CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。 割れ目挟雑物は殆んど分布しない。 47.00～47.23m間では割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。 47.24～47.29m間は上下端の割れ目とほゞ同方向に砂～φ5～10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58～47.77m：CL 35～45° 割れ目が多く，この割れ目ぞいに厚さ2～5m/m程度砂状～細片状化。 47.77～48.61m：CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが，一部で低密度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。
60	48.61～56.69m：CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10～30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61～50.56mは硬さ「C」主体で，49.49m・40° 厚さ15m/m。 50.18m・35° 厚さ30m/mで砂状～細片状化が進む。 灰白～褐色粘土も伴っている。

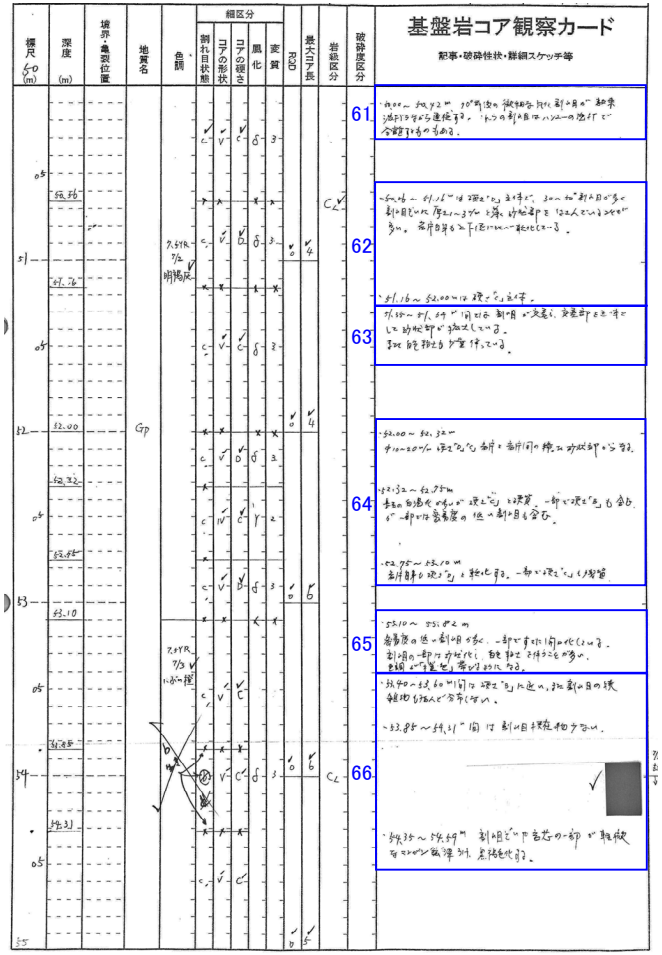
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
58	・45.00～45.40mでは，高角度割れ目で切られているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・45.41～45.50mで片状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・45.66～46.14mで割れ目沿いに細片～砂状化しているが，いずれも周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・45.96～46.14mで脈状に粘土を含むが，いずれも連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
59	・“コアの硬さ”欄に基づき，下端深度を48.61m，硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき，割れ目が多いと記載。 ・割れ目の挟在物の有無，マンガン，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・細片化した岩片の粒径については，補足的なものであるため削除。
60	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状～細片状化し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

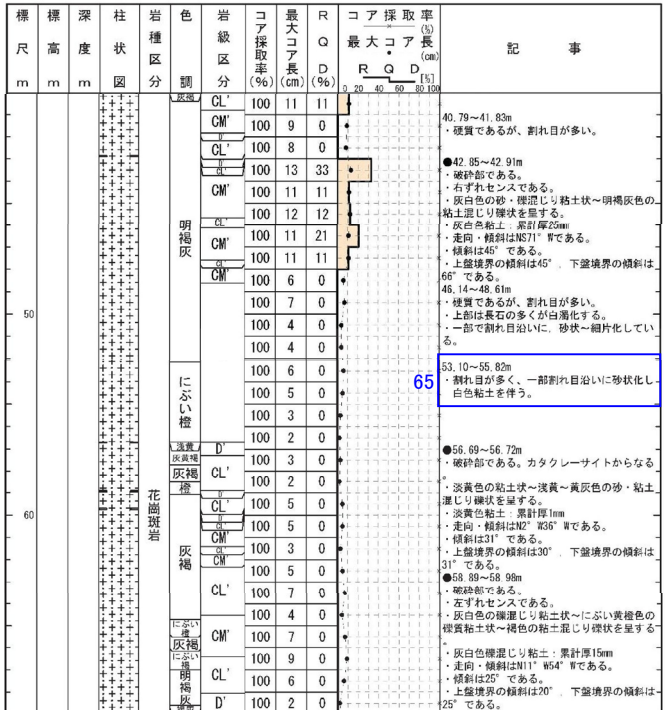
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
61	50.00～50.42m　70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。
62	50.56～51.16mは硬さ「D」主体で，30～50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1～3m/mと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。 51.16～52.00mは硬さ「C」主体。
63	51.35～51.64m間では割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。 また白色粘土も少量伴っている。
64	52.00～52.32m φ10～20m/m硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。 52.32～52.75m 長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。 52.75～53.10m 岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。
65	53.10～55.82m 密着度の低い割れ目が多く，一部ですでに開口化している。 割れ目の一部は砂状化し，白色粘土を伴うことが多い。 色調が「橙色」を帯びるようになる。
66	53.40～53.60m間は硬さ「B」に近い。また割れ目の挟雑物も殆んど分布しない。 53.85～54.31m間は割れ目挟在物少ない。 54.35～54.59m　割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ，黒褐色化する。

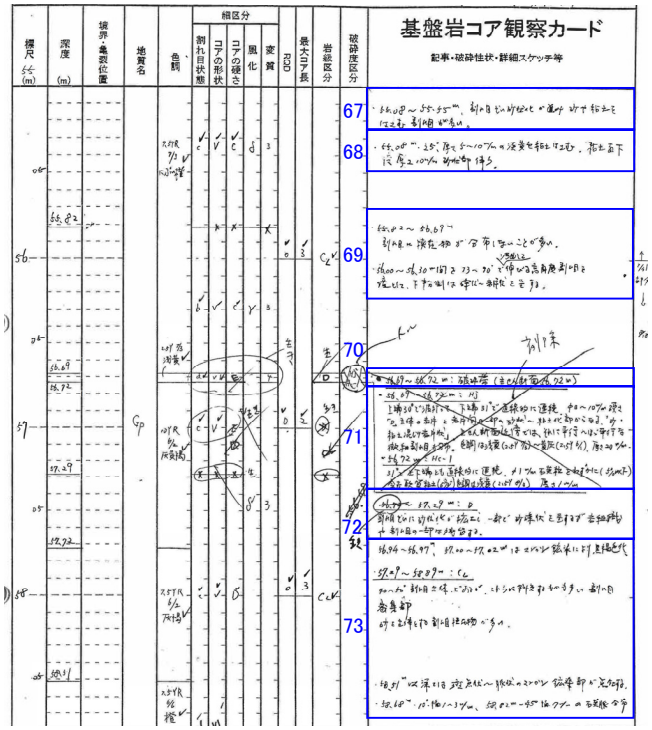
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
61	・割れ目の傾向については，当該区間の周囲と差異がないため削除。 ・割れ目の傾斜や割れ目の密着の程度については，補足的なものであるため削除。
62	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・50.56～51.16mの一部割れ目沿いで砂状化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・一部割れ目沿いで砂状化や粘土の挟在がみられるが，連続性や直線性に乏しく，当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
64	・52.00～52.32mの一部で締まった砂状を呈するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
65	・割れ目の密着状態・開口状況，色調については，補足的なものであるため削除。
66	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無，マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
67	55.08～55.55m　割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。
68	55.08m　25°　厚さ5～10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。
69	55.82～56.69m 割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 56.00～56.30m　間を73～90°　で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として，下半分側は礫状～岩片状を呈する。
70	●56.69～56.72m　破砕帯（主せん断面56.72m）
71	56.69～56.72m：Hj 上端30°　で波打って，下端31°　で直線的に連続。φ3～10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。 主せん断面近傍では，それに平行～ほぶ平行な微細割れ目も分布。色調は浅黄(2.5Y7/3)～黄灰(2.5Y6/1)，厚さ20m/m 56.72m：Hc-1 31°　で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟質粘土（ガウジ）。色調は淡黄(2.5Y8/3)，厚さ1m/m
72	56.72 ～57.29m：D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。
73	56.94～56.97m，57.00～57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。 57.29～58.89m：CL 40～50°　割れ目主体であるが，これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟在物が多い。 58.51m以深では斑点状～脈状のマンガン鉱染部が点在する。 58.68m・10°　幅1～3m/m，58.82m・45°　幅7m/mの石英脈分布。

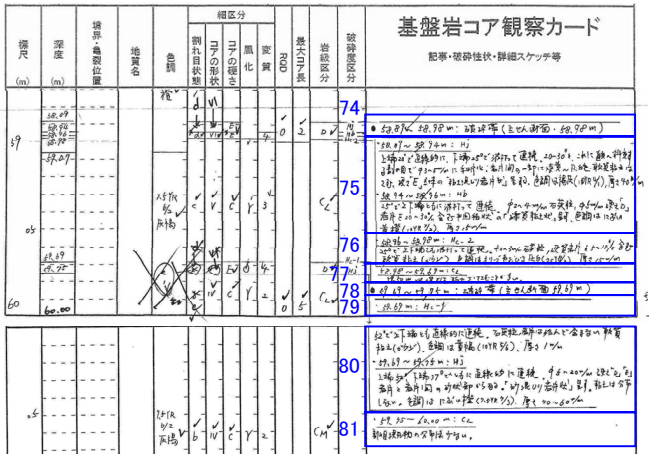
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
67	・55.08～55.55mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，記事No.65でまとめ書きしていることから削除。
68	・粘土と砂状部を挟在するが，周辺の岩盤に劣化が認められないことから削除。
69	・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・一部礫状～岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
70，71	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
72	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部で砂礫状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
73	・マンガン，変色，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目に砂を挟在するが，周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。

H27-B-3

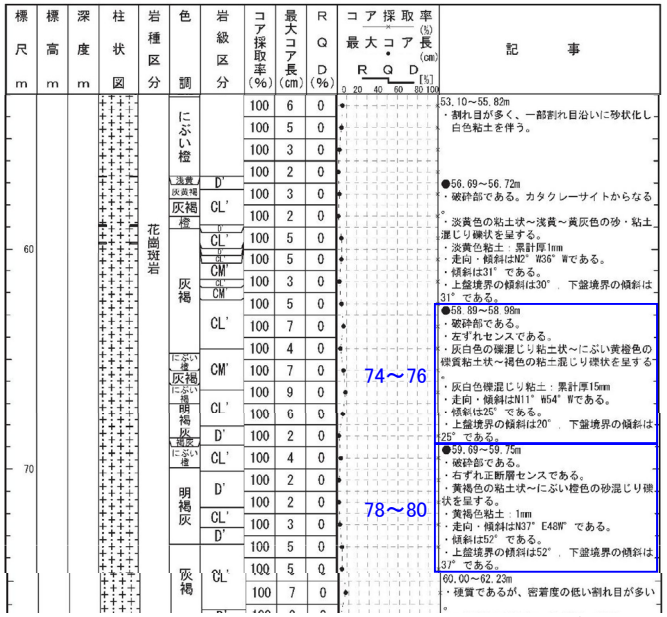
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
74	●58.89～58.98m　破砕帯（主せん断面・58.98m）
	58.89～58.94m：Hj 上端20°で直線的に，下端25°で波打って連続。20～30°をこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5m/mに細片化，岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。
75	色調は褐灰（10YR4/1），厚さ40m/m。
	58.94～58.96m：Hb 25°で上下端ともに波打って連続。φ2～4m/m石英粒，φ5m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈す。 色調はにぶい黄橙（10YR7/2），厚さ15m/m。
	58.96～58.98m：Hc-2
76	25°で上下端とも波打って連続。φ2～3m/m石英粒，硬質岩片を5～10%含む軟質粘土（ガウジ）。色調はオリーブ色おびる灰白（7.5Y8/2），厚さ15m/m。
	58.98～59.69m：CL
77	59.50m以深では粘土をはさむことが多い。
78	●59.69～59.75m　破砕帯（主せん断面59.69m）
79	59.69m：Hc-1
	52°で上下端とも直線的に連続。石英粒，岩片は殆んど含まない軟質粘土（ガウジ）。色調は黄褐（10YR5/6），厚さ1m/m
	59.69～59.75m：Hj 上端52°，下端37°でともに直線的に連続。φ5～20m/m硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙（7.5YR7/3），厚さ40～60m/m。
80	
	59.75～60.00m：CL
81	割れ目挟在物の分布は少ない。

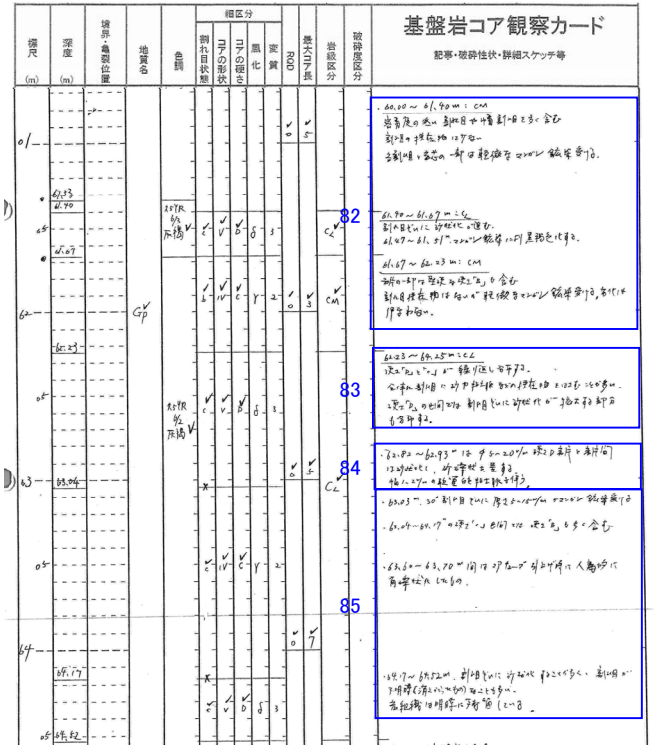
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
74～76	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・Φ2～3mm石英粒，硬質岩片を5～10%含むとの記載に基づき礫混じり粘土状と記載。 ・褐灰色→褐色※1 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
77	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部で粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。
78～80	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（砂混じり岩片状→砂混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
81	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

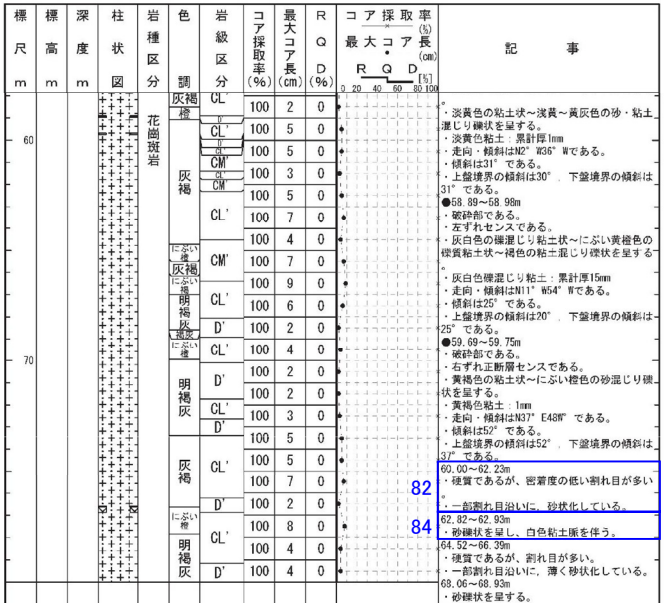
82
60.00～61.40m：CM
密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。
割れ目の挟在物は少ない。
各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染受ける。
61.40～61.67m：CL
割れ目ぞいに砂状化が進む。
61.47～61.51m　マンガン鉱染により黒褐色化する。
61.67～62.23m：CM
岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。
割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染受ける。劣化は伴なわない。

83
62.23～64.25m：CL
硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。
全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。
硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。

84
62.82～62.93mはφ5～20m/m硬さD岩片と岩片間は砂状化し，砂礫状を呈する。
幅1～2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。

85
63.03m　30°割れ目ぞいに厚さ5～15m/mがマンガン鉱染受ける。
63.04～64.17m　硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む
63.60～63.70m間はコアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。
64.17～64.52m　割れ目ぞいに砂状化することが多く，割れ目が不明瞭（消えかかったもの）なことも多い。
岩組織は明瞭に残留している。

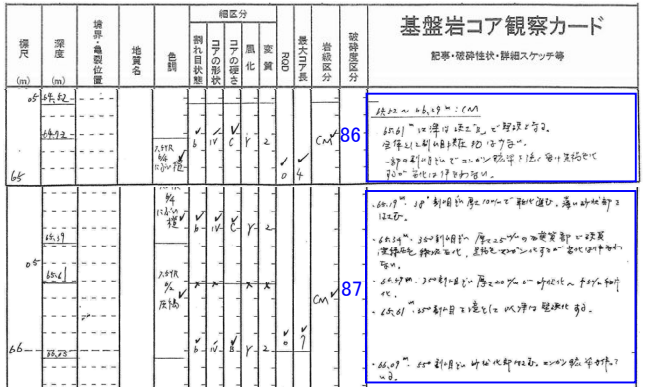
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
82	・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・割れ目の挟在物の有無，マンガン，色調については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除
83	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
84	・岩片の粒径については，補足的なものであるため削除。 ・粘土脈の幅については，連続性に乏しく，ばらつきがあることから削除。
85	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・63.60～63.70mで角礫状化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・64.17～64.52mの一部割れ目沿いに砂状化するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

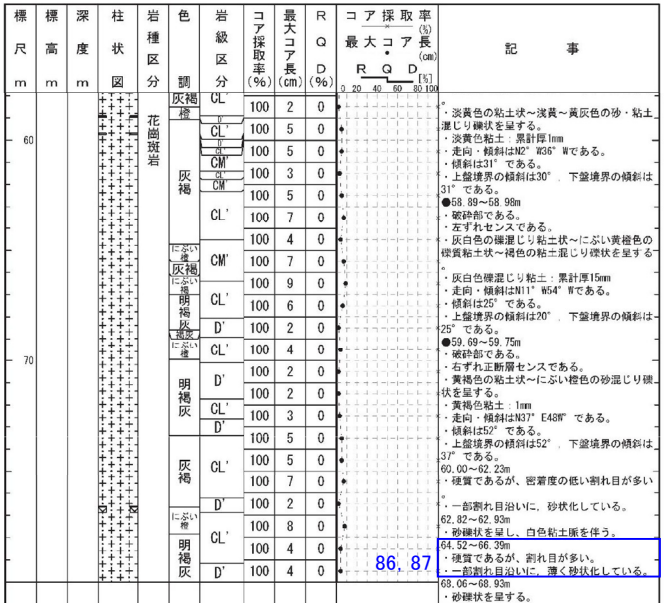
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
86	64.52～66.39m：CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴なわない。
87	65.19m　38°　割れ目ぞい厚さ10m/mで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。 65.34m　35°　割れ目ぞい厚さ25m/mの石英質部で硬質淡緑灰色緑泥石化，黒褐色マンガン化するが劣化は伴なわない。 65.59m　35°　割れ目ぞい厚さ20m/mが砂状化～φ5m/m細片化。 65.61m　35°　割れ目を境として以深は堅硬化する。 66.09m　55°　割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。

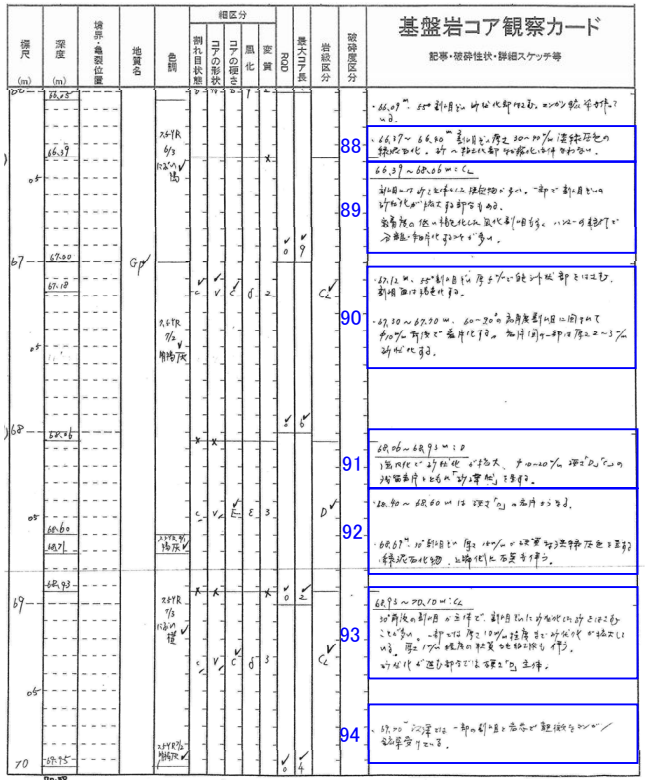
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
86，87	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質であるが，割れ目が多いと記載。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・マンガン，割れ目沿いの変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

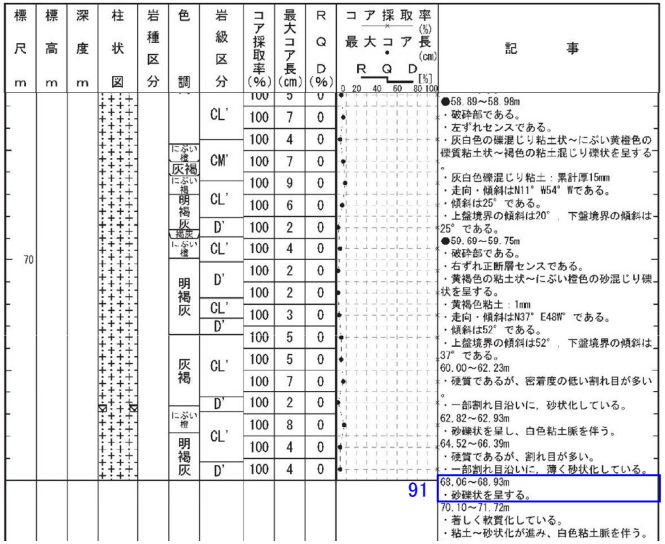
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
88	66.37～66.40m　割れ目ぞい厚さ30～40m/m淡緑灰色の緑泥石化。砂～粘土化部など劣化は伴なわない。
89	66.39～68.06：CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。 密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。
90	67.12m　55°　割れ目ぞい厚5m/mで白色シルト状部をはさむ。 割れ目面は褐色化する。 67.30～67.70m　60～90°　の高角度割れ目に囲まれてφ10m/m前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2～3m/m砂状化する。
91	68.06～68.93m：D 強風化で砂状化が拡大。φ10～20m/m硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。
92	68.40～68.60mは硬さ「D」の岩片からなる。 68.69m　30°　割れ目ぞい厚さ15m/mが硬質な淡緑灰色を呈する。 緑泥石化物，上端側に石英も伴う。
93	68.93～70.10m：CL 30°　前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂をはさむことが多い。 一部では厚さ10m/m程度まで砂状化が拡大している。厚さ1m/m程度の軟質白色粘土脈も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。
94	69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉱染受けている。

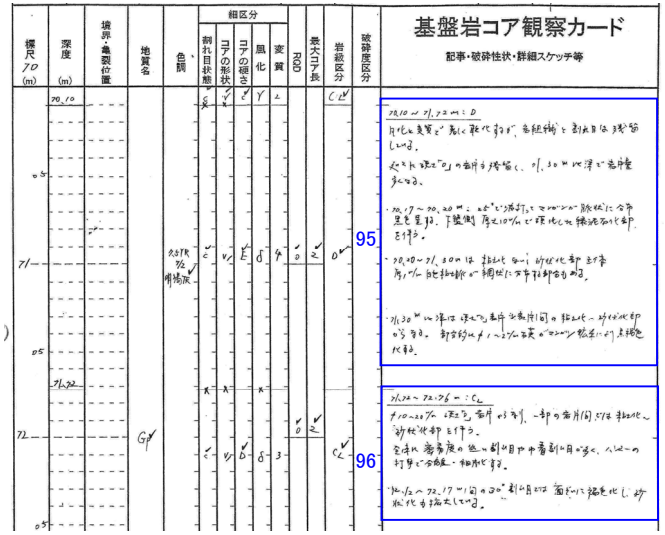
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
88	・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
89	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
90	・67.12mにシルト状部を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。 ・67.30～67.70mで岩片状を呈し，一部で砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
91	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・風化の程度や硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
92	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・色調や鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
93	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し，粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
94	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
70.10～71.72m：D 風化と変質で著しく軟化するが，岩組織と割れ目は残留している。 処々に硬さ「D」の岩片が残留し，71.30m以深で岩片量多くなる。 70.17～70.20m　25°で波打ってマンガンが脈状に分布黒色呈する。下盤側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20～71.30mは粘土化ないし砂状化部主体 厚1m/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。 71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。部分的にφ1～2m/m石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	95
71.72～72.76m：CL φ10～20m/m　硬さ「D」岩片からなり，一部の岩片間では粘土化～砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く，ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12～72.17m 間の30°割れ目では面ぞいに褐色化し，砂状化も拡大している。	96

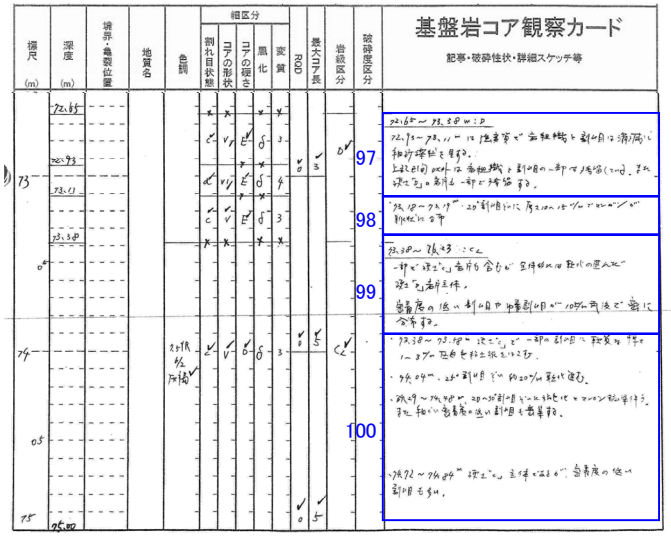
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
95	・表現の見直し（軟化する→軟質化している） ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織と割れ目の残留の程度，岩片量については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガン，変色，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・粘土脈の幅については，連続性に乏しく，ばらつきがあるため削除。
96	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに粘土化及び砂状化がみられるが，連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目の密着状態，変色については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

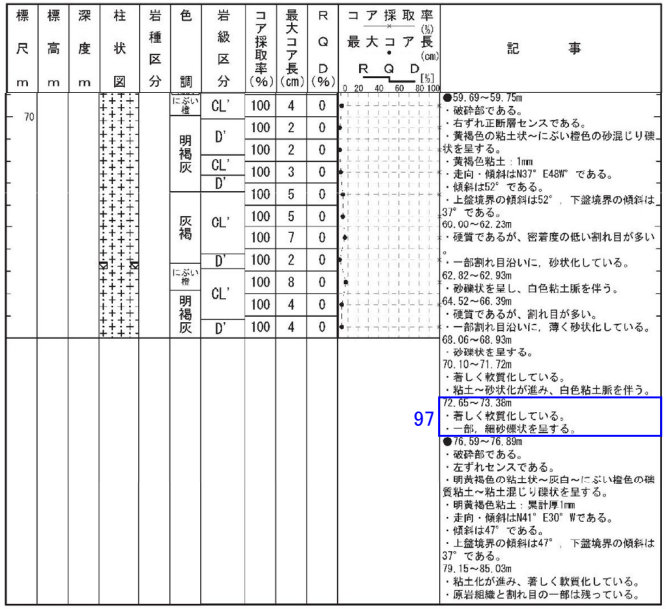
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
97	72.65～73.38m：D 72.93～73.11mは強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また，硬さ「D」の岩片も一部で残留する。
98	73.18～73.19m　20°　割れ目ぞいに厚さ10～15m/mでマンガンが脈状に分布。
99	73.38～76.23　：CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が10m/m前後で密に分布する。
100	73.38～73.58m　硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1～3m/m灰白色粘土脈をはさむ。 74.04m　25°　割れ目ぞい約20m/m軟化進む。 74.29～74.48m　20～30°　割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。 また細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72～74.84m　硬さ「C」主体であるが，密着度の低い割れ目も多い。

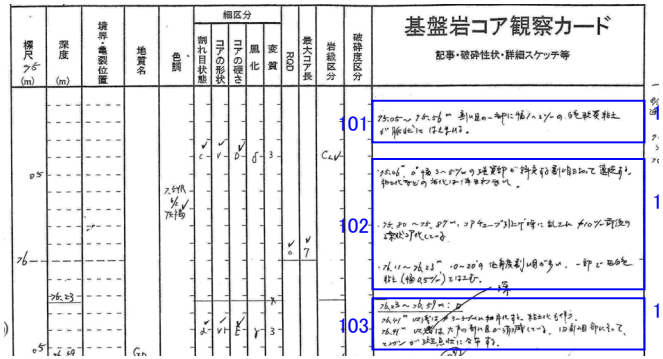
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
97	・“コアの硬さ”欄に基づき，軟質化していると記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
98	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
99	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
100	・73.38～73.58mで割れ目沿いに粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・変色，マンガン，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

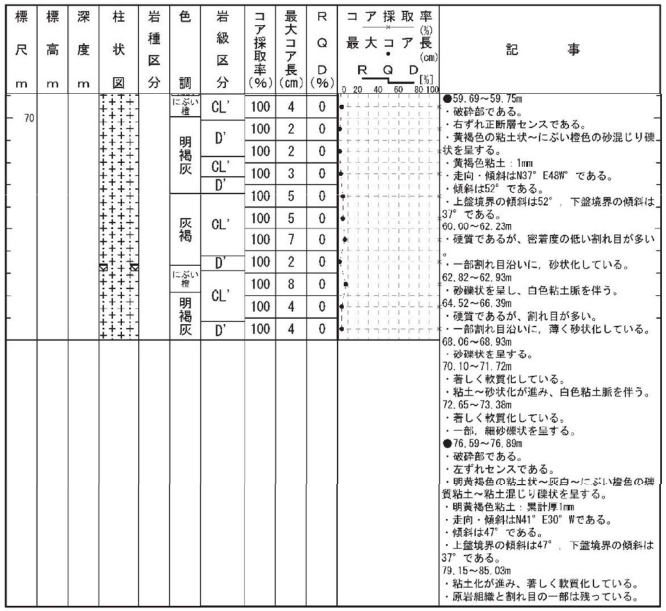
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
75.05～75.56m　割れ目の一部に幅1～2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	101
75.46m　0°幅3～5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴なわない。 75.80～75.87m　コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。 76.11～76.23m　10～20°の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土（幅0.5m/m）をはさむ。	102
76.23～76.59m：D 76.41m以浅はφ3～5m/mに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。	103

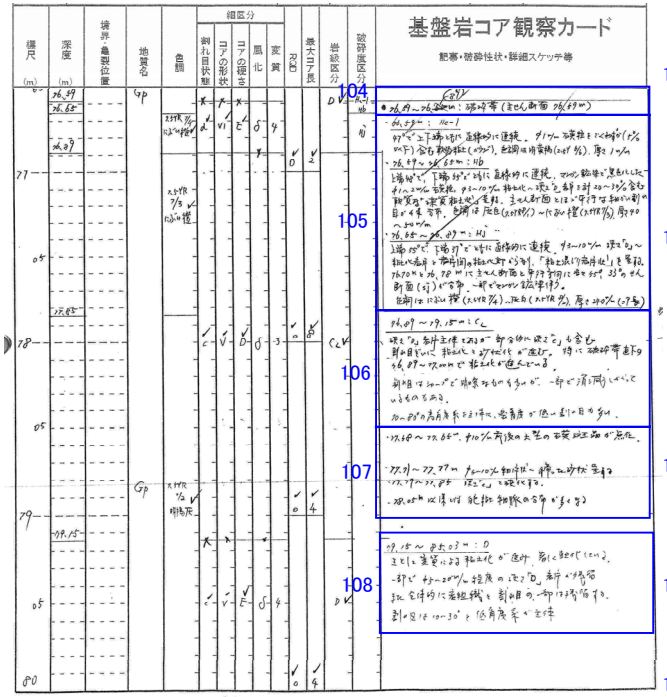
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
101	・一部に粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。
102	・75.46mで珪質部が割れ目を切ってとの記載については，周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・75.80～75.87mで礫状化しているが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・76.11～76.23mで粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。
103	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・76.41m以浅で一部粘土化しているが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

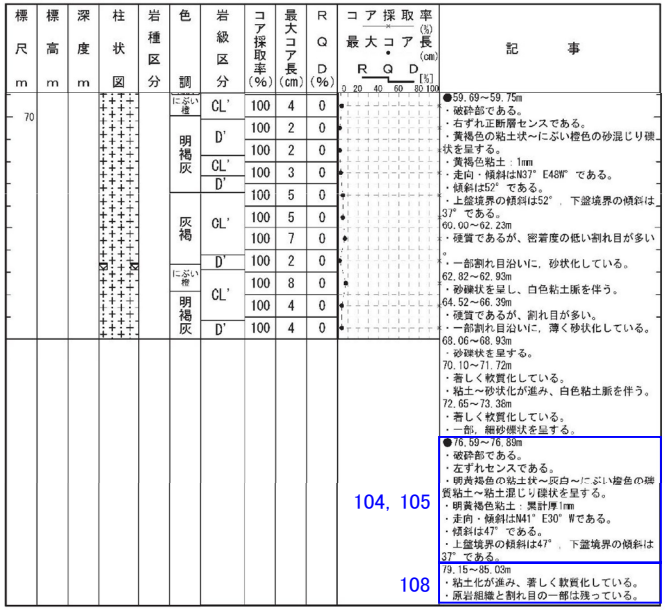
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
104	●76.59～76.89m：破砕帯（主せん断面76.59m）
105	76.59m：Hc-1 47° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）。色調は明黄褐（2.5Y6/6），厚さ1m/m。 76.59～76.65m：Hb 上端48° で，下端55° でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1～2m/m石英粒，φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。 色調は灰白（7.5YR8/1）～にぶい橙（7.5YR7/3），厚さ40～50m/m。 76.65～76.89m：Hj 上端55° で下端37° でともに直線的に連続。φ3～10m/m硬さ「D」～粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり，「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55° ，33° のせん断面（sj）が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙（7.5YR7/4）～灰白（7.5YR8/2），厚さ240m/m（コア長）。
106	76.89～79.15m：CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89～77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが，一部で消滅しかかっているものもある。 70～80° の高角度系を主体に，密着度が低い割れ目も多い。
107	77.58～77.65m　φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。 77.71～77.77m　φ5～10m/m細片状～締った砂状呈する。 77.79～77.85　硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。
108	79.15～85.03m：D 主として変質による粘土化が進み，著しく軟化している。 一部でφ5～20m/m程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10～30° と低角度系が主体。

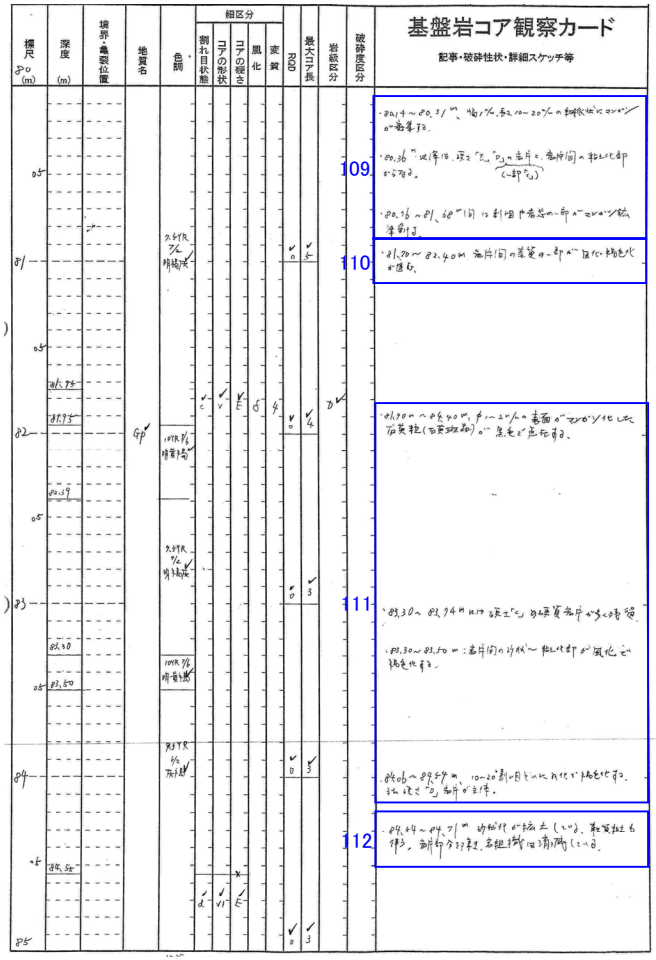
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
104，105	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混り岩片状→粘土混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
106	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂状化と粘土化が進行しているが，劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
107	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・77.71～77.77mで細片状～締まった砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
108	・表現の見直し（軟化→軟質化） ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

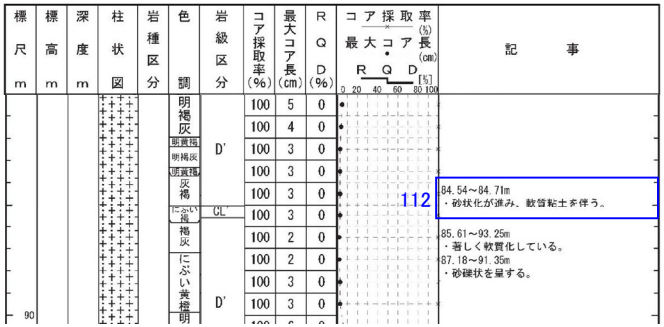
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
109	80.14～80.31m　幅1m/m，長さ10～20m/mの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」（一部「C」）の岩片と，岩片間の粘土化部からなる。 80.76～81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染受ける。
110	81.70～82.40m　岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
111	81.90m～84.40m　φ1～2m/mの表面がマンガン化した石英粒（石英斑晶）が黒色で点在する。 83.30～83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30～83.50m：岩片間の砂状～粘土化部が風化で褐色化する。 84.06～84.54m　10～20°　割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また，硬さ「D」岩片が主体。
112	84.54～84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き，岩組織は消滅している。

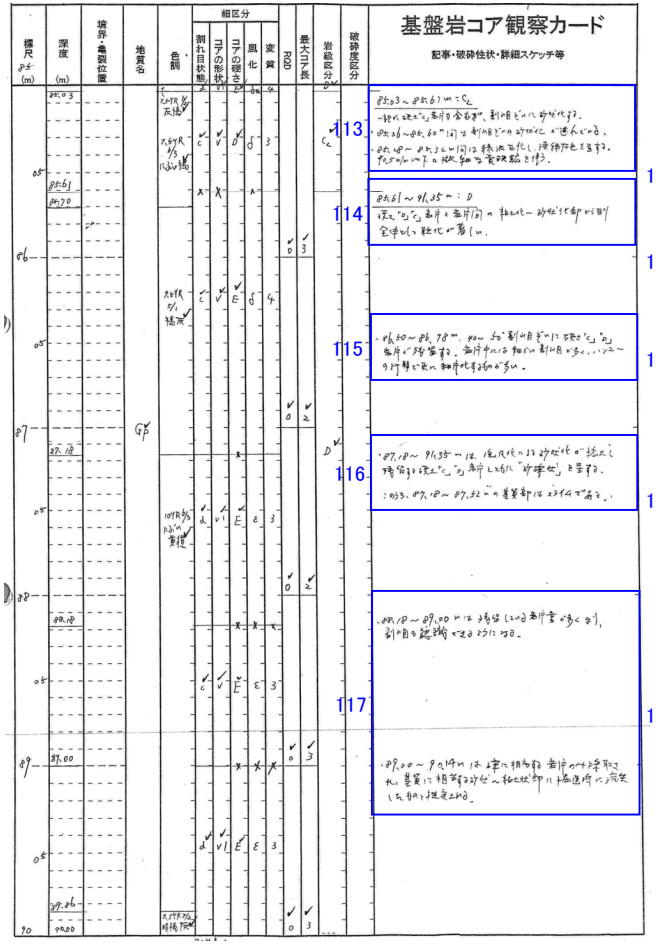
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
109	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・80.36m以深で部分的に粘土化しているが，粘土の連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	・風化による変色については，補足的なものであるため削除。
111	・マンガン，変色については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・83.30～83.50mの一部で砂状～粘土状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
112	・岩組織の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

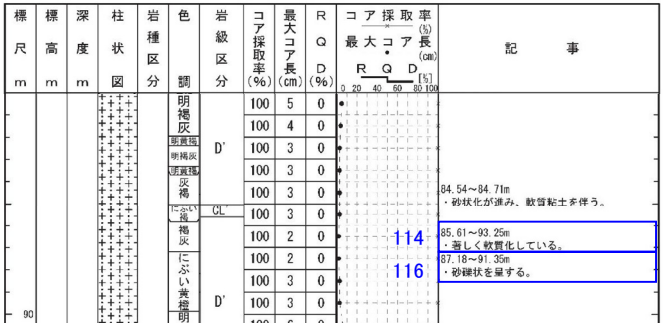
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
113	85.03～85.61m：CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが，割れ目ぞいに砂状化する。 85.36～85.60m間は割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 85.28～85.32m間は緑泥石化し，淡緑灰色を呈する。 φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱を伴う。
114	85.61～91.35m：D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟化が著しい。
115	86.50～86.78m　40～50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く，ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。
116	87.18～91.35m　強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち，87.18～87.52mの基質部はスライムである。
117	88.18～89.00mは残留している岩片量が多くなり，割れ目も認識できるようになる。 89.00～90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され，基質に相当する砂状～粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。

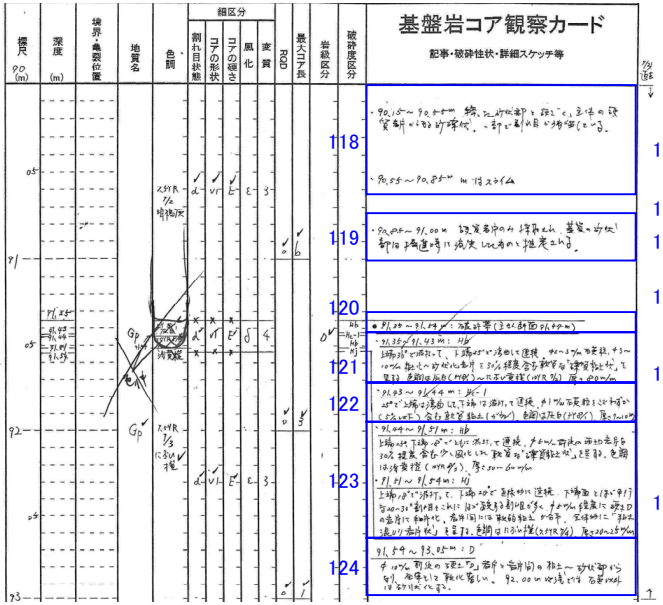
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
113	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが，系統的でなく，直線性や連続性が乏しいことから削除。 ・色調，鉱物の晶出，コアの硬さについては，補足的なものであるため削除。
114	・“コアの硬さ”欄に基づき，下端深度を93.25m，著しく軟質化していると記載。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。
115	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
116	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・基質部はスライムであるとの記載については，補足的なものであるため削除。
117	・岩片の量や割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・89.00～90.14mで岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-3

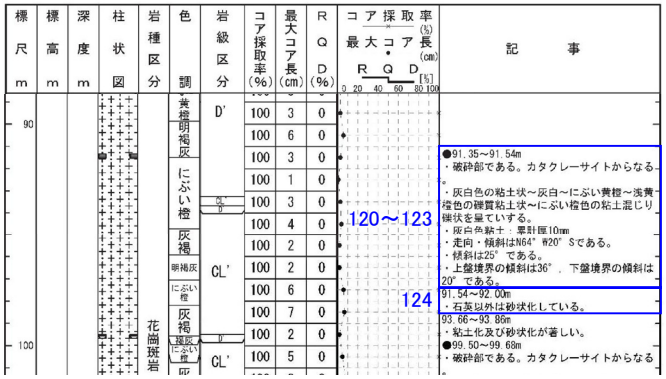
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
118	90.15～90.55m　締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。 90.55～90.85mはスライム。
119	90.85～91.00m　硬質岩片のみ採取され，基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。
120	●91.35～91.54m：破砕帯（主せん断面91.44m）
121	91.35～91.43m：Hb 上端36°で波打って，下端25°で湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒，φ3～10m/m粘土化～砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。 色調は灰白（5Y8/1）～にぶい黄橙（10YR7/2），厚さ80m/m
122	91.43～91.44m：Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質粘土（ガウジ）。色調は灰白（5Y8/1），厚さ7～10m/m
123	91.44～91.51m：Hb 上端25°，下端18°でともに波打って連続。φ5m/m前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。 色調は浅黄橙（10YR8/3），厚さ30～60m/m 91.51～91.54m：Hj 上端18°で波打って，下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/m程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙（7.5YR7/4），厚さ20～25m/m
124	91.54～93.05m：D φ10m/m前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり，全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。

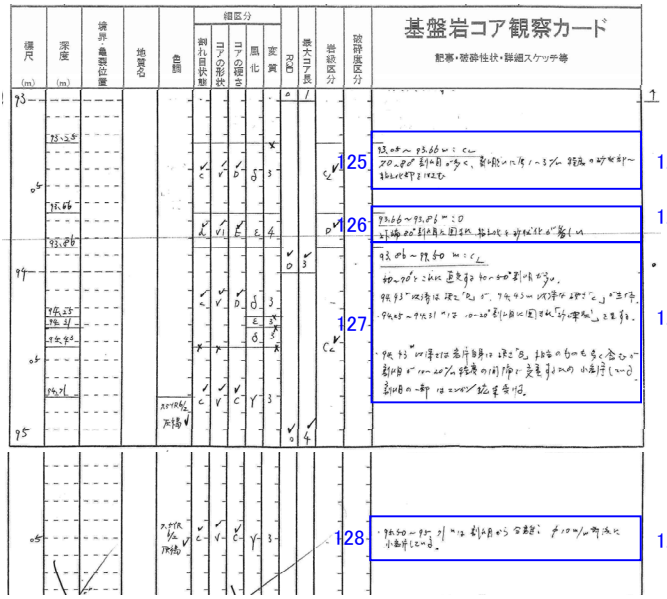
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
118	・締まった砂状及び砂礫状を呈するが，記事No.116でまとめ書きしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・スライム区間については，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため，コア写真で示すこととし削除。
119	・岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
120～123	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
124	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。

H27-B-3

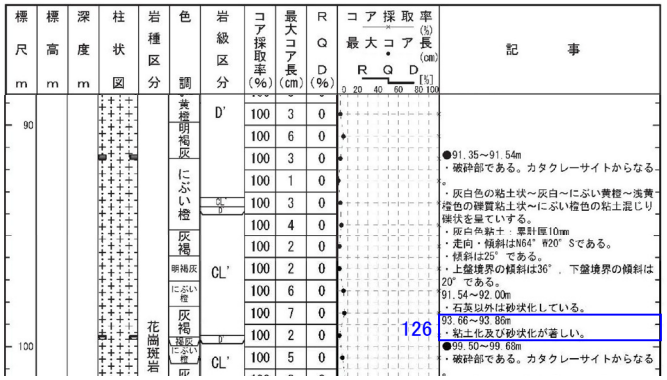
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
93.05～93.66m：CL 70～80° 割れ目が多く，割れ目ぞいに厚1～3m/m程度の砂状部～粘土化部をはさむ。	125
93.66～93.86m：D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	126
93.86～99.50m：CL 50～70° とこれに直交する40～50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が，94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25～94.31mは10～20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10～20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染受ける。	127
95.50～95.71mは割れ目から分離，φ10m/m前後に小岩片している。	128

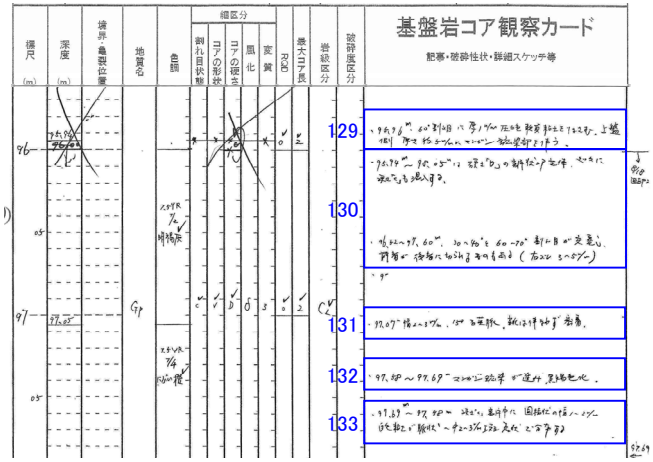
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
125	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが，いずれも連続性に乏しいことから削除。
126	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
127，128	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・94.25～94.31mで砂礫状を呈するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

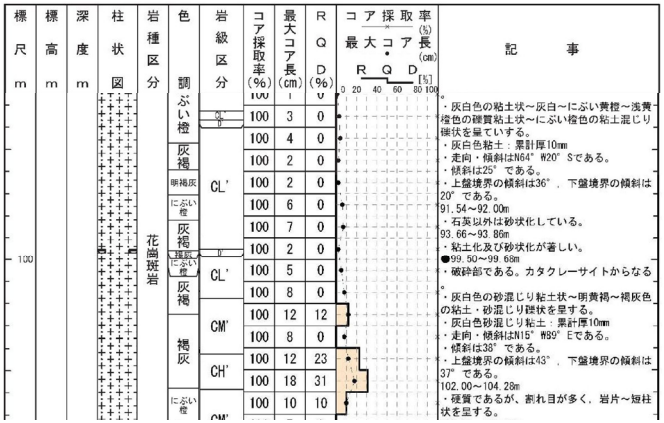
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
129	95.96m　60°割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。
130	95.94m～98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体，処々に硬さ「C」も混入する。 96.52～97.60m　30～40°と60～70°割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。（右ズレ3～5m/m）
131	97.07m　幅2～3m/m，15°石英脈。劣化は伴なわず密着。
132	97.58～97.69m　マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133	97.69m～97.78m　硬さ「C」岩片中に固結状の幅1～2m/m白色粘土が脈状～φ2～3m/m斑点状で分布する。

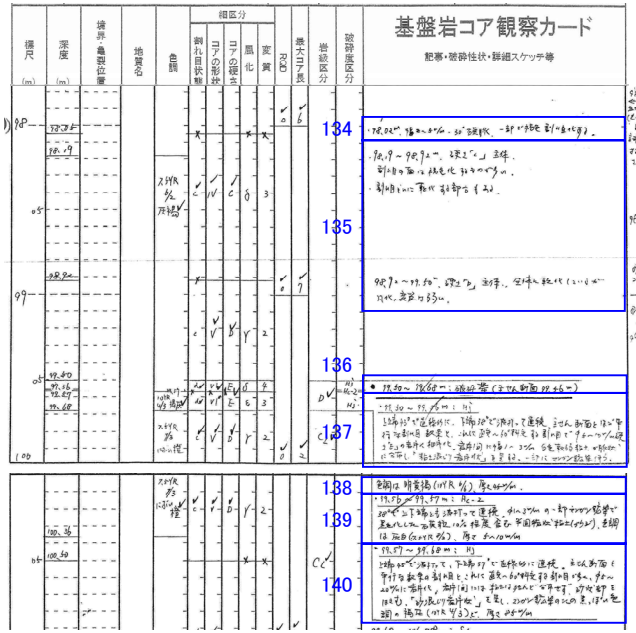
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
129	・粘土を挟在するが，連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
130	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・96.52～97.60mで割れ目が切られるとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
131	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
132	・マンガン，変色については，補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが，系統的でなく，連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-3

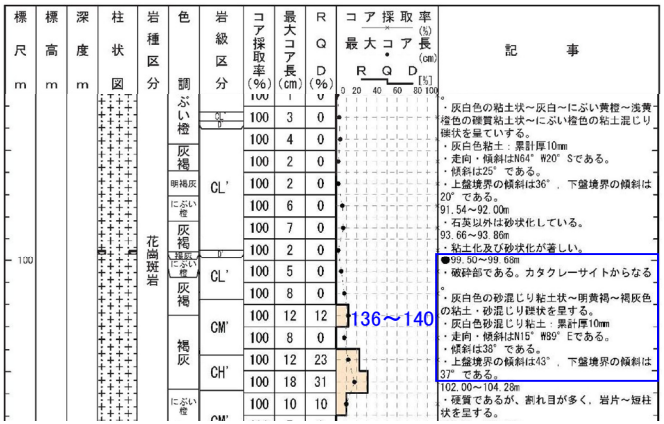
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
134	98.02m　幅2～5m/m，30°　石英脈。一部で褐色割れ目化する。
135	98.19～98.92m　硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。 98.92～99.50m　硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化，変質は弱い。
136	●99.50～99.68m　破砕帯（主せん断面99.56m）
137	99.50～99.56m：Hj 上端43°で直線的に，下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と，これに直交～60°斜交する割れ目でφ5～10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1～3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
138	色調は明黄褐（10YR6/6），厚さ45m/m
139	99.56～99.57m：Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1～3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土（ガウジ）。 色調は灰白（7.5YR8/2），厚さ5～10m/m
140	99.57～99.68m：Hj 上端45°で波打って，下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交～60°斜交する割れ目が多く，φ5～20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し，マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰（10YR4/3）で厚さ85m/m

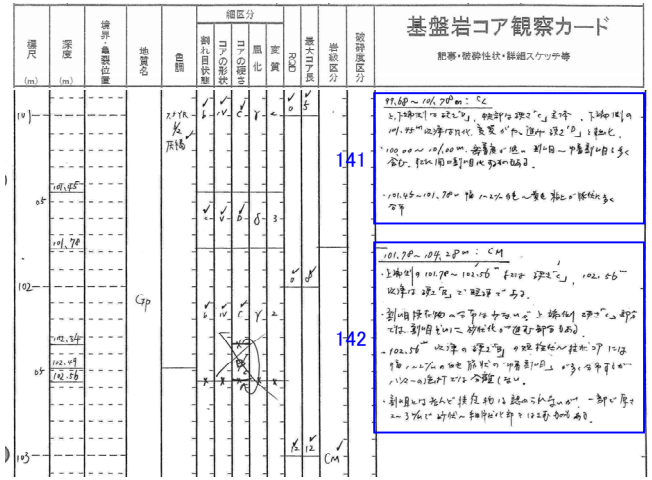
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
134	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
135	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の変色については，補足的なものであるため削除。 ・98.92～99.50mの風化・変質の程度については，周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
136～140	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状及び砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状） ・Φ1～3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むとの記載に基づき，砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-3

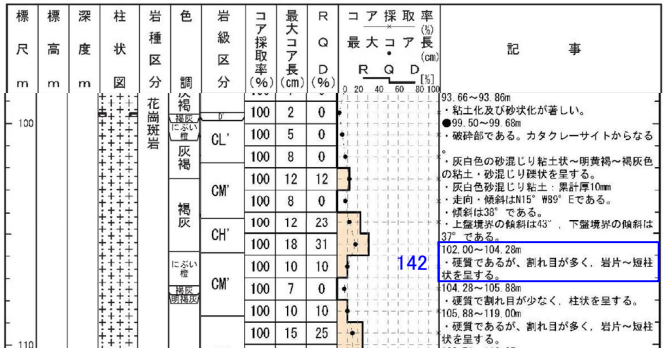
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
141	99.68～101.78m：CL 上下端側は硬さ「D」，中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化，変質がやゝ進み硬さ「D」と軟化。 100.00～101.00m　密着度が低い割れ目～ゆ着割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。 101.45～101.78m　幅1～2m/m白色～黄色粘土が脈状に多く分布。
142	101.78～104.28m：CM 上端側の101.78～102.56mまでは硬さ「C」，102.56m以深は硬さ「B」で堅硬である。 割れ目挟在物の分布は少ないが上端側硬さ「C」部分では，割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。 102.56m以深の硬さ「B」の短柱状～柱状コアには幅1～2m/mの白色筋状の「ゆ着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。 割れ目には殆んど挟在物は認められないが，一部で厚さ2～3m/mで砂状～細片状化部をはさむものもある。

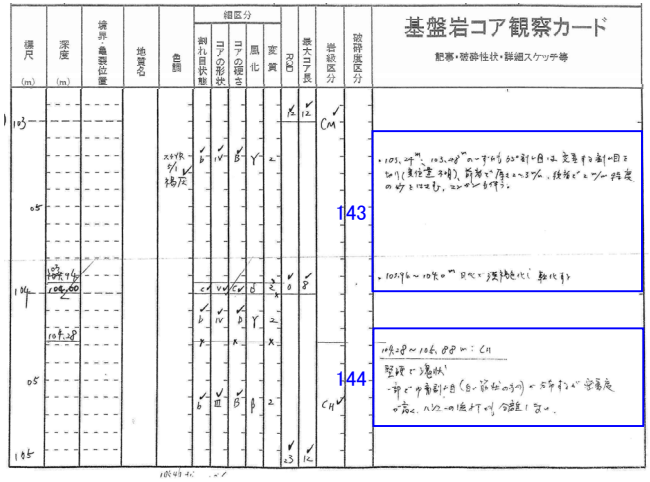
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
141	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・一部で粘土を挟在するが，いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
142	・上端深度101.78m→102.00m※1 ・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，岩片～短柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状～細片状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

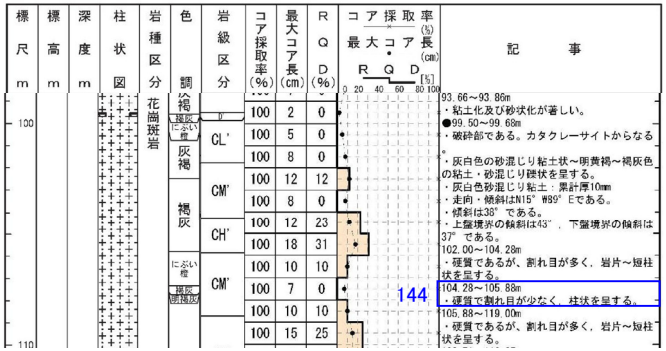
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
143	103.24m，103.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り（変位量不明），前者で厚さ2～3m/m，後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。 103.94～104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
144	104.28～105.88m：CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目（白い筋状のもの）が分布するが密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。

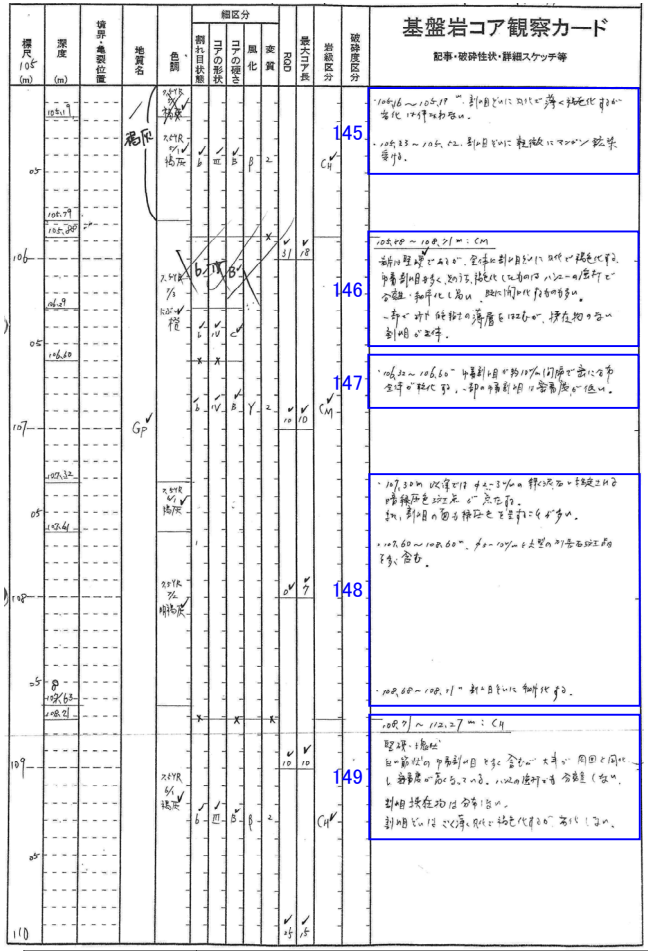
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
143	・103.24mと103.48mで割れ目を切りとの記載があり，一部で砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン，色調については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
144	・岩級については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄，“コアの形状”欄に基づき，硬質，柱状と記載。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

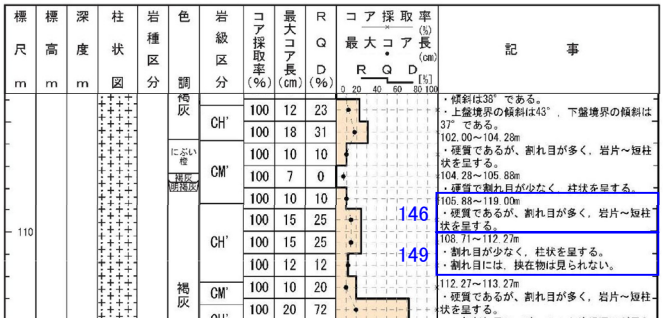
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
105.16～105.19m　割れ目どおりに風化で薄く褐色化するが劣化は伴なわない。 105.33～105.52　割れ目どおりに軽微にマンガン鉱染受ける。
105.88～108.71m：CM 岩片は堅硬であるが，全体に割れ目どおりに風化で褐色化する。 ゆ着割れ目も多く，そのうち，褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが，挟在物のない割れ目が主体。
106.32～106.60m　ゆ着割れ目が約10m/m間隔で密に分布全体が軟化する。 一部のゆ着割れ目は密着度が低い。
107.30m以深ではφ2～3m/mの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。 また，割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。 107.60～108.60m　φ5～10m/mと大型の砂長石斑晶を多く含む。 108.68～108.71m　割れ目どおりに細片化する。
108.71～112.27m：CH 堅硬・塊状 白い筋状のゆ着割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し，密着度が高くなっている。ハンマの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目どおりはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。

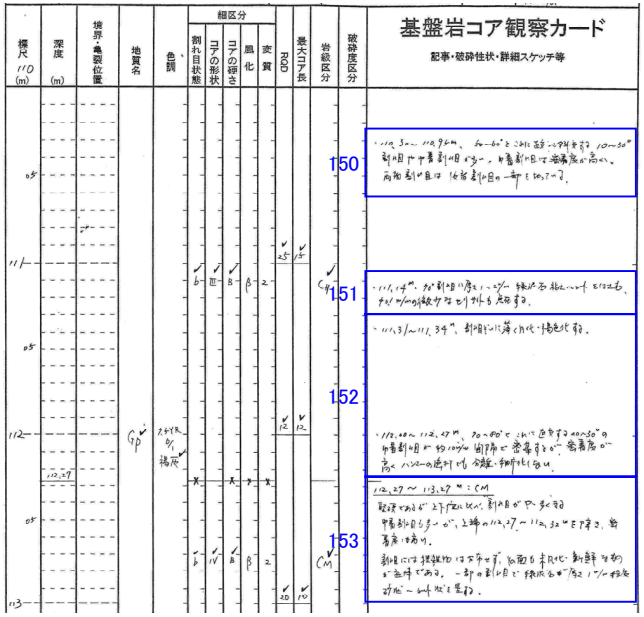
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
145	・変色，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
146	・“コアの形状”欄に基づき，下端深度を119.00m，岩片～短柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・割れ目沿いの変色，割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・一部で砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
147	・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
148	・鉱物の晶出，割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・108.68～108.71mで細片化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
149	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・“コアの形状”欄に基づき，柱状と記載。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，割れ目沿いの色調については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

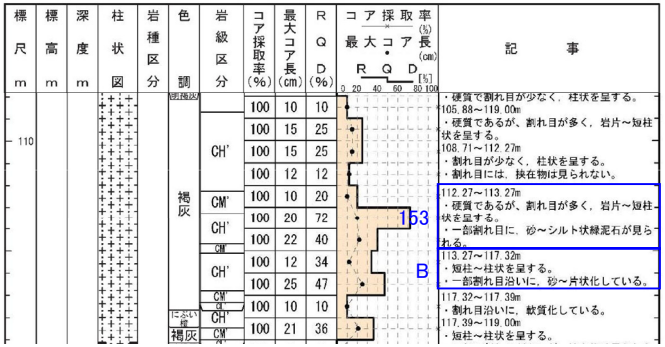
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
150	110.30～110.95m　50～60°とこれに直交～斜交する10～30°割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。 両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。
151	111.14m　76°割れ目に厚さ1～2m/m緑泥石粘土～シルトをはさむ。 φ0.1m/mの微小なセリサイトも点在する。
152	111.31～111.34m　割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。 112.00～112.27m　70～80°とこれに直交する20～30°のゆ着割れ目が約10m/m間隔で密集するが，密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。
153	112.27～113.27m：CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやゝ多くなる。 ゆ着割れ目も多いが，上端の112.27～112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟雑物は分布せず，その面も未風化・新鮮なものが主体である。 一部の割れ目で緑泥石が厚さ1m/m程度砂状～シルト状を呈する。

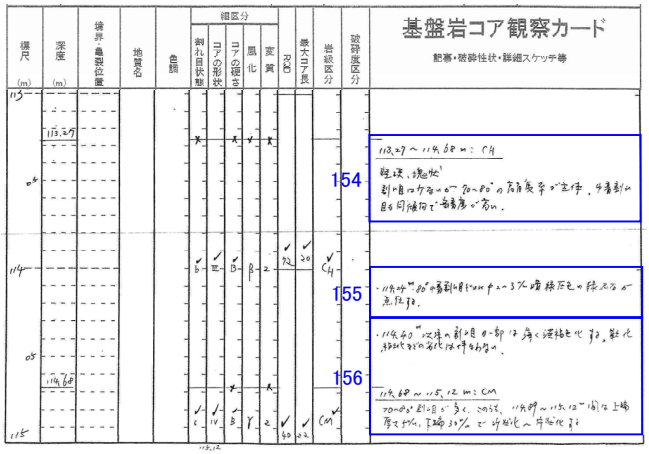
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
150	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の一部を切っているとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・粘土～シルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
152	・割れ目沿いの変色，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
153	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，岩片～短柱状と記載。 ・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・風化の程度については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・砂状～シルト状部の幅については，ばらつきがあるため削除。
B	・“コアの形状”欄に基づき，113.27～117.32m，短柱～柱状と記載。 ・記事No.156，157に基づき，一部割れ目沿いに砂～片状化しているとまとめ書き。

H27-B-3

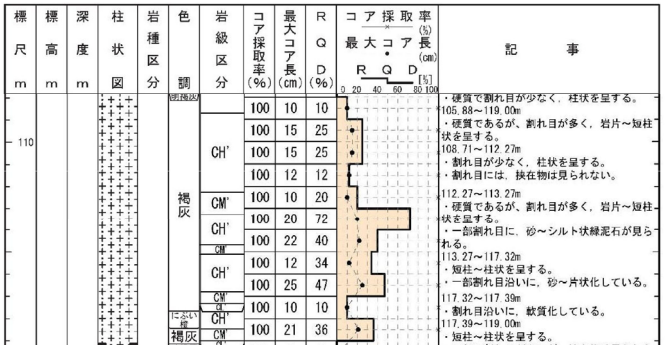
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
154	113.27～114.68m：CH 堅硬，塊状。 割れ目は少ないが70～80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。
155	114.24m　80°ゆ着割れ目ぞいにφ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化，粘土化などの劣化は伴なわない。
156	114.68～115.12m：CM 70～80°割れ目が多く，このうち，114.89～115.12m間は上端厚さ5m/m，下端30m/mで砂状化～片状化する。

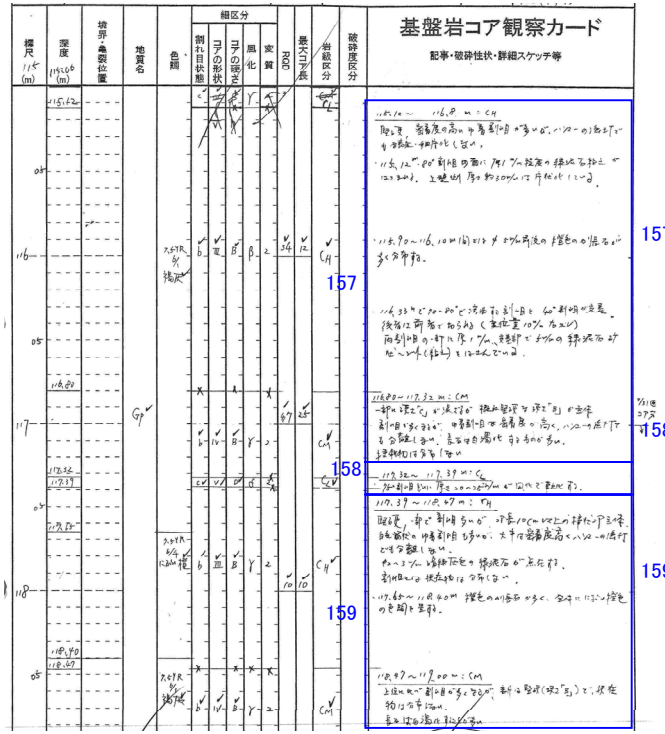
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
154	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
155	・割れ目沿いの鉱物晶出については，補足的なものであるため削除。
156	・割れ目の変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化や片状化がみられるが，記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。

H27-B-3

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

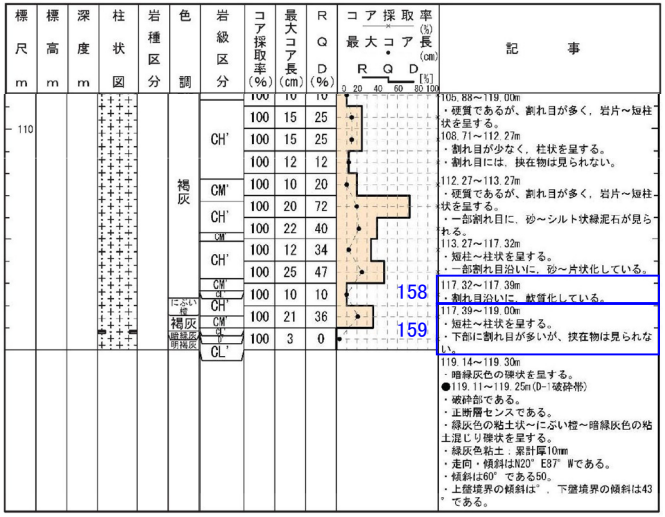
115.12～116.8m：CH
堅硬，密着度の高いゆ着割れ目が多いが，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
115.12m　80°割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。
上盤側厚さ約30m/mは片状化している。
115.90～116.10m間ではφ5m/m前後の橙色のカリ長石が多く分布する。
116.33m で70～80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。
後者は前者で切られる（変位量10m/m右ズレ）
両割れ目の一部に厚1m/m，交差部で5m/mの緑泥石砂状～シルト（粒土）をはさんでいる。
116.80～117.32m：CM
一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。
割れ目が多くなるがゆ着割れ目は密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。
長石は白濁化するものが多い。
挟雑物は分布しない。

117.32～117.39m：CL
75°割れ目ぞいに厚さ20～25m/mが風化で軟化する。

117.39～118.47m：CH
堅硬，一部で割れ目多いがコア長10cm以上の棒状コア主体。
白色筋状のゆ着割れ目も多いが，大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。
φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。
割れ目には挟在物は分布しない。
117.65～118.40m　橙色のカリ長石が多く，全体ににぶい橙色の色調を呈する。

118.47～119.00m：CM
上位に比べ割れ目が多くなるが，岩片は堅硬（硬さ「B」）で，挟在物は分布しない。
長石は白濁化することが多い。

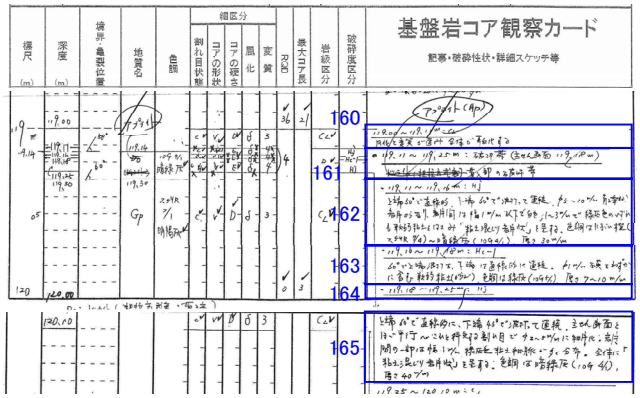
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
157	・割れ目の変色，割れ目の密着状態，鉱物の色調，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・115.12mに粘土を挟在するが，下位側の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・116.33mに砂～粘土を挟在し，割れ目が切られるとの記載があるが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化や片状化がみられるが，記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。
158	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・軟質化している区間の幅については，ばらつきがあるため削除。
159	・“コアの形状”欄に基づき，下端深度を119.00m，短柱～柱状と記載。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物の晶出，色調については，補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-3

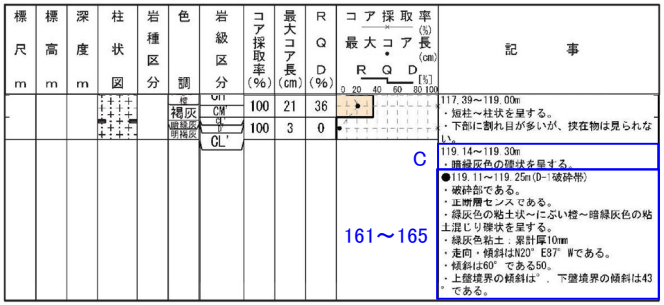
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

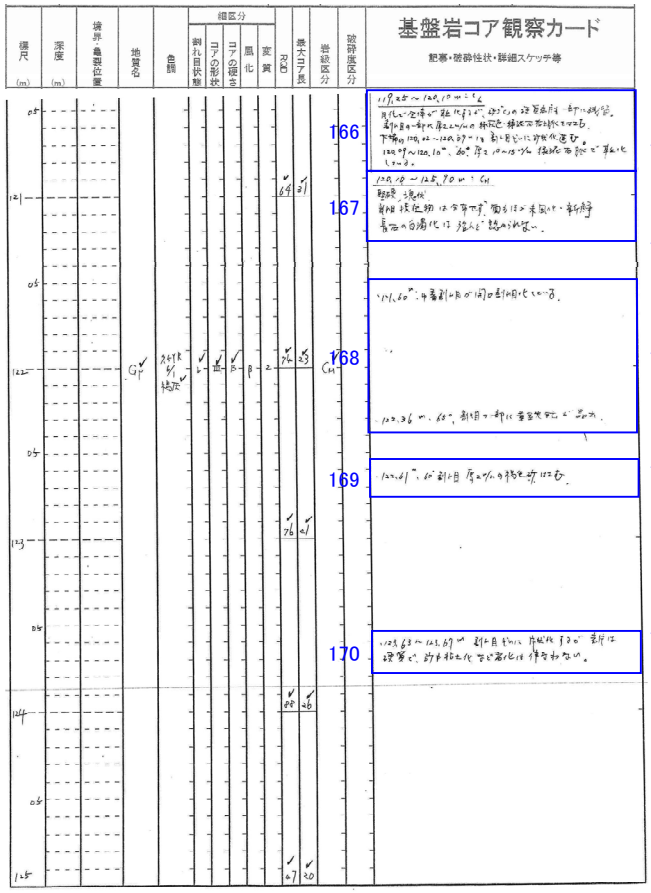
	記事内容
160	119.00～119.11m：CL 風化と変質が進み全体が軟化する。
161	●119.11～119.25m　破砕帯（主せん断面119.18m） アプライト（Ap）貫入部の破砕帯
162	119.11～119.16m：Hj 上端50°で直線的，下端60°で波打って連続。φ5～10m/m角礫状岩片からなり，岩片間は幅1m/m以下で白色，1～3m/mで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙（7.5YR7/4）～暗緑灰（10G4/1），厚さ30m/m
163	119.16～119.18m：Hc-1 60°で上端波打ち，下端は直線的に連続。φ1m/m石英をわずかに含む軟弱粘土（ガウジ）。 色調は緑灰（10G5/1），厚さ7～10m/m
164	119.18～119.25m：Hj 117～120m　コアノ箱なし。
165	上端60°で直線的に，下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行～これと斜交する割れ目でφ2～5m/mに細片化。岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は暗緑灰（10G4/1），厚さ40m/m

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
160	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
161～165	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた，最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・「傾斜は60°である50。上盤境界の傾斜は°」は，「傾斜は60°である。上盤境界の傾斜は50°」の誤り。※2 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
C	・“色調”欄に基づき，暗緑灰色と記載。 ・“コアの形状”欄及び，区間内に破砕部が分布することから，礫状とまとめ書き。

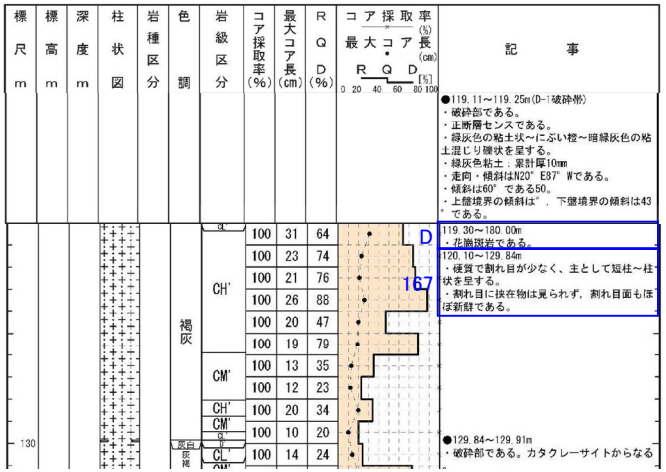
H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
166	119.25～120.10m：CL 風化で全体が軟化するが，硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09～120.10m　60°，厚さ10～15m/m緑泥石脈で軟化している。
167	120.10～125.90m：CH 堅硬，塊状。 割れ目狭在物は分布せず，面もほゞ未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。
168	121.60m　ゆ着割れ目が開口割れ目化している。 122.36m　65°　割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
169	122.61m　60°　割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。
170	123.63～123.67m　割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で，砂や粘土化など劣化は伴なわない。

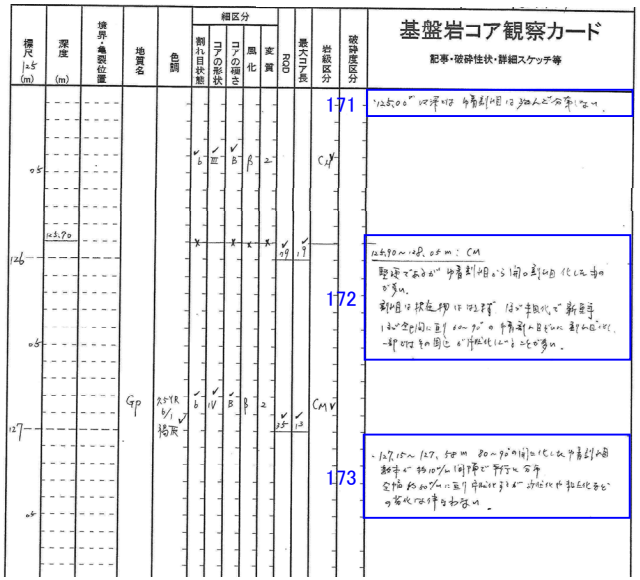
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
166	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し，粘土を挟在するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
167	・“コアの形状”欄に基づき，下端深度を129.84m，短柱～柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・長石の白濁化については，風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
168	・割れ目の密着状態・開口状況，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
169	・砂を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
D	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩及びその深度区間を記載。
170	・割れ目沿いに片状化するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-3

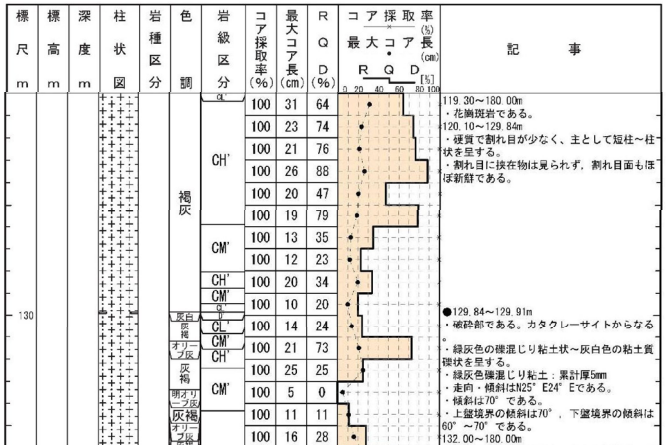
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
171	125.00m以深ではゆ着割れ目は殆んど分布しない。
172	125.90～128.05m：CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物ははさまず，ほぞ未風化で新鮮。 ほぞ全区間に亘り60～90° のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し，一部ではその周辺が片状化していることが多い。
173	127.15～127.58m　80～90° の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。 全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴なわない。

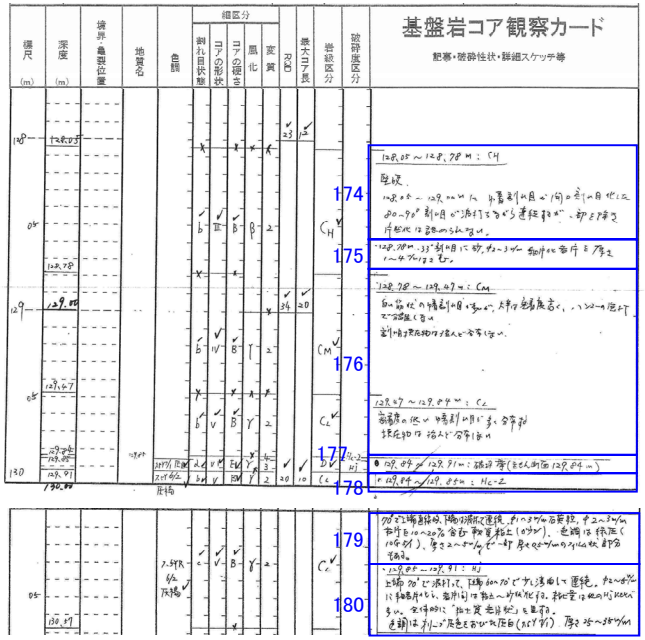
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
172	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
173	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

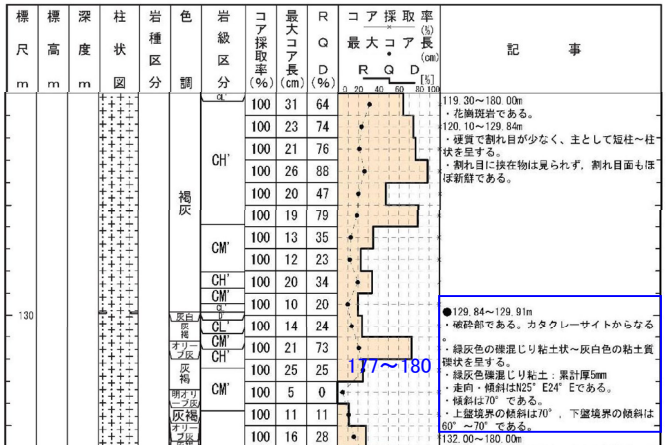
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	128.05～128.78m：CH 堅硬。
174	128.05～129.00mにゆ着割れ目か開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
175	128.78m　33°割れ目に砂，φ2～3m/m細片化岩片を厚さ1～4m/mはさむ。
	128.78～129.47m：CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが，大半は密着度高く，ハンマーの強打で分離しない。
176	割れ目挟在物は殆んど分布しない。
	129.47～129.84m：CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
177	●129.84～129.91m：破砕帯（主せん断面129.84m）
178	129.84～129.85m：Hc-2
179	70°で上端直線的，下端は波打って連続。φ1～3m/m石英粒，φ2～3m/m岩片を10～20%含む軟質粘土（ガウジ）。色調は緑灰（10G5/1），厚さ2～5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
	129.85～129.91：Hj
180	上端70°で波打って，下端60～70°で少し湾曲して連続。φ2～5m/mに細岩片化し，岩片間は粘土～砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰白（7.5Y7/1）厚さ25～35m/m

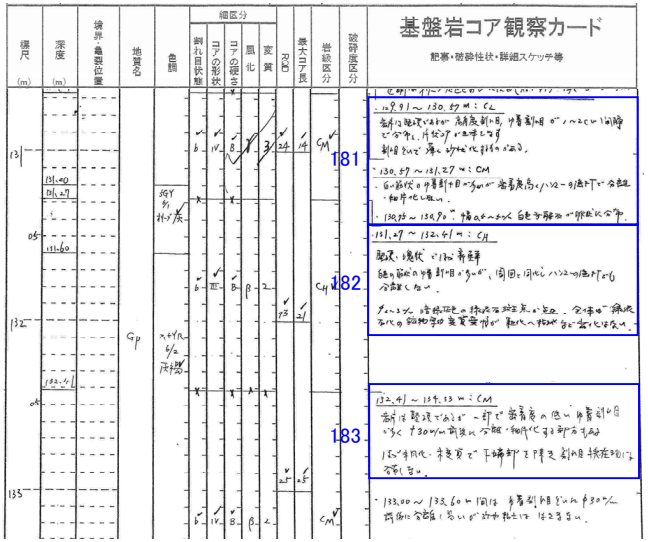
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
174	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。
175	・砂や岩片を挟在するが，連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
176	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
177～180	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し（粘土質岩片状→粘土質礫状） ・Φ1～3mm石英粒，Φ2～3mm岩片を10～20%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。

H27-B-3

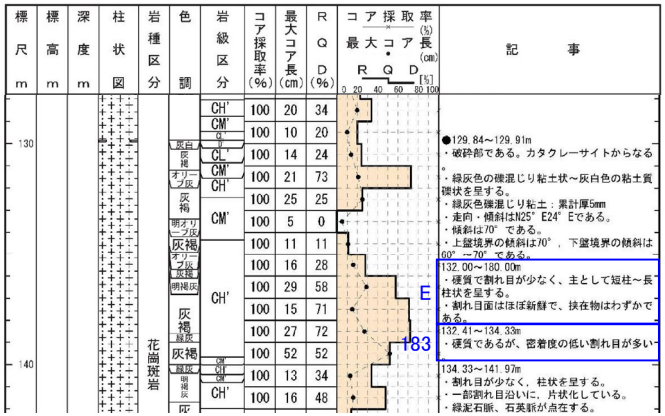
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
129.91～130.57m：CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目，ゆ着割れ目が1～2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。 割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。 130.57～131.27m：CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。 130.75～130.90m　幅0.5～5m/m白色方解石が脈状に分布。	181
131.27～132.41m：CH 堅硬・塊状でほゞ新鮮。 白色の筋状割れ目が多いが，周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質受けるが軟化～粘土化など劣化はない。	182
132.41～134.33m：CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。 ほゞ未風化・未変質で下端部を除き割れ目挟在物は分布しない。	183

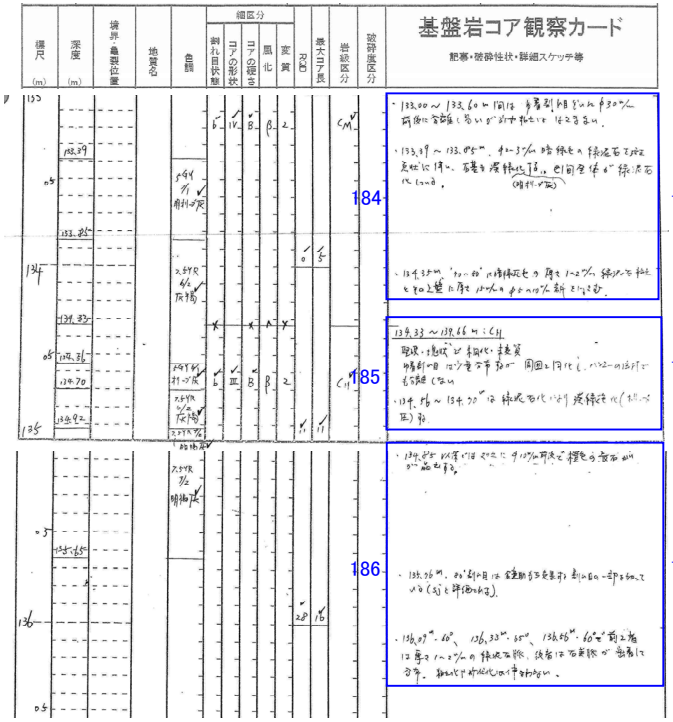
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
181	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・129.91～130.57mの一部割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
182	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
E	・“コアの形状”欄，RQDや最大コア長の傾向を踏まえ，132.00～180.00mを短柱～長柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき硬質と記載。 ・記事No.183等に基づき，割れ目面はほぼ新鮮で挟在物はわずかであるとまとめ書き。
183	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

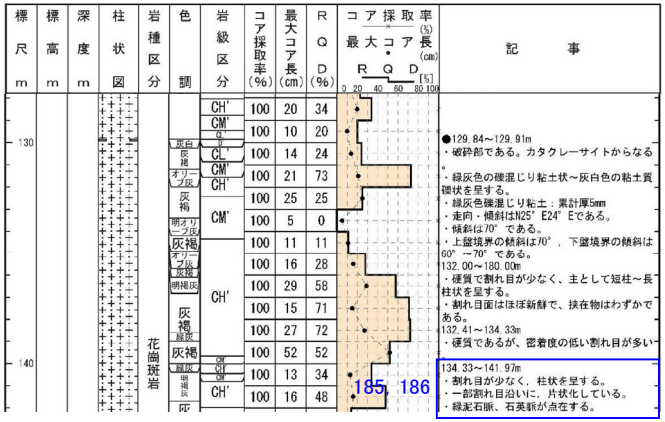
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
133.00～133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39～133.85m　φ2～3m/m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い，石基も淡緑化（明オリーブ灰）する。 区間全体が緑泥石化している。	184
134.35m　70～80°に暗緑灰色の厚さ1～2m/m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/mのφ5～10m/m岩片をはさむ。	
134.33～139.66m：CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化（オリーブ灰）する。	185
134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石ががが晶出する。	
135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている（sjと評価される）。	186
136.09m・60°，136.33m・65°，136.56m・60°で前2者は厚さ1～2m/mの緑泥石脈，後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴なわない。	

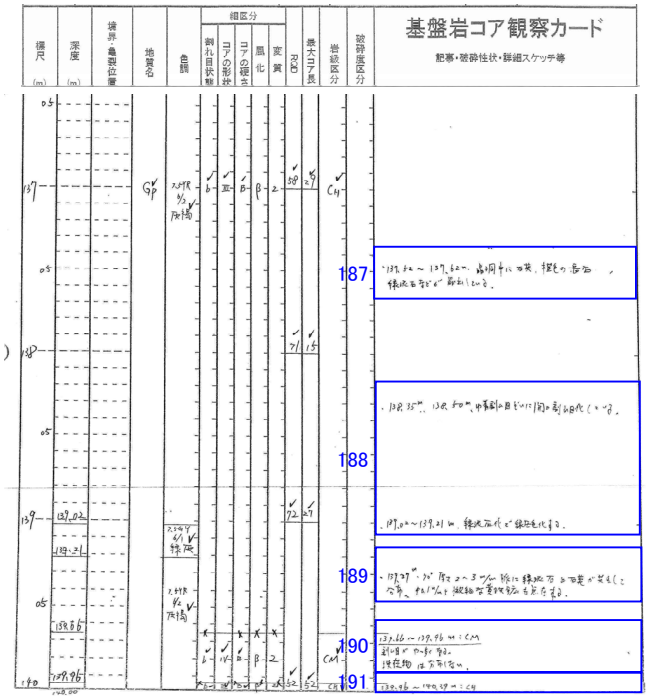
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
184	・割れ目の密着状態，挟在物の有無，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・134.35mに岩片を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
185，186	・“コアの形状”欄に基づき，下端深度を141.97m，柱状と記載。 ・記事No.191，192に基づき，一部割れ目沿いに片状と記載。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，変色については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

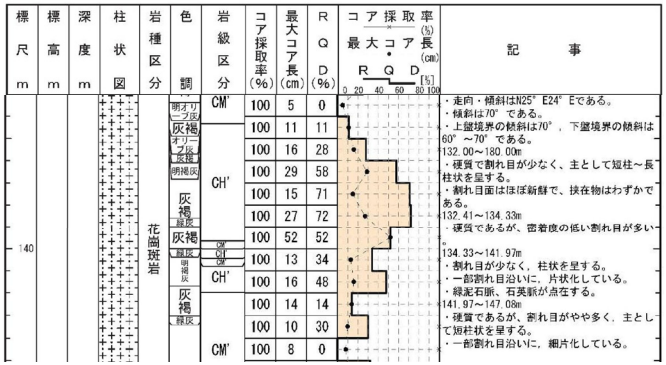
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

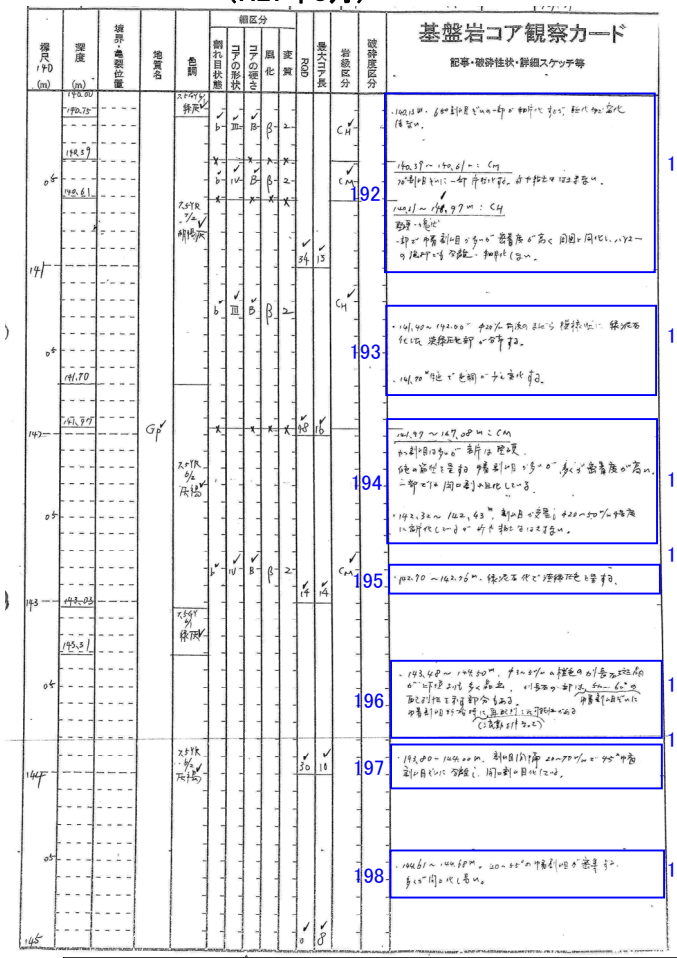
	記事内容
187	137.52～137.62m　晶洞中に石英，橙色の長石，緑泥石などが晶出している。
188	138.35m，138.50m　ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。 139.02～139.21m　緑泥石化で緑灰色化する。
189	139.37m　70°　厚さ2～3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。
190	139.66～139.96m：CM 割れ目がやゝ多くなる。 挟在物は分布しない。
191	139.96～140.39m：CH

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
187	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
188	・割れ目の密着状態・開口状況，鉱物の晶出，変色については，補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
190	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
191	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。

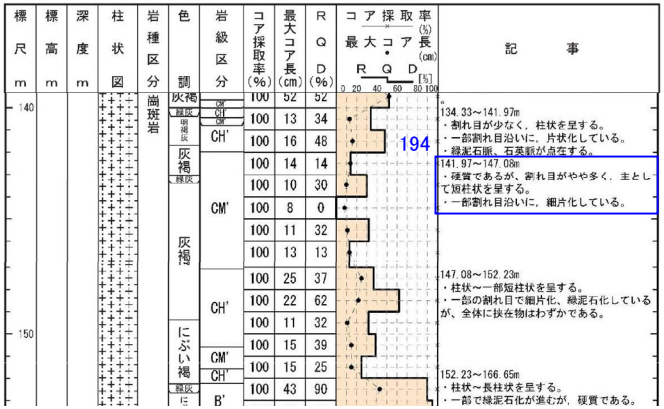
H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
192	140.13m　65°　割れ目ぞいの一部が細片化するが，軟化など劣化はない。 140.39～140.61m：CM 70°　割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。 140.61～141.97m：CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
193	141.40～142.00m　φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
194	141.97～147.08m：CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが，多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。 142.32～142.43m　割れ目が交差しφ20～50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
195	142.70～142.76m　緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
196	143.48～144.50m　φ3～5m/mの橙色のカリ長石斑晶が上下位よりも多く晶出。 カリ長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50～60°の配列性を示す部分もある。 ゆ着割れ目形成時に（流動を伴って）再配列した可能性がある。
197	143.80～144.00m　割れ目間隔20～70m/mで45°　ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。
198	144.61～144.68m　40～55°　のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。

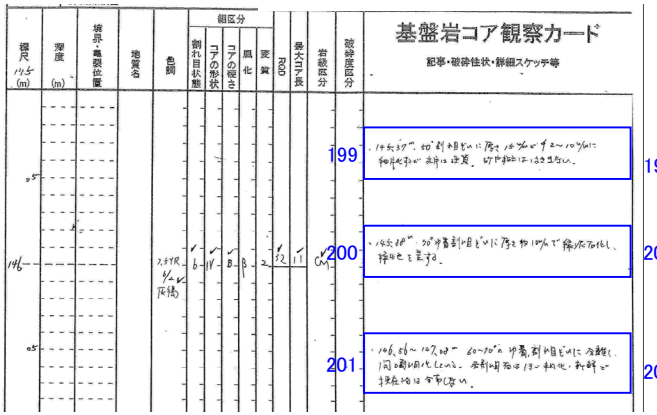
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
192	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目沿いの細片化については，記事No.185，186でまとめ書きしていることから削除。 ・挟在物の有無，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
193	・鉱物の晶出，色調については，補足的なものであるため削除。
194	・岩級については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬質，短柱状と記載。 ・表現の見直し（岩片化→細片状を呈する） ・割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
195	・鉱物の晶出，色調については，補足的なものであるため削除。
196	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
197	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。
198	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

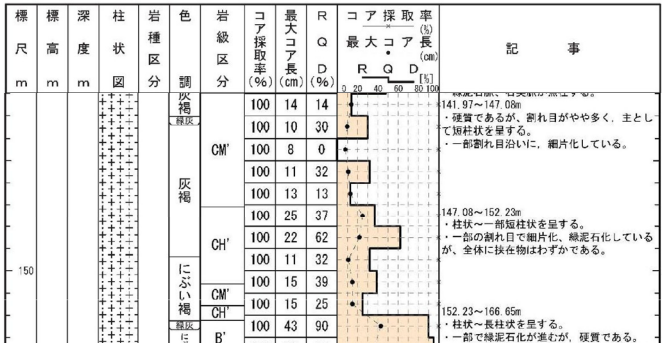
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
199	145.37m　50°割れ目ぞいに厚さ15m/mがφ2～10m/mに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土ははさまない。
200	145.88m　70°ゆ着割れ目ぞいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。
201	146.56～147.08m　60～70°のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。

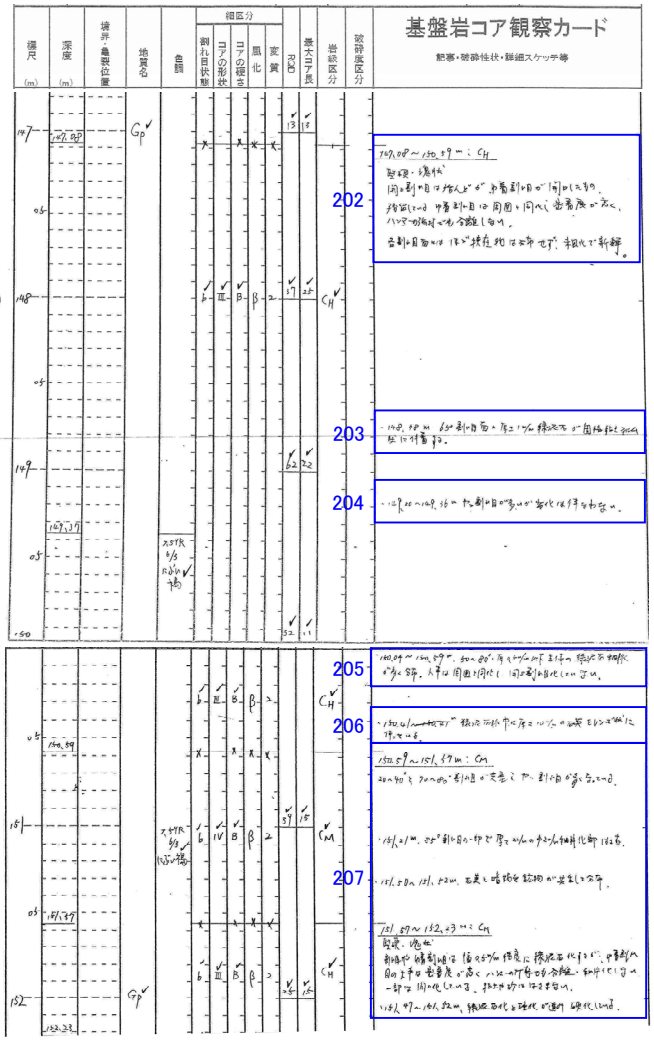
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
199	・割れ目沿いに細片化するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
200	・割れ目の密着状態，割れ目沿いの鉱物の晶出，変色については，補足的なものであるため削除。
201	・割れ目の密着状態・開口状況，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

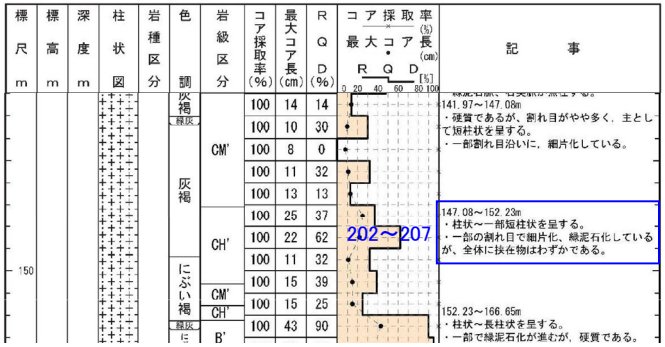
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
147.08～150.59m：CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほゞ挟在物は分布せず，未風化で新鮮。	202
148.78m　65°割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	203
149.20～149.36m　やゝ割れ目が多いが劣化は伴なわない。	204
150.04～150.59m　50～80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	205
150.41m　緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。	206
150.59～151.57m：CM 20～40°と70～80°割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。 151.21m　85°割れ目の一部で厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。 151.50～151.52m　石英と暗褐色鉱物が共生して分布。 151.57～152.23m：CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが，ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。 151.47～151.52m　緑泥石化と珪化が進み硬化している。	207

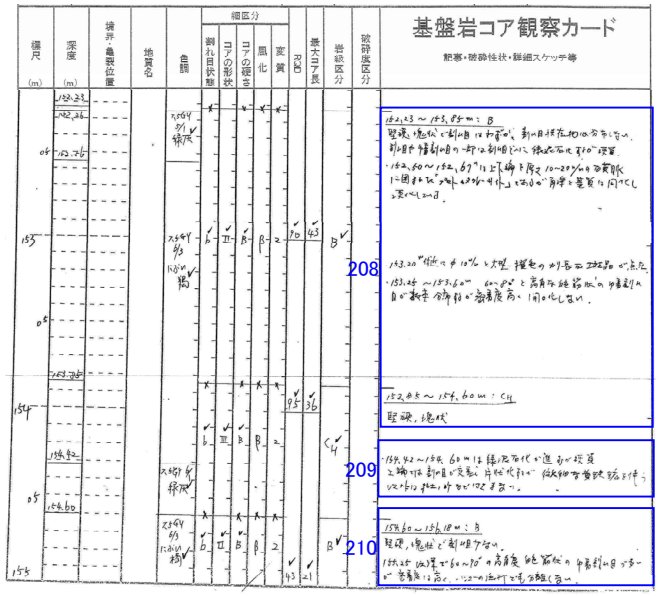
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
202～207	・割れ目の発達の程度について，“コアの形状”欄に基づき，柱状～一部短柱状と記載。 ・割れ目沿いの細片化についてまとめ書き。 ・割れ目沿いの緑泥石化についてまとめ書き。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況，石英の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・148.78mに粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-3

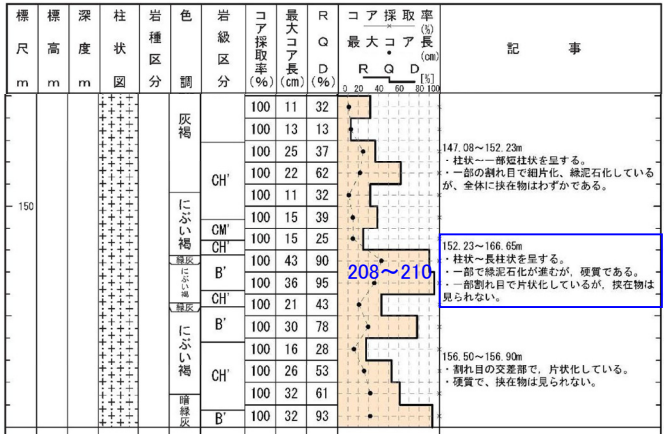
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
208	152.23～153.85m：B 堅硬，塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。 152.50～152.67mは上下端を厚さ10～20m/mの石英脈に囲まれた「プロトカタクレーサイト」であるが，角礫と基質は同化し硬化している。 153.20m付近にφ10m/mと大型・橙色のカリ長石斑晶が点在。 153.25～153.60m　60～80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。 153.85～154.60m：CH 堅硬，塊状
209	154.42～154.60mは緑泥石化が進むが硬質。 上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土，砂などはさまない。
210	154.60～156.18m：B 堅硬，塊状で割れ目少ない。 155.25以深で60～90°の高角度白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。

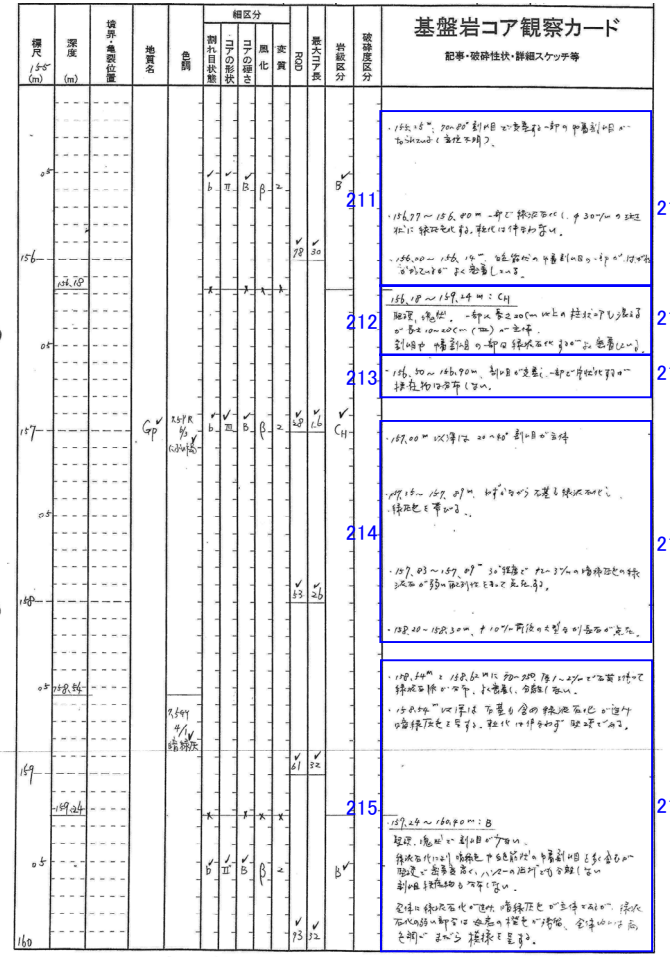
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
208～210	・“コアの形状”欄に基づき，下端深度を166.65m，柱状～長柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・緑泥石化，割れ目沿いの片状化，挟在物の有無についてまとめ書き。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・152.50～152.67mにプロトカタクレーサイトとの記載があるが，岩盤の劣化が認められず，区間内の岩片やそれを取り巻く石英脈に系統的な配列も認められないことから，破砕部ではなく熱水の注入により生じたものと判断し削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況，黄鉄鉱の晶出，変色，割れ目の傾斜，石英の挟在については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

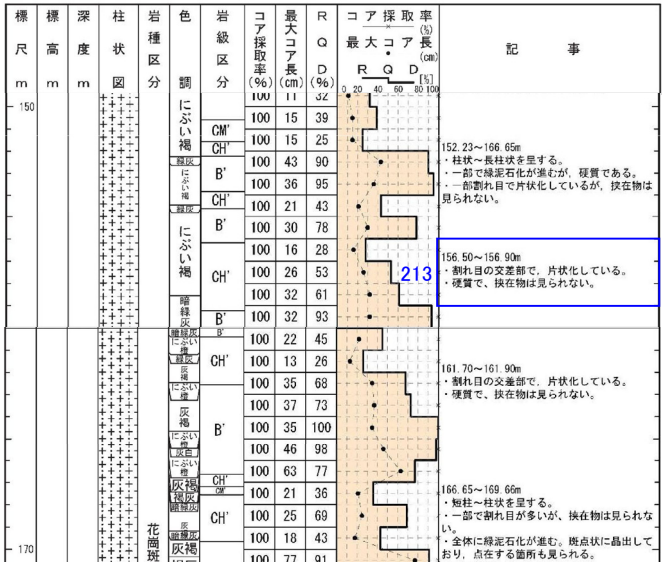
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
211	155.25m　70～80°割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が切られている（変位不明）。 156.77～156.80m　一部で緑泥石化しφ30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴なわない。 156.00～156.14m　白色筋状のゆ着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。
212	156.18～159.24m：CH 堅硬，塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10～20cm（Ⅲ）が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。
213	156.50～156.90m　割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。
214	157.00m以深は20～40°割れ目が主体。 157.35～157.89m　わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83～157.89m　30°程度でφ2～3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20～158.30m　φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。
215	158.54mと158.62mに70～75°厚1～2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴なわず堅硬である。 159.24～160.40m：B 堅硬，塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く，ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが，緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留，全体的には色調がまだら模様を呈する。

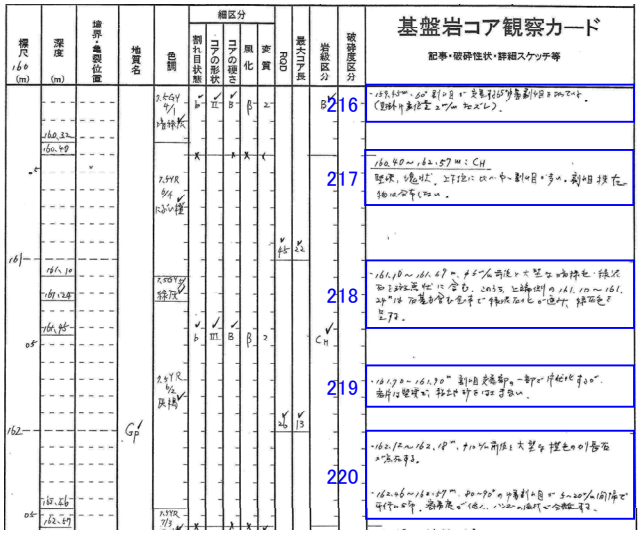
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
211	・155.25mで割れ目が切られているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・緑泥石化については，記事No.208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着の程度については，補足的なものであるため削除。
212	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，緑泥石化，割れ目の密着状態については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。
213	・変更なし
214	・割れ目の傾斜，色調については，補足的なものであるため削除。 ・緑泥石化については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
215	・緑泥石化，割れ目の密着状態，硬軟，割れ目の発達の程度，挟在物の有無については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・石英の晶出，色調については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

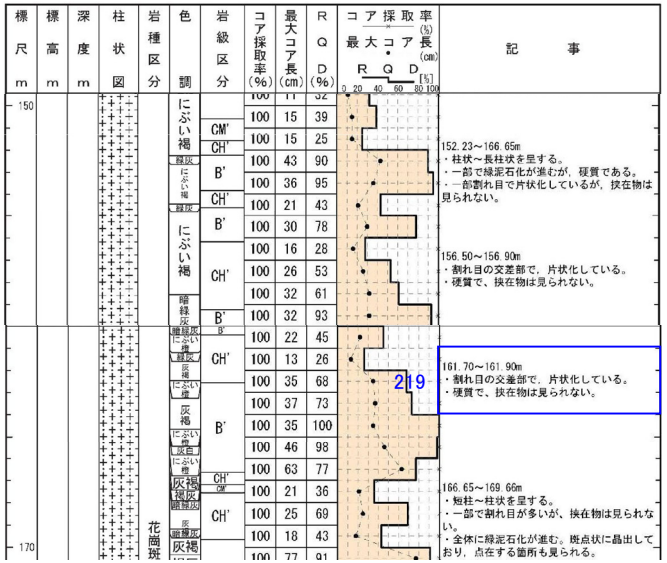
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
216	159.45m　60°割れ目が交差する65°ゆ着割れ目を切っている。 （見掛け変位量2m/m左ズレ）
217	160.40～162.57m：CH 堅硬，塊状。上下位に比べやゝ割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。
218	161.10～161.69m　φ5m/m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち，上端側の161.10～161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み，緑灰色を呈する。
219	161.70～161.90m　割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で，粘土や砂をはさまない。
220	162.12～162.18m　φ10m/m前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。 162.46～162.57m　80～90°のゆ着割れ目が5～20m/m間隔で平行に分布。 密着度が低く，ハンマーの強打で分離する。

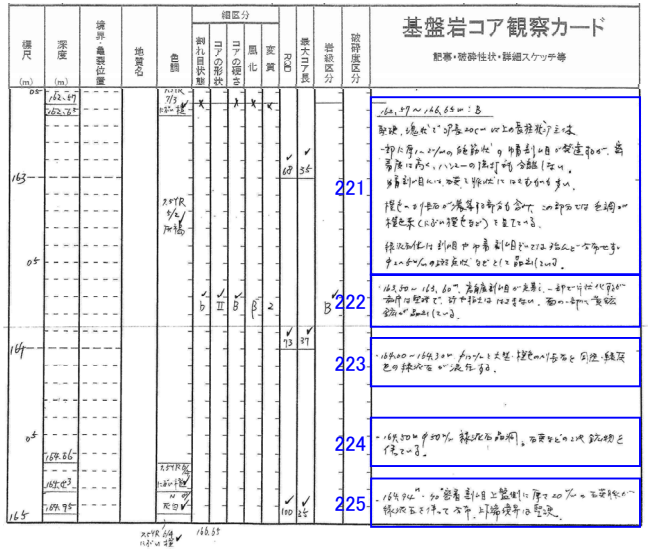
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
216	・159.45mで割れ目を切っているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
217	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，挟在物の有無については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。
218	・緑泥石化については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
219	・表現の見直し（粘土や砂をはさまない→挟在物はみられない）
220	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

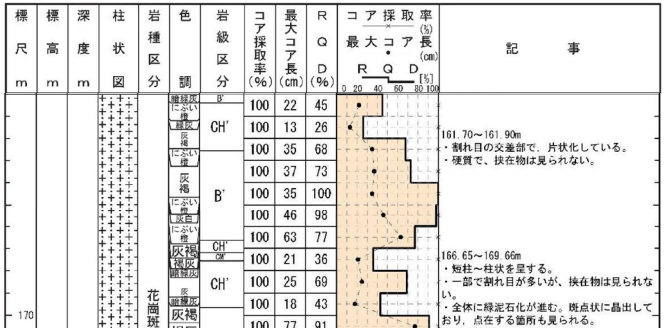
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
221	162.57～166.65m：B 堅硬，塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1～2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み，この部分では色調が橙色系（にぶい橙色など）を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2～5m/mの斑点状などとして晶出している。
222	163.50～163.60m　高角度割れ目が交差し，一部で片状化するが岩片は堅硬で，砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉱鉱が晶出している。
223	164.00～164.30m　φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。
224	164.50m　φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。
225	164.94m　70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。

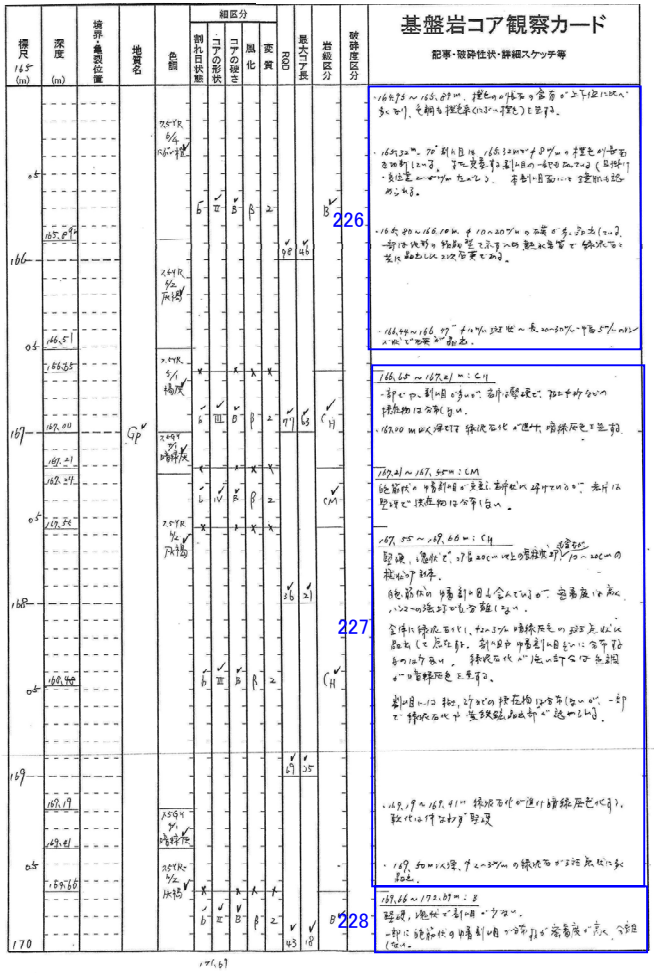
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
221	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，緑泥石化については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
222	・片状化，硬軟，挟在物の有無については，記事No. 208～210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜，黄鉄鉱の晶出については，補足的なものであるため削除。
223	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
224	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
225	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

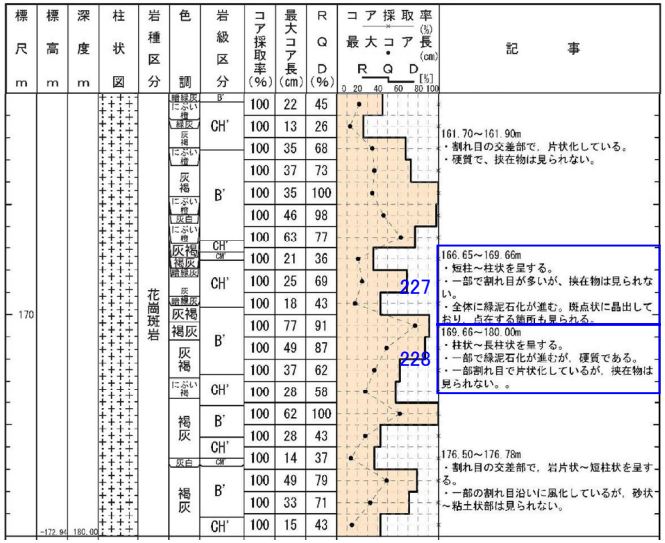
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
164.95～165.89m　橙色のカリ長石の含有が上下位に比べ多くなり，色調も橙色系（にぶい橙色）を呈する。 165.32m　70°　割れ目は165.32mでφ8m/mの橙色カリ長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている（見掛け変位量2～5m/m左ズレ）。本割れ目面には鏡肌も認められる。 165.80～166.10m　φ10～20m/mの石英が多く晶出している。一部は地形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。 166.44～166.47m　φ10m/m斑状～長20～30m/m・幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。	226
166.65～167.21m：CH 一部でやゝ割れ目が多いが，岩片は堅硬で，粘土や砂などの挟在物は分布しない。 167.00m以深では緑泥石化が進み，暗緑灰色を呈する。 167.21～167.55m：CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。 167.55～169.66m：CH 堅硬，塊状で，コア長20cm以上の長柱状コアも含むが，10～20cmの柱状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し，φ2～3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土，砂などの挟在物は分布しないが，一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。 169.19～169.41m　緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟化は伴なわず堅硬。 169.50m以深，φ2～3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。	227
169.66～172.69m：B 堅硬，塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く，分離しない。	228

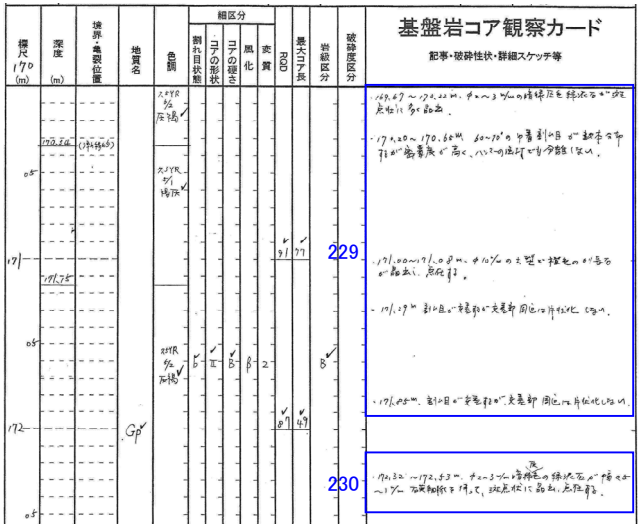
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
226	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・165.32mで割れ目の一部も切っているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
227	・“コアの形状”欄に基づき，短柱～柱状と記載。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・色調，割れ目の密着状態，黄鉄鉱の晶出については，補足的なものであるため削除。
228	・孔底までの割れ目の発達の程度，硬軟をまとめ書き。 ・“コアの形状”欄に基づき，柱状～長柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・記事No.230，No.232，No.238等に基づき，緑泥石化，割れ目沿いの片状化，挟在物の有無についてまとめ書き。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

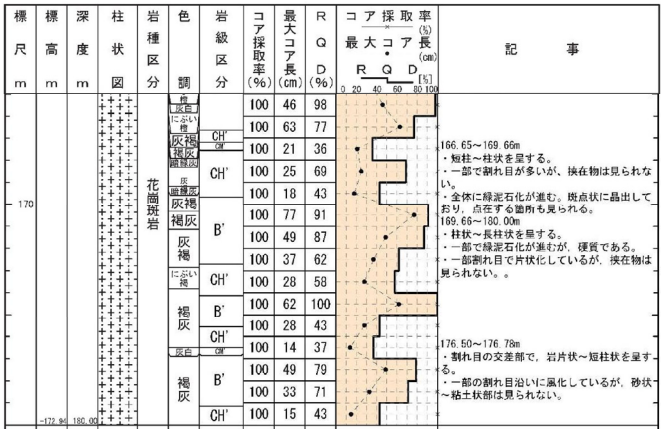
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
229	169.67～170.22m　φ2～3m/mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。 170.20～170.65m　60～70°のゆ着割れ目が数本分布するが密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。 171.00～171.08m　φ10m/mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m　割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。 171.85m　割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
230	172.32～172.53m　φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5～1m/m石英細脈を伴って，斑点状に晶出，点在する。

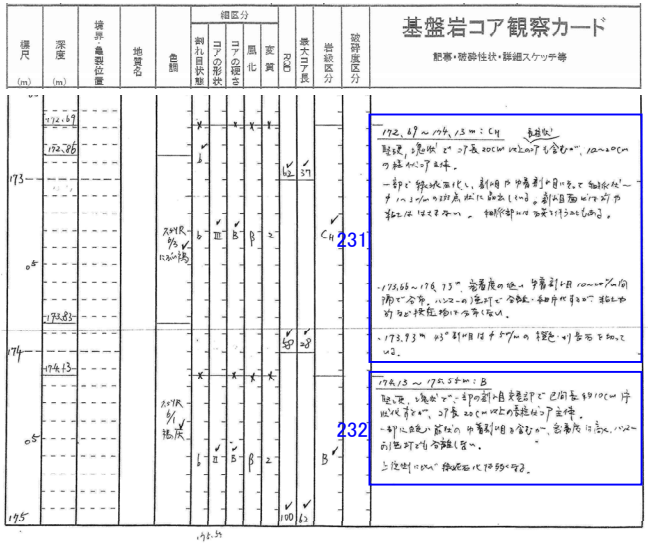
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
229	・緑泥石化，割れ目沿いの片状化については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
230	・緑泥石化については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-3

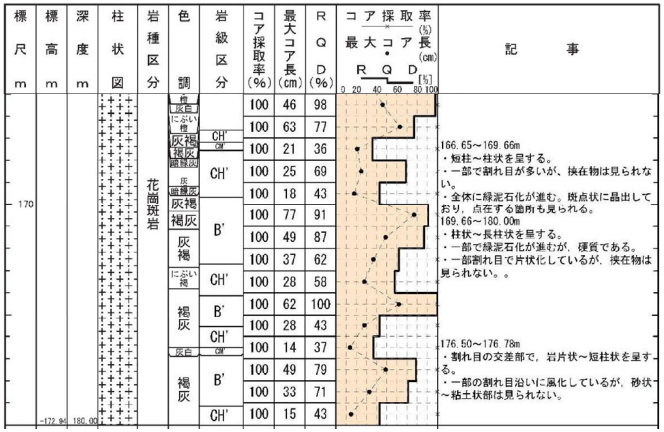
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

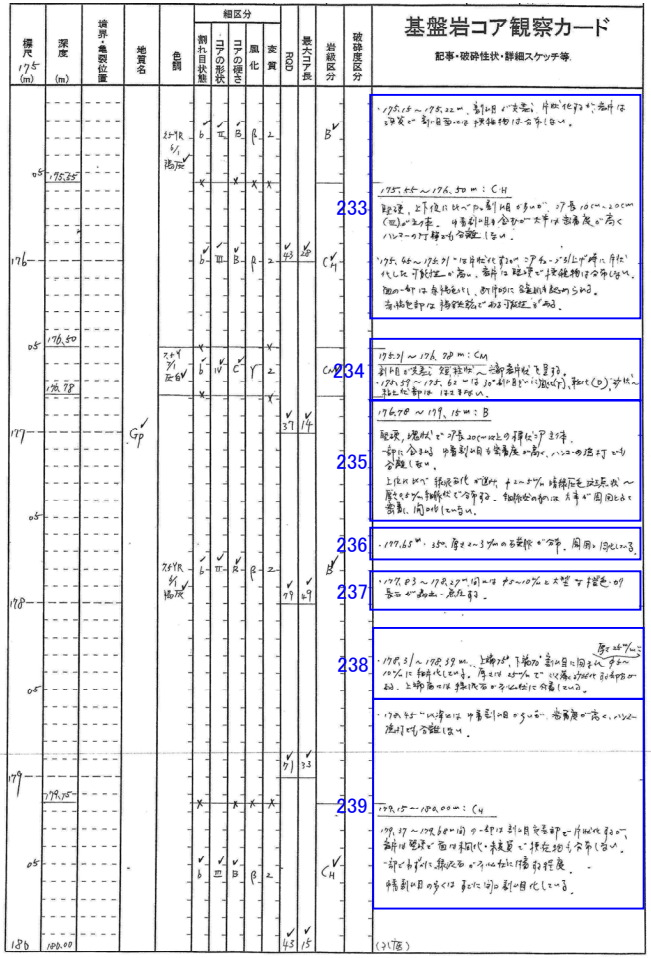
記事内容	
172.69～174.13m：CH 堅硬，塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10～20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し，割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状～φ1～3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66～176.73m　密着度の低いゆ着割れ目10～20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m　43°　割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。	231
174.13～175.55m：B 堅硬，塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが，コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	232

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
231	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，緑泥石化，挟在物の有無については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態，石英の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・173.93mでカリ長石を切っているとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
232	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，緑泥石化については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。

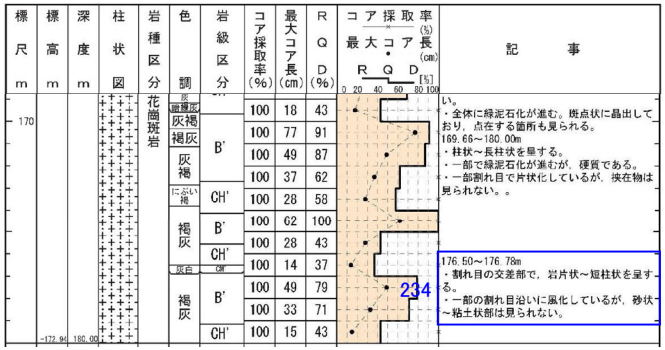
H27-B-3 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
233	175.15～175.22m　割れ目が交差し片状化するが，岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55～176.50m：CH 堅硬，上下位に比べゃ↘割れ目が多いがコア長10cm～20cm（Ⅲ）が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45～175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し，断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
234	175.71～176.78m：CM 割れ目が交差し短柱状～一部岩片状を呈する。 175.59～175.62mは30°　割れ目ぞいに風化（γ），軟化（D），砂状～粘土状部ははさまない。
235	176.78～179.15m：B 堅硬，塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み，φ2～5m/m暗緑灰色斑点状～厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し，開口化していない。
236	177.65m　35°　厚さ2～3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
237	177.83～178.27m　間にはφ5～10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。
238	178.31～178.39m　上端75°，下端70°　割れ目に囲まれ厚さ25m/m，φ5～10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
239	178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。 179.15～180.00m：CH 179.37～179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが，岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
233	・片状化，挟在物の有無，硬軟，割れ目の発達の程度については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態，褐鉄鉱については，補足的なものであるため削除。 ・175.45～175.71mで断片的に鏡肌も認められるとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
234	・岩級及びその区間については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
235	・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟，割れ目の発達の程度，緑泥石化については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。
236	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
237	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
238	・割れ目沿いの細片化については，記事No.228でまとめ書きしてることから削除。
239	・割れ目の密着状態・開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については，“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・片状化，挟在物の有無，緑泥石については，記事No.228でまとめ書きしていることから削除。

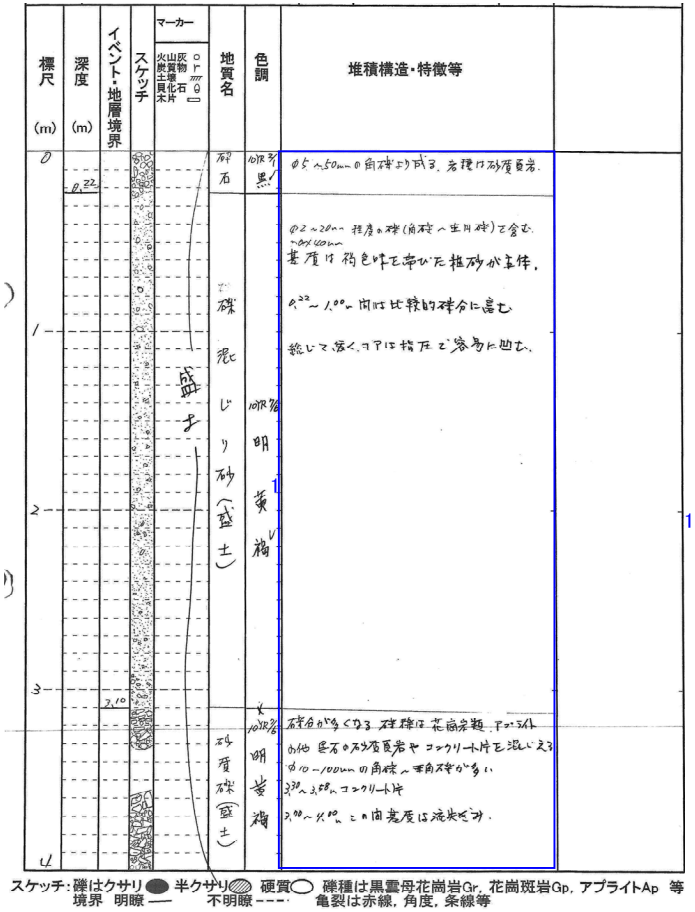
余白

H27-B-4

余白

H27-B-4

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

φ5～50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。

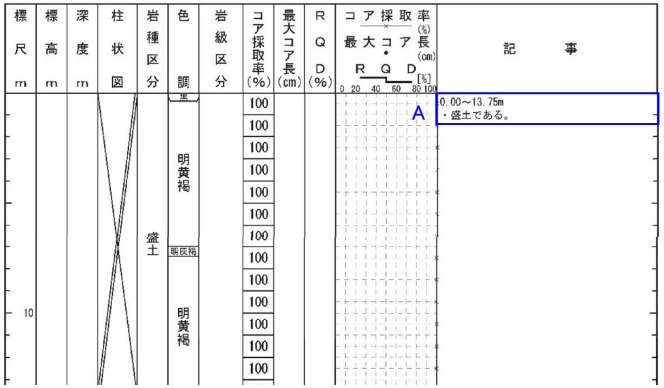
φ2～20mm程度の礫（角礫～亜円礫）を含む。
max40mm
基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。

0.22～1.00m間は比較的礫分に富む

総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。

礫分が多くなる礫様は花崗岩類、アプライトの他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる
φ10～100mmの角礫～亜角礫が多い
3.30～3.58m　コンクリート片
3.70～4.00m　この間基質は流失ぎみ。

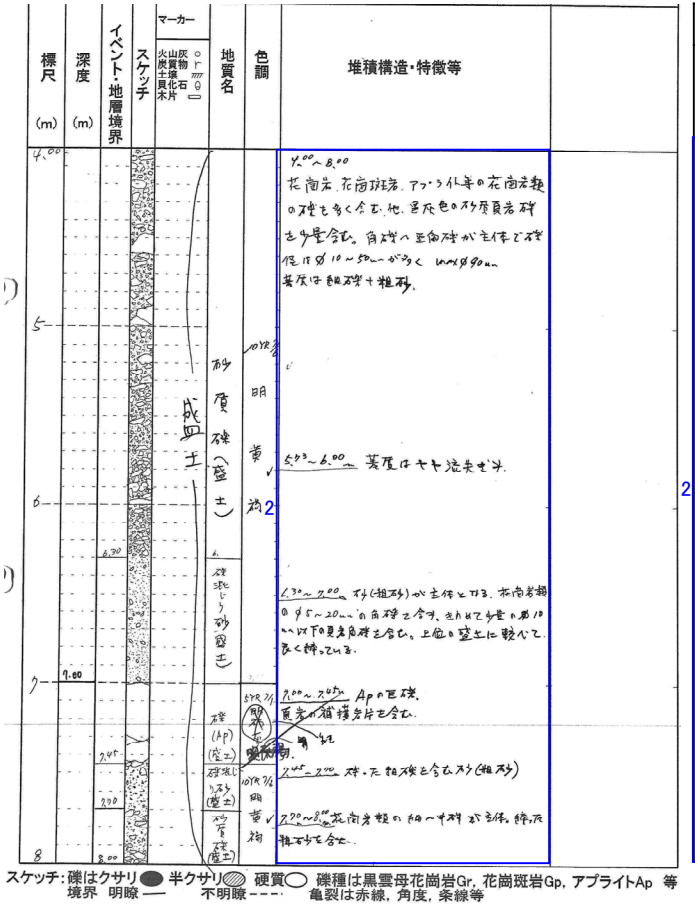
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A,1	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-4

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

4.00～8.00
花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫～亜角礫が主体で礫径はφ10～50mmが多く
maxφ90mm
基質は細礫＋粗砂

5.73～6.00m 基質はやや流失ぎみ。

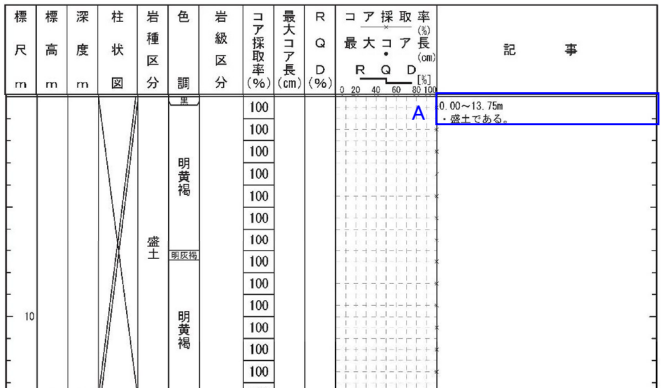
6.30～7.00m 砂（粗砂）が主体となる。花崗岩類のφ5～20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。

7.00～7.45m Apの巨礫。
頁岩の補獲岩片を含む。

7.45～7.70m 礫った細礫を含む砂（粗砂）

7.70～8.00m 花崗岩類の細～中礫が主体。締った粗砂を含む。

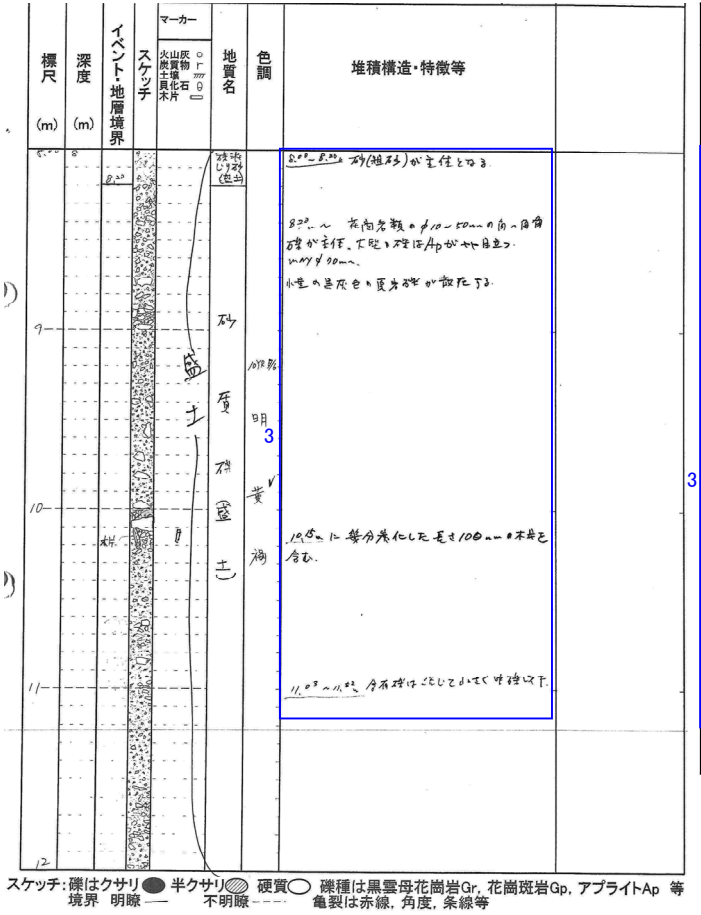
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A,2	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-4

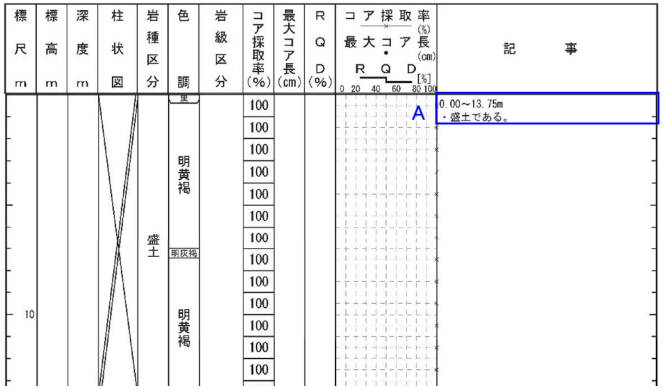
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
8.00～8.20m　砂（粗砂）が主体となる 8.20m～　花崗岩類のφ10～50mmの角～角角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。 maxφ70mm 小量の黒灰色の頁岩礫が散在する。 10.15mに幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。 11.03～11.52m　含有礫は総じて小さく中礫以下。

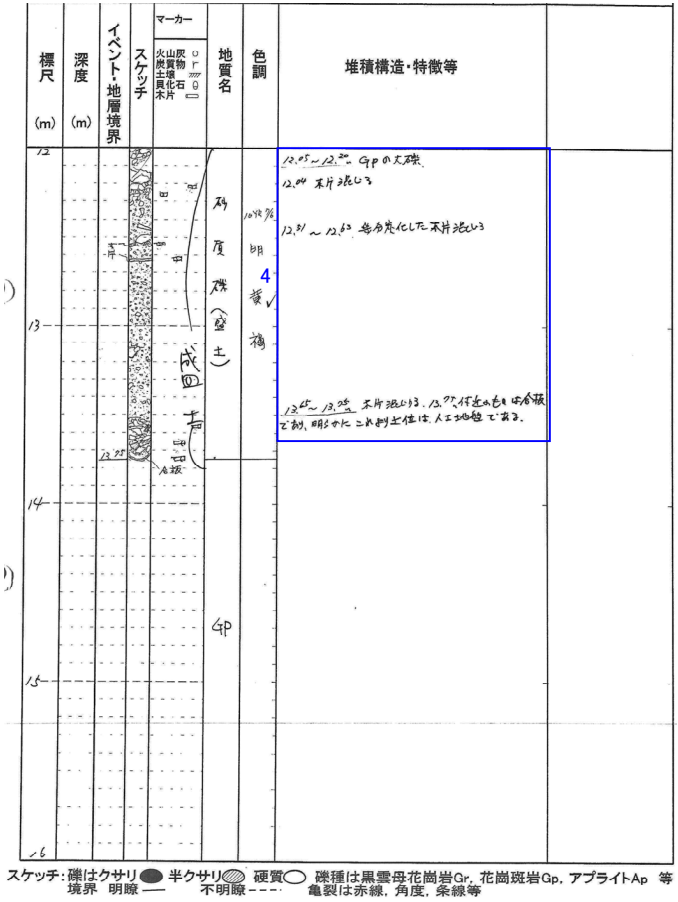
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A,3	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-4

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

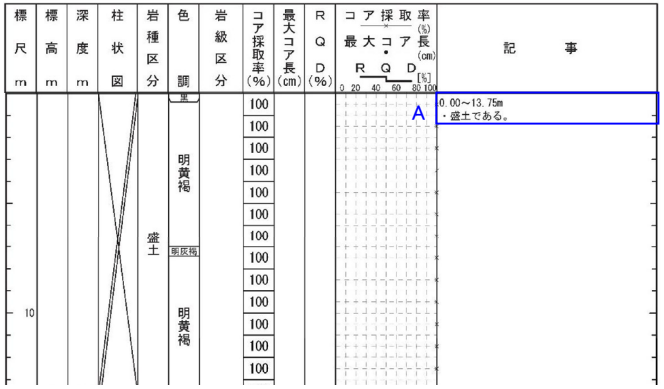
12.05～12.20m Gpの大礫。
12.04 木片混じる

12.51～12.63 幾分炭化した木片混じる

4

13.65～13.75m 木片混じりる。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。

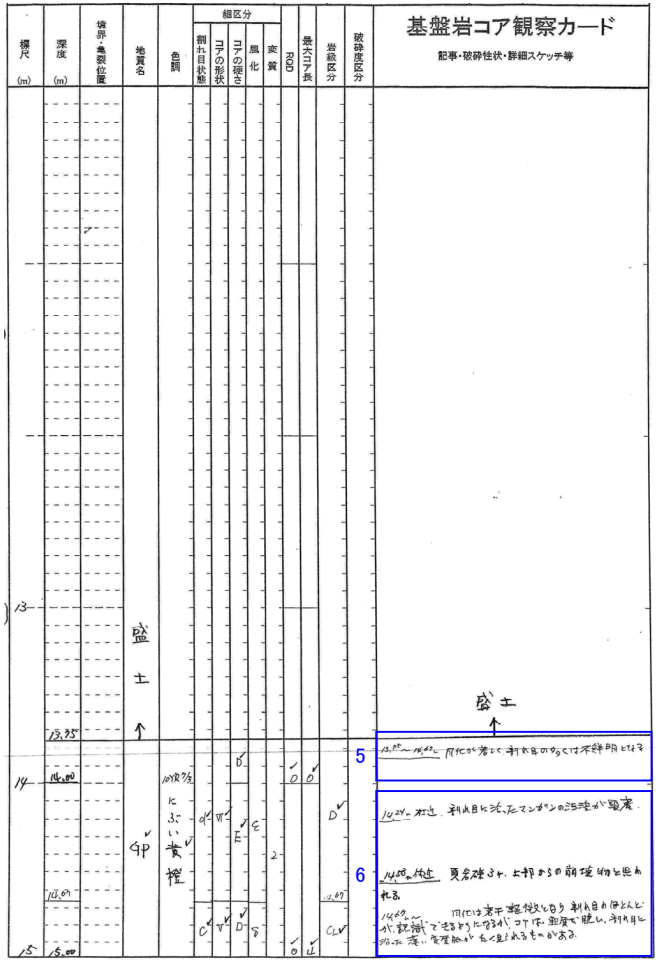
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
A,4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-4

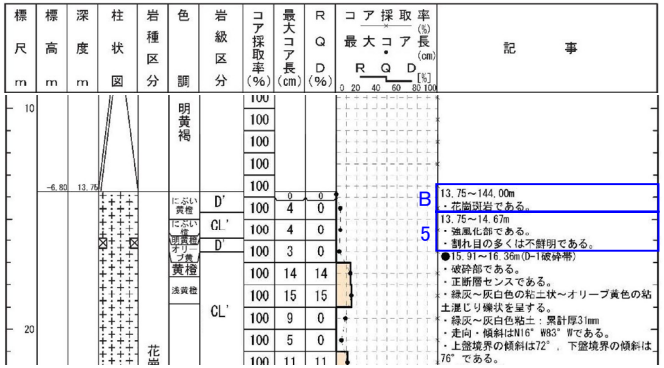
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
13.75～14.67m　風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	5
14.24m付近　割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著 14.53m付近　頁岩礫3ケ。上部からの崩壊物と思われる 14.67m～　風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	6

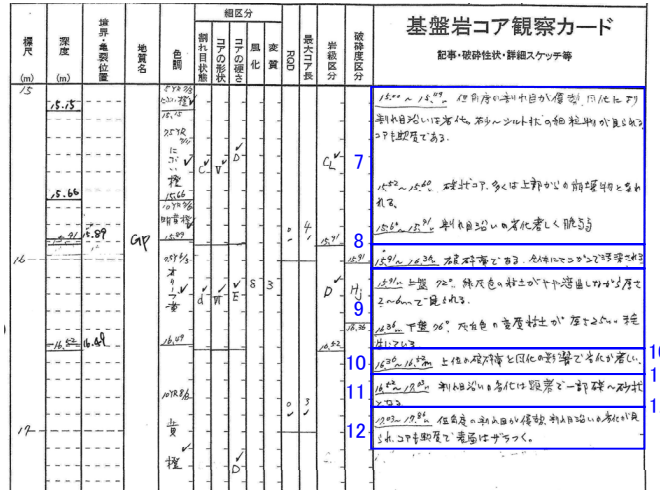
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
B	・“地質名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。
5	・“風化”欄に基づき，強風化部と記載。
6	・マンガン汚染，変質脈については，補足的なものであるため削除。 ・14.53mの頁岩礫については，掘削時の孔壁崩壊により混入したものと判断し削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

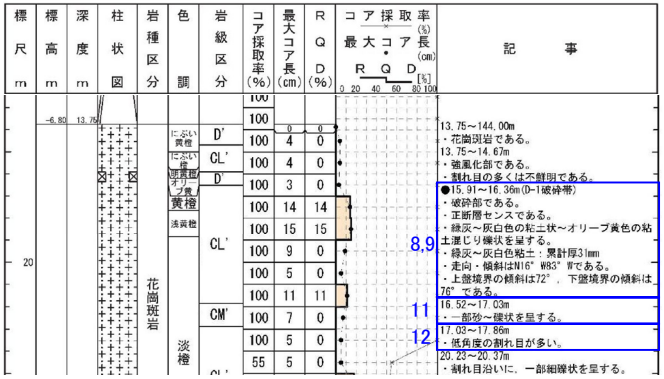
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
7	15.00～15.49m　低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂～シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。 15.52～15.60m　礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。 15.60～15.91m　割れ目沿いの劣化が著しく脆弱
8	15.91～16.36m　破砕帯である。全体にマンガンで汚染される
9	15.91m　上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2～6mmで見られる。 16.36m　下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。
10	16.36～16.52m　上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。
11	16.52～17.03m　割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫～砂状となる
12	17.03～17.86m　低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。

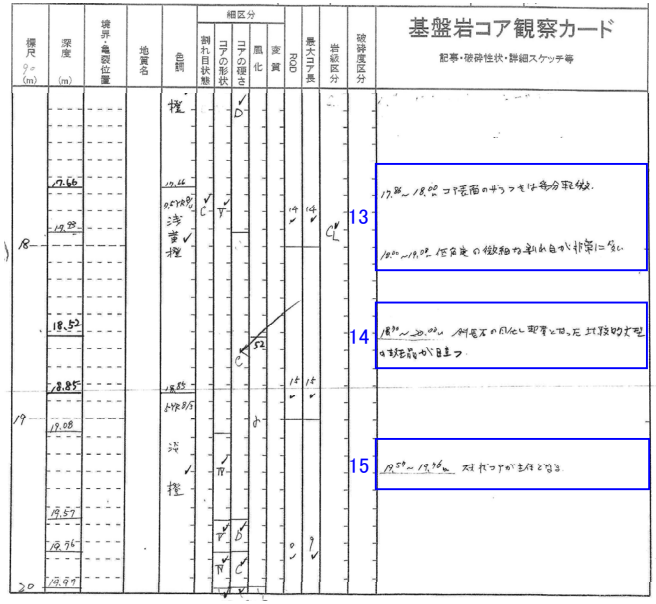
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
7	・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・15.00～15.49mの割れ目沿いに砂～シルト状の細粒物を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・15.52～15.60mで礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
8，9	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・“色調”欄に基づき，オリーブ黄色と記載。 ・“破砕度区分”欄に基づき，粘土混じり礫状と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値の合計を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
10	・劣化が著しいが，劣化に系統性が認められないことから削除。
11	・変更なし
12	・割れ目沿いの劣化については，当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないため削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

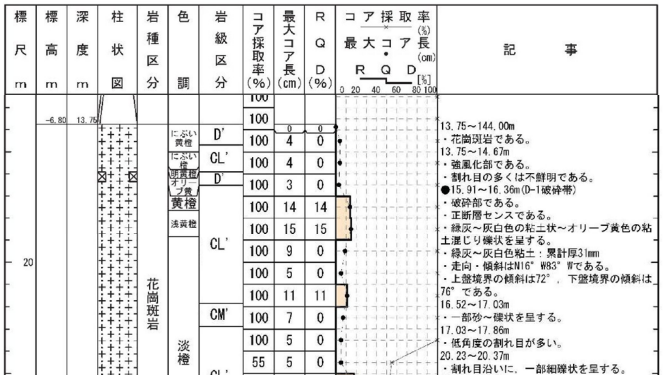
13 17.86～18.00m　コア表面のザラつきは幾分軽微。

13 18.00～19.08m　低角度の微細な割れ目が非常に多い

14 18.70～20.00m　斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ

15 19.57～19.76m　礫状コアが主体となる

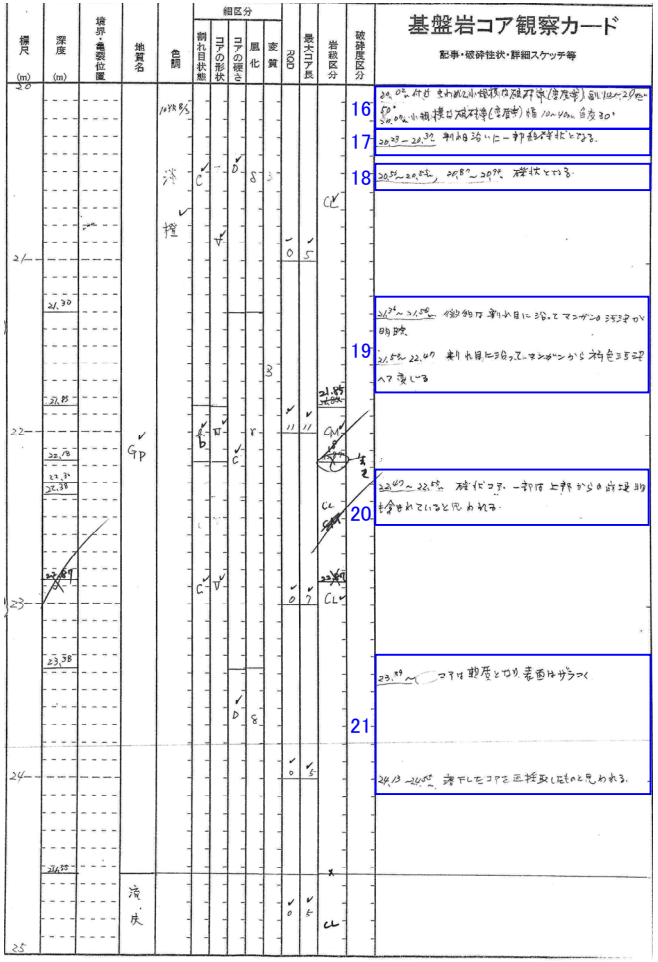
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
13	・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
14	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
15	・19.57～19.76mで礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-4

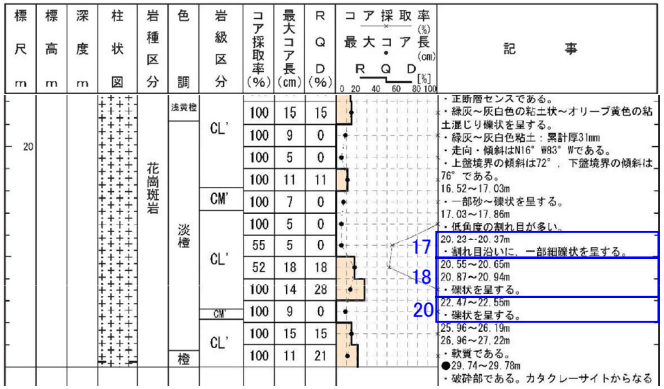
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
16	20.02m付近　きわめて小規模な破砕帯（変質帯）副10～20mm 50° 20.07m　小規模な破砕帯（変質帯）幅10～40mm角度30°
17	20.23～20.37m　割れ目沿いに一部細礫状となる。
18	20.56～20.55m，20.87～20.94m　礫状となる。
19	21.36～21.50m　微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭 21.50～22.47　割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
20	22.47～22.55m　礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
21	23.39～　コアは軟質となり、表面はザラつく 24.13～24.55m　落下したコアを再採取したものと思われる。

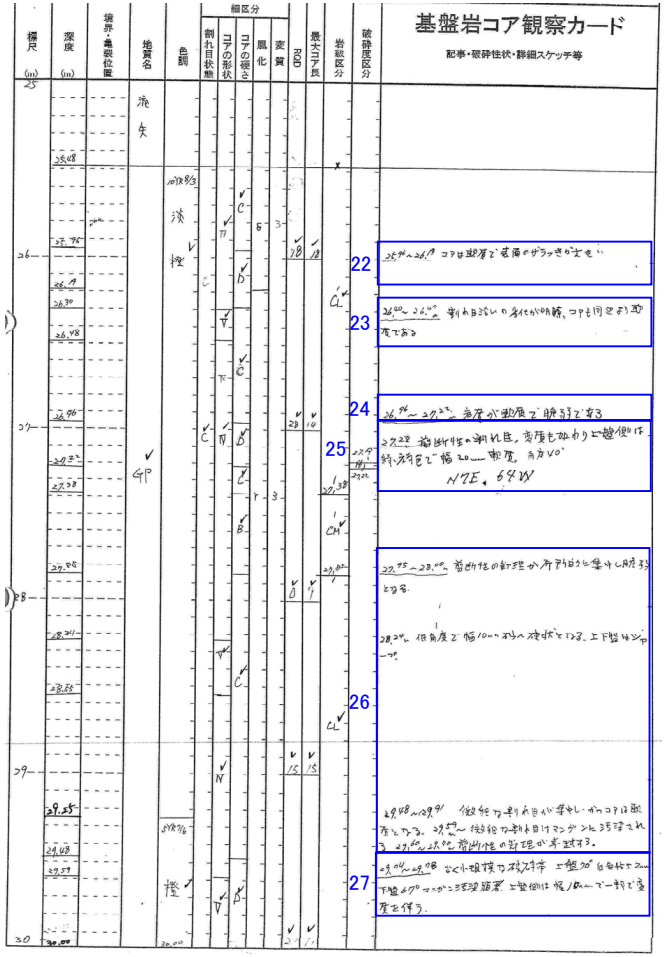
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯（変質帯）との記載については，連続性に乏しく，原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず，周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから，破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56～20.55m→20.55～20.65m※3
19	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン，変色については，補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については，孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・24.13～24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については，機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが，ボアホールテレビによる観察結果から，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

H27-B-4

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

22　25.96～26.19　コアは軟質で表面のザラつきが大きい

23　26.40～26.47m　割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である

24　26.96～27.22m　岩質が軟質で脆弱である

25　27.22m　剪断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40°
N7E,64W

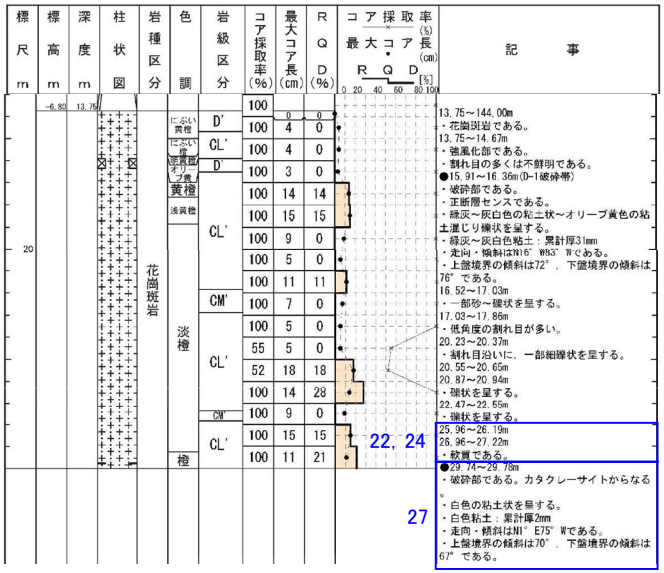
26　27.95～28.00m　剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる

28.24m　低角度で幅10mm砂～礫状となる。上下盤はシャープ。

29.48～29.91　微細な割れ目が集中し、かつコアは軟質となる。29.59m～微細な割れ目はマンガンに汚染される
29.60～29.70m　剪断性の節理が卓越する。

27　29.74～29.78　ごく小規模な破砕帯　上盤70°白色粘土2mm下盤67°マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。

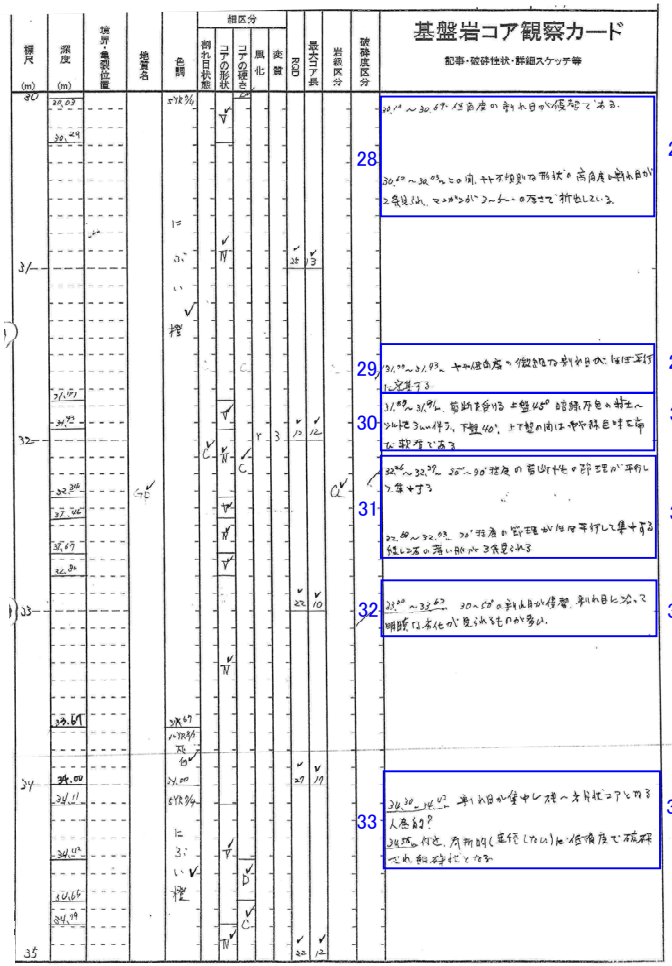
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
22	・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。
23	・割れ目沿いに劣化が明瞭との記載については，当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないことから削除。
24	・変更なし
25	・剪断性の割れ目との記載があるが，周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
26	・27.95～28.00mで剪断性の節理が局所的に集中との記載，28.24mで砂～礫状となるとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・29.48～29.91mで割れ目が集中し，軟質となるが，当該区間に含まれる破砕部を除き，原岩組織が残留し，劣化に系統性も認められないことから削除。 ・29.60～29.70mで剪断性の節理が卓越するとの記載については，岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
27	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガン汚染については，補足的なものであるため削除。 ・変質については，変質を受けた部分の連続性に乏しいことから削除。

H27-B-4

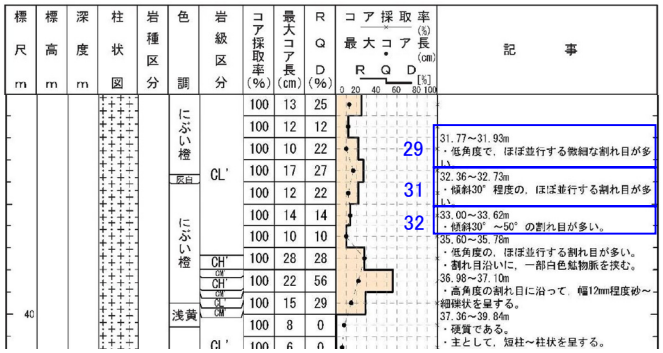
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
28	30.10～30.69　低角度の割れ目が優勢である。 30.62～30.73m　この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3～5mmの厚さで析出している。
29	31.77～31.93m　やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。
30	31.87～31.91m　剪断を受ける上盤45°暗緑灰色の粘土～シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である
31	32.36～32.39m　20°～30°程度の剪断性の節理が平行して集中する 32.68～32.73m　30°程度の節理がほぼ平行して集中する緑レン石の薄い脈が3条見られる
32	33.00～33.62m　30～50°の割れ目が優勢、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。
33	34.30～34.42m　割れ目が集中し礫～岩片状コアとなる。人為的？ 34.55m付近，局所的（連続しない）に低角度で破砕され細礫状となる

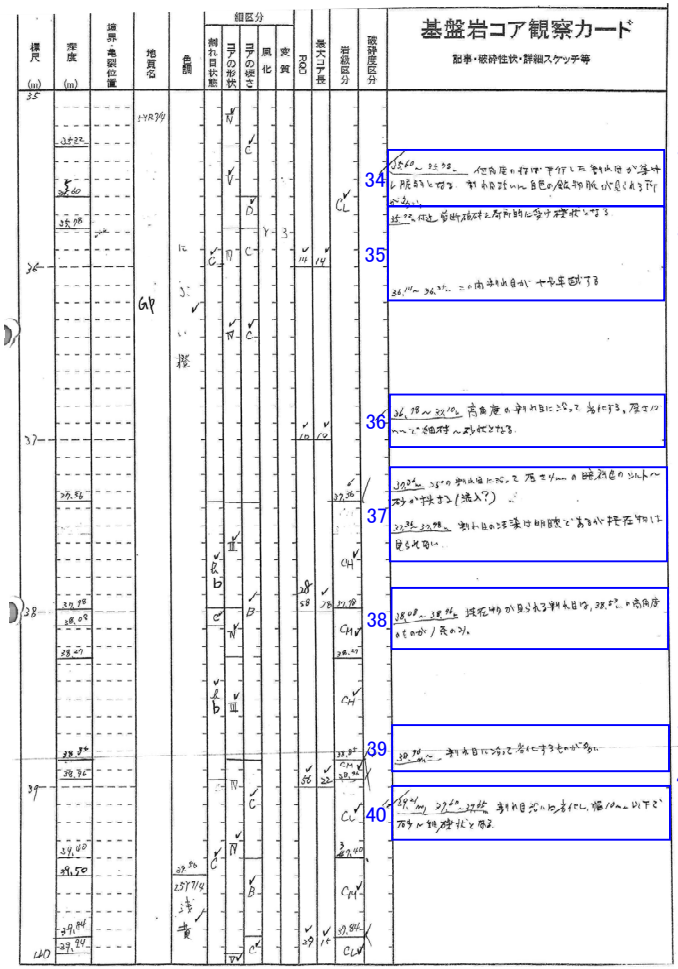
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
28	・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。
29	・変更なし
30	・剪断を受けるとの記載，粘土～シルトを伴うとの記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
31	・ほぼ並行する割れ目の分布についてまとめ書き。
32	・割れ目沿いの劣化の程度については，当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
33	・34.30～34.42mで礫～岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・34.55m付近で破砕され細礫状との記載があるが，連続性に乏しいことから削除。

H27-B-4

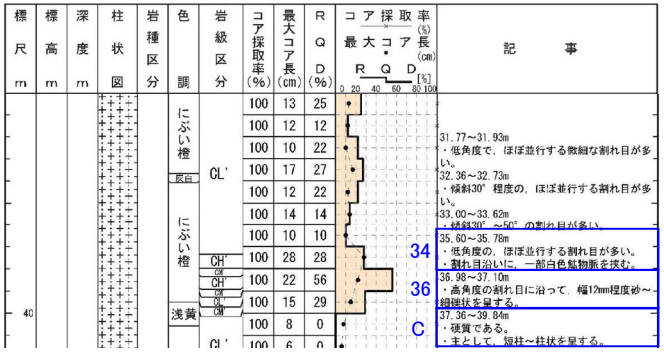
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
35.60～35.78m　低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。	34
35.72m付近剪断破砕を局所的に受け礫状となる	
36.14～36.35m　この間割れ目がやや卓越する	35
36.98～37.10m　高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫～砂状となる。	36
37.36m　25°　の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる（流入？） 37.36～37.98m　割れ目の汚染は明瞭であるが狭在物は見られない。	37
38.08～38.96m　狭在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。	38
38.96m～　割れ目に沿って劣化するものが多い	39
39.21m，39.60～39.65m　割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	40

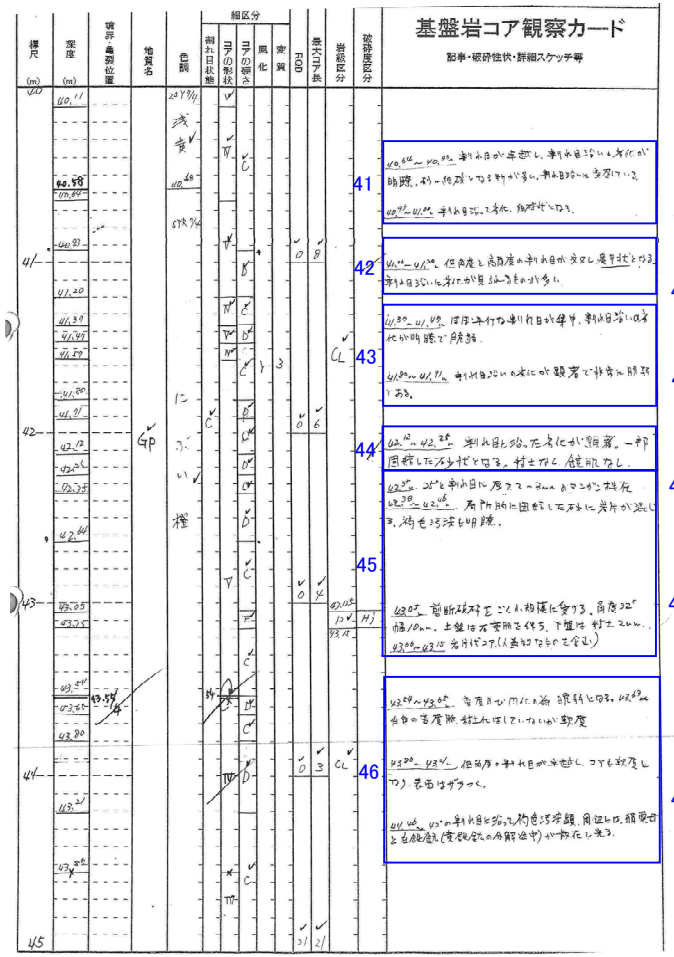
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
34	・変更なし
35	・35.72m付近で礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
36	・変更なし
37	・37.36mでシルト～砂を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の汚染，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
C	・硬軟について，“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・割れ目の発達の程度について，“コアの形状”欄に基づき，短柱～柱状と記載。
38	・一部割れ目に挟在物が分布するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目沿いの劣化については，著しい箇所を個別に別途記載していることから削除。
40	・割れ目沿いに砂～細礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-4

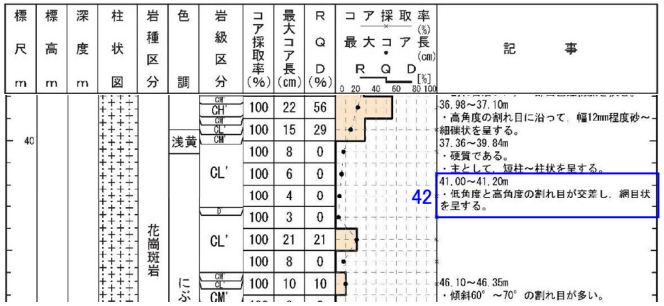
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

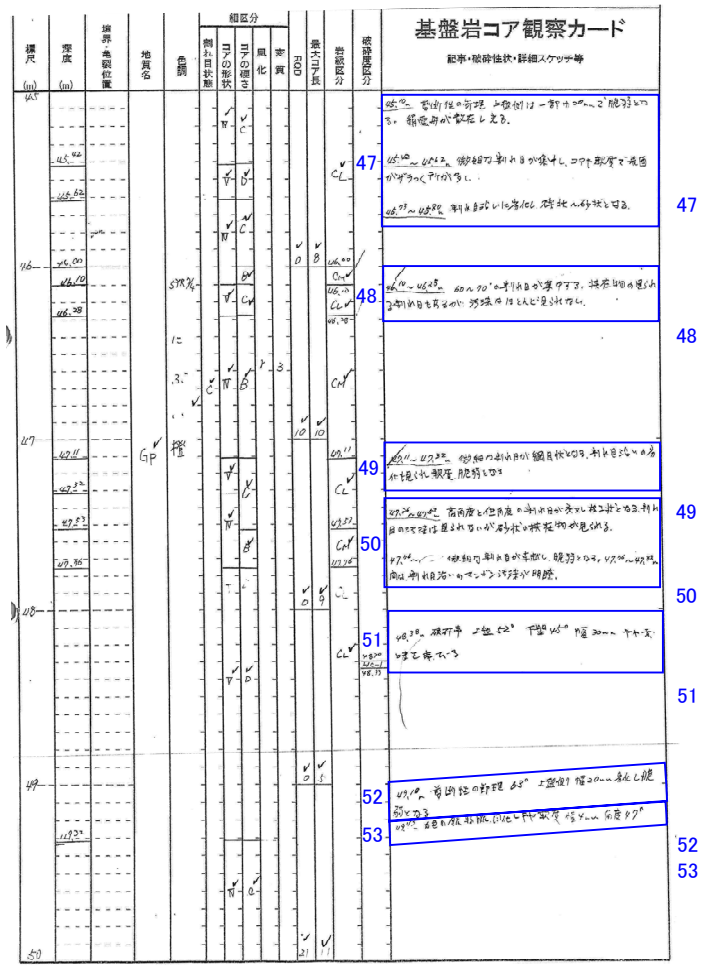
	記事内容
41	40.64～40.93m　割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭、砂～細礫となる所が多い、割れ目沿いに変質している。 40.95～41.00m　割れ目沿って劣化、細礫状となる。
42	41.00～41.20m　低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い
43	41.37～41.47m　ほぼ平行な割れ目が集中、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。 41.80～41.91m　割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。
44	42.12～42.25m　割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。
45	42.35m　25°と割れ目に厚さ2～3mmのマンガン狭在 42.38～42.46m　局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。 43.05m　剪断破砕をごく小規模に受ける。角度32°幅10mm、上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。 43.06～43.15　岩片状コア。（人為的なものを含む）
46	43.54～43.65m　変質及び風化の為脆弱となる。43.63m白色の変質脈、粘土化はしていないが軟質 43.80～43.21m　低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。 44.46m　42°の割れ目に沿って褐色汚染顕。周辺には絹雲母と白鉄鉱（黄鉄鉱の分解途中）が散在し光る。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
41	・40.64～40.93m，40.95～41.00mで割れ目沿いに砂～細礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・表現の見直し（亀甲状→網目状）
43	・脆弱化や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
44	・割れ目沿いに砂状化するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鏡肌なしとの記載については，補足的なものであるため削除。
45	・マンガン，変色，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。 ・42.38～42.46mの一部で砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・43.05mで剪断破砕との記載があるが，劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・43.06～43.15mで岩片状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
46	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・変質脈，割れ目の傾斜，コア表面の粗さ，変色，割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。

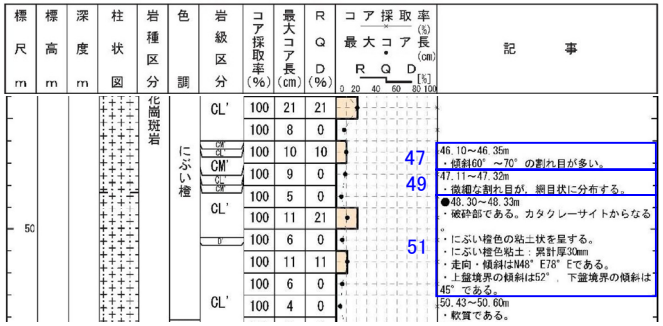
H27-B-4 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
47	45.10m　剪断性の節理　上盤側は一部巾20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し光る。 45.42～45.62m　微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い 45.73～45.80m　割れ目沿いに劣化し、礫状～砂状となる。
48	46.10～46.35m　60～70°の割れ目が集中する。狭在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。
49	47.11～47.32m　微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる
50	47.36～47.53m　高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが砂状の狭在物が見られる。 47.76～　微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。47.76～47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。
51	48.38m　破砕帯　上盤52°　下盤45°　幅30mmやや赤味を帯びる
52	49.18m　剪断性の節理63°　上盤側幅20mm劣化し脆弱となる
53	49.43m　白色の鉱物脈風化しやや軟質幅4mm角度47°

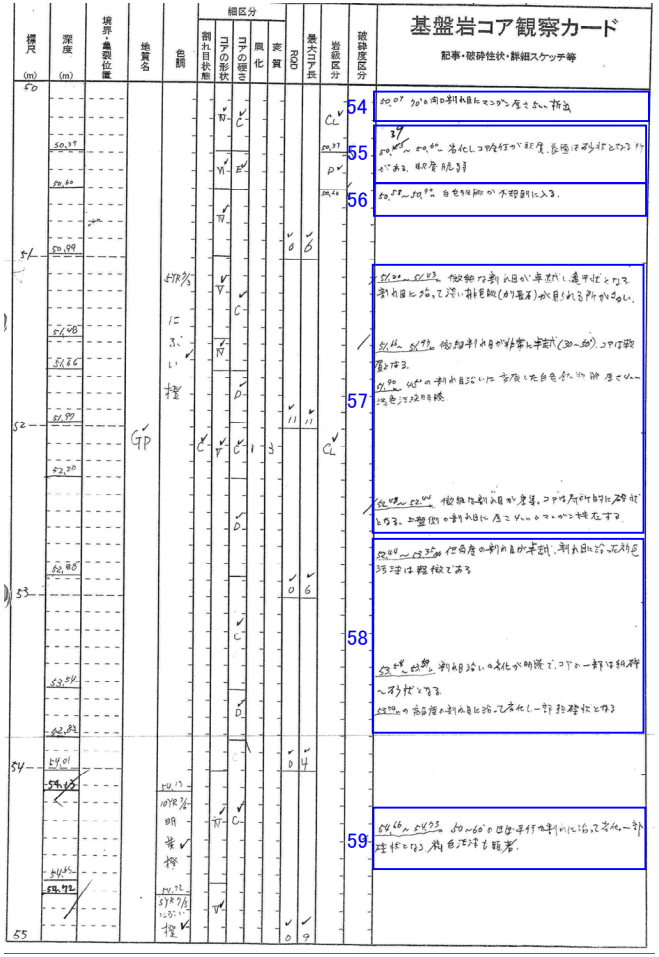
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
47	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・45.10mで剪断性の節理との記載があるが，変位が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・45.73～45.80mで割れ目沿いに礫状～砂状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
49	・硬軟や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
50	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・47.36～47.53mの一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
51	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・“破砕度区分”欄に基づき，48.30～48.33m，粘土状と記載。 ・色調については，“色調”欄に基づき，にぶい橙色と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
52	・剪断性の節理との記載があり，割れ目沿いに脆弱化するが，劣化部の連続性に乏しく，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
53	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

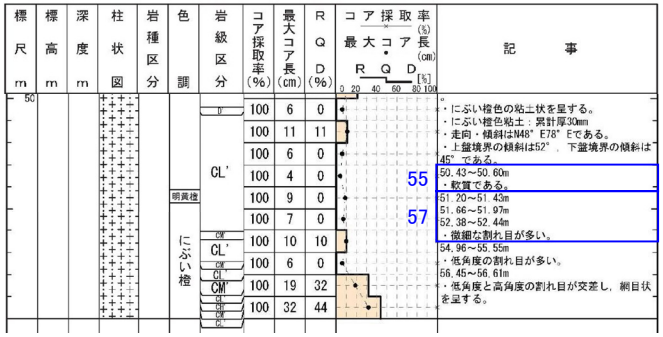
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
54	50.09　70°の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
55	50.39～50.60m　劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
56	50.58～50.92m　白色細脈が不規則に入る。
57	51.20～51.43m　微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈（カリ長石）が見られる所が多い。 51.66～51.97m　微細割れ目が非常に卓越（30～50°）。コアは軟質となる。 51.90m　45°の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
58	52.48～52.44m　微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭在する 52.44～53.35m　低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である 53.54～53.59m　割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫～砂状となる。 53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
59	54.66～54.73m　50～60°のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。

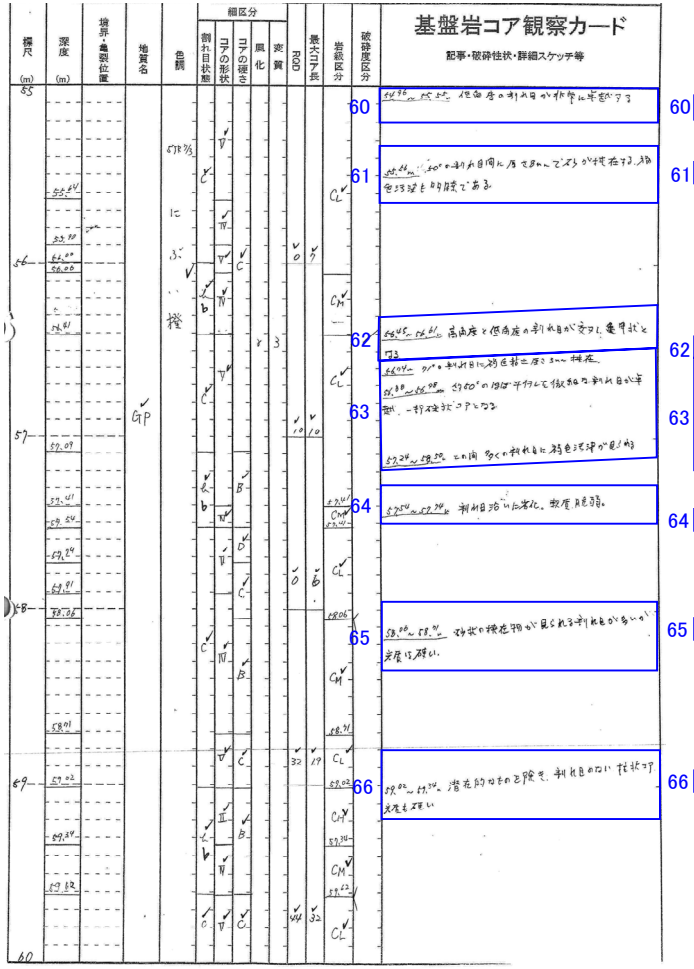
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
54	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
55	・表面は砂状との記載については，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・50.39mとの記載があるが，劣化が顕著な区間として，50.43～50.60mと記載。
56	・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
57	・鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，区間毎にばらつきがあることから削除。
58	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・53.55～53.59mで細礫～砂状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・53.74mの割れ目沿いで細礫状を呈するが，連続性に乏しいことから削除。
59	・一部が礫状化しているが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変色については，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

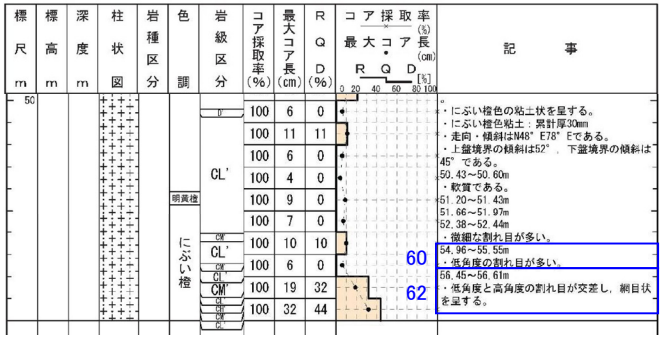
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
60	54.96～55.55m　低角度の割れ目が非常に卓越する
61	55.56m　50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
62	56.45～56.61m　高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。
63	56.74m　71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88～56.98m　約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。 57.24～58.50m　この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
64	57.54～57.74m　割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
65	58.06～58.71m　砂状の狭在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
66	59.02～59.34m　潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

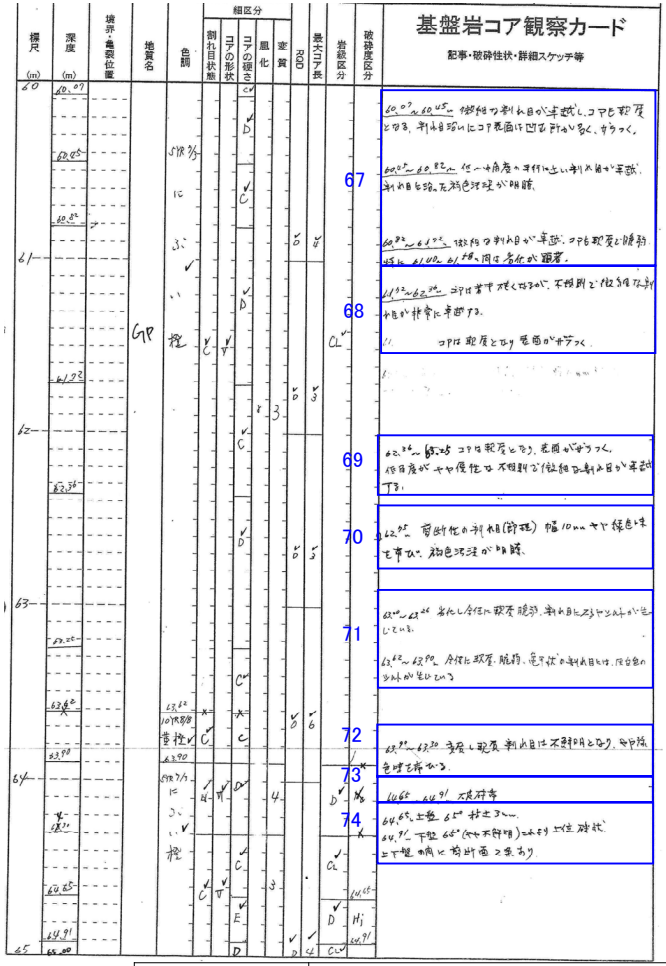
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
60	・変更なし
61	・割れ目に砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・表現の見直し（亀甲状→網目状）
63	・56.74mで粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・56.88～56.98mで一部礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いに軟質化するが，挟在物の連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
65	・一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
66	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

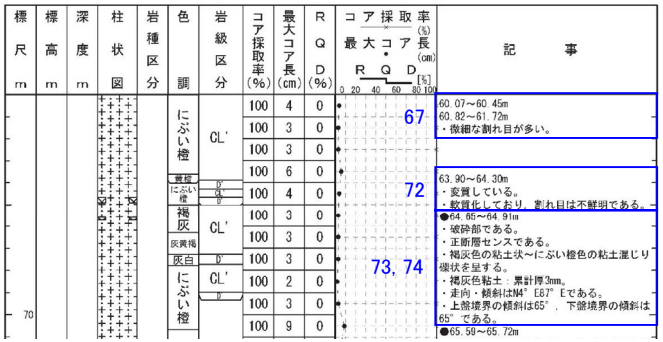
H27-B-4 コア観察カード（H27年8月）

コア観察カードの仮ワープロ変換



	記事内容
67	60.07～60.45m　微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。 60.45～60.82m　低～中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭 60.82～61.72m　微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱特に61.40～61.58m間は劣化が顕著。
68	61.72～62.36m　コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。 コアは軟質となり、表面がザラつく
69	62.36～63.25　コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優性な不規則で微細な割れ目が卓越する。
70	62.75m　剪断性の割れ目（節理）幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭
71	63.00～63.26　劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。 63.62～63.90m　全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。
72	63.90～63.30　変質し軟質割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。
73	64.65～64.91m　破砕帯
74	64.65m　上盤65°　粘土3mm 64.91m　下盤65°（やや不鮮明）これより上位礫状 上下盤の間に剪断面2条あり

申請書用柱状図



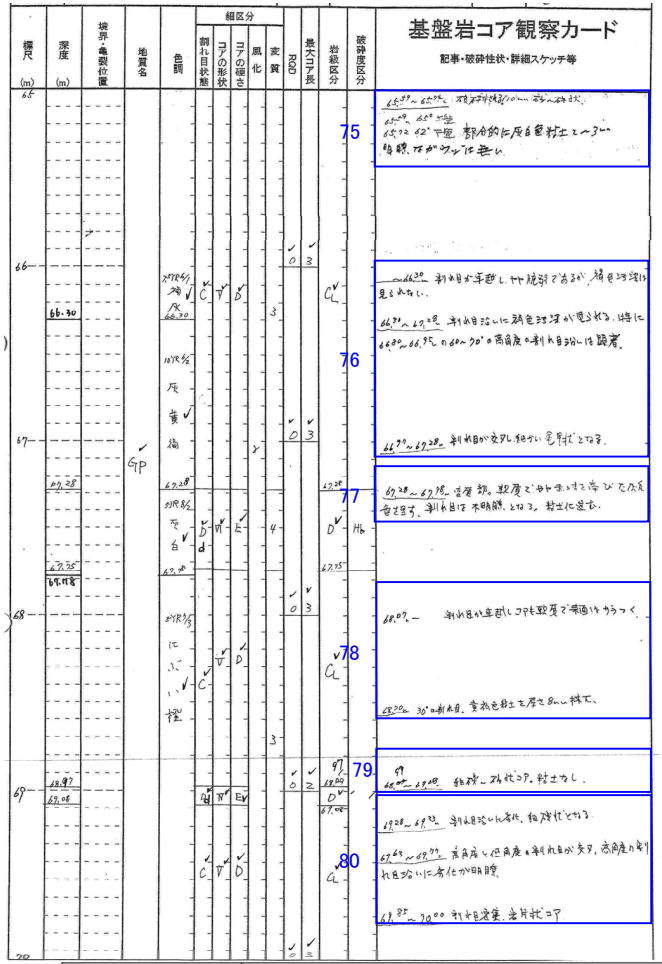
記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
67	・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・60.45～60.82mについては，その上下の区間と比較して劣化が軽微であることから削除。
68	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。
69	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。
70	・剪断性の割れ目との記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
71	・割れ目に砂やシルトを挟在するが，岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
72	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・下端深度63.30→64.30m※3
73，74	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・“破砕度区分”欄のHjに基づき，粘土混じり礫状と記載。 ・“色調”欄に基づき，にぶい橙色と記載。 ・粘土の色調については，見直しにより褐灰色と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・剪断面2条ありとの記載については，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

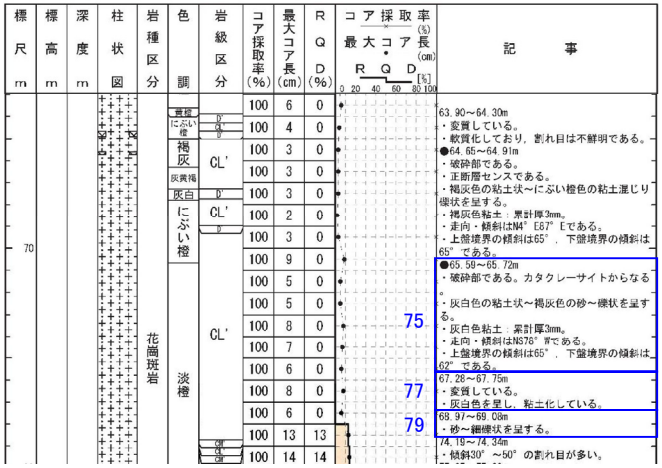
コア観察カード（H27年8月）

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



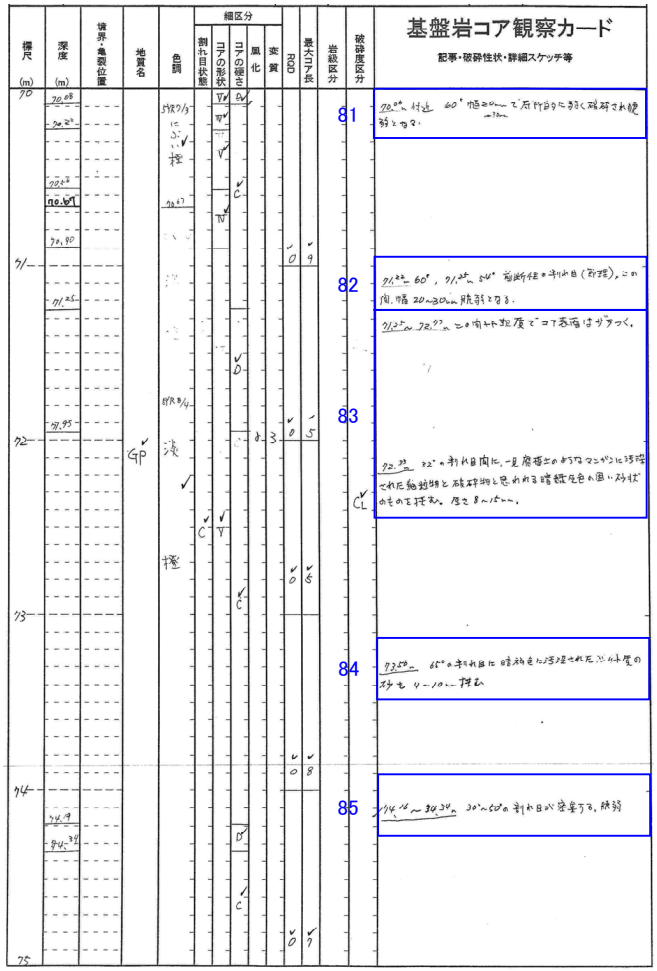
記事内容
65.59～65.72m　破砕帯される。110mm砂～礫状 65.59m　65°　上盤 65.72m　62°　下盤　部分的に灰白色粘土2～3mm明瞭なガウジは無い。
～66.30m　割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。 66.30～67.28m　割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80～66.95mの60～70°の高角度の割れ目沿いは顕著。
66.97～67.28m　割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。
67.28～67.78m　変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。
68.07m～　割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。
68.70m　30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む
68.97～69.08m　細礫～砂状コア。粘土なし。
69.28～69.33m　割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63～69.77m　高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭 69.85～70.00　割れ目密集、岩片状コア



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
75	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき，褐灰色と記載。 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
76	・割れ目の発達や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
77	・下端深度67.78m→67.75m※3 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の明瞭さについては，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
78	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・68.70mで粘土を挟在するが，連続性や直線性に乏しいことから削除。
79	・変更なし
80	・69.28～69.33mで割れ目沿いに細礫状を呈するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

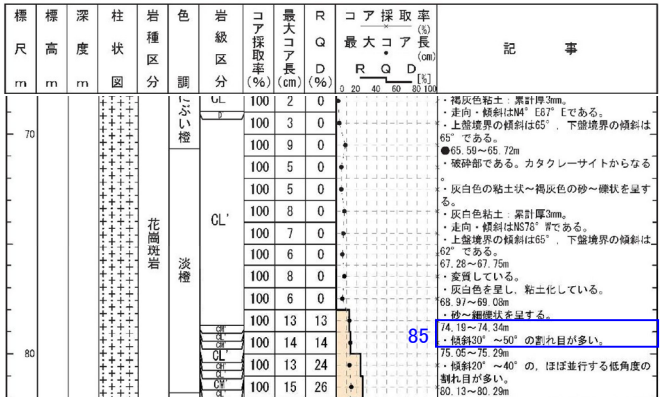
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
81	70.06m付近　60°　幅20mm～30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。
82	71.22m　60°、71.25m　54°　剪断性の割れ目（節理）。 この間、幅20～30mm脆弱となる。
83	71.25～72.73m　この間やや軟質でコア表面はザラつく。 72.33m　32°の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8～15mm。
84	73.56m　65°の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4～10mm挟む
85	74.16～74.34m　30～50°の割れ目が密集する。脆弱

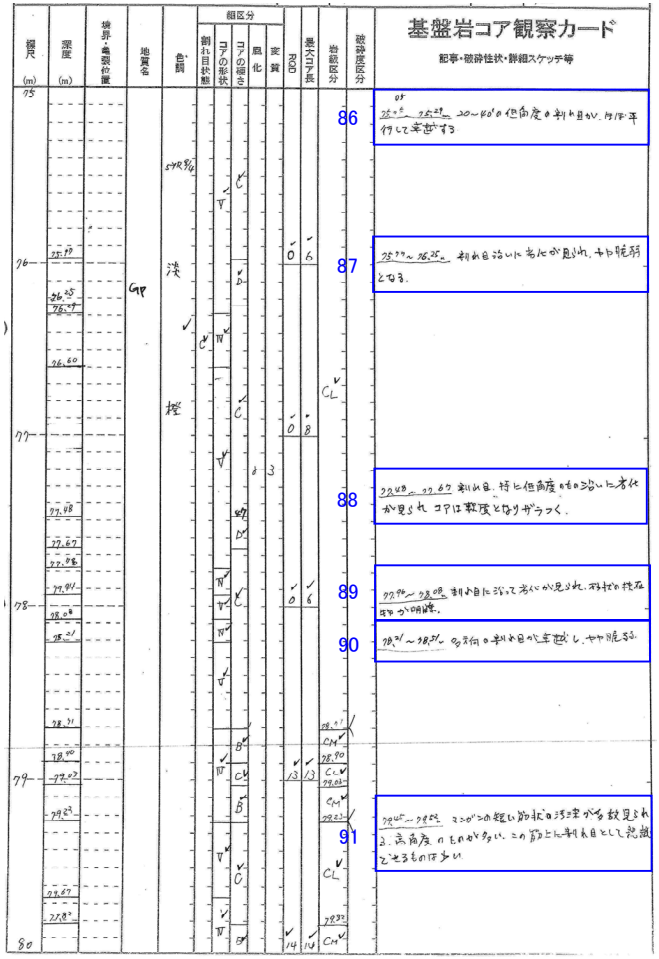
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
81	・弱く破砕され脆弱との記載については，せん断構造や変形構造が不明瞭で，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり，割れ目間で脆弱化しているが，周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが，割れ目に挟在する砂状部は硬質で，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として，74.19～74.34mと記載。

H27-B-4

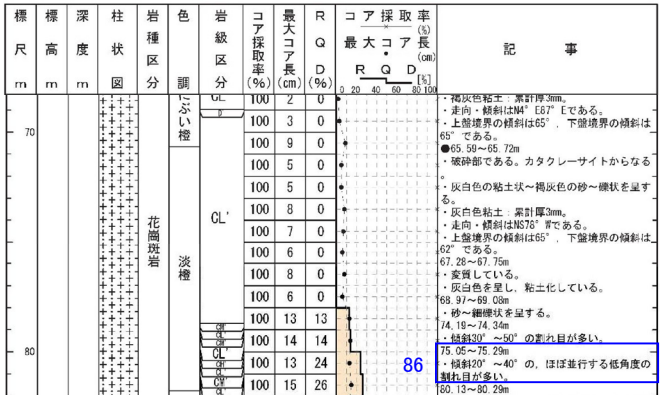
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
86	75.05～75.29m　20～40° の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する
87	75.77～76.25m　割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。
88	77.48～77.67　割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく
89	77.96～78.08m　割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。
90	78.21～78.51m　多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱
91	79.45～79.52m　マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少い

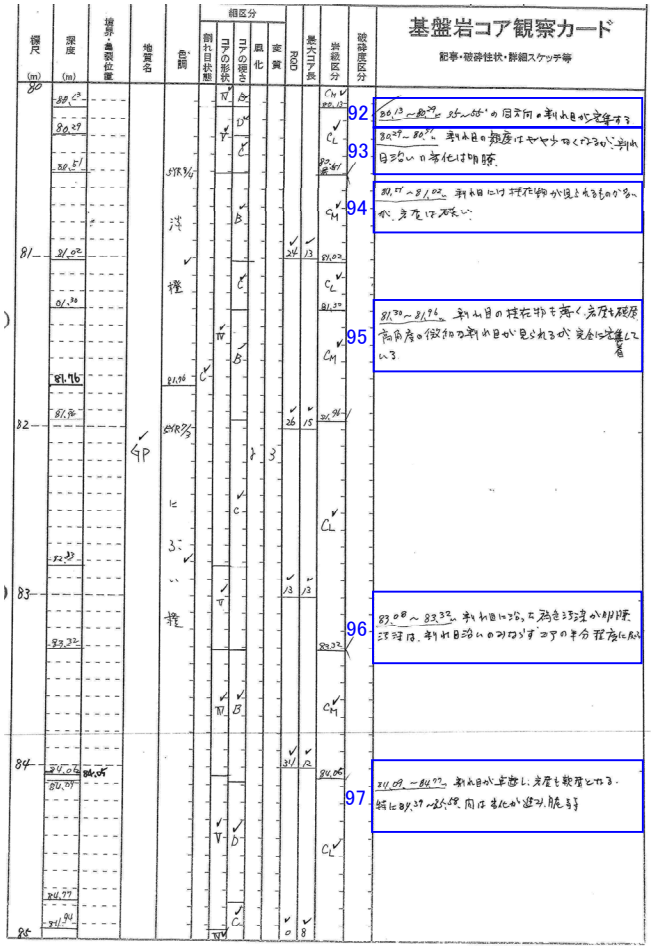
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
86	・変更なし
87	・脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
88	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。
89	・割れ目沿いに劣化し，一部で砂状を呈するが，連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目の発達や脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
91	・マンガン，割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

H27-B-4

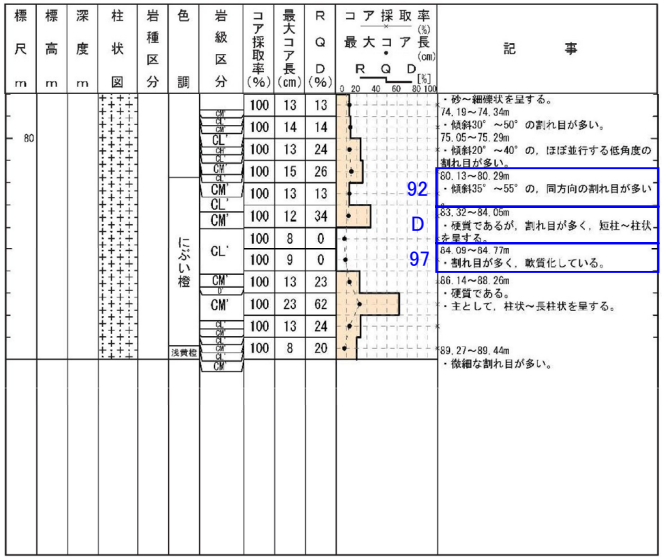
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
92	80.13～80.29m　35～55°の同方向の割れ目が密集する
93	80.29～80.51m　割れ目の頻度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭
94	80.51～81.02m　割れ目には狭在物が見られるものが多いが、岩質は硬い
95	81.30～81.96m　割れ目の狭在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している
96	83.08～83.32m　割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならずコアの半分程度に及ぶ
97	84.09～84.77m　割れ目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39～85.58間は劣化が進み、脆弱

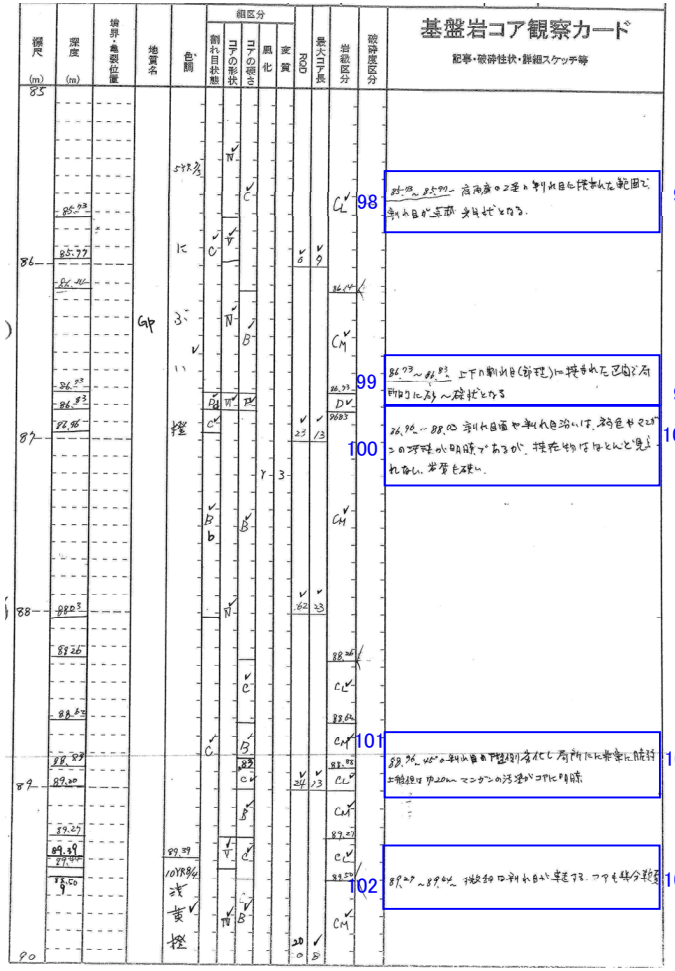
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
92	・変更なし
93	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
94	・割れ目の挟在物については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
95	・割れ目の挟在物，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。 ・高角度の割れ目については，連続性に乏しいことから削除。
D	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質，“コアの形状”欄に基づき，短柱～柱状と記載。
96	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
97	・84.39～85.58mで劣化が進行しているが，劣化に系統性は認められないことから，84.09～84.77mの記載に含めて示すこととして削除。

H27-B-4

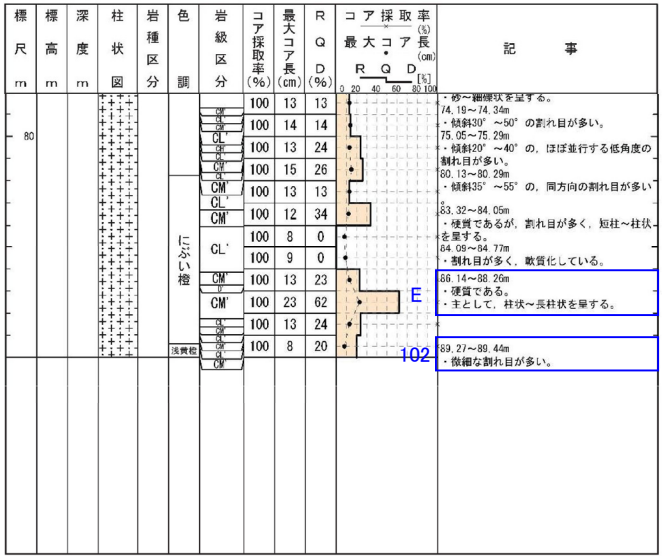
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
	85.73～85.97m　高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越　岩片状となる。 98
	86.73～86.83m　上下の割れ目（節理）に挟まれた区間で局所的に砂～礫状となる 99
	86.96m～88.03　割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。 100
	88.96m　45°　の割れ目の下盤側劣化し局所にに非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭 101
	89.27～89.44m　微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質 102

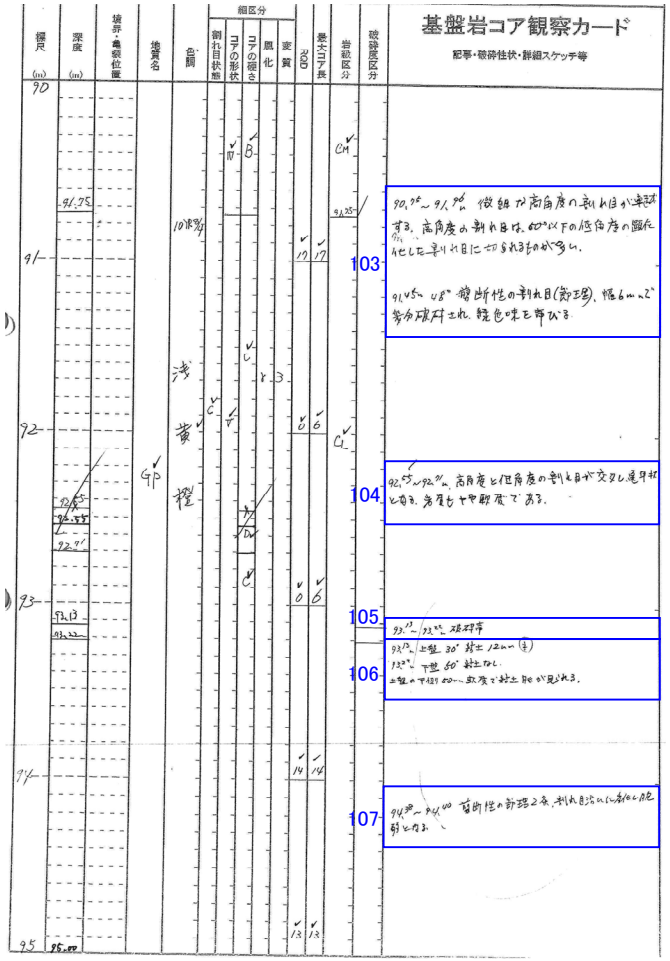
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
98	・割れ目の発達の程度については，RQD,最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
E	・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・“コアの形状”欄を見直すとともに最大コア長を踏まえ，柱状～長柱状と記載。
99	・砂～礫状については，掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・割れ目の変色，マンガン，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。
101	・非常に脆弱との記載があるが，劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
102	・硬軟については，岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-4

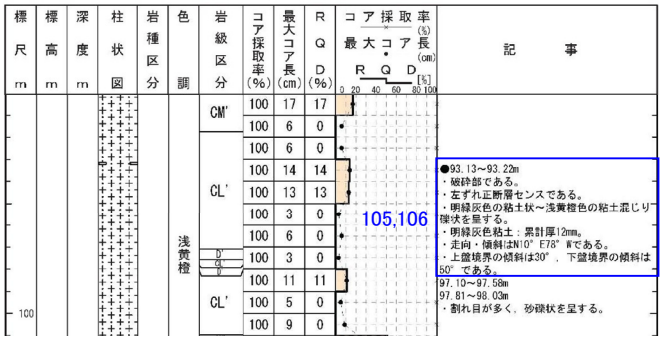
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
90.75～91.96m　微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。 91.45m　48°　剪断性の割れ目（節理）、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる	103
92.55～92.71m　高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	104
93.13～93.22m　破砕帯	105
93.13m　上盤30°　粘土12mm主 93.22m　下盤50°　粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。	106
94.38～94.40　剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	107

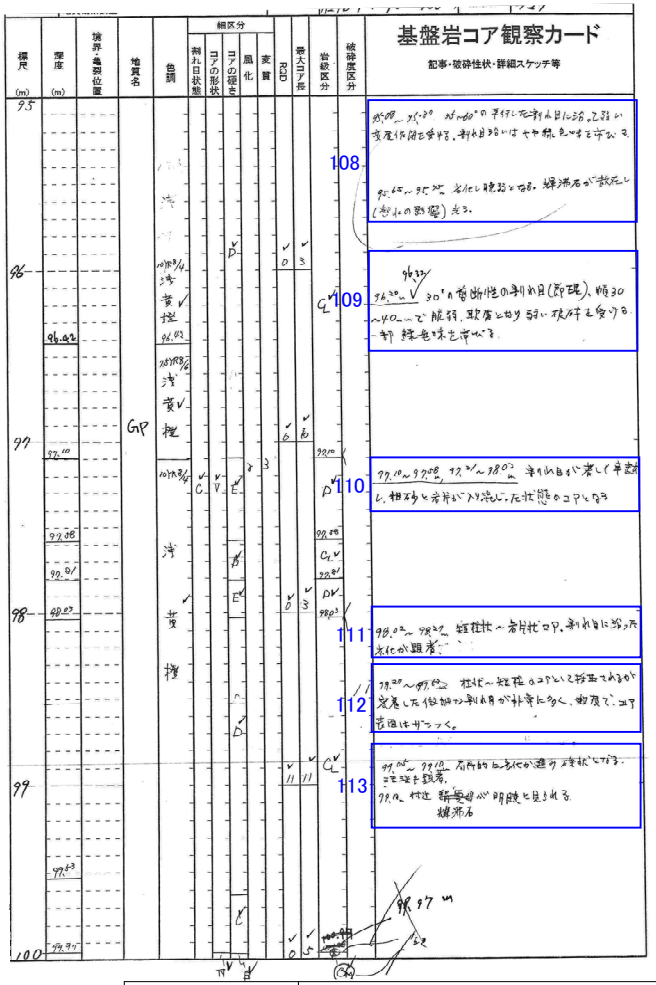
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
103	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に切られるとの記載，91.45mの剪断性の割れ目との記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
104	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
105，106	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土区間以外の粒度について，見直しにより，粘土混じり礫状と記載。 ・“色調”欄に基づき，浅黄橙色と記載。 ・粘土の色調については，見直しにより明緑灰色と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・粘土脈については，いずれも連続性に乏しいことから削除。
107	・94.38～94.40mで割れ目沿いに脆弱化しているが，劣化部の直線性や連続性に乏しいことから削除。

H27-B-4

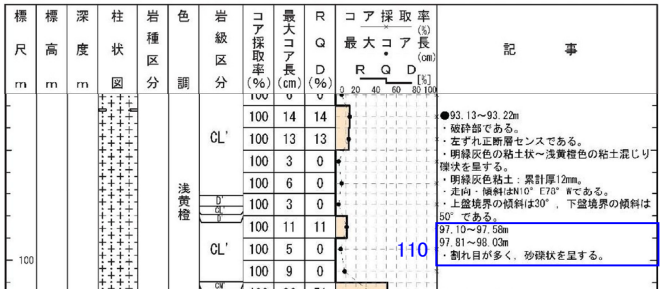
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
108	95.08～95.37　35～60° の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。 95.65～95.75m　劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し（熱水の影響）光る。
109	96.20～96.32　30° の剪断性の割れ目（節理）。幅30～40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる
110	97.10～97.58m、97.81～98.03m　割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる
111	98.02～98.27m　短柱状～岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。
112	99.27～99.53m　柱状～短柱のコアとして採取されるが密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。
113	99.05～99.10m　局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著 99.10m付近　輝沸石が明瞭に見られる

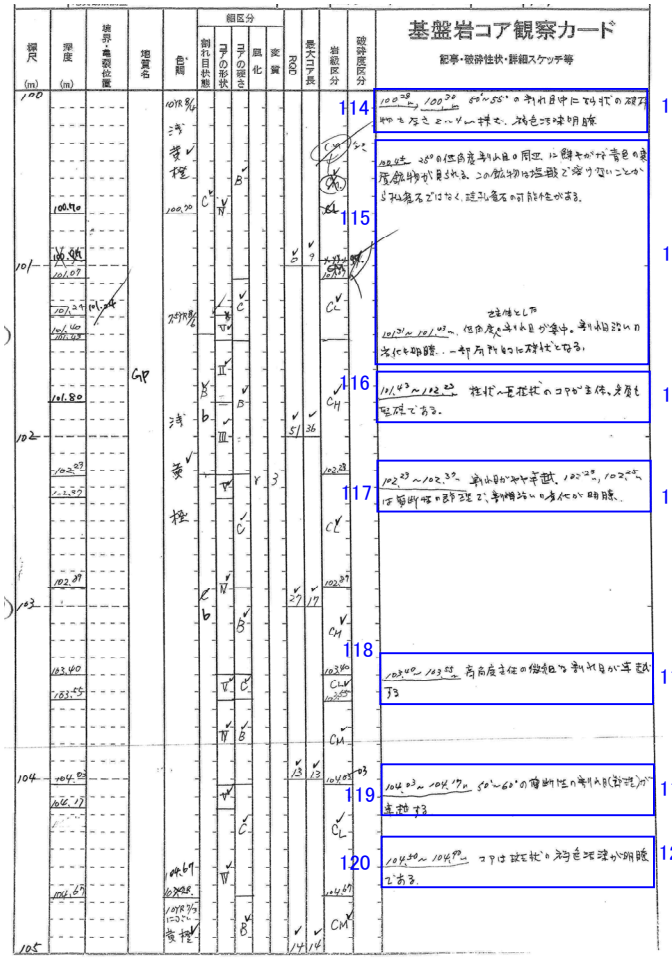
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
108	・脆弱化の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの色調，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
109	・割れ目沿いに軟化し，弱い破砕を受けるとの記載があるが，連続性や直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については，補足的なものであるため削除。
110	・粗砂と岩片が入り混じったとの記載に基づき，砂礫状と記載。
111	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分に含めて示しているため削除。
112	・割れ目の発達の程度については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
113	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・一部で礫状を呈するが，連続性に乏しいことから削除。

H27-B-4

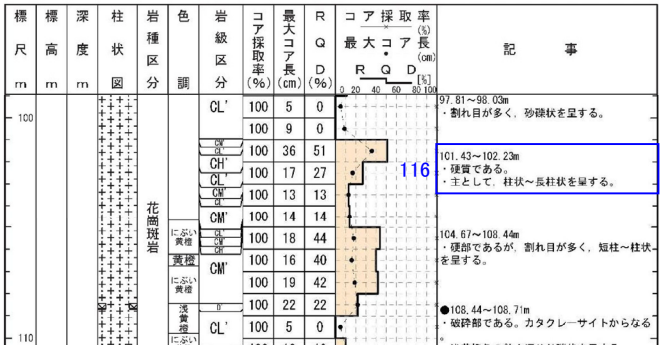
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

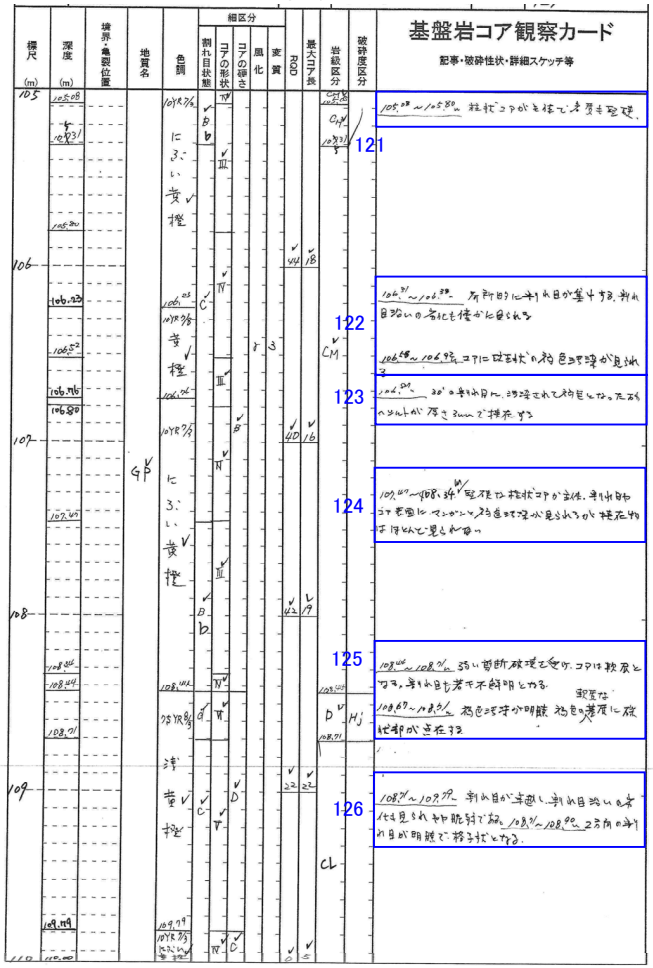
	記事内容
114	100.28m、100.30m　50°～55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2～4mm挟む。褐色汚染明瞭
115	100.45m　25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性がある。 101.31～101.43m　低角度を主体としたの割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明瞭、一部局所的に礫状となる。
116	101.43～102.23m　柱状～長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。
117	102.23～102.37m　割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは剪断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭
118	103.40～103.55m　高角度主体の微細な割れ目が卓越する
119	104.03～104.17m　50°～60°の剪断性の割れ目（節理）が卓越する
120	104.50～104.90m　コアは斑状の褐色汚染が明瞭である。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
114	・割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。 ・一部で砂を挟在し，破砕物との記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・割れ目沿いの変色，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・101.31～101.43mの一部で礫状を呈するが，礫状部の連続性に乏しいことから削除。
116	・変更なし
117	・102.23mと102.25mで剪断性の節理との記載があり，割れ目間で劣化しているが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
118	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
119	・割れ目の傾斜については，周囲の割れ目と差異が認められないため削除。 ・剪断性の割れ目との記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
120	・変色については，補足的なものであるため削除。

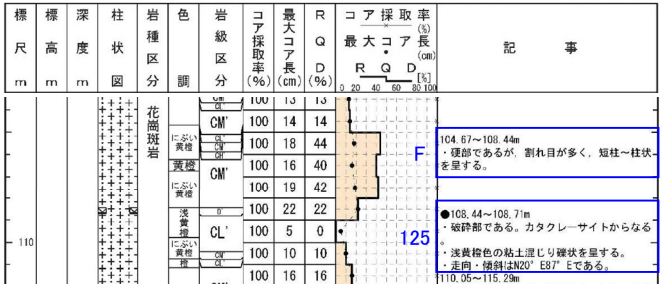
H27-B-4 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
121	105.08～105.80m　柱状コアが主体で岩質も堅硬。
122	106.31～106.38m　局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。 106.58～106.92m　コアに斑状の褐色汚染が見られる
123	106.87m　30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂～シルトが厚さ3mmで狭在する
124	107.47～108.34m　堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが狭在物はほとんど見られない
125	108.44～108.71m　弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67～108.71m　褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。
126	108.71～109.79m　割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71～108.90m　2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。

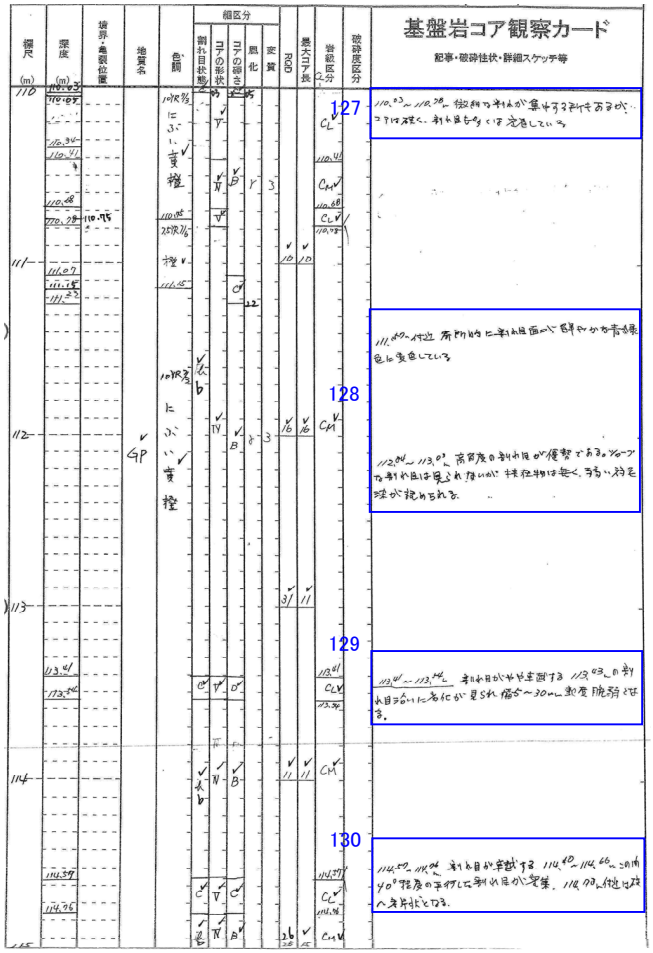
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
121	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
F	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき，硬部，短柱～柱状と記載。
122	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・変色については，補足的なものであるため削除。
123	・砂～シルトを挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
124	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン，変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。
125	・カタクレーサイト主体であると判断したことから，カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき，浅黄橙色と記載。 ・“破砕度区分”欄のHjに基づき，粘土混じり礫状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については，岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・変色については，補足的なものであるため削除。
126	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

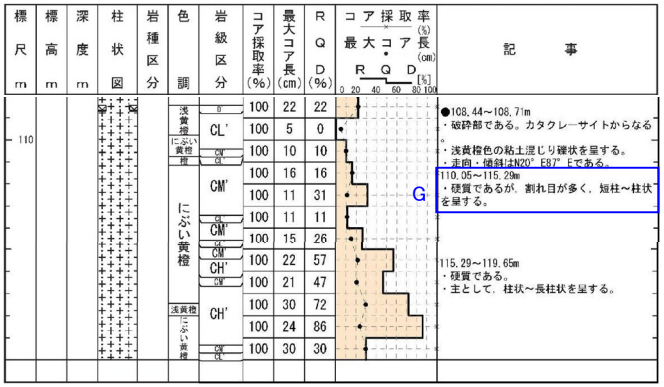
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
127	110.03～110.78m　微細な割れが集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している
128	111.57m付近　局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している 112.84～113.03m高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる
129	113.41～113.54m　割れ目がやや卓越する113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ幅5～30mm軟質脆弱となる。
130	114.57～114.76m　割れ目が卓越する114.60～114.66mこの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫～岩片状となる。

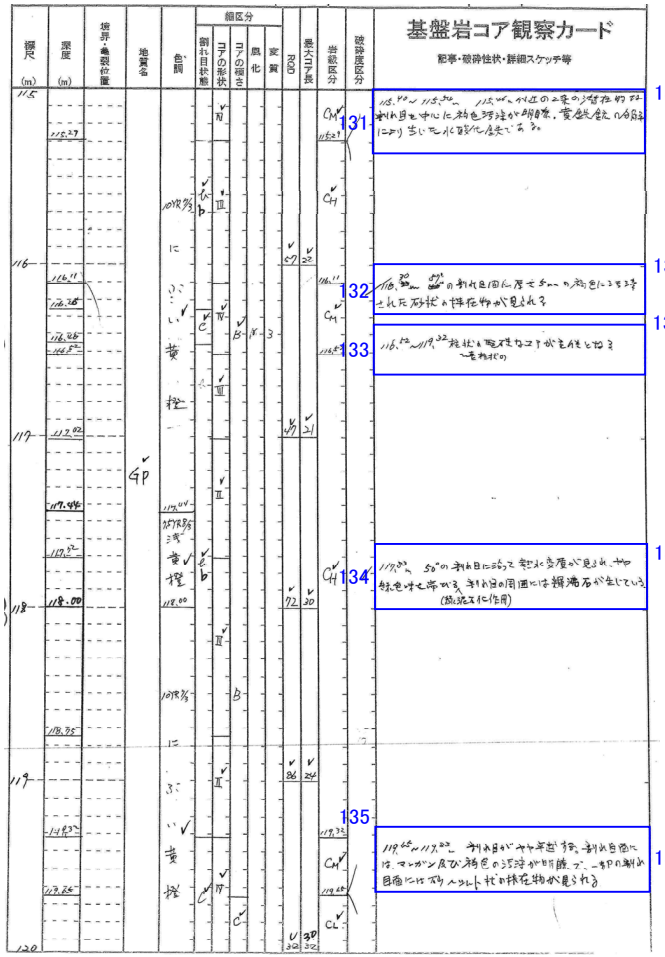
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
127	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
G	・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき，短柱状と記載。一部でより割れ目間隔の大きな区間が分布することから，柱状と記載。
128	・割れ目の変色，挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
129	・割れ目については，掘削時の機械割れと判断し削除。
130	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

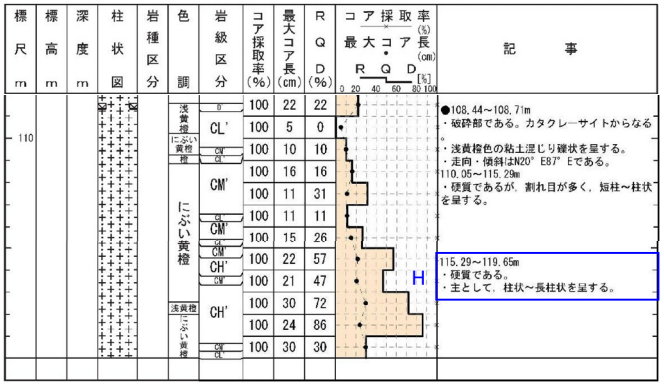
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

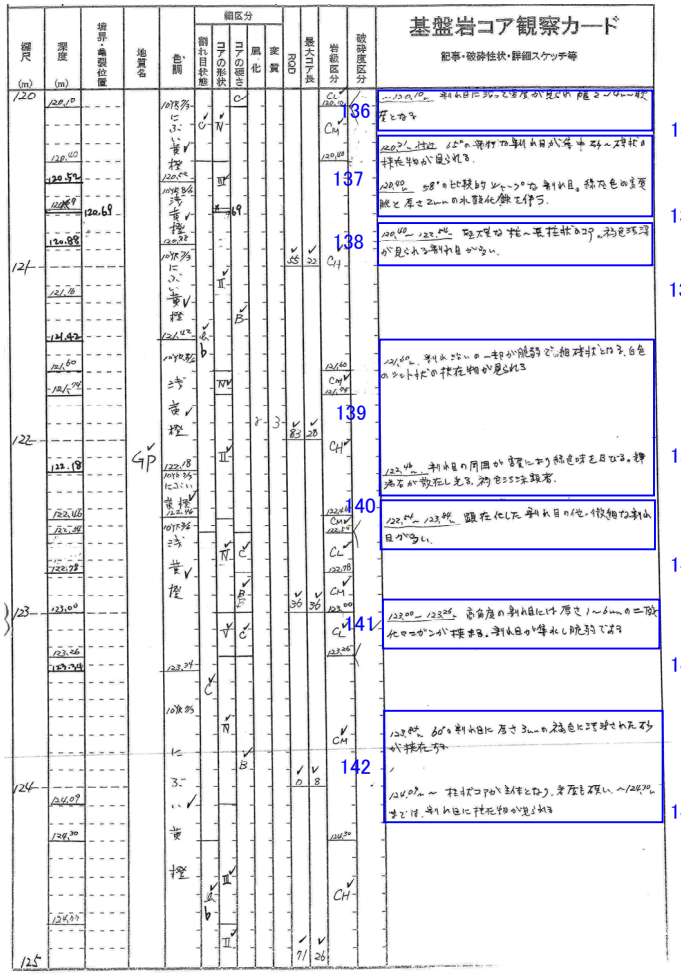
記事内容	
131	115.40～115.54m　115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。
132	116.30m　57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の狭在物が見られる
133	116.52～119.32　柱状～長柱状の堅硬なコアが主体となる
134	117.83m　50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる（緑泥石化作用）割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
135	119.65～119.83m　割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の狭在物が見られる

申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
H	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質，“コアの形状”欄に基づき柱状～長柱状と記載。
131	・割れ目の変色，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
132	・砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
133	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。
134	・割れ目沿いの鉱物の晶出，変色については，補足的なものであるため削除。
135	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一部に砂・シルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンや変色については，補足的なものであるため削除。

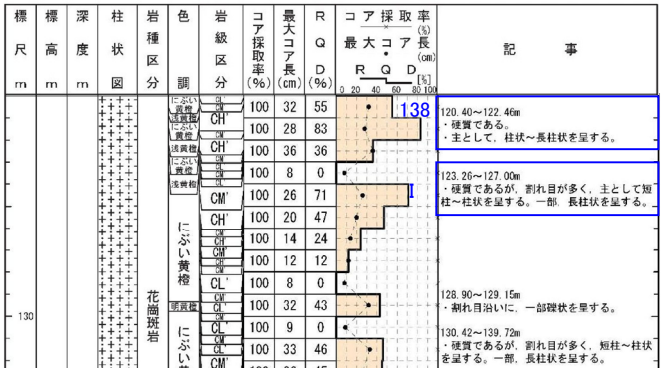
H27-B-4 コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
136	～120.10m　割れ目に沿って変質が見られ幅2～4mm軟質となる
137	120.31m付近　65°の平行な割れ目が集中砂～礫状の狭在物が見られる 120.40m　58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。
138	120.40～122.54m　堅硬な柱～長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。
139	121.60m　割れ沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の狭在物が見られる 122.46m　割れ目の周囲が変質により緑色味を及びる。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。
140	122.54～123.84m　顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。
141	123.00～123.26m　高角度の割れ目には厚さ1～6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である
142	123.85m　60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が狭在する 124.09m～　柱状コアが主体となり、岩質も硬い。～124.30mまでは割れ目に狭在物が見られる

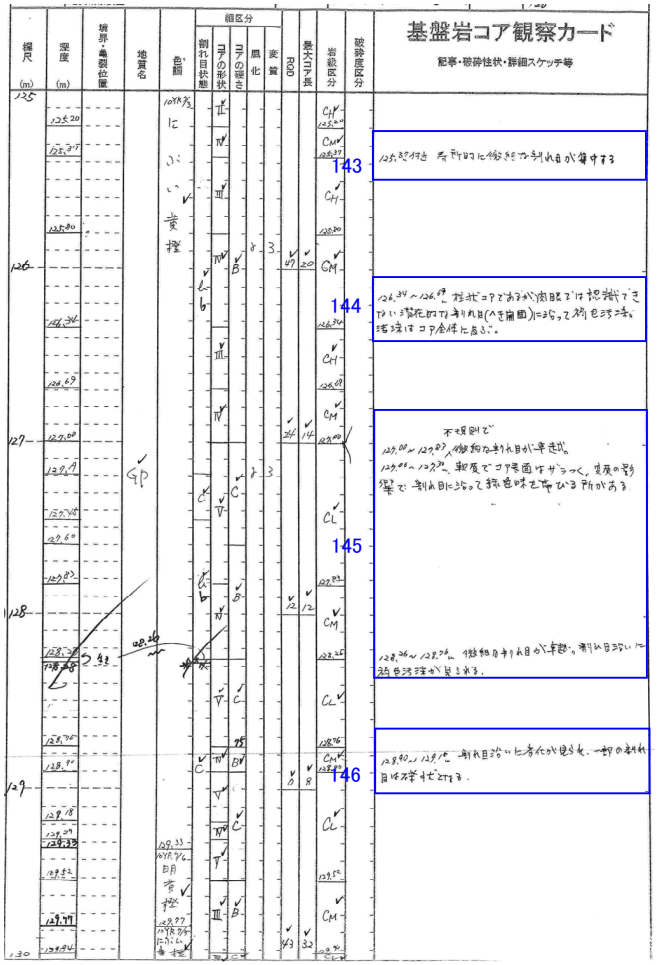
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
136	・割れ目沿いに軟質となるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・120.31m付近で砂～礫を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
138	・下端深度については，“コアの形状”欄に基づき，122.46mと記載。 ・変色については，補足的なものであるため削除。
139	・一部割れ目沿いで細礫状を呈し，シルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
140	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
141	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・脆弱化している部分は局所的であり，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
I	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質，“コアの形状”欄に基づき主として短柱～柱状，一部，長柱状と記載。
142	・123.85mで砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無については，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

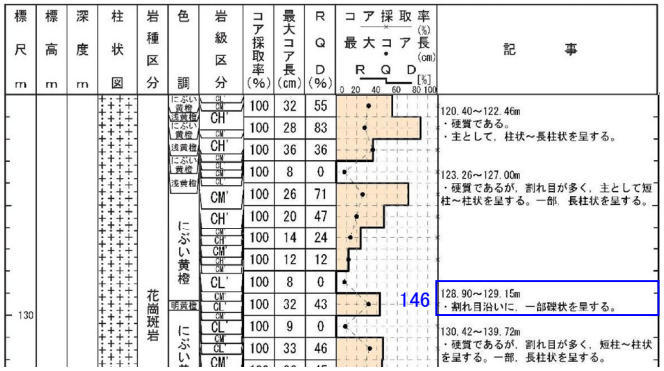
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
143	125.37m付近　局所的に微細な割れ目が集中する
144	126.34～126.69m　柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目（へき開面）に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145	127.00～127.83　不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06～127.30m　軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある 128.26～128.76m　微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。
146	128.90～129.15m　割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。

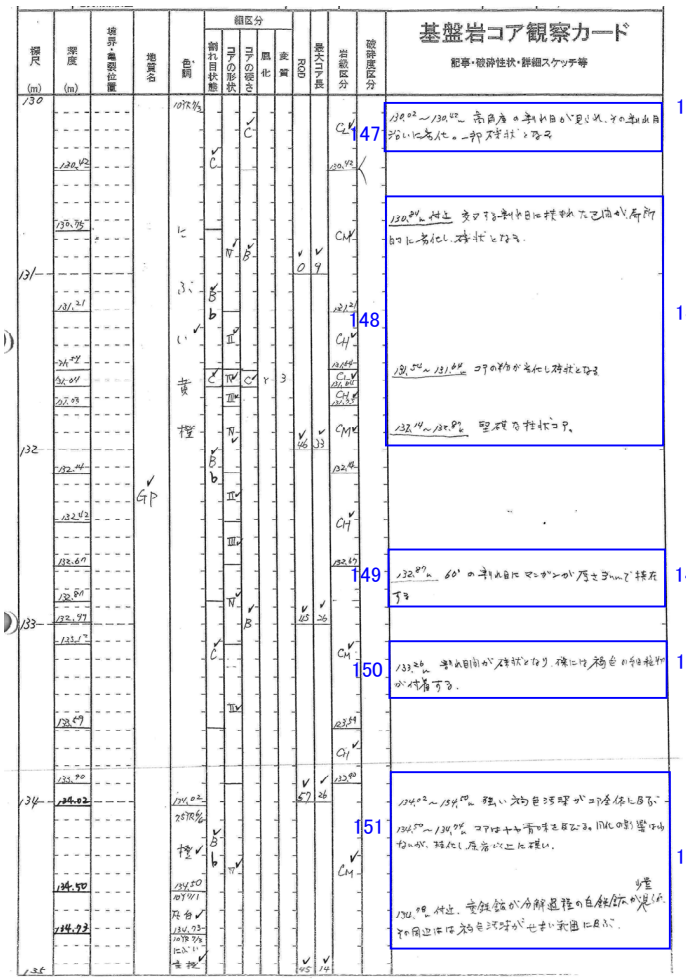
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達の程度については，周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・変色については，補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ，割れ目沿いの変色については，補足的なものであるため削除。
146	・変更なし

H27-B-4

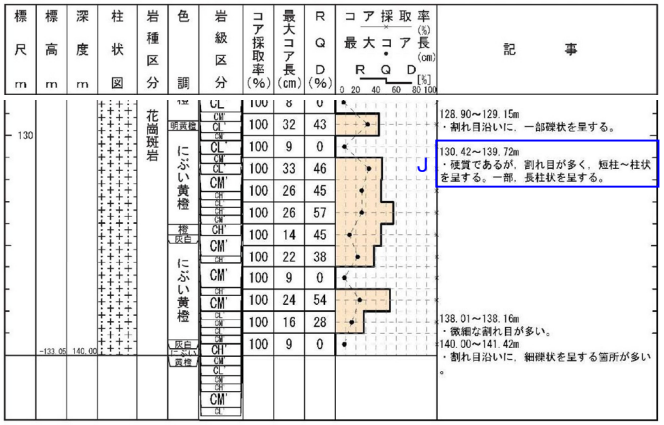
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
147	130.02～130.42m　高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる
148	130.84m付近　交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。 131.54～131.64m　コアの半分が劣化し礫状となる 132.14～132.87m　堅硬な柱状コア。
149	132.87m　60°　の割れ目にマンガンが厚さ3mmで狭在する
150	133.26m　割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。
151	134.02～134.50m　強い褐色汚染がコア全体に及ぶ 134.50～134.74m　コアはやや青味を及びる。風化の影響は少ないが、珪化し、原岩以上に硬い。 134.78m付近，黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られその周辺には褐色汚染がせまい範囲に及ぶ。

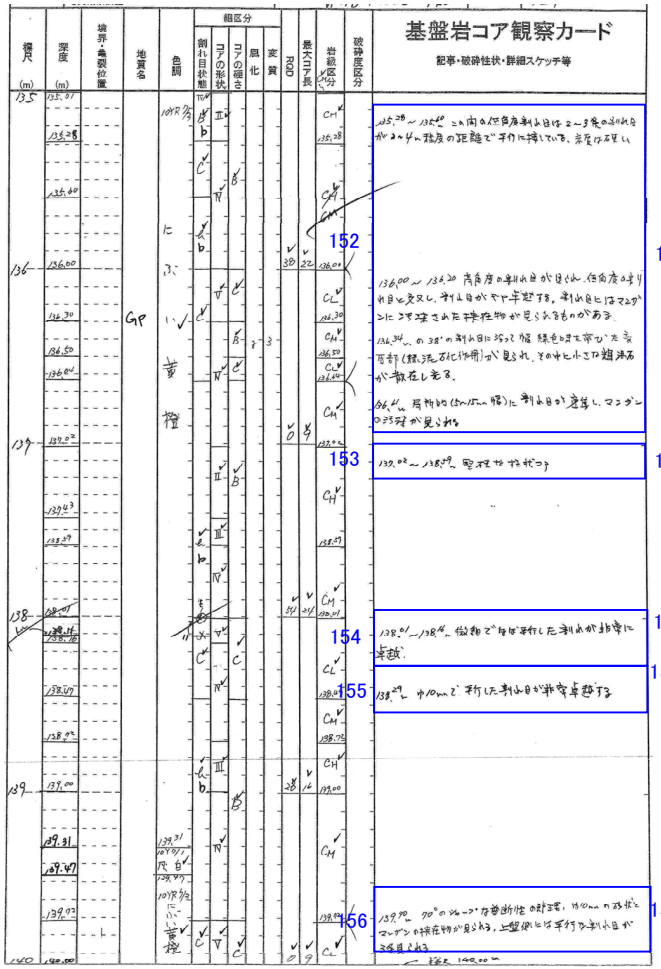
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
147	・一部割れ目沿いに礫状を呈するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
J	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質，“コアの形状”欄に基づき短柱状～柱状，一部，長柱状と記載。
148	・一部で礫状を呈するが，掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
149	・割れ目沿いのマンガンの挟在については，補足的なものであるため削除。
150	・礫状化し，礫に細粒物が付着するが，掘削時の機械割れと判断し削除。
151	・色調，鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。

H27-B-4

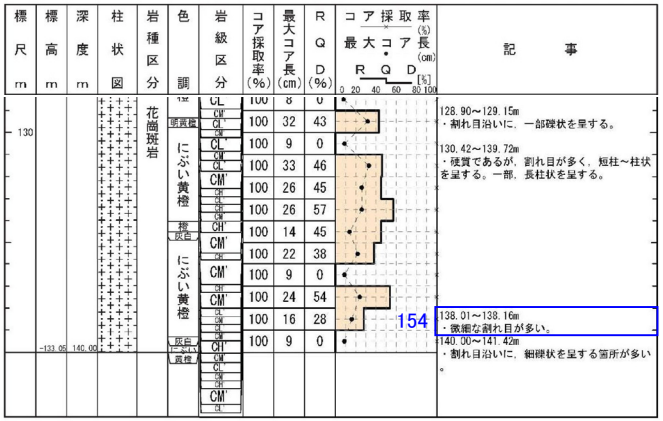
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
152	135.28～135.60m　この間の低角度割れ目は2～3条の割れ目が2～4m程度の距離で平行に接している。岩質は硬い
152	136.00～136.20　高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された狭在物が見られるものがある。 136.34mの38°の割れ目に沿って幅緑色味を帯びた変質部（緑泥石化作用）が見られ、その中に小さな輝沸石が散在し光る。 136.61m　局所的（5～15mm幅）に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる
153	137.02～138.59m　堅硬な柱状コア
154	138.01～138.16m　微細でほぼ平行した割れが非常に卓越
155	138.29m　巾10mmで平行した割れ目が非常卓越する
156	139.90m　70°のシャープな剪断性の節理、巾10mmの砂状とマンガンの狭在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる
	検尺　140.00m

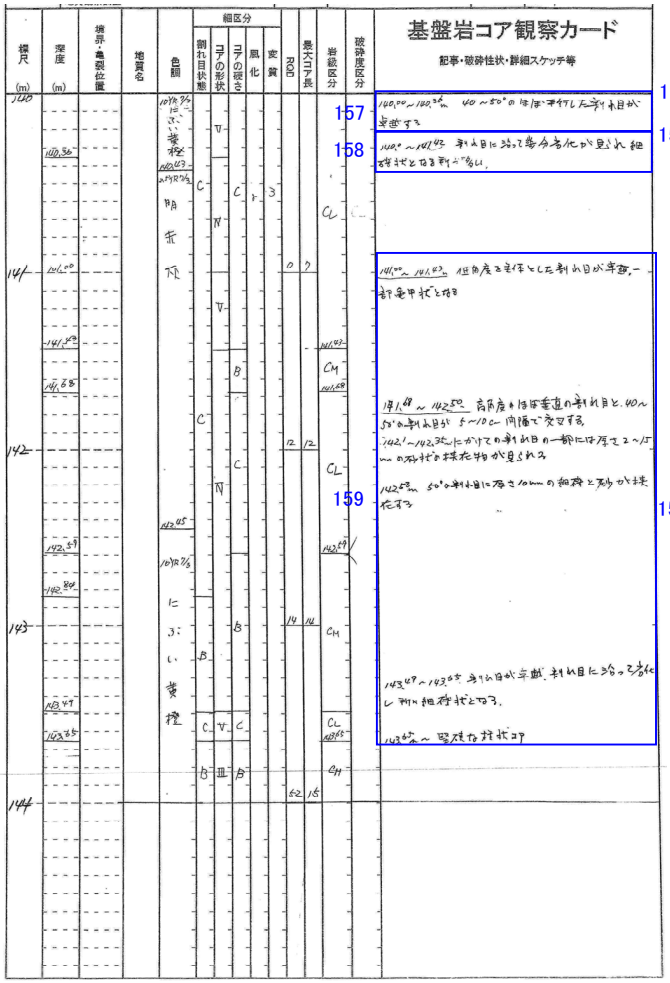
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
152	・色調，鉱物の晶出，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
153	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
154	・割れ目が平行との記載については，補足的なものであるため削除。
155	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。
156	・砂を挟在し，剪断性の節理との記載があるが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンの挟在については，補足的なものであるため削除。

H27-B-4

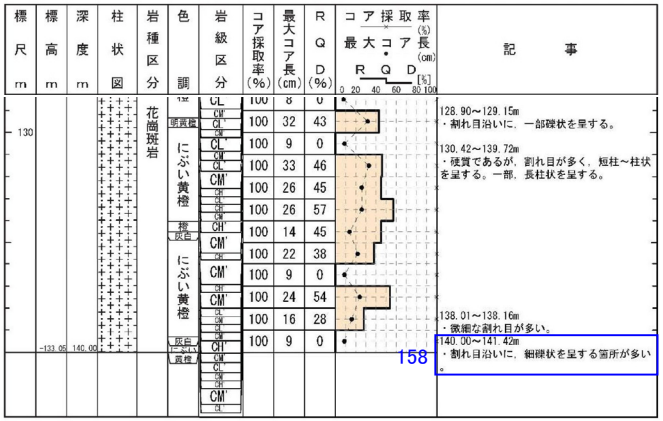
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
157	140.00～140.36m　40～50°のほぼ平行した割れ目が卓越する
158	140.0～141.42　割れ目に沿って幾分劣化が見られ細礫状となる所が多い。
159	141.00～141.43m　低角度を主体とした割れ目が卓越。一部亀甲状となる 141.68～142.50m　高角度のほぼ垂直の割れ目と、40～50°の割れ目が5～10cm間隔で交叉する。 142.1～142.35mにかけて割れ目の一部には厚さ2～15mmの砂状の狭在物が見られる 142.53m　50°の割れ目に厚さ10mmの細礫と砂が狭在する 143.49～143.65　割れ目が卓越、割れ目に沿って劣化し所々細礫状となる。 143.65m～　堅硬な柱状コア

申請書用柱状図



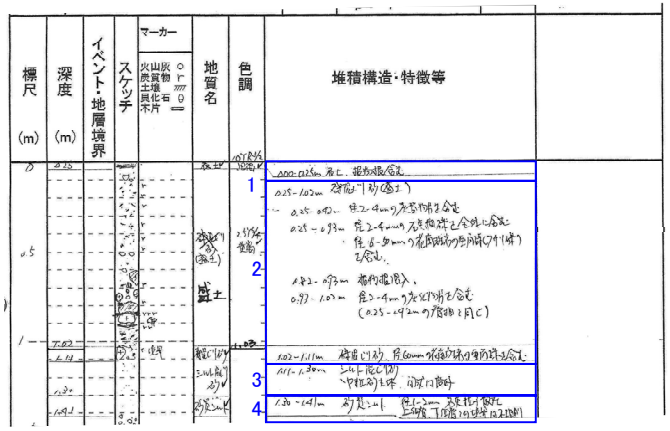
記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
157	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については，補足的なものであるため削除。
158	・変更なし
159	・余掘り区間のため削除。

H27-D5-1

余白

H27-D5-1

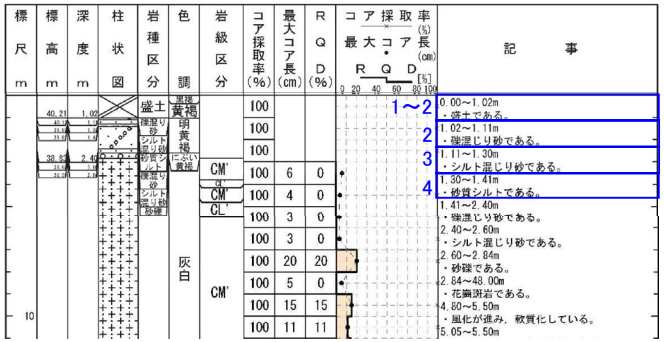
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
1	0.00～0.25m　表土、植物根含む。 0.25～1.02m　礫混じり砂（盛土）
2	0.25～0.42m　径2～4mmの炭質物片を含む 0.25～0.93m　径2～4mmの石英細礫を全体に含む 径6～50mmの花崗斑岩の亜角礫（クサリ礫）を含む。 0.82～0.93m　植物根混入 0.93～1.02m　径2～4mmの炭化物片を含む（0.25～0.92mの層相と同じ） 1.02～1.11m　礫混じり砂、径60mmの花崗斑岩の亜角礫を含む
3	1.11～1.30m　シルト混じり砂 中粒砂主体、淘汰は良好
4	1.30～1.41m　砂質シルト　径1～2mm石英粒子散在 上位層、下位層との境界は不規則

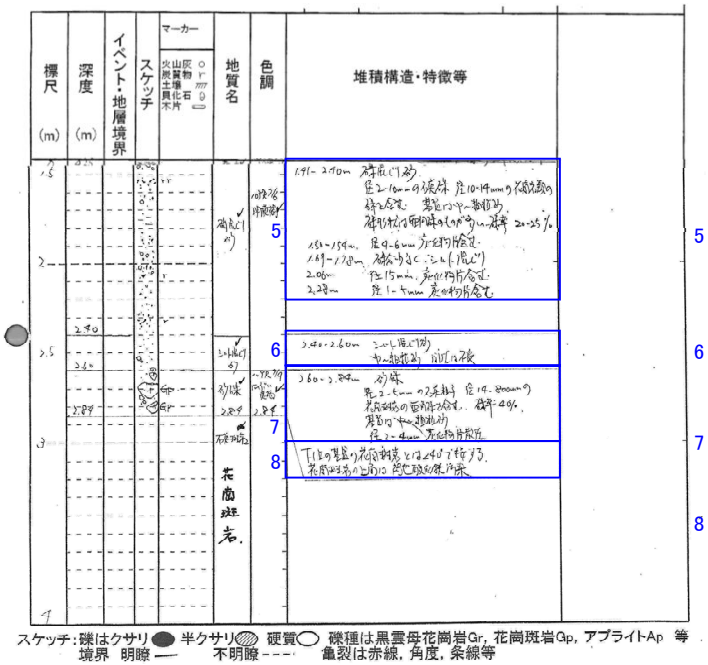
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
1,2	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
3	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
4	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-D5-1

コア観察カード
（H27年8月）

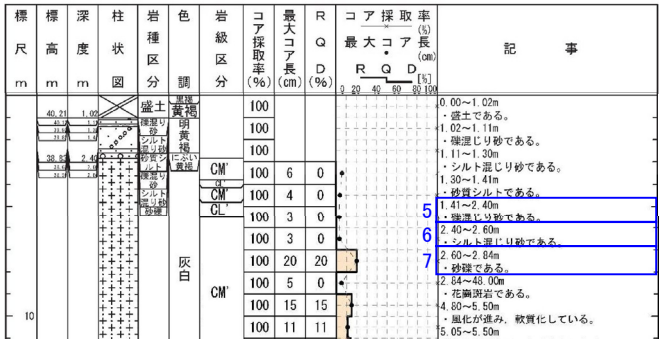


スケッチ：礫はクサリ● 半クサリ◎ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr，花崗斑岩Gp，アプライトAp 等
境界 明瞭 ― 不明瞭 - - - 亀裂は赤線，角度，条線等

コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
5	1.41～2.40m 礫混じり砂 径2～10mmの石英礫 径10～14mmの花崗岩類の礫を含む 基質は中～粗粒砂 礫形状は亜円礫のものが多い礫率20-25% 1.50～1.54m 径4～6mm炭化物片含む 1.69～1.78m 礫分少なく シルト混じり 2.06m 径15mm 炭化物片含む 2.28m 径1～5mm炭化物片含む
6	2.40～2.60m シルト混じり砂 中～粗粒砂 淘汰は不良
7	2.60～2.84m 砂礫 径2～5mmの石英粒子 径14～800mmの花崗斑岩の亜角礫を含む 礫率40% 基質は中～粗粒砂 径2～4mm炭化物片散在
8	下位の基盤の花崗斑岩とは∠40° で接する 花崗斑岩の上面は褐色酸化鉄汚染

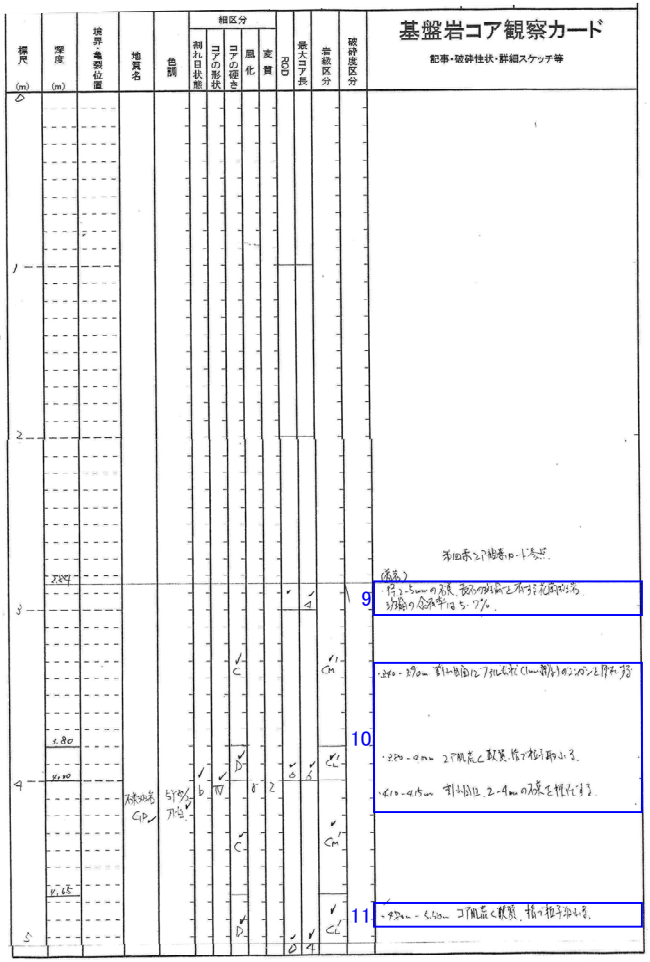
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
5	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
6	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は，埋土，砂礫等の性状を示すこととし，“地質名”欄に対応した層相名を記載。
8	・地層境界の傾斜，酸化鉄汚染については，補足的なものであるため削除。

H27-D5-1

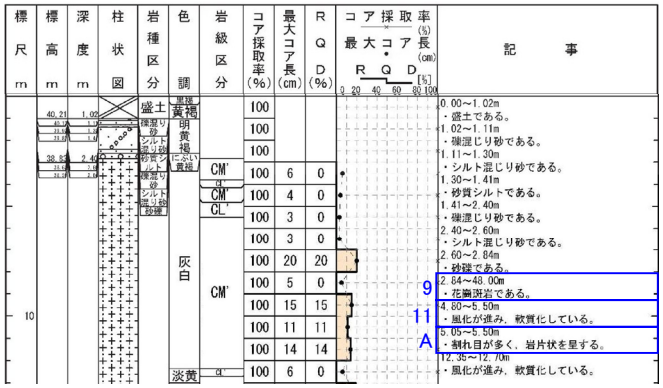
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	（着岩）
9	径2～5mmの石英、長石の斑晶を有する花崗斑岩 斑晶の含有率は5～7%
10	3.40～3.90m　割れ目面にフィルム状（1mm程度）のマンガンを挟在する 3.80～4.00m　コア肌荒く軟質　指で粒子取れる 4.10～4.15m　割れ目に2～4mmの石英を挟在する
11	4.80～5.50m　コア肌荒く軟質　指で粒子取れる

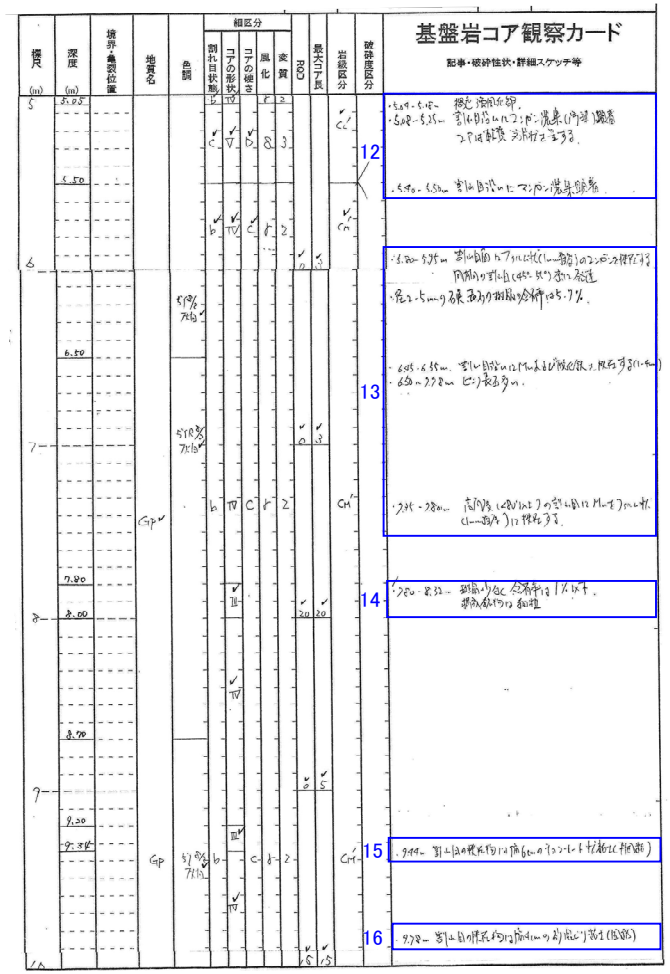
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
9	・“地層名”欄に基づき，花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
10	・割れ目沿いのマンガン，石英の挟在については，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については岩級区分に含めて示しているため削除。
11	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき，風化が進み，軟質化していると記載。
A	・“コアの形状”欄に基づき，岩片状を呈する区間とその深度区間を記載。

H27-D5-1

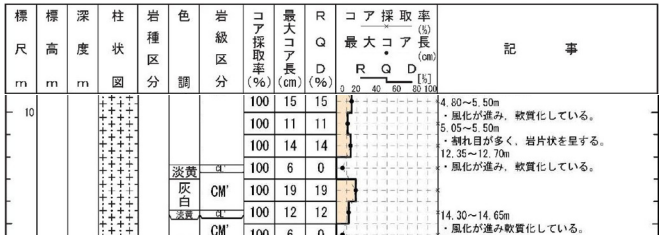
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
12	5.04～5.08m　褐色強風化部 5.08～5.25m　割れ目沿いにマンガン濃集（汚染）顕著　コアは軟質　岩片状を呈する 5.40～5.50m　割れ目沿いにマンガン濃集顕著
13	5.80～5.95m　割れ目面はフィルム状（1mm程度）のマンガンを挟在する 同方向の割れ目（45°～55°）密に発達 径2～5mmの石英、長石の斑晶の含有率は5～7% 6.45～6.55m　割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する（1～4mm） 6.50～7.78m　ピンク長石多い 7.35～7.80m　高角度（∠80° 以上）の割れ目にMnをフィルム状（1mm程度）に挟在する。
14	7.80～8.32m　斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒
15	9.44m　割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土（半固結）
16	9.78m　割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土（固結）

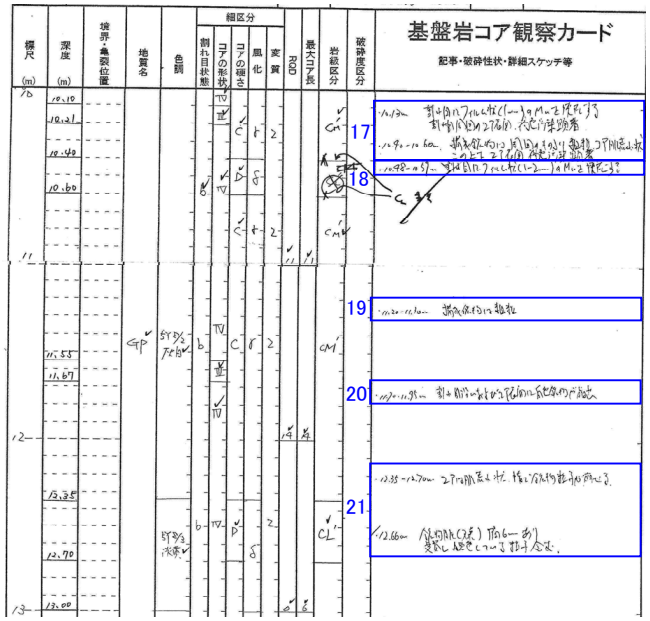
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
12	・色調，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・風化の程度，硬軟，割れ目の発達の程度については，記事No.11，No.Aで示していることから削除。
13	・割れ目沿いのマンガン，酸化鉄については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
14	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
15	・粘土を挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
16	・砂混じり粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-D5-1

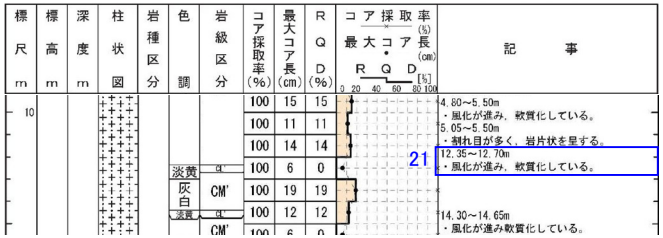
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
17	10.13m　割れ目にフィルム状（1mm）のMnを挟在する 割れ目周囲のコア表面、褐色汚染顕著 10.40～10.60m　構成鉱物は周囲のものより粗粒、コア肌荒れ状 この上下コア表面　褐色汚染顕著
18	10.48～10.59m　割れ目にフィルム状（1～2mm）のMnを挟在する
19	11.20～11.30m　構成鉱物は粗粒
20	11.70～11.95m　割れ目沿いおよびコア表面に白色鉱物が晶出
21	12.35～12.70m　コアは肌荒れ状。指で鉱物粒子が崩せる。 12.66m　鉱物脈（石英）幅6mmあり 変質し脱色している粒子含む

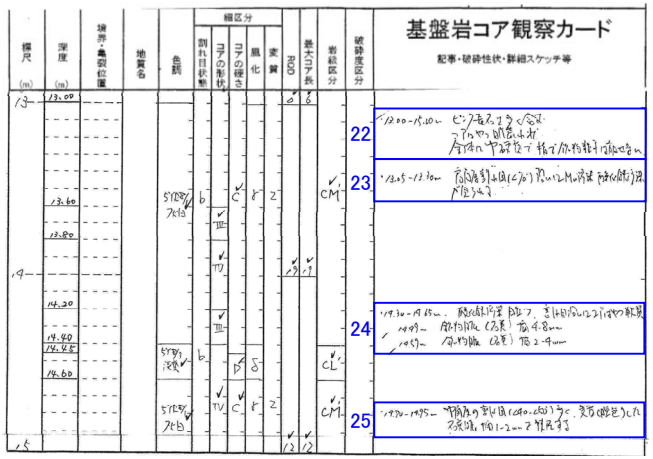
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
17	・マンガン，褐色汚染，構成鉱物の粒度については，補足的なものであるため削除。
18	・マンガンについては，補足的なものであるため削除。
19	・構成鉱物の粒度については，補足的なものであるため削除。
20	・鉱物の晶出については，補足的なものであるため削除。
21	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき，風化が進み，軟質化していると記載。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-D5-1

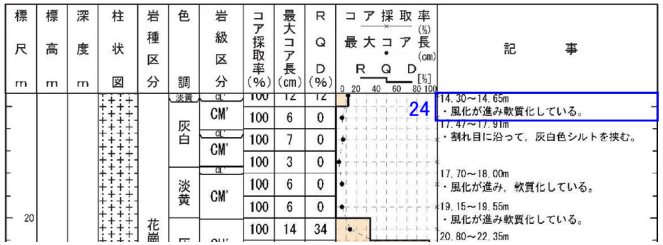
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
22	13.00～15.00m　ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。 全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。
23	13.05～13.30m　高角度割れ目（∠70°）沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる
24	14.30～14.65m　酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m　鉱物脈（石英）幅4.8mm 14.59m　鉱物脈（石英）幅2.4mm
25	14.80～14.95m　中角度の割れ目（∠40～∠50°）多く、変質（脱色）した石英脈幅1～2mmを挟在する。

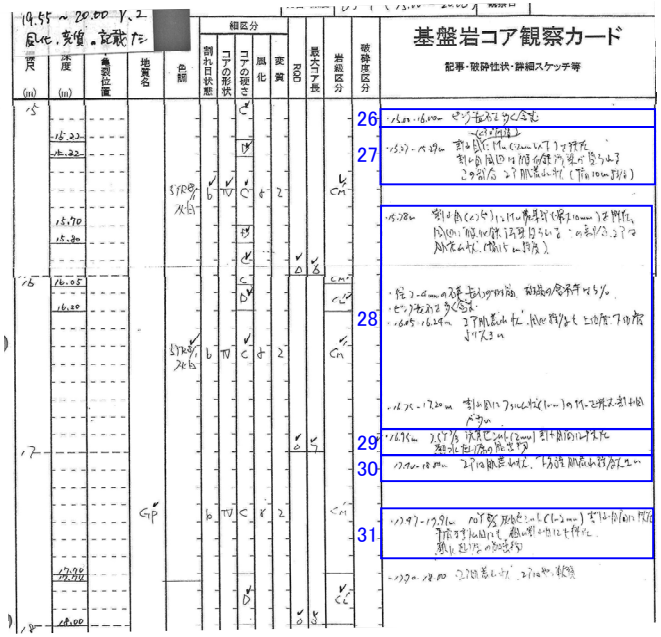
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
22	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・硬軟については，岩級区分に含めて示しているため削除。
23	・マンガン，酸化鉄汚染については，補足的なものであるため削除。
24	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき，風化が進み，軟質化していると記載。 ・酸化鉄汚染，鉱物脈については，補足的なものであるため削除。
25	・割れ目の発達の程度については，周囲の割れ目と差異が見られないため削除。 ・鉱物脈については，補足的なものであるため削除。

H27-D5-1

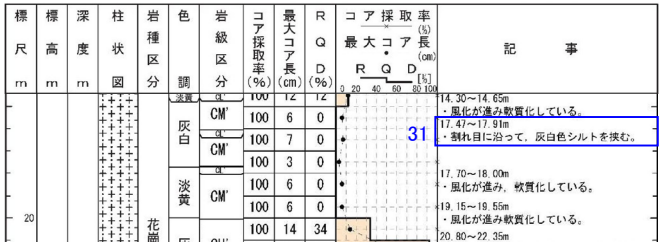
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
26	15.00～16.00m　ピンク長石を多く含む
27	15.27～15.29m　割れ目（∠30°　前後）にMn（2mm以下）を挟在 割れ目周囲は酸化鉄汚染が見られる この部分コア肌荒れ状（幅10cm程度）
28	15.78m　割れ目（∠25°　）にMn濃集部（最大10mm）を挟在、 周囲は酸化鉄汚染見られる。この部分、コアは肌荒れ状（幅15cm程度） 径2～4mmの石英、長石の斑晶。斑晶の含有率は5% ピンク長石を多く含む 16.05～16.24m　コア肌荒れ状、風化程度も上位層下位層より大きい 16.75～17.20m　割れ目にフィルム状（1mm）のMnを挟む割れ目が多い
29	16.95m　7.5Y7/3　淡黄色シルト（2mm）割れ目面に挟在 熱水起源の晶出物
30	17.40～18.00m　コア肌荒れ状、下方程肌荒れ程度大きい
31	17.47～17.91m　10Y8/2灰白色シルト（1～2mm）割れ目面に挟在 平滑な割れ目にも荒い割れ目にも挟在 熱水起因の晶出物

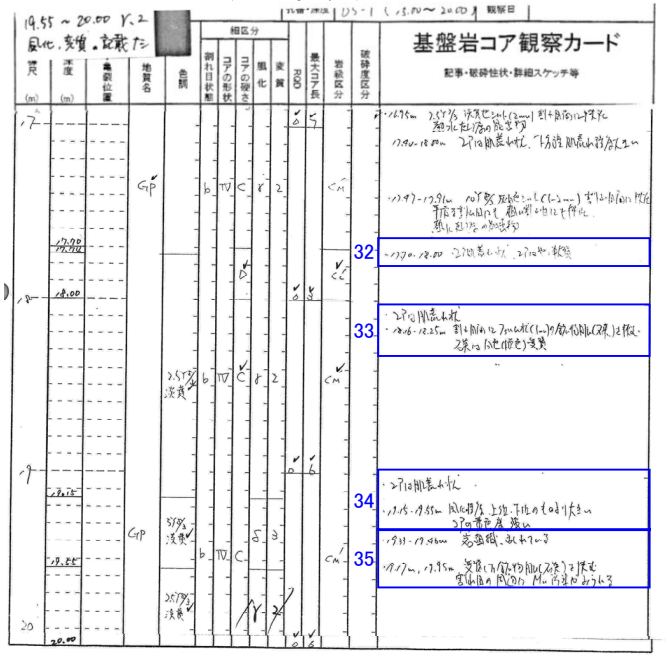
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
26	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
27	・マンガン，酸化鉄汚染，コアの粗さについては，補足的なものであるため削除。
28	・マンガン，酸化鉄汚染，コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
29	・シルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
30	・コア表面の粗さについては，補足的なものであるため削除。
31	・シルトの幅については，ばらつきがあることから削除。 ・割れ目の平滑さ，熱水起源の晶出物との記載については補足的なものであるため削除。

H27-D5-1

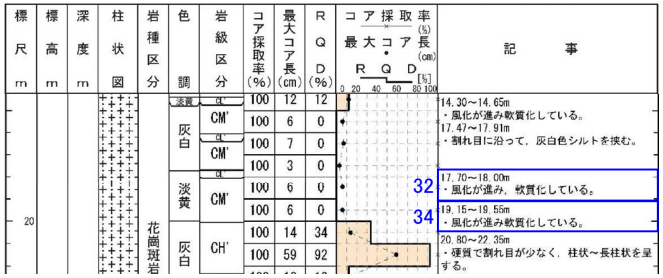
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	19.55～20.00　r2 風化，変質の記載ナシ
32	17.70～18.00　コア肌荒れ状　、コアはやや軟質
33	コアは肌荒れ状 18.16～18.25m　割れ目面にフィルム状（1mm）の鉱物脈（石英）を挟む 石英は白色（脱色）変質
34	コアは肌荒れ状 19.15～19.55m　風化程度、上位、下位のものより大きい コアの黄色度、強い
35	19.33～19.46m　岩組織、乱れている。 19.17～19.95m　変質した鉱物脈（石英）を挟む。 割れ目の周辺にMn汚染がみられる。

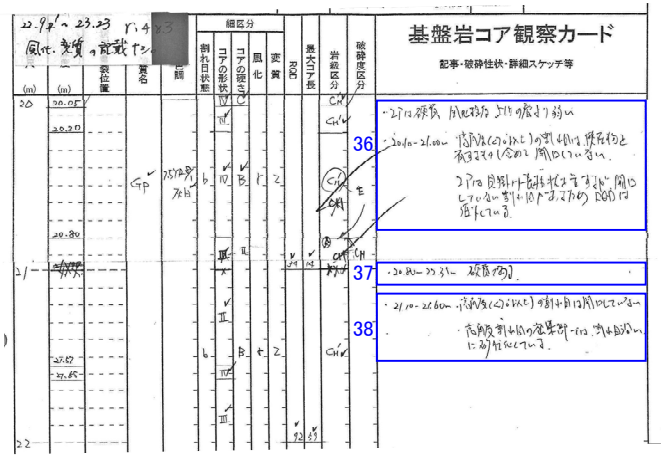
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
32	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき風化が進み，軟質化していると記載。 ・コアの粗さについては，補足的なものであるため削除。
33	・鉱物脈，コアの粗さについては，補足的なものであるため削除。
34	・コアは肌荒れ状との記載については，補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し（コアの黄色度強い→風化が進み，軟質化している）
35	・岩組織乱れているとの記載については，岩盤に劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈，マンガンについては，補足的なものであるため削除。

H27-D5-1

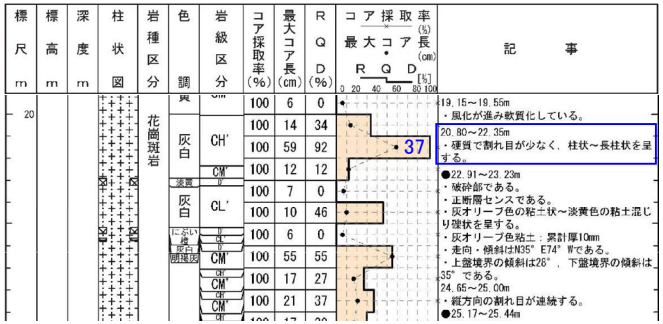
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
36	コアは硬質　風化程度　上位の層より弱い。 20.10～21.00m　高角度（∠70°　以上）の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。 コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
37	20.80～22.35m　硬質である。
38	21.10～21.60m　高角度（∠70°　以上）の割れ目は開口していない。 高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂状化している。

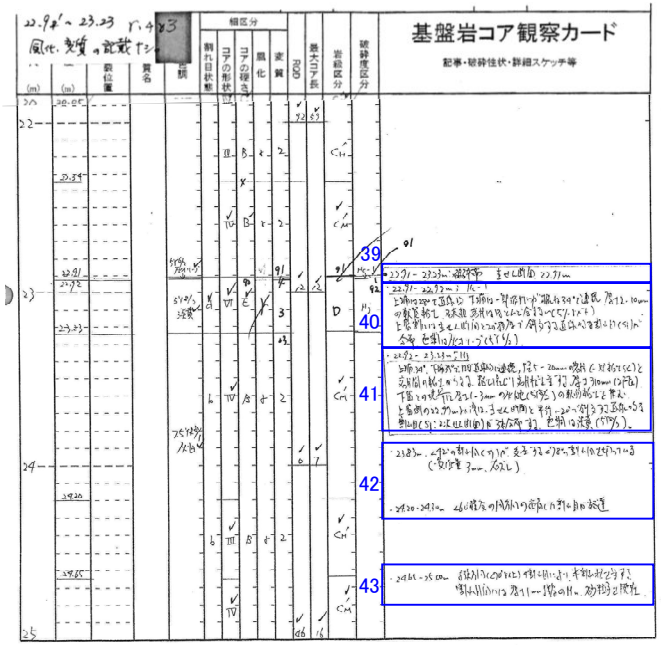
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
36	・硬軟，割れ目の発達の程度，風化については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の開口状況については，補足的なものであるため削除。
37	・“コアの形状”欄に基づき，柱状～長柱状と記載。
38	・割れ目の傾斜，割れ目の開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目沿いで砂状化するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-D5-1

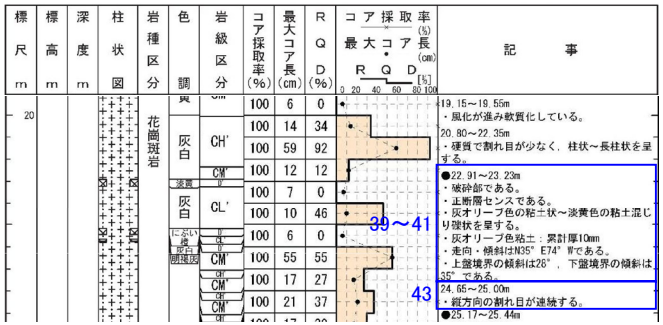
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	22.91～23.23　r4と3 風化，変質の記載ナシ
39	●22.91～23.23m：破砕帯　主せん断面22.91m
40	22.91～22.92m：Hc-1 上端は28°で直線的、下端は一部波打つが概ね34°で連続厚さ2～10mmの軟質粘土。石英粒，岩片はほとんど含まない（5%以下） 上盤側には主せん断面と20°程度で斜交する直線的な割れ目（Si）が分布 色調は灰オリーブ（5Y6/2）
41	22.92～23.23m：Hj 上端34°，下端35°でほぼ直線的に連続、径5～20mmの岩片（一部粘土化）と岩片間の粘土からなる。粘土混り岩片状を呈する。厚さ310mm（コア長）下端との境界に厚さ1～3mmの灰白色（5Y8/2）の軟弱粘土を挟む。 上端側の22.97m以浅は、主せん断面と平行～20°で斜交する直線的な割れ目（Sj：2次せん断面）が3本分布する。色調は淡黄（5Y8/2）
42	23.83m　∠42°の割れ目（Sj）が交差する∠78°の割れ目を切っている（変位量3mm、右ズレ） 24.20～24.30m　∠60°程度の同方向の密着した割れ目が発達
43	24.65～25.00m　縦方向（∠70°以上）の割れ目により、半割れ状を呈する。 割れ目面には厚さ1mm程度のMn、砂粒子を挟在。

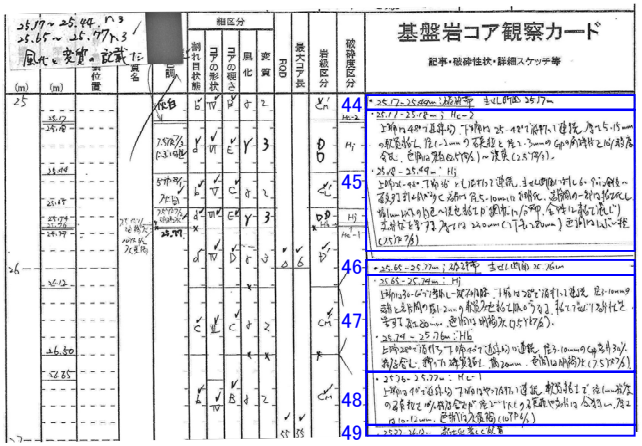
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
39～41	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混り岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
42	・割れ目を切っているとの記載については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。
43	・割れ目の傾斜，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いの砂粒子の挟在については，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-D5-1

コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

25.17～25.44 r3 25.65～25.77 r3
風化，変質の記載ナシ

44 ●25.17～25.44m：破砕帯 主せん断面25.17m

25.17～25.18m：Hc-2
上端は48° で直線的、下端は25～48° で波打って連続。厚さ5～15mmの軟質粘土、径1～2mmの石英粒と径2～3mmのGPの角礫片を10%程度含む。色調は灰白（2.5Y8/2）～淡黄（2.5Y8/3）

45 25.18～25.44m：Hj
上端25～48° 、下端36° とも波打って連続、主せん断面に対し60～90° に斜交～直交する割れ目が多く岩片は径5～10mmに細片化。岩片間の一部は粘土化し幅1mm以下の白色～淡色粘土が網状に分布。全体に粘土混じり岩片状を呈する。厚さは230mm（コア長280mm）色調はにぶい橙（7.5YR7/9）

46 ●25.65～25.77m：破砕帯 主せん断面25.76m

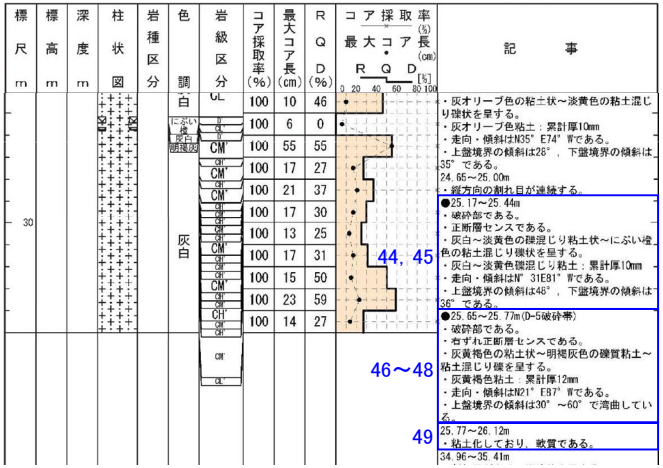
25.65～25.74m：Hj
上端は30～60° で湾曲し一部不明瞭。下端は28° で波打って連続 径3～10mmの岩片と岩片間の幅1～2mmの軟質灰色粘土脈からなる。粘土混じり岩片状を呈する。厚さ80mm。色調は明褐灰（7.5YR7/2）

47 25.74～25.76m：Hb
上端28° で波打ち下端40° で直線的に連続 径3～10mmのGP岩片30%程度含む。締った礫質粘土、幅20mm。色調は明褐灰（7.5YR7/2）

25.76～25.77m：Hc-1
48 上端は40° で直線的。下端はやゝ波打って連続，軟質粘土で径1mm程度の石英粒を10%程度含むが径2mm以上の石英粒や岩片は含まない。厚さは10～12mm。色調は灰黄褐（10YR6/2）

49 25.77-26.12m 粘土化著しく軟質

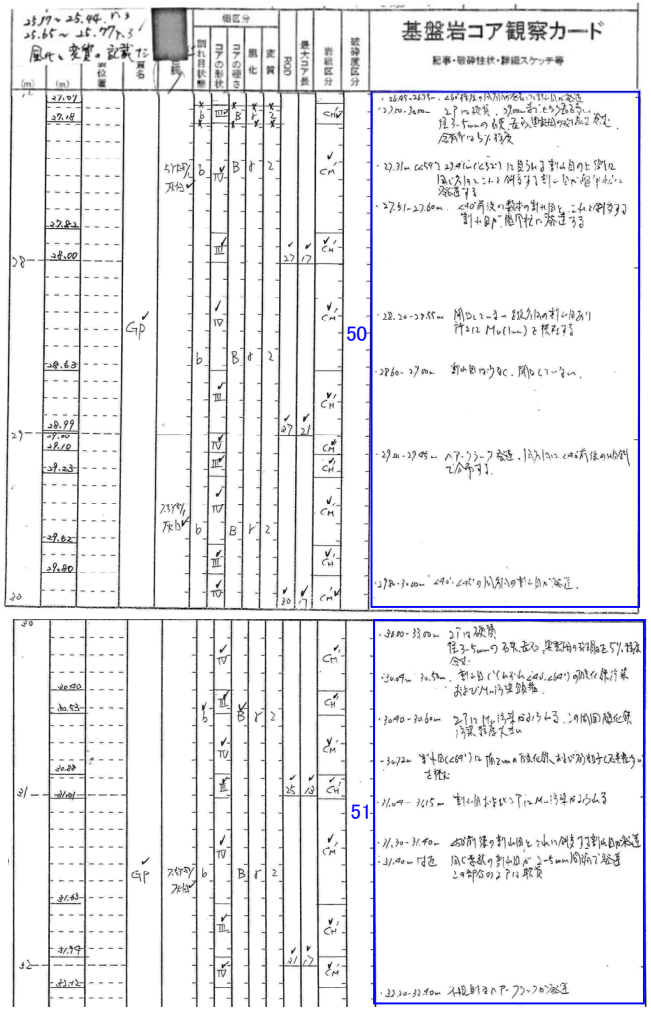
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
44，45	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混り岩片状→粘土混じり礫状） ・径1～2mmの石英粒と径2～3mmのGpの角礫片を10%程度含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については，膨縮が大きいことから，平均値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
46～48	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土混じり礫状→粘土混じり礫※1 ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
49	・変更なし

H27-D5-1

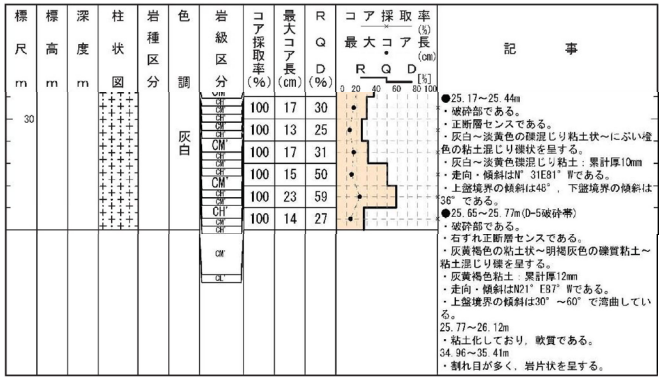
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
26.45-26.75m　∠60°程度の同方向の密着した割れ目が発達 27.10-30.00m　コアは硬質。29.00mまでピンク長石多い。 径3～5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を含む。 含有率は5%程度。 27.31mm(∠54°)27.41mm(∠52°)に見られる割れ目の上側に同じ方向とこれと斜交する割れ目が亀甲に発達する。 27.51-27.60m　∠40°前後の数本の割れ目と，これと斜交する割れ目が亀甲状に発達する。 28.20-28.55m　開口していない縦方向の割れ目あり 所々にMn(1mm)を挟在する 28.60-29.00m　割れ目は少なく、開口していない。 29.00-29.45m　ヘアークラック発達、同方向は∠40°前後の傾斜で分布する。 29.80-30.00m　∠40°、∠45°の同方向の割れ目が発達。	50
30.00-33.00m　コアは硬質 径3-5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を5%程度含む。 30.04m 30.50m　割れ目(それぞれ∠40°、∠64°)の酸化鉄汚染およびMn汚染顕著。 30.40-30.60m　コアにMn汚染がみられる。この周囲酸化鉄汚染程度大きい。 30.72m　割れ目(∠64°)に幅2mmの酸化鉄および砂粒子(石英粒多い)を挟む。 31.04-31.15m　割れ目およびコアにMn汚染がみられる。 31.30-31.40m　∠50°前後の割れ目とこれに斜交する割れ目が発達 31.40m付近　同じ系統の割れ目が2～5mm間隔で発達 この部分のコアは軟質 32.20-32.40m　不規則なヘアークラックが発達	51

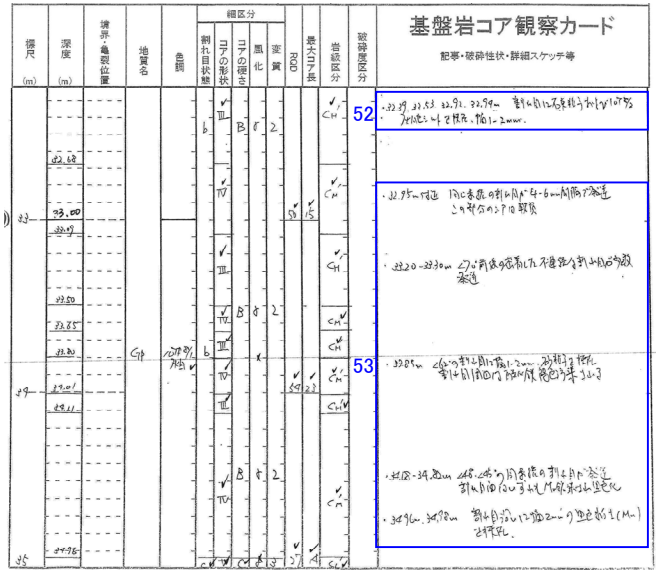
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50, 51	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。 ・マンガン，割れ目の開口状況，酸化鉄汚染については，補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-D5-1

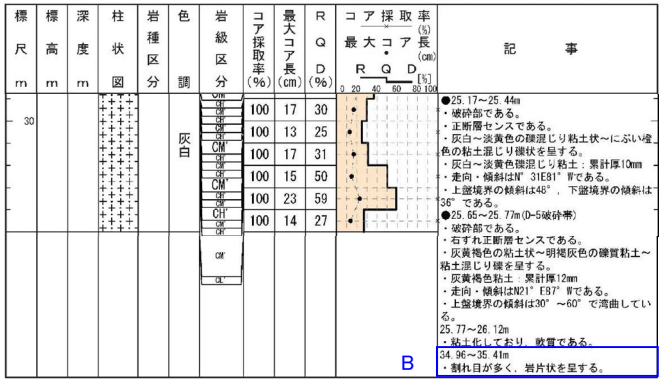
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
52	32.39、32.53、32.92、32.94m　割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟在。幅1～2mm
53	32.95m付近　同じ系統の割れ目が4～6mm間隔で発達。 この部分のコアは軟質 33.20-33.30m　∠70°前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。 33.85m　∠62°の割れ目に幅1～2mm、砂粒子を挟在 割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。 34.68-34.82m　∠40°、∠45°の同系統の割れ目が発達 割れ目面はいずれもMn鉱染され黒色化 34.96m、34.98m　割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。

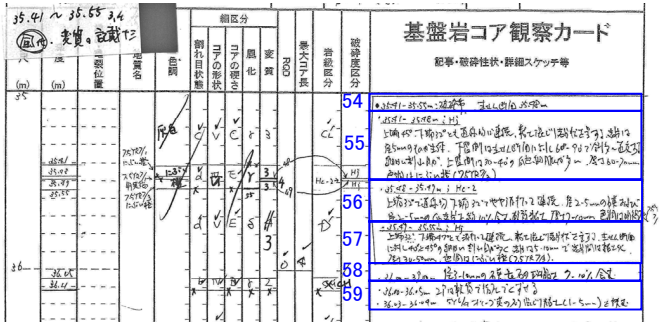
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
52	・シルトを挟在するが，連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
53	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜，割れ目の密着状態，マンガン，褐色汚染については，補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが，周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの形状”欄に基づき，岩片状と記載。

H27-D5-1

コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容

35.41～35.55　3，4
風化，変質の記載ナシ

54 ●35.41-35.55m:破砕帯　主せん断面35.48m

55 35.41-35.48m；Hj
上端45°下端32°とも直線間に連続、粘土混じり岩片状を呈する。岩片は径5mmのものが主体。下盤側は主せん断面に対し60°～90°で斜交～直交する
細かい割れ目が上盤側は30～40°の白色細脈が多い。厚さ60～70mm
色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。

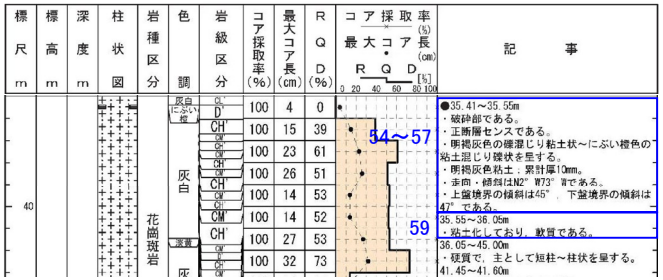
56 35.48-35.49m；Hc-2
上端32°で直線的下端32°でやや波打って連続。径2～5mmの石英および径2～5mmのGp岩片を約10%含む軟質粘土。厚さ7～10mm色調は明褐灰(7.5YR7/1。

57 35.49-35.55m；Hj
上端32°下端47°とも波打って連続。粘土混じり岩片状を呈する。主せん断面に対し40°と45°の細い割れ目が多く岩片は5～10mmで岩片間は粘土化厚さ30～50mm。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)

58 36.00-39.00m　径3～10mmの石英、長石の斑晶を7～10%含む

59 36.00-36.05m　コアは軟質で指圧でくずせる。
36.03-36.04m　5Y6/4オリーブ黄の砂混じり粘土(1～5mm)を挟む

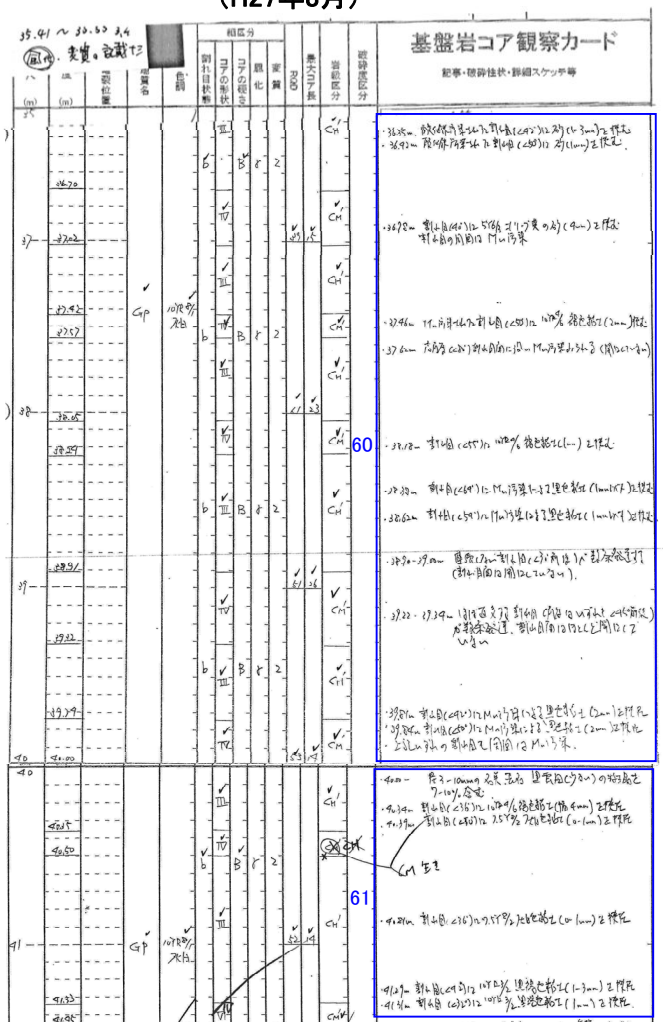
申請書用柱状図



記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
54～57	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・径2～5mmの石英および径2～5mmのGp岩片を約10%含むとの記載に基づき，礫混じり粘土状と記載。 ・表現の見直し（粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状） ・粘土の累計幅については，最大値を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率については，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
58	・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。
59	・“コアの硬さ”欄に基づき，35.55～36.05m，粘土化しており，軟質であると記載。 ・粘土の幅については，ばらつきがあるため削除。

H27-D5-1

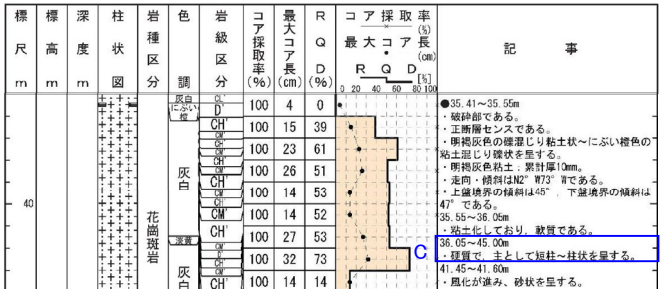
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
36.35m　酸化鉄汚染された割れ目(∠42°　)に砂(1～3mm)を挟む。 36.42m　酸化鉄汚染された割れ目(∠50°　)に砂(1mm)を挟む。 36.78m　割れ目(40°　)に5Y6/3オリーブ黄の砂(4mm)を挟む 割れ目の周囲はMn汚染 37.46m　Mn汚染された割れ目(∠50°　)に10YR4/6褐色粘土(2mm)挟む 37.62m　高角度(∠80°　)割れ目面に沿いMn汚染みられる。(開口していない) 38.18m　割れ目(∠55°　)に10YR4/6褐色粘土(1mm)を挟む 38.38m　割れ目(∠64°　)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む 38.62m　割れ目(∠59°　)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む 38.90-39.00m　連続しない割れ目(∠30°　前後)が数条発達する。 (割れ目面は開口していない) 39.22-39.34m　ほぼ直交する割れ目(角度はいずれも∠45°　前後)が数条発達、 割れ目面はほとんど開口していない。 39.81m　割れ目(∠42°　)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 39.84m　割れ目(∠50°　)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 上記いずれの割れ目も周囲はMn汚染	60
40.00-　径3～10mmの石英、長石、黒雲母(少ない)の斑晶を7～10%含む 40.34m　割れ目(∠36°　)に10YR4/6褐色粘土(幅4mm)を挟在 40.39m　割れ目(∠30°　)に7.5Y8/2灰白色粘土(0～1mm)を挟在 40.81m　割れ目(∠36°　)に7.5Y8/2灰白色粘土(0～1mm) を挟在 41.29m　割れ目(∠42°　)に10YR3/2黒褐色粘土(1～3mm)を挟在 41.31m　割れ目(∠32°　)に10YR3/2黒褐色粘土(1mm)を挟在	61

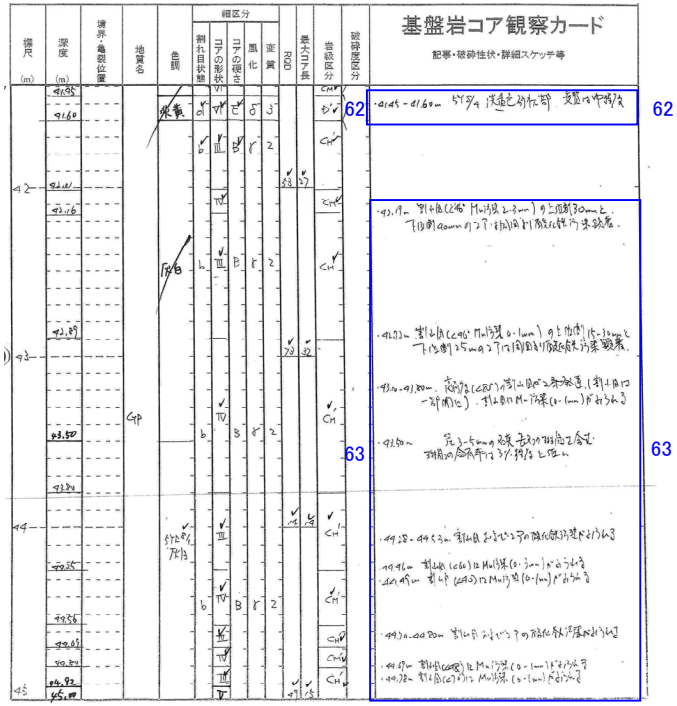
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
C	・“コアの硬さ”欄に基づき，硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき，短柱～柱状と記載。
60，61	・一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが，いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示していることから削除。 ・酸化鉄汚染，マンガン，割れ目の開口状況については，補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。

H27-D5-1

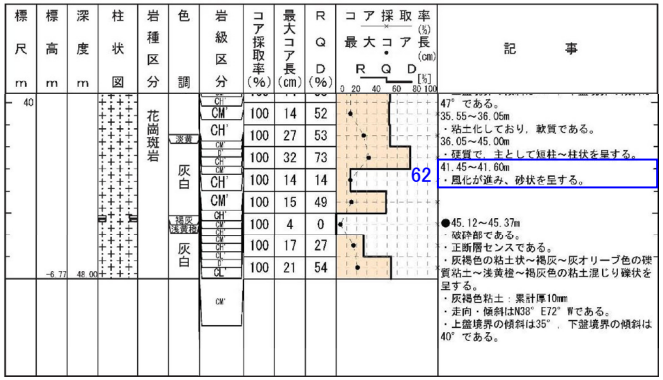
コア観察カード
（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
41.45-41.60m　5Y8/4淡黄色砂状部　変質は中程度
42.19m　割れ目(∠46°　Mn汚染2･3mm)の上位側30mmと 下位側40mmのコアは周囲より酸化鉄汚染顕著 42.92m　割れ目(∠46°　Mn汚染0-1mm)の上位側15-30mmと 下位側25mmのコアは周囲より酸化鉄汚染顕著 43.10-43.80m　高角度(∠80°　)の割れ目が2条発達。(割れ目は一部開口)割れ目はMn汚染(0～1mm)がみられる。 43.50～　径3～5mmの石英、長石の斑晶を含む 斑晶の含有率は3%程度と低い。 44.28-44.53m　割れ目およびコアの酸化鉄汚染がみられる。 44.46m　割れ目(∠60°　)にMn汚染(0～3mm)がみられる。 44.49m　割れ目(∠40°　)にMn汚染(0～1mm)がみられる。 44.70-44.80m　割れ目およびコアの酸化鉄汚染がみられる。 44.69m　割れ目(∠48°　)にMn汚染(0～1mm)がみられる。 44.78m　割れ目(∠70°　)にMn汚染(0～1mm)がみられる。

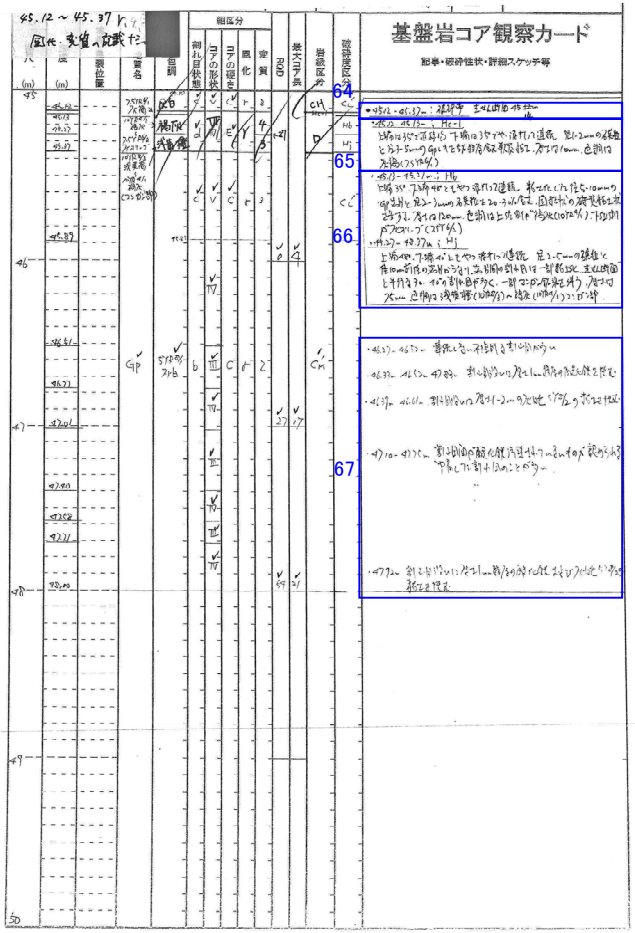
申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
62	・色調については，補足的なものであるため削除。 ・変質については，風化による褐色化が顕著であることを踏まえ削除し，“風化”欄に基づき風化が進みと記載。
63	・マンガンや酸化鉄汚染については，補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・一般的な岩相であり，石基及び斑晶の種類，粒径等については，特に目立つ区間のみ記載することとしており，特に目立つ区間ではないため削除。

H27-D5-1

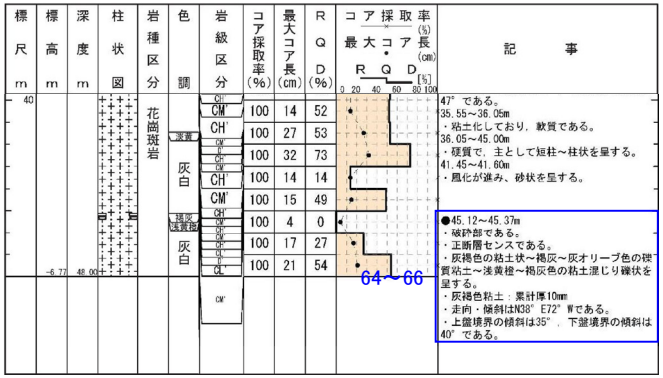
コア観察カード（H27年8月）



コア観察カードの仮ワープロ変換

	記事内容
	45.12～45.37　r 風化・変質の記載ナシ
64	●45.12-45.37m：破砕帯　主せん断面45.14m
65	45.12-45.13m：Hc-1 上端は35°で直線的下端は35°でやゝ波打って連続　径1～2mmの石英粒と径3～5mmのGpレキを5%程度含む軟質粘土。厚さは10mm色調は灰褐（7.5YR6/1）
66	45.13-45.27m：Hb 上端35°下端48°ともやゝ波打って連続　粘土化した径5～10mmのGp岩片と径2～3mmの石英粒を20-30%含む固結状の礫質粘土状を呈する。厚さは120mm色調は上端側が褐灰（10YR4/1），下端側が灰オリーブ（7.5Y6/2） 45.27-48.37m：Hj 上端48°下端40°ともやゝ波打って連続　径2～5mmの石英粒と径10mm前後の岩片からなり，岩片間の割れ目は一部粘土化。主せん断面と平行な30～40°の割れ目が多く一部でマンガン鉱染を伴う。厚さは75mm色調は浅黄橙（10YR8/3）～褐灰（10YR4/1）マンガン部
67	46.27-46.52m　連続しない不規則な割れ目が多い。 46.33m　46.52m　47.83m　割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄を挟む。 46.39m　46.61m　割れ目沿いに厚さ1～2mmの灰白色5Y5/2の粘土を挟む。 47.10-47.75m　割れ目面が酸化鉄汚染されているものが認められる。 ゆ着した割れ目のことが多い。 47.92m　割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄および灰白色5Y8/2の粘土を挟む。

申請書用柱状図



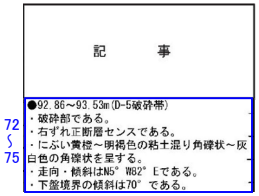
記事	コア観察カード（H27年8月）⇒申請書用柱状図
64～66	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し（岩片間の割れ目は一部粘土化→粘土混じり礫状） ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため，端部で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については，コア観察による最新活動面を示したものであり，申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径，粒子の種類，含有率，マンガンについては，補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため，HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性，硬軟については，申請書では記載しないこととしているため削除。
67	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの酸化鉄，割れ目の密着状態については，補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に粘土を挟在するが，いずれも直線性に乏しいことから削除。

余白

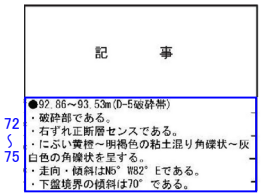
第865回審査会合資料２－２－２の修正箇所

H24-B8-21

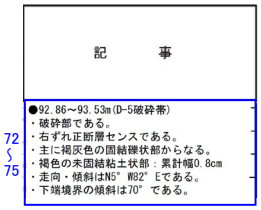
設置許可申請書案



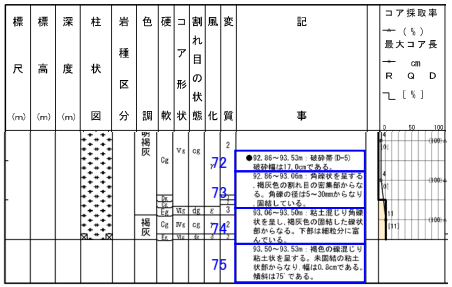
設置許可申請書
（平成27年11月）



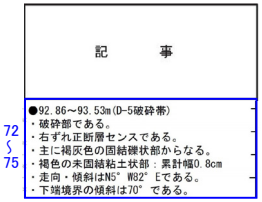
審査資料
（平成29年12月22日）



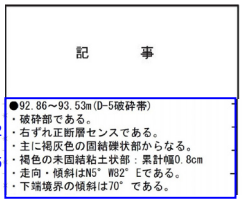
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



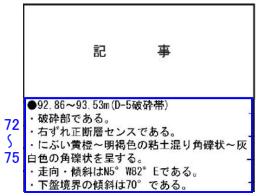
審査資料
（令和2年2月7日）



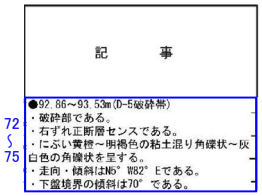
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
72～75	変更なし	・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。その後，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが，肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・下端境界の見かけ傾斜について，70° と書くべきところを誤って75° と記載。	・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については，固結礫状部に含めているため追記せず。	変更なし

H24-B8-21

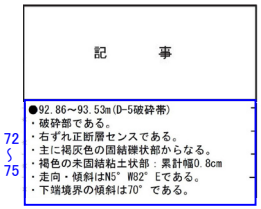
設置許可申請書案



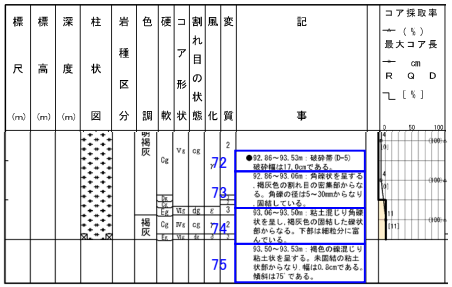
設置許可申請書
（平成27年11月）



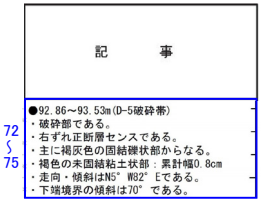
審査資料
（平成29年12月22日）



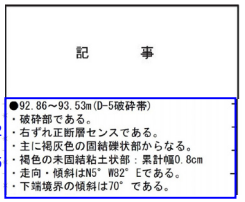
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



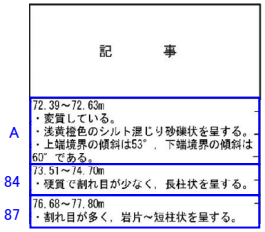
審査資料
（令和2年2月7日）



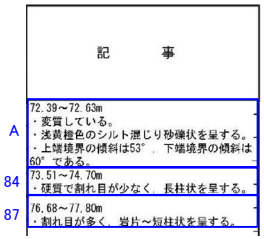
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
72～75	(誤記)下端境界の見かけの傾斜として，75° と書くべきところを誤って70° と誤って記載。	・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。その後，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが，肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は70° →75°)	・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については，固結礫状部に含めているため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし

H24-B11-1

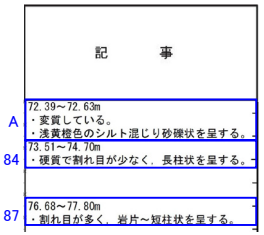
設置許可申請書案



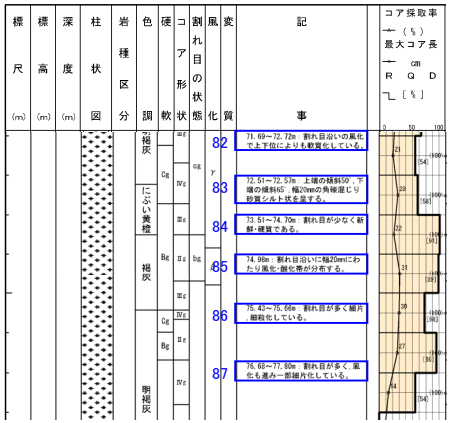
設置許可申請書
（平成27年11月）



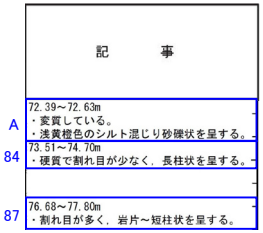
審査資料
（平成29年12月22日）



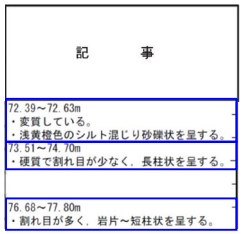
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



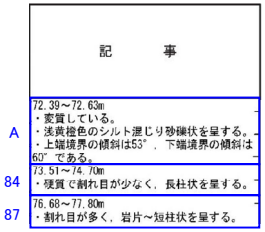
審査資料
（令和2年2月7日）



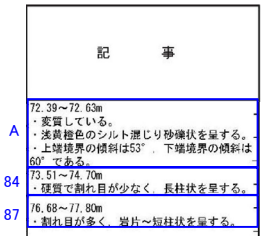
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
A	変更なし (誤記)報告書に該当する記載なし。	・変質している区間の境界の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。	・誤記修正(記事と整合する観察結果が認められないことから，記事を削除)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・記事削除の反映漏れ。	変更なし
82	―	―	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。 ・硬軟を記載。	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため追記せず。	―
83	―	―	・角礫混じり砂質シルト状の区間を記載。	・角礫混じり砂質シルト状を呈するが，内部にせん断構造が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	―
84	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・"コア形状"欄に基づき長柱状と記載。	変更なし
85	―	―	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化・酸化)。	・割れ目沿いの風化，酸化については，補足的なものであるため追記せず。	―
86	―	―	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒，細片化)。	・割れ目沿いで細粒，細片化するが，掘削時の機械割れと判断し追記せず。	―
87	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。 ・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については，"コア形状"欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため追記せず。	変更なし

H24-B11-1

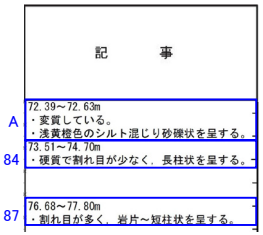
設置許可申請書案



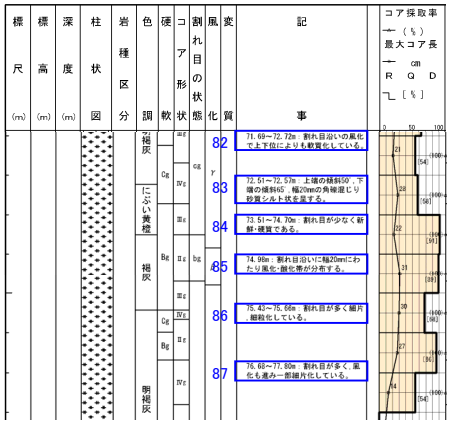
設置許可申請書
（平成27年11月）



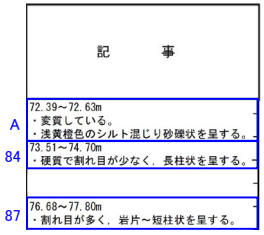
審査資料
（平成29年12月22日）



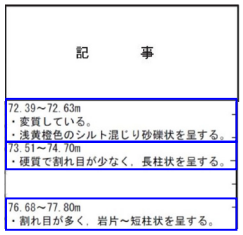
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



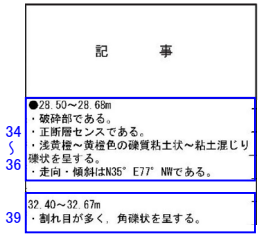
審査資料
（令和2年2月7日）



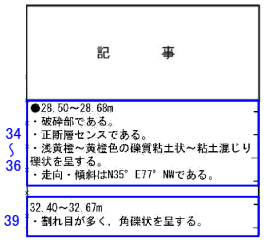
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
82	―	―	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。 ・硬軟を記載。	・硬軟の程度については，岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については，補足的なものであるため追記せず。	―
A，83	変更なし (誤記)72.51～72.57mと書くべきところを誤って72.39～72.63mと記載。	・変質している区間の境界の見かけの傾斜については，補足的なものであるため削除。	・誤記修正(72.39～72.63m→72.51～72.57m)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし
84	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・"コア形状"欄に基づき長柱状と記載。	変更なし
85	―	―	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化・酸化)。	・割れ目沿いの風化，酸化については，補足的なものであるため追記せず。	―
86	―	―	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒，細片化)。	・割れ目沿いで細粒，細片化するが，掘削時の機械割れと判断し追記せず。	―
87	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。 ・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については，"コア形状"欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・風化の程度については，当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため追記せず。	変更なし

H24-B14-2

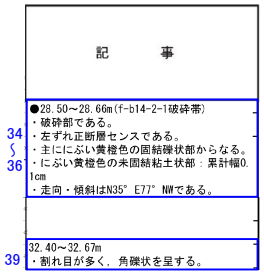
設置許可申請書案



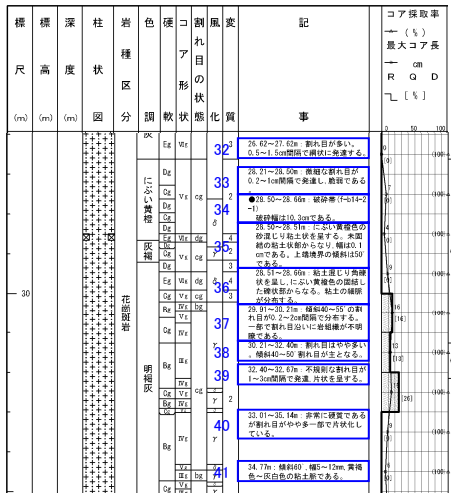
設置許可申請書（平成27年11月）



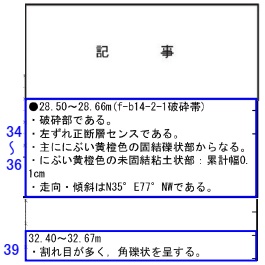
審査資料（平成29年12月22日）



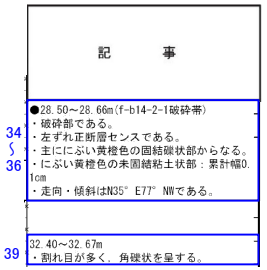
委託報告書（平成30年）



審査資料（平成30年11月30日）



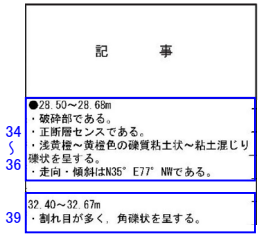
審査資料（令和2年2月7日）



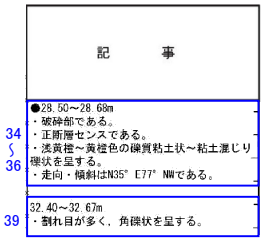
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
32,33	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
34～36	変更なし	・誤記修正(28.50～28.66m→28.50～28.68m)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・誤記修正(正断層センス→左ずれ正断層センス)。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。 ・粘土の細脈が分布するが，連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	変更なし (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
37	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
38	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
39	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
40	—	—	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
41	—	—	・粘土脈を記載。	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に同方向の劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B14-2

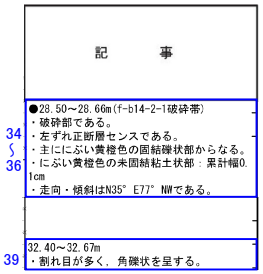
設置許可申請書案



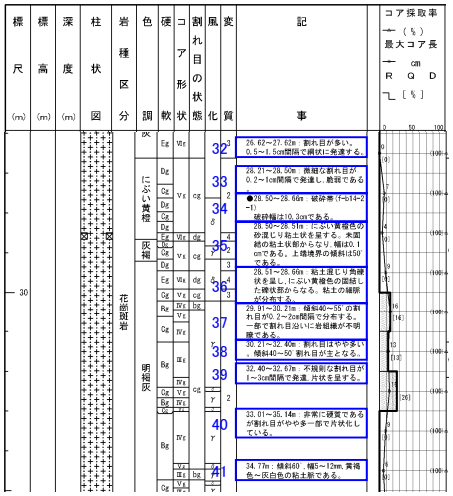
設置許可申請書
（平成27年11月）



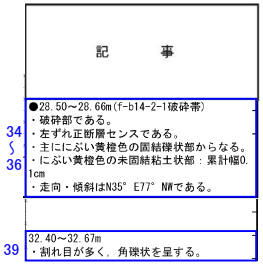
審査資料
（平成29年12月22日）



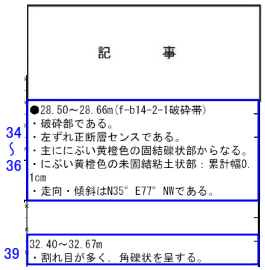
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



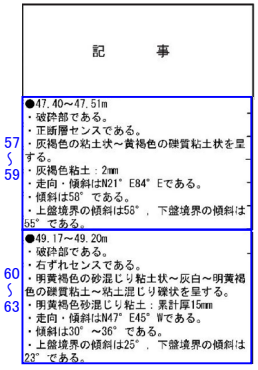
審査資料
（令和2年2月7日）



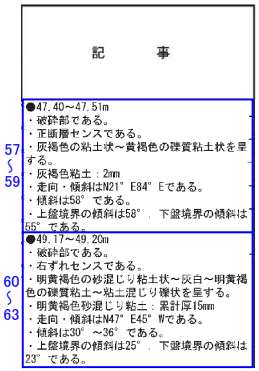
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
32,33	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
34〜36	変更なし	・誤記修正(28.50〜28.68m→28.50〜28.66m)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・誤記修正(正断層センス→左ずれ正断層センス)。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。 ・粘土の細脈が分布するが，連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	変更なし (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
37	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
38	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
39	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
40	—	—	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達の程度については，RQD，最大コア長，岩級区分で示しているため追記せず。	—
41	—	—	・粘土脈を記載。	・粘土を挟在するが，周囲の岩盤に同方向の劣化が認められないことから追記せず。	—

H27-B-1

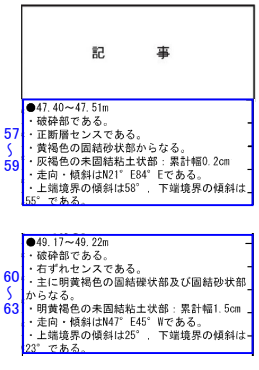
設置許可申請書案



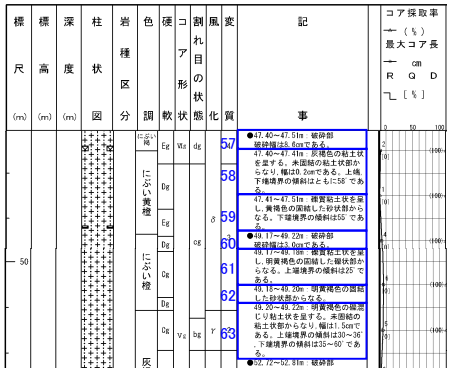
設置許可申請書
（平成27年11月）



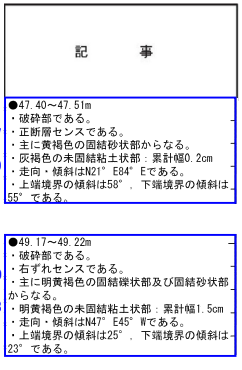
審査資料
（平成29年12月22日）



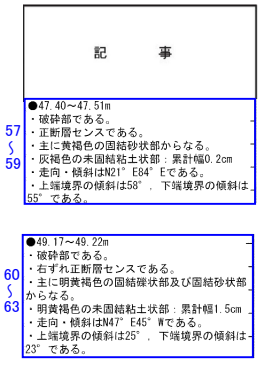
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



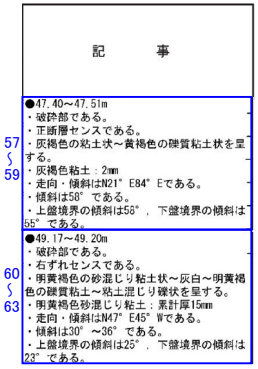
審査資料
（令和2年2月7日）



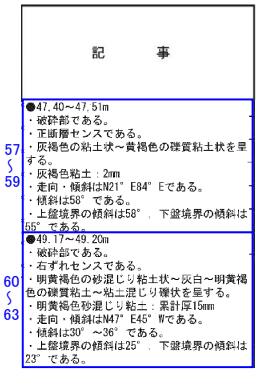
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
57～59	変更なし	・性状及び色調については，申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・"傾斜は58°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	・記載の適正化(黄褐色→主に黄褐色)。 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。	変更なし （※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく）
60～63	変更なし	・誤記修正(49.20m→49.22m)。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・"傾斜は30°～36°である"との記載については，最新活動面の走向・傾斜を示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・下端境界の見かけの傾斜として，23°と書くべきところを誤って35～60°と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。	・誤記修正(右ずれセンス→右ずれ正断層センス，審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。 （※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく）

H27-B-1

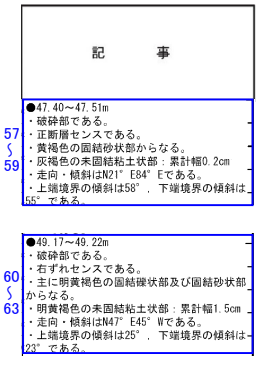
設置許可申請書案



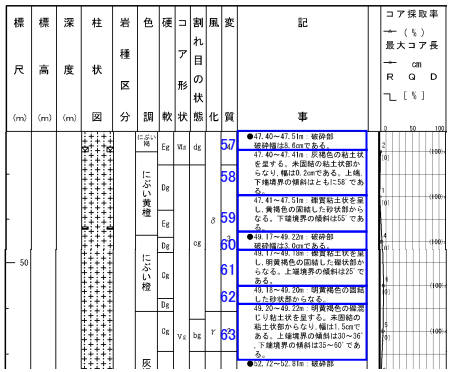
設置許可申請書
（平成27年11月）



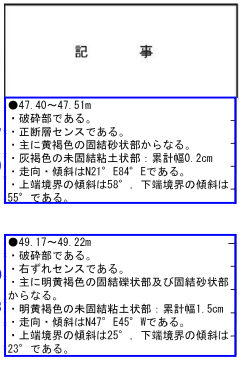
審査資料
（平成29年12月22日）



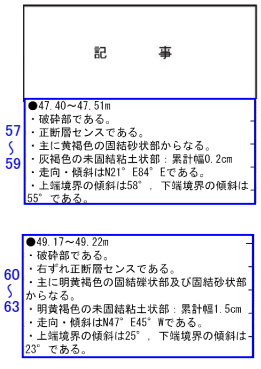
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



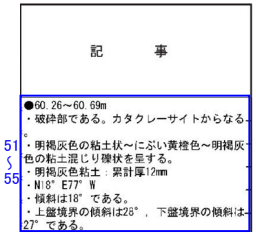
審査資料
（令和2年2月7日）



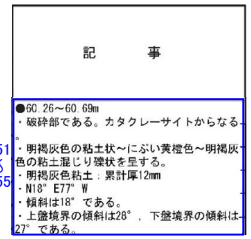
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
57～59	変更なし	・性状及び色調については，申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・"傾斜は58°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	・記載の適正化(黄褐色→主に黄褐色)。 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。	変更なし （※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく）
60～63	変更なし	・誤記修正(49.20m→49.22m)。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・"傾斜は30°～36°である"との記載については，最新活動面の走向・傾斜を示しているため削除。 (誤記)下端境界の見かけの傾斜として，35～60°と書くべきところを誤って23°と記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は23° →35～60°)	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	・誤記修正(右ずれセンス→右ずれ正断層センス，審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。 （※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく）

H27-B-2

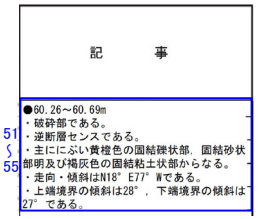
設置許可申請書案



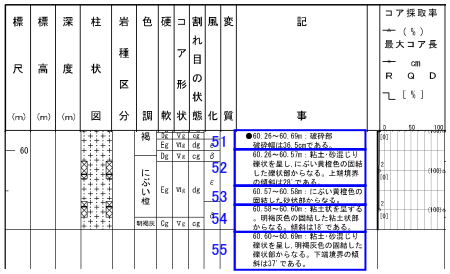
設置許可申請書
（平成27年11月）



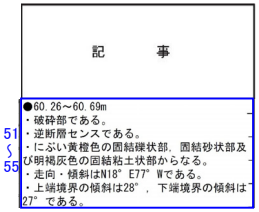
審査資料
（平成29年12月22日）



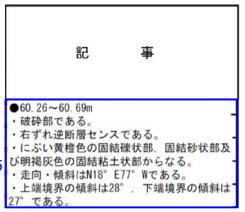
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



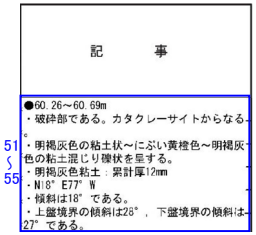
審査資料
（令和2年2月7日）



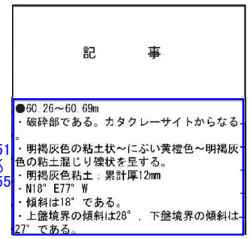
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
51～55	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・"傾斜は18°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(褐灰色の固結粘土状部→明褐灰色の固結粘土状部)。 ・固結した礫状部の色調として，にぶい黄橙色と書くべきところを誤って明褐灰色と記載。 ・下端境界の見かけの傾斜として，27°と書くべきところを誤って37°と記載。	・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。	・誤記修正(逆断層センス→右ずれ逆断層センス，審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。 (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)

H27-B-2

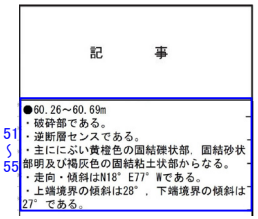
設置許可申請書案



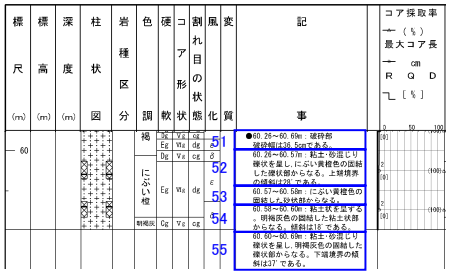
設置許可申請書
（平成27年11月）



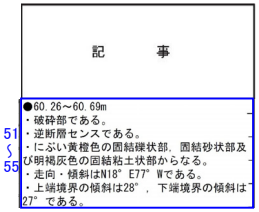
審査資料
（平成29年12月22日）



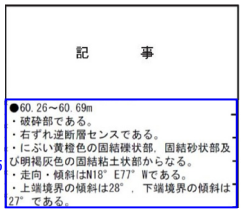
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



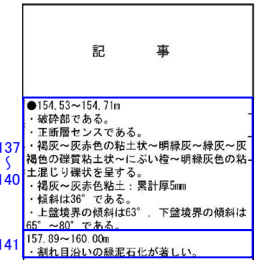
審査資料
（令和2年2月7日）



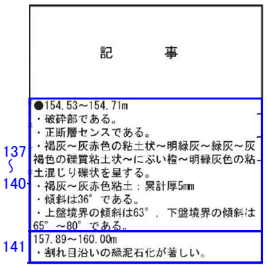
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
51～55	(誤記)下端境界の見かけの傾斜として，37°と書くべきところを誤って27°と記載。	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・"傾斜は18°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(褐灰色の固結粘土状部→明褐灰色の固結粘土状部)。 ・固結した礫状部の色調として，にぶい黄橙色と書くべきところを誤って明褐灰色と記載。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は27°→37°)	・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については，補足的なものであるため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	・誤記修正(逆断層センス→右ずれ逆断層センス，審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。 (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)

H27-B-2

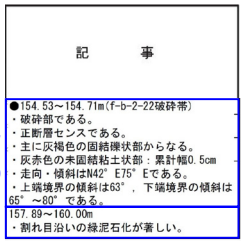
設置許可申請書案



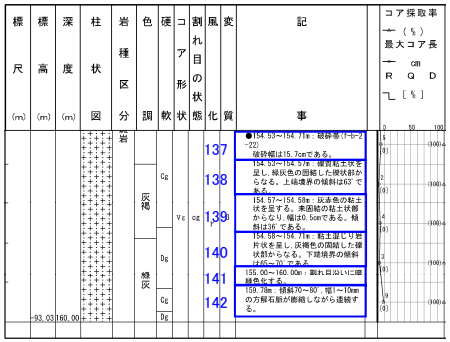
設置許可申請書
（平成27年11月）



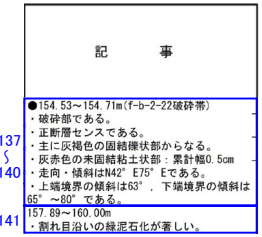
審査資料
（平成29年12月22日）



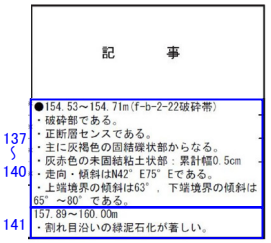
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



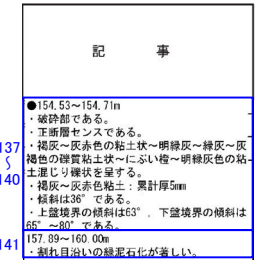
審査資料
（令和2年2月7日）



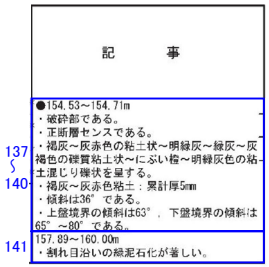
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
137〜140	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・"傾斜は36°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・下端境界の見かけの傾斜として，65〜80°と書くべきところを誤って65〜70°と記載。 ・固結した礫状部の色調として，灰褐色と書くべきところを誤って緑灰色と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・未固結粘土状部の見かけの傾斜に記載については，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため追記せず。	変更なし (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
141	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・155.00〜160.00m区間のうち，特に緑灰色が顕著な区間について記載。	変更なし
142	—	—	・割れ目について記載(鉱物脈)。	・鉱物脈については，補足的なものであるため追記せず。	—

H27-B-2

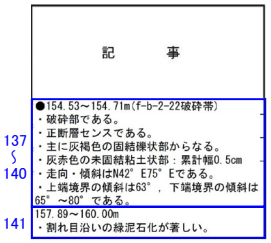
設置許可申請書案



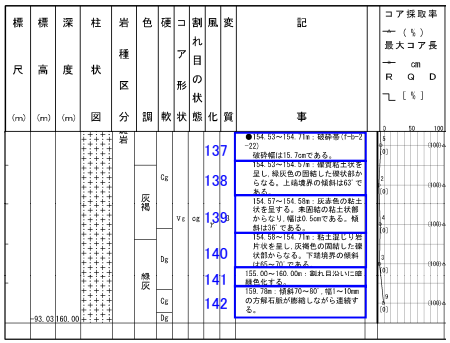
設置許可申請書
（平成27年11月）



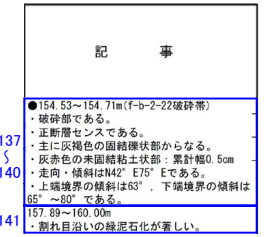
審査資料
（平成29年12月22日）



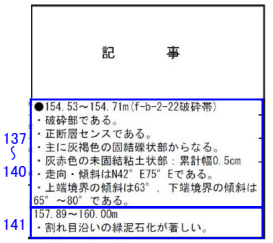
委託報告書
（平成30年）



審査資料
（平成30年11月30日）



審査資料
（令和2年2月7日）



記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
137～140	(誤記)下端境界の見かけの傾斜として65°～70°と書くべきところを誤って65°～80°と記載。	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については，申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った，断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度，連続性，硬軟に基づき，断層岩(断層ガウジ，断層角礫，カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部，断層角礫を未固結礫状部，カタクレーサイトを性状に応じて，固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・"傾斜は36°である"との記載については，最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については，観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・誤記修正(下端境界の傾斜は65°～80°→65°～70°) ・固結した礫状部の色調として，灰褐色と書くべきところを誤って緑灰色と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については，性状一覧表に示しており，柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・未固結粘土状部の見かけの傾斜に記載については，最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため追記せず。 ・誤記修正の反映漏れ。	変更なし (※ただし，断層岩区分は薄片観察結果に基づく)
141	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・155.00～160.00m区間のうち，特に緑灰色が顕著な区間について記載。	変更なし
142	—	—	・割れ目について記載(鉱物脈)。	・鉱物脈については，補足的なものであるため追記せず。	—

余白